EAST-ASIAN LIB. UNIVERSITY OF TORONTO
3 1761 03008 5484

12

大正十三年十二月二日印刷
大正十三年十二月五日發行

漢文叢書
史記第五

東京府下大久保町西大久保二百三十六番地
編輯者　塚本哲三

東京市神田區錦町一丁目十九番地
發行兼印刷者　三浦理

東京市神田區錦町三丁目九番地
印刷所　有朋堂印刷部

東京市神田區錦町一丁目十九番地
發行所　有朋堂書店

不許複製

太史公曰。傳曰。其身正、不令而行。其身不正、雖令不從。其李將軍之謂也。余睹李將軍悛悛如鄙人、口不能道辭。及死之日、天下知與不知、皆為盡哀。彼其忠實心誠信於士大夫也。諺曰。桃李不言。下自成蹊。此言雖小。可以諭大也。

● 傳 ● [illegible]
● 悛悛 ● [illegible]
● [illegible]

太史公曰く、傳に曰へ、其身正しければ、令せずして行はれ、其身正しからざれば、令すと雖も從はずと。其れ李將軍の謂ひか。余李將軍を睹るに、悛悛として鄙人の如く、口、辭を道ふこと能はず。死するの日に及び、天下の知ると知らざると、皆為に哀を盡す。彼其の忠實の心、誠に士大夫に信ぜられたるなり。諺に曰へ、桃李言はざれども、下自ら蹊を成すと。此言小なりと雖も、以て大に諭ふ可きなり。

史記 卷五（卷八十六―卷百九）終

之。漢聞。族二陵母妻子一。自レ是之後。李氏名敗。而隴西之士。居二門下一者。皆用爲レ恥焉。

太史公曰。傳曰。其身正不レ令而行。其身不レ正雖レ令不レ從。其李將軍之謂也。余睹二李將軍一。悛悛如二鄙人一。口不レ能二道辭一。及二死之日一。天下知與レ不レ知。皆爲盡レ哀。彼其忠實心。誠信二於士大夫一也。諺曰。桃李不レ言。下自成レ蹊。此言雖レ小。可二以喩一レ大也。

太史公曰く、傳に曰く(一)、其身正しければ、令せずして行はれ、其身正しからざれば、令すと雖ども從はずと。其れ李將軍の謂ひか。余李將軍を睹るに悛悛(二)として鄙人の如く、口、道辭すること能はず。死するの日に及び、天下の知ると知らざると、皆爲に哀を盡せり。彼其忠實の心、誠に士大夫に信ぜられたるなり。諺に曰く、桃李言はざれども、下自ら蹊を成すと(三)。此言小なりと雖ども(四)、以て大に喩ふ可きなり。

(一) 古傳 (二) 漢書に恂々に作る、誠謹なる貌、誠謹にして田舍者の如く、訥辯にして、口、能くものいふこと能はず (三) 桃李は花あり實あり、故に口なくして言はざるも、自然に人の往來繁く、その下に自ら徑を爲すに至る (四) 卑近にして些細の言なりといふものの以て大なる事に喩へいふべし

史記第五（卷八十六―卷百九）終

數歲。天漢二年。秋。貳師將軍李廣利將二三萬騎一。擊二匈奴右賢王於祁連天山一。而使三陵將二其將士步兵五千人一。出二居延北一可二千餘里一。欲下以分二匈奴兵一。毋上レ令三專走二貳師一也。陵既至レ期還。而單于以二兵八萬一圍二擊陵軍一。陵軍五千人。兵矢既盡。士死者過半。而所レ殺二傷匈奴一亦萬餘人。且引且戰。連鬪八日。還未レ到二居延一百餘里。匈奴遮レ狹絕レ道。陵食乏而救兵不レ到。虜急擊招二降陵一。陵曰。無三面目報二陛下一。遂降二匈奴一。其兵盡沒。餘亡散得レ歸レ漢者四百餘人。單于既得レ陵。素聞二其家聲一。及レ戰又壯。乃以二其女一妻レ陵而貴レ

つ引き且つ戰ひ、連鬪（五）八日、還りて未だ居延に到らざる百餘里、匈奴狹（六）に遮り道を絕つ。陵、食乏しくして救兵到らず。虜急に擊ち、陵を招降す。陵曰く、面目（七）の陛下に報ずる無しと、遂に匈奴に降る。其兵盡く歿す。餘の亡散して漢に歸ることを得たる者四百餘人なり。單于既に陵を得、素より其家聲（八）を聞く。戰ふに及び又壯なり。乃ち其女を以て陵に妻せて之を貴ぶ。漢聞きて、陵の母妻子を族す。是よりの後、李氏の名敗る（九）。而して隴西の士の門下（一〇）に居る者、皆用つて恥と爲す。

（一）官名、建章宮を監護するもの　（二）地形の狀況視察をなす　（三）官名　（四）兵力を分ち、專ら貳師の方にのみ敵兵を向はしめんと欲する計略なり　（五）つゞけざまに戰爭すること八日なり　（六）狹き處に於て歸路を遮りて歸ることを得ざらしむ　（七）何とも陛下に對して面目なし　（八）名家の跡なることを聞き居たれば　（九）名聲敗れおつ　（一〇）李氏の門下に居るもの、皆以て、門下なりと名乘るを恥辱と爲す

內侯。食邑二百戶。代レ廣。爲二郎中令一。頃レ之。怨三大將軍靑之恨二其父一。乃擊二傷大將軍一。大將軍匿二諱レ之。居亡レ何。敢從二上雍一。至二甘泉宮一獵。驃騎將軍去病與レ靑有レ親。射二殺敢一。去病時方貴幸。上諱云。鹿觸殺レ之。居歲餘。去病死。而敢有レ女爲二太子中人一。愛幸。敢男禹有レ寵二於太子一。然好レ利。李氏陵遲衰微矣。

李陵既壯。選爲二建章監一。監二諸騎一。善レ射愛二士卒一。天子以爲二李氏世將一。而使レ將二八百騎一。嘗深入二匈奴二千餘里。過二居延一視二地形一。無レ所レ見レ虜而還。拜爲二騎都尉一。將二丹陽楚人五千人一。教二射酒泉張掖一。以屯二衞胡一。

李陵既に壯なり、選ばれて建章監と爲り、(一)諸騎を監す。射を善くし、士卒を愛す。天子以て李氏は世將と爲す。八百騎に將たらしむ。嘗て深く匈奴に入ること二千餘里にして、居延を過ぎ地形(二)を視る。虜を見る所無くして還る。拜して騎都尉と爲す。丹陽楚人五千人を將ゐ、酒泉張掖に教へ射て、以て胡に屯衞すること數歲なり。天漢二年秋、(三)貳師將軍李廣利、三萬騎に將とし匈奴の左賢王を祁連天山に擊つ。而して陵をして其將士步兵五千人を將ゐ、居延の北に出でしむること、千餘里可、以て匈奴の兵(四)を分ち、專ら貳師に走かしむること毋からんと欲す。陵既に期に至りて還る。而して單于兵八萬を以て陵の軍を圍み擊つ。陵の軍五千人、兵矢既に盡き、士死する者過半なり。而して殺傷する所の匈奴も亦萬餘人なり。且

嫣走。於是天子以爲勇。當戸早死。拜椒爲代郡太守。皆先廣死。當戸有遺腹子名陵。廣死軍時。敢從驃騎將軍。廣死明年。李蔡以丞相坐侵孝景園壖地。當下吏治。蔡亦自殺。不對獄。國除。李敢以校尉從驃騎將軍。擊胡左賢王力戰。奪左賢王鼓旗。斬首多。賜爵關

ふ。廣、軍に死する時、敢驃騎將軍に從ふ。廣死して明年、李蔡丞相を以て孝景の園壖地を侵すに坐し、吏に下して治するに當す。蔡も亦自殺して獄に對せず。國除かる。季敢、校尉を以て驃騎將軍に從ひ、胡の左賢王を擊ち、力戰して左賢王の鼓旗を奪ひ、首を斬ること多し。爵關内侯を賜ふ。食邑二百戸、廣に代りて廣中令と爲る。之を頃くし、大將軍靑の其父を恨みしめしを怨む。乃ち擊ちて大將軍を傷く。大將軍匿して之を諱む。居ること何も亡く、敢上雍に從ひ甘泉宮に至りて獵す。驃騎將軍去病、靑と親有り、敢を射殺す。去病時に方に貴幸せらる。上諱みて云ふ、鹿觸れて之を殺すと。居ること歲餘、去病死す。而して敢、女有り、太子の中人と爲り、愛幸せらる。敢の男禹、太子に寵有り。然れども利を好む。季氏陵遲衰微せり。

（一）高慢なり　（二）わすれがたみ　（三）陵園の壖地を侵し取りたる不敬罪の事件に連坐して　（四）訴へに對して申開をせず　（五）敵太鼓や旗を奪ひ　（六）自ら隱し諱みて上奏せずして、秘密の中に事を濟したり　（七）叔姪の親合なれば、敵を射殺して仇を報ず　（八）鹿が之を突き殺せり　（九）女官　（一〇）李氏の美風も次第に衰微せり

道。吾今自上簿至幕府。廣謂其麾下曰。廣結髮與匈奴大小七十餘戰。今幸從大將軍。出接單于兵。而大將軍又徙廣部。行回遠。而又迷失道。豈非天哉。且廣年六十餘矣。終不能復對刀筆之吏。遂引刀自頸。廣軍士大夫一軍皆哭。百姓聞之。知與不知。無老壯皆爲垂涕。而右將軍獨下吏當死。贖爲庶人。

て單于の兵に接せんとす。而るを大將軍又廣の部を徙す。行くに回遠せしむ。而して又迷ひて道を失す、（三）豈に天に非ず哉。且つ廣年六十餘なり。終に復た（四）刀筆の吏に對する能はずと。遂に刀を引き（五）自頸す。廣の軍士大夫一軍（六）哭す。百姓之を聞き、（七）知ると知らざると、老壯と無く皆爲に涕を垂る。而して右將軍獨り吏に下り死に當す。贖ひて庶人と爲る。

（一）役人の簿書によりし訊問するに、言ひ開きをせよ　（二）吾れ自身に簿書を上りて其罪を受けん　（三）豈に天運の然らしむる所にあらずや　（四）俗吏　（五）刀を以て自ら頸を刎ねて死す　（六）全軍皆泣き崩る　（七）知るも知らぬも老若の區別なく皆李廣の爲に涕を流して、哀み惜みたり

廣子三人。曰當戸。椒。敢。爲郎。天子與韓嫣戲。嫣少不遜。當戸擊嫣。

廣の子三人あり。當戸、椒、敢と曰ふ。郎と爲り、天子、韓嫣と戲る。嫣少くして（一）不遜なり。當戸、嫣を擊つ。嫣走る。是に於て天子以て勇と爲す。當戸早く死す。（二）椒を拜し代郡の太守と爲す。皆廣に先ち死す。當戸（二）遺腹の子有り、名は陵とい

亦陰受二上誡一。以爲李廣老數奇。毋レ令レ當二單于一。恐不レ得レ所レ欲。而是時公孫敖新失レ侯。爲二中將軍一從二大將軍一。大將軍亦欲レ使三敖與俱當二單于一。故徙二前將軍廣一。廣時知レ之。固自辭二於大將軍一。大將軍不レ聽。令三長史封レ書與二廣之二莫府一。曰。急詣レ部如レ書。廣不レ謝二大將軍一而起行。意甚慍怒而就レ部。引レ兵。與二右將軍食其一合レ軍出二東道一。軍亡レ導。或失レ道後二大將軍一。大將軍與二單于一接戰。單于遁走。弗レ能レ得而還。南絕レ幕。遇二前將軍右將軍一。廣已見二大將軍一還入レ軍。大將軍使下長史持二糒醪一遺上レ廣。因問二廣食其失レ道狀一。青欲三上書報二天子軍曲折一。廣未レ對。

子に軍の曲折(一五)を報ぜんと欲す。廣未だ對へず。

(一) 前隊の將軍となす (二) 胡虜を捕へて、單于の居處を突き止めたり (三) 水及草少く兵糧に乏しく、故に勢ひ宿行軍に便ならず (四) 臣の拜命したる部は (五) 髮を結び冠を著くるやうに一人前となりたる頃より (六) 單于と戰ひて、死生を決せん (七) 不運なり (八) かゝる不運の將軍なれば、思ふ所を達すること能はざるべし (九) 命令書を封じ (一〇) 心中大に憤りて命令通りの部に就く (一一) 單于を捕虜とすること能はずして還る (一二) 幕は漠に同じ、沙漠なり (一三) 乾飯及び濁酒を持參せしめ、李廣に送らしめ (一四) 道に迷ひたる有樣を尋ぬ (一五) 巨細を報告せんとす

大將軍使下長史急責二廣之二幕府一對上レ簿。廣曰。諸校尉無レ罪。乃我自失レ

大將軍、長吏をして急に廣を責めしむ。幕府に之き簿(二)に對せよと。廣曰く、諸校尉罪無し、乃ち我れ自ら道を失ふ、吾れ今自ら簿を上り、幕府に至らん。廣其麾下に謂ひて曰く、廣結髮より匈奴と大小七十餘戰す。今幸ひに大將軍に從ひ、出で

青擊匈奴。既出塞、青捕虜知單于所居。乃自以精兵走之。而令廣幷於右將軍軍出東道。東道少回遠。而大軍行水草少。其勢不屯行。廣自請曰。臣部爲前將軍。今大將軍乃徙令臣出東道。且臣結髮而與匈奴戰。今乃一得當單于。臣願居前先死單于。大將軍青

今大將軍乃ち徙して臣をして東道に出でしむ。且つ臣結髮(五)よりして匈奴と戰ふ。今乃ち一たび(六)單于に當るを得ん。臣願はくは前に居りて先づ單于に死せんと。大將軍青も亦陰かに上の誡めを受け、以爲らく李廣老いて(七)數奇なり、單于に當らしむる毋かれ、(八)恐らくは欲する所を得ざらんと。而して是の時公孫敖新に侯を失ひ、中將軍と爲り、大將軍に從ふ。大將軍も亦敖をして與に倶に單于に當らしめんと欲す。故に前將軍廣を徙す。廣時に之を知る。固く自ら大將軍を辭す。大將軍聽かず。長史をして書(九)を封じ廣に與へ莫府に之かしむ。曰く、急に部に詣り書の如くせよと。廣大將軍に謝せずして起ちて行く。意甚だ(一〇)慍怒して部に就く。兵を引き右將軍食其と軍を合せ東道に出づ。軍、導亡く、或ひは道を失ひ、大將軍に後る。大將軍、單于と接戰す。單于遁れ走る(一一)。得る能はずして還る。南のかた幕(一二)を絕り、前將軍右將軍に遇ふ。廣已に大將軍を見、還りて軍に入る。大將軍、長史をして糒醪(一三)を持し廣に遺らしめ、因りて廣食其(一四)の道を失ふ狀を問ふ。青上書して天

奴。而廣未(二)嘗不(ㇾ)在(二)其中(一)。而諸部校尉以下。才能不(ㇾ)及(二)中人(一)。然以(二)擊(ㇾ)胡軍功(一)。取(ㇾ)侯者數十人。而廣不(ㇾ)爲(ㇾ)後(ㇾ)人。然無(三)尺寸之功(一)。以得(二)封邑(一)者何也。豈吾相不(ㇾ)當(ㇾ)侯邪。且固命也。朔曰。將軍自念。豈嘗有(ㇾ)所(ㇾ)恨乎。廣曰。吾嘗爲(二)隴西守(一)。羌嘗反。吾誘而降。降者八百餘人。吾詐而同日殺(ㇾ)之。至(ㇾ)今大恨。獨此耳。朔曰。禍莫(ㇾ)大(三)於殺(二)已降(一)。此乃將軍所(二)以不(一)得(ㇾ)侯者也。

れども、(五)廣私は決して敵功に於ても他人に比して後れたることあらず　(六)僅小なる功を以て　(七)吾が人相の上より、侯を取る相を備へてあらざるか　(八)運命の然らしむる所か　(九)以前に於て何ぞ恨みとする所のものあらざるか　(一〇)吾れ詐り降らしめて、即日悉く之を殺したる事ありたり　(一一)今日に至るまで、其詐を行ひたる事を疑念に思ひ居れり

後二歲。大將軍驃騎將軍大出擊(二)匈奴(一)。廣數自請行。天子以爲(ㇾ)老弗(ㇾ)許。良久乃許(ㇾ)之。以爲(二)前將軍(一)。是歲元狩四年也。廣既從(二)大將軍

後二歲、大將軍驃騎將軍大に出でて匈奴を擊つ。廣數〻自ら行かんと請ふ。天子以て老いたりと爲し、許さず。良〻久しくして、乃ち之を許し、以て前將軍と爲す。(一)是歲元狩四年なり。廣既に大將軍青に從ひ匈奴を擊つ。既に塞を出づ。青(二)虜を捕へ、單于の居る所を知る。乃ち自ら精兵を以て之に走く。而して廣をして右將軍の軍を并せ、東道に出でしむ。東道は少しく回遠にして而して大軍行くに、(三)水草少く、其勢屯行せられず。廣自ら請ひて曰く、(四)臣の部、前將軍と爲り、

代相。以元朔五年為輕車將軍。從大將軍。擊右賢王有功。中率。封為樂安侯。元狩二年中。代公孫弘為丞相。蔡為人在下中。名聲出廣下其遠。然廣不得爵邑。官不過九卿。而蔡為列侯。位至三公。諸廣之軍吏及士卒。或取封侯。廣嘗與望氣王朔燕語曰。自漢擊匈

甚だ遠し。然れども廣、爵邑を得ず。官九卿に過ぎず。而して蔡は列侯と爲り、位三公に至る。諸の廣の軍吏及び士卒或ひは封侯を取る。廣嘗て(三)望氣の王朔と燕語して曰く、漢の匈奴を撃つよりして、而して廣未だ嘗て其中に在らずんばあらず。而して(四)諸部校尉以下才能中人に及ばず。然れども胡を撃つ軍功を以て侯を取る者數十人あり。而して廣、人に後るゝを爲さず。(五)然れども(六)尺寸の功の以て封邑を得る無き者は何ぞや。豈に(七)吾が相の侯に當らざるか、且つ(八)固命なるか。朔曰く、將軍自ら念ふに豈に嘗て(九)恨む所有るか。廣曰く、吾嘗て隴西の守爲り。羌嘗て反す。(一〇)吾れ誘ひて降る。降者八百餘人あり。吾れ詐りて同日に之を殺せり。(一一)今に至るまで大に恨む。獨り此れのみ。朔曰く、禍は已に降るを殺すより大なるは莫し。此れ乃ち將軍の侯を得ざる所以の者なりと。

(一) 法規上賞を受くべき標準に相當し (二) 人物を評價する標準を上中下と分ち、更に上中下の各を上中下三等に分つ時は九等となり 蔡は第八等即ち下の中に相當する人物なり (三) 運氣を察して吉凶禍福を知る術に長じたる王朔といふ者と閑暇なる時打解けて話合ひて曰く (四) 諸の吾が部下の將校以下、才能としては中人にも及ばぬ者な

廣軍士皆恐。廣乃使二其子敢往馳一レ之。敢獨與二數十騎一馳。直貫二胡騎一。出二其左右一而還。告レ廣曰。胡虜易レ與耳。軍士乃安。廣爲二圜陳一外嚮。胡急擊レ之。矢下如レ雨。漢兵死者過半。漢矢且レ盡。廣乃令士持レ滿毋レ發。而廣自以二大黃一射二其裨將一殺二數人一。胡虜益解。會二日暮一。吏士皆無二人色一。而廣意氣自如。益治レ軍。軍中自レ是服二其勇一也。明日復力戰。而博望侯軍亦至。匈奴軍乃解去。漢軍罷弗レ能レ追。是時廣軍幾沒。罷歸。漢法博望侯留遲後レ期當レ死。贖爲二庶人一。廣軍功自如。無レ賞。

る。漢軍罷れて追ふこと能はず。是の時廣の軍殆ど沒す。罷めて歸る。漢の法、(九)博望侯留遲(一〇)期に後れ死に當す。贖ひて庶人と爲る。廣の軍功自如たり、賞無し。

(一) 敵首を得たる功が、其軍中の標準に相當し (二) 行軍の道の方向を異にす (三) 胡の軍中を貫通し、左右に斬り通りて還り (四) 相手にし易し (五) 圓形の陣を張り (六) 弓を引き絞りて矢を放たしめず (七) 弩の一種、大なるもの (八) 畏ひて顏色變じて人心地せず (九) 漢國の規則に (一〇) 遲延して戰期に及ばざるの罪に問はれ

初廣之從弟李蔡。與レ廣俱事二孝文帝一。景帝時。蔡積二功勞一至二二千石一。孝武帝時至二

初め廣の從弟李蔡、廣と倶に孝文帝に事ふ。景帝の時、蔡、功勞を積みて二千石に至る。孝武帝の時、代の相に至る。元朔五年を以て、輕車將軍と爲り、大將軍に從ひ右賢王を撃ち功有り、率に中る(一)。封ぜられて樂安侯と爲る。元狩二年中、公孫弘に代りて丞相と爲る。蔡人と爲り下の中に在り(二)、名聲廣の下に出づること

居頃之石建卒。於是上召廣代建。爲郎中令。元朔六年。廣復爲後將軍。從大將軍軍。出定襄擊匈奴。諸將多中首虜率。以功爲侯者。而廣軍無功。後三歲。廣以郎中令將四千騎。出右北平。博望侯張騫將萬騎。與廣俱。異道。行可數百里。匈奴左賢王將四萬騎圍廣。

居ること之を頃くして、石建卒す。是に於て上、廣を召し建に代り郎中令と爲す。元朔六年、廣復た後將軍と爲り、大將軍の軍に從ひ定襄を出で匈奴を擊つ。諸將首虜の率に中り、功を以て侯と爲る者多し。而れども廣の軍功無し。後三歲、廣郎中令を以て、四千騎に將とし右北平を出づ。博望侯張騫萬騎に將とし廣と俱にし、道を異にす。行くこと數百里、匈奴の左賢王四萬騎を將ゐて廣を圍む。廣の軍士皆恐る。廣乃ち其子敢をして往き之に馳せしむ。敢獨り數千騎と馳せ、直ちに胡騎を貫き、其左右に出でて還り、廣に告げて曰く、胡虜は與し易きのみと。軍士乃ち安ず。廣、圜陣を爲り外に嚮ふ。胡急に之を擊ち、矢下ること雨の如し。漢兵死する者過半、漢の矢且に盡きんとす。廣乃ち士をして滿を持して發すること毋からしむ。而して廣自ら大黃を以て、其裨將を射、數人を殺す。胡虜益〻解く。日暮に會ふ。吏士皆人色無し。而れども廣は意氣自如として、益〻軍を治む。軍中是より其勇に服す。明日復た力戰す。而して博望侯の軍も亦至る。匈奴の軍乃ち解き去

人長猨臂。其善レ射亦天性也。雖二其子孫他人學者一、莫二能及一レ廣。廣訥口少レ言。與レ人居則畫レ地爲二軍陳一、射二闊狹一以飮。專以レ射爲レ戲、竟レ死。廣之將レ兵、乏絶之處、見レ水士卒不二盡飮一、廣不レ近レ水。士卒不二盡食一、廣不二嘗食一。寬緩不レ苛。士以レ此愛樂爲レ用。其射見二敵急一、非レ在二數十步之內一、度レ不レ中不レ發。發卽應レ弦而倒。用レ此其將レ兵數困辱。其射二猛獸一、亦爲レ所レ傷云。

死を競ふ(六)。廣の兵に將たる、乏絶(七)の處に水を見れば、士卒盡く飮まざれば、廣、水に近づかず。士卒盡く食はざれば、廣嘗て食はず。寬緩苛ならず。士此を以て(八)愛し用を爲すことを樂む。其射るとき、敵の急を見(九)、數十步の內に在るに非ずして、度りて(一〇)中らざれば發せず。發すれば卽ち弦に應じて倒る。此を用つて、其の兵に將たる數〻困辱し、其の猛獸を射るも、亦爲に傷けらると云ふ。

(一) 淸廉にして (二) 飮食物は士と同一なるものを取りて、大將なりとて別に食事を美にすることなし (三) 家の財產のことを言はず (四) 臂の狀は恰も猿の如くにて肩にまで通じてあり (五) 他人と一處に居れば、則ち地に線を引き軍陣の圖を爲り、距離の廣さ狹さをはかりて、弓を以て射的をなし、命中せざる者には罰として酒を飮ましむ (六) 生涯を終ふ (七) 飮食に乏しき處にて水を見つくれば、士卒飮みたる後にあらざれば、李廣は水のそばに立寄らず (八) 李廣を愛し、其命令の下に働くことを樂む (九) 敵の攻め來りて急迫なる場合にも (一〇) 見斗ひて中たる距離まで近づかざれば射ず

韓將軍。韓將軍後徙右北平。於是天子乃召拜廣爲右北平太守。廣卽請霸陵尉與俱。至軍而斬之。廣居右北平。匈奴聞之。號曰漢之飛將軍。避之。數歲不敢入右北平。廣出獵。見草中石。以爲虎而射之。中石沒鏃。視之石也。因復更射之。終不能復入石矣。廣所居郡聞有虎。嘗自射之。及居右北平射虎。虎騰傷廣。廣亦竟射殺之。

に入るゝ能はず。廣の居る所の郡、虎有りに聞けば、嘗に自ら之を射る。右北平に居るに及び、虎騰りて廣を傷く。廣も亦竟に之を射殺す。

(一)引籠りて民間に住居す　(二)田舍に於て酒を飮む　(三)故將軍なるに於いては尙ほ通行せしむること能はず　(四)霸陵亭の下に止宿せしむ　(五)勇壯神速なるを稱美していふ　(六)矢を石に射込みて鏃の見えぬまでに及ぶ

廣廉。得賞賜輒分其麾下。飮食與士共之。終廣之身。爲二千石四十餘年。家無餘財。終不言家產事。廣爲

廣、廉(一)にして、賞賜を得るときは、輒ち其麾下に分つ。飮食士と之を共にす。廣の身を終ふるまで、二千石と爲ること四十餘年、家に餘財(二)無し。終に家產の事(三)を言はず。廣人と爲り長にして、猨臂(四)なり。其の射を善くするも亦天性なり。其子孫他人の學ぶ者と雖も、能く廣に及ぶもの莫し。廣訥にして口言少し。人と(五)居れば、則ち地に畫し軍陳を爲し、闊狹を射て以て飮す。專ら射を以て戲を爲し、

胡兒騎二善馬一。廣暫騰而上二胡兒馬一。因推二墮兒一取二其弓一鞭レ馬。南馳數十里。復得二其餘軍一。因引而入レ塞。匈奴捕者騎數百追レ之。廣行取二胡兒弓一。射二殺追騎一。以レ故得レ脫。於レ是至レ漢。漢下二廣吏一。吏當丁廣所二失亡一多。爲丙廣所乙生得甲。當レ斬。贖爲二庶人一。

頃レ之家居數歲。廣家與二故潁陰侯孫一屛野居。藍田南山中射獵。嘗夜從二一騎一出。從レ人田間飮。還至二霸陵亭一。霸陵尉醉呵二止廣一。廣騎曰。故李將軍。尉曰。今將軍尙不レ得二夜行一。何乃故也。止レ廣宿二亭下一。居無レ何。匈奴入殺二遼西太守一。敗二

之を頃くして、家居すること數歲にして、廣の家故潁陰侯の孫と屛きて(一)野居す。藍田の南山中に射獵す。嘗て夜一騎を從へ、出でて、人に從ひ田間に飮す。還りて霸陵亭に至る。霸陵の尉醉ひて廣を呵止す。廣の騎曰く、故の李將軍なりと。尉曰く、今の將軍すら尙ほ夜行することを得ず。何ぞ乃ち(三)故なるをやと。廣を止めて亭下に宿せしむ。居ること何も無く、匈奴入りて遼西の太守を殺し、韓將軍を敗る。(四)漢將軍後に右北平に徙る。是に於て天子乃ち廣を召し拜し、右北平の太守と爲す。廣即ち霸陵の尉を請ひ、與に俱にし、軍に至りて之を斬る。廣、右北平に居る。匈奴之を聞き、號して漢の飛將軍と曰ひ、(五)之を避く。數歲ありて敢へて右北平に入らず。廣出でて獵す。草中の石を見、以て虎と爲して之を射る、(六)石に中り鏃を沒す。之を見るに石なり。因りて復た更に之を射る。終に復た石

旁谷。而廣爲ニ驍騎將軍。領ニ屬護軍將軍。是時單于覺レ之去。漢軍皆無レ功。其後四歲。廣以ニ衞尉一爲ニ將軍。出ニ雁門一擊ニ匈奴。匈奴兵多。破ニ敗廣軍一生ニ得廣。單于素聞ニ廣賢。令曰。得ニ李廣一必生ニ致之。胡騎得レ廣。廣時傷病。置ニ廣兩馬間。絡而盛ニ臥廣。行十餘里。廣佯死。睨ニ其旁一有ニ一

し。其後四歲、廣、衞尉を以て將軍と爲り、雁門を出でて匈奴を擊つ。匈奴の兵多し。廣の軍を破敗し、廣を生得す。(一) 單于素より廣の賢を聞く。令して曰く、李廣を得ば、必ず之を生致せよと。(二) 胡の騎廣を得たり。廣時に傷つき病む。(三)廣を兩馬の間に置き、絡して廣を盛臥せしむ。行くこと十餘里、廣佯り死す。其旁を睨るに(四)一胡兒の善馬に騎るもの有り。廣暫に騰りて胡兒の馬に上り、因りて兒を推墮(五)し、其弓を取り、馬に鞭うち、南に馳すること數十里にして、復た其餘軍を得たり。因りて引きて塞に入る。匈奴の捕ふる者騎數百之を追ふ。廣行〻胡兒の弓を取り追騎を射殺す。故を以て脫するを得たり。是に於て漢に至る。漢、廣を吏に下(六)す。吏、廣の失亡する所多く、虜の生得する所と爲るに當し、斬に當す。贖ひて庶人と爲る。

(一) 生捕にす (二) 生捕にして連れ來れよ (三) 網を兩馬の間に縛附けて李廣を其の中に入れ臥さしむ (四) 一人の匈奴の小供 (五) 推し落して (六) 李廣を役人に下して、罪を詮議せしむ

樂衞尉。程不識故與李廣俱以邊太守將軍屯。及出擊胡。而廣行無部伍行陣。就善水草屯舍止。人人自便。不擊刁斗以自衞。莫府省約文書籍事。然亦遠斥候。未嘗遇害。程不識正部曲行伍營陣。擊刁斗。士吏治軍簿至明。軍不得休息。然亦未嘗遇害。不識曰。李廣軍極簡易。然虜卒犯之。無以禁也。而其士卒亦佚樂。咸樂爲之死。我軍雖煩擾。然虜亦不得犯我。是時漢邊郡李廣程不識皆爲名將。然匈奴畏李廣之略。士卒亦多樂從李廣。而苦程不識。程不識孝景時。以數直諫爲太中大夫。爲人廉。謹於文法。

む。程不識孝景の時數〻直諫するを以て太中大夫と爲る。人と爲り廉にして文(一五)法を謹む。

(一)監督せり (二)丁度日暮なり (三)明朝 (四)未央宮、帝の御座所 (五)長樂宮、皇太后の御座所 (六)兵の組合、陣の取方等組織的ならず (七)善き水や草の有る處に往きて屯して、やどりとゞまる (八)刁斗といふ銅にて製造した軍用器にて、晝間は軍隊の食事を炊ぎ、夜を之を打ちて警備の用をなすもの (九)莫は幕に通ず、幕府にて將軍の陣營 (一〇)斥候を遠方に出して敵の來襲に備ふ (一一)軍士軍吏は、其の擔任せる帳簿を治めて、徹夜するに至る (一二)直ちに來襲を擊退することは能はざるべし (一三)安佚に樂みて衆皆李廣の爲に身命を拋たんことを望み居れり (一四)煩雜なれども (一五)規則法令

後漢以馬邑城誘單于。使大軍伏馬邑

後に漢、馬邑城を以て單于を誘ひ、大軍をして馬邑の旁谷に伏せしむ。而して廣、驍騎將軍と爲り、護軍將軍に領屬す。是の時單于之を覺りて去る。漢軍皆功無

解鞍。令士皆縱馬臥。是時會暮。胡兵終怪之不敢擊。夜半時。胡兵亦以爲漢有伏軍於旁。欲夜取之。胡皆引兵而去。平旦李廣乃歸其大軍。大軍不知廣所之。故弗從。居久之孝景崩。武帝立。左右以爲廣名將也。於是廣以上郡太守爲未央衞尉。而程不識亦爲長

旦、李廣乃ち其大軍に歸る。大軍、廣の之く所を知らず。故に從はず。居ること之を久しうし、孝景崩じ、武帝立つ。左右以て廣を名將と爲す。是に於て、廣、上郡の太守を以て未央の衞尉と爲る。而して程不識も亦長樂の衞尉と爲る。程不識故李廣と倶に邊の太守を以て軍屯に將たり。出でて胡を擊つに及びて、廣は行くに部伍行陣無く、善水草に就き屯し舍止す。人人自ら便とす。刁斗を擊ち以て自ら衞らず。莫府文書籍の事を省約す。然れども亦斥候を遠くす。未だ嘗て害に遇はず。程不識は部曲行伍營陣を正し、刁斗を擊つ。士吏、軍簿を治めて明に至る。軍休息することを得ず。然れども亦未だ嘗て害に遇はず。不識曰く、李廣の軍極めて簡易なり。然れども虜卒かに之を犯さば、以て禁ずること無けん。而して其士卒も亦佚樂して、咸之が爲に死することを樂しむ。我軍煩擾と雖も、然れども虜も亦我を犯すことを得ず。是の時漢の邊郡李廣、程不識皆名將爲り。然れども匈奴、李廣の略を畏る。士卒も亦多く李廣に從ふことを樂みて程不識を苦し

人。果匈奴射雕者也。已縛之上馬。望匈奴。有數千騎。見廣以爲誘騎。皆驚上山陳。廣之百騎皆大恐。欲馳還走。廣曰。吾去大軍數十里。今如此。以百騎走。匈奴追射我立盡。今我留。匈奴必以我爲大將軍誘之。必不敢擊我。廣令諸騎曰。前。前未到匈奴陳二里所止。令曰。皆下馬解鞍。其騎曰。虜多且近。即有急奈何。廣曰。彼虜以我爲走。今皆解鞍以示不走。用堅其意。於是胡騎遂不敢擊。

と爲す。今皆鞍を解き、以て走らざるを示し、用て其意を堅くせんと。(一〇)是に於て胡騎遂に敢へて撃たず。

㈠宮中宦官の貴き者　㈡兵を取締り練習し　㈢兵を敵に放つて縦横に戦はしむ　㈣李廣の陣地に逃げ来る　㈤大鷲鳥を射るといふ匈奴の射術に有名なる者ならん　㈥三人を目撃し追掛く　㈦其の従騎を鳥翼を張りたるが如くに左右にならべて敵に向ひ　㈧軍兵を誘ひ出さん爲の騎兵と爲し　㈨若し急に敵攻めかゝることあらば何となさる　㈩敵をして誘騎なりと思ふ心を固くさせん

有白馬將。出護其兵。李廣上馬。與十餘騎奔。射殺胡白馬將。而復還至其騎中。

白馬の將有り出でて其兵を護す。(一一)李廣馬に上り十餘騎と犇り、胡の白馬の將を射殺す。而して復た還り其騎中に至り鞍を解く。士をして皆馬を縱ちて臥さしむ。是の時暮るゝに會ふ。(一二)胡兵終に之を怪み、敢へて撃たず。夜半の時、胡兵亦以て漢の軍を旁に伏する有りて、夜之を取らんと欲すと爲す。胡皆兵を引きて去る。平(一三)

郡。天子使二中貴人從レ廣勒二習兵一擊二匈奴一。中貴人將二騎數十一縱。見二匈奴三人一與戰。三人還射。傷二中貴人。殺二其騎一且レ盡。中貴人走レ廣。廣曰。是必射レ雕者也。廣乃遂從二百騎一往馳二三人一。三人亡レ馬步行。行數十里。廣令二其騎張二左右翼一。而廣身自射二彼三人者一。殺二其二人一。生二得一

つ。中貴人騎數十を將ゐて縱(三)す。匈奴の三人を見て、與に戰ふ。三人還り射る。中貴人を傷つけ、其騎を殺し且に盡さんとす。中貴人、廣に走(四)く。廣曰く、是れ必ず雕(五)を射る者ならん。廣乃ち遂に百騎を從へて往きて(六)三人に馳す。三人馬を亡ひ步行す。行くこと數十里、廣、其騎(七)をして左右翼を張らしめて、廣身自ら彼の三人の者を射、其二人を殺し、一人を生得す。果して匈奴の雕を射る者なりと。已に之を縛し、馬に上り、匈奴を望むに數千騎有り。廣を見て以て誘騎(八)と爲し、皆驚き山に上り陳す。廣の百騎皆大に恐れ、馳せ還り走らんと欲す。廣曰く、吾れ大軍を去ること數十里、今の此の如し。百騎を以て走らは、匈奴我れを追射し立どころに盡きん。今我れ留らば、匈奴必ず我れを以て大將軍之を誘ふと爲し、必ず敢へて我を擊たじと。廣、諸騎に令して曰く、前めと。前みて未だ匈奴の陳に到らざること二里所にして止る。令して曰く、皆馬より下り鞍を解けと。其騎曰く、虜多く且つ近し、(九)卽し急有らば奈何せんと。廣曰く、彼の虜我を以て走る

從弟李蔡亦爲レ郎。皆爲二武騎常侍一。秩八百石。嘗從レ行有レ所三衝陷折關。及格二猛獸一。而文帝曰。惜乎。子不レ遇レ時。如令三子當二高帝時一。萬戸侯豈足レ道哉。及二孝景初立一。廣爲二隴西都尉一。徙爲二騎郎將一。吳楚軍時。廣爲二驍騎都尉一。從二太尉亞夫一。擊二吳楚軍一取レ旗。顯二功名昌邑下一。以二梁王授二廣將軍印一。還賞不レ行。徙爲二上谷太守一。匈奴日以合戰。典屬國公孫昆邪爲レ上泣曰。李廣才氣天下無雙。自負二其能一。數與レ虜敵戰。恐亡レ之。於レ是乃徙爲二上郡太守一。後廣轉爲二邊郡太守一。徙二上郡一。嘗爲二隴西北地雁門代郡雲中太守一。皆以二力戰一爲レ名。

を以て、還りて賞行はれず、徙りて上谷の太守と爲る。匈奴日に以て合戰す。典屬國公孫昆邪上の爲に泣きて曰く、李廣才氣天下無雙なり、自ら其の能を負み、數〻虜と敵戰す。恐らくは之を亡はん。是に於て乃ち徙して上郡の太守と爲す。後廣轉じて邊郡の太守と爲る。上郡に徙る。嘗て隴西北地雁門代郡雲中の太守と爲る。皆力戰を以て名を爲す。

(一) 世々射術を以て、子孫に受け傳ふる家なり　(二) 高貴の家柄の子　(三) 敵を殺し、首を斬り、捕虜　(四) 敵を衝き陷れ、關を破り、及び獸を手にて打殺す勇敢なる行ありき　(五) 良き時に生れ合さず　(六) 高祖皇帝の時に生れ合はしたらんには、武勇の功を以て萬戸侯に封ぜらるゝは言ふまでもなし　(七) 敵中に攻め入りて敵の旗を奪取り

匈奴大入二上

匈奴大に上郡に入る。天子、(一)中貴人をして廣に從はしめ、(二)兵を勒習し、匈奴を擊

李將軍廣者。隴西成紀人也。其先曰二李信一。秦時爲レ將。逐二得燕太子丹一者也。故槐里。從二成紀一。廣家世世受レ射。孝文帝十四年匈奴大入二蕭關一。而廣以二良家子一。從レ軍擊レ胡。用下善二騎射一殺首虜多上。爲二漢中郎一。廣

巻百九

李將軍列傳第四十九

李將軍廣は、隴西成紀の人なり。其先を李信と曰ふ。秦の時將と爲り、燕の太子丹を逐ひ得たる者なり。故槐里より成紀に徙る。廣の家（一）世世射を受く。孝文帝十四年、匈奴大に蕭關に入る。而して廣、（二）良家の子を以て軍に從ひ胡を擊つ。騎射を善くし、（三）殺首虜の多きを用て、漢の中郎と爲る。廣の從弟李蔡も亦郎と爲る。皆武騎常侍たり。秩八百石。嘗て行に從ひ、（四）衝陷折關、及び猛獸を格つ所有りき。而して文帝曰く、惜いかな子、（五）時に遇はず。如し子をして（六）高帝の時に當らしめば、萬戸侯豈に道ふに足らんや。孝景初めて立つに及び、廣、隴西の都尉と爲る。徙りて騎郎將と爲る。吳楚の軍の時、廣、驍騎都尉と爲り、太尉亞夫に從ひ吳楚の軍を擊つ。（七）旗を取り、功名を昌邑の下に顯はす。梁王、廣に將軍の印を授けたる

天子方倚以爲漢相。會遂卒。不然。壺遂之內廉行修。斯鞠躬君子也。

有二七百餘人一。出與戰。不レ勝。復入レ壁。匈奴虜二略千餘人及畜產一而去。天子聞レ之。怒。使三使責二讓國一。徙二安國一益東屯二右北平一。是時匈奴虜言。當レ入二東方一。安國始爲二御史大夫及護軍一。後稍斥疏下遷。而新幸壯將軍衞青等有レ功益貴。安國既疏遠默默也。將レ屯又爲二匈奴一所レ欺。失亡多甚。自愧幸レ得二罷歸一。乃益東徙屯。意忽忽不レ樂。數月病歐レ血死。安國以二元朔二年中一卒。

め歸るを幸ふ。乃ち益〻東に徙り屯す。意忽忽として樂まず。數月にして病みて、血を歐きて死す。安國元朔二年中を以て卒す。

㈠漢の境界中に侵入して　㈡殺し奪ふ所　㈢兵を集合してとゞまる　㈣生捕　㈤農民耕作の時期の最中なれば　㈥家畜類　㈦捕虜及び分取をなして去る　㈧斥け遠ざけられ、官を引下げらる　㈨不滿を懷き無言なり　㈩失意の貌

太史公曰。余與二壺遂一定二律歷一。觀二韓長孺之義。壺遂之深中隱厚一。世之言二梁多二長者一。不レ虛哉。壺遂官至二詹事一。

太史公曰く、余、壺遂と律歷を定めて、韓長孺の義、壺遂の深中隱厚なるを觀るに、世の梁に長者多しと言へるを虛ならざるかな。壺遂、官、詹事に至る。天子方に倚りて、以て漢の相と爲さんとす。遂の卒するに會ふ。然らずんば、壺遂の內廉に、行修る、斯れ鞠躬の君子なり。

㈠律書歷書　㈡其意中深くしく外にあらはれずして物ごと手厚きを

更以二平棘侯薛澤一爲二丞相一。安國病免。數月塞愈。上復以二安國一爲二中尉一。歲餘。徙爲二衞尉一。車騎將車衞青擊二匈奴一。出二上谷一破二胡龍城一。將軍李廣爲二匈奴一所レ得。復失レ之。公孫敖大亡レ卒。皆當レ斬。贖爲二庶人一。

明年。匈奴大入レ邊。殺二遼西太守一。及入二雁門一。所レ殺略數千人。車騎將軍衞青擊レ之出二雁門一。衞尉安國爲二材官將軍一。屯二漁陽一。安國捕二生虜一。言匈奴遠去。卽上書言。方二田作時一。請且罷レ軍屯。罷レ軍屯月餘。匈奴大入二上谷漁陽一。安國壁乃

明年匈奴大に邊に入りて、(一)遼西の太守を殺す。及び雁門に入り、(二)殺略せる所數千人なり。車騎將軍衞青之を擊ち、雁門より出づ。衞尉安國、材官將軍と爲り、漁陽に屯す。(三)安國、(四)生虜を捕へたり。言ふ匈奴遠く去ると。卽ち上書して言ふ、(五)田作の時に方れり、請ふ且く軍を罷めて屯せんと。軍を罷めて屯すること月餘なりき。匈奴大に上谷漁陽に入る。安國が壁乃ち七百餘人有り、出でて與に戰ふ。勝たずして復た壁に入る。匈奴千餘人及び(六)畜產を虜略して去る。天子之を聞き、怒りて使をして安國を責讓せしめ、安國を徙し(七)益々東、右北平に屯す。是の時匈奴の虜言ふ、當に東方に入るべしと。安國始めて御史大夫及び護軍と爲る。後稍く(八)斥疏下遷す。而して新に幸する壯將軍衞青等功有り益々貴し。安國旣に疏遠せられ(九)默默たり。屯に將とし又匈奴の爲に欺かる。失亡多く甚だし。自ら愧ぢ罷

大略。智足㆔以當㆓世取舍㆒。而出㆓於忠厚㆒焉。貪㆓嗜於財㆒。所㆓推擧㆒皆廉士。賢㆓於己㆒者也。於㆑梁擧㆓壺遂臧固郅他㆒。皆天下名士。士亦以㆑此稱㆓慕之㆒。唯天子以爲㆓國器㆒。安國爲㆓御史大夫㆒四歲餘。丞相田蚡死。安國行㆓丞相事㆒。奉引墮㆑車蹇。天子議㆑置㆑相。欲㆑用㆓安國㆒。使㆓使視㆑之。蹇甚。乃

財を貪り嗜むも、推擧する所は、皆廉士にして(三)、己より賢る者なり。梁に於て壺遂、臧固、郅他を擧す、皆天下の名士なり。士も亦此を以て之を稱慕す(四)。唯天子以て國器と爲す(五)。安國御史大夫爲ること四歲餘にして、丞相田蚡死す。安國、丞相の事を行ふ。奉引して(六)車より墮ち蹇す。天子、相を置かんことを議す。安國を用ひんと欲す。使をして之を視しむ。蹇甚だし(七)。乃ち更に平棘侯薛澤を以て、丞相と爲す。安國病みて免す。數月にして蹇愈ゆ。上復た安國を以て中尉と爲す。歲餘にして、徙りて衞尉と爲る。車騎將軍衞靑、匈奴を擊ち、上谷より出でて胡を龍城に破る。將軍李廣匈奴の爲に得らる(八)。復た之を失す。公孫敖大に卒を亡へり。皆斬に當す。贖ひて庶人と爲る(九)。

(一) 智謀勝りて大なる策略に富めり (二) 世人の好むと好まざるとを知りて時好に投ずるに足る (三) 清廉潔白の士 (四) 安國を褒め慕ふ (五) 國家有數の器量勝れたる人物 (六) 陪乘して (七) びつこ甚だし (八) 匈奴は復た李廣取逃したり (九) 一平民の身分となる

與單于精兵戰。漢兵勢必敗。則以便宜罷兵。皆無功。天子怒王恢不出擊單于輜重。擅引兵罷也。恢曰。始約虜入馬邑城。兵與單于接。而臣擊其輜重可得利。今單于聞不至而還。臣以三萬人衆不敵。禔取辱耳。臣固知還而斬。然得完陛下士三萬人。於是下恢廷尉。廷尉當恢逗撓當斬。恢私行千金丞相蚡。蚡不敢言上。而言於太后曰。王恢首造馬邑事。今不成而誅恢。是爲匈奴報仇也。上朝太后。太后以丞相言告上。上曰。首爲馬邑事者恢也。故發天下兵數十萬。從其言爲此。且縱單于不可得。恢所部擊其輜重。猶頗可得以慰士大夫心。今不誅恢無以謝天下。於是恢聞之。乃自殺。

相の言を以て上に告ぐ。上の曰く、首として馬邑の事を爲す者は恢なり。故に天下の兵數十萬を發して、其言に從ひて此れを爲す。且つ縱ひ單于得可からずとも、恢が所部(一二)其輜重を擊たば、猶ほ頗る以て士大夫の心を慰するを得可し。今、恢を誅せずんば、以て天下に謝する無しと。是に於て、恢之を聞きて乃ち自殺す。

(一) 隔り百餘里なり (二) 畜牧は野に在るを見れども、一人の之を牧する者を見ず (三) 塞に近き處にのろしを設けたるものを攻めて (四) 漢の爲に欺き擊たれんとしたる處なり (五) 塞の近邊の人民 (六) 便利に從ひて戰爭を止む (七) たゞに恥辱を受くるに過ぎざるのみ (八) 無事にすることを得たり (九) 逗留して卑怯を爲したる罪に當り、斬罪に處すべきものとす (一〇) 匈奴に加擔して仇を報ずる譯なり (一一) 所屬の兵

安國爲人多

安國人と爲り大略(一)多し。智は以て世の取舍(二)に當るに足れり。而して忠厚に出づ。

人。單于怪レ之攻二燧燧一。得二武州尉史一。欲レ刺問二尉史一。尉史曰。漢兵數十萬伏二馬邑下一。單于顧謂二左右一曰。幾爲レ漢所レ賣。乃引レ兵還。出レ塞曰。吾得二尉史一乃天也。命二尉史一爲二天王一。塞下傳言。單于已引去。漢兵追至レ塞。度レ弗レ及即罷。王恢等兵三萬。聞二單于不一レ與レ漢合一。度往擊二輜重一必

還る。塞を出でて曰く、吾が尉史を得たるは、乃ち天なりと。尉史を命じて天王と爲す。塞下傳へ言ふ、單于已に引去ると。漢兵追ひて塞に至る。度るに及ばずと、卽ち罷む。(五)王恢等が兵三萬、單于の漢と合はざるを聞きて、度らく、往きて輜重を撃たば、必ず單于が精兵と戰はん。漢兵勢ひ必ず敗れんと。則ち便宜を以て兵を罷む。皆功無し。天子、王恢が出でて單于の輜重を撃たずして擅(六)に兵を引きて罷むるを怒る。恢曰く、始め約すらく、虜、馬邑城に入らば、兵單于と接せん。而して臣其輜重を撃たば、利を得可しと。今單于聞きて、至らずして還る。臣以ふに三萬人の衆敵せず、禔(七)に辱を取らんのみ。臣固に還らば斬られんことを知れり。然れども陛下の士三萬人を完(八)くすることを得たりと。是に於て恢を廷尉に下す。廷尉、恢を逗撓(九)に當し、斬に當す。恢私に千金を丞相蚡に行ふ。蚡敢へて上に言さず、太后に言ひて曰く、王恢首として馬邑の事を造せり。今成らずして恢を誅せば、是れ匈奴の爲(一〇)に仇を報ずるなりと。上、太后に朝す。太后、丞

詐ニ斬翁壹ー。斬翁壹乃還。詐斬ニ死罪囚ー。縣ニ其頭馬邑城ー。示ニ單于使者ー爲レ信曰。馬邑長吏已死。可ニ急來ー。於レ是單于穿レ塞。將ニ十餘萬騎ー。入ニ武州塞ー。當ニ是時ー。漢伏兵車騎材官三十餘萬。匿ニ馬邑旁谷中ー。衛尉李廣爲ニ驍騎將軍ー。太僕公孫賀爲ニ輕車將軍ー。大行王恢爲ニ將屯將軍ー。太中大夫李息爲ニ材官將軍ー。御史大夫韓安國爲ニ護軍將軍ー。諸將皆屬ニ護軍ー。約單于入ニ馬邑ー。而漢兵縱發。王恢李息李廣。別從レ代主レ擊ニ其輜重ー。

中大夫李息、材官將軍と爲り、御史大夫韓安國、護軍將軍と爲り、諸將皆護軍に屬す。(五)約すらく單于、馬邑に入らば、而して漢兵縱發せよ。(六)王恢、李息、李廣、別に代より其輜重を擊つことを主れと。

(一) 國境に來りて漢を親み大に信用す　(二) 反間の計をなして　(三) 死罪を行ふ可き囚人の頭を斬りて　(四) 信實をあらはすしるしとなして曰く　(五) 護軍將軍の手に屬す　(六) 突出して之を伐て

於レ是單于入ニ漢長城武州塞ー。未レ至ニ馬邑ー百餘里。行掠鹵。徒見ニ畜牧於野ー。不レ見ニ一

是に於て單于、漢の長城武州の塞に入り、未だ馬邑に至らざる(一)百餘里なり。行く掠鹵す。徒に(二)畜牧を野に見て、一人を見ず。單于之を怪み、(三)烽燧を攻めて、武州の尉史を得て、刺さんと欲す。尉史に問ふ。尉史曰く、漢兵數十萬馬邑の下に伏す。單于顧みて左右に謂ひて曰く、幾ど(四)漢の爲に賣られんと。乃ち兵を引きて

戰。兵不レ獲レ利。今匈奴負二戎馬之足一。懷二禽獸之心一。遷徙鳥擧。難二得而制一也。得二其地一不レ足二以爲一レ廣。有二其衆一不レ足二以爲一レ彊。自二上古一不レ屬爲レ人。漢數千里爭レ利則人馬罷。虜以レ全制二其敝一。且彊弩之極矢。不レ能レ穿二魯縞一。衝風之末力。不レ能レ漂二鴻毛一。非二初不一レ勁。末力衰也。擊レ之不レ便。不レ如二和親一。羣臣議者。多附二安國一。於レ是上許二和親一。

其明年。則元光元年。雁門馬邑豪聶翁壹。因二大行王恢一言レ上曰。匈奴初和親。親二信邊一。可二誘以一レ利。陰使三聶翁壹爲レ間亡。入二匈奴一。謂二單于一曰。吾能斬二馬邑令丞吏一以レ城降。財物可二盡得一。單于愛二信之一以爲然。

其の明年は則ち元光元年なり。雁門馬邑の豪の聶翁壹、大行王恢に因りて、上に言ひて曰く、匈奴初めて和親して、邊に親信す、(二)誘ふに利を以てす可しと。陰に聶翁壹をして(三)間を爲して亡げて匈奴に入らしむ。單于に謂ひて曰く、吾能く馬邑の令丞吏を斬りて、城を以て降らん。財物盡く得可しと。單于之を愛信す。以爲らく然りと。聶翁壹に許す。聶翁壹乃ち還りて、詐りて死罪囚を斬りて、其頭を馬邑城に懸けて、單于の使者に示して信と爲して(四)曰く、馬邑の長吏已に死す、急に來る可しと。是に於て單于、塞を穿ち、十餘萬騎を將ゐて、武州の塞に入る。是の時に當りて、漢の伏兵車騎材官三十餘萬、馬邑の旁谷の中に匿れたり。衞尉李廣驍騎將軍と爲り、太僕公孫賀、輕車將軍と爲り、大行王恢、將屯將軍と爲り、太

農。閩越東越相攻。安國及大行王恢將。未レ至レ越。越殺ニ其王一降。漢兵亦罷。建元六年。武安侯爲ニ丞相一。安國爲ニ御史大夫一。匈奴來請ニ和親一。天子下レ議。大行王恢燕人也。數爲ニ邊吏一。習ニ知胡事一。議曰。漢與ニ匈奴一和親。率不レ過ニ數歲一。卽復倍レ約。不レ如レ勿レ許興レ兵擊レ之。安國曰。千里而

して之を擊たんには。安國が曰く、(四)千里にして戰ふは、兵利を獲ずと。今匈奴戎馬(五)の足を負み、禽獸の心を懷きて、遷徙して鳥擧(六)す。得て制し難きなり。其他を得て、以て廣しと爲るに足らず。其衆を有ちても、以て彊し爲るに足らず。上古より屬(七)して人と爲ず。漢數千里利を爭はば、則ち人馬罷れん。虜は全きを以て其敝を制せん。且つ彊弩(八)の極矢は、魯縞を穿つこと能はず、衝風の末力は、鴻毛を漂すこと能はず。初の勁からざるに非らず、末の力衰へたるなり。之を擊たんこと便ならず。和親に如かずと。羣臣の議する者、多く安國に附く。是に於て、上和親を許す。

(一) 外戚にして天下の政事を專らにす (二) 匈奴と和親の議を群臣に下して議せしむ (三) 胡の事情を能く知れり (四) 千里の遠方に出兵して戰をなすは、軍勝利なし (五) 健馬の駿足を恃みとなし、貪欲限りなき野心を懷きて (六) 迅速なること恰も鳥の飛ぶが如くなり (七) 屬國として禽獸と同等に見なせり (八) 強き弩の矢も其極に至れば尤も薄き絹をも射通すこと能はず、突風も其の末に至りては其力鴻毛の如き極めて輕きものにても、漂すこと能はず

諸侯。悦二一邪臣浮説。犯二上禁一撓二明法。天子以二太后故。不レ忍レ致二法於王。太后日夜涕泣幸二大王自改。而大王終不レ覺寤。有レ如二太后宮車卽晏駕。大王尙誰攀乎。語未レ卒。孝王泣數行下。謝二安國一曰。吾今出二詭勝一。詭勝自殺。漢使還報。梁事皆得レ釋。安國之力也。於レ是景太后益重二安國一。

ず　(四) 無根の説　(五) 國家の禁制を犯し、明法を曲げて之を亂す　(六) 崩御するが如きこと有らば　(七) 誰にたよりて助けを願はんか　(八) 誠忠の力なり

孝王卒。共王卽レ位。安國坐レ法。失レ官居レ家。建元中。武安侯田蚡爲二漢太尉一。親貴用レ事。安國以二五百金物一遺レ蚡。蚡言二安國太后一。天子亦素聞二其賢一。卽召以爲二北地都尉一。遷爲二大司

孝王卒す。共王位に卽く。安國法に坐し、官を失ひ家に居り、建元中に武安侯田蚡漢の太尉と爲り、親貴にして(一)事を用ふ。安國五百金の物を以て蚡に遺る。蚡、安國を太后に言す。天子亦素より其賢を聞く。卽ち召して以て北地の都尉と爲す。遷りて大司農と爲る。閩越、東越相攻む。安國及び大行王恢將たり。未だ越に至らず。越、其王を殺して降りぬ。漢の兵も亦罷む。建元六年に、武安侯丞相と爲り、安國御史大夫と爲る。匈奴來りて和親を請ふ。天子議(二)を下す。大行王恢は燕人なり。數〻邊の吏と爲りて、胡(三)の事を習ひ知れり。議して曰く、漢、匈奴と和親す。率ね數歲に過ぎずして、卽ち復た約に倍く。如かず許すこと勿く、兵を興

上臨江。親父子之間。然而高帝曰。提二三尺劍一。取二天下一者朕也。故太上皇終不レ得レ制レ事。居二于櫟陽一。臨江王適長太子也。以二一言過一。廢王二臨江一。用二宮垣事一。卒自二殺中尉府一。何者治二天下一終不下以レ私亂上レ公。語曰。雖レ有二親父一。安知二其不一レ爲レ虎。雖レ有二親兄一。安知二其不一レ爲レ狼。今大王列在二

の劍を提げて天下を取る者は朕なりと。故に太上皇終に事(一)を制することを得ずと、櫟陽に居る。臨江王は(二)適長の太子なり、一言の過を以て、廢せられて臨江に王たり。宮垣の事を用ひて、卒に中尉の府に自殺す。何となれば、天下を治むるは、終に私を以て公を亂らざればなり。語に曰く、親父有りと雖も、安ぞ其の(三)虎爲らざるを知らん。親兄有りと雖も、安ぞ其の狼爲らざるを知らん。今大王列して諸侯に在り、一邪臣の浮說(四)を悅びて上禁(五)を犯し、明法を撓す。天子、太后の故を以て、法を王に致すに忍びず。太后日夜涕泣して、大王の自ら改めんことを幸ふ。而も大王終に覺寤せず。太后(六)宮車即し晏駕するが如きこと有らば、大王尙ほ誰(七)にか攀ぢんやと。語未だ卒らず、孝王泣數行下る。安國に謝して曰く、吾れ今詭勝を出さんと。詭勝自殺す。漢の使還り報ず。梁の事皆釋くことを得たり。安國が力(八)なり。是に於て、景帝太后益々安國を重んず。

(一) 天下の政事を自由にとりさばくこと能はずとありて　(二) 嫡子たる長男　(三) 虎の如く其子を殺さずとも限ら

使下人刺二漢用レ事謀臣一。及殺中故吳相袁盎上。景帝遂聞二詭勝等計畫一。乃遣三使捕二詭勝一。必得。漢使十輩至レ梁。相以下擧レ國大索。月餘不レ得。內史安國聞三詭勝匿二孝王所一。安國入見レ王而泣曰。主辱臣死。大王無二良臣一。故事紛紛至レ此。今詭勝不レ得。請辭賜レ死。王曰。何至レ此。安國泣數行下。曰。大王自度。於二皇帝一。孰二與太上皇之與二高皇帝一。及皇帝之與二臨江王一親上。孝王曰。弗レ如也。

詭勝等を捕へしめて必ず得んとす。漢の使十輩梁に至る。相(一)以下國を擧げて大に索む。月餘にして得ず。內史安國、詭勝の孝王の所に匿(二)れたるを聞き、安國入りて王に見えて泣きて曰く、主辱しめらるれば臣死す。大王、良臣無し。故に事紛紛として此に至れり。今詭勝得られず。請ふ辭(三)して死を賜はん。王曰く、何ぞ此に至れる。安國泣數行下る。曰く、大王自ら度るに、皇帝に於けること、太上皇と高皇帝と、及び皇帝と臨江王との親みに孰與ぞ。孝王曰く、如かざるなり。

(一) 漢の最も有力なる謀臣　(二) 梁の相以下の者梁國の人を擧げて犯人を大に搜索す　(三) 請ふ職を辭して死を賜はらん

安國曰。夫太

安國曰く、夫れ太上臨江は親しきこと父子の間なり。然り而して高帝曰く、三尺

可ニ直千餘金一。名由レ此顯。結ニ於漢一。其後安國坐レ法抵レ罪。蒙獄吏田甲辱ニ安國一。安國曰。死灰獨不ニ復然一乎。田甲曰。然卽溺レ之。居無レ何。梁內史缺。漢使ニ使者拜ニ安國一爲ニ梁內史一。起ニ徒中一爲ニ二千石一。田甲亡走。安國曰。甲不レ就レ官。我滅ニ而宗一。甲因肉袒謝。安國笑曰。可レ溺矣。公等足ニ與治一乎。卒善遇レ之。梁內史之缺也。孝王新得ニ齊人公孫詭一說レ之。欲ニ請以爲ニ內史一。竇太后聞乃詔レ王以ニ安國一爲ニ內史一。

而が宗を滅さんと。甲因りて肉袒して謝す。安國笑ひて曰く、溺す可しと。(七)公等與に治するに足らんやと。卒に善く之を遇す。梁の內史の缺くるや、孝王新に齊人公孫詭を得て之を說ぶ。請ひて以て內史と爲さんと欲す。竇太后聞きて、乃ち王に詔りして、安國を以て內史と爲す。

(一) 怒乃ち解く　(二) 兄弟相互に亂し合ひて輯睦すること能はず　(三) 漢と納す　(四) 冷却したる灰にても燃えざることはなし　(五) 若し再び燃えば卽ち之に小便をしかけ消さん　(六) 徒刑囚人の中より身を起して　(七) 汝等の如き小人は彼此と論ずるには足らず

公孫詭羊勝說ニ孝王一。求下爲ニ帝太子一。及益レ地事上。恐ニ漢大臣不一レ聽。乃陰

公孫詭・羊勝、孝王に說きて、帝の太子と爲り及び地を益さん事を求む。漢の大臣の聽かざらんことを恐れ、乃ち陰に人をして漢の事を用ふる謀臣を刺し、及び故の吳の相袁盎を殺さしむ。景帝遂に詭勝等の計畫を聞く。乃ち使をして

日吳楚齊趙七國反時。自レ關以東。皆合從西鄉。推梁最親。爲二艱難一。梁王念二太后帝在一レ中。而諸侯擾亂。一言泣數行下。跪送二臣等六人一。將レ兵擊二却吳楚一。吳楚以レ故兵不三敢西二。而卒破亡。梁王之力也。今太后以二小節苛禮一。責二望梁王一。梁王父兄皆帝王。所レ見者大。故出稱レ蹕入言レ警。車旗皆帝所レ賜也。卽欲下以侘二鄙縣一。驅二馳國中一。以夸中諸侯上。令三天下盡知二太后帝愛一レ之也。今梁使來。輒案二責之一。梁王恐。日夜涕泣思慕。不レ知レ所レ爲。何梁王之爲レ子孝。爲レ臣忠。而太后弗レ恤也。

大長公主具以告二太后一。太后喜曰。爲言二之帝一。言レ之。帝心乃解。而免冠謝二太后一曰。兄弟不レ相二能教一。乃爲二太后一遺レ憂。悉見二梁使一厚賜レ之。其後梁王益親驩。太后長公主。更賜二安國一。

大長公主具に以て太后に告す。太后喜びて曰く、爲に之を帝に言へと。之を言す。帝、(一)心乃ち解く。而して免冠して太后に謝して曰く、(二)兄弟相教ふる能はず、乃ち太后の爲に憂を遺すと。悉く梁使を見て厚く之に賜ふ。其後に梁王益〻親み驩ぶ。太后、長公主、更に安國に賜ふ直千餘金可なり。名此に由りて顯はれて(三)漢に結ぶ。其後安國法に坐し罪に抵る。蒙の獄吏田甲、安國を辱しむ。安國が曰く、(四)死灰獨り復た然えざらんや。田甲曰く、(五)然えば卽ち之に溺せんと。居ること何も無くして、梁內史缺けたり。漢使者に安國を拜して梁內史爲らしむ。(六)徒中より起り二千石と爲る。田甲亡げ走る。安國が曰く、甲、官に就かずんば、我れ

破。安國張羽名由レ此顯。梁孝王景帝母弟。竇太后愛レ之。令レ得三自請置二相二千石一。出入游戲。僭二於天子一。天子聞レ之。心弗レ善也。太后知二帝不一レ善。乃怒二梁使者一弗レ見。案二責王所一レ爲。韓安國爲二梁使一。見二大長公主一而泣曰。何梁王爲二人子一之孝。爲二人臣一之忠。而太后曾弗レ省也。夫前

吳楚齊趙七國の反する時に、關より以東、皆合從して西鄉す。惟梁のみ最も親しみ艱難を爲す。梁王、太后、帝の中に在りて、而して諸侯の擾亂するを念ひて、一言して泣數行下る。跪きて臣等六人を送りて兵に將にして擊ちて吳楚を卻く。吳楚故を以て兵敢へて西せず。而して卒に破亡せるは、梁王の力なり。今太后、(六)小節苛禮を以て、梁王を責望す。梁王の父兄皆帝王なり。(七)見る所の者大なり。故に出づるに(八)蹕を稱し、入るに警を言ふ、車騎は皆帝の賜ふ所なり。即ち以て鄙縣に侘り國中に驅馳して、以て諸侯に夸りて、天下をして盡く太后、帝の之を愛することを知らしめんと欲するなり。今梁の使來れば、輒ち之を案責す。梁王恐れて、日夜涕泣思慕して爲す所を知らず。何ぞ梁王の子と爲て孝に、臣と爲て忠にして、而も太后の(九)恤へざるやと。

(一) 受け學ぶ　(二) 大事を取りて戰はず　(三) 出入遊戲するときに、天子と同一の儀式を爲す　(四) 罪を取調べて責む　(五) 其意中を察せざるは何ぞや　(六) 小さき禮節、苛細の行儀　(七) 平素見慣れたる所の者大なり　(八) 出入に警蹕をとなへて人を止む　(九) 同情せざる

御史大夫韓安國者。梁城安人也。後徙二睢陽一。嘗受二韓子雜家說於騶田生所一。事二梁孝王一爲二中大夫一。吳楚反時。孝王使二安國及張羽爲一レ將。扞二吳兵於東界一。張羽力戰。安國持重。以レ故吳不レ能レ過レ梁。吳楚已

巻百八

韓長孺列傳第四十八

御史大夫韓安國は、梁の城安の人なり。後に睢陽に徙る。嘗て韓子雜家の說を騶の田生が所に受く。(一)梁の孝王に事へて、中大夫と爲る、吳楚反する時、孝王、安國及び張羽を將と爲して、吳の兵を東界に扞がしむ。張羽は力戰し、安國は持重(二)す。故を以て、吳、梁を過ぐる能はず。吳楚已に破る。安國、張羽が名、此に由りて顯る。梁の孝王は、景帝の母弟なり。竇太后之を愛す。自ら請ひて相二千石を置くことを得しむ。(三)出入游戲、天子を僭す。天子之を聞き、心に善しとせず。太后、帝の善しとせざるを知る。乃ち梁の使者を怒りて、見ず。王の爲す所を案(四)責す。韓安國梁の使と爲て、大長公主に見えて、泣きて曰く、何ぞ梁王、人子たるの孝あり、人臣爲るの忠ありて、而して太后の曾て省(五)みざるや。夫れ前日は、

太史公曰。魏其武安皆以二外戚一重。灌夫用二一時決筴一而名顯。魏其之擧以二吳楚一。武安之貴在二日月之際一。然魏其誠不レ知二時變一。灌夫無レ術而不遜。兩人相翼。乃成二禍亂一。武安負レ貴而好レ權。杯酒責望。陷二彼兩賢一。嗚呼哀哉。遷レ怒及レ人。命亦不レ延。衆庶不レ載。竟被二惡言一。嗚呼哀哉。禍所二從來一矣。

太史公曰く、魏其・武安、皆外戚を以て重ぜらる。灌夫(一)一時の決筴を用て名顯る。魏其の擧は、吳楚を以てし、武安の貴は、(二)日月の際に在り。然れども魏其誠に時變を知らず、灌夫術無くして不遜なり。兩人(三)相翼け、乃ち禍亂を成す。武安、貴を負みて權を好む。(四)杯酒責望し、彼の兩賢を陷る。嗚呼哀しいかな、(五)怒りを遷し人に及ぼし、命も亦延びず、衆庶載かず。竟に(六)惡言を被る。嗚呼哀しいかな。(七)禍の從りて來る所なり。

(一) 一時の勇壯なる策を以て名聲高し　(二) 皇帝と太后と　(三) 相互に助け合ひて禍亂を惹き起す　(四) 酒杯を取換したる行違ひの事を深く根に持ちて　(五) 怒り散らして人に迷惑をかけ　(六) 惡しき評判を受く　(七) 禍を招く所以なり

病。專呼レ服謝レ罪。使二巫視一レ鬼者視レ之。見二魏其灌夫共守一欲レ殺レ之。竟死。子恬嗣。元朔三年。武安侯坐下衣二襜褕一入レ宮不敬上。淮南王安謀反。覺治。王前朝。武安侯爲二太尉一。時迎レ王至二覇上一。謂レ王曰。上未レ有二太子一。大王最賢高祖孫。卽宮車晏駕。非二大王立一當誰哉。淮南王大喜。厚遺二金財物一。上自二魏其時一。不レ直二武安一。特爲二太后一故耳。及レ聞二淮南王金事一。上曰。使二武安侯在一者族矣。

(三)魏其灌夫の共に守りて、之を殺さんと欲するを見る。竟に死す。子恬嗣ぐ。元朔三年、安武侯襜褕を衣て、(四)宮に入るの不敬に坐す。淮南王安謀反し、覺れて治す。王前に朝するとき、武安侯太尉と爲り、時に王を迎へ覇上に至る。王に謂ひて曰く、上未だ太子有らず。大王最も賢にして、高祖の孫なり。卽し(五)宮車晏駕せば、大王立つに非ずんば當に誰なるべきやと。淮南王大に喜び、厚く金財物を遺る。上、魏其の時より、武安を直とせず、特に太后の爲の故のみ。淮南王の金の事を聞くに及び、上曰く、武安侯をして在らしめば族したらんと。

(一)病氣中の、譫言にひたすら罪に服すと呼び立て罪を謝す (二)神降しの巫をして是を視しめたるに (三)魏其灌夫の兩人傍に在りて武安侯を殺さんと欲する有樣を見る (四)短き衣服を着けながら宮中に入りしといふ不敬罪によりて罰せらる (五)御崩御あらば

受₂遺詔₁。曰。事有ㇾ不ㇾ便。有₂便宜₁論ㇾ上。及ㇾ繫₂灌夫₁罪至ㇾ族。事日急。諸公莫₃敢復明言₂於上₁。魏其乃使₂昆弟子上書言₁ㇾ之。幸得₂復召見₁。書奏上。而案₂尙書₁大行無₂遺詔₁。詔書獨藏₂魏其家₁。家丞封。乃劾₂魏其₁矯₂先帝詔₁。罪當₂棄市₁。五年。十月。悉論₂灌夫及家屬₁。魏其良久乃聞。聞卽恚病ㇾ痱。不ㇾ食欲ㇾ死。或聞₂上無ㇾ意ㇾ殺₂魏其₁。魏其復食治ㇾ病。議定ㇾ不ㇾ死矣。乃有₂蜚語₁爲₂惡言₁聞ㇾ上。故以₂十二月晦₁論棄₂市渭城₁。

幸に復た召見するを得んと。書奏上す。而して尙書を案ずるに、大行(三)に遺詔無し。詔書獨り魏其の家に藏し、家丞封ず。乃ち魏其を劾すらく、先帝の詔を矯む、罪棄市に當すと。五年十月、悉く灌夫及び家屬を論ず。(四)魏其良久しくして乃ち聞く。聞きて卽ち恚り痱(五)を病む。食はずして死せんと欲す。或ひは上、魏其を殺すに意無しと聞く。魏其復た食ひ病を治す。議して死せざるに定む。乃ち蜚語(六)有り、惡言を爲し上に聞す。(七)故に十二月晦を以て、論じて渭城に棄市す。

(一) あまり事實を能く正さず上を欺ける罪を文書簿記に引合して責めしむ　(二) 事件は日に增し急迫になれり　(三) 崩殂せられし景帝には遺詔なし　(四) 罪を論じて處刑せり　(五) 風病、關節の痛む病　(六) 出處なき言ひ觸しあり　(七) 魏其が主上を惡しざまに申せる言を爲りて、武帝の耳に入れたり

其春。武安侯

其春、武安侯病む。(一)專ら服すと呼り罪を謝す。(二)巫の鬼を視る者をして、之を視しむ。

入事。武安已罷ㇾ朝。出二止車門一。召二韓御史大夫一載。怒曰。與二長孺一共二一老禿翁一。何爲二首鼠兩端一。韓御史良久謂二丞相一曰。君何不二自喜一。夫魏其毀ㇾ君。君當下免ㇾ冠解二印綬一歸上。曰臣以二肺腑一幸得ㇾ待ㇾ罪。固非二其任一。魏其言皆是。如ㇾ此上必多二君有一ㇾ讓。不ㇾ廢ㇾ君。魏其必內愧杜ㇾ門。齰ㇾ舌自殺。今人毀ㇾ君。君亦毀ㇾ人。譬如二賈豎女子爭一ㇾ言。何其無二大體一也。武安謝ㇾ罪曰。爭時急不ㇾ知ㇾ出ㇾ此。

なし（二）退朝して起ちて内に入らる（三）今我れかくて現存してすらなほ人は吾が弟を踏付にすることは此の通りなれば、我が死後は魚肉を切るが如くに殺されん（四）知惻意を有せざる者にもあるまじ、されば事の理非は分別し得られざらんや（五）帝のかく在りてすら、臣下の者等は何とも確乎たる意見をのぶるものなし（六）されば若し萬一帝の死せば、何ぞ信用す可き者あらんや（七）門の名（八）長孺君と共に頭の禿げたる老人に過ぎざれば、命も惜からず、何ぞ日和見を爲さん（九）臣皇室の薄緣を以て愚かなる身を以て重き丞相の任を得たり、併し身の不德なる丞相の適任者に非ず（一〇）下賤なる商人や女子の言ひ爭と等し（一一）大人なげ無き事ならずや（一二）餘り激論したれば、此くの如き處置は考へつかざりき

於ㇾ是上使下御史簿中責魏其所ㇾ言二灌夫一頗不ㇾ讎欺謾上。劾二繫都司空一。孝景時。魏其常

是に於て上、御史をして魏其の灌夫を言ふ所の頗る讎めず欺謾なるを簿責せしむ。（一）都司空に劾繫す。孝景の時、魏其常て遺詔を受く。曰く、事便ならざる有らば、便宜を以て論上せよと。灌夫を繫するに及び罪族に至る。（二）事日に急なり。諸公敢へて復た明かに上に言ふ莫し。魏其乃ち昆弟の子をして上書し之を言はしむ。

太后亦已使二人候伺一。具以告二太后一。太后怒不レ食曰。今我在也。而人皆藉二吾弟一。令二我百歳後皆魚二肉之一矣。且帝寧能爲二石人一邪。此特帝在。即錄錄。設百歳後。是屬寧有二可レ信者一乎。上謝曰。俱宗室外家。故廷辯レ之。不レ然此一獄吏所レ決耳。是時郎中令石建爲レ上分別言二兩

り、即ち錄錄たり、設し百歳の後、是の屬寧ろ信ず可き者有らんやと。上、謝して曰く、俱に宗室外家なり(六)、故に廷に之を辯ぜしむ。然らずんば、此れ一獄吏の決する所のみと。是の時郎中令石建、上の爲に分別して兩人の事を言ふ。武安已に朝を罷めて(七)止車門を出で、韓御史大夫を召び載す。怒りて曰く、長孺(八)と共に一の老禿翁たり、何ぞ首鼠兩端を爲さん。韓御史良久しうして丞相に謂ひて曰く、君何ぞ自ら喜ばざる。夫れ魏其、君を毀る。君當に冠を免じ印綬を解き歸すべし。曰く、臣(九)肺腑を以て幸に罪を待つことを得たり、固より其任に非ず。魏其の言皆是なりと。此くの如くんば、上必ず君の讓る有るを多とし、君を廢せざらん。魏其必ず内に愧ぢ、門を杜ぢ舌を齚みて自殺せん。今人君を毀る、君も亦人を毀る。譬へば(一〇)賈豎女子の爭言する如し。何ぞ其の大體(一一)無きや。武安君罪を謝して曰く、爭ふ(一二)時急なり、此に出づるを知らざりきと。

(一) 朝廷にての議論は、縮み小さくなりて、恰も車の長柄の下に繫がれたる馬の如くにて見苦しきことといふばかり

非レ有二大惡一。爭二杯酒一。不レ足下引二他過一以誅上也。魏其言是也。丞相亦言。灌夫通二姦猾一。侵二細民一。家累二巨萬一。橫二恣潁川一。凌二轢宗室一。侵二犯骨肉一。此所レ謂枝大二於本一。脛大二於股一。不レ折必披。丞相言亦是。唯明主裁レ之。主爵都尉汲黯是二魏其一。內史鄭當時是二魏其一。後不二敢堅對一。餘皆莫二敢對一。

披けん。丞相の言も亦是なり。唯明主之を裁せよと。主爵都尉汲黯、魏其を是とし、内史鄭當時、魏其を是とし、後は敢へて堅對(六)せず。餘皆(七)敢へて對ふる莫し。

(一)底知れぬ呉軍の中に入り (二)勇名全軍に第一たり (三)惡賢き者と交通し、下級の人民を侵し苦しめ (四)帝室の御家門を凌ぎ (五)根本より枝の方却つて長大に、脛、股より太く大なると等しく、根本が枝葉を支ふるに堪へずして、折れざれば幹は必ず披けん (六)先には論じたれど、確乎たる主張をなして帝に對へず (七)其外の臣僚は田蚡の威權に恐れて沈默して對ふところなし

上怒二內史一曰。公平生數言二魏其武安長短一。今日廷論。局趣效二轅下駒一。吾幷斬二若屬一矣。卽罷起。入上二食太后一。

上、内史を怒りて曰く、公、平生數〻魏其・武安の長短を言へり。今日の廷論(一)、局趣として轅下の駒に效ふ。吾れ幷せて若の屬を斬らんと。即ち罷め(二)起ち、入りて食を太后に上る。太后も亦已に人をして候伺せしむ。具に以て太后に告ぐ。太后怒りて食はずして曰く、今我れ在り、而も人の吾が弟を藉む。我れをして百歲の後ならしめば、皆之を魚肉(三)にせん。且つ帝寧ろ能く石人(四)爲らんや、此れ特に帝在

醉飽得レ過。乃丞相以二他事一誣中罪之上。武安又盛毀二灌夫一。所レ爲横恣。罪逆不道。魏其度不レ可二奈何一。因言二丞相短一。武安曰。天下幸而安樂無事。蚡得レ爲二肺腑一。所レ好音樂狗馬田宅。蚡所レ愛倡優巧匠之屬。不レ如下魏其灌夫日夜招二聚天下豪桀壯士一。與論議。腹誹而心謗。不二仰視レ天而俯畫レ地。辟二倪兩宮間一。幸二天下有レ變。而欲レ有二大功一。臣乃不レ知二魏其等所レ爲。

(一)一本銳とあり、從ふべきか。力を込めて　(二)里方　(三)侯の爵は我れ自身に之を得たるものなれば、自身に之を捨てたりとも毫も惜しからず　(四)家族に内密にし　(五)太后の宮に往きて辯解せよ　(六)熟醉　(七)他の事件を以て罪を誣ふる旨を言上す　(八)推し度るに如何とも手のつけやう無し　(九)皇室の緣者たることを得　(一〇)心腹の中にて朝廷を誹謗す　(一一)天文を觀て天下に變あらんことを窺ひ、然らざれば地上に種々の計を畫きて見、帝と太后との間に在りてながしめにみつめ、天下に變あらんことを希ひ　(一二)其の爲す所は瞭に落ちず

於レ是上問二朝臣一。兩人孰是。御史大夫韓安國曰。魏其言。灌夫父死レ事。身荷レ戟馳入二不測之呉軍一。身被二數十創一。名冠二三軍一。此天下壯士。

是に於て上、朝臣に問ふ、兩人孰れか是なると。御史大夫韓安國曰く、魏其言ふ、灌夫の父事に死し、身、戟を荷ひ馳せて(一)不測の呉軍に入り、身數十創を被り、(二)名三軍に冠たり、此れ天下の壯士なり。大惡有るに非ずして、杯酒を爭ふ、他の過を引き以て誅するに足らざるなりと。魏其の言是なりと。丞相も亦言ふ、灌夫(三)姦猾に通じ、細民を侵し、家巨萬を累ね、潁川に横恣し、(四)宗室を凌轢し、骨肉を侵犯す、此れ所謂、(五)枝、本より大に、脛、股より大なるなり。折れずんば必ず

救ニ灌夫一。夫人諫ニ魏其一曰。灌將軍得ニ罪丞相一。與ニ太后家一忤。寧可レ救邪。魏其侯曰。侯自レ我得レ之。自レ我捐レ之。無レ所レ恨。且終不下令ニ灌仲孺獨死一嬰獨生上。乃匿ニ其家一。竊出上書。立召入。具言ニ灌夫醉飽事不上レ足レ誅。上然レ之。賜ニ魏其食一曰。東朝廷辯レ之。魏其之ニ東朝一。盛推ニ灌夫之善一。言下其

太后の家(二)と忤ふ、寧ぞ救ふ可けんや。魏其侯曰く、侯(三)は我れより之を得たり、我れより之を捐つるも、恨む所無し。且つ終に灌仲孺をして獨り死せしめ、嬰獨り生きずと。乃ち其家(四)に匿し、竊に出でて上書す。立どころに召し入る。具に灌夫醉飽の事、誅するに足らざることを言ふ。上之を然りとす。魏其に食を賜ひて曰く、東朝(五)廷に之を辯ぜよと。魏其東朝に之き、盛に灌夫の善を推し、其醉飽(六)して過を得、乃ち丞相(七)他事を以て之を誣罪するを言ふ。武安又盛に灌夫を毀る。爲す所横恣、罪逆不道なりと。魏其度る(八)に奈何ともす可からず。因りて丞相の短を言ふ。武安曰く、天下幸にして安樂無事にして、蚡、肺腑(九)爲ることを得。好む所は音樂、狗馬、田宅なり。蚡の愛する所は倡優、巧匠の屬なり。魏其、灌夫の日夜天下の豪桀壯士を招聚し、與に論議し、腹誹(一〇)して心謗し、仰ぎて(一一)天を視ざれば、而ち俯して地に畫し、兩宮の間に辟倪し、天下の變有るを幸とし、大功有らんと欲するに如かず。臣乃ち魏其等の爲す所(一二)を知らずと。

次至臨汝侯。臨汝侯方與程不識耳語。又不避席。夫無所發怒。乃罵臨汝侯曰。生平毀程不識不直一錢。今日長者爲壽。乃效女兒呫囁耳語。武安謂灌夫曰。程李俱東西宮衛尉。今衆辱程將軍。仲孺獨不爲李將軍地乎。灌夫曰。今日斬頭陷胷。何知程李乎。坐乃起更衣稍稍去。魏其侯去。麾灌夫出。武安遂怒曰。此吾驕灌夫罪。乃令騎留灌夫。灌夫欲出不得。籍福起爲謝。案灌夫項令謝。夫愈怒不肯謝。武安乃麾騎縛夫置傳舍召長史曰。今日召宗室有詔。劾灌夫罵坐不敬。繫居室。遂按其前事。遣吏分曹。逐捕諸灌氏支屬。皆得棄市罪。魏其侯大媿。爲資使賓客請。莫能解。武安吏皆爲耳目。諸灌氏皆亡匿。夫繫遂不得告言武安陰事。

く解くこと莫し。武安の吏皆耳目を爲す。(二一) 諸の灌氏皆亡匿す。夫繫がれ、遂に武安の陰事を告言することを得ず。

(一) 其罪を檢擧せん (二) 此れ丞相の職權内の事なり、何ぞ殊に申請の必要をし、勝手に處分せよ (三) 秘密に爲したる惡事 (四) 酒の上にての過失を以て咎を丞相に得たり (五) 其事は既に解決す (六) 古くより知合になりたる人 (七) なみなみ注ぎたる杯は受けられず (八) あざわらひて (九) 一錢の値うちもなし (一〇) 灌夫自らをいふ (一一) 女子供の爲す如く、ひそひそと耳打ち話をするか (一二) 東西兩宮の近衛軍の大將なり (一三) 名譽ある李將軍の立場を考へざるか (一四) 只今頭を斬り胸を刳らるゝも、何ぞ程李の將軍などを念頭に止めん (一五) 項を抑へつけて謝罪せしむ (一六) 座上にて貴賓を罵りし不敬の罪を彈劾す (一七) 署の名、少府に屬す (一八) 以前にありし事件をも取調ぶ (一九) 枝葉の親屬 (二〇) 死刑罪のを得たり (二一) 耳目となりて搜索をなす

魏其脫身爲

魏其身を脱して爲に灌夫を救ふ。(一) 夫人、魏其を諫めて曰く、灌將軍罪を丞相に得、

與俱。夫謝曰。夫數以酒失得過丞相。丞相今者又與夫有郄。魏其曰。事已解。彊與俱。飮酒酣。武安起爲壽。坐皆避席伏。已魏其侯爲壽。獨故人避席耳。餘半膝席。灌夫不悅。起行酒至武安。武安膝席曰。不能滿觴。夫怒因嘻笑曰。將軍貴人也。屬之。時武安不肯。行酒

安肯ぜず。酒を行し次いで臨汝侯に至る。臨汝侯方に程不識と耳語す、又席を避けず。夫怒りを發する所無し。乃ち臨汝侯を罵りて曰く、生平程不識を毀るらく、一錢(九)にも直らずと。今日長者(一〇)壽を爲す、乃ち女兒(一一)に效ひ呫囁耳語すと。武安、灌夫に謂ひて曰く、程李は俱に東西宮の衛尉(一二)なり、今程將軍を衆辱す、仲孺獨り李將軍(一三)の地を爲さざるかと。灌夫曰く、今日頭を斬り胷を陷るゝも何ぞ程李を知らんやと。坐乃ち起ちて更衣(一四)し、稍稍くに去る。魏其侯去る。灌夫を麾きて出づ。武安遂に怒りて曰く、此吾れ灌夫を驕すの罪なりと。乃ち騎をして灌夫を留めしむ。灌夫出でんと欲して得ず、藉福起ちて、爲に謝し、灌夫の項を案じて謝せしむ。至愈〻怒り謝を肯ぜず。武安乃ち騎を麾き夫を縛し、傳舍(一五)に置く。長史を召して曰く、今日宗室を召したるは、詔有ればなりと。灌夫の罵坐(一六)の不敬を劾す。居室(一七)に繫ぐ。遂に其前事(一八)を按ず。吏を遣し曹を分ち、諸灌氏の支屬(一九)を逐捕せしむ。皆棄市(二〇)の罪を得たり。魏其侯大に媿ぢ、資を爲し賓客をして請はしむ。能

嘗殺ㇾ人。蚡活ㇾ之。蚡事二魏其一無ㇾ所二不可一。何愛二數頃田一。且灌夫何與也。吾不二敢復求一ㇾ田。武安由ㇾ此大怨二灌夫魏其一。

元光四年。春。丞相言。灌夫家在二潁川一。橫甚。民苦ㇾ之。請案。上曰。此丞相事。何請。灌夫亦持下丞相陰事爲二姦利一。受二淮南王金一與語言上。賓客居ㇾ間。遂止。俱解。夏。丞相取二燕王女一爲二夫人一。有二太后詔一。召二列侯宗室一。皆往賀。魏其侯過二灌夫一。欲二

元光四年春、丞相言ふ。灌夫の家潁川に在り橫なること甚だし。民之に苦しむ。請ふ案(一)ぜん。上曰く、此れ(二)丞相の事、何ぞ請はんと。灌夫も亦丞相の陰事(三)姦利を爲し、淮南王の金を受け、與に語言するを持す。賓客間に居り、遂に止めて俱に解く。夏丞相、燕王の女を取り夫人と爲す。太后の詔有り、列侯宗室を召して皆往き賀せしむ。魏其侯、灌夫に過り與に俱にせんと欲す。夫謝して曰く、夫數〻(四)酒失を以て過を丞相に得たり、丞相今は又夫と郄有りと。魏其曰く、事已(五)に解くと。彊ひて與に俱にす。酒を飮み酣なるとき武安起ちて壽を爲す。坐皆席を避け伏す。已にして魏其侯壽を爲す。獨り(六)故人席を避くるのみ、餘は半ば席に膝す。灌夫悅ばず。起ちて酒を行し武安に至る。武安席に膝して曰く、滿觴(七)に能へずと。夫怒り、因りて嘻笑(八)して曰く、將軍は貴人なりと、之に屬す。時に武

及飲酒酣。夫起舞屬丞相。丞相不起。夫從坐上語侵之。魏其乃扶灌夫去。謝丞相。丞相卒飲。至夜極驩而去。

丞相嘗使籍福請魏其城南田。魏其大望曰。老僕雖棄。將軍雖貴。寧可以勢奪乎。不許。灌夫聞怒罵籍福。籍福惡兩人有郄。乃謾自好謝丞相曰。魏其老且死。易忍。且待之。已而武安聞魏其灌夫實怒不予田。亦怒曰。魏其子

丞相嘗て籍福をして、魏其の城南の田を請はしむ。魏其大に望みて曰く、老僕棄てられたりと雖も、將軍貴しと雖も、寧んぞ勢を以て奪ふ可けんやと(一)。許さず。灌夫聞き、怒りて籍福を罵る。籍福兩人の郄(二)有らんを惡み、乃ち謾り(三)自ら好くし、丞相に謝して曰く、魏其老ゆ、且に死せんとす、忍び易し(四)、且つ之を待てと。已にして武安、魏其、灌夫實に怒り田を予へざるを聞き、亦怒りて曰く、魏其の子嘗て人を殺す。蚡、之を活す(五)。蚡(六)、魏其に事へ不可なる所無し、何ぞ數頃の田を愛まん、且つ灌夫何ぞ與らん(七)。吾れ敢へて復た田を求めずと。武安此に由り大に灌夫魏其を怨む。

(一) 權勢を以て壓制を加へ奪取る法のあるべき筈なし (二) 仲違ひせんことを嫌ひ (三) 自分から其場合を體よく取繕ひ (四) 暫時の事なれば忍耐し易し、よつて其の時期を待たれよ (五) 助命したり (六) 田蚡に於ては、魏其自分の爲に盡して至當なる義務あり (七) 何ぞ此事に關係あらん

旦日蚤臨。武安許諾。灌夫具語二魏其侯一。如レ所レ謂二武安侯一。魏其與二其夫人一益市二牛酒一。夜灑埽。早帳具至レ旦。平明令二門下候伺一。至二日中一丞相不レ來。魏其謂二灌夫一曰。丞相豈忘レ之哉。灌夫不レ懌曰。夫以レ服請宜レ往。乃駕自往迎二丞相一。丞相特前戲許二灌夫一。殊無レ意レ往。及二夫至一レ門。丞相尚臥。於レ是夫入見曰。將軍昨日幸許レ過二魏其一。魏其夫妻治具。自レ旦至レ今。未二敢嘗一レ食。武安鄂謝曰。吾昨日醉。忽忘下與二仲孺一言上。乃駕往。又徐行。灌夫愈益怒。

く往くべしと。乃ち駕して(七)自ら往き、丞相を迎ふ。丞相特に前に戯れ灌夫に許す。殊に往くに意無し。夫門に至るに及び、丞相尚ほ臥す。是に於て夫入り見えて曰く、將軍昨日幸に魏其に過ぎるを許す。魏其夫妻治具し(八)、旦より今に至る、未だ敢へて食を嘗めず。武安鄂き謝して曰く、吾れ昨日醉ひ、忽ち仲孺と言ふを忘ると。乃ち駕して往く。又徐行す(九)。灌夫愈〻益〻怒る。酒を飲み酣なるに及び、夫起ちて舞ひ、丞相に屬す(一〇)。丞相起たず(一一)。夫、坐上より語り之を侵す。魏其乃ち灌夫を扶けて去らしめ、丞相に謝す。丞相卒に飲み夜に至り、驩を極めて去る。

(一) 親族死して喪服中 (二) 灌夫の字 (三) 訪問せらるゝことを (四) 喪服の故を以て辭解となし、御同伴を御斷り申すやうの事をなさず (五) 饗應の準備をなさしめん (六) 夜の明くる早々、門下の者をして物見として出でしめたり (七) 灌夫自ら車に乘りて丞相の許に行き (八) 饗應の準備をとゝのへ (九) 徐に行きて時間を後れしむ (一〇) 勸めて一曲舞はんことを求む (一一) 舞はず

好ニ任俠一已ニ然諾一。諾所ニ與交通一。無レ非ニ豪傑大猾一。家累ニ數千萬一。食客日數十百人。陂池田園宗族賓客。爲ニ權利一横ニ於潁川一。潁川兒乃歌レ之曰。潁水清灌氏寧。潁水濁灌氏族。灌夫家居雖レ富然失レ勢。卿相侍中賓客益衰。及ニ魏其侯失ヒ勢。亦欲レ倚ニ灌夫一。引ニ繩批ニ根生平慕レ之。後棄レ之者。灌夫亦倚ニ魏其一。而通ニ列侯宗室一爲レ名高一。兩人相爲ニ引重一。其游如ニ父子一然。相得驩甚無レ厭。恨ニ相知晩一也。

相方共力して再び近づかしめざる樣にせんと欲す　(一四) 兩人相互に援け合ひて、重きをなせり　(一五) 相互ひに知り合ふことの遲かりしを殘念に思ふ樣なり

灌夫有レ服過ニ丞相一。丞相從容曰。吾欲下與ニ仲孺一過中魏其侯上。會ニ仲孺有レ服。灌夫曰。將軍乃肯三幸臨ニ況魏其侯一。夫安敢以レ服爲レ解。請語ニ魏其侯一帳具。將軍

灌夫服(一一)有り、丞相に過ぎる。丞相從容として曰く、吾れ(一二)仲孺と魏其侯に過ぎらんと欲す、仲孺の服有るに會ふと。灌夫曰く、將軍乃ち幸に魏其侯に臨況(一三)するを肯ずる、夫安んぞ敢へて(一四)服を以て解を爲さん、請ふ魏其侯に告げて帳具(一五)せしめん。將軍旦月に蚤く臨せよと。武安許諾す。灌夫具に魏其侯に語る。武安侯に謂ふ所の如し。魏其、其夫人と益〻牛酒を市ひ、夜灑掃し、早く帳具して旦に至る。(一六)平明に、門下をして侯伺せしむ。日中に至るも丞相來らず。魏其灌夫に謂ひて曰く、丞相豈に之を忘るゝかと。灌夫懌ばずして曰く、夫、服を以て請ふ、宜し

尉竇甫飮。輕重不得。夫醉搏甫。甫竇太后昆弟也。上恐太后誅夫。徙爲燕相。數歲坐法去官。家居長安。灌夫爲人剛直使酒。不好面諛。貴戚諸有勢在己之右。不欲加禮。必陵之。諸士在己之左。愈貧賤。尤益敬與鈞。稠人廣衆。薦寵下輩。士亦以此多之。夫不喜文學。

る所は、豪傑大猾に非ざるは無し。(八)家數千萬を累ぬ。食客日に數十百人あり。(九)陂池田園宗族賓客權利を爲し、潁川に横す。潁川の兒乃ち之を歌ひて曰く、(一〇)潁水清まば灌氏寧く、(一〇)潁水濁らば灌氏族せられんと。灌夫家居し、富むと雖も、然れども勢を失ふ。卿相、侍中、賓客益〻衰ふ。魏其侯の勢を失ふに及び、亦灌夫に倚り、(一一)生平之を慕ひ後之を棄つる者を(一二)引繩批根せんと欲す。(一三)灌夫も亦魏其に倚り、而して列侯宗室に通じ、名の高きを爲す。兩人相引重を爲す。(一四)其游び父子の如く然り。相得て驩甚だしく、厭ふこと無し。相知の晩かりしを恨むるなり。(一五)

(一) 灌夫を譽めざる者なし　(二) 天下の四方より人々の集合する處にして、强兵の居る處なれば至極肝要の地なり　(三) 待遇當を得ず　(四) 酒を大に飲み、酒の上の惡き癖あり　(五) 必ず貴顯に向ひて無禮の行爲をなす　(六) 共に自分と對等の交際をなし、多人數集會の場所に於て、下輩を褒め愛す　(七) 一旦引受けたる事は必ず果す　(八) 數千萬の資產を有す　(九) 泉水田圃を多く有し、一門賓客大にはびこり、權勢を張り利益を專らにし　(一〇) 潁川の灌氏事なければ安寧なり、若し一旦事あれば灌氏の一族は悉く誅戮に逢はん　(一一) 倚頼し　(一二) 平生賓服を慕ひ寄りつきし者にして、後離れて寄りつかざる輕薄者を　(一三) 根は报の誤り、輕薄の者共を繩を以て引括るが如く、

軍壯ニ義之。恐レ亡レ夫。乃言ニ太尉。太尉乃固止レ之。

吳已破。灌夫以レ此名聞ニ天下。潁陰侯言ニ之上。上以レ夫爲ニ中郎將。數月坐レ法去。後家ニ居長安。長安中諸公莫レ弗レ稱レ之。孝景時至ニ代相。孝景崩。今上初卽レ位。以爲淮陽天下交。勁兵處。故徙レ夫爲ニ淮陽太守。建元元年。入爲ニ太僕。二年。夫與ニ長樂衞

吳已に破る。灌夫此を以て名天下に聞ゆ。潁陰侯之を上に言ふ。上、夫を以て中郎將と爲す。數月ありて、法に坐して去る。後長安に家居す。長安中の諸公之(一)を稱せざる莫し。孝景の時、代の相に至る。孝景崩ず。今上初めて位に卽く。以爲らく淮陽は天下の交、勁兵の處なりと、故に夫を徙して淮陽の太守と爲す。建元元年入りて太僕(二)と爲る。二年夫長樂の衞尉竇甫と飮す。(三)輕重得ず。夫醉ひて甫を搏つ。甫は竇太后の昆弟なり。上、太后の夫を誅するを恐れ、徙して燕の相と爲す。數歲ありて、法に坐して官を去り、長安に家居す。灌夫人と爲り剛直にして(四)酒を使ふ。面諛を好まず。貴戚の諸々の勢有りて己の右に在るものには、禮を加ふるを欲せず、(五)必ず之を陵ぐ。諸士の己の左に在るものには、愈々貧賤なるは、尤も益々敬しくし(六)與に鈞しくし、稠人廣衆に下輩を薦寵す。士も亦此を以て之を多とす。夫文學を喜まず、任俠を好み、(七)然諾を已す。諸の與に交通す

屬㆓太尉㆒。請㆓灌孟㆒爲㆓校尉㆒。夫以㆓千人㆒與㆑父俱。灌孟年老。潁陰侯彊請㆑之。鬱鬱不㆑得㆑意。故戰常陷㆑堅。遂死㆓吳軍中㆒。軍法父子俱從㆑軍。有㆑死㆑事。得㆓與㆑喪歸㆒。灌夫不㆓肯隨㆑喪歸㆒。奮曰。願取㆓吳王若將軍頭㆒。以報㆓父之仇㆒。於㆑是灌夫被㆑甲持㆑戟。募㆓軍中壯士所㆑善。願㆑從者數十人㆒。及㆑出㆓壁門㆒莫㆓敢前㆒。獨二人及從奴十數騎。馳入㆓吳軍㆒。至㆓吳將麾下㆒。所㆓殺傷㆒數十人。不㆑得㆑前。復馳還。走入㆓漢壁㆒。皆亡㆓其奴㆒。獨與㆓一騎㆒歸。夫身中㆓大創㆒十餘。適有㆓萬金良藥㆒。故得㆑無㆑死。夫創少瘳。又復請㆓將軍㆒曰。吾益知㆓吳壁中曲折㆒。請復往。將

願はくは吳王若しくは將軍の頭を取り、以て父の仇を報ぜんと。是に於て灌夫甲を被り戟を持ち、軍中の壯士の善くする所(四)の從ふを願ふ者數十人を募る。壁門(五)を出づるに及び、敢へて前むもの莫し。獨二人及び從奴十數騎馳せて吳の軍に入り、吳將の麾下(六)に至る。殺傷する所數十人なりしも、前むことを得ず。復た馳せ還り、走りて漢の壁に入る。皆其奴を亡ふ。獨り一騎と歸る。夫、身大創に中る十餘あり。適〻萬金の良藥(七)有り、故に死すること無きを得たり。夫創少しく瘳ゆ。又復た將軍に請ひて曰く、吾れ益〻吳の壁中の曲折(八)を知る、請ふ復た往かんと。將軍之を壯義とし、夫を亡ふを恐れ、乃ち太尉に言ふ。太尉乃ち固く之を止む。

(一) 軍隊の規則として　(二) 戰死することあれば　(三) 遺骸を後送すると共に家に歸ることを得　(四) 親善なる者
(五) 陣屋の門　(六) 大將の旗下になる　(七) 萬金の高價なる良藥　(八) 敵軍の陣中の樣子を知る

召ㇾ客飲。坐ニ其兄蓋侯ー南鄕。自坐東鄕。以爲漢相尊。不ㇾ可下以兄故ー私撓上。武安由ㇾ此滋驕。治ㇾ宅甲ニ諸第。田園極ニ膏腴。而市ニ買郡縣器物ー相ニ屬於道。前堂羅ニ鐘鼓。立ニ曲旃。後房婦女以ㇾ百數。諸侯奉ニ金玉狗馬玩好。不ㇾ可ニ勝數。魏其失ニ竇太后。益疏不ㇾ用無ㇾ勢。諸客稍稍自引而怠傲。唯灌將軍獨不ㇾ失。故魏其日默默不ㇾ得ㇾ志。而獨厚遇ニ灌將軍。

宮中御用の器械製作所の地を請ひうけて、自分の邸宅を増さんとす 〔一一〕少しく遠慮す 〔一二〕尊位の座なり 〔一三〕諸家の中第一なり 〔一四〕道路に引つゞく 〔一五〕邸宅内の前方の堂 〔一六〕通帛にて製り曲りたる柄のある旗幟家の用に供するもの 〔一七〕百を以て單位として數ふるほど多數なり 〔一八〕次第に離れ遠ざかりて、魏其を尊敬する心薄らぐ 〔一九〕從前の通り魏其を心中より尊敬せり

灌將軍夫者。潁陰人也。夫父張孟嘗爲ニ潁陰侯嬰舍人ー得ㇾ幸。因進ㇾ之至ニ二千石。故蒙ニ灌氏姓ー爲ニ灌孟。吳楚反時。潁陰侯灌何爲ニ將軍ー

灌將軍夫は、潁陰の人なり。夫の父張孟嘗て潁陰侯嬰の舍人と爲り、幸を得。因りて之を進め二千石に至る。故に灌氏の姓を蒙り、灌孟と爲る。吳楚反する時、潁陰侯灌何將軍と爲り、太尉に屬す。灌孟を請ひて校尉と爲す。夫、千人を以て父と俱にす。灌孟年老ゆ。潁陰侯彊ひて之を請ふ。鬱鬱として意を得ず。故に戰ひて常に堅を陷る。遂に吳の軍中に死す。(一)軍法に父子俱に軍に從ひ、(二)事に死すること有れば、(三)喪と歸ることを得。灌夫喪に隨ひ歸るを肯ぜず、奮ひて曰く、

以爲諸侯王多レ長。上初卽レ位。富二於春秋一。蚡以二肺腑一爲二京師相一。非二痛折レ節以レ禮詘一レ之。天下不レ肅。當二是時一。丞相入奏レ事。坐語移レ日。所レ言皆聽。薦レ人或起レ家至二二千石一。權移二主上一。上乃曰。君除レ吏已盡未。吾亦欲レ除レ吏。嘗請二考工地一益レ宅。上怒曰。君何不三遂取二武庫一。是後乃退。嘗

考工（一〇）の地を請ひて宅を益さんとす。上怒りて曰く、君何ぞ遂に武庫を取らざると。是の後乃ち退く（一一）。嘗て客を召きて飲す。其兄蓋侯を坐して南鄕せしめ、自ら坐して東鄕す（一二）。以爲らく漢の相尊し、兄の故を以て私に撓む可らずと。武安此に由りて滋く驕る。宅を治むる（一三）諸第に甲たり。田園膏腴を極めて、郡縣の器物を市買するもの、（一四）道に相屬す。（一五）前堂鍾鼓を羅ね、曲旃（一六）を立つ。後房の婦女百（一七）を以て數ふ。諸侯、金玉・狗馬・玩好を奉ずること勝げて數ふ可からず。魏其、竇太后を失ひ、益々疏まれ用ひられず、勢無し。諸客稍稍く（一八）自ら引きて怠傲す。唯灌將軍獨り失せず（一九）。故に魏其日に默默として志を得ず。而して獨り厚く灌將軍を遇す。

（一）威儀を掌り其事務の捗らざりしを以て　（二）容貌矮小にして風采あがらず、故に人の侮らんことを恐れ、つとめて威嚴を保ち尊大の風をなす　（三）成長して年上の者多し　（四）年齡未だ若し　（五）血緣のつゞきあひを以て　（六）威嚴を以て彼れにのぞみ、甚だしく彼れの節をくじき、禮法を以て屈從せしめざれば　（七）帝と相對して語り長時間にわたる　（八）一平民より起りて　（九）權勢の盛なること、主上の大權をも移動せしめんとするに至る　（一〇）

竇太后滋不レ說二魏其等一。及二建元二年一。御史大夫趙綰。請レ無レ奏二事東宮一。竇太后大怒。乃罷二逐趙綰王臧等一。而免二丞相太尉一。以二柏至侯許昌一爲二丞相一。武彊侯莊青翟爲二御史大夫一。魏其武安由レ此以レ侯家居。武安侯雖レ不レ任レ職。以二王太后故一親。幸數言レ事。多レ效。天下吏士趨二勢利一者。皆去二魏其一歸二武安一。武安日益橫。

多くの外戚の者は列侯となり　(六)　大概、内親王を娶りて妻となす　(七)　黄帝老子の學派の說をけなす　(八)　權勢ある者に諂り、利益を欲する者

建元六年。竇太后崩。丞相昌。御史大夫青翟坐二喪事不レ辦免。以二武安侯蚡一爲二丞相一。以二大司農韓安國一爲二御史大夫。天下士。郡國諸侯。愈益附二武安一。武安者貌侵生貴甚。又

建元六年、竇太后崩ず。丞相昌、御史大夫青翟、(一)喪事の辦ぜざるに坐して免ず。武安侯蚡を以て丞相と爲し、大司農韓安國を以て御史大夫と爲す。天下の士、郡國の諸侯愈〻益〻武安に附く。武安は、貌(二)侵にして、貴を生すこと甚だし。又以爲らく諸侯王、(三)長多し。上初めて位に卽き、(四)春秋に富む。蚡、(五)肺腑を以て京師の相と爲る。(六)痛く節を折り、禮を以て之を詘するに非ざれば、天下肅まずと。是に時に當りて、丞相入りて事を奏す。(七)坐語して日を移す。言ふ所皆聽かる。人を薦むること、(八)或ひは家より起りて二千石に至る。(九)權、主上を移す。上乃ち曰く、君、吏を除することと已に盡くるや未だしや、吾も亦吏を除せんと欲すと。嘗て

大夫。王臧爲ニ郎中令。迎ニ魯申公。欲下設ニ明堂。令ニ列侯就レ國除レ關。以レ禮爲ニ服制。以興中太平上。擧下適諸竇宗室毋ニ節行ニ者上。除ニ其屬籍。時諸外家爲ニ列侯。列侯多尙ニ公主。皆不レ欲レ就レ國。以レ故毀日至ニ竇太后。太后好ニ黃老之言。而魏其武安趙綰王臧等。務隆推ニ儒術。貶ニ道家言。是以

服制を爲り、以て太平を興さんと欲す。諸竇宗室の節行毋き者を擧適し、其の屬籍を除く。時に諸外家列侯と爲り、列侯多く公主に尙す。皆國に就くことを欲せず。故を以て毀日に竇太公に至る。太后黃老の言を好む。而るに魏其、武安、趙綰、王臧等、務めて隆に儒術を推し、道家の言を貶す。是を以て竇太后滋く魏其等を說ばず。建元二年に及び、御史大夫趙綰、事を東宮に奏する無きを請ふ。竇太后大に怒り、乃ち趙綰、王臧等を罷逐し、而して丞相太尉を免す。柏至侯許昌を以て丞相と爲し、武彊侯莊靑翟を御史大夫と爲す。魏其、武安此に由りて侯を以て家居す。武安侯職に任ぜずと雖も、王太后の故を以て親幸せられ、數〻事を言ふ。效多し。天下の吏士勢利に趨く者、皆魏其を去り武安に歸す。武安日〻に益〻橫なり。

(一) 儒者の學術を好み　(二) 自分の身分を引下げ、人を尊びて推薦すること　(三) 都に居りし諸侯を歸國せしめ、又關所を取拂はしめ　(四) 諸の天子の一門及び諸の竇の皇族にして、正しき行ひをせざる者を、一々取調べて　(五)

陽侯。武安侯新欲用事爲相。卑下賓客。進名士家居者貴之。欲以傾魏其諸將相。建元元年丞相綰病免。上議置丞相太尉。籍福說武安侯曰。魏其貴久矣。天下士素歸之。今將軍初興。未如魏其。即上以將軍爲丞相。必讓魏其。魏其爲丞相。將軍必爲太尉。太尉丞相尊等耳。又有讓賢名。武安侯乃微言太后風上。於是乃以魏其侯爲丞相。武安侯爲太尉。籍福賀魏其侯。因弔曰。君侯資性喜善疾惡。方今善人譽君侯。故至丞相。然君侯且疾惡。惡人衆。亦且毀君侯。君侯能兼容則幸久。不能今以毀去矣。魏其不聽。

丞相に至る。然れども君侯且つ惡を疾む。(九)惡人衆し、亦且に君侯を毀らんとす。君侯能く兼容せば、(一〇)則ち幸ひ久しからん。能くせずんば今毀を以て去らんと。魏其聽かず。

(一) 漢書諸郎に作る、一に諸卿 (二) 晩年に及び (三) 書名、黃帝の史官、孔甲の作、凡そ二十九篇、法戒とすべき文を盤盂中に書せしによりて名づく (四) 計劃指揮による (五) 新たに希望を懷き (六) 天下の名士衆より心中に悅服す (七) 賢者に讓りたりとの名聲を得 (八) 遠廻しにそれとなく魏其を推薦す (九) 惡人をにくむ (一〇) 善人惡人共に兼ね容れば

魏其武安俱好儒術。推轂趙綰。爲御史

魏其、武安俱に儒術を好み、(一)趙綰を推轂し(二)御史大夫と爲し、王臧を郎中令と爲す。魯の申公を迎へ、明堂を設け、(三)列侯をして國に就き關を除かしめ、禮を以て

陵。魏其已爲二大將軍一後方盛。蚡爲二諸郎一未レ貴。往來侍二酒魏其一。跪起如二子姪一。及二孝景晩節一。蚡益貴幸。爲二太中大夫一。蚡辯有レ口。學二槃盂諸書一。王太后賢レ之。孝景崩。卽日太子立。稱レ制。所二鎭撫一。多有二田蚡賓客計筴一。蚡弟田勝。皆以二太后弟一。孝景後三年。封レ蚡爲二武安侯一。勝爲二周

るに子姪の如し。孝景の晩節(一)に及び、蚡益〻貴幸せられ、太中大夫と爲る。蚡、辯にして口有り。槃盂(二)諸書を學ぶ。王、太后之を賢とす。孝景崩ず。卽日太子立つ。制を稱す。鎭撫(三)する所、多く田蚡の賓客の計筴(四)有り。蚡の弟田勝、皆太后の弟を以て、孝景の後三年、蚡を封じて武安侯と爲し、勝を周陽侯と爲す。武安侯新に事を用ひ相と爲らんと欲す。賓客に卑下し、名士の家居する者を進め之を貴(五)くし、以て魏其諸將相を傾けんとす。建元元年、丞相綰病免す。上丞相太尉を置くを議す。籍福武安侯に說きて曰く、魏其貴きこと久し。天下(六)の士素より之に歸す。今將軍初めて興り、未だ魏其に如かず。卽し上、將軍を以て丞相と爲さば、必ず魏其に讓れ。魏其、丞相爲らば、將軍必ず太尉爲らん。太尉丞相は、尊さ等しきのみ、又賢(七)に讓るの名有りと。武安侯乃ち微に太后に言ひ上に風(八)す。是に於て乃ち魏其侯を以て丞相と爲し、武安侯を太尉と爲す。籍福、魏其侯を賀す。因りて弔して曰く、君侯資性善を好み、惡を疾む。方今善人、君侯を譽む。故に

者太后也。今將軍傅二太子一。太子廢而不レ能レ爭。爭不レ能レ得。又弗レ能レ死。自引謝レ病擁二趙女一。屛二間處一而不レ朝。相提而論。是自明揚二主上之過一。有レ如三兩宮螫二將軍一。則妻子毋レ類矣。魏其侯然レ之。乃遂起朝請如レ故。桃侯免レ相。竇太后數言二魏其侯一。孝景帝曰。太后豈以爲二臣有レ愛上レ相二魏其一。魏其者。沾沾自喜耳。多レ易。難二以爲レ相持レ重。遂不レ用。用二建陵侯衞綰一爲二丞相一。

く、太后豈に以て臣、愛する有りて魏其を相とせずと爲すか。(九)魏其は沾沾として(一〇)自ら喜ぶのみ。易多し。(一一)以て相と爲り重を持し難しと。遂に用ひず、建陵侯衞綰を用ひ丞相と爲す。

(一)度々廢太子の件につき帝を諫め爭ひしかど遂に意見用ひられず (二)田地を耕して引籠りしこと數月なり (三)仕官を勸むれども聽入れず (四)趙國の美人を侍らし、閑靜なる處に隱退して朝廷へ出仕せず (五)朝廷とはりあひて議論をなす (六)過失を世間に暴露するわけなり (七)主上及び太后の兩宮が若し立腹することあらば (八)將軍は勿論家族皆殺され生殘る者なきに至らん (九)孝景帝、太后に對して讒譏していふ (一〇)自から得意がりて居るのみ (一一)輕卒に物に動し易き性質を有す

武安侯田蚡者。孝景后同母弟也。生二長

武安侯田蚡は、孝景后の同母弟なり、長陵に生る。魏其已に大將軍と爲る。後方に盛なり。(一)蚡は諸郎と爲り、未だ貴からず。往來し酒に魏其に侍す。跪起す

任。太后亦慙。於レ是上曰。天下方有レ急。王孫寧可二以讓一邪。乃拜レ嬰爲二大將軍一。賜二金千斤一。嬰乃言二袁盎。欒布。諸名將賢士在レ家者一進レ之。所レ賜金陳二之廊廡下一。軍吏過輒令二財取爲一レ用。金無レ入レ家者。竇嬰守二滎陽一。監二齊趙兵一。七國兵已盡破。封レ嬰爲二魏其侯一。諸游士賓客。爭歸二魏其侯一。孝景時。每三朝二議大事一。條侯魏其侯。諸列侯莫二敢與亢禮一。

孝景四年。立二栗太子一。使二魏其侯爲二太子傅一。孝景七年。栗太子廢。魏其數爭。不レ能レ得。魏其謝レ病屛居。田二南山之下一數月。諸賓客辯士說レ之莫二能來一。梁人高遂乃說二魏其一曰。能富二貴將軍一者上也。能親二將軍一

孝景の四年、栗太子を立つ。魏其侯をして太子の傅と爲らしむ。孝景七年、栗太子廢せらる。魏其數〻爭ふ。得ること能はず。魏其病と謝し、屛居し、南山の下に田すること數月なり。諸の賓客辯士之に說けども、能く來たす莫し。梁人高遂乃ち魏其に說きて曰く、能く將軍を富貴にするものは上なり。能く將軍を親むものは太后なり。今將軍、太子の傅たり。太子廢せられて爭ふこと能はず。爭ひて得ること能はず、又死すること能はず。自ら引き病と謝し、趙女を擁し、間處に屛きて朝せず、相提して論ず。是れ自ら明かに主上の過を揚ぐるなり。兩宮の將軍を螫るが如き有らば、則ち妻子類毋からんと。魏其侯之を然りとす。乃ち遂に起ち朝請すること故の如し。桃侯、相を免ず。竇太后數〻魏其侯を言ふ。孝景帝曰

千秋之後傳梁王。太后驩。竇嬰引巵酒進上曰。天下者高祖天下。父子相傳。此漢之約也。上何以得擅傳梁王。太后由此憎竇嬰。竇嬰亦薄其官因病免。太后除竇嬰門籍。不得入朝請。孝景三年。吳楚反。上察宗室諸竇毋如竇嬰賢。乃召嬰。嬰入見。固辭謝病不足

ち嬰を召す。嬰入りて見え、固く病みて任ずるに足らずと辭謝す。太后も亦慙づ。是に於て上曰く、天下方に急有り。(一〇)王孫寧ろ以て讓る可けんやと。乃ち嬰を拜して大將軍と爲し、金千斤を賜ふ。嬰乃ち袁盎、欒布の諸名將賢士の家に在る者を言ひ、之を進む。賜ふ所の金は、之を廊廡の下に陳す。軍吏過くれば輒ち財取して用と爲さしむ。(一一)金、家に入るゝ者無し。竇嬰、滎陽を守り、齊趙の兵を監す。七國の兵已に盡く破る。嬰を封じて魏其侯と爲す。諸の游士賓客爭ひて魏其侯に歸す。孝景の時、大事を朝議する每に、(一二)條侯魏其侯には諸の列侯敢へて與に亢禮するもの莫し。(一三)

(一) 賓客を喜びて好く待遇せり (二) 皇后太子の家事を掌る官 (三) 孝景帝の同腹の弟 (四) 兄弟の因みによりて (五) 家庭的の酒宴をなす (六) 吾が死後は (七) 酒を盛りたるさかづき (八) 漢の帝室の定まりたる以來の約束なり (九) 竇家の一門より除籍して、春秋の天機伺をすることを得ざらしむ (一〇) 天下は今危急の場合に陥れり、竇嬰其方より外に此の衝にあたるものなし、謙讓することなかれ (一一) 必要の量を定めて自由に取りて費用にあてしむ (一二) 國家の大事件を朝廷に於て論議するごとに (一三) 對等の禮式を取るもの無し

魏其侯竇嬰者、孝文后從兄子也。父世觀津人。喜二賓客一。孝文時嬰爲二吳相一病免。孝景初卽レ位爲二詹事一。梁孝王者。孝景弟也。其母竇太后愛レ之。梁孝王朝。因二昆弟一燕飮。是時上未レ立二太子一。酒酣從容言曰。

卷百七

魏其武安侯列傳第四十七

魏其侯竇嬰は、孝文后從兄の子なり。父は世〻觀津の人なり、賓客(一)を喜む。孝文の時、嬰、吳の相と爲り、病みて免す。孝景初めて位に卽き、詹事(二)と爲る。梁の孝王(三)は孝景の弟なり。其母竇太后之を愛す。梁の孝王朝す。昆弟(四)に因りて燕飮(五)す。是の時上未だ太子を立てず。酒酣なるとき、從容として言ひて曰く、千秋(六)の後、梁王に傳へんと。太后驩ぶ。竇嬰巵酒(七)を引き上に進めて曰く、天下は高祖の天下なり、父子相傳ふるは、此れ漢の約(八)なり。上何を以てか擅に梁王に傳ふることを得んと。太后此に由りて竇嬰を憎む。竇嬰も亦其官を薄しとし、因りて病みて免す。太后、竇嬰の門籍(九)を除き、入りて朝請することを得ざらしむ。孝景の三年、吳楚反す。上、宗室諸竇を察するに、竇嬰の賢に如くもの毋し。乃

太史公曰。吳王之王。由二父省一也。能薄二賦斂一使二其衆一以擅二山海利一。逆亂之萌。自二其子一興。爭レ技發レ難。卒亡二其本一。親レ越謀レ宗。竟以夷隕。鼂錯爲レ國遠慮。禍反近レ身。袁盎權說。初寵後辱。故古者諸侯地不レ過二百里一。山海不二以封一。毋下親二夷狄一以疏中其屬上。蓋謂レ吳邪。毋レ爲二權首一。反受二其咎一。豈鼂錯邪。

太史公曰く、吳王の王たるは、父の省せられしに由るなり。(一)能く賦斂を薄くし、其衆を使ひ、以て(二)山海の利を擅にす。(三)逆亂の萌し、其子より興る。(四)技を爭ひ難を發して、卒に其本を亡す。越を親み宗を謀りて、竟に以て夷隕す。鼂錯國の爲に遠く慮りて、禍反りて身に近し。袁盎(五)權說し、初に寵せられ後に辱しめらる。故に古は諸侯の地は百里に過ぎず。(六)山海は以て封ぜず。夷狄を親み、以て其屬を疏ずること毋かれと、蓋し吳を謂ふか。(七)權首と爲る毋かれ、反りて其咎を受くと、豈に鼂錯か。

(一)特に寵愛せられたるによる　(二)山と海との利益を獨占す　(三)反逆を起さんとする意志は子の濞に至つて芽む　(四)博奕の遊戯より爭論を惹起し、遂に其國を滅亡せしむるに至る　(五)權謀を以て天子に說き　(六)山海の利益ある國には封ぜず　(七)權謀の首領となることなかれ却つて禍其身に及ぶものなり

有ニ詔虎符一。擅發レ兵擊ニ義國一。以レ此觀レ之。意非レ欲レ誅レ錯也。乃出ニ詔書一爲レ王讀レ之。讀レ之訖曰。王其自圖。王曰。如ニ卬等一死有ニ餘罪一。遂自殺。太后太子皆死。膠東菑川。濟南王皆死。國除納ニ于漢一。酈將軍圍レ趙。十月而下レ之。趙王自殺。濟北王以ニ劫故一得レ不レ誅。徙王ニ菑川一。初吳王首反。并ニ將楚兵一。連ニ齊趙一。正月起レ兵。三月皆破。獨趙後下。復置ニ元王少子平陸侯禮一爲ニ楚王一。續ニ元王後一。徙ニ汝南王非一。王ニ吳故地一。爲ニ江都王一。

を誅せんと欲するに非ざるなりと。乃ち詔書を出し、王の爲に之を讀む。之を讀むこと訖りて曰く。王其れ自ら圖れ(四)。王曰く、卬等の如きは、死して餘罪有りと。遂に自殺す。太后太子皆死す。膠東菑川濟南王皆死す。國除かれて漢に納る。酈將軍趙を圍むこと十月にして之を下す。趙王自殺す。濟北王(五)劫されたる故を以て、誅せられざるを得たり。徙されて菑川に王たり。初め吳王首として反し、楚の兵に并せ將となり、齊趙に連なる。正月兵を起して、三月皆破れぬ。獨り趙後に下る。復た元王の少子平陸侯禮を置きて楚王と爲し、元王の後を續がしむ。汝南王非を徙して吳の故地に王とし、江都王と爲す。

(一) 何故に直接に上奏せざる (二) 詔勅割符 (三) 齊國を斥す (四) 自から覺悟せよ (五) 脅迫せられて無理に盟に加はりたるの故を以て

皆已壞。不可發用。弗聽。漢將弓高侯頽當遺王書曰。奉詔誅不義。降者赦其罪復故。不降者滅之。王何處。須以從事。王肉袒叩頭漢軍壁謁曰。臣卬奉法不謹。驚駭百姓。乃苦將軍遠道至于窮國。敢請菹醢之罪。弓高侯執金鼓見之曰。王苦軍事。願聞王發兵狀。王頓首膝行對曰。今者鼂錯天子用事臣。變更高皇帝法令。侵奪諸侯地。卬等以爲不義。恐其敗亂天下。七國發兵且以誅錯。今聞錯已誅。卬等謹以罷兵歸。

地を侵奪す。卬等以爲らく不義なり。恐らくは其れ天下を敗亂せんと。七國兵を發して、且に以て錯を誅せんとす。今聞くに錯已に誅せらると。卬等謹みて以て兵を罷めて歸らん。(一〇)

(一) 膠西、膠東、菑川の王 (二) 膠西王の太子 (三) 漢の軍未だ來ること近からず、臣之を觀るに、已に甚だ疲弊せり (四) 王に於ては何づれに處決せらる、か (五) 王の決心如何を聞きて後に、何れなりとも處置せん (六) 肌を脫ぎて罪人の狀となり叩頭して、罪を謝して (七) 菹は葅に同じ、又菹に通ず、酢にあへたる菜、醢は肉醬なり、重罪の人の肉を細かに切りなますに醬へたる語、上古罪人を處分する最も慘酷を極めたる法の一 (八) 相國の攻鼓を手に持ちながら (九) 王の兵を起されたる樣子を語られよ (一〇) 軍勢を引上げて國に歸らん

將軍曰。王苟以錯不善。何不以聞。及未

將軍曰く、王苟に錯を不善なりと以はば、何ぞ以て聞せざる。(一)未だ詔虎符行らざるに及びて、擅に兵を發して義國を擊てり。(二)此れを以て之を觀れば、意ふに錯

軍亡也。軍遂潰。往往稍降太尉梁軍。楚王戊軍敗自殺。三王之圍齊臨菑也。三月不能下。漢兵至。膠西膠東菑川王、各引兵歸。膠西王乃祖跣席藁。飲水謝太后。王太子德曰。漢兵遠。臣觀之已罷可襲。願收大王餘兵擊之。擊之不勝。乃逃入海未晚也。王曰。吾士卒

戊、軍敗れて自殺す。(二)三王の齊の臨菑を圍むや、三月下す能はず。漢の兵至るとき、膠西、膠東、菑川王各〻兵を引きて歸る。膠西王乃ち祖跣して藁を席き、水を飲みて太后に謝す。(三)王の太子德曰く、漢の兵遠し。臣之を觀るに、已に罷れたり、襲ふ可し。願はくは大王の餘兵を收めて之を擊たん。之を擊ちて勝たずんば、乃ち逃れて海に入らんこと、未だ晚からざるなりと。王曰く、吾が士卒皆已に壞る、發用す可からずと。聽かず。漢の將弓高侯穨當、王に書を遺りて曰く、詔を奉じて不義を誅す。降る者は其罪を赦して故に復し、降らざる者は、之を滅さん。(四)王何れにか處る。(五)須ちて以て事に從はんと。王、漢軍の壁に(六)肉袒叩頭して謁して曰く、臣卬、法を奉ずること不謹にして、百姓を驚駭す。乃ち將軍を遠道に苦しめ、窮國に至らしめたり。敢へて(七)葅醢の罪を請ふ。弓高侯金鼓を執り之を見て曰く、王軍事に苦めり。願くは(九)王の兵を發する狀を聞かん。(八)王頓首膝行して對へて曰く、今者鼂錯は天子の事を用ふる臣なり。高皇帝の法令を變更し、諸侯の

梁使㆔韓安國及楚死㆑事相弟張羽爲㆓將軍㆒。乃得㆔頗敗㆓呉兵㆒。呉兵欲㆑西。梁城守堅。不㆓敢西㆒。卽走㆓條侯軍㆒。會㆓下邑㆒欲㆑戰。條侯壁不㆓肯戰㆒。呉糧絶卒饑。數挑戰。遂夜犇㆓條侯壁㆒。驚㆓東南㆒。條侯使㆑備㆓西北㆒。果從㆓西北㆒入。呉大敗。士卒多饑死。乃畔散。於㆑是呉王乃與㆓其麾下壯士數千人㆒夜亡去。度㆑江走㆓丹徒㆒。保㆓東越㆒。東越兵可㆓萬餘人㆒。乃使㆔人收㆓聚亡卒㆒。漢使㆔人以㆑利啗㆓東越㆒。東越卽紿㆓呉王㆒。呉王出勞㆑軍。卽使㆔人鏦㆓殺呉王㆒。盛㆓其頭㆒馳㆑傳以聞。呉王子子華。子駒亡走㆓閩越㆒。

饑ゑて死す。乃ち畔き(三)散ず。是に於て、呉王乃ち其麾下(四)の壯士數千人と夜亡げ去る。江を度りて丹徒に走り、東越を保す。東越の兵萬餘人可あり。乃ち人をして亡卒(五)を收聚せしむ。漢人をして利(六)を以て東越に啗はしむ。東越卽ち呉王を紿く。呉王出でて軍を勞す。卽ち人をして呉王を鏦殺(七)せしめ、其頭を盛りて、傳を馳せて以聞す。呉王の子、子華、子駒、亡げて閩越に走る。

(一) 部合上さしつかへの由を以て行かず (二) 塁をつくりて守りて肯へて戰はず (三) 裏切りて散亂す (四) 旗本の勇士 (五) 亡げたる兵卒ををさめ聚めしむ (六) 利益を多く與へて東越をして身方せしむ (七) 刺し殺さしめ、其頭を箱に入れて、早打を以て、天子に其由を奏出す

呉王之棄㆓其

呉王の其軍を棄てて亡ぐるや、軍遂に潰ゆ。往往稍く太尉梁の軍に降る。楚王

王卬。濟南王辟光。菑川王賢。膠東王雄渠、約從反。爲逆無道。起兵以危宗廟。賊殺大臣及漢使者。迫劫萬民。夭殺無罪。燒殘民家。掘其丘冢。甚爲暴虐。今卬等又重逆無道。燒宗廟。鹵御物。朕甚痛之。朕素服避正殿。將軍其勸士大夫擊反虜。擊反虜者。深入多殺爲功。斬首捕虜。比三百石以上者皆殺之。無有所置。敢有議詔及不如詔者。皆要斬。

初吳王之度淮。與楚王遂西敗棘壁。乘勝前。銳甚。梁孝王恐。遣六將軍擊吳。又敗梁兩將。士卒皆還走梁。梁數使使報條侯求救。條侯不許。又使使惡條侯於上。上使人告條侯救梁。復守便宜不行。

初め吳王の淮を度るや、楚王と遂に西のかた棘壁を敗り、勝に乘じて前む、銳きこと甚だし。梁の孝王恐れて、六將軍をして吳を擊たしむ。又梁の兩將を敗る。士卒皆梁に還り走る。梁數〻使をして條侯に報じて救ひを求めしむ。條侯許さず。又使をして條侯を上に惡せしむ。上人をして條侯に告げ梁を救はしむ。復た（一）便宜を守りて行かず。梁韓安國及び楚の事に死したる相の弟張羽をして將軍たらしむ。乃ち頗る吳の兵を敗るを得たり。吳の兵西せんと欲す。梁城守堅し。敢て西せず。卽ち條侯の軍に走き、下邑に會して戰はんと欲す。條侯（二）壁して、肯へて戰はず。吳の糧絶えて卒饑う。數〻挑み戰ふ。遂に夜、條侯の壁に犇りて、東南を驚かす。條侯西北に備へしむ。果して西北より入る。吳大敗す。士卒多く

悼惠王絕無レ後。孝文皇帝哀憐加レ惠。王二幽王子遂。悼惠王子卬等一。令レ奉二其先王宗廟一。爲二漢藩國一。德配二天地一。明並二日月一。吳王濞倍レ德反レ義。誘二受天下亡命皐人一。亂二天下幣一。稱レ病不レ朝。二十餘年。有司數請二濞罪一。孝文皇帝寬レ之。欲二其改レ行爲一レ善。今乃與二楚王戊。趙王遂。膠西

病と稱して朝せざること二十餘年なり。有司數〻濞の罪を請ふ。孝文皇帝之を寬し、其の行を改め善を爲さしめんことを欲す。(四)今乃ち楚王戊、趙王遂、膠西王卬、濟南王辟光、菑川王賢、膠東王雄渠と從を約して反す。逆無道爲り。兵を起して以て宗廟を危くし、大臣及び漢の使者を賊殺し、萬民を迫劫し、無罪を夭殺し(五)、民家を燒殘し、其丘冢を掘き、甚だ暴虐を爲す。今卬等又逆無道を重ねて、宗廟を燒き、御物を鹵む(六)。朕甚だ之を痛めり。朕素服して(七)正殿を避く。將軍其れ士大夫を勸めて反虜を擊て。反虜を擊つ者は、深く入りて多殺するを功と爲し、斬首捕虜、三百石以上に比ぶ者は皆之を殺して置く所有ること無かれ。敢て詔を議し及び詔の如くせざる者有らば、皆要斬(八)せんと。

(一) 善事を行ふ者には、天然自然に幸福を得、不善を爲すものは、自然に災禍を得 (二) 洪大なる德は天地の廣大なるに比すべく、光明は日月と同じ (三) 天下の錢を濫造し (四) 其行ひを改め善行をなさしめんとす (五) 若年なるに殺し (六) 天子の御使用の器物を掠め取る (七) 素服を着し正殿を去る (八) 腰斬の刑に處せよ

入下邳。下邳時聞呉反。皆城守。至傳舍。召令。令入戸。使從者以罪斬令。遂召昆弟所善豪吏。告曰。呉反兵且至。至屠下邳。不過食頃。今先下家室必完。能者封侯矣。出乃相告。下邳皆下。同丘一夜得三萬人。使人報呉王。遂將其兵。北略城邑。比至城陽。兵十餘萬。破城陽中尉軍。聞呉王敗走。自度無與共成功。即引兵歸下邳。未至。疽發背死。

(一) 老功の大將に相談をかく (二) 此れ少年の客氣に早りて妄りに突進するの計ならんのみ、何んぞ遠大の思慮を以てする計にあらんや (三) 出奔し、酒を賣りて行狀治まらず (四) 見下げて (五) 何等の才能を有せず、爲に王の軍列に加はること能はず (六) 漢の使節の有すべき一箇の符を賜はれ、必ずそれを以て其恩に報いる所有らん (七) 傳舍の宿所に至りて (八) 兄弟の互ひに懇意にする勢力ある吏を召して (九) 朝飯前の仕事のみ (一〇) 自分から推量するに、最早己れを知れる人なければ、共に功を成すことなからん

二月中。呉王兵既破敗走。於是天子制詔將軍曰。蓋聞爲善者。天報之以福。爲非者。天報之以殃。高皇帝親表功德。建立諸侯。幽王

二月中に、呉王の兵既に破れて敗走す。是に於て天子、將軍に制詔して曰く、蓋し聞く、(一)善を爲す者には、天之に報ずるに福を以てす。非を爲す者には、天之に報ずるに殃を以てすと。高皇帝親ら功德を表し、諸侯を建立す。幽王悼惠王絶えて後無し。孝文皇帝哀憐して惠を加へ、幽王の子遂、悼惠王の子卬等を王として、其先王の宗廟を奉ぜしめて、漢の藩國と爲す。(二)德、天地に配し、明、日月に竝べり。呉濞德に倍き義に反き、天下の亡命辠人を誘受し、(三)天下の幣を亂りて、

王不用桓將軍計。吳王專并將其兵。未度淮。諸賓客皆得爲將校尉候司馬。獨周丘不得用。周丘者、下邳人。亡命吳。酤酒無行。吳王濞薄之弗任。周丘上謁說王曰。臣以無能。不得待罪行間。臣非敢求有所將。願得王一漢節。必有以報王。王乃予之。周丘得節。夜馳

る〻を得ず。周丘は、下邳の人なり。吳に亡命[三]し、酒を酤りて行無し。吳王濞之を薄[四]んじて任ぜず。周丘、上謁して王に說きて曰く、臣、無能[五]を以て、罪を行間に待つを得ず、臣敢て將たる所有るを求むるに非ず、願はくは王の一[六]の漢節を得て、必ず以て王に報ずる有らんと。王乃ち之を予ふ。周丘節を得て、夜馳せて下邳に入る。下邳時に吳の反を聞きて皆城守す。傳舍[七]に至りて令を召す。令、戶に入るとき、從者をして罪を以て令を斬らしむ。遂に昆弟[八]の善くする所の豪吏を召して、告げて曰く、吳の反兵且に至らんとす。至らば下邳を屠らんこと、食頃[九]に過ぎず。今先づ下らば、家室必ず完く、能ある者は侯に封ぜられんと。出でて乃ち相告ぐ。下邳皆下る。周丘一夜に三萬人を得たり。人をして吳王に報ぜしめ、遂に其兵を將ゐて北のかた城邑を略す。城陽に至る比、兵十餘萬あり。城陽の中尉の軍を破る。吳王敗走すと聞くや、自ら度らく與に共に功を成す無しと。卽ち兵を引きて下邳に歸る。未だ至らず、疽背[一〇]に發して死す。

諫曰。王以反爲名。此兵難以藉人。藉人亦且反王。奈何。且擅兵而別。多佗利害。未可知也。徒自損耳。呉王即不許田祿伯。呉少將桓將軍說王曰。呉多步兵。步兵利險。漢多車騎。車騎利平地。願大王所過城邑不下。直棄去。疾西據雒陽武庫。食敖倉粟。阻山河之險。以令諸侯。雖毋入關。天下固已定矣。即大王徐行。留下城邑。漢軍車騎至。馳入梁楚之郊。事敗矣。

ば、直に棄てて去れ、疾く西して雒陽の武庫に據り、敖倉の粟を食ひ、山河の險を阻て、以て諸侯に令せよ。關に入る毋しと雖も、天下固に已に定る。即し大王徐行し、留りて城邑を下さば、漢軍の車騎至り、馳せて梁楚の郊に入らば、事敗れんと。

（一）外の何か特別の仕方を以てせざれば、成功覺束なし（二）一種の奇道なり（三）反逆を以て名義を爲す（四）此の反逆の名義のある兵勢は人の手に渡すことは宜しからず（五）他を利して身方害多からん（六）險阻の地に於て戰ふに利あり（七）車騎は平地の戰爭を利とす

呉王問諸老將。老將曰。此少年推鋒之計可耳。安知大慮乎。於是

呉王、諸老將に問ふ。老將曰く、此れ少年鋒を推すの計可なるのみ、安ぞ大慮を知らんやと。是に於て王、桓將軍の計を用ひず。呉王專ら幷せて其兵に將たり、未だ淮を度らず。諸の賓客皆將校尉候司馬爲るを得たり。獨り周丘用ひら

輕。不能久。方今爲將軍計。莫若引兵東北壁昌邑。以梁委吳。吳必盡銳攻之。將軍深溝高壘。使輕兵絕淮泗口。塞吳饟道。彼吳梁相敝而糧食竭。乃以全彊制其罷極。破吳必矣。條侯曰。善。從其策。遂堅壁昌邑南。輕兵絕吳饟道。

(一) 馬六頭を繋したる傳馬に乘りて、大急にて　(二) 已に劇孟は賊の手中に取られたりと　(三) 故舊の賓客　(四) 策略を施す如何にせば可ならんか　(五) 梁は吳軍の攻むるにまかすより外なし　(六) 兵糧運搬の道路　(七) 全軍を以て、其疲れ衰へきつたる軍を攻めたらんには

吳王之初發也。吳臣田祿伯爲大將軍。田祿伯曰。兵屯聚而西。無他奇道。難以就功。臣願得五萬人。別循江淮而上。收淮南長沙。入武關。與大王會。此亦一奇也。吳王太子

吳王の初め發する、吳の臣田祿伯を大將軍と爲す。田祿伯曰く、兵屯聚して西す。(一)佗の奇道無くば、以て功を就すこと難けん。臣願はくは五萬人を得て、別に江淮に循ひて上り、淮南、長沙を收め、武關に入りて、大王と會せん。此れも亦一(二)奇なりと。吳王の太子諫めて曰く、王、(三)反を以て名と爲す。(四)此の兵は以て人に藉し難し。人に藉さば亦且に王に反せんとす、奈何せん。且た兵を擅にして別たば、(五)佗の利害多からん。未だ知る可からざるなり。徒に自ら損するのみと。吳王即ち田祿伯に許さず。吳の少將桓將軍王に說きて曰く、吳步兵多し。步兵は(六)險を利とす。漢車騎多し。(七)車騎は平地を利とす。願はくは大王過ぐる所の城邑下らず

知其欲說已矣。笑而應曰。我已爲東帝。尚何誰拜。不肯見盎。而留之軍中。欲劫使將。盎不肯。使人圍守。且殺之。盎得夜出步亡去。走梁軍遂歸報。

條侯將乘六乘傳。會兵滎陽。至雒陽見劇孟。喜曰。七國反。吾乘傳至此。不自意全。又以爲諸侯已得劇孟。劇孟今無動。吾據滎陽。滎陽以東無足憂者。至淮陽。問父絳侯故客鄧都尉曰。策安出。客曰。吳兵銳甚。難與爭鋒。楚兵

條侯將として六乘の傳に乘り、兵を滎陽に會す。雒陽に至りて、劇孟を見、喜びて曰く、七國反す。吾傳に乘りて此に至る。自ら全きを意はず。又以爲らく諸侯已に劇孟を得たらんと。劇孟今動く無し。吾れ滎陽に據る。滎陽以東は、憂ふるに足る者無しと。淮陽に至り、父絳侯の故の客鄧都尉に問ひて曰く、策安に出でん。客曰く、吳の兵銳きこと甚だし。與に鋒を爭ひ難し。楚の兵は輕し、久しきこと能はず。方今將軍の爲に計るに、兵を引いて東北昌邑に壁し、梁を以て吳に委するに若くは莫し、吳必ず銳を盡して之を攻めん。將軍溝を深くし壘を高くし、輕兵をして淮泗の口を絕ち、吳の饟道を塞がしめば、彼の吳梁相敝れて糧食竭きん。乃ち全彊を以て其罷極を制せば、吳を破らんこと必せりと。條侯曰く、善しと。其策に從ふ。遂に壁を昌邑の南に堅くす。輕兵吳の饟道を絕つ。

計無レ出レ此。願上孰ニ計之一。乃拜レ盎爲ニ太常一。吳王弟子德侯爲ニ宗正一。盎裝ニ治行一。後十餘日。上使ニ中尉召レ錯給載行ニ東市一。錯衣ニ朝衣一斬ニ東市一。則遣ニ袁盎一奉ニ宗廟一。宗正輔ニ親戚一。使告レ吳如ニ盎策一。至レ吳。吳楚兵已攻ニ梁壁一矣。宗正以ニ親故一先入見。諭ニ吳王一。使ニ拜ニ受詔一。吳王聞ニ袁盎來一。亦

盎治行を裝す。(五) 後十餘日、上、中尉をして錯を召さしめ、紿き載せて東市に行く。錯朝衣を衣ながら東市に斬らる。(六) 則ち袁盎を遣して宗廟を奉じ、宗正をして親戚を輔けしめ、使して吳に告ぐること盎の策の如くす。吳に至る。吳楚の兵已に梁の壁を攻む。宗正親の故を以て、(七) 先づ入りて見え、吳王に諭し、詔を拜受せしむ。吳王、袁盎來たると聞き、亦其の己に說かんと欲するを知る。笑ひて應へて曰く、我已に東帝爲り。尚ほ何ぞ誰をか拜せんと。盎を見るを肯ぜず。而して之を軍中に留め、劫かして(八) 將たらしめんと欲す。盎肯ぜず。人をして圍み守らしむ。且に之を殺さんとす。盎夜出づるを得、步して亡げ去り、梁の軍に走き、遂に歸り報ず。(九)

(一) 當惑して暫く無言なりしが　(二) 一人の寵錯をしみて吳楚の爲に誅せざらんや　(三) 私の計は此より以外にはなし　(四) 皇族の事を掌る役、又宗政ともいふ　(五) 旅仕度をなす　(六) 東市に於て腰斬の刑に處せらる　(七) 親族の關係あるを以て　(八) 劫かして兵に將たらしめんとす　(九) 復命す

曰。袁盎策レ之善。上問曰。計安出。盎對曰。願屛二左右一。上屛レ人。獨錯在。盎曰。臣所レ言人臣不レ得レ知也。乃屛レ錯。錯趨二避東廂一。恨甚。上卒問レ盎。盎對曰。吳楚相遺書曰。高帝王二子弟一。各有二分地一。今賊臣鼂錯。擅適二過諸侯一。削二奪之地一。故以レ反爲レ名。西共誅二鼂錯一。復二故地一而罷。方今計獨斬二鼂錯一。發レ使赦二吳楚七國一。復二其故削地一。則兵可レ無二血刃一而俱罷。

曰く、高帝子弟を王として、各〻分地有り。今賊臣鼂錯、擅に諸侯を適過し、(七)之れが地を削奪す。故に反を以て名と爲して、西して共に鼂錯を誅し、故地を復して罷めんと。方今の計は獨り鼂錯を斬り、使を發して吳楚七國を赦して、其故の削れる地を復せば、則ち兵刃に血ぬること無くして倶に罷む可しと。(八)

(一) 何ぞ豪傑を招き寄せて肱股とはせん　(二) 浮浪の若者、かけおち者と私に錢を鑄る惡人どもと也　(三) 相互ひに連れ立ちて反亂を爲すなり　(四) 計略は如何樣にすべきか　(五) 近侍の諸臣を遠ざけ人拂をせんことを願ふ　(六) 言上せんと欲する所のものは、人臣たる者は何人にもせよ聞かしむることの出來ぬ大切なるものなり　(七) 罪狀を摘發し　(八) 戰ふことをせずして

於レ是上嘿然良久曰。顧誠何如。吾不下愛二一人一以謝中天下上。盎曰。臣愚

是に於て、上、嘿然として良久しうして曰く、顧ふに誠に何如。吾れ一人を愛し(一)て以て天下に謝せざらんや。盎曰く、(三)臣の愚計此に出づること無し。願はくは上之を孰計せよと。乃ち盎を拜して太常と爲す。吳王の弟の子德侯を宗正と爲す。(四)

居。詔召入見。上方與鼂錯調兵笇軍食。上問袁盎曰。君嘗爲吳相。知吳臣田祿伯爲人乎。今吳楚反。於公何如。對曰。不足憂也。今破矣。上曰。吳王卽山鑄錢、煮海水爲鹽。誘天下豪桀。白頭擧事。若此。其計不百全豈發乎。何以言其無能爲也。

（一）反逆を企てたる由を記したる發聞狀　（二）袁盎を天子に上言す　（三）軍兵の配置方を調べ、兵糧を計算しつゝありたり　（四）白髪になる年齢に達して反逆を企つ　（五）其計に於て餘程確乎たる成算なければ、事を擧ぐる筈なし

袁盎對曰。吳有銅鹽利則有之。安得豪桀而誘之。誠令吳得豪桀。亦且輔王爲義不反矣。吳所誘皆無賴子弟、亡命鑄錢姦人。故相率以反。鼂錯

袁盎對へて曰く、吳に銅鹽有り。利は則ち之れ有り。（一）安に豪桀を得て之を誘はん。誠に吳をして豪桀を得しめば、亦且に王を輔け義を爲し反せざらしめん。吳の誘ふ所は、（二）皆無賴の子弟、亡命鑄錢の姦人なり。（三）故に相率ゐて以て反するなり。鼂錯曰く、袁盎は之を策ること善しと。上問ひて曰く、（四）計安に出でん。盎對へて曰く、願はくは（五）左右を屏けよ。上、人を屏く。獨り錯のみ在り。盎曰く、臣の言ふ所は、人臣知ることを得ざるなり。乃ち錯を屏く。錯趨りて東廂に避く。恨むること甚だし。上卒に盎に問ふ。盎對へて曰く、吳楚の相遺れる書に

戸。皆爲二列侯一。其以二軍若城邑一降者。卒萬人。邑萬戸如レ得二大將一。人戸五千。如レ得二列將一。人戸三千。如レ得二裨將一。人戸千。如レ得二二千石一。其小吏皆以二差次一受二爵金一。佗封賜皆倍二常法一。其有二故爵邑一者。更益勿レ因。願諸王明以令二士大夫一。弗二敢欺一也。寡人金錢在二天下一者。往往而有。非三必取二於呉一。諸王日夜用レ之弗レ能レ盡。有二當レ賜者一告二寡人一。寡人且往遺レ之。敬以聞。

七國反書聞二天子一。天子乃遣下太尉條侯周亞夫。將二三十六將軍一。往擊中呉楚上。遣二曲周侯酈寄擊一レ趙。將軍欒布擊レ齊。大將軍竇嬰屯二滎陽一。監二齊趙兵一。呉楚反書聞。兵未レ發。竇嬰未レ行。言二故呉相袁盎一。盎時家

七國の反書天子に聞す。(一)天子乃ち太尉條侯周亞父をして、三十六將軍を將ゐて、往きて呉楚を擊たしむ。曲周侯酈寄をして趙を擊たしむ。將軍欒布は齊を擊つ。大將軍竇嬰は滎陽に屯して、齊趙の兵を監す。呉楚の反書聞す。兵未だ發せず。竇嬰未だ行かず。故の呉相袁盎(二)を言ふ。盎時に家居せり。詔して召し入り見ゆ。上方に鼂錯(三)と兵を調へ軍食を筭ふ。上、袁盎に問ひて曰く、君嘗て呉の相爲り、呉の臣の田祿伯の人となりを知れり乎や。今呉楚反す。公に於て何如。對へて曰く、憂ふるに足らず、今破れん。上曰く、呉王山に卽きて錢を鑄、海水を煮て鹽と爲す。天下の豪桀を誘ひ、白頭(四)にして事を擧ぐ。此くの如きは、其計百全(五)ならずんば、豈に發せんや。何を以て其の能く爲す無きを言ふや。

振レ弱伐レ暴。以安ニ劉氏一。社稷之所レ願也。敝國雖レ貧。寡人節ニ衣食之用一。積ニ金錢一修ニ兵事一。聚ニ穀食一。夜以繼レ日三十餘年矣。凡爲レ此。願諸王勉用レ之。能斬ニ捕大將一者。賜ニ金五千斤一。封ニ萬戶一。列將三千斤。封ニ五千戶一。裨將二千斤。封ニ二千戶一。二千石千斤。封ニ千戶一。千石五百斤。封ニ五百

皆列侯と爲ん。其の軍若しくは城邑を以て降る者、卒萬人、邑萬戶なるは、大將を得たる如くせん。人戶五千なるは、列將を得たるが如くにせん。人戶三千なるは、(一〇)裨將を得たるが如くにせん。人戶千なるは、二千石を得たるが如くにせん。其小吏は皆差次(一一)を以て爵金を受けしめん。佗の封賜も皆常法(一二)に倍せん、其の故の爵邑有る者には、更に益して因ること勿らん。願はくは諸王明か(一三)に以て士大夫に令せよ。敢て欺かじ。寡人の金錢の天下に在る者、往往(一四)にして有り。必ずしも吳に取るに非らず。諸王日夜之を用ふるも、盡くすこと能はず。當に賜ふべき者有らば、寡人に告げよ。寡人且に往きて之に遺らん。敬んで以聞すと。

(一) 密約あり (二) 事に周じ、心のまゝに衆を統率し (三) 天子を匡正補佐して、高祖の廟を安泰ならしめん (四) 復仇の念強くして、忘れざらん爲に沐洗をせず (五) 怨みは骨身に染みて忘却せず (六) 國家の願ひ望む所なり (七) 武具 (八) 日夜怠らず心掛くること三十餘年なり (九) 今日の擧あらんと準備したるものなり (一〇) 副將 (一一) 其等級に隨ひて、爵と金とを授けん (一二) 平時の倍額を給せん (一三) 明白に落ちなく士大夫の者に令を下せ (一四) 諸處の郡國に皆有り

餘年。其王君皆不レ辭下分二其卒一以隨中寡人上。又可レ得二三十餘萬。寡人雖二不肖。願以レ身從二諸王。越直二長沙一者。因二王子一定二長沙以北。西走二蜀漢中。告二越楚王淮南三王。與二寡人一西面。齊諸王與二趙王。定二河間河內。或入二臨晉關。或與二寡人一會二雒陽。

燕王趙王。固與二胡王一有レ約。燕王北定二代雲中。摶二胡衆一入二蕭關。走二長安。匡二正天子。以安二高廟。願王勉レ之。楚元王子。淮南三王。或不二沐洗一十餘年。怨入二骨髓。欲二一有一所レ出レ之久矣。寡人未レ得二諸王之意。未二敢聽。今諸王苟能存レ亡繼レ絕。

燕王、趙王、固(一)胡王と約有り。燕王は北のかた代雲中を定め、胡の衆を摶(二)にし、蕭關に入り、長安に走き(三)、天子を匡正して以て高廟を安ぜよ。願はくは王之を勉めよ。楚の元王の子、淮南の三王、或ひは沐洗(四)せざること十餘年、怨(五)骨髓に入れり。一たび之を出す所有らんと欲すること久し。寡人未だ諸王の意を得ず。未だ敢て聽かず。今諸王苟に能く亡を存し絕を繼ぎ、弱を振ひ暴を伐ち、以て劉氏を安ぜば、社稷(六)の願ふ所なり。敝國貧しと雖も、寡人衣食の用を節し、金錢を積み、兵革(七)を修め穀食を聚めて、夜以て(八)日に繼ぐこと三十餘年、凡そ(九)此れが爲なり。願はくは諸王勉めて之を用ひよ。能く大將を斬捕する者には、金五十斤を賜ひ、萬戶に封ぜん。列將には三千斤、五千戶に封ぜん。裨將には二千斤、二千戶に封ぜん。二千石には千斤、千戶に封ぜん。千石には五百斤、五百戶に封ぜん。

王。菑川王。濟南王。趙王。楚王。淮南王。衡山王。廬江王。故長沙王子。幸敎ニ寡人ー。以漢有ニ賊臣ー。無レ功ニ天下ー。侵ニ奪諸侯地ー。使ニ吏劾繫訊治ー。以レ僇ニ辱之ー爲レ故。不下以ニ諸侯人君禮ー遇中劉氏骨肉上。絕ニ先帝功臣ー。進ニ任姦宄ー。詿ニ亂天下ー。欲レ危ニ社稷ー。陛下多レ病志失。不レ能ニ省察ー。欲ニ擧レ兵誅ヒ之。謹聞レ敎。敝國雖レ狹。地方三千里。人雖レ少。精兵可レ具ニ五十萬ー。寡人素事ニ南越ー三十

氏の骨肉を遇せず、先帝の功臣を絕ちて、姦宄(三)を進任し、天下を詿亂(四)し、社稷(五)を危めんと欲す。陛下病多く志失して、省察すること能はず、兵を擧げて之を誅せんと欲す。謹みて敎を聞く。敝國狹しと雖も、地方三千里、人少しと雖も、精兵五十萬を具す可し。寡人素より南越に事ふること三十餘年、其王君皆其卒を分ちて以て寡人(六)に隨ふことを辭せず。又三十餘萬を得可し。寡人不肖なりと雖ども、願はくは身を以て諸王に從はん。越の長沙に直る者は、王の子に因りて長沙以北を定め、西のかた蜀漢中に走れ。越楚の王、淮南の三王に告ぐ、寡人と西に面せよ。齊の諸王は趙王と河間河內と定め、或ひは臨晉關に入れ、或ひは寡人と雒陽に會せよ。

(一) 吏をして使者を拘留し、罪を詰責せしめ (二) 專ら諸侯を凌ぎ辱しむることを以て主とし (三) 盜賊の如き惡人 (四) 僞り亂し (五) 國家を危殆ならしめんとす (六) 拙者の爲に戰を辭せず

錯一。及下削二吳會稽豫章郡一書至上。則吳王先起レ兵。膠西正月丙午。誅二漢吏二千石以下一。膠東菑川濟南楚趙亦然。遂發レ兵西。齊王後悔。飲レ藥自殺畔レ約。濟北王城壞未レ完。其郎中令劫二守其王一。不レ得レ發レ兵。膠西爲二渠率一。膠東菑川濟南共攻圍二臨菑一。趙王遂亦反。陰使二匈奴一與連レ兵。七國之發也。吳王悉二其士卒一。下二令國中一曰。寡人年六十二。身自將。少子年十四。亦爲二士卒先一。諸年上與二寡人一比。下與二少子一等者皆發。發二二十餘萬人一。南使二閩越東越一。東越亦發レ兵從。

よと。二十餘萬人を發す。南のかた閩越東越に使す。東越も亦兵を發して從ふ。

(一) 直接商會して約束を爲す　(二) 一人の天子に奉仕するは至極安樂なり　(三) 十分の二にも足らず　(四) 良き策にあらず　(五) 大義名分を正す人なり　(六) 事落着の後に其領地を分配すれば、それにてよしと除外したり　(七) 振ひ恐る　(八) 後にて吳王の反逆に與したるを悔いて、毒藥を飲みて自殺して　(九) 王を脅迫して守護して　(一〇) 大將　(一一) 先に立ちて戰陣に臨む

孝景帝三年。正月甲子。初起二兵於廣陵一。西涉レ淮因幷二楚兵一。發レ使遺二諸侯書一曰。吳王劉濞。敬問二膠西王。膠東

孝景帝三年、正月甲子、初めて兵を廣陵に起す。西のかた淮を渡り、因りて楚の兵を幷す。使を發し、諸侯に書を遺りて曰く、吳王劉濞敬んで膠西王、膠東王、菑川王、濟南王、趙王、楚王、淮南王、衡山王、廬江王、故の長沙王の子に問ふ。幸に寡人に敎へよ、以らく漢に賊臣有りて、天下に功無くして、諸侯の地を侵奪し、(一)吏をして劾繫訊治せしめ、(二)之を僇辱するを以て故と爲し、諸侯人君の禮を以て劉

王謀一諫曰。承二一帝一至樂也。今大王與レ吳西鄕。第令事成兩主分爭。患乃始結。諸侯之地。不レ足レ爲二漢郡什二一。而爲二畔逆一以憂二太后一。非二長策一也。王弗レ聽。遂發レ使約二齊菑川膠東濟南濟北一。皆許諾。而曰。城陽景王有レ義。攻二諸呂一勿レ與。事定分レ之耳。諸侯既新削罰振恐。多怨二鼂

ばん。諸侯の地、漢郡の什(三)が二爲るに足らず。而るを畔逆を爲して以て太后を憂へしむるは、長策(四)に非ざるなりと。王聽かず。遂に使を發して、齊、菑川、膠東、濟南、濟北に約す。皆許諾す。而して曰く、城陽の景王は義有り(五)。諸呂を攻むるに與すること勿りき(六)。事定まらば之を分たんのみと。諸侯既に新に削罰せられて、振恐(七)す。多く鼂錯を怨む、吳の會稽豫章郡を削る書の至るに及び、則ち吳王先づ兵を起す。膠西は正月丙午に、漢の吏二千石以下を誅す。膠東、菑川、濟南、楚趙も亦然り。遂に兵を發して西す。齊王後(八)に悔いて、藥を飲みて自殺して約に畔く。濟北王城壞れ未だ完からず、其郎中令(九)、其王を劫守して、兵を發することを得ざらしむ。膠西、渠率(一〇)と爲り、膠東、菑川、濟南、共に攻めて臨菑を圍む。趙王遂も亦反す。陰に匈奴に使して、與に兵を連ぬ。七國の發するや、吳王其士卒を悉す。令を國中に下して曰く、寡人年六十二、身自ら將たり。少子年十四、亦士卒の先(一一)爲り。諸の年上は寡人と比しく、下は少子と等しき者は、皆發せ

鼂錯熒二惑天子一。侵二奪諸侯一。蔽レ忠塞レ賢。朝廷疾怨。諸侯皆有二倍畔之意一。人事極矣。彗星出、蝗蟲數起。此萬世一時而愁勞。聖人之所二以起一也。故吳王欲下內以二鼂錯一爲レ討。外隨二大王後車一彷中徉天下上。所レ鄉者降。所レ指者下。天下莫二敢不一レ服。大王誠幸而許二之一言一。則吳王率二楚王一。略二函谷關一。守二滎陽敖倉之粟一。距二漢兵一。治二次舍一須二大王一。大王有二幸而臨一レ之。則天下可レ幷。兩主分割。不二亦可一乎。王曰。善。高歸報二吳王一。

(一三)次舍を治めて、大王を須たん。大王幸にして之に臨むこと有らば、則ち天下幷す可し。兩主分割せんこと、亦可ならず乎。王曰く、善しと。高歸りて吳王に報ず。

(一)同じく惡むところ　(二)同じく好むところ　(三)事情を同じくするところ　(四)同じく欲するところ　(五)利益を同じくするところ　(六)にはかに驚きて　(七)徵求急なりとも　(八)目をくらまし惑はして　(九)人間の事の終局なり　(一〇)萬代にわたりて復たとなき時にして四民皆愁ひ勞す　(一一)內は鼂錯を討つを以て名義となし、外は大王の御行列の後に隨ひて、天下を經略せんと欲す　(一二)一言の許可の言を賜らば　(一三)休息所

吳王猶恐二其不一レ與。乃身自爲レ使。使二於膠西一面結レ之。膠西羣臣或聞二

吳王猶ほ其の與せざるを恐る。乃ち身自ら使と爲り、膠西に使して、(一)面之に結ぶ。膠西の羣臣或ひは王の謀を聞きて、諫めて曰く、(二)一帝に承くるは、至樂なり。今大王吳と西に鄉はんとす。第令事成るとも、兩主分爭せん。患乃ち始めて結

面已。

王曰。然。有之。子將奈何。高曰。同惡相助。同好相留。同情相成。同欲相趨。同利相死。今吳王自以為與大王同憂。願因時循理。棄軀以除患害於天下。億亦可乎。王瞿然駭曰。寡人何敢如是。今主上雖急。固有死耳。安得不戴。高曰。御史大夫

王曰く、然り、之れ有り。子將に奈何せんとする。高曰く、同惡相助け、同好相留め、同情相成し、同欲相趨き、同利相死す。今吳王自ら以爲らく大王と憂ひを同じくせんと。願くは時に因り理に循ひ、軀を棄てて以て患害を天下に除かん。億ふに亦可ならんか。王瞿然として駭きて曰く、寡人何ぞ敢て是くの如くならん。今主上急なりと雖も、固より死有るのみ、安んぞ戴かざるを得ん。高曰く、御史大夫鼂錯、天子を熒惑して、諸侯を侵奪す。忠を蔽し賢を塞ぎて、朝廷疾み怨む。諸侯皆倍畔の意有り、人事の極なり。慧星出で、蝗蟲數〻起る。此れ萬世の一時にして愁勞す。聖人の起る所以なり。故に吳王、内に鼂錯を以て討を爲し、外は大王の後車に隨ひて天下に彷徉せんと欲す。嚮ふ所の者は降り、指す所の者は下らん。天下敢て服せざる莫けん。大王誠に幸にして之に一言を許さば、則ち吳王、楚王を率ゐて函谷關を略し、滎陽敖倉の粟を守り、漢の兵を距ぎ

以教レ之。高曰。今者主上興ニ於姦一。飾ニ於邪臣一。好ニ小善一。聽ニ讒賊一。擅變ニ更律令一。侵ニ奪諸侯之地一。徵求滋多。誅ニ罰良善一。日以益甚。里語有レ之。舐レ糠及レ米。吳與ニ膠西一。知名諸侯也。一時見レ察。恐不レ得ニ安肆一矣。吳王身有ニ內病一。不レ能ニ朝請一。二十餘年。嘗患レ見レ疑無ニ以自白一。今脅レ肩累レ足。猶懼レ不レ見レ釋。竊聞大王以ニ爵事一有レ適。所レ聞諸侯削レ地。罪不レ至レ此。此恐不レ得ニ削レ地

と膠西とは、知名の(一一)諸侯なり。一時(一二)察せられば、恐らくは安肆なることを得じ。吳王身に內病有りて、朝請すること能はざること、二十餘年なり。嘗て疑はれて以て自ら(一三)白すこと無きを患ふ。今(一四)肩を脅め足を累ね、猶ほ釋されざることを懼る。竊に聞く、大王爵事(一五)を以て適有りと。聞く所は諸侯地を削らるゝもの、(一六)罪此に至らじ。此れ恐らくは地を削られて(一七)已むを得ずと。

(一) いどみ誘ふ　(二) 口上を以て言はしめて　(三) 寐ても覺めても忘れ難き心配事あり　(四) どこまでも口外せず　(五) 吳王の貴殿と情交深きを以て、臣をして意中を申上げしむ　(六) 何をいつて吾れに命ぜらるゝならん　(七) 惡計を以て與り、邪臣に欺かれ　(八) 法律を變更し　(九) 領地を削り取ること益々多く　(一〇) 糠を舐り盡して漸次其內部の米に及ぶ、是れ領地を削り漸次其國を攻滅せしむるに譬ふ　(一一) 天下に聞えたる大諸侯なり　(一二) 一度過失を見あらはさるれば、忽ち罰せられて安泰なることは得まじ　(一三) 自分から罪なきことを明白にすること能はず　(一四) 肩を窄め足を累ねて恐縮して謹愼すれど猶は釋されざることを氣遣ひ居れり　(一五) 爵を賣りたる罪によりて譴責を受けしと　(一六) 罪は左程のものにあらず　(一七) 土地を削り取られたるのみにて事濟むべからず、必ず國を滅さずしては已むまじ

鼂錯因言。楚王戊。往年爲二薄太后一服。私姦二服舍一。請レ誅レ之。詔赦罰削二東海郡一。因削二呉之豫章郡會稽郡一。及二前二年一。趙王有レ罪。削二其河間郡一。膠西王卬以二賣レ爵有一レ姦。削二其六縣一。漢廷臣方議レ削レ呉。呉王濞恐二削レ地無一レ已。因以レ此發レ謀。欲レ擧レ事。念諸侯無下足二與計謀一者上。聞膠西王勇好レ氣喜レ兵。諸齊皆憚畏。

んと欲す。念ふに諸侯與に計謀するに足る者無し。聞く膠西王の勇にして氣を好み、兵を喜み、諸齊皆憚畏すと。(五)

(一) 當に過を改め自ら行ひを新にすべし (二) 先年 (三) 際限なからんことを恐る (四) 反逆を爲さんと欲す (五) 憚り畏る

於レ是乃使三中大夫應高誂二膠西王一。無二文書一。口報曰。呉王不肖。有二宿夕之憂一。不二敢自外一。使レ喩二其驩心一。王曰。何

是に於て乃ち中大夫應高をして膠西王を誂せしむ。(一)文書無し。口報して曰く、(二)呉王不肖にして、宿夕の憂ひ有り。(三)敢て自ら外にせず。(四)其驩心を喩さしむ。(五)王曰く、(六)何を以て之に教へん。高曰く、今は主上姦に興り、(七)邪臣に飾られ、小善を好み、讒賊に聽き、擅に律令を變更し、(八)諸侯の地を侵奪し、(九)徵求滋々多く、良善を誅罰すること、日に以て益々甚だし。里語に之れ有り、(一〇)糠を舐りて米に及ぶと。呉

帝寬不レ忍レ罰。以此吳日益橫。及二孝景帝即一レ位。錯爲二御史大夫一。說レ上曰。昔高帝初定二天下一。昆弟少。諸子弱。大封二同姓一。故王二孳子悼惠王一。王二齊七十餘城一。庶弟元王。王二楚四十餘城一。兄子濞。王二吳五十餘城一。封二三庶孼一分二天下半一。

今吳王前有二太子之郄一。詐稱レ病不レ朝。於二古法一當レ誅。文帝弗レ忍。因賜二几杖一。德至厚。當二改レ過自新一。乃益驕溢。卽レ山鑄レ錢。煮二海水一爲レ鹽。誘二天下亡人一謀レ作レ亂。今削レ之亦反。不レ削レ之亦反。削レ之其反亟禍小。不レ削反遲禍大。三年。冬。楚王朝。

今吳王前に太子の郄有りて、詐りて病と稱して朝せず。古法に於て誅に當す。文帝忍びずして、因りて几杖を賜へり。德至りて厚し。(一)當に過を改めて自ら新にすべし。乃ち益〻驕溢にして、山に卽いて錢を鑄、海水を煮て鹽と爲す。天下の亡人を誘ひて、亂を作さんと謀る。今之を削るも亦反せん、之を削らざるも亦反せん、之を削らば其反亟かにして、禍小ならん。削らざれば反遲くして、禍大ならんと。三年冬、楚王朝す。鼂錯因りて言ふ。楚王戊往年薄太后の爲に服す。私に服の舍に姦せり。請ふ之を誅せんと。詔して赦して、罰(二)として東海郡を削る。因りて吳の豫章郡會稽郡を削る。前二年に及びて、趙王罪有りて、其河閒郡を削らる。膠西王卬、爵を賣り姦有るを以て、其六縣を削らる。漢廷の臣方に吳を削るを議す。吳王濞、地を削る已む(三)無きを恐る。因りて此を以て謀を發し、事(四)を擧げ

呉王几杖老不朝。呉得釋其罪。謀亦益解。然其居國。以銅鹽故。百姓無賦。卒踐更。輒與平賈。歲時存問茂材。賞賜閭里。佗郡國吏。欲來捕亡人者。訟共禁弗予。如此者四十餘年。以故能使其衆。鼂錯爲太子家令。得幸太子。數從容言呉過可削。數上書說孝文帝。文

太子に得たり。數〻從容として呉の過の削る可きを言ふ。(一三)數〻上書して孝文帝に說く。文帝寛にして罰するに及びず。此を以て呉日に益〻横なり。孝景帝位に卽くに及びて、錯御史大夫と爲る。上に說きて曰く、昔し高帝初めて天下を定め、(一四)昆弟少く、諸子弱し。大に同姓を封ず。(一五)故に孽子悼惠王を王とす。齊の七十餘城に王たり。庶弟元王楚の四十餘城に王たり。兄の子濞は、呉の五十餘城に王とす。三庶孽を封じて、天下の半を分つ。

(一) 秋季の朝禮を行はしむる時に當りて (二) 呉の使者を拘留すること五六人に及べり (三) 深き淵中に潛める魚を巨細に見届くるは不吉なり、是れ人君たる者臣下の陰私を知れば、徒らに臣下をして憂へしめ以て禍を得るに至るに譬ふ (四) 已むを得ずして叛逆を爲す (五) 唯上に於ては之を許されてすべてを新に立て直す樣にされたし (六) 休息の時に倚凭る曲彖、殿中御免の杖、老いて朝參をするに及ばざること (七) 謀反の計劃も愈々解る (八) 錢を得て他の人に代りて兵役に服する者 (九) 宮より其雇賃を出して人心を收攬するにつとめなり (一〇) 季節毎には、使者を遣はして秀才の安否を存問せしむ (一一) 亡命の人を捕へんとすれば、互に匿しあひて引渡さず (一二) 巧妙に人民を使役す (一三) 呉國は其の過失によりて國を削るべきことを言上す (一四) 兄弟少く、諸皇子の幼弱なるの故を以て (一五) 同姓の方々を大國に封ず

葬爲。復遣喪之長安葬。呉王由此稍失藩臣之禮。稱病不朝。京師知其以子故。稱病不朝。驗問實不病。諸呉使來。輒繫責治之。呉王恐。爲謀滋甚。

及後使人爲秋請。上復責問呉使者。使者對曰。王實不病。漢繫治使者數輩。以故遂稱病。且夫察見淵中魚不祥。今王始詐病。及覺見責急。愈益閉。恐上誅之。計乃無聊。唯上棄之。而與更始。於是天子乃赦呉使者歸之。而賜

後に人をして秋請(一)を爲さしむるに及び、上復た呉の使者に責問す。使者對へて曰く、王實は病まず。漢、使者を繫治すること數輩なり(二)。故を以て遂に病と稱す。且つ(三)夫れ淵中の魚を察見するは不祥なり。今王始めて病と詐る。覺はるゝに及びて、責めらるゝこと急なり。愈ゝ益ゝ閉ぢ、上の之を誅せんことを恐る。計乃ち(四)聊ずること無けん。唯(五)上之を棄てて更始を與さんことを。是に於て天子乃ち呉の使者を赦して之を歸す。而して呉王に几杖(六)、老不朝を賜ふ。呉其罪を釋さるゝを得て、謀(七)亦益ゝ解る。然れども其の國に居る銅鹽の故を以て、百姓賦無し。卒の踐更(八)は、輒ち平賈(九)を與ふ(一〇)。歲時に茂材を存問し、閭里に賞賜す。佗の郡國の吏の、來りて亡人(一一)を捕へんと欲する者は、訟れて共に禁じて予へず。此くの如くするもの四十餘年なり。故を以て能く(一二)其衆を使ふ。鼂錯、太子の家令と爲り、幸を

郡銅山。濞則招二致天下亡命者一。益鑄レ錢。煮二海水一爲レ鹽。以レ故無レ賦。國用富饒。孝文時呉太子入見。得下侍二皇太子一飲上博。呉太子師傅皆楚人。輕悍。又素驕。博爭レ道不恭。皇太子引二博局一。提二呉太子一殺レ之。於レ是遣二其喪一歸葬。至レ呉。呉王慍曰。天下同宗。死二長安一卽葬二長安一。何必來

太子入りて見ゆ。皇太子に侍して飲することを得て博す。(五)(六)呉の太子の師傅皆楚人にして、輕悍なり。又素より驕れり。(七)博して道を爭ひて不恭なり。(八)皇太子博(九)局を引き、呉の太子に提ちて之を殺す。是に於て其喪を遣し歸葬せしむ。(一〇)呉に至る。呉王慍りて曰く、天下は同宗なり。長安に死せば、卽ち長安に葬らる。何ぞ必ずしも來り葬ることを爲んと。復た喪を遣し(一一)長安に之きて葬らしむ。呉王此れに由りて稍く藩臣の禮を失す。(一二)病と稱して朝せず。京師其の子の故を以て病と稱して朝せざるを知りぬ。驗問するに、(一三)實は病まず。諸の呉の使來るときに、輒ち繫ぎて之を責治す。(一四)呉王恐れて、謀を爲すこと滋ゝ甚だし。

(一) 愛して手につける (二) 駈落者 (三) 海水を煮沸して食鹽を取る (四) 租税を賦課せずして國の費用十分なり (五) 御側に侍りて酒宴を賜はる (六) 博奕の遊戯を爲す (七) 元來高慢なり (八) 其方法の違ひありとて爭論に及び、不敬の行爲ありたり (九) 博奕の盤を引きよせ (一〇) 呉の太子の死骸を呉の國に遣はし、本國の呉にて葬らしむ (一一) 太子の死骸を送り返して (一二) 藩屏の臣たる禮を失ふ (一三) 實否を取調ぶるに (一四) 拘留して其の事實を詰問す

布反。東并二荊地一、劫二其國兵一、西度レ淮擊レ楚。高帝自將往誅レ之。劉仲子沛侯濞、年二十、有二氣力一、以二騎將一從、破二布軍蘄西會甀一。布走。荊王劉賈爲二布所一レ殺、無レ後。上患三吳會稽輕悍、無二壯王以塡一レ之。諸子少。乃立二濞於沛一、爲二吳王一、王二三郡五十三城一。已拜受レ印。高帝召レ濞相レ之。謂曰。若狀有二反相一。心獨悔二業已拜一。因拊二其背一告曰。漢後五十年、東南有レ亂者。豈若邪。然天下同姓爲二一家一也。愼無レ反。濞頓首曰。不レ敢。

を相す。謂ひて曰く、若の狀、反相(九)有りと。心に獨り業已に拜せしを悔ゆ。因りて其背を拊でて告げて曰く、漢後五十年に東南に亂有らば、豈に若か。然れども天下同姓にして一家爲り、愼みて反すること無かれと。濞頓首して曰く、敢てせ(一〇)ずと。

(一)堅固に守禦すること能はずして　(二)近道をたどりて　(三)親屬なるを以て、法律に照して罰するに忍びず　(四)騎士の將校　(五)後嗣の者なし　(六)輕捷慓悍　(七)王印を受く　(八)人相を觀る　(九)謀反を起す人相なり　(一〇)何處までもさる不都合の行爲をなさず

會三孝惠高后時。天下初定。郡國諸侯。各務自拊二循其民一。吳有二豫章

孝惠高后の時、天下初めて定りて、郡國の諸侯各〻務めて自ら其民を拊循する(一)に會ふ。吳に豫章郡の銅山有り。濞則ち天下の亡命者(二)を招き致して、益〻錢を鑄、(三)海水を煮て鹽と爲す。故を以て賦無くして國用富饒(四)なり。孝文の時に、吳の

呉王濞者。高帝兄劉仲之子也。高帝已定二天下一。七年立二劉仲一爲二代王一。而匈奴攻レ代。劉仲不レ能二堅守一。棄レ國亡。閒行走二雒陽一。自歸二天子一。天子爲二骨肉一故。不レ忍レ致レ法。廢以爲二郃陽侯一。高帝十一年。秋。淮南王英

卷百六

呉王濞列傳第四十六

呉王濞は、高帝の兄劉仲の子なり。高帝已に天下を定め、七年に、劉仲を立てて代王と爲す。而して匈奴代を攻む。劉仲（一）堅く守ること能はず、國を棄てて亡ぐ。（二）間行して雒陽に走り、自ら天子に歸す。天子骨肉（三）の爲の故に、法を致すに忍びず、廢して以て郃陽侯と爲す。高帝十一年秋、淮南王英布反す。東のかた荊の地を幷せて、其國兵を劫し、西のかた淮を度りて楚を撃つ。高帝自ら將として往きて之を誅す。劉仲が子沛侯濞年二十、氣力有り。（四）騎將を以て從ひて、布が軍を蘄の西、會甀に破る。布走る。荊王劉賈、布の殺す所と爲り（五）後無し。上、呉の會稽の（六）輕悍にして、壯王の以て之を塡むる無きを患ふ。諸子少し、乃ち濞を沛に立てて呉王と爲し、三郡五十三城に王とす。已に拜せられて（七）印を受く。高帝濞を召して（八）之

逆者不レ可レ治。其順者乃治レ之。心不レ精レ脈。所下期二死生一視中可レ治。時時失レ之。臣意不レ能レ全也。

(一) 心安靜を失ひ、診脈に精密ならざる時は、豫期して治すべしと決定したるものも、折々誤ることあり　(二) 百診百中なること能はず

太史公曰。女無二美惡一。居レ宮見レ妬。士無二賢不肖一。入レ朝見レ疑。故扁鵲以二其伎一見レ殃。倉公乃匿レ迹自隱而當レ刑。緹縈通二尺牘一。父得二以後寧一。故老子曰。美好者不祥之器。豈謂二扁鵲等一邪。若二倉公一者可レ謂レ近レ之矣。

太史公曰く、女は美惡と無く(一)、宮に居れば妬まれ、士は、賢不肖と無く(二)朝に入れば疑はる。故に扁鵲其伎を以て殃せられ、倉公乃ち迹を匿し(三)自ら隱れて而も刑に當す。緹縈尺牘を通じ、父以て後寧きを得たり。故に老子曰く、美好は不祥(四)の器なりと。豈に扁鵲等を謂ふ邪。倉公の若きは、之に近しと謂ふ可し。

(一) 婦女は、美人醜婦の區別なく、宮中に仕ふれば、相互ひに寵愛を爭ひて妬まれ惡まれ　(二) 賢愚の區別なく、朝廷に仕ふれば相互に官祿を爭ひて、讒言排斥にあひて惡み疑はる　(三) 身迹をくらまし、自ら隱れて、而かも其爲に肉刑の厳罰にあてはめらる　(四) 物ごと美好なるは、却つて其のものに不祥を招く惡しき道具なり

俞所㆑居及氣當㆓上下出入㆒。邪逆順以宜㆓鑱石㆒。定㆗砭灸處㆖。歲餘。菑川王時遣㆓太倉馬長馮信㆒正㆑方。臣意教以㆘案法逆順論㆓藥法㆒定㆓五味㆒。及和齊湯法㆖。高永侯家丞杜信喜㆑脈來學。臣意教以㆓上下經脈五診㆒二歲餘。臨菑召里唐安來學。臣意教以㆓五診上下經脈。奇咳。四時應。陰陽重㆒。未㆑成。除爲㆓齊王侍醫㆒。

歲餘なり。臨菑の召里の唐安來り學ぶ。臣意教ふるに五診、上下經脈奇咳、四時應、陰陽重を以てす。未だ成らず。除せられて齊王の侍醫と爲る。(一〇)(一一)(一二)

(一) 五臟の脈を診する法を以てすること一年餘に及ぶ (二) 手足の經脈 (三) 絡脈の結び聚れる處は、奇正變化の多きこと (四) 三百六十五の穴會の位置 (五) 氣の上下出入正邪順逆の異同變化ある場所に因りて、或ひは砭針を用ひ或ひは石針を用ひ、又砭治及び灸治の穴處を定むることを論究す可きこと (六) 按摩導引の法を用ひて氣血を上下逆順ならしむること (七) 藥の調合法 (八) 藥品につきて五味を定め (九) 諸藥を調和配劑して煎湯に造る法 (一〇) 五臟の脈を診察し、手足の經脈を診察する秘術 (一一) 五臟の脈狀は四時と相應じて各々其の關係を有すること (一二) 經脈の陰陽に應じて働きをなすことの貴重すべきものなること

問㆓臣意㆒。診㆑病決㆓死生㆒。能全無㆑失乎。臣意對曰。意治㆓病人㆒。必先切㆓其脈㆒。乃治㆑之。敗

臣意に問ふ。病を診し死生を決する、能く全く失する無きか。臣意對へて曰く、意、病人をする、必ず先づ其脈を切し、乃ち之を治す。敗逆なる者は治す可からず。其順なる者は乃ち之を治す。(一)心、脈に精しからずば、死生を明し治す可きを視る所も、時時之を失す。臣意全くすること能はず。(二)

百世爲ニ之精一也。師光喜曰。公必爲ニ國工一。吾有ニ所ㇾ善者一。皆疏ニ同產一處ニ臨菑一善爲ㇾ方。吾不ㇾ若。其方甚奇。非ニ世之所ㇾ聞也。吾年中時嘗欲ㇾ受ニ其方一。楊中倩不ㇾ肯曰。若非ニ其人一也。胥ニ與ㇾ公往見ㇾ之。當ㇾ知ニ公喜ㇾ方也。其人亦老矣。其家給富。時者未ㇾ往。會ニ慶子男殷來獻ㇾ馬。因ニ師光一奏ニ馬王所一。意以ㇾ故得ニ與ㇾ殷善一。光又屬ニ意於殷一曰。意好ㇾ數。公必謹遇ㇾ之。其人聖儒。卽爲ㇾ書以ㇾ意屬ニ陽慶一。以ㇾ故知ㇾ慶。臣意事ㇾ慶謹。以ㇾ故愛ㇾ意也。

たり　〔一四〕依賴して　〔一五〕醫學を好む

問ニ臣意一曰。吏民嘗有下事學ニ意方一。及畢盡得中意方上不。何縣里人。對曰。臨菑人宋邑。邑學。臣意教以ニ五診一歲餘。濟北王遣ニ太醫高期王禹一學。臣意教以ニ經脈高下。及奇絡結一。當論下

臣意に問ひて曰く、吏民嘗て事へて意の方を學び、及び畢盡く意の方を得るもの有りや不や。何の縣里の人ぞ。對へて曰く、臨菑の人宋邑あり。邑の學ぶや、臣意教ふるに(一)五診を以てすること歲餘す。濟北王、太醫高期、王禹を遣して學ばしむ。臣意教ふるに(二)經脈の高下及び(三)奇絡結を以てす。當に(四)兪の居する所、及び氣の(五)當に上下出入すべく、邪の逆順以て宜しく鑱石すべく、砭灸の處を定むるを論ずること歲餘なり。菑川王時に太倉の馬長馮信を遣し、方を正さしむ。臣意教ふるに(六)案法逆順、(七)藥法を論じ、(八)五味を定め、及び(九)和齊湯の法を以てす。高永侯の家丞杜信脈を喜みて、來りて學ぶ。臣意教ふるに上下經脈五診を以てすること二

事レ之受下方化二
陰陽一及傳語
法上。臣意悉受
書レ之。臣意欲三
盡受二他精方一。
公孫光曰。吾
方盡矣。不レ爲レ
愛二公所一。吾身
已衰。無レ所二復
事一レ之。是吾年
少所レ受妙方
也。悉與レ公。毋二
以敎一レ人。臣意
曰。得三見事侍二
公前一悉得二禁
方一。幸甚。意死
不二敢妄傳一レ人。
居有レ間。公孫
光間處。臣意
深論レ方。見レ言三

と。居ること閒く有りて、公孫光閒處(五)す。臣意深く方を論じ、百世(六)之が精爲らんと言ふを見るや、師光喜びて曰く、公必ず國工(七)と爲らん、吾れ善くする(八)所の者有り、皆同産(九)に疏ぜられ臨菑に處り、善く方を爲す、吾れ(一〇)若かず。其方甚だ奇なり、世の聞く所に非ざるなり。吾れ年中(一一)の時嘗て其方を受けんと欲す。楊中倩肯ぜずして曰く、若(一二)其人に非ずと。胥らく公の與に往きて見るべし、當に公の方を喜むを知るべし。其人も亦老ゆ。其家給富なりと。時に未だ往かず。慶の子男殷來りて馬を獻ずるに會ふ。師光に因りて馬を王の所に奏す。意故を以て殷と善きことを得たり。光又意を殷に屬して曰く、意、數を好む。公必ず謹みて之を遇(一三)せよ。其人聖儒なりと。卽ち書(一四)を爲り、意を以て陽慶(一五)に屬す。故を以て慶を知る。臣意、慶に事ふること謹む。故を以て意を愛せるなり。

(一) 種々の醫術の方 (二) 古人傳授の醫術 (三) 古への名醫の傳へ遺せる醫學上の語、及び醫の法術 (四) 悉く此は此の他の精方の傳授に預り度旨を師に乞ふ (五) 暇にて靜かに居る (六) 百世の後まで醫術の精粹者と爲りて名を傳へんと言ひたるに (七) 國家の名醫 (八) 親しく交を結べる者あり (九) 兄弟親戚の者に疎まれ (一〇) 吾が醫術は彼に及ばず (一一) 中年の頃 (一二) 汝の人物は吾が醫方を傳ふるに不適任者なり (一三) 親密なることを得

善爲レ醫不ニ肯爲レ人治レ病。當下以ニ此故一不上レ聞。慶又告ニ臣意一曰。愼毋レ令三我子孫知ニ若學ニ我方一也。

我が子孫をして若が我が方を學びしを知らしむること毋かれと。

㈠ 何處にて此の醫術を習ひ得たるか ㈡ 名の聞えざりしなるべし

問ニ臣意一。師慶何見ニ於意一而愛レ意。欲三悉教ニ意方一。對曰。臣意不レ聞ニ師慶爲レ方善一也。意所ニ以知レ慶者。意少時好ニ諸方事一。臣意試ニ其方一。皆多レ驗精良。臣意聞ニ菑川唐里公孫光善爲ニ古傳方一。臣意即往謁レ之。得レ見

臣意に問ふ。師慶何ぞ意を見て意を愛し、悉く意に方を教へんと欲せしか。對へて曰く、臣意、師慶の方を爲すこと善きを聞かざるなり。意の慶を知る所以のものは、意少き時、諸方(一)の事を好む。臣意其方を試むるに、皆驗多く、精良なり。臣意、菑川唐里の公孫光善く古傳(二)の方を爲すと聞く。臣意即ち往きて之に謁し、見ゆることを得て之に事ふ。方の陰陽を化し及び傳語(三)の法を受く。臣意悉く受けて之を書す。臣意(四)盡く他の精方を受けんと欲す。公孫光曰く、吾が方盡きぬ。公の所に愛むことを爲さず、吾が身已に衰ふ。復た之を事とする所無し。是れ吾が年少受くる所の妙方なり、悉く公に與ふ。以て人に教ふること毋かれと。臣意曰く、見え事へて公の前に侍することを得、悉く禁方を得たり、幸甚。意死するも敢て妄に人に傳へず

當ㇾ趨。年三十當ニ疾歩一。年四十。當ニ安坐一。年五十。當ニ安臥一。年六十已上。氣當ニ大董一。文王年未ㇾ滿ニ二十一。方ニ脈氣之趨一也。徐ㇾ之。不ㇾ應ニ天道四時一。後聞醫灸ㇾ之即篤。此論ㇾ病之過也。臣意論ㇾ之。以爲神氣爭而邪氣入。非三年少所ニ能復ㇾ之也。以ㇾ故死。所ㇾ謂氣者當下調ニ飲食一。擇ニ晏日一。車歩廣ㇾ志。以適ニ筋骨肉脈一以瀉ㇾ氣。故年二十是謂ニ易貿一。法不ㇾ當ニ砭灸一。砭灸至ニ氣逐一。

故を以て死す。所謂る氣なるもの(一〇)は、當に飲食を調り、晏日を擇び(一一)、車歩して(一二)志を廣くし、以て筋骨肉血脈を適し、以て氣を瀉ぐべし(一三)。故に年二十なるを、是を易貿と謂ひ(一四)、法、當に砭灸すべからず。砭灸すれば氣逐に至る(一五)。

(一) 死去する所以 (二) 喘息 (三) 餘り肥滿せるを以て骨格と肉と調和を失ひ骨格、肉の重みの爲めに堪へられず (四) 靜坐して安らかに身を養ふべし (五) まさに心氣血氣衰弱して物の哀れを催すものなれば、靜座するか安眠するかして、神氣を大に養ひ蓄ふべし (六) 危篤に陷れり (七) 病氣の診斷を誤れるものなり (八) 神氣上にのぼり邪氣内に攻め入る (九) 一旦上りたる神氣は、復び降して元の如くすることは出來難き事なり (一〇) 血氣 (一一) 天氣快晴の日をえらみ (一二) 或ひは車に乘り、或ひは徒歩して、心志を開豁にし (一三) 新鮮なる空氣を呼吸すべし (一四) 心機を一轉し、血液を循環交易せしむること (一五) 脈氣奔逐し、制止すべからず

問ニ臣意一。師慶安受ㇾ之。聞ニ於齊諸侯一不。對曰。不ㇾ知ニ慶所ニ師受一。慶家富。

臣意に問ふ。師の慶安(一)にか之を受けたる。齊の諸侯に聞ゆるや不や。對へて曰く、慶の師受する所を知らず。慶の家富めり。善く醫を爲せども、肯へて人の爲に病を治せず。當に此故を以て聞えざるべし(二)。慶又臣意に告げて曰く、愼しんで

誠恐三吏以除二拘臣意一也。故移二名數左右一。不レ修二家生一。出行游二國中一。問下善爲二方數一者上事レ之久矣。見二事數師一。悉受二其要事一。盡二其方書意一。及レ解二論之一。身居二陽虛侯國一。因事レ侯。侯入朝。臣意從之二長安一。以レ故得レ診二安陵項處等病一也。

られて、束縛せられんことを氣遣ひてなり　(四)名籍を彼方此方と取替へて一家の生業を修めず一處に居らず游騒して　(五)理解論撰し、一まとめにする時に及びて

問二臣意一。知下文王所二以得レ病不レ起之狀上。臣意對曰。不レ見二文王病一。然竊聞。文王病レ喘。頭痛目不レ明。臣意心論レ之。以爲非レ病也。以爲肥而蓄レ精。身體不レ得レ搖。骨肉不二相任一。故喘。不レ當二醫治一。脈法曰。年二十。脈氣

臣意に問ふ。文王病を得て起たざる(一)所以の狀を知るや。臣意對へて曰く、文王の病を見ず。然れども竊に聞く、文王喘(二)を病み、頭痛く、目明かならずと。臣意心に之を論じ、以爲らく病に非ずと。以爲らく肥えて精を蓄へ、身體搖くことを得ず、骨肉(三)相任へず、故に喘す。當に醫治すべからずと。脈法に曰く、年二十にして、脈氣當に趨るべし。年三十にして當に疾走すべし。年四十にして當に安(四)坐すべし。年五十にして當に安臥すべし。年六十已上は、(五)氣當に大いに董すべし。文王年未だ二十に滿たず。脈氣の趨るに方りて、而して之を徐にす。天道四時に應ぜず。後に聞く醫之を灸して卽ち篤し(六)と。此れ病を論ずるの過(七)なり。臣意之を論じ、以爲らく神氣(八)爭ひて邪氣入る。年少(九)の能く之を復する所に非ずと。

故。對曰。此皆飲食喜怒不ㇾ節。或不ㇾ當ㇾ飲ㇾ藥。或不ㇾ當ニ鍼灸一。以ㇾ故不ㇾ中ㇾ期死也。

に鍼灸すべからず。(三)故を以て期に中らずして死するなり。

(一)診斷通りならざるは　(二)程よく謹まず　(三)故に治療の施しやうなくして診斷の如く平癒せずして死する也

問ニ臣意一。意方能知ニ病死生一。論ニ藥用所一ㇾ宜。諸侯王大臣有ニ嘗問ㇾ意者一。不。及ニ文王病時一。不ㇾ求ニ意診治一。何故。對曰。趙王膠西王濟南王吳王。皆使ニ人來召ニ臣意一。臣意不ニ敢往一。文王病時。臣意家貧。欲ニ爲ㇾ人治一ㇾ病。

臣意に問ふ。意方に能く病の死生を知り、藥用の宜しき所を論ず。諸侯王大臣嘗て意に問ふ者有りや不や。(一)文王の病む時に及びて、意に診治を求めざるは、何の故ぞ。對へて曰く、趙王、膠西王、濟南王、吳王皆人をして來りて臣意を召さしむ。臣意敢へて往かず。文王病める時、臣意家貧しく、(二)人の爲に病を治せんと欲す。誠に(三)吏の以て臣意を除拘せんことを恐る。故に(四)名數を左右に移し、家生を修めず、出行して國中に游び、善く方數を爲す者に問ひ之に事ふること久し。數師に見え事へて、悉く其要事を受け、其方書の意を盡し、之を(五)解論するに及びて、身、陽虛侯の國に居る。因りて侯に事ふ。侯入朝す。臣意從ひて長安に之く。故を以て安陵の項處等の病を診するを得たり。

(一)諮問せし者有りしか如何に　(二)人の爲に病を治して謝禮を得んと欲したり　(三)役人等が臣意に官職を授け

多相類。不レ可レ知。故古聖人爲ニ之脈法一。以起ニ度量一。立ニ規矩一縣ニ權衡一。案ニ繩墨一。調ニ陰陽一。別ニ人之脈一。各名レ之。與ニ天地一相應。參ニ合於人一。故乃別ニ百病一以異レ之。有レ數者皆異レ之。無レ數者同レ之。然脈法不レ可ニ勝驗一。診ニ疾人一以レ度異レ之。乃可下別ニ同名一。命中病主在所居上。今臣意所レ診者。皆有ニ診籍一。所ニ以別一レ之者。臣意所レ受ニ師方一適成。師死。以レ故表ニ籍所一レ診。期ニ決死生一。觀ニ所レ失所レ得者一。合ニ脈法一。以レ故至レ今知レ之。

を案じ、陰陽を調べ、人の脈を別ち、各〻之に名づけ、(三)天地と相應じ、(四)人に參合す。故に乃ち百病を別ち以て之を異にす。數有る者は皆之を異にし、數無きものは之を同じくす。然れども脈法勝げて驗す可からず。疾人を診するに度(五)を以て之を異にす。乃ち同名を別ち、病の主在所居を命ず可し。今臣意の診する所のものは、皆診籍(六)の之を別の所以のもの有り。臣意、師に受くる所の方適〻成りて師死せり。故を以て診する所を表籍(七)し、死生を期決し、失する所得る所のものを觀て、脈法に合す。故を以て今に至るまで之を知る。

(一)相互ひに類似して　(二)診脈の法　(三)脈所に命名し　(四)上は天、下は地として相應ぜしめ、中は人體に參照して合せたり　(五)度量を以て寸關尺の部位に分ちて異にせり　(六)診察名簿　(七)診察名簿に患者の姓名を配し置き

問ニ臣意一曰。所三期レ病決ニ死生一。或不レ應レ期何

臣意に問ひて曰く、病を期し死生を決する所、或ひは期に應ぜざるは、何の故ぞ。

對へて曰く、此れ皆飲食喜怒節(一)ならず、或ひは當に藥を飲むべからず、或ひは當

謂レ之。愼毋レ爲二勞力事一。爲二勞力事一。則必嘔レ血死。處後蹴踘。要蹷寒。汗出多。卽嘔レ血。臣意復診レ之曰。當二旦日日夕死一。卽死。病得二之內一。所三以知二項處病一者。切二其脈一得二番陽一。番陽入二虛裏一。處旦日死。一番一絡者牡疝也。臣意曰。他所三診期二決死生一。及所レ治已レ病衆多。久頗忘レ之。不レ能二盡識一。不二敢以對一。

に(四)旦日の日夕に死すべしと。卽ち死す。病之を內するに得たり。項處の病を知る所以のものは、其脈を切するに、番陽を得たり。(五)番陽虛裏に入る。處旦日死す。一番一絡するものは、牡疝なり。臣意曰く、他の診して(六)死生を期決する所、及び治して病を已す所衆多なり。久しくして頗る之を忘れたり、(七)盡く識す能はず。敢て以て對へず。

(一) 公乘は官名、項は姓、處は名 (二) 胸膈の下 (三) 腰に蹷寒を生じ (四) 明日の夕刻 (五) 陽脈にあるべき脈が却つて陰處にあること (六) 死生の診斷を下したる者 (七) 盡く記憶に存せず

問二臣意一。所レ診二治病一。病名多同而診異。或死或不レ死何也。對曰。病名

臣意に問ふ。診治する所の病、病名多く同じくして診すること異なり。或ひは死し或ひは死せざるは、何ぞや。對へて曰く、病名多く相類し、知る可からず。故に古聖人之れが(一)脈法を爲り、以て度量を起し、(二)規矩を立て、權衡を縣け、繩墨

陽武都里成開方。開方自言以爲ㇾ不ㇾ病。臣意謂ㇾ之。病苦二沓風一。三歳。四支不ㇾ能二自用一。使二人瘖一。瘖卽死。今聞二其四支不ㇾ能ㇾ用。瘖而未ㇾ死也。病得三之數飲ㇾ酒以見二大風氣一。所三以知二成開方病一者。診ㇾ之。其脈法奇咳言曰。藏氣相反者死。切ㇾ之得二腎反一ㇾ肺。法曰。三歳死也。

之を謂ふ。病沓風を苦しまん。三歳にして四支(一)自ら用ふること能はず。人をして瘖せしむ(二)。瘖せば卽ち死せんと。今其四支用ふる能はずと聞く。瘖して未だ死せざるなり。病之を數〻酒を飲み以て大風氣を見るに得たり。成開方の病を知る所以のものは、之を診するに、其脈法、奇咳の言に曰く、藏氣相反するものは死すと。之を切するに、腎(三)、肺に反するに得たり。法に曰く、三歸にして死すと。

(一) 手足 (二) 啞とならしむ (三) 腎脈の肺脈と相反するを發見したるによりて

安陵阪里公乘項處病。臣意診ㇾ脈曰。牡疝。牡疝。在二鬲下一。上連ㇾ肺。病得二之内一。臣意

安陵阪里の公乘(一)項處病む。臣意脈を診して曰く、牡疝なり。牡疝は鬲下(二)に在り。上、肺に連る。病之を内するに得たり。臣意之に謂ふ、愼みて勞力の事を爲すこと毋かれ、勞力の事を爲さば、則ち必ず血を嘔きて死せんと。處、後蹴踘す。要蹷(三)して寒し。肝出づること多し、卽ち血を嘔く。臣意復た之を診して曰く、當

藥入ㇾ中。則邪氣辟矣。而宛氣愈深。診法曰。二陰應ㇾ外。一陽接ㇾ內者。不ㇾ可ㇾ以二剛藥一。剛藥入則動ㇾ陽。陰病益衰。陽病益著。邪氣流行。爲ㇾ重二困於兪一。忿發爲ㇾ疽。意告ㇾ之後百餘日。果爲二疽發一乳上一。入二缺盆一死。此謂二論之大體一也。必有二經紀一。拙工有二一不ㇾ習。文理陰陽失矣。

齊王故爲二陽虛侯一時。病甚。衆醫皆以爲ㇾ蹶。臣意診ㇾ脈。以爲ㇾ痺。根在二右脅下一。大如二覆杯一。令二人喘逆氣不ㇾ能ㇾ食。臣意卽以二火齊粥一且飲。六日氣下。卽令三更服二丸藥一。出入六日病已。病得二之內一。診ㇾ之時不ㇾ能ㇾ識二其經解一。大識二其病所ㇾ在。

齊王故陽虛侯たりし時、病むこと甚だし。衆醫皆以て蹶と爲す。臣意脈を診し、以て痺と爲す。根(一)、右脅下に在り。大きさ覆杯(二)の如し。人をして喘し逆氣し食することを能はざらしむ。臣意卽ち火齊粥(三)、且つ飲とを以てす。六日にして氣下る。卽ち更に丸藥を服せしむ。出入六日にして、病已ゆ。病之を內するに得たり。之を診する時、(四)其經解を識ること能はず。(五)大は其病の在る所を識る。

(一)病根　(二)ふせたる酒盃位なり　(三)湯藥と粥と　(四)醫經の解說につきて、病症を知ること能はず　(五)大體の處は

臣意常診二安

臣意常て安陽武都里の成開方を診す。開方自ら言ひて以て病まずと爲す。臣意

亟勿服色將發癰。遂曰。扁鵲曰。陰石以治陰病。陽石以治陽病。夫藥石者。有陰陽水火之齊。故中熱即爲陰石柔齊治之。中寒即爲陽石剛齊治之。臣意曰。公所論遠矣。扁鵲雖言若是。然必審診。起度量。立規矩。稱權衡。合色脈。表裏有餘不足順逆之法。參其人動靜。與息相應。乃可以論。論曰。陽疾處內。陰形應外者。不加悍藥及鑱石。夫悍

度量を起し、規矩を立て、權衡を稱り、色脈を合せ、(五)表裏有餘不足順逆の法、其人の動靜と息と相應ずるを參し、乃ち以て論ず可し。論に曰く、陽疾內に處し、陰形外に應ずるものには、悍藥及び鑱石を加へず。夫れ悍藥中に入れば、則ち邪氣辟る。而して宛氣愈〻深し。診法に曰く、二陰(六)外に應じ、一陽(七)內に接するものは、剛藥を以てす可からず。剛藥入れば、則ち陽を動し、陰病益〻衰へ、陽病益〻著る。邪氣流行し、愈に重困することを爲し、忿發(八)して疽と爲ると。意之に告げて後百餘日、果して疽乳上に發するを爲し、缺盆(九)に入りて死す。此れ論(一〇)の大體を謂ふなり。必ず經紀(一一)有り。拙工(一二)一の習はざる有れば、文理陰陽(一三)失す。

(一)藥の名、即ち丹砂、雄黄、白礬、曾靑、慈石　(二)內部に熱あり　(三)強すぎる　(四)實情に疏し　(五)顏色と脈搏との度合を合せ　(六)少陰　(七)少陽　(八)吹き出して癰疽となる　(九)乳房の上の骨　(一〇)醫論の概略　(一一)臨機應變の手加減あり　(一二)未熟なる醫者　(一三)文章の理義と、病症の陰陽とに向つて共に誤解を生じ過失をなす

番陰脈。番陰脈入虚裏。乘肺脈。肺脈散者固色變也。乘之所以不中期死者。師言曰。病者安穀即過期。不安穀則不及期。其人嗜黍。黍主肺。故過期。所以溲血者。診脈法曰。病養喜陰處者順死。喜養陽處者逆死。其人喜自靜不躁。又久安坐。伏几而寐。血下泄。

(一)血の交りたる小便し　(二)陰脈の來ること散亂して數道に分れ一様ならず　(三)肺に陰氣が乘りたる色にして赤色をあらはせり　(四)肺氣已に破れて、虚なる中　(五)順道に安らかに死す　(六)逆道に苦しみて死す

齊王侍醫遂病。自練五石服之。臣意往過之。遂謂意曰。不肖有病。幸診遂也。臣意即診之。告曰。公病中熱。論曰。中熱不溲者。不可服五石。石之爲藥精悍。公服之。不得數溲。

齊王の侍醫遂病む。自ら五石を練りて之を服す。(一)臣意往きて之を過る。遂、意に謂ひて曰く、不肖病有り、幸に遂を診せよと。臣意即ち之を診し告げて曰く、公の病中熱す。(二)論に曰く、中熱して溲せざるものは、五石を服す可からず、石の藥たるや精悍なりと。(三)公之を服し、數〻溲することを得ず。亟かに服すること勿かれ。色將に臃を發せんとす。遂曰く、扁鵲曰く、陰石以て陰病を治し、陽石以て陽病を治す。夫れ藥石は、陰陽水火の齊有り。故に中熱すれば、即ち陰石柔齊を爲りて之を治し、中寒なれば、即ち陽石剛齊を爲りて之を治す。臣意曰く、公の論ずる所遠し。(四)扁鵲言ふこと是くの若しと雖も、然れども必ず審かに診し、

意以㆓淳于司馬病㆒爲㆑何。曰。以爲㆓迵風可㆑治。信即笑曰。是不㆑知也。淳于司馬病。法當後九日死。即後九日不㆑死。其家復召㆓臣意㆒。臣意往問㆑之。盡如㆓意診㆒。臣即爲㆓一火齊米汁㆒使㆑服㆑之。七八日病已。所㆓以知㆑之者。診㆓其脈㆒時。切㆑之盡如㆑法。其病順。故不㆑死。

齊中郎破石病。臣意診㆓其脈㆒告曰。肺傷。不㆑治。當㆓後十日丁亥。洩血死㆒。即後十一日洩血而死。破石之病。得㆔之墮㆑馬僵㆓石上㆒。所㆔以知㆓破石之病㆒者。切㆓其脈㆒得㆓肺陰氣㆒。其來散數道。至而不㆑一也。色又乘㆑之。所㆔以知㆓其墮㆑馬者。切㆑之得㆓

齊の中郎破石病む。臣意其脈を診し告げて曰く、肺傷る、治せずんば當に後十日丁亥に(一)洩血し死すべしと。卽ち後十一日洩血して死す。破石の病、之を馬より墮ち石上に僵るゝに得たり。破石の病を知る所以のもの、其脈を切するに肺の陰氣を得、(二)其來ること散じて數道、至りて一ならざるなり。色又之に乘ず。其の馬より墮つるを知る所以のもの、之を切し番陰の脈を得。(三)番陰の脈は(四)虛裏に入り、肺脈に乘ず。肺脈散ずるものは固より色變ず。之に乘ずるに期に中らず死する所以のものは、師の言に曰く、病者穀を安ずれば卽ち期を過ぐ。穀に安ぜずんば則ち期に及ばず。其人黍を嗜む。黍は肺を主どる。故に期を過ぐ。洩血する所以のものは診脈法に曰く、病養陰處を喜むものは(五)順に死す。喜みて陽處に養ふものは(六)逆に死すと。其人自靜を喜み、躁ならず。又久しく安坐し、几に伏して寐ね。故に血下泄す。

齊淳于司馬病。臣意切二其脈一告曰。當レ病二迵風一。迵風之狀。飲食下レ嗌輒後レ之。病得二之飽食而疾走一。淳于司馬曰。我之二王家一食二馬肝一。食飽甚。見二酒來一即走去。驅疾。至レ舍。卽泄數十出。臣意告曰。爲二火齊米汁一飲レ之。七八日而當レ愈。時醫秦信在レ旁。臣意去。信謂二左右閣都尉一曰。

齊の淳于司馬病む。臣意其脈を切して告げて曰く、當に迵風を病むべしと。迵風の狀、飲食嗌に下れば、輒ち之を後す。病之を飽食して疾走するに得たり。淳于司馬曰く、我れ王家に之き馬肝(一)を食ふ。食飽くこと甚だし。酒の來たるを見、卽ち走り去り、驅すること疾し。舍に至る。卽と泄すること數十出なりきと。臣意告げて曰く、火齊(二)、米汁を爲りて之を飲まば、七八日にして當に愈ゆべしと。時に醫秦信旁に在り。臣意去る。信左右の閣都尉(三)に謂ひて曰く、意は淳于司馬の病を以て何と爲すと。曰く以て迵風治す可しと爲す。信卽ち笑ひて曰く、是れ知らざるなり。淳于司馬の病、法當に後九日にして死すべしと。卽ち後九日にして死せず。其家復た臣意を召ぶ。臣意往き之を問ふ。盡く意の診の如し。臣卽ち一火齊米汁を爲り、之を服せしむ。七八日にして病已ゆ。之を知る所以のものは、其脈を診する時、之を切するに、盡く法の如し(四)。其病順なり。故に死せず。

(一) 馬の肝臟　(二) 湯藥と米汁と　(三) 閣は姓、都尉は官　(四) 醫法に陳べてある通りなり

臨菑氾里女子薄吾病甚。衆醫皆以爲寒熱篤當死不治。臣意診其脈曰。蟯瘕。蟯瘕爲病。腹大上膚黃麤。循之戚戚然。臣意飮以芫華一撮。即出蟯可數升。病已。三十日如故。病蟯得之於寒溼。寒溼氣宛。篤不發。化爲蟲。臣意所以知寒薄吾病者。切其脈。循其尺。其尺索刺麤。而毛美奉髮。是蟲氣也。其色澤者。中藏無邪氣及重病。

臨菑（一）の氾里の女子薄吾病甚だし。衆醫皆以て寒熱篤くして當に死すべし、治せずと爲す。臣意其脈を診して曰く、蟯瘕（二）なり。蟯瘕の病爲る、腹大にして上膚黃麤（三）にして、之を循づるに戚戚然（四）たり。臣意飮ましむるに芫華（五）一撮を以てす。卽ち蟯を出だすこと數升可なり。病已ゆ。三十日にして故の如し。蟯を病むは、之を寒溼に得たり。寒溼の氣宛し、篤くして發せず、化して蟲と爲る。臣意薄吾の病を知る所以（六）のものは、其脈を切し、其尺（七）を循づるに、其尺索（八）刺麤（九）にして、毛美（一〇）げて髮を奉ぐ。是れ蟲氣なり。其色澤なるは、中藏に邪氣及び重病無し。

（一）齊國の鄕 （二）疝蟲積り重なり苦痛を起す病なり （三）皮膚黃ばみきめあらくなりて （四）刺戟して痛みを起す （五）げんげ、殺蟲劑 （六）所以知の下寒の一字誤也、除く （七）古へ醫術の語、尺膚を診する部位、卽ち臂の內一尺の部分 （八）索は空。尺膚枯燥して、血液乏しく脂氣なきこと （九）皮膚荒れてざらざらすること （一〇）醫說に、毛焦學髮とあり、美は焦なるべし

然。建故有要脊痛。往四五日天雨。黃氏諸倩。見建家京下方石、卽弄之。建亦欲效之。效之不能起。卽復置之。暮要脊痛不得溺。至今不愈。建病得之好持重。所以知建病者。臣意見其色、太陽色乾。腎部上及界。要以下者枯四分所。故以往四五日知其發也。臣意卽爲柔湯使服之。十八日所而病愈。

濟北王侍者韓女病。要背痛寒熱。衆醫皆以爲寒熱也。臣意診脈曰。內寒。月事不下也。卽竄以藥。旋下病已。病得之欲男子而不可得也。所以知韓女之病者。診其脈時。切之腎脈也。嗇而不屬。嗇而不屬者。其來難堅。故曰。月不下。肝脈弦出左口。故曰。欲男子不可得也。

濟北王の侍者韓女病む。要背痛み、寒熱す(一)。衆醫皆以て寒熱と爲す。臣意脈を診して曰く、內寒なり(二)。月事(三)下らざるなり。卽ち竄(四)するに藥を以てす。旋下り、病已ゆ。病之を男子を欲して得可からざるに得たり(五)。韓女の病を知る所以のものは、其脈を診せし時、之を切するに、腎脈なり。嗇(六)にして屬せず、嗇にして屬せざるものは、其來たること難堅。故に曰く、月下らずと。肝脈弦し、左口に出づ。故に曰く、男子を欲して得可からざるなり。

(一) 惡寒を起し或は熱發す (二) 內部が寒氣に侵されて冷却したるなり (三) 月經 (四) 陰門に或る藥を注射す (五) 或男を戀へどもそれと交合されぬ故の病氣也 (六) 脈搏細く遲く連續せず

乾而臥。診如前。所以蹶頭熱至肩。

齊王黃姬兄黃長卿家有酒召客。召臣意。諸客坐未上食。臣意望見王后弟宋建。告曰。君有病。往四五日。君要脅痛不可俛仰。又不得小溲。不亟治。病即入濡腎。及其未舍五藏。急治之。病方今客腎濡。此所謂腎痺也。宋建曰。

齊王の黃姬の兄黃長卿の家に酒有り客を召す。臣意を召す。諸客坐し、未だ食を上らず。臣意、王后の弟宋建を望見し、告げて曰く、君病有り、往に四五日、君の要脅痛みて、俛仰す可からず、又小溲(一)を得ざりしならん。亟かに治せざんば、病即ち濡腎(二)に入らん。其の未だ五藏に舍せざるに及びて、急に之を治せよ。病方今腎濡に客す。此れ所謂る腎痺なり。宋建曰く、然り。建故と要脊の痛有り。往に四五日、天雨ふる。黃氏の諸倩、建の家の京下の方石を見て、即ち之を弄す。建も亦之に効はんと欲し、之を効ひて起すこと能はず、即ち復た之を置く。暮に要脊痛み、溺することを得ず。今に至りて愈えずと。建の病之を好みて重きを持するに得たり。建の病を知る所以のものは、臣意其色を見るに、太陽の色(三)乾く。腎部上り界に及び(四)、要以下は、枯るゝこと四分所なり。故に以往四五日、其發せしを知る。臣意即ち柔湯(五)を爲り、之を服せしむ。十八日所にして病愈えたり。

(一) 小便　(二) 腎に溜滯す　(三) 太陽系に屬する腰の後部の色衰へ枯れ乾く　(四) 太陽の界　(五) 湯藥

血死。所以知奴病者。脾氣周乘五藏。傷部而交。故傷脾之色也。望之殺然黃。察之如死青之玆。衆醫不知。以爲大蟲。不知傷脾。所以至春死病。者。胃氣黃。黃者土氣也。土者不勝木。故至春死。所以至夏死者。脈法曰。病重而脈順淸者曰內關。內關之病。人不知其所痛。心急然無苦。若加以一病。死中春。一愈順及一時。其所以四月死者。診其人時愈順。愈順者人尙肥也。奴之病。得之流汗數出。炙於火而以出見大風也。

の下、奴字あれども誤りなれば除く　(五) 脾臟の惡氣は、心肝腎肺脾の五臟の各部に入りわたり　(六) 散ずる貌　(七) 靑色の枯衰したる蓐席の如し　(八) 蚘蟲のしわざとなし　(九) 脈搏關にして淸らかなるもの　(一〇) 心明瞭にして苦しまず、急は誤りなるべし　(一一) 脈穴順調ならば、三箇月の生命を保ち得べし

菑川王病。召臣意診脈。曰。蹶上爲重。頭痛身熱。使人煩懣。臣意卽以寒水拊其頭。刺足陽明脈左右各三所。病旋已。病得之沐髮未

菑川王病む。臣意を召し脈を診せしむ。曰く、蹶上なり重しと爲す。頭痛み身熱し、人をして煩懣せしむ。臣意卽ち寒水を以て其頭を拊で、足の陽明の脈を刺すこと左右各〻三所にして、病旋已ゆ。病之を沐髮し未だ乾かずして臥せるに得たり。診前の如し。蹶して頭熱し肩に至る所以なり。

(一) 逆上の重きものなり、頗る重病となす　(二) 冷き水を以て其額を冷し　(三) 逆上して頭痛く肩に至りて其痛更に甚だしき謂なり

食飲。法至夏泄血死。宦者平卽往告相曰。君之舍人奴有病。病重。死期有日。相君曰。卿何以知之。曰。君朝時入宮。君之舍人奴。盡食閨門外。平與倉公立。卽示平曰。病如是者死。相卽召舍人。奴而謂之曰。公奴有病不。舍人曰。奴無病。身無痛者。至春果病。至四月泄

奴、病有りや不や。舍人曰く、奴、病無し、身痛む者無しと。春に至りて、果して病み、四月に至りて、血を泄して死す。奴の病を知る所以のものは、(五)脾氣周く五藏に乘じ、部を傷りて交る。故に脾を傷るの色なり。之を望むに(六)殺然として黃なり。之を察するに(七)死青の茲の如し。衆醫知らず、以て(八)大蟲と爲し、脾を傷るを知らず。春に至りて死病する所以のものは、胃氣は黃なり、黃は土氣なり。土は木に勝たず、故に春に至りて死す。夏になりて死する所以のものは、脈法に曰く、病重くして(九)脈順淸なる者を內關と曰ふ。內關の病は、人其痛む所を知らず。心(一〇)急然苦しむこと無し。若し加ふるに一病を以てせば、(一一)中春に死なん。一愈順なれば、一時に及ぶと。其の四月に死する所以のものは、其人を診する時、愈順なり。愈順なるものは、人尙ほ肥ゆ。奴の病、之を流汗數〻出でて、火に炙りて以て出でて大風を見るに得たり。

(一) 奥向の小門　(二) 胸膈閉ぢ塞がりて通ぜず　(三) 死する期限は最早幾日の後といふこと知れ居れり　(四) 舍人

意往飲以二莨碭藥一撮一。以レ酒飲レ之。旋乳。臣意復診二其脈一而脈躁。躁者有二餘病一。即飲以二消石一齊一。出レ血。血知レ豆比五六枚。

するに脈躁し。躁しきものは餘病有り。即ち飲ましむるに消石一齊を以てす。血を出だす、血豆の如く、比するに五六枚なりき。

(一)懷妊して產月に及び難產にて出生せず (二)藥の名 (三)一劑 (四)五六滴

齊丞相舍人奴從レ朝入レ宮。臣意見二之食二閨門外一。望二其色一有二病氣一。臣意即告二宦者平一。平好爲レ脈。學二臣意所一。臣意即示二之舍人奴病一。告レ之曰。此傷二脾氣一也。當レ至レ春鬲塞不レ通。不レ能二

齊の丞相の舍人の奴、朝に從ひ宮に入る。臣意之れが閨門の外に食するを見る。其色を望むに、病氣有り。臣意即ち宦者平に告ぐ。平好みて脈を爲し、臣意の所に學ぶ。臣意即ち之に舍人の奴の病を示し、之に告げて曰く、此れ脾氣を傷るなり。當に春に至りて鬲塞がりて通ぜず、食飲すること能はざるべし。法夏に至らば、血を泄して死せんと。宦者平即ち往きて相に告げて曰く、君の舍人の奴病有り、病重し。死期日有りと。相君曰く、卿何を何て之を知る。曰く、君朝せし時宮に入る。君の舍人の奴、盡く閨門の外に食す。平、倉公と立てり。即ち平に示して曰く、病是くの如き者は死すと。相即ち舍人を召して之に謂ひて曰く、公の

七十萬曹偶四人。王曰、得毋レ有レ病乎。臣意對曰。豎病重。在二死法中一。王召視レ之其顏色不レ變。以爲レ不レ然。不レ賣二諸侯所一。至レ春豎奉レ劍從二王之一レ廁。王去。豎後。王令二人召一レ之。卽仆二於廁一。嘔レ血死。病得二之流汗一。流汗者同法病內重。毛髮而色澤。脈不レ衰。此亦關內之病也。

事をさすことなかれ　(六)醫者の法理　(七)才能ある人　(八)方術を好み　(九)新案を出す　(一〇)彼等の仲間合せて四人あり　(一一)救ふ道なき醫法の中に在り　(一二)汗を流し過ぎたるによりて病を發せり　(一三)病氣內部に重くして表面に顯れず　(一四)毛髮の色などもつや／＼して變せず

齊中大夫病二齲齒一。臣意灸二其左大陽明脈一。卽爲二苦參湯一。日嗽三升。出入五六日。病已。得二之風及臥開レ口食而不レ嗽。

齊の中大夫齲齒を病む。(一)臣意其左の大陽明脈に灸し、(二)卽ち苦參湯を爲り、(三)日に嗽することと三升、出入五六日、(四)病已ゆ。之を風及び臥して口を開き食して嗽せざるに得たり。(五)

(一)蟲齒　(二)左手　(三)湯藥の名　(四)彼れ此れ五六日　(五)食後口を漱がず

菑川王美人懷レ子而不レ乳。來召二臣意一。臣

菑川王の美人、子を懷して乳せず。(一)來りて臣意を召す。臣意往き、飲ましむるに莨碭藥一撮を以てし、酒を以て之を飲ましむ。旋くして乳す。臣意復た其脈を診

曰。熱蹶也。則刺二其足心一各三所。案レ之無レ出レ血。病旋已。病得二之飲酒大醉一。濟北王召レ意診レ脈。諸女子侍者。至二女子豎一。豎無レ病。臣意告二永巷長一曰。豎傷レ脾不レ可レ勞。法當レ春嘔レ血死。臣意言レ王曰。才人女子豎何能。王曰。是好爲レ方多伎能爲レ所レ是。案レ法新。往年市二之民所一。四百

ゆ。病之を飲酒大醉に得たり。濟北王、意を召し脈を診せしむ。諸女子、侍者より、女子豎に至る。(三)豎病無しと。臣意永巷(四)の長に告げて曰く、豎脾を傷る、勞す(五)可からず。法、(六)春に當り血を嘔いて死せん。臣意王に言ひて曰く、才人女子豎(七)何をか能くする。王曰く、是れ好みて方(八)を爲し、伎多し。能く是とする所を爲し、法を案ずること新(九)なり。往年之を民の所に市ふ、四百七十萬なりき。曹偶(一〇)四人ありと。王曰く、病有ること毋きを得ん乎。臣意對へて曰く、豎の病重し、死法(一一)の中に在りと。王召して之を視る。其顏色變ぜず、以て然らずと爲し、諸侯の所に賣らず。春に至りて、豎、劒を奉じ王の廁に之くに從ふ。王去る。豎後る。王、人をして之を召ばしむ。卽ち廁に仆れ、血を嘔きて死せり。病之を流汗(一二)に得たり。流汗は、同法に(一三)病内重し。毛髪(一四)而も色澤あり。脈衰へず。此れ亦關内の病なり。

(一) 苦しみもだゆ　(二) 足のつちふまずに鍼治をなすこと三箇所　(三) 小性　(四) 女官の取締役の長　(五) 苦勞仕

胱。難二於前後一溲一而溺赤。病見二寒氣一則遺溺。使二人腹腫一。出於病得レ之欲レ溺不レ得。因以接レ内。所三以知二出於病一者。切二其脈一。大而實。其來難。是蹶陰之動也。脈來難者。疝氣之客二於膀胱一也。腹之所二以腫一者。言三蹶陰之絡結二小腹一也。蹶陰有レ過。則脈結動。動則腹腫。臣意即灸二其足蹶陰之脈一。左右各一所。即不二遺溺一而溲清。小復痛止。即更爲二火齊湯一以飲レ之。三日而疝氣散。即愈。

是れ蹶陰(八)の動なり。脈の來たること難きものは、疝氣の膀胱に客たるなり。腹の腫るゝ所以のものは、(九)蹶陰の絡、小腹に結するを言ふ、蹶陰過有れば、則ち脈結(一〇)動す。動すれば則ち腹腫る。臣意即ち其足の蹶陰の脈に灸すること、左右各々一所し、既ち遺溺せずして溲清み、小腹の痛み止む。即ち更に火齊湯を爲り、以て之に飲ましむ。三日にして疝氣散じ、即ち愈ゆ。

(一) 北宮は氏、司空は官名、其名を忘れたるを以て官をいふ (二) 本來大夫の妻をいふ、こゝにては北宮司空の妻を指す (三) 風邪が身内に浸入して (四) 鍼治を施す (五) 小便を泄らす (六) 患者の腹を服ましむ (七) 小便の出でんとするを忍んで房事を行へるによる (八) 蹶陰の動脈が指頭に感ずるなり (九) 蹶陰の經が病氣の爲に其の常度を失ひたる時は (一〇) 脈結は邪氣の爲に動くなり

故濟北王阿母自言。足熱而懣。臣意告

故の濟北王の阿母、自ら言ふ足熱して懣す(一一)と。臣意告げて曰く、熱蹶なりと。則ち其足心(一二)を刺すこと各々三所、之を案じて、血を出だすこと無し、病旋くして已

即爲二藥酒一盡二三石一。病已。得二之肝出伏レ地。所三以知二濟北王病一者。臣意切二其脈一時。風氣也。心脈濁。病法過二入其陽一。陽氣盡而陰氣入。陰氣入張。則寒氣上而熱氣下。故胸滿。汗出伏レ地者。切二其脈一氣陰。陰氣者。病必入レ中。出及二瀺水一也。

所以のものは、臣意其脈を切する時、風氣なり、心脈濁る。(四)病法に其陽に過入すれば、(五)陽氣盡きて陰氣入る。陰氣入りて張れば、則ち寒氣上りて熱氣下る。故に胸滿つ。肝出でて地に伏する者は、其脈を切するに、氣陰なり。陰氣なるものは、病必ず中に入る。出でて瀺水(六)に及ぶ。

(一)風氣にて逆上する病 (二)藥を調和したる酒 (三)非常に汗を出して地に臥したるによる (四)心臟脈 (五)風邪の氣過ぎて陽分に入れば (六)手足の汗

濟北宮司空命婦出於病。衆醫皆以爲二風入レ中。病主在レ肺。刺二其足少陽脈一。臣意診二其脈一曰。病氣疝。客二於膀

濟の北宮司空(一)の命婦(二)出於病む。衆醫皆以て風中に入り、(三)病主として肺に在りと爲し、其足の少陽の脈を刺す。臣意其脈を診して曰く、病、氣疝膀胱に客たり。(四)前後溲に難く、而して溺赤し。病、寒氣を見れば則ち遺溺す。(五)人をして腹腫せしむ。(六)出於の病、之を溺せんと欲して得ず、(七)因りて以て內に接するに得たり。出於の病を知る所以のものは、其脈を切するに、大にして實、其來たること難し、

寒中。臣意診二其脈一曰。迥風。迥風者。飲食下レ嗌。而輒出不レ留。法曰。五日死。而後十日乃死。病得二之酒一。所三以知二趙章之病一者。臣意切二其脈一。脈來滑。是內風氣也。飲食下レ嗌。而輒出不レ留者。法五日死。皆爲二前分界法一。後十日乃死。所二以過レ期者。其人嗜レ粥。故中藏實。中藏實。故過レ期。師言曰。安レ穀者過レ期。不レ安レ穀者不レ及レ期。

曰く、五日にして死すと。而るに後十日にして乃ち死す。病之を酒に得たり。趙章の病を知る所以のものは、臣意其脈を切するに、脈の來ること滑かなり。是れ內(三)風氣なり。飲食嗌に下つて、而して輒ち出でて留らざるものは、法に五日にして死す。皆前分界の法(四)爲り。後十日にして乃ち死す。期を過ぐる所以のものは、其人粥を嗜む、故に中藏實す。中藏實す、故に期を過ぐ。師の言に曰く、(五)穀を安ずる者は期を過ぐ、穀を安ぜざる者は期に及ばずと。

(一)寒氣の中にこもる病氣 (二)飲食物喉を下りて、直ぐ下痢して胃に止まらぬ病氣 (三)內部の肝臓に風入りて疾を起しゝもの (四)前に述べたる脈部を分界して之を日數に割り當て死期を知る法式なり (五)穀類を胃が受入れて落付くものは、期日よりも生き延び

濟北王病。召二臣意一診二其脈一。曰。風蹶胸滿。

濟北王病む。臣意を召して其脈を診せしむ。曰く、(一)風蹶胸滿つと。卽ち(二)藥酒を爲す。三石を盡して、病已ゆ。之を(三)肝出で地に伏するに得たり。濟北王の病を知る

曰。遺積瘕也。臣意即謂齊太僕臣饒。內史臣繇曰。中尉不復自止於內。則三十日死。後二十餘日溲血死。病得之酒且內。所以知潘滿如病者。臣意切其脈深小弱。其卒然合合也。是脾氣也。右脈口氣至緊小。見瘕氣也。以次相乘。故三十日死。三陰俱搏者如法。不俱搏者決在急期。一搏一代者近也。故其三陰搏。溲血如前止。

ち三十日にして死せんと。後二十餘日ありて、溲血(二)して死す。病之を酒し且つ内するに得たり。潘滿如の病を知る所以のものは、臣意其脈を切するに、深くして小弱に、其れ卒然として合合たり(三)。是れ脾氣なり。右の脈口の氣至りて緊にして小なり、瘕氣(四)を見る。次を以て相乘ず(五)。故に三十日にして死す。三陰(六)俱に搏するものは、法の如し。俱に搏せざるものは、決急期(七)に在り。一搏一代するものは近し。故に其三陰搏して溲血前の如くにして止す。

(一) 過飲過色より起る病 (二) 血の小便を出だして死す (三) 脈搏にはかに早くなりて相重なりたり (四) 瘕の病氣徴候たるを認む (五) 脈搏の是の次序を以て乘算するときは (六) 脾、肺、胃の三陰の脈一同に搏つことは (七) 死の決定は近き中に在り

陽虛侯相趙章病。召臣意。衆醫皆以爲

陽虛侯の相趙章病む。臣意を召す。衆醫皆以て寒中(二)と爲す。臣意其脈を診して曰く、迵風(一)なりと。迵風は、飲食嗌に下つて、而して輒ち出でて留らず。法に

代。不平者血不居其處。代者時參撃並至。乍躁乍大也。此兩絡脈絕。故死不治。所以加寒熱者。言其人尸奪。尸奪者形弊。形弊者不當關灸鑱石。及飲毒藥也。

下の陽明に結絶す。故に絡絶し、陽明の脈を開く。陽明の脈傷れば、即ち當に狂走すべし。(一一) 後五日にして死するものは、肝、心と相去ること五分なり。故に五日にして盡くと曰ふ。(一二) 盡くれば即ち死す。

（一）肺の精熱を消して肺の衰弱する病あるのに　（二）病者の隨意に養生すべし　（三）發狂すべし　（四）激怒して未だ氣治まらざる中に房事を行ひたるによりて得たる病なり　（五）諸經の虚熱の爲に惱めばなり　（六）寸關尺三部の脈搏三處より撃ち來るが如くに感じ　（七）衰弱甚だしく、瘠せて骨のみ立つ　（八）關節に灸治をなし鑱石の針療治をなし、及び劇藥を飲ましむるは不可　（九）烈毒藥なり　（一〇）寒熱病を起す　（一一）まさに熱氣盛になりて狂ひ走るべし　（一二）定度の五分盡くれば

臣意未往診時。齊太醫先診山跗病。灸其足少陽脈口。而飲之半夏丸。病者即泄注。腹中虛。又灸其少陰脈。是壞肝剛絕深。如是重損病者氣。以故加寒熱。所以後三日而當狂者。肝一絡連屬。結絕乳下陽明。故絡絕開陽明脈。陽明脈傷。即當狂走。後五日死者。肝與心相去五分。故曰五日盡。盡即死矣。

齊中尉潘滿如病少腹痛。臣意診其脈

齊の中尉潘滿如少腹痛を病む。臣意其脈を診して曰く、遺積瘕なり。(一) 臣意即ち齊の太僕臣饒、內史臣繇に謂つて曰く、中尉復た自ら內することを止めずんば、則

消癉也。加以寒熱。即告其人曰。死。不治。適其共養。此不當醫。治法曰。後三日而當狂。妄起行欲走。後五日死。即如期死。山跗病得之盛怒而以接內。所以知山跗之病者。臣意切其脈。肺氣熱也。脈法曰。不平。不鼓。形弊。此五藏高之遠。數以經病也。故切之時。不平而

すべからず。治法に曰く、後三日にして當に狂す(三)べし、妄に起行し、走らんと欲す。後五日にして死せんと。即ち期の如く死す。山跗の病、之を盛怒して以て內に接するに得たり。山跗の病を知る所以のもの、臣意其脈を切するに、肺氣熱するなり。脈法に曰く、平ならず鼓せず、形弊る。此れ五藏の高くして遠き、數〻(五)經を以て病むなり。故に之を切する時、平ならずして代す。平ならざるものは血其處に居らざるなり。代するものは時に參擊(六)竝び至り、乍ち躁に乍ち大なり。此れ兩絡脈絕す。故に死して治せず。寒熱を加ふる所以は、其人の尸奪するを言ふ。(七)尸奪するは形弊る。形弊るゝものは、當に(八)關灸鑱石し、及び毒藥を飮むべからざるなり。臣意未だ往き診せざる時、齊の太醫先に山跗の病を診し、其足の少陽の脈口に灸して、而して之に(九)半夏丸を飮ましむ。病者即ち泄注し、腹中虛なり。又其少陰の脈に灸して、是れ肝の剛を壞ること絕だ深し。是くの如きは、病者の氣を重損す。故を以て(一〇)寒熱を加ふ。後三日にし當に狂するべき所以のものは、肝の一絡連屬し、乳

腎。難二於大小溲一。溺赤。臣意飲以二火齊湯一。一飲即前後溲。再飲病已。溺如レ故。病得二之流レ汗出滫一。滫者去レ衣而汗晞也。所三以知二齊王太后病一者。臣意診二其脈一。切二其太陰之口一。溼然風氣也。脈法曰。沈レ之而大堅。浮レ之而大緊者。病主在レ腎。腎切レ之而相反也。脈大而躁。大者膀胱氣也。躁者中有レ熱而溺赤。

再飲して病已え、溺故(二)の如し。病は之を汗を流し出でて滫(三)するに得たり。滫するときは衣を去りて汗晞く。齊の太后の病を知る所以のものは、臣意其脈を診し、其太陰(四)の口を切するに溼然たるは、風氣なり。脈法に曰く、(五)之を沈めて大に堅く、之を浮べて大に緊なるもの、病主として腎(六)に在りと。腎之を切するに相反す。脈大にして躁なり。大なるものは、膀胱の氣なり、躁なるものは、中熱有りて溺赤し。

(一) 風と熱とが膀胱に一時留まり　(二) 小便色なく平常の如し　(三) 小便をする時　(四) 右手の太陰に當る寸口　(五) 診脈の指先　(六) 腎臟

齊章武里曹山跗病。臣意診二其脈一曰。肺

齊の章武里の曹山跗病む、臣意其脈を診して曰く、肺の消癉(一)なり、加ふるに寒熱を以てす。卽ち其人に告げて曰く、死せん、治せじ、其(二)共養に適せよ、此れ當に醫

壞。信則擧二車轅一未レ欲レ渡也。馬驚卽墮。信身入二水中一幾死。吏卽來救レ信。出二之水中一。衣盡濡。有レ間而身寒。已熱如レ火。至レ今不レ可三以見二寒。臣意卽爲二之液湯火齊一逐レ熱。一飮汗盡。再飮熱去。三飮病已。卽使レ服レ藥。出入二十日。身無二病者一。所三以知二信之病一者。切二其脈一幷レ陰。脈法曰。熱病陰陽交者死。切レ之不レ交幷陰。幷レ陰者脈順淸而愈。其熱雖レ未レ盡猶活也。腎氣有レ時間濁。在二太陰脈口一而希。是水氣也。腎固主レ水。故以レ此知レ之。失二治一時一卽轉爲二寒熱一。

して病已ゆ。卽ち藥を服せしむること出入二十日にして、身病むもの無し。信の病を知る所以は、其脈を切する時、陰を幷す。(四)脈法に曰く、熱病陰陽交るものは死す。之を切するに交はらず。陰を幷す。陰を幷する者は、脈順淸にして愈ゆ。其熱未だ盡きずと雖ども、猶ほ活く。腎氣時有りて間濁る。太陰の脈口に在りて希なり。是れ水氣なり。腎は固より水を主る。故に此を以て之を知る。(七)治を一時に失すれば、卽ち轉じて(八)寒熱と爲る。

(一) 今や暑氣にて汗出づ　(二) 去冬　(三) 川の名　(四) 彼れ是れ　(五) 治療手後れとなれば

齊王太后病。召二臣意一。入診レ脈曰。風癉客レ

齊王の太后病む。臣意を召し入りて脈を診せしむ。曰く、風癉脬に(一)客たり、大小溲に難む、溺赤し。臣意飮ましむるに火齊湯を以てす。一飮して卽ち前後溲し、

内。所三以知二循病一者。切二其脈一時。右口氣急。脈無二五藏氣一。右口脈大而數。數者中下熱而湧。左爲レ下。右爲レ上。皆無二五藏應一。故曰二湧疝一。中熱故溺赤也。

むろもの也 ㈣ 小便 ㈤ 火に煎ずる藥、湯液に同じ ㈥ 右方の手の上段寸口の所に於て脈搏急なり ㈦ 内部に熱を起す ㈧ 小便の色赤し

齊中御府長信病。臣意入診二其脈一。告曰。熱病氣也。然暑汗。脈少衰。不レ死。曰。此病得二之當レ浴二流水一而寒甚已則熱。信曰。唯然。往冬時。爲レ王使二於楚一。至二莒縣陽周水一。而莒橋梁頗

齊の中御府の長信病む。臣意入りて其脈を診し告げて曰く、熱病の氣なり。然るに暑汗あり脈少しく衰ふ。死せず。曰く、此の病之を流水に浴するに當りて寒さ甚だしく、已にして則ち熱するに得たり。信曰く、唯、然り。往冬の時、王の爲に楚に使す、莒縣の陽周水に至る。而して莒の橋梁頗る壞る。信則ち車轅を擥りて未だ渡るを欲せざるなり。馬驚きて卽ち墮つ。信の身水中に入り幾ど死せんとす。吏卽ち來りて信を救ひ、之を水中より出だす。衣盡く濡ふ。間有りて、身寒し、已にして熱すること火の如し。今に至りて以て寒を見る可からずと。臣意卽ち之が液湯火齊を爲し、熱を逐ふ。一飲して汗盡き、再飲して熱去り、三飲

也。脈法曰。脈來數病去難。而不一者。病主在心。周身熱。脈盛者爲重陽。重陽者湯心主。故煩懣食不下。則絡脈有過。絡脈有過則血上出。血上出者死。此悲心所生也。病得之憂也。

を無理に飲食するによりて得たり ㊂ 氣の下る藥湯 ㊃ 滑りて躁がしくして、輕く浮べるを認む ㊄ 二陽の結べる病 ㊅ 盪動す ㊆ 血逆上して出づ

齊郎中令循病。衆醫皆以爲蹷入中。而刺之。臣意診之曰。湧疝也。令人不得前後溲。循曰。不得前溲三日矣。臣意飲以火齊湯。一飲得前溲。再飲大溲。三飲而疾愈。病得之

齊の郎中令循病む。衆醫皆以て、(一)蹷中に入ると爲して之を刺す。臣意之を診して曰く、(二)湧疝なり。(三)人をして前後の溲を得ざらしむと。循曰く、(四)前溲を得ざること三日なり。臣意飲ましむるに、(五)火齊湯を以てす。一飲して前溲を得、再飲して大溲す。三飲して疾愈ゆ。病之を内に得たり。循が病を知る所以のもの、其脈を切する時、(六)右口氣急に、脈に五藏の氣無し。右口の脈大にして數〻す、數〻するもの中下熱して湧く。左を下と爲し、右を上と爲す、皆五藏の應無し。故に湧疝と曰ふ。(七)中熱す故に溺赤し。(八)

㊀ 蹷腹中に入るとなし、鍼治を爲す ㊁ 小腹を引きて急に痛みを感ずる病 ㊂ この病は人小便を通せざらし

薰二陽明一爛流レ絡。流レ絡動則脈結發。脈結發。則爛解。故絡交熱。氣已上行。至レ頭而動。故頭痛。

齊王中子諸嬰兒小子病。召二臣意一。診二切其脈一。告曰。氣鬲病。病使二人煩懣一。食不レ下。時嘔レ沫。病得二之少憂數忔食飲一。臣意即爲レ之作二下氣湯一以飲レ之。一日氣下。二日能食。三日即病愈。所三以知二小子之病一者。診二其脈一。心氣也濁躁而經也。此絡陽病

齊王の中子諸嬰兒の小子病む。臣意を召し其脈を診切せしむ。告げて曰く、氣鬲の病なり。病、人をして煩懣(一)せしめ、食下らず、時に沫を嘔く。病ひ之を少きより憂へ數〻忔(二)して食飲するに得たり。臣意即ち之れが爲に(三)下氣湯を作り、以て之を飲ましむ。一日にして氣下り、二日にして能く食し、三日にして即ち病愈ゆ。小子の病を知る所以のものは、其脈を診するに、心氣は濁躁(四)して經するなり。此れ(五)絡陽の病なり。脈法に曰く、脈來ること數〻なるは、病去ること難し。而して一ならざるものは、病主として心に在り。周身熱し、脈盛なるものは、重陽と爲す。重陽なるもの心主を遏(六)す。故に煩懣して食下らざれば、則ち絡脈過有り。絡脈過有れば、則ち血(七)上出する者は死す。此れ悲心の生ずる所なり。病之を憂に得るなり。

(一) もだへくるしましめ、飲食物胃の腑に下らず、時々津液の凝り聚りて成れる痰を吐く　(二) 心に欲せざる食物

肝氣濁而靜。此內關之病也。脈法曰。脈長而弦。不レ得レ代ニ四時一者。其病主在ニ於肝一。和卽經主レ病也。代則絡脈有レ過。經主レ病和者。其病得ニ之筋髓裏一。其代絕而脈貫者。病得ニ之酒且內一。所三以知ニ其後五日而癰腫。八日嘔レ膿死一者。切ニ其脈一時少陽初代。代者經病。病去過レ人。人則去レ絡脈主レ病。當ニ其時一。少陽初關一分。故中熱而膿未レ發也。及ニ五分一則至ニ少陽之界一。及ニ八日一則嘔レ膿死。故上二分而膿發。至レ界而癰腫。盡泄而死。熱上則

病、病去りて人を過ぐ。人則ち絡を去り、脈病を主る。其時に當りて、少陽初關の一分、故に中熱して(一三)膿未だ發せざるなり。五分に及べば、則ち少陽の界に至る。八日に及べば、則ち膿を嘔き死す。故に上二分にして膿發し、界に至りて癰腫し、盡く泄して死す。熱上れば則ち陽明を熏じ(一四)、爛して絡に流る。絡に流れて動けば、則ち脈結發す(一五)。脈結發すれば、則ち爛解く。故に絡の交ること(一六)熱す。氣已に上行し、頭に至りて動く。故に頭痛す。

(一) 病氣の容體惡しきこと此上なし (二) 內癰なり (三) 癕は癰に同じ、癰の腫物生ずべし (四) 酒を飲み過ぐし、房事度を超えたるより得たる病なり (五) 內氣相拚絡して外貌には變りなくして見はれざる病なり (六) 脈法の書 (七) 長くして弦の如く柔かに (八) 春夏秋冬四時の變遷に因つて迭ひに更代することを得ざるもの (九) 肝の和は卽ち經が病主 (一〇) 脈の代止するときは (一一) 其脈代脈となりて中ばにして弛みては絕え、又大に張るものは (一二) 少陽の處にて初めて代脈を見出したり (一三) 中に熱ありて (一四) 手足の陽明の處に邪熱は蒸し上り、其の溜脈は爍らし動かす (一五) 脈の鬱結するものは復ひ發す (一六) 脈絡は交々上に通徹し熱氣逆上す

之所敢望也。臣意卽避席再拜謁。受其脈書上下經。五色診。奇咳術。揆度陰陽外變。藥論石神。接陰陽禁書。受讀解驗之可一年所。明歲。卽驗之有驗。然尚未精也。要事之三年所。卽嘗已爲人治。診病。決死生。有驗精良。今慶已死十年所。臣意年盡三年。年三十九歲也。

齊侍御史成。自言病頭痛。臣意診其脈。告曰。君之病惡不可言也。卽出。獨告成弟昌曰。此病疽也。內發於腸胃之間。後五日。當臃腫。後八日。嘔膿死。成之病得之飲酒且內。成卽如期死。所以知成之病者。臣意切其脈。得肝氣。

齊の侍御史成、自ら言ふ頭痛を病めりと。臣意其脈を診し告げて曰く、君の病惡(一)しきこと言ふ可からざるなりと、卽ち出づ。獨り成の弟昌に告げて曰く、此は病疽(二)なり、內、腸胃の間に發す。後五日にして、當に臃腫(三)すべし。後八日にして、膿を嘔きて死せんと。成の病、之を酒を飲み且つ內するに得たり。成卽ち期の如くにして死す。成の病を知る所以の者(四)、臣意其脈を切するに、肝氣に得たり。肝氣濁にして靜なり、此れ內關(五)の病なり(六)。脈法に曰く(七)、脈長にして弦、四時に代る(八)を得ざるものは、其病主として肝に在り。和(九)は卽ち經、病を主る、代は則ち絡(一〇)脈過有り。經、病を主り和するものは、其病之を筋髓の裏に得、其代絕して脈賁なるものは、病之を酒且つ內するに得と、其後五日にして臃腫(一一)し、八日にして膿を嘔き死するを知る所以のものは、其脈を切する時に、少陽(一二)初めて代す。代は經の

藥已。其病之狀皆何如。具悉而對。臣意對曰。自意少時喜醫藥。醫藥方試之多不驗者。至高后八年。得見師臨菑元里公乘陽慶。慶年七十餘。意得見事之。謂意曰。盡去而方書。非是也。慶有古先道遺傳黃帝扁鵲之脈書。五色診病。知人死生。決嫌疑。定可治。及藥論書甚精。我家給富。心愛公。欲盡以我禁方書悉教公。臣意即曰。幸甚。非意

生死を知り、嫌疑を決し、治す可きを定む。及び藥論(六)の書甚だ精し。我が家給富(七)なり。心、公を愛す。盡く我が禁方の書を以て悉く公に敎へんと欲すと。臣意卽ち曰く、幸ひ甚だし、(八)意の敢へて望む所に非ざるなりと。臣意卽ち席を避け再拜し謁して其脈書上下經、五色の診、(九)奇咳術、陰陽外變を揆度するもの、藥論石神、(一〇)陰陽を接する(一一)禁書を受く。受け讀み之を解驗する(一二)に、一年所なる可し。明歲、卽ち之を驗するに、驗有り。然れども尙ほ未だ精ならざるなり。之を要事すること(一三)三年所、卽ち嘗に已て人の爲に治し、病を診し、死生を決するに、驗有りて精良なり。今慶已に死して十年所、臣意年三十九歲なり。(一四)

(一) 死官となりて自家に引籠りて居る (二) 診察して死生を言ひ當てたるもの (三) 醫術 (四) 巨細に書き立てゝ
(五) 古先傳來の良醫方あり (六) 藥の事を議論せる事を記したる書物 (七) 財產に富む (八) 意不才なる押し窮み得らるゝ處にはあらず (九) 咳は侅に作るを是とす、奇秘非常の說 (一〇) 鍼治の神術 (一一) 男女交接のこと
(一二) 理解して經驗するに (一三) 事門に研究すること (一四) 師に隨ひて研究すること三年、時に年三十九

之二長安一。意有二五女一。隨而泣。意怒罵曰。生レ子不レ生レ男。緩急無二可レ使者一。於レ是少女緹縈傷二父之言一。乃隨レ父西。上書曰。妾父爲レ吏。齊中稱二其廉平一。今坐レ法當レ刑。妾切痛。死者不レ可二復生一。而刑者不レ可二復續一。雖レ欲二改レ過自新一。其道莫レ由。終不レ可レ得。妾願入身爲二官婢一。以贖二父刑罪一。使レ得二改レ行自新一也。書聞。上悲二其意一。此歳中。亦除二肉刑法一。

改悛の道あるも其由るべき道なし　(九)一身を捧げ官の婢となり

意家居。詔召問下所二爲治一病。死生驗者幾何人。主名爲誰。詔問。故太倉長臣意。方伎所レ長。及所二能治一病者。有二其書一無レ有。皆安受レ學。受レ學幾何歲。嘗有レ所レ驗何縣里人也。何病。醫

意家居す。(一)詔し召して爲治する所の病と、死生驗する者幾何人と、主名誰爲るとを問ふ。詔して問ふ、故の太倉の長臣意の方伎(二)の長ずる所、及び能く病を治する所の者、其書有るか、有ること無きか。皆安(三)くに學を受くるか、學を受くる幾何歲ぞ。嘗て驗する所有るは、何の縣里の人ぞ、何の病ぞ。醫藥其病を已すの狀皆何如ん。具(四)悉して對へよと。臣意對へて曰く、意の少き時より、醫藥を喜む。醫藥の方、之を試みるに驗あらざる者多し。高后八年に至りて、師臨菑元里の公乘陽慶に見ゆることを得。慶年七十餘、意見ゆるを得て之に事ふ。意に謂ひて曰く、盡く而の方書を去れ、是に非ざるなり。慶古(五)先の道有り、黄帝扁鵲の脈書を遺傳す。五色、病を診し、人の

年七十餘無子。使意盡去其故方。更悉以禁方予之。傳黃帝扁鵲之脈書。五色診病。知人死生。決嫌疑。定可治。及藥論甚精。受之三年。爲人治病。決死生多驗。然左右行游諸侯。不以家爲家。或不爲人治病。病家多怨之者。文帝四年中。人上書言意。以刑罪當傳西

に驗多し。然れども左右諸侯に行游し、(四)家を以て家と爲さず。或ひは人の爲に病を治せず。病家之を怨む者多し。文帝四年中に、人上書して意を言ふ、刑罪を以てす。(五)傳して西のかた長安に之くに當す。意に五女有り、隨ひて泣く。意怒り罵りて曰く、子を生むも男を生まざれば、(六)緩急使ふ可き者無しと。是に於て少女緹縈父の言を傷み、乃ち父に隨ひ西す。上書して曰く、妾の父吏と爲る。齊中其廉平を稱す。今法に坐して刑に當す。妾切に痛む。死者は復た生く可からず。而して(七)刑者は復た續ぐ可からず。過を改め自ら新にせんと欲すと雖も、(八)其道由ること莫し。終に得可からず。妾願くは(九)入身して官婢と爲り、以て父の刑罪を贖ひ、行を改め自ら新にすることを得しめんと。書聞す。上、其意を悲しむ。此の歳中、亦肉刑の法を除く。

(一) 今まで修めたる醫方を捨てしむ (二) 診脈のことを記せる書物 (三) 五臟の作用によりて外部にあらはれたる顏色によりて病を診察し (四) 自分の家を以て家と思はず、產業を治むることをせず (五) 宿次を以て長安に送らるる罪人 (六) 急場の役に立たず (七) 一旦肉刑にかゝり切斷せられたる手足は復びつぎ合はする事は出來ぬ (八)

適。三不治也。陰陽并藏氣不定。四不治也。形羸不能服藥。五不治也。信巫不信醫。六不治也。有此一者。則重難治也。扁鵲名聞天下。過邯鄲聞貴婦人。即爲帶下醫。過雒陽聞周人愛老人。即爲耳目痺醫。來入咸陽聞秦人愛小兒。即爲小兒醫。隨俗爲變。秦太醫令李醯自知伎不如扁鵲也。使人刺殺之。至今天下言脈者由扁鵲也。

ち耳目痺の醫と爲る。(五)來りて咸陽に入るとき、素人小兒を愛するを聞き、即ち小兒の醫と爲る。(六)俗に隨ひ變を爲す。(七)秦の太醫令李醯自ら伎の扁鵲に如かざるを知るや、人をして之を刺殺せしむ。今に至るまで、天下脈を言ふ者、扁鵲に由る。

(一) 惱みとす　(二) 陰陽が併せて血氣混亂し五臟の安定を得ざるは　(三) 土地の風俗婦人を貴ぶ由を聞き　(四) 婦人科の醫者　(五) 老人專門の醫者　(六) 小兒科の醫者　(七) 風俗に隨ひて醫療の態度を變ふ

太倉公者。齊太倉長。臨菑人也。姓淳于氏。名意。少而喜醫方術。高后八年。更受師同郡元里公乘陽慶。慶

太倉公は、齊の太倉の長にして、臨菑の人なり。姓は淳于氏、名は意。少くして醫の方術を喜む。高后の八年、更に師の同郡元里の公乘陽慶に受く。慶年七十餘にして子無し。意をして盡く其故方を去らしむ。更に悉く禁方を以て之に予へ、黄帝扁鵲の脈書(二)を傳ふ。(三)五色病を診し、人の死生を知り、嫌疑を決し、治す可きを定め、及び藥論、甚だ精し。之を受くる三年人の爲に病を治し、死生を決する

將深。桓侯不應。扁鵲出。桓侯不悅。後五日。扁鵲復見。望見桓侯而退走。桓公使人問其故。扁鵲曰。疾之居腠理也。湯熨之所及也。在血脈。鍼石之所及也。其在腸胃。酒醪之所及也。其在骨髓。雖司命無奈之何。今在骨髓。臣是以無請也。後五日。桓侯體病。使人召扁鵲。扁鵲已逃去。桓侯遂死。

㊀皮膚に在り ㊁疾進みて血脈に存在す ㊂疾更に進みて腸胃の間に存在す ㊃そこ〳〵にして退き歸る ㊄人命を司る神

使聖人預知微。能使良醫得蚤從事。則疾可已。身可活也。人之所病病疾多。而醫之所病病道少。故病有六不治。驕恣不論於理。一不治也。輕身重財。二不治也。衣食不能

聖人をして預め微を知らしめ、能く良醫をして蚤く事に從ふを得しめば、則ち疾已ゆ可く、身活く可きなり。人の病む所は、疾の多きを病む。而して醫の病する所は、病道少し、故に病に六不治有り。驕恣理を論ぜざるは、一の不治なり。身を輕んじ財を重んずるは、二の不治なり。衣食適する能はざるは、三の不治なり。陰陽幷せ、藏氣定らざるは、四の不治なり。形羸れて藥を服する能はざるのは、五の不治なり。巫を信じ醫を信ぜざるは、六の不治なり。此の一の者有れば、則ち重くして治し難きなり。扁鵲の名天下に聞ゆ。邯鄲に過ぎるとき、婦人を貴ぶを聞き、卽ち帶下の醫となる。雒陽に過ぎるとき、周人の老人を愛するを聞き、卽

扁鵲過ㇾ齊。齊桓公客ㇾ之。入朝見曰。君有ㇾ疾在₂腠理₁。不ㇾ治將ㇾ深。桓公曰。寡人無ㇾ疾。扁鵲出。桓侯謂₂左右₁曰。醫之好ㇾ利也。欲下以₂不ㇾ疾者₁爲ㇾ功。後五日。扁鵲復見曰。君有ㇾ疾在₂血脈₁。不ㇾ治恐深。桓侯曰。寡人無ㇾ疾。扁鵲出。桓侯不ㇾ悅。後五日。扁鵲復見曰。君有ㇾ疾在₂腸胃間₁。不ㇾ治

扁鵲齊に過ぎる。齊の桓公之を客とす。入朝し見えて曰く、君疾有り、腠理に在り。治せずんば將に深からんとすと。桓公曰く、寡人疾無し。扁鵲出づ。桓侯左右に謂ひて曰く、醫の利を好むや、疾まざる者を以て功を爲さんと欲すと。後五日ありて、扁鵲復た見えて曰く、君疾有り血脈に在り。治せずんば恐らくは深からん。桓侯曰く、寡人疾無し。扁鵲出づ。桓侯悅ばず。後五日ありて、扁鵲復見えて曰く、君疾有り腸胃の間に在り、治せずんば將に深からんと。桓侯應へず。扁鵲出づ。桓侯悅ばず。後五日ありて、扁鵲復た見ゆ。桓侯を望見して退き走る。桓侯人をして其故を問はしむ。扁鵲曰く、疾の腠理に在るは、湯熨の及ぶ所なり。血脈に在るは、鍼石の及ぶ所なり。其の腸胃に在るは、酒醪の及ぶ所なり。其の骨髓に在るは、司命と雖も之を奈何ともする無し。今骨髓に在り、臣是を以て請ふ無きなりと。後五日ありて、桓侯體病む。人をして扁鵲を召さしむ。扁鵲已に逃れ去る。桓侯遂に死す。

而不ㇾ爲ㇾ使。上有二絕陽之絡一。下有二破陰之紐一。破陰絕陽之色已廢脈亂。故形靜如二死狀一。太子未ㇾ死也。夫以ㇾ陽入二陰支蘭藏一者生。以ㇾ陰入二陽支蘭藏一者死。凡此數事皆五藏蹷中之時暴作也。良工取ㇾ之。拙者疑殆。扁鵲乃使三弟子子陽厲二鍼砥石一。以取二外三陽五會一。有ㇾ間太子蘇。乃使下子豹爲二五分之熨一。以二八減之齊和一煮ㇾ之。以更熨中兩脇下上。太子起坐。更適二陰陽一。但服ㇾ湯二旬而復ㇾ故。故天下盡以二扁鵲一爲三能生二死人一。扁鵲曰。越人非三能生二死人一也。此自當ㇾ生者。越人能使二之起一耳。

子蘇す。乃ち子豹をして五分の熨(一二)を爲り、八減の齊和(一三)を以て之を煮、以て更〻兩脇下を熨せしむ。太子起坐し、更に陰陽に適す(一四)。但湯を服すること二旬にして故に復す。故に天下盡く扁鵲を以て能く死人を生かすと爲す。扁鵲曰く、越人能く死人を生かすに非ざるなり。此れ自ら當に生く可き者、越人能く之をして起たしむるのみと。

(一) 逆上して死ぬるが如くになり、人事を覺えざる病なり (二) 身中の經脈をとりまき (三) 上焦、中焦、下焦。上焦は心臟の下、中焦は胃臟の中脘、下焦は臍下の膀胱 (四) 內部に鼓動して表面に見れず、上れる陰脈は外に絕えて陽脈を使ひ動かすことをせず (五) 上れる陰氣は陽氣を絕ちて、活動力を失へる脈絡のみあり (六) 血色已に廢れ、脈擾亂る (七) 五臟を支へとゞむること (八) 五臟の氣、身中に於て逆上して蹷する時に (九) 技術に長けたる名醫 (一〇) 大陽、小陽、陽明 (一一) 百會、胸會、聽會、氣會、臑會 (一二) 溫度五分ばかりの熨斗を作り (一三) 減量八分目ばかりの調劑藥を以て (一四) 陰陽調適す

而不下。乃以扁鵲言入報虢君。虢君聞之大驚。出見扁鵲於中闕曰。竊聞高義之日久矣。然未嘗得拜謁於前也。先生過小國。幸而擧之。偏國寡臣幸甚。有先生則活。無先生則棄捐塡溝壑。長終而不得反。言未卒。因噓唏服臆。魂精泄橫。流涕長潸。忽忽承睫。悲不能自止。容貌變更。

を御心に留めらる　(八)　是れ限り捨てられて溝壑の埋草となりて　(九)　すゝり泣きをして、氣排詰まり　(一〇)　悲哀の情外にあらはれ　(一一)　長くさめざめと泣き　(一二)　涕を流して、睫毛に一杯に溜め

扁鵲曰。若太子病。所謂尸蹷者也。夫以陽入陰中。動胃纏緣中經維絡。別下於三焦膀胱。是以陽脈下遂。陰脈上爭。會氣閉而不通。陰上而陽內行。下內鼓而不起。上外絕

扁鵲曰く、太子の病の若きは、所謂る尸蹷なる者なり。(一)夫れ陽を以て陰中に入り、胃を動かし中經の維絡を纏緣す。(二)別れて三焦膀胱に下る。(三)是を以て陽脈下り遂し、陰脈上り爭ひ、會氣閉ぢて通ぜず、陰上りて陽內行し、下、內鼓して起らず、上、外絕して使を爲さず、(四)(五)上、絕陽の絡有り、下、破陰の紐有り。(六)破陰絕陽の色已に廢し脈亂る。故に形靜にして死狀の如し、太子未だ死せざるなり。夫れ陽を以て陰の支蘭藏に入る者生き、(七)陰を以て陽の支蘭藏に入る者死す。凡そ此の數事は、皆五藏蹷中の時に暴作するなり。(八)良工之を取り、(九)拙者は疑殆すと。扁鵲乃ち弟子子陽をして鍼を砥石に厲せしめ、以て外の三陽五會を取る。(一〇)(一一)間く有りて、太

方也。不レ待二切レ脈。望レ色聽レ聲寫レ形。言二病之所一レ在。聞二病之陽一。論得二其陰一。聞二病之陰一。論得二其陽一。病應見二於大表一。不レ出二千里一。決者至衆。不レ可二曲止一也。子以二吾言一爲レ不レ誠。試入診二太子一。當レ聞二其耳鳴而鼻張一。循二其兩股一。以至二于陰一。當二尙溫一也。中庶子聞二扁鵲言一。目眩然而不レ瞚。舌撟然

き、論じて其陽を得、(三)病の應大表に見る。千里に出でざるも、(四)決する者至りて衆し、曲止す可からざるなり。(五)子我が言を以て誠ならずと爲さば、試に入りて太子を診せよ。當に其耳鳴りて鼻張るを聞くべし。其兩股を循でて以て陰に至らば、當に尙ほ溫なるべし。中庶子、扁鵲の言を聞き、(六)目眩然として瞚せず、舌撟然として下らず。乃ち扁鵲の言を以て入り虢君に報ず。虢君之を聞き、大に驚き、出でて扁鵲を中闕に見て曰く、竊に高義を聞くの日久し。然るに未だ嘗て前に拜謁するを得ざるなり。先生小國に過ぎる、幸にして(七)之を舉す。偏國寡臣の幸甚だし。先生有らば則ち活き、先生無くば則ち(八)棄捐して溝壑に塡て、長終して反ることを得ざらんと。言未だ卒らざるに、因りて(九)噓唏服臆し、(一〇)魂精泄橫し、(一一)流涕長潸し、(一二)忽忽瞚に承く。悲しみて自ら止むこと能はず、容貌變更す。

(一) 醫方をなす (二) 脈を診察し、顏色の浮沈を察み、音聲を聞き、形態の樣子を寫し取りなどすゝ必要なくして (三) 病氣の反應は、外部見證に現はる (四) 千里の遠方に出でずして內に在りて何病なるかを決定する者甚だ多し (五) 委曲に陳じ難し、止は助詞 (六) 驚きの餘り、目くらみてまたゝきもせず、舌は强張りて動かず (七) 號の事

在二於鄭一。未四嘗得三望下精光上侍二謁於前一也。聞二太子不幸而死一。臣能生レ之。中庶子曰。先生得レ無レ誕レ之乎。何以言二太子可一レ生也。臣聞上古之時。醫有二兪跗一。治レ病不レ以二湯液醴灑一。鑱石撟引。案杌毒熨。一撥見二病之應一。因二五藏之輸一。乃割レ皮解レ肌。訣レ脈。結レ筋。搦二髓腦一。揲二荒爪幕一。湔二浣腸胃一。漱二滌五藏一。練レ精易レ形。先生之方能若レ是。則太子可レ生也。不レ能レ若レ是而欲レ生レ之。曾不レ可下以告二咳嬰之兒一。終上レ日。

(一) 官名、我邦の東宮侍從の如きもの (二) 醫術 (三) 祈禱を爲す有樣たゞ事ならず (四) 血液の循環不規則にして時ならず、入り交りて邪氣毛孔より發散する能はず (五) 一旦蓄りたる氣の外に爆然發する時は、熱邪の氣攻めて內臟を害す (六) 精氣ゆるみ、邪氣盛なり (七) 俄かに逆上して (八) 雞鳴の時より只今に及ぶ (九) 御遺骸は棺中に收められしか (一〇) 精一に淸に作る、御威光の御容貌を拜し奉り (一一) 御冗談を仰せらるゝにはあらざるか (一二) 湯藥酒藥を飮ますこと (一三) 石針をなし或ひは足にて履みて、按摩をなすこと (一四) 按摩して身體を撫で擦り調節をよくし、火斗(ヒノシ)を以て膏藥を貼付すること (一五) 一度衣服を撥ねて開き見れば、病候の內より應じて外に發現せるを認め (一六) 輸穴の所在により (一七) 壅塞せるをさぐり通し (一八) 取りおさへ (一九) 爪は誤衍、盲膜をしらべ持ち (二〇) 精神の元氣を練り鍛へ、形態を取り易へて元氣をつく (二一) 無智なる孩兒たりとも、忽ち看破して妄誕の事を告げて一日を終ふること能はず

扁鵲仰レ天歎曰。夫子之爲レ方也。若二以レ管窺レ天。以レ郄視一レ文。越人之爲レ

扁鵲天を仰ぎて歎じて曰く、夫子の(一)方を爲すや、管を以て天を窺ひ、郄を以て文を視るが若し。越人の方を爲すや、(二)脉を切り、色を望み、聲を聽き、形を寫すを待たずして、病の在る所を言ふ。病の陽を聞き、論じて其陰を得、病の陰を聞

太子何病。國中治ㇾ穰過二於衆事一。中庶子曰。太子病。血氣不ㇾ時。交錯而不ㇾ得ㇾ泄。暴二發於外一。則爲二中害一。精神不ㇾ能ㇾ止二邪氣一。邪氣畜積而不ㇾ得ㇾ泄。是以陽緩而陰急。故暴蹷而死。扁鵲曰。其死何如時。曰。雞鳴至ㇾ今。曰。收乎。曰未也。其死未ㇾ能二半日一也。言臣齊勃海秦越人也。家

す、精神、邪氣を止むること能はず。邪氣畜積して泄を得ず。是を以て陽は(六)緩にして陰は急なり、故に暴蹷(七)して死せりと。扁鵲曰く、其死何如なる時ぞ。曰く、(八)鷄鳴より今に至る。曰く收め(九)し乎。曰く未だし。其死未だ半日なること能はずと。言ふ、臣は齊の勃海の秦越人なり、家、鄭に在り、未だ嘗て精光(一〇)を望み、前に侍謁することを得ざるなり。太子の不幸にして死すと聞く。臣能く之を生かさん。中庶子曰く、先生之を誕(一一)すること無きを得んや、何を以て太子生く可しと言ふや。臣聞く上古の時、醫に兪跗有り。病を治する湯液醴灑(一二)、鑱石橋引(一三)、案杌毒熨(一四)を以てせず、一撥(一五)して病の應を見る。五藏の輸(一六)に因り、乃ち皮を割き肌を解き、脈を訣(一七)し筋を結び、髓腦(一八)を搦し荒幕(一九)を揲し、腸胃を湔浣し、五藏を漱滌し、(二〇)精を練り形を易ふ。先生の方能く是くの若くなれば、則ち太子生く可きなり。是くの若くなる能はずして之を生かさんと欲するは、曾て以て咳嬰(二一)の兒に告げて日を終ふる可からず。

夫一曰。我之二帝所一甚樂。與二百神一遊二於鈞天一。廣樂九奏萬舞。不レ類二三代之樂一。其聲動レ心。有二一熊一欲レ援レ我。帝命レ我射レ之。中レ熊。熊死。有レ羆來。我又射レ之中レ羆。羆死。帝甚喜。賜二我二笥一皆有レ副。吾見三兒在二帝側一。帝屬二我一翟犬一曰。及二而子之壯一也以賜レ之。帝告レ我。晉國且二世衰一。七世而亡。嬴姓將レ大敗二周人於范魁之西一。而亦不レ能レ有也。董安于受レ言。書而藏レ之。以二扁鵲言一告二簡子一。簡子賜二扁鵲田四萬畝一。

一の翟犬を屬して曰く、而の子の壯なるに及び、以て之を賜はんと。帝我に告ぐ。(九)晉國且に世衰へんとす、七世にして亡び、嬴姓將に大ならんとす。周人を范魁の西に敗りて、亦有つこと能はざるなりと。(一〇)董安于、言を受け、書して之を藏む。扁鵲の言を以て簡子に告ぐ。簡子、扁鵲に田四萬畝を賜ふ。

(一)縱恣にして婬亂なりしは　(二)病氣全快せん　(三)豫言をなすことあらん　(四)天帝の居處、天に九天有り、中央を均天といふ　(五)廣く樂器を陳ねて音樂を奏す　(六)ひきさらはんとす　(七)二箇の箱を賜ふ、各箱に副物あり　(八)吾が子　(九)一頭の翟種の犬を引き渡されて　(一〇)趙氏の一門

其後扁鵲過レ虢。虢太子死。扁鵲至二虢宮門下一。問二中庶子喜レ方者一曰。

其後扁鵲、虢に過る。虢の太子死す。扁鵲、虢の宮門の下に至り、(一)中庶子の(二)方を喜む者に問ひて曰く、太子何の病ぞ。國中の(三)穰を治むる、衆事に過ぐ。中庶子曰く、太子の病、(四)血氣時ならず、交錯して泄を得ず、(五)外に暴發し、則ち中害を爲

大夫彊而公族弱。趙簡子爲二大夫一專二國事一。簡子疾。五日不レ知レ人。大夫皆懼。於レ是召二扁鵲一。扁鵲入視レ病。出。董安于問二扁鵲一。扁鵲曰。血脈治也。而何怪。昔秦穆公嘗如レ此七日而寤。寤之日。告二公孫支與二子輿一曰。我之二帝所一甚樂。吾所二以久一者。適有レ所レ學也。帝告レ我。晉國且二大亂一。五世不レ安。其後將レ霸。未レ老而死。霸者之子且レ令二而國男女無一レ別。公孫支書而藏レ之。秦策於レ是出。

天帝 〔一四〕大敗戰の結果死者を多く出し、風俗大に亂れ夫婦別有りの禮全く無きに至らん 〔一五〕其の言ふ所を書取りて、之を所藏す 〔一六〕趙世家に秦讖に作る、秦の未來記なり

夫獻公之亂。文公之霸。而襄公敗二秦師於殽一而歸縱淫。此子之所レ聞。今主君之病與レ之同。不レ出二三日一必間。間必有レ言也。居二日半。簡子寤。語二諸大

夫れ獻公の亂、文公の霸、而して襄公の秦の師を殽に敗りて歸り、縱淫せしは、(一)此れ子の聞く所なり。今主君の病之と同じ。三日を出でずして、必ず間えん。(二)間えば必ず言ふこと有らん(三)と。居ること二日半にして簡子寤む。諸大夫に語りて曰く、我、帝の所に之き甚だ樂しむ。百神と鈞天(四)に遊ぶ。(五)廣樂九奏して萬舞す、三代の樂に類せず、其聲心を動かす。一熊有り、我を援かんと欲す。(六)帝我に命じて之を射しむ。熊に中つ、熊死す。羆有り來る。我又之を射て羆に中つ、羆死す。帝甚だ喜び、我に二笥(七)を賜ふ、皆副有り。吾、(八)兒の帝の側に在るを見る。帝我に

扁鵲曰。敬諾。乃出二其懷中藥一予二扁鵲一。飮レ是以二上池之水一。三十日當レ知レ物矣。乃悉取二其禁方書一。盡與二扁鵲一。忽然不レ見。殆非レ人也。扁鵲以二其言一飮レ藥。三十日。視見二垣一方人一。以レ此視レ病。盡見二五藏癥結一。特以レ診レ脈爲レ名耳。爲レ醫或在レ齊。或在レ趙。在レ趙者名二扁鵲一。當二晉昭公時一。諸

り、或ひは趙に在り。趙に在りては、扁鵲と名づく。晉の昭公と時に當りて、諸大夫彊くして公族弱し。趙簡子大夫と爲り、國事を專らにす。簡子疾む。五日人を知らず。大夫皆懼る。是に於て扁鵲を召す。扁鵲入りて病を視る、出づ。董安(一〇)于、扁鵲に問ふ。扁鵲曰く、血脈(一一)治る。而るに何ぞ怪まん。昔秦の穆公嘗て此くの如きこと七日にして寤む(一二)。寤むるの日、公孫支と子輿とに告げて曰く、我れ帝(一三)の所に之き甚だ樂しむ。吾の久しかりし所以のもの、適〻學ぶ所有ればなり。帝、我れに告ぐ、晉國且に大に亂れんとす、五世安からず、其後將に霸たらんとす。未だ老せずして死せん。霸者の子、且に而の國の男女をして別(一四)無からしめんとすと。公孫支書(一五)して之を藏む。秦策(一六)是に於て出づ。

(一) 客館を守る師　(二) 長桑君を奇人となす　(三) 傳授嚴禁の祕方　(四) 草木の上に於ける露、一説新たに汲める水、蘇東坡は口中の液水とせり　(五) 禁方の事を記したる書物　(六) 透視して垣の外の人の離れたるを知りて、識らず　(七) 此の透視の法を以て　(八) 氣血の凝り固まれること　(九) 脈を診するは、たゞ名ばかりに過ぎず　(一〇) 人事不省なり　(一一) 血脈安定にして調へり、何ぞ怪しむに及ばず不日治すべし　(一二) 眠り覺めて氣附く　(一三)

扁鵲者。勃海郡鄭人也。姓秦氏。名越人。少時爲二人舍長一。舍客長桑君過。扁鵲獨奇レ之。常謹遇レ之。長桑君亦知三扁鵲非二常人一也。出入十餘年。乃呼二扁鵲一私坐。間與語曰。我有二禁方一。年老。欲レ傳二與公一。公毋レ泄。

卷百五

扁鵲倉公列傳第四十五

扁鵲は、勃海郡の鄭の人なり。姓は秦氏、名は越人、少き時人の舍長(一)と爲る。舍の客、長桑君過る。扁鵲獨り之(二)を奇とす。常に謹みて之を遇す。長桑君も亦扁鵲の常人に非ざるを知る。出入すること十餘年なり。乃ち扁鵲を呼び私に坐し、間に與に語りて曰く、我れ禁方(三)有り、年老ゆ、公に傳與せんと欲す。公泄すこと毋かれ。扁鵲曰く、敬んで諾すと。乃ち其懷中の藥を出し扁鵲に予へ、是を飲むに上池(四)の水を以てし、三十日せば、當に物を知るべしと。乃ち悉く其禁方(五)の書を取り盡く扁鵲に與へ、忽然として見えず。殆んど人に非ざるなり。扁鵲其言を以て藥を飲むこと三十日、視(六)て垣の一方の人を見る。此(七)を以て病を視る。盡く五藏の癥(八)結を見る。特に脈(九)を診するを以て名と爲すのみ。醫と爲り或ひは齊に在

爲二佯一。不レ傅レ事何也。任安笞二辱北軍錢官小吏一。小吏上書言レ之。以爲レ受二太子節一。言幸與二我其鮮好者一。書上聞。武帝曰。是老吏也。見二兵事起一。欲三坐觀二成敗一。見二勝者一。欲三合二從之一。有二兩心一。安有二當レ死之罪一甚衆。吾常活レ之。今懷レ詐。有二不忠之心一。下二安吏一誅死。

なり、兵事の起るを見、(八)坐して成敗を觀んと欲す。(九)勝者を見ては之に合從せんと欲し、(一〇)兩心有り。安死に當るの罪有ること甚だ衆し、(一一)吾れ常に之を活かす。今詐を懷き不忠の心有りと。安を吏に下し誅死せしむ。

㊀官名　㊁符節、あひじるし　㊂うはべをいつはりよこしまにして　㊃この事件に携はらざるは不都合也　㊄會計課の小役人　㊅太子は仁安に言ふ、どうぞ我に北軍中の鮮好なる兵器を與へよと　㊆老獪の吏　㊇我と太子との間に戰爭の起るを見　㊈じつとしてゐて日和見をやらんとす　㊉一味とならんとす　⑪今日までに死刑に處すべき罪多かりしも

夫月滿則虧。物盛則衰。天地之常也。知レ進而不レ知レ退。久乘二富貴一。禍積爲レ祟。故范蠡之去レ越。辭不レ受二官位一。名傳二後世一。萬歲不レ忘。豈可レ及哉。後進者愼二戒之一。

夫れ月滿つれば則ち虧け、物盛なれば則ち衰ふるは、天地の常なり、進むを知りて退くを知らず。久しく富貴に乘ずれば、禍積んで祟を爲す。故に范蠡の(一)越を去る、辭して官位を受けず、名後世に傳へ、萬歲忘れず。(二)豈に及ぶ可けんや。後進の者之を愼戒せよ。

㊀越世家及び貨殖傳に詳なり　㊁後世永く忘られず

骨肉之親。父子之間。不レ甚レ近。去之二諸陵一過。是時武帝在二甘泉一。使三御史大夫暴君。下二責丞相一。何爲縱二太子一。丞相對言。使三司直部二守城門一。而開二太子一。上書以聞。請捕二繫司直一。司直下レ吏。誅死。

下責(六)せしむ、何すれぞ太子を縱すと。丞相對へて言ふ、司直をして城門を部守(七)せしむ、而るを太子に開く(八)と。上書して以聞すらく、請ふ司直を捕繫せんと。司直吏に下りて誅死せらる。

(一) 戾太子據が巫蠱の事により兵を起しゝ事、孝武本紀に出づ　(二) 田仁なり　(三) 父子の爭に餘り深く立入るは好ましからず　(四) 高祖の長陵を始め、諸帝の陵墓のある附近に貴人豪族を移し住ましめたる事あり、五陵の俠客とて當時豪俠の士これに依るもの少なからず、蓋し田仁また一時其間に投じたる也　(五) 甘泉の離宮　(六) 命を下して責めて曰く　(七) 手分をして守らしむ　(八) 太子の通行すべき路を開きて逃れしめたり

是時任安爲二北軍使者一護レ軍。太子立二車北軍南門外一。召二任安一與レ節。令レ發レ兵。安拜受レ節入。閉レ門不レ出。武帝聞レ之。以爲任安

是の時任安北軍の使者(一)と爲り軍を護す、太子車を北軍の南門外に立て、任安を召して節(二)を與へ兵を發せしむ。安拜して節を受けて入る。門を閉ぢて出でず。武帝之を聞き、以爲へらく、任安佯邪(三)を爲し、事(四)に傅かざるは何ぞやと。任安北軍の錢官(五)の小吏を笞辱す。小吏上書して之を言ふ、以て太子の節を受くと爲す(六)。言ふ、幸に我に其鮮好の者を與へよと。書上聞す。武帝曰く、是れ老吏(七)

中貴人。與三公有親屬。無所畏憚。宜先正三河以警天下姦吏。是時河南河内太守皆御史大夫杜父兄子弟也。河東太守。石丞相子孫也。是時石氏九人爲二千石。方盛貴。田仁數上書言之。杜大夫及石氏使人謝。謂田少卿曰。吾非敢有語言也。願少卿無相誣汙也。仁已刺三河。三河太守皆下吏誅死。仁還奏事。武帝説。以仁爲能不畏彊禦。拜仁爲丞相司直。威振天下。

ふ。杜大夫及び石氏、人をして謝し、田少卿に謂はしめて曰く、吾れ敢へて語言あるに非ざるなり、願くは少卿相誣汙する無れと。(八)(九)仁已に三河を刺す。三河の太守皆吏に下りて誅死せらる。(一〇)仁還りて事を奏す。武帝説び、仁を以て能く彊禦を畏れずと爲し、(一一)仁を拜して丞相の司直と爲す、(一二)威天下に振ふ。

(一) 州の成績を視察する官　(二) 丞相の僚屬、次官といふ格にて二人あり　(三) 視察檢擧　(四) 宮中奉仕の高貴の人　(五) 親類關係　(六) 杜周　(七) 石慶前に出づ　(八) 苦情がましき事を申立つる譯にはあらざれど　(九) 無實を以て汚す勿れ　(一〇) 獄吏の手に下り　(一一) 强暴に人の善を禦ぎ止むるもの、横暴の惡徒　(一二) 官名前に出づ

其後逢太子有兵事。丞相自將兵。使司直主城門。司直以爲太子

其後太守の兵事有るに逢ふ。(一)丞相自ら兵に將とし、司直をして城門を主どらしむ。(二)司直以爲へらく太子は骨肉の親なり、父子の間甚だ近くを欲せずと。(三)去りて諸陵に之き過ぐ。(四)是の時武帝甘泉に在り、(五)御史大夫暴君をして丞相を

不レ得レ已。上レ籍以聞。有レ詔召ニ見衞將軍舍人一。此二人前見。詔問ニ能略一。相推第也。田仁對曰。提ニ桴鼓一立ニ軍門一。使ニ士大夫樂レ死戰鬪一。仁不レ及ニ任安一。任安對曰。夫決ニ嫌疑一。定ニ是非一。辯ニ治官一。使三百姓無ニ怨心一。安不レ及レ仁也。武帝大笑曰。善。使三任安護ニ北軍一。使三田仁護ニ邊田穀於河上一。此兩人立ニ名天下一。

(一) どんな貧乏人を擇ぶは何事ぞと、趙禹の取扱を不滿に思ふ (二) 自分自らの心掛けて貧乏する也、而るにさも不滿げに却て我に恩をきせる如きものいひをさるゝは何事ぞ (三) 二人の名籍を券り之を發上推薦せり (四) 才能智略を試問す (五) 兩人互に推し擧げ尊びて品評し合ふ (六) 進軍の鼓守を爲すをいふ (七) 疑はしき事を決斷し (八) 京師の守衞を掌る軍也 (九) 邊地の田の穀物を河上に運送する事を監護せしむ

其後用ニ任安一爲ニ益州刺史一。以ニ田仁一爲ニ丞相長史一。田仁上書言。天下郡太守多爲ニ姦利一。三河尤甚。臣請先刺ニ擧三河一。三河太守皆內倚ニ

其後任安を用ひて益州の刺使と爲し、(一)田仁を以て丞相の長史と爲す。(二)田仁上書して言ふ、天下の郡の太守多く姦利を爲す、三河尤も甚し、臣請ふ先づ三河を刺擧せん。(三)三河太守は、皆內、中貴人に倚り、(四)三公と親屬有り、(五)畏憚する所無し。宜しく先づ三河を正し、以て天下の姦吏を警しむべしと。是の時河南河內の太守は皆御史大夫杜(六)の父兄子弟なり。河東の太守は石丞相の子孫なり。是の時石氏九人二千石と爲り、方に盛に貴し、田仁數々(七)上書して之を言

於レ是趙禹悉召二衞將軍舍人百餘人一。以レ次問レ之。得二田仁任安一。曰獨此兩人可耳。餘無二可レ用者一。衞將軍見二此兩人貧一。意不平。趙禹去。謂二兩人一曰。各自具二鞍馬新絳衣一。兩人對曰。家貧。無二用具一也。將軍怒曰。今兩君家自爲レ貧。何爲出二此言一。鞅鞅如レ有レ移二德於我一者何也。將軍

是に於て趙禹悉く衞將軍の舍人百餘人を召し、次を以て之を問ふ。田仁・任安を得たり。曰く、獨り此の兩人可なるのみ、餘は用ふ可き者無しと。衞將軍此兩人の貧を見て、意不平(一)なり。趙禹去る。兩人に謂ひて曰く、各〻自ら鞍馬新絳衣を具へよ。兩人對へて曰く、家貧し、用つて具ふる無きなりと。將軍怒りて曰く、今兩君の家自ら貧たり(二)、何すれぞ此言を出す、鞅鞅として德を我に移す有るが如き者は何ぞやと。將軍已むを得ず、(三)籍を上つり以聞す、詔有り、衞將軍の舍人を召し見る。此二人前み見ゆ。詔して能略(四)を問ふ。相推(五)第す。田仁對へて曰く、(六)桴鼓を提げ軍門に立ち士大夫をして死を樂しみ戰鬪せしむるは、仁、任安に及ばず。任安對へて曰く、夫れ(七)嫌疑を決し、是非を定め、治官を辯じ、百姓をして怨心無からしむるは、安、仁に及ばざるなりと。武帝大に笑ひて曰く、善しと。任安をして(八)北軍を護せしめ、田仁をして(九)邊田の穀を河上に護せしむ。此兩人名を天下に立つ。

擇衛將軍舍人一以爲レ郎。將軍取二舍人中富給者一。令レ具二鞍馬絳衣。玉具劍一。欲二入奏一レ之。會三賢大夫少府趙禹來過二衛將軍一。將軍呼二所レ擧舍人一以示二趙禹一。趙禹以レ次問レ之。十餘人無下一人習レ事。有二智略一者上。趙禹曰。吾聞レ之。將門之下。必有二將類一。傳曰。不レ知二其君一。視二其所レ使。不レ知二其子一。視二其所レ友。今有レ詔擧二將軍舍人一者。欲三以觀二將軍而能得賢者文武之士一也。今徒取二富人子一上レ之。又無二智略一。如三木偶人衣二之綺繡一耳。將レ奈二之何一。

者を取り、鞍馬絳衣、(三)玉具劍(四)を具へしめ、入りて之を奏せんと欲す。賢大夫少府趙禹の來りて衞將軍を過ぎるに會す。將軍擧ぐる所の舍人を呼び、以て趙禹に示す。趙禹次(五)を以て之を問ふ。十餘人一人の事に習ひ智略有る者無し。趙禹曰く、吾之を聞く、將門の下には必ず將類(六)有りと。傳に曰く、其君を知らざれば其の使ふ所を視よ、其子を知らざれば其の友とする所を視よと。今詔有り、將軍の舍人を擧ぐる者は以て將軍の能く賢者文武の士を得るを觀んと欲するなり。今徒らに富人の子を取りて之を上り、又智略無し、木偶人(七)に之に綺繡を衣するが如きのみ、將に之を奈何せんとすると。

(一) 宮中の郎官 (二) 給は足なり、裕福なる者 (三) 大きな赤衣 (四) 玉や貝にて鞘を飾りたる劍 (五) 順次之を試問す (六) 大將相當の人物 (七) でくの坊に立派な衣裳を着せたやうなもの

不レ辨斥免。乃爲二衞將軍舍人一。與二田仁一會。倶爲二舍人一居二門下一。同レ心相愛。此二人家貧。無二錢用以事二將軍家監一。家監使レ養二惡齧馬一。兩人同レ牀臥。仁竊言曰。不レ知レ人哉家監也。任安曰。將軍尚不レ知レ人。何乃家監也。衞將軍從二此兩人一過二平陽主一。主家令下兩人與二騎奴一同レ席而食上。此二子拔レ刀列二斷席一別坐。主家皆怪而惡レ之。莫二敢呵一。

此の二人家貧しく錢用(五)の以て將軍の家監に事ふる無し。家監惡齧馬(六)を養はしむ。兩人牀を同じうして臥す。仁竊に言ひて曰く、人を知らざるかな家監や。任安曰く、將軍すら尚ほ人を知らず、何ぞ乃ち家監をやと。衞將軍此の兩人を從へ平陽主(七)に過ぐ。主の家兩人をして騎奴と席を同じうして食せしむ。此の二子刀を拔き席(八)を列斷し別坐す。主の家皆怪しみて之を惡めども敢(九)へて呵すること莫し。

(一) 鄕の敎化を掌る職　(二) 民事に關する官吏　(三) 萬戸以下の縣長となり、秩三百石を享く　(四) 供帳即ち物を供へ帳を張りて饗應する事の行き屆かず手遲れとなりし爲め　(五) 錢を使ひてうまく將軍家の家令に取入る事能はず　(六) むやみと人をかむ悍馬　(七) 武帝の姉なり　(八) その座席を裂き斷ちて騎奴と別坐す　(九) 二人の意氣込みに恐れて之を叱り責めんとする者はなかりき

其有レ詔。募二

其後詔有り、衞將軍の舍人を募擇し、以て郎(一)と爲す。將軍舍中の富給(二)なる

名數。家於武功。武功扶風西界小邑也。谷口蜀剗道。近山。安以爲武功小邑無豪。易高也。安留。代人爲求盜亭父。後爲亭長。邑中人民俱出獵。任安常爲人分麋鹿雉兎。部署老小當壯劇易處。衆人皆喜曰。無傷也。任少卿。分別平。有智略。明日復合會。會者數百人。任少卿曰。某子甲何爲不來乎。諸人皆怪其見之疾也。

麋鹿雉兎を分つ、老小當壯劇易を部署す。(八)衆人皆喜びて曰く、傷むこと無し。任少卿(九)分別平かに、智略有りと。明日復た合會す。會する者數百人。任少卿曰く、某の子甲(一〇)何すれぞ來らざると。諸人皆其の見ることの疾きを怪しむ。

(一) 車の御者となりて、一說には徒步にて車を推し輓くをいふと (二) たより、てづる (三) 自ら戶籍を作り、武功の地に籍を置く (四) 駱谷といふ谷の入口 (五) 棧道 (六) 豪傑なきゆゑ名を爲し身を高うし易し (七) 亭の兩卒なり、亭父は關門掃除を掌り、求盜は盜賊を逐捕す、安は漸次此二役を爲すと也 (八) 當は丁、劇は動の俗用にて難の義、老小丁壯を部署し老小は易に丁壯は難に當らしむる也、原文「處」の字は衍 (九) 少卿は任安の字（アザナ）

(一〇) 甲乙の甲、何某といふに同じ

其後除爲三老。擧爲親民。出爲三百石長。治民。坐上行出游。共帳

其後除せられて三老と爲り、(一)擧げられて親民と爲り、(二)出でて三百石の長と爲る。民を治む。上行き出游し、共帳の辦ぜざるに坐して斥免す。(三)乃ち衞將軍の舍人と爲り、田仁と會す。倶に舍人と爲り、門下に居り、心を同じうし相愛す。

陵令軍千秋上レ變。仁族死。陘城今在二中山國一。

太史公曰。孔子稱曰。居二是國一必聞二其政一。田叔之謂乎。義不レ忘レ賢。明二主之美一以救レ過。仁與レ余善。余故幷二論之一。

褚先生曰。臣爲レ郎時聞レ之。曰田仁故與二任安一相善。任安。滎陽人也。少孤。貧困。爲レ人將レ軍之長安。留。求二事爲二小吏一。未レ有二因緣一也。因占二著

太史公曰く、孔子稱して曰く、(一)是の國に居ては、必ず其政を聞くと。田叔の謂ひか。義、賢を忘れず。(二)主の美を明かにし以て過を救ふ。仁、余と善し。余故に幷せ之を論ず。

(一) 論語學而篇にあり、其の國居れば、何國たるを問はず、必ず其君主より其政事の相談を受けて聞くと (二) 君主の美德をあげあらはして、其の過失を救ふ

褚先生曰く、臣郎たる時、之を聞く、曰く、田仁故任安と相善しと。任安は、滎陽の人なり、少うして孤なり。貧困にして人の爲めに(一)車を將き長安に之く。留りて事へて小吏と爲らんことを求む。未だ(二)因緣有らざるなり。因りて名數を(三)占著し武功に家す。武功は扶風西界の小邑なり。(四)谷口は蜀の(五)剗道、山に近し。安以爲へらく、武功は小邑、(六)豪無し、高かり易しと。安留り、人に代りて求盜亭(七)父と爲る。後亭長と爲る。邑中の人民倶に出でて獵す。任安常に人の爲めに

數年叔以レ官卒。魯以二百金一祠。少子仁不レ受也。曰。不下以二百金一傷中先人名上。仁以二壯健一爲二衞將軍舍人一。數從擊二匈奴一。衞將軍進二言仁一。仁爲二郎中一。數歲爲二二千石丞相長史一。失レ官。其後使三刺二擧三河一。上東巡。仁奏レ事有レ辭。上說拜爲二京輔都尉一。月餘。上遷拜爲二司直一。數歲。坐二太子事一。時左丞相自將レ兵。令二司直田仁主一レ閉二守城門一。坐レ縱二太子一。下レ吏誅死。仁發レ兵。長

數年にして、叔、官を以て卒す。魯百金を以て祠る。少子仁受けざるなり。曰く、百金(一)を以て先人の名を傷らじと。仁、壯健を以て衞將軍の舍人と爲り、數〻從ひて匈奴を擊つ。衞將軍、仁を進め言ふ。仁郎中と爲る。數歲ありて、二千石、丞相の長史と爲り、官を失ふ。其後三河(二)を刺擧せしむ。上東巡す。仁、事を奏する辭有り。上說び、拜して京輔(三)の都尉と爲す。月餘にして、上遷し拜して司直(四)と爲す。數歲にして、太子の事に坐す。時に左丞相自ら兵に將とし、司直田仁をして城門を閉守することを主らしむ。太子を縱す(五)に坐し、吏に下され誅死せらる。仁、兵を發す。長陵の令車千秋、變を上る。仁族(六)死せらる。陘城は今中山國に在り。

(一) 百金の贈物を以て死したる父の名譽を毀損するに忍びず (二) 河南、河東、河內を視察せしむ (三) 長安を治むる官 (四) 丞相に屬し、不法の者を檢擧する官 (五) 態と目逃したる罪 (六) 三族を誅戮せらる

后食不レ甘レ味。臥不レ安レ席。此憂在二陛下一也。景帝大賢レ之。以爲二魯相一。魯相初到。民自言レ相。訟三王取二其財物一百餘人。田叔取二其渠率二十人一。各笞五十。餘各搏二十。怒レ之曰。王非二若主一邪。何自敢言二若主一。魯王聞レ之大慙。發二中府錢一使二相償レ之。相曰。王自奪レ之。使二相償レ之。是王爲レ惡。而相爲レ善也。相毋レ與レ償レ之。於レ是王乃盡償レ之。魯王好レ獵。相常從入二苑中一。王輒休レ相就二館舍一。相出常暴坐。待二王苑外一。王數使二人請レ相休一。終不レ休。曰。我王暴二露苑中一。我猶何爲レ就レ舍。魯王以レ故不二大出游一。

を奪ひ、相をして之を償はしむ。是れ王、(八)惡を爲して、而して相善を爲すなり。相之を償ふに與る(九)毋けんと。是に於て王乃ち盡く之を償ふ。魯王獵を好む。相常に從ひ苑中に入る。王輒ち相を休め館舍に就かしむ。(一〇)相出でて常に暴坐(一一)し、王を苑外に待つ。王數々人をして相に請ひ休せしむ。終に休せず。曰く、我が王苑中に暴露す。我れ獨り何ぞ舍に就くことを爲さんと。魯王故を以て大に出游せず。

(一) 巨細に其事情の眞相を知ることを得　(二) 恐れながら實に此事有り　(三) 其事に梁人の何人が關係せるか　(四) 梁の此事件は荒れ立てゝ騒がぬにし給へ　(五) 太后は御愛子の事なれば御心配の餘り、寢食を安んぜず　(六) 頭立つ者　(七) 王の奥向きの倉庫に蓄へし錢を取り出し、田叔に申し付けて人民に辨償せしむ　(八) 王自身惡を爲して相に善事を爲さしむる譯なり　(九) 關係することをせざる樣にしてほし　(一〇) 相を休息せしめ、館舍に就きて優待す、これ田叔を退かしめて氣苦勞を除かんとてなり　(一一) 常に露に暴されて坐す

出レ言。士卒爭臨レ城死レ敵。如三子爲レ父弟爲二兄。以レ故死者數百人。孟舒豈故驅レ戰之哉。是乃孟舒所三以爲二長者一也。於レ是上曰。賢哉孟舒。復召二孟舒一以爲二雲中守一。

後數歲。叔坐レ法失レ官。梁孝王使三人殺二故吳相袁盎一。景帝召二田叔一案レ梁。具得二其事一還報。景帝曰。梁有レ之乎。叔對曰。死罪有レ之。上曰。其事安在。田叔曰。上毋下以二梁事一爲上也。上曰。何也。曰。今梁王不レ伏レ誅。是漢法不レ行也。如其伏レ法。而太

後數歲にして、叔、法に坐し官を失ふ。梁の孝王、人をして故の吳の相袁盎を殺さしむ。景帝、田叔を召し梁を案ぜしむ。(一)具に其事を得、還り報ず。景帝曰く、梁之れ有るか。叔對へて曰く、(二)死罪之に有り。上曰く、(三)其事安くに在る。田叔曰く、上、梁の事を以て爲す毋かれ。(四)上曰く、何ぞや。曰く、今梁王誅に伏せずんば、是れ漢の法行はれざるなり。如し其れ法に伏せば、(五)太后、食、味を甘しとせず、臥、席を安んぜず、此れ憂陛下に在るなりと。景帝大に之を賢とし、以て魯の相と爲す。魯の相初めて到る。民自ら相に言ふ。王其財物を取るを訟ふる百餘人なり。田叔其渠率(六)二十人を取へ、各〻笞ちこと五十餘、各〻搏つ二十、之を怒りて曰く、王は若が主に非ずや、何ぞ自ら敢て若が主を言ふやと。魯王之を聞き、大に慙づ、(七)中府の錢を發し、相をして之を償はしむ。相曰く、王自ら之

何以言㆓孟舒㆒爲㆓長者㆒也。叔叩頭對曰。是乃孟舒所㆔以爲㆓長者㆒也。夫貫高等謀反。上下㆓明詔㆒。趙有㆔敢隨㆓張王㆒罪㆓三族㆒。然孟舒自髡鉗。隨㆓張王敖之所㆑在。欲㆓以㆑身死㆑之。豈自知㆑爲㆓雲中守㆒哉。漢與㆑楚相距。士卒罷敝。匈奴冒頓新服㆓北夷㆒。來爲㆓邊害㆒。孟舒知㆓士卒罷敝㆒。不㆑忍㆑

叔、叩頭し對へて曰く、是れ乃ち孟舒の長者爲る所以なり。夫れ貫高等謀反す。上、明詔を下すらく、趙に敢て張王に隨ふもの有らば、三族を罪せんと。然れども孟舒自ら髡鉗し張王敖の所在に隨ひ、(一)身を以て之に死せんと欲す。豈に自ら雲中の守と爲るを知らんや。漢、楚と相距ぐ。士卒罷敝す。匈奴の冒頓(二)新に北夷を服し、來りて邊害を爲す。孟舒士卒の罷敝せるを知り、(三)言を出すに忍びず。士卒爭ひ城に臨み敵に死すること、子の父の爲にし、弟の兄の爲にするが如し。故を以て死する者數百人ありき。孟舒豈に(四)故に驅りて之を戰はしめんや。是れ乃ち孟舒の長者爲る所以なりと。是に於て上曰く、賢なるかな孟舒と。復た孟舒を召し以て雲中の守と爲す。

(一) 身命を張王敖の爲に捨てて忠を盡さんとす　(二) 匈奴の天子の名　(三) 戰爭の事を口にするに忍びず　(四) わざと兵士を驅り立てて戰はしむることを爲やう筈なし

王家奴。隨二趙王敖一至二長安一。貫高事明白。趙王敖得レ出。廢爲二宣平侯一。乃進二言田叔等十餘人一。上盡召見與語。漢廷臣毋下能出二其右一者上。上說。盡拜爲二郡守諸侯相一。叔爲二漢中守一十餘年。會二高后崩諸呂作レ亂。大臣誅レ之。立二孝文帝一。孝文帝既立。召二田叔一問レ之曰。公知二天下長者一乎。對曰。臣何足二以知一レ之。上曰。公長者也。宜レ知レ之。叔頓首曰。故雲中守孟舒長者也。是時孟舒坐二虜大入レ塞盜劫雲中尤甚免。上曰。先帝置二孟舒雲中一十餘年矣。虜曾一入。孟舒不レ能二堅守一。毋レ故士卒戰死者數百人。長者固殺レ人乎。公

上說ぶ。盡く拜して郡の守諸侯の相と爲す。叔、漢中の守爲ること十餘年、高后崩じ、諸呂の亂を作すに會ふ。大臣之を誅し、孝文帝を立つ。孝文帝既に立ち、田叔を召し之に問ひて曰く、公、天下の長者を知るか。對へて曰く、臣何ぞ以て之を知るに足らん。上曰く、公は長者なり、宜しく之を知るべし。叔頓首して曰く、故の雲中の守孟舒は長者なりと。是時孟舒、虜大に塞に入り盜劫し、雲中尤も甚だしきに坐(四)して免す。上曰く、先帝孟舒を雲中に置くこと十餘年なり。虜會て一たび入り、孟舒堅く守ること能はず、故毋く士卒戰死する者數百人なり。(五)長者固より人を殺すか。公何を以て孟舒を言ひて長者と爲すと。

(一) 張王張敖に隨從する者あらば (二) 罪人の著る赤衣を衣、罪人の形をまねて、自ら頭髮を剃り頸に金輪をはめ (三) 以上に勝る者なし (四) 罪によりて (五) 長者ともいふ可き人にして固より人を殺すことを爲すか

陳豨反代。漢七年。高祖往誅之。過趙。趙王張敖自持案進食。禮恭甚。高祖箕踞罵之。是時趙相趙午等數十人皆怒。謂張王曰。王事上禮備矣。今遇王如是。臣等請爲亂。趙王齧指出血曰。先人失國。微陛下臣等當蟲出。公等奈何言若是。毋復出口矣。於是貫高等曰。王長者不倍德。卒私相與謀弑上。會事發覺。漢下詔捕趙王及羣臣反者。於是趙午等皆自殺。唯貫高就繫。

と毋かれと。是に於て貫高等曰く、王は長者なり德に倍かずと。卒に私かに相與に上を弑せんと謀る。事の發覺するに會ふ。漢詔を下して趙王及び羣臣の反者を捕ふ。是に於て趙午等皆自殺す。唯貫高繫に就く。

(一) 擊劍を好む　(二) 嚴刻清廉　(三) 官を遷して昇進せしむるまでに及ばず　(四) 自身膳を持ち運びて食事を進む　(五) 兩足を投げ出し箕の形の如く坐して　(六) 領國を失ふ　(七) 餓死して葬ることを得ず、遺骸に蛆沸きて居るべし

是時漢下詔書。趙有敢隨王者。皋三族。唯孟舒田叔等十餘人。赭衣自髡鉗稱

是時、漢詔書を下し、趙に敢て主に隨ふ者有らば三族を皋せんと。唯孟舒田叔等十餘人、(二)赭衣自ら髡鉗し、王家の奴と稱し、張王敖に隨ひ長安に至る。貫高の事明白なり。趙王敖出づることを得。廢せられて宣平侯と爲る。乃ち進みて田叔等十餘人を言ふ。上盡く召見し與に語る。漢廷の臣能く其右に出づるもの毋し、(三)

田叔者。趙陘城人也。其先齊田氏苗裔也。叔好劍學黃老術於樂巨公所。叔爲人刻廉自喜。喜游諸公。趙人擧之趙相趙午。午言之趙王張敖所。趙王以爲郎中。數歲。切直廉平。趙王賢之。未及遷。會

巻百四

田叔列傳第四十四

田叔は趙の陘城の人なり。其先は齊の田氏の苗裔なり。叔、劍(一)を喜む。黃老の術を樂巨公の所に學ぶ。叔、人と爲り刻廉(二)自ら喜ぶ。喜みて諸公に游ぶ。趙人之を趙の相趙午に擧ぐ。午之を趙王張敖の所に言ふ。趙王以て郎中と爲す。數歲なり。切直廉平なり。趙王之を賢とし、未だ遷(三)すに及ばず。陳豨代反するに會ふ。漢の七年、高祖往きて之を誅す。趙を過ぐ。趙王張敖自(四)ら案を持し食を進む、禮恭甚だし。高祖箕踞(五)して之を罵る。是の時趙相趙午等數十人皆怒る。張王に謂ひて曰く、王の上に事ふること禮備る。今王を遇すること是くの如し、臣等請ふ亂を爲さんと。趙王指を齧み血を出して曰く、先人、國(六)を失ふ。陛下微かりせば、臣等當に蟲(七)出づべし。公等奈何ぞ言是くの若くなる、復た口より出すこ

叔之謂邪。是以其教不レ肅而成。不レ嚴而治。塞侯微巧。而周文處レ諂。君子譏レ之。爲三其近二於佞一也。然斯可レ謂二篤行君子一矣。

の佞に近きが爲なり。然れども斯れ篤行の君子と謂ふ可し。

㈠ 言語の上に訥辯であつて、實行の敏きことを欲す ㈡ 其教訓 ㈢ 微妙に巧にして、圓滿にて圭角を顯さず
㈣ 故意に無頓着を裝ひ、上たる者に媚び諛ふが如き態度に出づ

雖レ治ニ刑名家一。其人長者。歆帝時尊重。常爲ニ九卿一。至ニ武帝元朔四年一。韓安國免。詔拜レ歐爲ニ御史大夫一。自ニ歐爲レ吏。未ニ嘗言一レ案レ人。專以ニ誠長者一處レ官。官屬以爲ニ長者一。亦不ニ敢大欺一。上ニ具獄一事有レ可レ卻卻レ之。不可者不レ得レ已。爲涕泣面對而封レ之。其愛レ人如レ此。老病篤、請レ免。於レ是天子亦策罷。以ニ上大夫祿一歸ニ老于家一。家ニ於陽陵一。子孫咸至ニ大官一矣。

專ら誠の長者を以て官に處る。官屬以て長者と爲すも、亦敢て大に欺かず、(三)具獄を上るとき事卻く可き有れば之を卻け、不可なる者は、已むを得ず、(四)爲に涕泣面對(五)して之を封ず。其の人を愛すること此くの如し。老いて病篤く、免を請ふ。是に於て天子亦策して罷め、上大夫の祿を以て家に歸老す。陽陵に家す。子孫咸大官に至る。

(一)法律學を專攻したるを以て (二)人の罪科を取調ぶる事を口に言はず (三)第一に誠の長者として官職を勤め屬僚も以て長者と爲ししも、敢へて甚しき欺き方をせず (四)訴訟を取調べたる結果を上申す (五)被告人に對ひて面前にて罪狀を讀み聞かせ、封じて而る後天子に上奏す

太史公曰。仲尼有レ言曰。君子欲下訥ニ於言一而敏中於行上。其萬石建陵張

太史公曰く、仲尼言へること有り、曰く、君子は言に訥(一)にして行に敏ならんことを欲すと。其れ萬石、建陵、張叔の謂ひ邪。是を以て其教(二)肅ならずして成り、嚴ならずして治る。塞侯(三)は微巧にして、周文は諂(四)に處す。君子之を譏る。其

陰重不レ泄。常衣二敝補衣一溺レ袴。期爲レ不二絜清一。以レ是得レ幸。景帝入二臥内一。於二後宮一祕戲。仁常在レ旁。至二景帝崩一。仁尙爲二郎中令一。終無レ所レ言。上時問レ人。仁曰。上自察レ之。然亦無レ所レ毀。以レ此景帝再自幸二其家一。家徙二陽陵一。上所レ賜甚多。然常讓不二敢受一也。諸侯羣臣賂遺。終無レ所レ受。武帝立。以爲二先帝臣一重レ之。仁乃病免。以二二千石祿一歸レ老。子孫咸至二大官一矣。

陵に徙る、上の賜ふ所甚だ多し。然れども常に讓りて敢へて受けざるなり。諸侯羣臣の賂遺、(五)終に受くる所無し。武帝立ち、以て先帝の臣と爲し、之を重んず。仁乃ち病み免す。二千石の祿を以て歸老す。子孫咸大官に至る。

(一)陰密沈重にして機密を人に泄らさず　(二)弊れたるを綴ひ補へる衣　(三)小袴を以て小便を受け入る　(四)ことさらに不潔なることを爲す　(五)遺物

御史大夫張叔者。名歐。安丘侯說之庶子也。孝文時。以レ治二刑名言一事二太子一。然歐

御史大夫張叔は名は歐、安丘侯說の庶子なり。孝文の時、(一)刑名の言を治むるを以て、太子に事ふ。然れども歐、刑名家を治むと雖も、其人長者なり。景帝の時尊重せられ、常て九卿と爲り、武帝の元朔四年に至りて、韓安國免す。詔して歐を拜して御史大夫と爲す。歐の吏爲るより、未だ嘗て(二)人を案ずるを言はず。

也。不疑聞曰。我乃無ㇾ兄。然終不ㇾ自明也。吳楚反時。不疑以二千石將ㇾ兵擊ㇾ之。景帝後元年。拜爲御史大夫。天子修吳楚時功。乃封不疑爲塞侯。武帝建元年中。與丞相綰俱以ㇾ過免。不疑學老子言。其所ㇾ臨爲ㇾ官如ㇾ故。唯恐人知其爲ㇾ吏跡也。不ㇾ好ㇾ立名稱。稱爲長者。不疑卒。子相如代。孫望坐酎金失ㇾ侯。

㈠不疑の同舍中に、休暇を得て歸省したる者あり　㈡褒め舉げ用ひ　㈢自ら辯明せず　㈣老子の虛無の學說を學ぶ　㈤其の官に任じて行先にて官事を取扱ふに何事も從前のまゝにして改革する所なし　㈥たゞ世人の自分の吏となりて行ひたる跡を知らるゝことを氣遣ふのみ　㈦名譽を立つることを好まず

郎中令周文者。名仁。其先故任城人也。以ㇾ醫見。景帝爲太子時。拜爲舍人。積ㇾ功稍遷。孝文帝時。至太中大夫。景帝初卽ㇾ位。拜仁爲郎中令。仁爲ㇾ人。

郎中令周文は、名は仁、其先は故任城の人なり。醫を以て見ゆ。景帝太子爲る時、拜して舍人と爲す。功を積みて稍く遷る。孝文帝の時、太中大夫に至る。景帝初めて位に卽き、仁を拜して郎中令と爲す。仁、人と爲り、㈠陰重泄さず。常に㈡敝補の衣を㈢衣袴に溺す。㈣期して絜清ならざるを爲す。是を以て景帝に幸せらるゝことを得。臥內に入る。後宮の祕戲に於て、仁、常に旁に在り。景帝崩ずるに至りて、仁尚ほ郎中令と爲り、終に言ふ所無し。上、時に人を問ふ。仁曰く、上自ら之を察せよと。然れども亦毀る所無し。此を以て景帝再び自ら其家に幸す。家陽

塞侯直不疑者。南陽人也。爲レ郎事二文帝一。其同舍有二告歸一。誤持二同舍郎金一去。已而金主覺。妄意二不疑一。不疑謝レ有レ之。買レ金償。而告歸者來而歸レ金。而前郎亡レ金者大慙。以レ此稱爲二長者一。文帝稱擧。稍遷至二太中大夫一。朝廷見。人或毀曰。不疑狀貌甚美。然獨無下奈二其善盜レ嫂何上。

塞侯直不疑は、南陽の人なり。郎と爲り文帝に事ふ。其同舍に告歸する有り、誤りて同舍郎の金を持ち去る。已にして金主覺り、妄に不疑(一)を意ふ。不疑之れ有りと謝し、金を買ひ償ふ。而して告歸する者來りて金を歸す。而して前の郎の金を失ふ者大に慙づ。此を以て稱して長者と爲す。文帝稱擧し、稍く遷りて太中大夫に至る。朝廷の見に、人或ひは毀りて曰く、不疑狀貌(二)甚だ美し。然れども獨り其善く嫂を盜むを奈何ともする無きなりと。不疑聞きて曰く、我乃ち兄無しと。然れども終に自(三)ら明かにせざるなり。吳楚反する時、不疑二千石を以て兵に將として之を擊つ。景帝の後元年、拜して御史大夫と爲す。天子、吳楚の時の功を修め、乃ち不疑を封じて塞侯と爲す。武帝の建元年中、丞相綰と具に過を以て免す。不疑、老子(四)の言を學ぶ。其の臨む所、官(五)を爲む故の如し。唯人の其の吏たるの跡を知らんことを恐れ、名稱(七)を立つるを好まず。稱して長者と爲す。不疑卒す。子の相如代る。孫望、酎金に坐して侯を失ふ。

孝景前六年中。封綰爲建陵侯。其明年。上廢太子、誅栗卿之屬。上以爲綰長者、不忍。乃賜綰告歸。而使郅都治捕栗氏。既已上立膠東王爲太子。召綰拜爲太子太傅。久之遷爲御史大夫。五歲。代桃侯舍爲丞相。朝奏事如職所奏。然自初官以至丞相。終無可言。天子以爲敦厚可相少主。尊寵之。賞賜甚多。爲丞相三歲。景帝崩。武帝立。建元年中。丞相以景帝疾時。諸官囚多坐不辜者。而君不任職。免之。其後綰卒。子信代。坐酎金失侯。

びず。乃ち綰に告歸を賜ひて郅都をして治して栗氏を捕へしむ。既已にして上、膠東王を立て太子と爲す。綰を召し拜して太子の太傅と爲す。之を久しくして、遷りて御史大夫と爲る。五歲ありて、(二)桃侯舍に代りて丞相と爲る。朝して事を奏すること(三)職の奏する所の如し。然れども初官より以て丞相に至る、終に言ふ可き無し。天子以て敦厚にして少主に相たる可しと爲し、之を尊寵す。賞賜甚だ多し。丞相爲ること三歲にして、景帝崩じ、武帝立つ。建元年中、丞相、景帝疾む時、諸官の囚、不辜に坐する者多きを以て、而して君職に任ぜずとして、之を免す。其後綰卒す。子信代る。(四)酎金に坐して侯を失ふ。

(一) 太子の外舅栗卿の屬　(二) 桃侯劉舍　(三) 職務上の奏聞のみにて、他に意見建白なし　(四) 酎金事件に連坐して

林一。詔二中郎將一參乘一。還而問曰。君知レ所三以得二參乘一乎。綰曰。臣從二車士一。幸得下以二功次一遷爲中中郎將上。不二自知一也。上問曰。吾爲二太子一時召レ君。君不レ肯レ來何也。對曰。死罪。實病。上賜二之劍一。綰曰。先帝賜二臣劍一凡六劍。不二敢奉一レ詔。上曰。劍人之所二施易一。獨至レ今乎。綰曰。具在。上使レ取二六劍一。劍尙盛。未二嘗服一也。郎官有レ譴。常蒙二其罪一。不下與二他將一爭上。有レ功常讓二他將一。上以爲三廉忠實無二他腸一。乃拜レ綰爲二河間王太傅一。

に至る乎。綰曰く、具に在りと。上六劍を取らしむ。劍尙ほ盛にして、未だ嘗て服せざるなり。郎官譴有れば、常に其罪を蒙ひ、(八)他將と爭はず、功有れば、常に他將に讓る。上以て廉忠にして(九)實に他腸無しと、乃ち綰を拜して河間王の太傅と爲す。

(一)車輪を以て戲をなす雜伎　(二)文帝の左右に事ふる者を東宮に召して酒宴を賜ふ　(三)待遇せよ　(四)咎め責めず　(五)年功を以て　(六)六ふり　(七)佩用して時々取替ふるものなり　(八)其罪を自分の身に引受けて、他の將官と爭せず　(九)清廉忠誠にして、野心を存せず

吳楚反。詔レ綰爲レ將。將二河間兵一擊二吳楚一。有レ功。拜爲二中尉一。三歲。以二軍功一。

吳楚反す。綰に詔し將と爲す。河間の兵を將ゐて吳楚を擊ち、功有り。拜して中尉と爲す。三歲ありて、軍功を以て、孝景前六年中に、綰を封じて建陵侯と爲す。其明年、上、太子を廢して、(一)栗卿の屬を誅す。上、綰の長者爲るを以て忍

後三歳餘。太初二年中。丞相慶卒。謚爲恬侯。慶中子德。慶愛用之。上以德爲嗣代侯。後爲太常。坐法當死。贖免爲庶人。慶方爲丞相。諸子孫爲吏更至二千石者十三人。及慶死後稍以罪去。孝謹益衰矣。

建陵侯衛綰者。代大陵人也。綰以戲車爲郎。事文帝。功次遷爲中郎將。醇謹無他。孝景爲太子時。召上左右飲。而綰稱病不行。文帝且崩時。屬孝景曰。綰長者。善遇之。及文帝崩。景帝立。歲餘。不譙呵綰。綰日以謹力。景帝幸上

建陵侯、衛綰は、代の大陵の人なり。綰、戲車(一)を以て郎と爲る。文帝に事ふ。功次を以て遷りて中郎將と爲る。醇謹にして他無し。孝景、太子爲りし時、上(二)の左右を召して飮す。而れども綰病と稱して行かず。文帝且に崩ぜんとする時、孝景に屬して曰く、綰は長者なり、善く之を遇(三)せよと。文帝の崩じ、景帝の立つに及び歲餘にして、綰を譙呵(四)せず。綰日〻に以て謹力す。景帝上林に幸す。中郎將に詔して參乘せしむ。還りて問ひて曰く、君は參乘を得る所以を知る乎。綰曰く、臣車士より、幸ひに(五)功次を以て遷りて中郎將と爲るを得たり、自ら知らざるなり。上問ひて曰く、吾れ太子爲りし時君を召す。君來るを肯ぜざりしは何ぞや。對へて曰く、死罪なり、實に病めりと。上之に劍を賜ふ。綰曰く、先帝、臣に劍を賜ふ凡そ六(六)劍あり、敢て詔を奉ぜずと。上曰く、劍は人の施易(七)する所なり。獨り今

丞相罷駑。無以輔治。城郭倉庫空虛。民多流亡。罪當伏斧質。上不忍致法。願歸丞相侯印。乞骸骨歸。避賢者路。天子曰。倉廩既空。民貧流亡。而君欲請徙之。搖蕩不安。動危之。而辭位。君欲安歸難乎。以書讓慶。慶甚慙。遂復視事。慶文深審謹。然無他大略為百姓言。

くして、上、法を致すに忍びず。願くは丞相侯の印を歸し、骸骨を乞ひ、歸り、(四)賢者の路を避けん。天子曰く、倉廩既に空しく、民貧しく流亡す。而るを君請ひて(五)之を徙さんと欲す、搖蕩して安からず。之を動危して而して位を辭す、君安くに(六)難を歸せんと欲する乎と。書を以て慶を讓む。慶甚だ慙ぢ、遂に復た事を視る。慶、文深審謹なり。然れども他の大略の、(七)百姓の爲に言ふもの無し。後三歲餘、太初二年中、丞相慶卒す。諡して恬侯と爲す。慶の中子德、慶之を愛用す。上、德を以て嗣と爲し代り侯とす。後太常と爲る。法に坐して死に當す。贖ひ免して庶人と爲る。慶、丞相と爲るに方り、諸子孫吏と爲り、更に二千石に至る者十三人あり、慶の死するに及び後、稍く(八)罪を以て去らる。孝謹益〻衰ふ。

(一) つかれ老いぼれて　(二) 城郭倉庫は空しくからとなり　(三) 罪當に斧質に伏して誅戮を受くべき筈なるに　(四) 賢者の進み用ひらるゝ路を開かん　(五) 流亡せる人民を邊境に徙謫せんと欲す、故に人民は動搖して安寧ならず　(六) この困難なる場合に立ち至らしめたる責任を何れに負はしめんとするか　(七) 偉大なる謀略の國家百姓の爲に意見を發表するものなし　(八) 罪を得て以て官を去る

巡二狩海內一。修二上古神祠封禪一。興二禮樂一。公家用少。桑弘羊等致レ利。王溫舒之屬峻レ法。兒寬等推二文學一至二九卿一。更進用レ事。事不レ關二決於丞相一。丞相醇謹而已。在レ位九歲。無下能有レ所二匡言一。嘗欲三請治二上近臣所忠。九卿減宣罪一。不レ能レ服。反受二其過一贖レ罪。元封四年中。關東流民二百萬口。無二名數一者四十萬。公卿議欲下請徙二流民於邊一以適上レ之。上以爲丞相老謹。不レ能レ與二其議一。乃賜二丞相告歸一。而案二御史大夫以下議爲レ請者一。丞相慙レ不レ任レ職。乃上書曰。慶幸得レ待二罪

を贖ふ。元封四年中、關東の流民二百萬口、名數無き者四十萬、公卿議して請ひて流民を邊に徙し以て之を適せん(一一)と欲す。上以爲く(一二)丞相老謹、其議に與ること能はずと。乃ち丞相に告歸を賜ふ。而して御史大夫以下の議して爲に請ふ者を案ず(一三)。

(一) 帝王の制度の命、告令、即ち詔を下すこと (二) 僭越、閔越 (三) 封禪の山祀 (四) 公家の費多く、財政困難と爲れり (五) 租税を增徵し、其他事貨の事業を設けて私利を圖り (六) 刑法を峻嚴にし (七) 推擧 (八) 政事は丞相の手によつて決斷せず (九) 時の政事に就きて過を匡正して意見を申上げたる事なし (一〇) 罪せしむること能はず (一一) 流浪せる人民 (一二) 無籍者 (一三) 不當の請願したるものを取調ぶ

丞相職に任ぜざるを慙ぢ、乃ち上書して曰く、慶幸に罪を丞相に待つを得、罷(一)駑以て輔治する無く、城郭倉庫空虛にして、民多く流亡す。罪(二)當に斧質に伏すべ

之曰。誤。書馬字與尾當五。今乃四不足一。上譴死矣。甚惶恐。其爲謹愼雖他皆如是。萬石君少子慶爲太僕御出。上問車中幾馬。慶以策數馬畢。擧手曰六馬。慶於諸子中最爲簡易矣。然猶如此。爲齊相。擧齊國皆慕其家行。不言而齊國大治。爲立石相祠。元狩元年。上立太子。選羣臣可爲傅者。慶自沛守爲太子太傅。七歲。遷爲御史大夫。

死罪に處せられん　(一〇) 乘輿を掌る官　(一一) 諸子の中に於て最も簡易に物事を爲す人なり

元鼎五年。秋。丞相有罪罷。制詔御史。萬石君先帝尊之。子孫孝。其以御史大夫慶爲丞相。封爲牧丘侯。是時漢方南誅兩越。東擊朝鮮。北逐匈奴。西伐大宛。中國多事。天子

元鼎五年の秋、丞相罪有りて罷む。御史に制詔すらく、萬石君は先帝之を尊ぶ。子孫孝なり。其れ御史大夫慶を以て丞相と爲し、封じて牧丘侯と爲せと。是の時漢方に南のかた兩越を誅し、東のかた朝鮮を撃ち、北のかた匈奴を逐ひ、西のかた大宛を伐つ。中國多事なり。天子海内を巡狩し、上古の神祠封禪を修め、禮樂を興す。公家用少し。桑弘羊等利を致し、王溫舒の屬法を峻にす。兒寬等文學を推し、九卿に至り、更〻進みて事を用ふ。事丞相に關決せず。丞相は醇謹なるのみ。位に在ること九歲、能く匡言する所有ること無し。嘗て請ひて上の近臣所忠、九卿減宣の罪を治せんと欲し、服すること能はず。反つて其過を受け、罪

萬石君譲曰。内史貴人。入二閭里一。里中長老皆走匿。而内史坐二車中一自如。固當。乃謝罷レ慶。慶及諸子弟入二里門一趨至レ家。萬石君以二元朔五年中一卒。長子郎中令建哭泣哀思。扶杖乃能行。歲餘。建亦死。諸子孫咸孝。然建最甚。甚二於萬石君一。建爲二郎中令一。書奏レ事。事下。建讀レ

中令建哭泣哀思し、扶杖(六)して乃ち能く行く。歲餘にして、建も亦死す。諸子孫咸孝なり。然れども建最も甚だしく、萬石君より甚だし。建、郎中令と爲り、書して事を奏す。事下る(七)。建之を讀みて曰く、誤る。馬字を書す。尾と當に五なるべし(八)。今乃ち四、足らざること一、上譴めば(九)死せんと。甚だ惶恐す。其の謹愼爲る、他と雖ども皆是くの如し。萬石君の少子慶太僕(一〇)と爲り、御して出づ。上、車中より幾馬ぞと問ふ。慶、策を以て馬を數へ畢りて、手を擧げて曰く、六馬なりと。慶(一一)諸子の中に於て最も簡易爲り。然れども猶ほ此の如し。齊の相と爲る。齊國を擧げ皆其家行を慕ひ、言はずして齊國大に治る。爲に石相祠を立つ。元狩元年、上、太子を立つ。羣臣、傅と爲す可き者を選ぶ。慶、沛の守より太子の太傅と爲る。七歲にして、遷りて御史大夫と爲る。

(一) 村里の門に入り下車せず　(二) 宗族中の者　(三) 走り匿れて無禮の貌なきやうにす　(四) 固より當然なりといひて、反面に其不都合なる行爲なる意を含めて詰責す　(五) 坐を退かしむ　(六) 哀慕して大に身體衰弱し、杖にすがりて稍々行く　(七) 事件を上奏せしが、下渡しになりたり　(八) 五點なるべし　(九) 若し陛下より譴責せられば、

伏而食ㇾ之。如ㇾ在二上前一。其執ㇾ喪。哀戚甚悼。子孫遵ㇾ教亦如ㇾ之。萬石君家以二孝謹一聞二乎郡國一。雖二齊魯諸儒質行一。皆自以爲ㇾ不ㇾ及也。建元二年。郎中令王臧以二文學一獲ㇾ罪。皇太后以爲儒者文多質少。今萬石君家不ㇾ言而躬行。乃以二長子建一爲二郎中令一。少子慶爲二內史一。建老白首。萬石君尙無ㇾ恙。建爲二郎中令一。毎二五日一洗沐。歸謁ㇾ親。入二子舍一。竊問二侍者一。取二親中裙厠牏一。身自浣滌。復與二侍者一。不三敢令二萬石君知一。以爲ㇾ常。建爲二郎中令一。事有ㇾ可ㇾ言。屛ㇾ人恣言極切。至二廷見一。如二不ㇾ能ㇾ言者一。是以上乃親尊二禮之一。

ものゝ如し。是を以て上親みて之を尊禮す。

(一) 自家に歸り老年を養ふ (二) 一歳四時の時節には、朝臣の資格を以て入朝して伺候す (三) 陛下乘用の馬車を見れば、必ず車の横木に倚りかゝりて手を擧げて會釋を爲し (四) 官服を着けて其の子孫に面會し (五) 叱り責めず (六) 肌を脱ぎて固く謝罪を爲し (七) 年長じ冠を被ることの出來る者 (八) のびのびとして安らかなり (九) 質素の行ひ (一〇) 小部屋 (一一) 肌着、便器

萬石君徙居二陵里一。內史慶醉歸。入二外門一不ㇾ下ㇾ車。萬石君聞ㇾ之不ㇾ食。慶恐。肉袒請ㇾ罪。不ㇾ許。擧宗及兄建肉袒。

萬石君徙り陵里に居る。內史慶醉ひて歸る。(一)外門に入り、車を下らず。萬石君之を聞き、食はず。慶恐れ肉袒して罪を請ふ。許さず。(二)擧宗及び兄の建肉袒す。萬石君讓めて曰く、內史は貴人なり。閭里に入れば、里中の長老皆走匿す。(三)而るを內史車中に坐して自如たり、(四)固より當れりと。乃ち謝して慶を罷む。(五)慶及び諸〻の子弟里門に入るや、趨りて家に至る。萬石君元朔五年中を以て卒す。長子郎

門闕。萬石君必下車趨。見路馬必式焉。子孫爲小吏、來歸謁。萬石君必朝服見之。不名。子孫有過失。不譙讓。爲便坐對案不食。然後諸子相責。因長老肉袒固謝罪。改之乃許。子孫勝冠者在側。雖燕居必冠。申申如也。僮僕訢訢如也。唯謹。上時賜食於家。必稽首俯

れば、譙讓(五)せず。爲に便坐し、案に對して食はず。然る後諸子相責め、長老に因り肉袒(六)して固く罪を謝す。之を改めて乃ち許す。子孫冠(七)に勝ふる者側に在れば、燕居と雖ども必ず冠し、申申如(八)たり。僮僕には訢訢如たり。唯謹む。上時に食を家に賜ふ。必ず稽首俯伏して之を食す。上の前に在るが如し。其の喪を執ること哀戚し甚だ悼む。子孫教に遵ひ、亦之の如し。萬石君の家孝謹を以て郡國に聞ゆ。齊魯諸儒の質行(九)と雖ども、皆自ら以て及ばずと爲す。建元二年郎中令王臧文學を以て罪を獲。皇太后以爲く、儒者は文多く質少し、今萬石君の家言はずして躬行すと。乃ち長子建を以て郎中令と爲し、少子慶を內史と爲す。建老いて白首、萬石君尙ほ恙無し。建郎中令と爲り、五日毎に洗沐し、歸りて親に謁す。(一〇)子舍に入り、竊に侍者に問ひ、親の中裙廁牏(一一)を取り、身自ら浣滌し、復た侍者に與ふ。敢て萬石君をして知らしめず。以て常と爲す。建、郎中令と爲り、事言ふ可き有れば、人を屛けて恣言極めて切なり。廷見に至りては、言ふこと能はざる

乎。曰。願盡レ力。於レ是高祖召二其姊一爲二美人一。以レ奮爲二中涓一。受二書謁一。徙二其家長安中戚里一。以三姊爲二美人一故也。其官至二孝文時一。積二功勞一至二大中大夫一。無二文學一。恭謹無レ與比一。文帝時。東陽侯張相如爲二太子太傅一。免。選二可レ爲レ傅者一。皆推レ奮。奮爲二太子太傅一。及二孝景卽レ位。以爲二九卿一。迫近憚レ之。徙レ奮爲二諸侯相一。奮長子建。次子甲。次子乙。次子慶。皆以二馴行孝謹一。官皆至二二千石一。於レ是景帝曰。石君及四子。皆二千石。人臣尊寵乃集二其門一。號レ奮爲二萬石君一。

位に卽くに及びて、以て九卿と爲す。(七)迫近なれば之を憚る。奮を徙して諸侯の相と爲す。奮の長子建、次子甲、次子乙、次子慶、皆馴行孝謹を以て、官皆二千石に至る。是に於て景帝曰く、石君及び四子、皆二千石なり。人臣の尊寵(八)乃ち其門に集ると。奮を號し萬石君と爲す。

(一) 何か親族あるか　(二) 醫者となる　(三) 女官の一　(四) 宮中に居て淸潔の事を掌るもの　(五) 文書應接を取次がしむ　(六) 帝室姻戚の居る處なるを以て名づく　(七) 帝の御側に居る官なれば　(八) 尊榮寵光

孝景帝季年。萬石君以二上大夫祿一。歸二老于家一。以二歲時一爲二朝臣一。過二宮

孝景帝の季年、萬石君、上大夫の祿を以て、家に(一)歸老す。(二)歲時を以て朝臣爲り。宮の門闕を過ぐれば、萬石君必ず車を下りて趨る。(三)路馬を見れば必ず式す。子孫小吏と爲りて來歸し謁す。萬石君必ず(四)朝服して之を見る。名いはず。子孫過失有

萬石君。名奮。其父趙人也。姓石氏。趙亡徙居ㇾ溫。高祖東擊二項籍一。過二河內一。時奮年十五。爲二小吏一。侍二高祖一。高祖與語。愛二其恭敬一。問曰。若何有。對曰。奮獨有ㇾ母。不幸失ㇾ明。家貧。有ㇾ姉能鼓ㇾ琴。高祖曰。若能從ㇾ我

巻百三

萬石張叔列傳第四十三

萬石君名は奮、其父は趙の人なり。姓は石氏、趙亡び徙りて溫に居る。高祖東のかた項籍を擊ち、河內を過ぐ。時に奮年十五なり。小吏と爲り、高祖に侍す。高祖與に語りて其恭敬を愛す。問ひて曰く、若(一)何か有る。對へて曰く、奮獨り母有り、不幸にして(二)明を失ひ、家貧し。姉有り能く琴を鼓すと。高祖曰く、若能く我に從はん乎。曰く、願くは力を盡さんと。是に於て高祖其姉を召して(三)美人と爲し、奮を以て(四)中涓と爲し、(五)書謁を受けしむ。其家を長安中の(六)戚里に徙す。姉の美人爲るを以ての故なり。其官孝文の時に至りて、功勞を積み大中大夫に至る。文學無し。恭謹なること與に比する無し。文帝の時、東陽侯張相如太子の太傅と爲り、免す。傅と爲す可き者を選ぶ。皆奮を推す。奮、太子の太傅と爲る。孝景の

季之言二長者一。守レ法不レ阿レ意。馮公之論二將率一。有レ味哉。語曰。不レ知二其人一視二其友一。二君之所二稱誦一。可レ著二廊廟一。書曰。不レ偏不レ黨。王道蕩蕩。不レ黨不レ偏王道便便。張季馮公近レ之矣。

味有る哉。語に曰く、其人を知らざれば、其友を視よと。二君の稱誦する所、廊廟に著す可し。(三)書に曰く、(四)偏せず黨せず、王道蕩蕩たり。(五)黨せず偏せず、王道便便たりと。(六)張季馮公は之に近し。

(一) 正しき法を執り守り、妄りに帝の意に阿り諛はず　(二) 將帥の道を論ずる　(三) 朝廷に著し置く可きものなり　(四) 書經　(五) 廣大なり　(六) 平均なり

虜。上二功莫府一。一言不二相應一。文吏以レ法繩レ之。其賞不レ行。而吏奉レ法必用。臣愚以爲陛下法太明。賞太輕。罰太重。且雲中守魏尙。坐三上功首虜差二六級一。陛下下二之吏一。削二其爵一罰二作之。由レ此言レ之。陛下雖レ得二廉頗李牧一。弗レ能レ用也。臣誠愚觸二忌諱一。死罪死罪。文帝說。是日令三馮唐持レ節赦二魏尙一。復以爲二雲中守一。而拜レ唐爲二車騎都尉一。主二中尉及郡國車士一。七年。景帝立。以レ唐爲二楚相一。免。武帝立求二賢良一。擧二馮唐一。唐時年九十餘。不レ能二復爲一レ官。乃以二唐子馮遂一爲レ郎。遂字王孫。亦奇士。與レ余善。

唐をして節(七)を持さしめて魏尙を赦し、復た以て雲中の守と爲さしむ。而して唐を拜して車騎都尉と爲し、中尉及び郡國の車士を主らしむ。七年景帝立つ。唐を以て楚の相と爲す、免す。武帝立ちて賢良を求む。馮唐を擧ぐ。唐時に年九十餘、復た官と爲ること能はず。乃ち唐の子馮遂を以て郎と爲す。遂字は王孫も亦た奇士なり。余と善し。

(一) 官庫より別途に私養料として大將に支給せる金錢 (二) 田圃の中より起りて軍に從ふ (三) 敵の首を斬りたる功を書き記せるもの (四) 組合を立て組織的に活動すること (五) 一言葉が相應ぜずして其數に相違ありたりとて (六) 斬首捕虜 (七) 使者の節を持たしめて

太史公曰。張

太史公曰く、張季の長者を言ふ、(一)法を守り意に阿らず、馮公の(二)將率を論ずる、

李牧乃得盡其智能。遣選車千三百乘。彀騎萬三千。百金之士十萬。是以北逐單于。破東胡。滅澹林。西抑彊秦。南支韓魏。當是之時。趙幾覇。其後會趙王遷立。其母倡也。王遷立。乃用郭開讒。卒誅李牧。令顏聚代之。是以兵破士北。爲秦所禽滅。

今臣竊聞。魏尙爲雲中守。其軍市租盡以饗士卒。私養錢五日一椎牛。饗賓客軍吏舍人。是以匈奴遠避。不近雲中之塞。虜曾一入。尙率車騎擊之。所殺甚衆。夫士卒盡家人子。起田中從軍。安知尺籍伍符。終日力戰。斬首捕

今臣竊に聞く、魏尙、雲中の守と爲り、其軍市の租は、盡く以て士卒を饗し、私(一)養錢は、五日一たび牛を椎し、賓客軍吏舍人を饗す。是を以て匈奴遠避し、雲中の塞に近づかず。虜曾て一たび入る。尙ほ車騎を率ゐて之を擊つ、殺す所甚だ衆し。夫れ士卒は盡く家人の子なり。(二)田中より起り軍に從ふ。安ぞ尺籍(三)の伍符(四)を知らん。終日力戰し、首を斬り虜を捕へ、功を莫府に上る。(五)一言相應ぜざれば、文吏法を以て之を繩す。其賞行はれずして、吏、法を奉ずるは必ず用ひらる。臣愚以爲く、陛下の法太だ明かにして、賞太だ輕く、罰太だ重しと。且つ雲中の守魏尙、功を上る首虜六級を差ふに坐し、陛下之を吏に下し、其爵を削り、之を罰作(六)す。此れに由りて之を言へば、陛下、廉頗李牧を得と雖ども、用ふること能はざるなり。臣誠に愚にして、忌諱に觸る。死罪死罪と。文帝說ぶ。是の日馮

何以知吾不
能ㇾ用二廉頗李
牧一也。唐對曰。
臣聞。上古王
者之遣ㇾ將也。
跪而推ㇾ轂曰。
閫以內者。寡
人制ㇾ之。閫以
外者。將軍制ㇾ
之。軍功爵賞。
皆決二於外一歸
而奏ㇾ之。此非二
虛言一也。臣大
父言。李牧爲二
趙將一居ㇾ邊。軍
市之租。皆自
用饗ㇾ士。賞賜
決二於外一。不ㇾ從二
中擾一也。委任
而責二成功一。故

軍功爵賞、皆外に決し歸りて之を奏せよと。此れ虛言に非ざるなり。臣が大父言ふ、李牧趙の將と爲り邊に居る。(五)軍市の租、皆自ら用ひて士に饗す。(六)賞賜外に決し、中より擾さざるなり。(七)委任して成功を責む。故に李牧乃ち其智能を盡すを得たり。(八)選車千三百乘、(九)彀騎萬三千、百金の士十萬を遣る。是を以て北のかた單于を逐ひ、東胡を破り、澹林を滅し、西のかた彊秦を抑へ、南のかた韓魏を支ふ。是の時に當り、趙幾ど霸たり。其後趙王遷の立つに會ふ。其母は倡なり。王遷立ち、乃ち郭開の讒を用ひて、卒に李牧を誅し、顏聚をして之に代らしむ。是を以て兵破れ士北ぐ。(一〇)秦に禽滅せらるゝを爲すと。

(一)地名 (二)心に掛けて苦慮す (三)宮門まで見送りて車のこしきを推して曰く (四)閫は門限、此の門限より以內の事は自分に於て之を制裁せん、門限以外の事はすべて將軍に於て之を制裁せよ (五)軍中に立つる市より徵する稅 (六)賞賜はすべて出征先の陣屋にて決し、趙王は宮中より彼れ此れと干涉せず (七)全責任を負はして、成効を遂げしめたり (八)選みすぐりたる良車 (九)騎兵の射を善くする者 (一〇)趙王は秦の爲に禽にせられ滅ぼさる

在鉅鹿也。父知之乎。唐對曰。尙不如廉頗李牧之爲將也。上曰。何以。唐曰。臣大父在趙時。爲官卒將。善李

と雖ども、用ふること能はざるなりと。上怒り起ちて禁中に入る。良久しくて唐を召し譲めて曰く、公奈何ぞ衆に我を辱めし、(六)獨り間處無からん乎。唐謝して曰く、鄙人忌諱を知らずと。

(一)中郎の役所の長官　(二)王の食物を司る役　(三)食事をする度毎に心中鉅鹿の事を思ひ浮べずには居られず　(四)股を打ちて　(五)今時に當りて廉頗李牧吾が將と爲り居らば　(六)誰れも居らぬなりのあるのに

牧。臣父故爲代相。善趙將李齊。知其爲人也。上既聞廉頗李牧爲人。良說而搏髀曰。嗟乎。吾獨不得廉頗李牧時爲吾將。吾豈憂匈奴哉。唐曰。主臣。陛下雖得廉頗李牧。弗能用也。上怒起入禁中。良久召唐讓曰。公奈何衆辱我。獨無間處乎。唐謝曰。鄙人不知忌諱。

當是之時。匈奴新大入朝那。殺北地都尉昂。上以胡寇爲意。乃卒復問唐曰。公

是の時に當りて、匈奴新に大に朝那に入り、(一)北地の都尉昂を殺す。上、胡の寇を(二)以て意と爲す。乃ち卒に復た唐に問ひて曰く、公何を以て吾が廉頗李牧を用ふること能はざるを知ると。唐對へて曰く、臣聞く、上古王者の將を遣る、跪きて轂(三)を推して曰く、(四)閫より以內は、寡人之を制せん、閫より以外は、將軍之を制せよ。

無益於張廷尉。張廷尉方今天下名臣。吾故聊辱廷尉、使跪結襪。欲以重之。諸公聞之、賢王生而重張廷尉。張廷尉事景帝歲餘。爲淮南王相。猶尚以前過也。久之釋之卒。其子曰張摯、字長公。官至大夫免。以不能取容當世。故終身不仕。

馮唐者。其大父趙人。父徙代。漢興徙安陵。唐以孝著。爲中郎署長。事文帝。文帝輦過。問唐曰。父老何自爲郎。家安在。唐具以實對。文帝曰。吾居代時。吾尚食監高袪數爲我言趙將李齊之賢。戰於鉅鹿下。今吾每飯。意未嘗不

馮唐は、其大父は趙の人なり。父代に徙る。漢興りて安陵に徙る。唐孝を以て著れ、(一)中郎の署長と爲り、文帝に事ふ。文帝輦して過る。唐に問ひて曰く、父老何に自りて郎と爲る、家安くに在る。唐具に實を以て對ふ。文帝曰く、吾代に居りし時、吾が尚(二)食監高袪數〻我が爲に趙將李齊の賢にして、鉅鹿の下に戰ふを言ふ。今吾(三)飯する毎に、意未だ嘗て鉅鹿に在らざることあらず。父之を知れる乎。唐對へて曰く、尚、廉頗・李牧の將たるに如かざるなりと。上曰く、何を以てぞ。唐曰く、臣が大父趙に在りし時、(四)官の卒將爲り。李牧に善し。臣が父故代の相爲りしとき、趙の將李齊に善し。其の人と爲りを知れるなりと。上既に廉頗、李牧が人と爲りの良なるを聞き、說びて髀を搏ちて曰く、嗟乎吾獨り廉頗李牧を得ず。(五)時に吾が將爲らば、吾豈に匈奴を憂へん哉と。唐曰く、主臣、陛下、廉頗李牧を得

懼二大誅至一。欲二見謝一。則未レ知二何如一。用二王生計一卒見謝。景帝不レ過也。王生者。善爲二黄老言一處士也。嘗召居二廷中一。三公九卿盡會立。王生老人。曰。吾韈解。顧謂二張廷尉一。爲レ我結レ韈。釋之跪而結レ之。既已人或謂二王生一曰。獨奈何廷辱二張廷尉一。使二跪結一レ韈。王生曰。吾老且賤。自度終

に見え謝す。景帝過めず。王生は黄老の言を爲むる處士なり。嘗て召されて廷中に居る。三公九卿盡く會立す。王生は老人なり。曰く、吾が韈解く(二)と。顧みて張廷尉に謂ふ、我が爲に韈を結べと。釋之跪きて之を結ぶ。既に已にして人或ひは王生に謂ひて曰く、獨り奈何ぞ廷にして張廷尉を辱しめ、跪き韈を結ばしめしと。王生曰く、吾老い且つ賤し、自ら度るに(三)終に張廷尉に益する無けん、張廷尉は方今天下の名臣なり、吾故に聊か廷尉を辱しめ、跪きて韈を結ばしめ、以て(四)之を重くせんと欲すと。諸公之を聞きて、王生を賢として張廷尉を重んず。張廷尉、景帝に事ふること歲餘にして、淮南王の相と爲る。(五)猶尚前過を以てするなり。之を久しくして釋之卒す。其子を張摯字は長公と曰ふ。官大夫に至り免す。當世に(六)取容せらるゝ能はざるを以て、故に終身仕へず。

(一) 大誅戮の其身に至らんことを懼れて免去を見合せたり　(二) 韈の紐解く　(三) 自身推しはかるに　(四) 張廷尉の美徳を天下に發表して其の人物を天下に重くせんと欲す　(五) 矢張前年の過失を含みてなり　(六) 受け容れられざるを以て

今既下二廷尉一。廷尉天下之平也。一傾而天下用レ法。皆爲二輕重一。民安所レ錯二其手足一。唯陛下察レ之。良久上曰。廷尉當是也。其後有三人盜二高廟坐前玉環一。捕得。文帝怒下二廷尉一。廷尉治。釋之案下律盜二宗廟服御物一者上爲レ奏。奏當二棄市一。上大怒。曰。人之無道。乃盜二先帝廟器一。吾屬二廷尉一者。欲レ致レ族レ之。而君以レ法奏レ之。非下吾所三以共二承宗廟一意上也。釋之免レ冠頓首謝曰。法如レ是足也。且罪等。然以二逆順一爲レ差。今盜二宗廟器一而族レ之。有レ如三萬分之一。假令愚民取二長陵一抔土一。陛下何以加二其法一乎。久之文帝與二太后一言レ之。乃許二廷尉一。當二是時一。中尉條侯周亞夫。與二梁相山都侯王恬開一。見二釋之持レ議平一。乃結爲二親友一。張廷尉由レ此天下稱レ之。

を以て其法を加へん乎(や)と。之を久しくして、文帝、太后と之を言ひ、乃ち廷尉に許す。是の時に當りて、中尉條侯周亞夫(でうこうしうあふ)、梁の相山都侯王恬開(てんかい)と、釋之の議を持(ぢ)することが平なるを見、乃ち結(むす)びて親友と爲(な)る。張廷尉此(これ)に由りて天下之を稱す。

(一)橋の名　(二)取調をなす　(三)長安縣の人なり　(四)罪の當る所を奏す　(五)陛下が其場にて直ぐ罪人を誅戮せしめ給ひしならばそれ迄の事なり　(六)天下の司法官は皆勝手に罪を或ひは輕くし或ひは重くするに至らん　(七)高祖の靈廟の坐前の玉の環　(八)死刑に當す　(九)三族を誅戮する重刑に處せんと欲す　(一〇)罪は等しく死刑なれども比較的逆と順とを酌量して等差を爲せり　(一一)高祖皇帝の御陵の地一掬を盜み取るが如きことあらば

後文帝崩。景帝立。釋之恐。稱レ病欲二免去一。

後文帝崩じ、景帝立つ。釋之恐れて、病と稱し免去せんと欲し、大誅の至らんこと(一)を懼(おそ)る。見(まみ)え謝せんと欲すれば、則ち未だ何如を知らず。王生の計を用ひ、卒(つひ)

久之以爲行已過即出見乘輿車騎即走耳。廷尉奏當。一人犯蹕當罰金。文帝怒曰。此人親驚吾馬。吾馬賴柔和。令他馬固不敗傷我乎。而廷尉乃當之罰金。釋之曰。法者天子所與天下公共也。今法如此。而更重之。是法不信於民也。且方其時。上使立誅之則已。

るに廷尉乃ち之を罰金に當すと。釋之曰く、法は天子の天下と與に公共にする所なり。今法此くの如し、而るに更に之を重くす、是れ法、民に信ならざるなり。且つ其時に方りて、(五)上立どころに之を誅せしめば則ち已まん、今既に廷尉に下せり。廷尉は天下の平なり、一たび傾かば(六)天下の法を用ふるもの皆輕重を爲さん。民安くに其手足を錯く所あらん。唯陛下之を察せよと。良久しくして上曰く、廷尉の當是なりと。其後人、(七)高廟坐前の玉環を盜むもの、捕へ得たり。文帝怒りて廷尉に下す。廷尉治す。釋之律の宗廟服御の物を盜む者を案じ奏を爲し、奏して(八)棄市に當す。上大に怒りて曰く、人の無道なる、乃ち先帝の廟器を盜む。吾の廷尉に屬する者、之を族(九)するを致さんと欲す。而して君、法を以て之を奏す。吾が宗廟に共承する所以の意に非ざるなりと。釋之冠を免し頓首して謝して曰く、法是くの如くして足る。且つ罪(一〇)等しきも、然れども逆順を以て差を爲す。今宗廟の器を盜みて之を族せば、萬分の一、假令愚民長陵(一一)一抔の土を取るが如きこと有らば、陛下何

公門一不敬上。奏レ之。薄太后聞レ之。文帝免レ冠謝曰。教二兒子一不謹。薄太后乃使三使承レ詔赦二太子梁王一。然後得レ入。文帝由レ是奇二釋之一。拜爲二中大夫一。頃レ之至二中郎將一。從レ行至二霸陵一。居レ北臨レ廁。是時愼夫人從。上指二示愼夫人新豐道一曰。此走二邯鄲一道也。使二愼夫人鼓一レ瑟。上自倚レ瑟而歌。意慘悽悲懷。顧謂二羣臣一曰。嗟乎以二北山石一爲レ槨。用二紵絮一斮陳。蕠二漆其間一。豈可レ動哉。左右皆曰。善。釋之前進曰。使三其中有二可レ欲者一。雖レ錮二南山一猶有レ郄。使三其中無二可レ欲者一。雖レ無二石槨一又何戚焉。文帝稱レ善。

註 〔一三〕地名 〔一四〕瑟の調子に合せて歌ふ 〔一五〕悲しみいたみあはれを催す 〔一六〕北山の美石を採りて外棺に作り、麻綿を細く切りて其間に詰めしつくひとなさば 〔一七〕其棺中に人の欲する寶玉財貨を入れ置かば、終南山の大なるを其棺槨となし銅鐵を鎔し沸かして隙間を固むるとも、猶は隙間あらん

其後拜二釋之一爲二廷尉一。頃レ之上行出二中渭橋一。有二一人一從二橋下一走出。乘輿馬驚。於レ是使二騎捕一。屬二之廷尉一。釋之治問。曰。縣人。來聞レ蹕匿二橋下一。

其後釋之を拜して廷尉と爲す。之を頃くして、上行きて中渭橋（一）に出づ。一人有り橋下より走り出づ。乘輿の馬驚く。是に於て騎をして捕へしめ、之を廷尉に屬す。釋之治問（二）す。曰く、縣人（三）なり。來るとき蹕を聞き、橋下に匿る。之を久しくして以て行已に過ぐと爲し、卽ち出づれば、乘輿の車騎を見る、卽ち走るのみと。廷尉當（四）を奏す。一人蹕を犯す、罰金に當すと。文帝怒りて曰く、此人親ら吾馬を驚かす、吾が馬頼に柔和なり、他馬ならしめば、固に我を敗傷せざらん乎。而

廢爭爲二口辯一。而無二其實一。且下之化レ上。疾二於景響一。舉錯不レ可レ不レ審也。文帝曰。善。乃止不レ拜二嗇夫一。上就レ車召二釋之參乘一。徐行。問二釋之秦之敝一。具以レ質言。至レ宮。上拜二釋之一爲二公車令一。頃レ之太子與二梁王一共レ車入朝。不レ下二司馬門一。於是釋之追二止太子梁王一。無レ得レ入二殿門一。遂劾下不レ下二

く、兒子を教ふること不謹なりきと。薄太后乃ち使をして詔を承け太子梁王を赦さしむ。然る後に入ることを得たり。文帝是に由りて釋之を奇とし、拜して中大夫と爲す。之を頃くして、中郎將に至る。行に從ひ霸陵に至る。北に居り廁(一二)に臨む。是の時愼夫人從ふ。上、愼夫人に新豐(一三)の道を指示して曰く、此れ邯鄲に走く道なりと。愼夫人をして瑟を鼓せしむ。上自ら瑟(一四)に倚りて歌ふ。意慘悽悲懷(一五)す。顧みて羣臣に謂ひて曰く、嗟呼北山(一六)の石を以て槨と爲し、紵絮を用ひて斮陣し、其間に絮漆す、豈に動す可けん哉と。左右皆曰く善しと。釋之前進して曰く、其中(一七)に欲す可き者有らしめば、南山(一八)を錮すと雖ども猶ほ郄有らん、其中に欲す可き者無からしめば、石椁無しと雖ども、又何ぞ戚まんと。文帝善しと稱す。

(一) べら／＼と口達者にすばやきに習ふには及ぶまじ　(二) 書類俗務に練達して居る役人　(三) 火急にいらだつて規則末節にきびしくするを以て、相互に高ぶり誇り合ふ　(四) 自己の過ちを聞かず、次第に衰へて　(五) 一躍的に昇進せしむ　(六) 其心の信實なからんことを　(七) 影の形に伴ひ響の聲に應ずるよりも疾し　(八) 巨細に飾りなく眞實の處を以て言上す　(九) 殿の司馬門を掌る官　(一〇) 後より追ひかけて引き止め　(一一) 彈劾し　(一二) 岸の邊

釋之曰。夫絳侯東陽侯稱爲二長者一。此兩人。言レ事。曾不レ能レ出レ口。豈斅二此嗇夫諜諜利口捷給一哉。且秦以レ任二刀筆之吏一。吏爭以二亟疾苛察一相高。然其蔽徒文具耳。無二惻隱之實一。以レ故不レ聞二其過一。陵遲而至二於二世一。天下土崩。今陛下以二嗇夫口辯一。而超二遷之一。臣恐天下隨レ風。靡

釋之曰く、夫れ絳侯・東陽侯は稱して長者と爲す。此の兩人事を言ふ曾て口に出すと能はず。豈に此の嗇夫の諜諜(一)として、利口捷給なるに斅はん哉。且つ秦、刀筆(二)の吏に任ずるを以て、吏爭ひて亟疾苛察(三)を以て相高ぶる。然して其敝たるや徒に文具のみ。惻隱の實無し。故を以て其(四)過を聞かず。陵遲して二世に至りて、天下土崩す。今陛下、嗇夫の口辯を以てして之を超遷(五)す。臣恐らくは天下風に隨ひ、靡靡として爭ひて口辯を爲して、而して其實無からん(六)ことを。且つ下の上に化するは、景響(七)より疾し。擧錯審かにせざる可からざるなりと。文帝曰く、善しと。乃ち止め、嗇夫を拜せず。上、車に就きて釋之を召し參乘せしめ、徐に行く。釋之に秦の敝を問ふ。具(八)に質を以て言ふ。宮に至るとき、上、釋之を拜して公車(九)令と爲す。之を頃くして太子、梁王と車を共にして入朝す。司馬門を下らず。是に於て釋之、太子、梁王を追止(一〇)し、殿門に入ることを得る無からしむ。遂に公門に下らざるの不敬なりしを劾(一一)し之を奏す。薄太后之を聞く。文帝冠を免じ謝して曰

前言二便宜事一。文帝曰。卑レ之。毋二甚高論一。令三今可二施行一也。於レ是釋之言下秦漢之間事。秦所二以失一。而漢所二以興一者上。久レ之文帝稱レ善。乃拜二釋之一爲二謁者僕射。釋之從レ行登二虎圈一。上問二上林尉諸禽獸簿一十餘問。尉左右視。盡不レ能レ對。虎圈嗇夫從レ旁代レ尉。對二上所レ問禽獸簿一甚悉。欲三以觀二其能一。口對響應無レ窮者一。文帝曰。吏不レ當レ若レ是邪。尉無レ賴。乃詔二釋之一。拜二嗇夫一爲二上林令一。釋之久レ之前曰。陛下以絳侯周勃何如人也。上曰。長者也。又復問。東陽侯張相如何如人也。上復曰。長者。

の禽獸の簿を對ふること甚だ悉す。以て其能を觀さんと欲す。口對響應(一〇)して窮する者無し。文帝曰く、吏當に是の若くなるべからざる邪。尉賴む無し。乃ち釋之に詔し、嗇夫を拜し、上林の令と爲す。釋之之を久しうし、前みて曰く、陛下以ふに絳侯周勃は何如なる人ぞ。上曰く、長者なり。又復た問ふ、東陽侯張相如は何如なる人ぞ。上復た曰く、長者なりと。

(一) 金を獻じて (二) 選まれて轉任することを得ず (三) 久しく仕官し仲の財產を減らして、成効を遂げず (四) 朝見し (五) 議論を卑近にし實際に適切ならしめよ (六) 謁者の取締役と爲す (七) 動物飼養所の檻上に登る (八) 禽獸の事を記入したる帳簿 (九) 尉の下役人 (一〇) 口づから對へてあだかも響の音聲に應ずるか如く少しも淀む所なし

張廷尉釋之者。堵陽人也。字季。有二兄仲一同居。以レ訾爲二騎郎一。事二孝文帝一。十歲不レ得レ調。無レ所レ知名。釋之曰。久宦減二仲之產一。不レ遂。欲二自免歸一。中郎將袁盎知二其賢一。惜二其去一。乃請徙二釋之一補二謁者一。釋之既朝畢。因

卷百二

張釋之馮唐列傳第四十二

張廷尉釋之は堵陽の人なり、字は季、兄仲有り同居す。(一)訾を以て騎郎と爲る。孝文帝に事へ、十歲にして調せらるゝ(二)を得ず。名を知らるゝ無し。釋之曰く、(三)久宦し仲の產を減じ遂げずと、自ら免歸せんと欲す。中郎將袁盎其賢を知り、其去るを惜み、乃ち請ひて釋之を徙し謁者に補す。釋之既に朝し畢り、(四)因りて前み便宜の事を言ふ。文帝曰く、之を卑(五)うせよ、甚だ高論する毋れ、今をして施行す可からしめよと。是に於て釋之秦漢の間の事、秦の失ふ所以、而して漢の興る所以の者を言ふ。之を久しうし、文帝善しと稱す。乃ち釋之を拜し(六)謁者僕射と爲す。釋之行に從ひ、(七)虎圈に登る。上、上林の尉に諸(八)の禽獸の簿を問ふこと十餘問す。尉左右に視て、盡く對ふること能はず。虎圈の嗇夫(九)旁より尉に代りて、上の問ふ所

世、時以變易。及二吳楚一一說。說雖レ行哉。然復不レ遂。好レ聲矜レ賢。竟以レ名敗。鼂錯爲二家令一時。言レ事不レ用。後擅レ權。多レ所二變更一。諸侯發レ難。不二急匡救一。欲レ報二私讎一。反以亡レ軀。語曰。變レ古亂レ常。不レ死則亡。豈錯等謂邪。

擅にし變更する所多し。(四)諸侯難を發し、急に匡救せず、私讎を報ぜんと欲し、反つて以て軀を亡す。語に曰く、(五)古を變じ常を亂るものは、死せずんば則ち亡ぶと。豈に錯等の謂ひ邪。

(一) 善く臨機應變の處置をなし　(二) 袁盎の天資まされ時世に適し、能く其才能を用ふるを得　(三) 大に名聲を欲し己れの賢を矜り、遂に名譽にあこがれたる結果刺客の手に斃る　(四) 其の反動として、吳楚の諸侯擧義を引起したるに、急に之を匡救する策を立てずして、袁盎の爲に私怨を報ぜんと欲し　(五) 妄りに古へよりの仕來りを變更し、常の法を亂るものは

謁者僕射鄧公爲ニ校尉一。擊ニ呉楚軍一爲レ將。還。上書言ニ軍事一。謁ニ見上一。上問曰。道ニ軍所一來。聞ニ鼂錯死一。呉楚罷不。鄧公曰。呉王爲レ反數十年矣。發ニ怒削一レ地。以レ誅錯爲レ名。其意非レ在レ錯也。且臣恐ニ天下之士。噤レ口不ニ敢復言一也。上曰。何哉。鄧公曰。夫鼂錯患ニ諸侯彊大不一レ可レ制。故請ニ削レ地以尊ニ京師一。萬世之利也。計畫始行。卒受ニ大戮一。內杜ニ忠臣之口一。外爲ニ諸侯一報レ仇。臣竊爲ニ陛下一不レ取也。於レ是景帝默然。良久曰。公言善。吾亦恨レ之。乃拜ニ鄧公一爲ニ城陽中尉一。鄧公成固人也。多ニ奇計一。建元中。上招ニ賢良一。公卿言ニ鄧公一。時鄧公免。起レ家爲ニ九卿一。一年復謝レ病免歸。其子章以レ修ニ黃老言一。顯ニ於諸公間一。

(一) 其枝葉に當るもの卽ち本國の外に領有せる郡を沒收せんと請ふ (二) やかましく騒ぎ立て (三) 世人の攻擊甚だしく其方を怨む者多し (四) 此くの如くなれば劉氏は安泰ならんが吾が家は危し (五) 冠服を被ながら (六) 戰地より來る (七) 呉王の本意とする處は鼂錯にあらずして漢室を覆へすに在り (八) 口を閉ぢて復た天下の爲に策を上らざるを氣遣ふ (九) 今回の錯を誅したるは、國內としては忠臣の直言を杜ぎ外は諸侯の爲に仇を報じてやりたるのみ (一〇) 黃帝老子の學問を修むるを以て京都の貴顯の間に名高し

太史公曰。袁盎雖レ不レ好レ學。亦善傅會。仁心爲レ質。引レ義忼慨。遭ニ孝文初立一。資適逢レ

太史公曰く、袁盎學を好まずと雖ども、亦善く傅會す。(一)仁心もて質と爲し、義を引き忼慨す。孝文初めて立つに遭ひ、資適に世に逢ふ。時以に變易す。呉楚に及び一說す。說行はると雖ども、然れども復た遂げず。(二)聲を好み賢に矜り、竟に名を以て敗れたり。鼂錯家令爲りし時、數〻事を言ひて用ひられず。後權を

侯二削諸侯一。別二疏人骨肉一。人口議多二怨レ公者一。何也。鼂錯曰。固也。不レ如レ此天子不レ尊。宗廟不レ安。錯父曰。劉氏安矣。而鼂氏危矣。吾去レ公歸矣。遂飲レ藥死。曰。吾不レ忍レ見三禍及二吾身一。死十餘日。吳楚七國果反。以レ誅レ錯爲レ名。及二竇嬰袁盎進說一。上令三鼂錯衣二朝衣一斬二東市一。鼂錯已死。

東市に斬る。鼂錯已に死す。謁者僕射鄧公校尉と爲り、吳楚の軍を擊ち將と爲る。還る。上書して軍事を言ひ、上に謁見す。上問ひて曰く、(六)軍所より來ると、鼂錯の死すと聞き、吳楚罷むや不や。鄧公曰く、吳王反を爲す數十年なりき。怒りを地を削るに發し、錯を誅するを以て名と爲す。(七)其意錯に在るに非ざるなり。且つ臣、天下の士口(八)を噤みて、敢て復た言はざるを恐る。上曰く、何ぞ哉。鄧公曰く、夫れ鼂錯、諸侯彊大制す可からざるを患ふ。故に請ひて地を削り以て京師を尊くす、萬世の利なりと。計畫始めて行はれ、卒に大戮を受く。(九)內は忠臣の口を杜ぎ、外は諸侯の爲に仇を報ず。臣竊に陛下の爲に取らざるなりと。是に於て景帝默然たり。良久しくして曰く、公の言善し、吾も亦之を恨むと。乃ち鄧公を拜して城陽の中尉と爲す。鄧公は成固の人なり。奇計多し。建元中、上、賢良を招く。公卿、鄧公を言ふ。時に鄧公免す。家より起りて九卿と爲り、一年にして復た病と謝し免歸す。其子章、(一〇)黃老の言を修むるを以て、諸公の間に顯る。

廟垣一爲レ門。請下ニ廷尉一誅。上曰。此非ニ廟垣一。乃壖中垣。不レ致ニ於法一。丞相謝。罷レ朝。怒謂ニ長史一曰。吾當ニ先斬以聞一。乃先請爲ニ兒所七賣。固誤。丞相遂發レ病死。

錯以レ此愈貴。遷爲ニ御史大夫一。請下諸侯之罪過。削ニ其地一。收中其枝郡上。奏上。上令ニ公卿列侯宗室集議一。莫ニ敢難一。獨竇嬰爭レ之。由レ此與レ竇有レ郤。錯所レ更令三十章。諸侯皆諠譁。疾ニ鼂錯一。錯父聞レ之。從ニ潁川一來謂レ錯曰。上初卽レ位。公爲レ政用レ事。

錯此を以て愈〻貴し。遷りて御史大夫と爲る。諸侯の罪過あるもの、其地を削り、(一)其枝郡を收めんと請ふ。奏上す。上、公卿列侯宗室をして集議せしむ。敢て難ずる莫し。獨り竇嬰之を爭ふ。此に由りて竇と郤有り。錯の更むる所の令三十章あり。諸侯皆諠譁し、(二)鼂錯を疾む。錯の父之を聞き、潁川より來りて錯に謂ひて曰く、上初めて位に卽く。公、政を爲し事を用ひ、諸侯を侵削し、人の骨肉を別疏す。(三)人口議し公を怨むる者多し。何ぞや。鼂錯曰く、固よりなり、此の如くせずんば、天子尊からず、宗廟安からずと。錯の父曰く、(四)劉氏は安し、而して鼂氏は危し。吾、公を去りて歸らんと。遂に藥を飮みて死す。曰く、吾禍の吾が身に及ぶを見るに忍びずと。死して十餘日ありて、吳楚七國果して反し、錯を誅するを以て名と爲す。竇嬰袁盎進みて說くに及び、上、鼂錯をして(五)朝衣を衣せしめ

以レ書稱說。詔以爲二太子舍人一。門大夫家令一。以二其辯一得二幸太子一。太子家號曰二智囊一。數上二書孝文時一。言下削二諸侯一事上。及法令可二更定一者。書數十上。孝文不レ聽。然奇二其材一。遷爲二中大夫一。當二是時一。太子善二錯計策一。袁盎諸大功臣多不レ好レ錯。景帝即レ位。以レ錯爲二內史一。盎常數請レ間言レ事。輒聽。寵幸傾二九卿一。法令多レ所二更定一。丞相申屠嘉心弗レ便。力未レ有二以傷一。內史府居二太上廟壖中一。門東出不レ便。錯乃穿二兩門一南出。鑿二廟壖垣一。丞相嘉聞大怒。欲下因二此過一爲奏請誅上レ錯。錯聞レ之。即夜請レ間。具爲レ上言レ之。丞相奏レ事。因言。錯擅鑿二

內史の府太上廟の壖中に居る。門東に出でて便ならず。錯乃ち兩門を穿ちて南に出で、廟の壖垣を鑿つ(七)。丞相嘉聞きて大に怒り、此の過に因りて爲に奏請して錯を誅せんと欲す。錯之を聞き、即夜間を請ひ、具に上の爲に之を言ふ。丞相事を奏し、因りて言ふ、錯擅に廟垣を鑿ち門と爲す。請ふ廷尉に下し誅せんと。上曰く、此れ廟垣に非ず、乃ち壖中の垣なり、法に致さずと(八)。丞相謝す。朝を罷む。怒りて長史に謂ひて曰く、吾當に先づ斬り以聞すべかりしに、乃ち先づ請ひ兒に賣らるゝを爲す(九)、固に誤ると。丞相遂に病を發して死す。

(一) 刑名の學、即ち名分と行爲と一致するを要すとする學說 (二) 故事を掌る官 (三) 心せまくけはしく正直にして極めて殘忍なり (四) 師說をはなたてゝ說明す (五) 舍人は太子附の官吏、秩二百石定員なし、門大夫は太子の屬官、秩六百石員五人、家令は太子の宮中の事務を掌る、秩八百石 (六) 漢の時太子の宮を家と稱す (七) 廟の內垣の外に在る空き地 (八) 法律に照して罰するに及ばず (九) 子供に等しき鼂錯に欺かる

鼂錯者。潁川人也。學申商刑名於軹張恢先所。與雒陽宋孟及劉禮同師。以文學爲太常掌故。錯爲人陗直刻深。孝文帝時。天下無治尚書者。獨聞濟南伏生故秦博士。治尚書。年九十餘。老不可徵。乃詔太常。使人往受之。太常遣錯受尚書伏生所。還。因上便宜事。

鼂錯は潁川の人なり。申商の（一）刑名を軹の張恢先の所に學ぶ。雒陽の宋孟及び劉禮と師を同じくす。文學を以て太常の掌故（二）と爲る。錯、人と爲り陗直（三）刻深なり。孝文帝の時、天下、尚書を治むる者無し。獨り聞く、濟南の伏生は故の秦の博士にして、尚書を治むと、年九十餘老いて徵す可からず。乃ち太常に詔し、人をして往きて之を受けしむ。太常、錯を遣り、尚書を伏生の所に受く、還る。因りて便宜の事を上り、書を以て稱說（四）す。詔して以て太子の舍人（五）、門大夫家令と爲す。其辯を以て幸を太子に得たり。太子の家號して智囊と曰ふ。數〻孝文の時に上書し、諸侯を削るの事、及び法令の更定（六）す可き者を言ふ。書數十上る。孝文聽かず。然れども其材を奇とし、遷して中大夫と爲す。是時に當りて、太子、錯の計策を善みす。袁盎諸〻の大功の臣多く錯を好せず。景帝位に卽き、錯を以て內史と爲す。錯常に數〻閒を請ひ事を言ふ。輒ち聽かる。寵幸九卿を傾く。法令更定する所多し。丞相申屠嘉心に便とせず、力未だ以て傷る有らず。

博徒。然母死。客送葬車千餘乘。此亦有過人者。且緩急人所有。夫一旦有急叩門。不以親爲解。不以存亡爲辭。天下所望者。獨季心劇孟耳。今公常從數騎。一旦有緩急。寧足恃乎。罵富人弗與通。諸公聞之。皆多袁盎。袁盎雖家居。景帝時時使人問籌策。梁王欲求爲嗣。袁盎進說。其後語塞。梁王以此怨盎。嘗使人刺盎。刺者至關中問袁盎。諸君譽之皆不容口。乃見袁盎曰。臣受梁王金來刺君。君長者。不忍刺君。然後刺君者十餘曹。備之。袁盎心不樂。家又多怪。乃之棓生所問占。還。梁刺客後曹輩。果遮刺殺盎安陵郭門外。

ろを求めんと欲す。袁盎進みて說く。其後語塞る。(六)梁王此を以て盎を怨む。嘗て人をして盎を刺さしむ。刺す者關中に至りて袁盎を問ふ。諸君之を譽めて皆口に容れず。(七)乃ち袁盎を見て曰く、臣、梁王の金を受けて、來りて君を刺さんとするもの、君は長者なり、君を刺すに忍びず。然れども後の君を刺さんとする者十餘曹あり、(八)之に備へよと。(九)袁盎心樂まず、家又怪多し。乃ち棓生の所に之き占を問ふ。還る。梁の刺客後曹輩果して遮りて盎を安陵郭門外に刺殺す。

(一)職を辭死し　(二)わざ〳〵立寄る　(三)危急の場合は々必ず有るものなり　(四)富人を罵倒して與に交通せず　(五)天下を治むるはかりごとを下問せしむ　(六)袁盎の反對說ありて後、梁王の後嗣說は止む　(七)關中の諸君子口を極めて稱譽す　(八)吾が以外に　(九)是等の刺客に用心せよ

從史。盜ニ君侍兒一者。盎乃驚謝曰。公幸有レ親。吾不レ足ニ以累レ公。司馬曰。君第去。臣亦且亡避ニ吾親一。君何患。乃以レ刀決レ張道。從ニ醉卒直隧一出。司馬與分背。袁盎解ニ節毛一懷レ之。杖歩行七八里明。見ニ梁騎一。騎馳去。遂歸報。

吳楚已破。上更以ニ元王子平陸侯禮一爲ニ楚王。袁盎爲ニ楚相一。嘗上書有レ所レ言。不レ用。袁盎病免居レ家。與ニ閭里一浮沈。相隨行。鬬レ雞走レ狗。雒陽劇孟嘗過ニ袁盎一。盎善待レ之。安陵富人有レ謂レ盎曰。吾聞劇孟博徒。將軍何自通レ之。盎曰。劇孟雖ニ

吳楚已に破る。上更に元王の子平陸侯禮を以て楚王と爲し、袁盎を楚の相と爲す。嘗て上書し言ふ所有り、用ひられず。袁盎病みて免(一)し、家に居る。閭里と浮沈し相隨行し、雞を鬬し狗を走らす。雒陽の劇孟嘗て袁盎に過る(二)。盎善く之を待つ。安陵の富人盎に謂ふもの有り、曰く、吾聞く、劇孟は博徒なりと。將軍何に自りて之に通ずる。盎曰く、劇孟は博徒なりと雖も、然れども母の死するや、客、葬を送るもの車千餘乘あり、此れ亦人に過ぐる者有らん。且つ緩(三)急は人の有る所なり。夫れ一旦急有り門を叩く、親を以て解を爲さず、存亡を以て辭を爲さず。天下の望む所の者は、獨り季心・劇孟のみ。今公常に數騎を從ふ。一旦緩急有らば、寧ろ恃むに足らん乎と。富人(四)を罵りて與に通ぜず。諸公之を聞き、皆袁盎を多とす。袁盎家居すと雖も、景帝時時人をして籌策(五)を問はしむ。梁王嗣と爲

嘗有二從史一。嘗盜二愛盎侍兒一。盎知レ之弗レ泄。遇レ之如レ故。人有レ告二從史一。言君知下爾與二侍者一通上。乃亡歸。袁盎驅自追レ之。遂以二侍者一賜レ之。復爲二從史一。及二袁盎使一レ呉見レ守。從史適爲二守レ盎校尉司馬一。乃悉以二其裝齎一。置二二石醇醪一。會二天寒一。士卒饑渴。飮レ酒醉。西南陬卒皆臥。司馬夜引二袁盎一起曰。君可二以去一矣。呉王期旦日斬レ君。盎弗レ信曰。公何爲者。司馬曰。臣故爲

夜袁盎を引き起して曰く、君以て去る可し。呉王期すらく、旦日君を斬らんと。盎信ぜずして曰く、公は何爲る者ぞ。司馬曰く、臣は故從史爲り、君の侍兒を盜む者なり。盎乃ち驚き謝して曰く、公幸に親有り(八)、吾以て公を累すに足らずと。司馬曰く、君第去れ。臣も亦且に亡げて吾が親を避けしめん(九)、君何ぞ患へんと。乃ち刀を以て張を決して道き、醉卒の直隧(一〇)より出づ。司馬與に分背す(一一)。袁盎節(一二)毛を解き之を懷にし、杖して歩行すること七八里にして明く。梁騎を見る。騎して馳せ去る。遂に歸り報ず。

(一) 漢の時帝陵のある地に名門富豪を徙り住ましめて、其地の隆盛を圖りたることあり、其地に住して未だ位を得ざる賓者　(二) 取り圍みて逃走せしめざるやうに守らしむ　(三) 下役の從史　(四) 密に侍女に通ず　(五) 校尉に附屬せる將校　(六) 持ち合せたる衣服及び身の廻りのものを賣拂ひて其金を以て　(七) 清酒とにごり酒　(八) 老親在り　(九) 老親を他に避けしめて迷惑のかゝらぬやうにすべし　(一〇) 出入の道　(一一) 反對の方面に向つて逃ぐ　(一二) 勅使のしるしに持せる節毛を取除きて之を懷中に入れて人目に立たぬやうにし

上。上乃召二袁盎一入見。鼂錯在レ前。及三盎請二辟レ人賜レ間。錯去。固恨甚。袁盎具言下吳所二以反一狀。以中錯故上。獨急斬レ錯以謝レ吳。吳兵乃可レ罷。其語具在二吳事中一。

使下袁盎爲二太常一。竇嬰爲中大將軍上。兩人素相與善。逮二吳反一。諸陵長者。長安中賢大夫。爭附二兩人一。車隨者日數百乘。及二鼂錯已誅一。袁盎以二太常一使レ吳。吳王欲レ使レ將。不レ肯。欲レ殺レ之。使下一都尉以二五百人一。圍中守盎軍中上。袁盎自下其爲二吳相一時上。

袁盎に太常と爲り、竇嬰に大將軍と爲らしむ。兩人素より相與に善し。吳の反するに及び、(一)諸陵の長者、長安中の賢大夫、爭ひて兩人に附く。車隨ふ者、日に數百乘あり。鼂錯已に誅せらるゝに及びて、袁盎太常を以て吳に使す。吳王將たらしめんと欲す。肯ぜず。之を殺さんと欲し、一都尉をして五百人を以て盎を軍中に圍守せしむ。(二)袁盎其の吳の相爲りし時より、嘗て從史有り、(三)嘗て盎の侍兒を盜(四)愛す。盎之を知り泄さずして、之を遇すること故の如し。人、從史に告ぐる有り、言ふ君、爾の侍者と通ずるを知ると。乃ち亡げ歸る。袁盎驅せ自ら之を追ひ、遂に侍者を以て之に賜ひ、復た從史と爲す。袁盎の吳に使して守らるゝに及び、從史適に盎を守る校尉(五)の司馬爲り。乃ち悉く其裝齎(六)を以て二石の醇醪(七)を置く。天寒く士卒の饑渴するに會ふ。酒を飲ませて醉はしむ。西南の陬の卒皆臥す、司馬

孝景帝即レ位。鼂錯爲二御史大夫一。使四吏案三袁盎受二呉王財物一。抵レ罪。詔赦以爲二庶人一。呉楚反聞。鼂錯謂二丞史一曰。夫袁盎多受二呉王金錢一。專爲蔽匿。言レ不レ反。今果反。欲下請治レ盎。宜レ知二計謀一。丞史曰。事未レ發。治レ之有レ絕。今兵西鄕。治レ之何益。且袁盎不レ宜レ有レ謀。鼂錯猶與未レ決。人有下告二袁盎一者上。袁盎恐夜見二竇嬰一。爲言下呉所二以反一者上。願至二上前一口對レ狀。竇嬰入言レ

呉王の金錢を受け、專ら爲に蔽匿し、反せずと言ふ、今果して反す。請ひて盎を治せんと欲す。宜しく計謀を知るべし。丞史曰く、事未だ發せずして、之を治せば絕つ有らん(三)。今兵西鄕す(四)、之を治するも何ぞ益せん。且つ袁盎宜しく謀有るべからずと。鼂錯猶與して未だ決せず。人、袁盎に告ぐる者有り。袁盎恐れ、夜竇嬰を見て、爲に呉の反する所以の者を言ふ。願くは上の前に至りて口づから狀に對せん(五)と。竇嬰入りて上に言ふ。上乃ち袁盎を召し入りて見えしむ。鼂錯前に在り。盎の人を辟け間を賜へと請ふに及び、錯去る。固より恨むこと甚だし。袁盎具に呉の反する所以の狀、錯の故を以てするを言ふ。獨り急に錯を斬り以て呉に謝せよ。呉の兵乃ち罷む可しと。其語俱に呉の事の中に在り(六)。

(一) 同席にして共に語らず (二) 平民 (三) 呉王の野心を斷絕することあらん (四) 西に向ふ (五) 直接に口づから申上げし書狀に就きて御尋問に對し奉らん (六) 呉王濞の傳中に在り

野職之功。且陛下從レ代來。每レ朝郎官上二書疏一。未三嘗不二止レ輦受二其言一。言不レ可レ用置レ之。言可レ受採レ之。未二嘗不一レ稱レ善。何也。則欲三以致二天下賢士大夫一。上日聞レ所レ不レ聞。明レ所レ不レ知。日益聖智。君今自閉。鉗二天下之口一。而日益愚。夫以二聖主一責二愚相一。君受レ禍不レ久矣。丞相乃再拜曰。嘉鄙野人。乃不レ知。將軍幸敎。引入與坐爲二上客一。

ちて、天下(四)の口を鉗して、而して日に益〻愚となる。夫れ聖主を以て愚相を責む、君の禍を受くること久しからざらんと。丞相乃ち再拜して曰く、嘉は鄙野(五)の人なり。乃ち知らず、將軍幸ひに敎へよと。引き入れて與に坐し、上客と爲す。

(一)軍隊の小隊長　(二)文書奏疏　(三)引寄せて用ひんと欲するなり　(四)今閉ぢ籠りて天下の賢士の意見を吐かんとするを杜ぎて日々に愚陋に陷る　(五)いやしく愚かなる者なり

盎素不レ好二鼂錯一。鼂錯所レ居坐盎去。盎坐錯亦去。兩人未二嘗同レ堂語一。及二孝文帝崩一。

盎素鼂錯に好からず。鼂錯の居る所の坐は盎去る。盎の坐は錯も亦去る。兩人未だ嘗て堂(一)を同じくして語せず。孝文帝崩じ、孝景帝位に卽くに及びて鼂錯御史大夫と爲る。吏をして袁盎が吳王の財物を受くることを案ぜしめ、罪に抵す。詔し赦して以て庶人(二)と爲す。吳楚の反聞す。鼂錯、丞史に謂ひて曰く、夫れ袁盎多く

丞相從二車上一謝二袁盎一。袁盎還愧二其吏一。乃之二丞相舍一。上謁求ㇾ見二丞相一。丞相良久而見ㇾ之。盎因跪曰。願請ㇾ間。丞相曰。使三君所ㇾ言公事一。之二曹與二長史掾一議。吾且奏ㇾ之。即私邪。吾不ㇾ受二私語一。袁盎即跪說曰。君爲二丞相一。自度孰二與陳平絳侯一。丞相曰。吾不ㇾ如。

(五) 日常酒を用ひて鬱氣を散じ物事嚴重に咎め立てすること勿れ　(六) 休暇を得て歸る　(七) 吾が屬吏の手前を愧づ　(八) 名刺を差上げて面會を求む　(九) 諸屬僚に就きて　(一〇) 自身推しはかるに

袁盎曰。善。君即自謂ㇾ不ㇾ如。夫陳平絳侯輔二翼高帝一。定二天下一。爲二將相一。而誅二諸呂一。存二劉氏一。君乃爲二材官蹶張一。遷爲二隊率一。積ㇾ功至二淮陽守一。非ㇾ有二奇計攻城

袁盎曰く、善し。君即ち自ら如かずと謂ふ。夫の陳平絳侯は、高帝を輔翼し天下を定め、將相と爲りて諸呂を誅し、劉氏を存す。君は乃ち材官蹶張と爲り、遷りて(一一)隊率と爲り、功を積みて淮陽の守に至る。奇計攻城野戰の功有るに非ず。且つ陛下、代より來るに、朝する每に郎官(一二)書疏を上る。未だ嘗て輦を止め其言を受けずんばあらず、言用ふ可からずんば之を置き、言受く可くんば之を採る、未だ嘗て善しと稱せずんばあらず。何ぞや。則ち以て天下の賢士大夫を致さんと(一三)欲するなり。上は日に聞かざる所を聞き、知らざる所を明かにし、日に益〻聖智に、君は(一四)今自ら閉

隴西都尉。仁ニ愛士卒。士卒皆爭ニ爲死。遷爲ニ齊相。徙爲ニ吳相。辭行。種謂レ盎曰。吳王驕日久。國多レ姦。今苟欲ニ劾治。彼不ニ上書告ヒ君。即利劍刺レ君矣。南方卑溼。君能日飲。毋レ何。時說レ王曰レ毋レ反而已。如レ此幸得レ脫。盎用ニ種之計。吳王厚遇レ盎。王告歸。道逢ニ丞相申屠嘉。下レ車拜謁。

と爲り、徙りて、吳の相となり、辭して行く。種、盎に謂ひて曰く、吳王驕ること日久しく、國姦多し。今苟くも劾治せん(三)と欲せば、彼上書し君を告げずんば、即ち利劍もて君を刺さん。南方は卑溼なり(四)、君能く日に飲し(五)何することも毋かれ。時に王に說きて反する毋かれと曰はんのみ。此の如くんば、幸ひに脫るゝことを得んと。盎、種の計を用ふ。吳王厚く盎を遇す。王告歸す(六)。道に丞相申屠嘉に逢ふ。車を下り拜謁す。丞相車上より袁盎に謝す。袁盎還りて其吏(七)に愧づ。乃ち丞相の舍に之き、上謁(八)して丞相に見えんことを求む。丞相良久しくして之を見る。盎因りて跪きて曰く、願くは間を請はん。丞相曰く、君の言ふ所をして公事ならしめば、曹(九)に之き、長史掾と與に議せよ。吾且つ之を奏せん。即し私なる邪、吾私語を受けずと。袁盎即ち跪きて說きて曰く、君丞相と爲り(一〇)、自ら度るに、陳平絳侯に孰與ぞや。丞相曰く、吾如かず。

(一) 都の中 (二) 中央より地方に轉官を命ぜられて (三) 彈劾して罪を治めんと欲せば (四) 地盤低く濕氣深し

怯邪。盎曰。臣聞千金之子坐不レ垂レ堂。百金之子不レ騎レ衡。聖主不二乘レ危而徼幸一。今陛下騁二六騑一。馳二下峻山一。如有二馬驚車敗一。陛下縱自輕。奈二高廟太后一何。上乃止。上幸二上林一。皇后愼夫人從。其在二禁中一。常同レ席坐。及レ坐。郎署長布レ席。袁盎引二卻愼夫人坐一。愼夫人怒不レ肯レ坐。上亦怒。起入二禁中一。盎因前說曰。臣聞尊卑有レ序。則上下和。今陛下既已立レ后。愼夫人乃妾。妾主豈可二與同一レ坐哉。且陛下幸レ之。即厚賜レ之。陛下所三以爲二愼夫人一。適所二以禍一レ之。陛下獨不レ見二人彘一乎。於レ是上乃說。召語二愼夫人一。愼夫人賜二盎金五十斤一。然袁盎亦以二數直諫一。不レ得二久居一レ中。調爲二

を禍する所以なり。陛下獨り人彘を見ず乎と。是に於て上乃ち悦び、召して愼夫人に語ぐ。愼夫人、盎に五十斤を賜ふ。

(一) 道理の大體を引きて、世事國事につきていたみなげく (二) 趙談なり。然るに本書の作者司馬遷の父と同名なりしを以て、家諱を避けてしかり。同は父と同名なりとの意 (三) 節を持し天子の乘輿を挾みて隨從せり (四) 趙同を朝廷にて辱しめ、陛下をして讒言を用ひ給はざる樣にし給へ (五) 天子の乘輿 (六) 宦者趙同をさしていふ (七) 險路におそれて然るか (八) 堂の端際に坐せず (九) 樓殿の邊の欄楯に倚りかゝらず (一〇) 危險の場所に乘り出でて僥倖にして安全なることを得ることをせず (一一) 天子の乘輿六匹の駿馬を御すればいふ (一二) 陛下御自身はよしとするも、高廟太后に對して如何せんと思ひ給ふか (一三) 宮中の例によりて、后と同席に坐を設く (一四) 厚く恩賜を愼夫人に下し給へ (一五) 高祖の寵愛したる戚夫人の帝の崩後人彘とせられしに鑑み給へ

然れども袁盎も亦數々直諫するを以て、久しく中に居ることを得ず、調せられて隴西の都尉と爲る。士卒を仁愛す。士卒皆爲に死せんことを爭ふ。遷りて齊の相

騎。持レ節夾レ乘。說レ盎曰。君與鬬廷二辱之一。使二其毀不レ用。孝文帝出。趙同參乘。袁盎伏二車前一曰。臣聞天子所二與共六尺輿一者。皆天下豪英。今漢雖レ乏レ人。陛下獨奈何與二刀鋸餘人一載。於レ是上笑。下二趙同一。趙同泣下レ車。文帝從二霸陵上一。欲三西馳下二峻阪一。袁盎騎並レ車。擥レ轡。上曰。將軍

天下の豪英たりと。今漢、人に乏しと雖ども、陛下獨り奈何ぞ(六)刀鋸の餘人と載らんやと。是に於て上笑ひて趙同を下す。趙同泣きて車を下る。文帝霸陵の上より西馳して峻阪を下らんと欲し、袁盎騎して車を竝べ轡を擥る。上曰く、將軍怯(七)るゝ邪。盎曰く、臣聞く、千金の子は、坐するに堂に(八)垂せず、百金の子は衡(九)に騎せず、聖主(一〇)は危に乘じて徼幸せずと。今陛下六騑(一一)を騁せ、峻山を馳せ下る。如し馬驚き車敗るゝこと有らば、陛下(一二)縱ひ自ら輕ずるも、高廟太后を奈何せんと。上乃ち止む。上、上林に幸す。皇后愼夫人從ふ。其の禁中に在るとき、常に席を同じくして坐す。坐するに及び、郎署の長(一三)、席を布く。袁盎愼夫人の坐を引き郤く。愼夫人怒りて坐することを肯ぜず。上も亦怒り、起ちて禁中に入る。盎因りて前み說きて曰く、臣聞く、尊卑序有れば、則ち上下和すと。今陛下既に已に后を立つ、愼夫人は妾なり。妾と主と豈に與に坐を同じくす可けんや哉。且つ陛下之を幸せば、卽ち(一四)厚く之に賜へ。陛下の愼夫人の爲にする所以は、適に之

上曰。吾高世行三者何事。盎曰。陛下居レ代時。太后嘗病三年。陛下不レ交レ睫不レ解レ衣。湯藥非二陛下口所一レ嘗弗レ進。夫曾參以二布衣一猶難レ之。今陛下親以二王者一修レ之。過二曾參孝一遠矣。夫諸呂用レ事。大臣專レ制。然陛下從レ代乘二六乘傳一。馳二不測之淵一。雖二賁育之勇一。不レ及二陛下一。陛下至二代邸一。西向讓二天子位一者再。南面讓二天子位一者三。夫許由一讓。而陛下五以二天下一讓。過二許由一四矣。且陛下遷二淮南王一。欲下以苦二其志一使上レ改レ過。有司衞不レ謹。故病死。於レ是上乃解。曰。將二奈何一。盎曰。淮南王有二三子一。唯在二陛下一耳。於レ是文帝立二其三子一皆爲レ王。盎由レ此名重二朝廷一。

に死することあらば　(五) 天下の廣大なる主として弟一人を寛宥すること能はずとの非難を受け　(六) 奏聞に及ぶ　(七) 自分の不行屆きよりかく宸襟を惱ますに至りたる罪を正されんことを請ふ　(八) 高く世間に超越したる行爲　(九) 眠らず衣服を脫がず御介抱を爲し給ひ　(一〇) 布衣の輕き身分を以てして猶ほ難事とす、況んや陛下の身分として今これを爲し給ふに於てをや　(一一) 僅か六乘の宿次によつて危險極りなき場所に突進し給ふ　(一二) 孟賁、夏育共に古への勇士　(一三) 心配の意解く　(一四) 唯陛下の御意によつて如何樣にも取立て、後を弔ひ給へ　(一五) 名聲朝廷に重くなりぬ

袁盎常引二大體一忼慨。宦者趙同以二數幸一。常害二袁盎一。袁盎患レ之。盎兄子種爲二常侍

袁盎常に大體を引き忼慨す。(一)宦者趙同數〻幸せらるゝを以て、(二)常に袁盎を害す。袁盎之を患ふ。盎の兄の子種、常侍騎と爲り、(三)節を持し乘を夾む。盎に說きて曰く、君與に鬭ひて之を廷辱し、其毀を用ひざらしめよと。(四)孝文帝出づ。趙同參乘す。袁盎車前に伏して曰く、臣聞く天子の六尺の輿を與に共にする者は、皆(五)

暴摧ニ折之一。淮南王爲レ人剛。如有下遇ニ霧露一行道死上。陛下竟爲下以ニ天下之大一弗上レ能レ容。有ニ殺レ弟之名一奈何。上弗レ聽。遂行レ之。淮南王至レ雍。病死。聞。上輟レ食哭甚哀。盎入頓首請レ罪。上曰。以レ不レ用ニ公言一至レ此。盎曰。上自寬。此往事。豈可レ悔哉。且陛下有ニ高世之行一者三。此不レ足ニ以毀レ名。

曰く、吾(八)高世の行三つとは何事ぞ。盎曰く、陛下代に居る時、太后嘗て病むこと三年なりき。陛下睫(九)を交へず衣を解かず、湯薬は陛下の口嘗むる所に非ざるは進めず。夫れ曹參布衣(一〇)を以ても猶ほ之を難しとす。今陛下親ら王者を以て之を修む、曾參の孝に過ぐること遠し。夫れ諸呂事を用ひ大臣制を專にす。然るに陛下代より六乘(一一)の傳に乘じ、不測の淵に馳す、賁育(一二)の勇と雖ども陛下に及ばず。陛下代の邸に至りて西向して天子の位を讓るもの再び、南面して天子の位を讓るもの三たびなりき。夫れ許由一たび讓りて、陛下五たび天下を以て讓る、許由に過ぐること四なり。且つ陛下、淮南王を遷し、以て其志を苦しめ過を改めしめんと欲す。有司の衛謹まず、故に病みて死せりと。是に於て上乃ち解く(一三)。曰く、將に奈何せんと。盎曰く、淮南王三子有り、唯(一四)陛下に在るのみと。是に於て文帝其三子を立て皆王と爲す。盎此に由りて名(一五)朝廷に重し。

(一) 國の雜儀を引起さん　(二) 罪跡取調を爲す　(三) 罪人を乘する車にのせ宿次を以て行かしめんとす　(四) 道中

交。

淮南厲王朝。殺二辟陽侯一。居處驕甚。袁盎諫曰。諸侯大驕。必生レ患。可二適削一レ地。上弗レ用。淮南益横。及二棘蒲侯柴武太子謀反事覺一治。連二淮南王一。淮南王徵。上因遷二之蜀一。轞車傳送。袁盎時爲二中郎將一。乃諫曰。陛下素驕二淮南王一。弗二稍禁一以至レ此。今又

淮南の厲王朝し、辟陽侯を殺す。居處驕ること甚だし。袁盎諫めて曰く、諸侯大に驕る、必ず患を生ぜん。（一）適めて地を削る可しと。上用ひず。淮南王益〻横なり。棘蒲侯柴武の太子謀反して事覺るゝに及び（二）治す。淮南王に連る。淮南王徵さる。上因りて之を蜀に遷す。（三）轞車傳送せんとす。袁盎時に中郎將たり。乃ち諫めて曰く、陛下素淮南王を驕らせ、稍く禁ぜずして以て此に至らしむ。今又暴かに之を摧折す。淮南は人と爲り剛なり、如し霧露に遇ひ、（四）行道に死すること有らば、陛下竟に（五）天下の大を以て容るゝ能はずと爲し、弟を殺すの名有らん、奈何んと。上聽かずして遂に之を行る。淮南王雍に至り病みて死す。（六）聞す。上、食を輟めて哭すること甚だ哀し。盎入り、頓首して（七）罪を請ふ。上曰く、公の言を用ひざるを以て此に至ると。盎曰く、上自ら寛うせよ、此れ往事なり、豈に悔ゆ可けん哉。且つ陛下、高世の行有る者三つあり。此れ以て名を毀るに足らず。上

社稷臣。盎曰。絳侯所謂功臣。非社稷臣。社稷臣主在與在。主亡與亡。方呂后時。諸呂用事。擅相王。劉氏不絕如帶。是時絳侯爲太尉。主兵柄。弗能正。呂后崩。大臣相與共畔諸呂。太尉主兵。適會其成功。所謂功臣。非社稷臣。丞相如有驕主色。陛下謙讓。臣主失禮。竊爲陛下不取也。後朝。上益莊。丞相益畏。已而絳侯望袁盎曰。吾與而兄善。今兒廷毀我。盎遂不謝。及絳侯免相之國。國人上書告以爲反。徵繫淸室。宗室諸公莫敢爲言。唯袁盎明絳侯無罪。絳侯得釋。盎頗有力。絳侯乃大與盎結

色有るが如し。陛下謙讓し、臣主禮を失ふ(八)、竊に陛下の爲に取らざるなりと。後朝す。上、益々莊なり(九)。丞相益々畏る。已にして絳侯、袁盎を望み(一〇)て曰く、吾、而の兄と善し。今兒、廷に我を毀ると。盎遂に謝せず。絳侯の相を免じて國に之くに及び、國人上書し告げ以て反すと爲す。徵して淸室(一一)に繫ぐ。宗室の諸公敢て(一二)爲に言ふもの莫し。唯袁盎、絳侯の罪無きを明かにす。絳侯釋さるゝことを得たるは盎頗る(一三)力有り。絳侯乃ち大に盎と交を結ぶ。

(一) 甚だ得意なり (二) 尊敬の眼にて見送る (三) 功勞ある元老にして國家の臣なり (四) 功勞ある臣 (五) 微顚微尾主君と安危存亡を共にするものをいふ (六) 漢室の劉氏の一統衰微して僅かに絕えざること帶の如く細し (七) 君主に對し驕り高ぶる顏色あるやうに見受けらる (八) 君臣共に禮を失ふ (九) 益々威儀を正しくす (一〇) 怨言して (一一) 漢書請室に作る。貴族高官の罪を請ふ室 (一二) 絳侯の爲に罪を言ひ解く者なし (一三) 頗る骨折を爲したり

袁盎者。楚人也。字絲。父故爲羣盜。徙處安陵。高后時。盎嘗爲呂祿舍人。及孝文帝卽位。盎兄噲任盎爲中郎。絳侯爲丞相。朝罷趨出。意得甚。上禮之恭。常目送之。袁盎進曰。陛下以丞相何如人。上曰。

巻百一

袁盎鼂錯列傳第四十一

袁盎は楚の人なり。字は絲、父故羣盜たり。徙りて安陵に處る。高后の時、盎嘗て呂祿の舍人たりき。孝文帝位に卽くに及び、盎の兄噲、盎を任じて中郎と爲す。絳侯丞相と爲り、朝罷みて趨り出づ。(一)意の得ること甚だし。上、之を禮すること恭しく、常に(二)目送す。袁盎進みて曰く、陛下以ふに丞相は何如なる人ぞや。上曰く、(三)社稷の臣なり。盎曰く、絳侯は所謂(四)功臣なり、社稷の臣に非ず。社稷の臣は、主、(五)在せば與に在り、主亡べば與に亡ぶ。呂后の時に方りて、諸呂事を用ひ、擅に相王たり。(六)劉氏絶えざること帶の如し。是の時に絳侯太尉と爲り兵柄を主り、正すこと能はず。呂后崩ず。大臣相與に諸呂に畔く。太尉兵を主り、適ゝ其成功に會ふ。所謂功臣にして社稷の臣に非ず、丞相、(七)主に驕る

然彼ニ刑戮ー。爲ニ人奴ー而不レ死。何其下也。彼必自負ニ其材ー。故受レ辱而不レ羞。欲レ有レ所レ用。其未レ足也。故終爲ニ漢名將ー。賢者誠重ニ其死ー。夫婢妾賤人。感慨而自殺者。非ニ能勇ー也。其計畫無レ復レ之耳。欒布哭ニ彭越ー。趣レ湯如レ歸者。彼誠知レ所レ處。不ニ自重ニ其死ー。雖ニ往古烈士ー。何以加哉。

賢者は誠に其死を重んず。(六)夫の婢妾賤人の感慨して自殺する者、能く勇なるに非ざるなり。(七)其計畫之を復する無きのみ。欒布、彭越を哭し、(八)湯に趣くに歸する如きは、(九)彼誠に處する所を知れり。自ら其死を重ぜざるは往古の烈士と雖ども、(一〇)何を以て加へん哉。

(一) 項羽の如き英氣絶倫の主君を上に戴きながら (二) 敵中に攻め入り戰旗を拔取ること (三) 髡鉗して人奴となるに至るまで生命を大切にす (四) 卑劣 (五) 材能を用ひ活かさんと欲するも (六) 輕々しく死せざるは (七) 其の計劃する處一度失敗すれば、再擧するの勇氣なきによる (八) 湯鑊に煮られて死せんとする場合に臨みても一向平氣にて自分の家に歸るが如くなりしは (九) 誠に死を輕々しくせず能く其の場合を知りたるを見る (一〇) 此れ以上に出づること能はず

以爲レ反。反形未レ見。以二苛小一案誅二滅之一。臣恐二功臣人人自危一也。今彭王已死。臣生不レ如レ死。請就レ亨。於レ是上迺釋二布罪一。拜爲二都尉一。孝文時。爲二燕相一。至二將軍一。布迺稱曰。窮困不レ能レ辱レ身下レ志。非レ人也。富貴不レ能レ快レ意。非レ賢也。於レ是嘗有レ德者厚報レ之。有レ怨者必以レ法滅レ之。吳軍反時。以二軍功一封二俞侯一。復爲二燕相一。燕齊之間。皆爲二欒布一立レ社。號曰二欒公社一。景帝中五年薨。子賁嗣。爲二太常一。犧牲不レ如レ令。國除。

ぜらる。復た燕の相と爲る。燕齊の間、皆欒布の爲に社（七）を立つ。號して欒公社と曰ふ。景帝中五年に薨ず、子賁嗣ぐ。太常と爲る。（八）犧牲令の如くならず、國除かる。

（一）西に軍をうつして攻めざりし理由は　（二）東西の連合し　（三）一度心を變へて楚の軍と共同せば　（四）謀反の證跡明白ならず　（五）小一に峭に作る。苛刻細小の事件　（六）生きながらふるよりも寧ろ死す方まされり　（七）社を設けて神として祀る　（八）犧牲を供するに違ひのかど有りたるを以て

太史公曰。以二項羽之氣一。而季布以レ勇顯二於楚一。身屢典レ軍。搴レ旗者數矣。可レ謂二壯士一。

太史公曰く、（一）項羽の氣を以てし、而して季布勇を以て楚に顯る。身屢々軍を典り、（二）旗を搴る者數々なり、壯士と謂ふ可し。然れども（三）刑戮を被り、人奴と爲りて死せず。何ぞ下なる。（四）彼れ必ず自ら其材を負む。故に辱を受けて羞ぢず、（五）用ふる所有らんと欲すれども、其れ未だ足らざるなり。故に終に漢の名將と爲る。

布曰。方上之困於彭城。敗滎陽成皐間。項王所以遂不能西從。以彭王居梁地。與漢合從苦楚也。當是之時。彭王一顧。與楚則漢破。與漢而楚破。且垓下之會。微彭王。項氏不亡。天下已定。彭王剖符受封。亦欲傳之萬世。今陛下一徵兵於梁。彭王病不行。而陛下疑

布曰く、上の彭城に困しみ、滎陽、成皐の間に敗るゝに方り、項王の遂に西従(一)すること能はざりし所以は、彭王の梁の地に居りて、漢と合従(二)し楚を苦しめしを以てなり。是時に當りて、彭王一顧(三)し楚と與せば、則ち漢敗れん。漢と與せば、而して楚破れん。且つ垓下の會、彭王微かりせば、項氏亡びざらん。天下已に定り、彭王符を剖き封を受く。亦之を萬世に傳へんと欲す。今陛下一たび兵を梁に徴す。彭王病みて行かざれば、而して陛下疑ひ以て反すと爲す。(四)反形未だ見はれず、(五)苛小を以て案じて之を誅滅す。臣、功臣の人人自ら危ぶむを恐る。今彭王已に死す。臣が生(六)、死に如かず。請ふ亨に就かんと。是に於て上迺ち布が罪を釋し、拜して都尉と爲す。孝文の時、燕の相と爲り將軍に至る。布迺ち稱して曰く、窮困して身を辱め志を下す能はざるは、人に非ざるなり、富貴にして意を快くすること能はざるは、賢に非ざるなりと。是に於て嘗て徳有る者は、厚く之に報い、怨有る者は、必ず法を以て之を滅す。呉軍の反する時、軍功を以て兪侯に封

燕。爲其家主報仇。燕將臧荼擧以爲都尉。臧荼後爲燕王。以布爲將。及臧荼反。漢擊燕虜布。梁王彭越聞之。迺言上。請贖布以爲梁大夫。使於齊。未還。漢召彭越。責以謀反。夷三族。已而梟彭越頭於雒陽。下詔曰。有敢收視者輒捕之。布從齊還。奏事彭越頭下。祠而哭之。吏捕布以聞。上召布罵曰。若與彭越反邪。吾禁人勿收。若獨祠而哭之。與越反明矣。趣亨之。方提趣湯。布顧曰。願一言而死。上曰。何言。

越を召し、責むるに謀反を以てし、三族を夷す。(四)已にして彭越の頭を雒陽に梟す、詔を下して曰く、敢て收視する者有らば、(五)輒ち之を捕へんと。布、齊より還り、事を彭越の頭の下に奏し、祠りて之を哭す。(六)吏、布を捕へて以聞す。(七)上、布を召し、罵りて曰く、若彭越と與に反する邪、吾れ人を禁じて(八)收むること勿からしむ。若獨り祠りて哭す。越と與に反すること明かなり、趣かに之を亨よと。(九)方に提して湯に趣かしめんとす。(一〇)布顧みて曰く、願くは一言して死せん。上曰く、何をか言ふと。

(一) 酒店の人足となる　(二) 略奪せられて奴隷に賣らる　(三) 金錢を出して罪をあがなひ　(四) 三族を罪し滅す　(五) 首を取片付けて葬る者有らば　(六) 哭泣して哀を擧ぐ　(七) 奏上す　(八) 首を取片附くることを禁ず　(九) 鼎中に入れて煮殺せ　(一〇) 沸湯の中に追ひ立て行かしめんとす

關中。季布母弟丁公爲楚將。丁公爲項羽。逐窘高祖彭城西。短兵接。高祖急。顧丁公曰。兩賢豈相厄哉。於是丁公引兵而還。漢王遂解去。及項王滅。丁公謁見高祖。高祖以丁公徇軍中。曰。丁公爲項王臣不忠。使項王失天下者。迺丁公也。遂斬丁公。曰。使後世爲人臣者。無效丁公。

たる者をして、丁公に效ふこと無からしむと。

(一)意氣關中に滿つ　(二)兄分として事へ　(三)弟分とし　(四)中尉の屬官、都下の非常を警備することを掌る、後、金吾と改む　(五)內々其名義を借りて事を爲す　(六)刀を以て切り合ふ　(七)軍中を引廻して多くの者の見せしめと爲す

欒布者。梁人也。始梁王彭越爲家人時。嘗與布游。窮困。賃傭於齊。爲酒人保。數歲。彭越去之巨野中爲盜。而布爲人所略賣。爲奴於

欒布は梁の人なり。始め梁王彭越家人爲りし時、嘗て布と游ぶ。窮困して齊に賃傭し、(一)酒人の保と爲る。數歲ありて、彭越去りて、巨野の中に之き盜を爲す。而して布、人に(二)略賣せらるゝを爲し、燕に奴と爲り、其家主の爲に仇を報ず。燕の將臧荼擧げて以て都尉と爲す。臧荼後に燕王と爲る。布を以て將と爲す。臧荼の反するに及び、漢、燕を擊ちて布を虜にす。梁王彭越之を聞きて、迺ち上に言ひ、請ひて布を(三)贖ひ、以て梁の大夫と爲す。齊に使して未だ還らず。漢、彭

天下。顧不レ重邪。何足下距レ僕之深也。季布迺大說。引入。留數月。爲二上客一厚送レ之。季布名所二以益聞一者。曹丘揚レ之也。

季布弟季心。氣蓋二關中一。遇レ人恭謹。爲二任俠一。方數千里士。皆爭爲レ之死。嘗殺レ人亡之レ呉。從二袁絲一匿。長二事袁絲一。弟二畜灌夫籍福之屬一。嘗爲二中司馬一。中尉郅都不二敢不一レ加レ禮。少年多時時竊藉二其名一以行。當二是時一。季心以レ勇。布以レ諾。著二聞

季布の弟季心(一)、氣、關中を蓋ふ。人を遇すること恭謹なり。任俠を爲し、方數千里の士、皆爭ひて之れが爲に死す。嘗て人を殺し、亡げて呉に之き、袁絲に從ひて匿る。袁絲に長(二)とし事へ、灌夫、籍福の屬(三)を弟とし畜ふ。嘗て中司馬(四)と爲る。中尉郅都敢て禮を加へずんばあらず。少年多く時時、(五)竊に其名を藉りて以て行く。是の時に當りて、季心は勇を以て、布は諾を以て、關中に著聞す。季布の母弟丁公、楚の將と爲る。丁公、項羽の爲に逐ひて高祖を彭城の西に窘しむ。(六)短兵接す。高祖急なり。丁公を顧みて曰く、兩賢豈に相厄せん哉と。是に於て丁公兵を引きて還る。漢王遂に解き去る。項王の滅ぶるに及びて、丁公、高祖に謁見す。高祖、丁公を以て軍中に(七)狥へらく、丁公、項王の臣と爲りて不忠なり。項王をして天下を失はしむる者は、迺ち丁公なりと。遂に丁公を斬りて曰く、後世の人臣

人趙同等。與二竇長君一善。季布聞之。寄書諫二竇長君一曰。吾聞曹丘生非二長者一。勿二與通一。及二曹丘生歸一。欲三得書請二季布一。竇長君曰、季將軍不說二足下一。足下無往。固請書遂行。使二人先發一書。季布果大怒。待二曹丘一。曹丘至。即揖二季布一曰。楚人諺曰。得二黃金百斤一。不如得二季布一諾一。足下何以得二此聲於梁楚間一哉。且僕楚人。足下亦楚人也。僕游二揚足下之名於

非ず。與(さも)に通ずること勿かれと。曹丘生の歸るに及び、書を得て季布に請はんと欲す。(三)竇長君曰く、季將軍、足下を說ばず、足下往くこと無かれと。(四)固く書を請ひ、遂に行く。人をして先づ書を發せしむ。季布果して大に怒り、曹丘を待つ。曹丘至る。即ち季布を揖して曰く、楚人の諺に曰く、黃金百斤を得るは、季布の一諾を得るに如かずと。足下何を以て(五)此聲を梁楚の間に得たる哉、且つ僕は楚人、足下も亦楚人なり。僕、足下の名を(六)天下に游揚せば、顧ふに重からざらん邪。何ぞ足下の僕を距むの深きやと。季布迺ち大に說び、引き入れて、留むること數月にして、上客と爲し、厚く之を送る。季布の名の益々聞ゆる所以の者は、曹丘之を揚ぐればなり。

(一)辯辭の士 (二)權勢を己れの身にをさめて、それによりて金錢を貪り (三)相互に親しくして、往復することを勿れ (四)何處までも熱心に紹介狀を請ひ (五)名聲 (六)天下を游歷して稱揚せば

創痍未瘳。噲又面諛欲搖動天下。是時殿上皆恐。太后罷朝。遂不復議擊匈奴事。季布爲河東守。孝文時。人有言其賢者。孝文召欲以爲御史大夫。復有言其勇使酒難近。至留邸一月見罷。季布因進曰。臣無功竊寵。待罪河東。陛下無故召臣。此人必有以臣欺陛下者。今臣至。無所受事罷去。此人必有以毀臣者。夫陛下以一人之譽而召臣。以一人之毀而去臣。臣恐天下有識聞之。有以闚陛下也。上默慙。良久曰。河東吾股肱郡。故特召君耳。布辭之官。

者有らん。夫れ陛下一人の譽むるを以て臣を召し、一人の毀りて臣を去らば、臣、天下の(八)有識の之を聞きて、以て陛下を闚(九)ふ有らんことを恐ると。上、默して慙づ。良久しくして曰く、河東は吾が股肱の郡なり、故に特に君を召すのみと。布辭して官に之く。

(一) 近衞兵を掌る役 (二) 攻め込み縱横十文字に踏みにじらん (三) 面前を欺き體よきことを言ふ (四) 胡を伐つことを以て仕事とし (五) 朝廷を退く (六) 勇氣に早り酒亂にして近寄せ難し (七) 何等の御用命もなくして (八) 知識ある人 (九) 人格如何を測り疑ふもの有らん

楚人曹丘生。辯士。數招權顧金錢。事貴

楚人曹丘生は(一)辯士なり。數〻(二)權を招き金錢を顧み、貴人趙同等に事ふ。竇長君と善し。季布之を聞きて、書を寄せ竇長君を諫めて曰く、吾聞く曹丘生は長者に

孝惠時。爲中郎將。單于嘗爲書嫚呂后不遜。呂后大怒。召諸將議之。上將軍樊噲曰。臣願得十萬衆。橫行匈奴中。諸將皆阿呂后意。曰。然。季布曰。樊噲可斬也。夫高帝將兵四十萬衆困於平城。今噲奈何以十萬衆。橫行匈奴中。面欺。且秦以事於胡。陳勝等起。于今

孝惠の時中郎將と爲る。單于嘗て書を爲りて呂后を嫚り、不遜なり。呂后大に怒り、諸將を召して之を議す。上將軍樊噲曰く、臣願くは十萬の衆を得て、匈奴の中に(二)横行せんと。諸將皆呂后の意に阿りて曰く、然りと。季布曰く、樊噲は斬る可きなり。夫れ高帝兵四十萬の衆に將とし、平城に困しむ。今噲奈何ぞ十萬の衆を以て匈奴の中に横行せられんや、(三)面欺す。且つ秦、(四)胡を事とするを以て、陳勝等起る。今に于いて創痍未だ瘳えず、噲又面諛して、天下を搖動せんと欲すと。是時殿上皆恐る。太后、(五)朝を罷む。遂に復た匈奴を撃つ事を議せず。季布河東の守と爲る。孝文の時、人、其賢を言ふ者有り。孝文召して以て御史大夫と爲さんと欲す。復た其勇にして、(六)酒を使ひ近づけ難しと言ふもの有り。至り邸に留ること一月にして罷めらる。季布因りて進みて曰く、臣功無くして寵を竊み、罪を河東に待つ。陛下故無くして臣を召す、此れ人必ず臣を以て陛下を欺く者有らん。今臣至りて、(七)事を受くる所無くして罷め去らる、此れ人必ず以て臣を毀る

職耳。項氏臣可盡誅邪。今上始得天下。獨以己之私怨求一人。何示天下之不廣也。且以季布之賢。而漢求之急如此。不北走胡。即南走越耳。夫忌壯士以資敵國。此伍子胥所以鞭荊平王之墓也。君何不從容為上言邪。汝陰侯滕公心知朱家大俠。意季布匿其所。迺許曰。諾。待閒。果言如朱家指。上迺赦季布。當是時。諸公皆多季布能摧剛為柔。朱家亦以此名聞當世。季布召見謝。上拜為郎中。

んば、北のかた胡に走らざれば、即ち南のかた越に走らんのみ。夫れ壯士を忌み以て敵國に資す、此れ伍子胥の荊の平王の墓を鞭うつ所以なり。君何ぞ從容として(三)上の爲に言はざる邪と。汝陰侯滕公心に朱家の大俠(四)なるを知り、季布の其所に匿るゝを意ふ。迺ち許して曰く、諾と。間を待ちて、果して言ふこと朱家の指(五)の如くす。上迺ち季布を赦す。是時に當り、諸公皆季布の能く剛を摧きて柔と爲すを多とす。朱家も亦此れを以て名當世に聞ゆ。季布召され見え謝す。上、拜して郎中と爲す。

(一) 當然の職分を盡したるのみ　(二) 私の怨み　(三) 敵國の勢を資け添ふることを爲す　(四) 大義俠家　(五) 朱家の指圖通りに高祖に言上す

先自髡。季布許之。迺髡鉗季布。衣褐衣。置廣柳車中。并與其家僮數十人。之魯朱家所賣之。朱家心知是季布。迺買而置之田。誠其子曰。田事聽此奴。必與同食。朱家迺乘軺車之洛陽。見汝陰侯滕公。滕公留朱家飲數日。因謂滕公曰。季布何大罪。而上求之急也。滕公曰。布爲項羽窘上。上怨之。故必欲得之。

ひて曰く、季布は何なる大罪にして、而して上、之を求むること急なるか。滕公曰く、布、數々項羽の爲に上を窘しむ。上、之を怨む。故に必ず之を得んと欲す

(一) 意氣を重んじ男立てをなし (二) 千金を懸賞として探し出さんとす (三) かくまつて置くことあれば (四) 父母兄弟子孫 (五) 迹をつけて (六) 自ら首はねて死せ (七) 頭髮を剃りて中央の處を少し殘し、頸に鐵の鎖をつけて、當時の奴隸風に仕立て (八) 車上に大なる覆ひのある車 (九) 家來 (一〇) 田園の舍中に置し置く (一一) 田園の事に關する事 (一二) 必ず共に食事をなし鄭重にせよ (一三) 一頭引きの馬車

朱家曰。君視季布何如人也。曰。賢者也。朱家曰。臣各爲其主用。季布爲項籍用

朱家曰く、君、季布を視る何如なる人ぞや。曰く、賢者なり。朱家曰く、臣は各々其主の用を爲す、季布の項籍の用を爲すは職(一)のみ。項氏の臣、盡く誅す可けん邪。今上始めて天下を得て、獨り己の私怨(二)を以て一人を求む、何ぞ天下に示すことの廣からざる。且つ季布の賢を以て、而も漢之を求むる急なること此の如く

季布者。楚人也。爲二氣任俠一有レ名二於楚一。項籍使三將レ兵數窘二漢王一。及二項羽滅一。高祖購二求布千金一。敢有二舍匿一。罪及二三族一。季布匿二濮陽周氏一。周氏曰。漢購二將軍一急。迹且レ至二臣家一。將軍能聽レ臣。臣敢獻レ計。卽不レ能願

卷百

季布欒布列傳第四十

季布は楚の人なり。(一)氣任俠を爲し楚に名有り。項籍兵に將たらしめ、數〻漢王を窘しむ。項羽の滅するに及びて、高祖、布を千金に購求す。(二)敢て舍匿する(三)有らば、罪(四)三族に及ばんと。季布濮陽の周氏に匿る。周氏曰く、漢將軍を購ふこと急なり、迹(五)して且に臣が家に至らんとす。將軍能く臣に聽かば、臣敢て計を獻ぜん、卽し能はずんば、願くは先づ自頸(六)せよと。季布之を許す。迺ち季布を髡鉗し、(七)褐衣を衣せ、廣柳車(八)の中に置き、幷びに其家僮(九)數十人と魯の朱家の所に之き、之を賣る。朱家心に是れ季布なるを知る。迺ち買ひて之を田に置く。(一〇)其子を誡めて曰く、田事(一一)は此奴に聽け、必ず與に食を同じくせよと。(一二)朱家迺ち軺車(一三)に乘りて洛陽に之き、汝陰侯滕公に見ゆ。滕公、朱家を留めて飮すること數日 因りて滕公に謂

は物に屈するが如くに見え、儒の道はもとよりゆたゆたとして柔順なるものなり

建二萬世之安一。智豈可レ專邪。

叔孫通希レ世度レ務。制禮進退。與レ時變化。卒爲二漢家儒宗一。大直若レ詘。道固委蛇。蓋謂レ是乎。

示レ有ニ過擧一。願陛下爲ニ原廟渭北一。衣冠月出ニ游之一。益廣ニ多宗廟一。大孝之本也。上迺詔ニ有司一立ニ原廟一。原廟起以ニ複道故一。孝惠帝嘗春出ニ游ニ離宮一。叔孫生曰。古者有ニ春嘗レ果。方今櫻桃孰可レ獻。願陛下出。因取ニ櫻桃一獻ニ宗廟一。上迺許レ之。諸果獻由レ此興。

せる衣冠を高寢に藏め置きて、毎月朔之を高祖の廟に移し、以て帝の生時の游幸に擬せる儀式あるをいふ ㈥ 過ちたる擧動 ㈦ 第二の御廟 ㈧ 萬物を寢廟に供ふる儀式有り

太史公曰。語曰。千金之裘。非ニ一狐之腋一也。臺榭之榱。非ニ一木之枝一也。三代之際。非ニ一士之智一也。信哉。夫高祖起ニ微細一定ニ海内一。謀計用レ兵。可レ謂レ盡レ之矣。然而劉敬脫ニ輓輅一。一説

太史公曰く、語に曰く、㈠千金の裘は、一狐の腋に非ざるなり。臺榭の榱は、一木の枝に非ざるなり。三代の際は一士の智に非ざるなりと。信なる哉。夫れ高祖㈡微細より起りて、海内を定む。謀計兵を用ふ、之を盡くすと謂ふ可し。然り而して劉敬輓輅を脫し一たび說きて、㈢萬世の安を建つ。智豈に專にす可けん耶。叔孫通、㈣世を希ひ務を度り、制禮進退、時と變化し、卒に漢家の㈤儒宗と爲る。㈥大直詘するが若し、道固委蛇たりと。蓋し之を謂ふ乎。

㈠ 千金に直する皮衣は、一匹の狐の腋の下の皮にて製りたるにあらずして多數の狐腋の皮より成り、高大なるうてなのたるきは一本の木の枝より成るにあらずして數多の木材より成れるものなり ㈡ 微細なる一平民 ㈢ 萬世永遠の安泰なる策をなす ㈣ 世間の己を用ひんことを希望して ㈤ 儒者の本宗 ㈥ 大直なるものが時として

孝惠帝爲東朝長樂宮。及間往來。數蹕煩人。迺作複道。方築武庫南。叔孫生奏事。因請間曰。陛下何自築複道。高寢衣冠月出游高廟。高廟漢太祖。奈何令後世子孫。乘宗廟道上行哉。孝惠帝大懼曰。急壞之。叔孫生曰。人主無過擧。今已作。百姓皆知之。今壞此。則

孝惠帝東のかた長樂宮に朝し、及び間〻往來し、數〻蹕して人を煩す爲めに、迺ち(一)複道を作る。方に(二)武庫の南に築く。叔孫生、(三)事を奏す。因りて(四)間を請ひて曰く、陛下何に自りて複道を築く。高寢の衣冠月に(五)高廟に出遊す。高廟は漢の太祖、奈如ぞ後世子孫をして宗廟の道上に乘りて行かしめん哉。孝惠帝大に懼れて曰く、急に之を壞てよ。叔孫生曰く、人主は(六)過擧無し、今已に作る、百姓皆之を知る。今此れを壞たば、則ち過擧有るを示す。願くは陛下(七)原廟を渭北に爲り、衣冠月に之を出游せしめよ、益〻宗廟を廣く多くするは、大孝の本なりと。上迺ち有司に詔して原廟を立つ。原廟の起るは、複道の故を以てす。孝惠帝嘗て春、離宮に出游す。叔孫生曰く、古は春、(八)果を嘗むること有り。方今櫻桃孰す、獻ず可し。願くは陛下出でて、因りて櫻桃を取りて宗廟に獻ぜよと。上迺ち之を許す。諸果の獻此れより興る。

(一) 上下二道の道　(二) 武器庫　(三) 或る事件　(四) 人の居らぬひまを伺ひて　(五) 漢の當時、高祖の生前に愛用

數十年。爲二天下笑一。秦以レ不三蚤定二扶蘇一。令四趙高得三以レ詐立二胡亥一。自使レ滅レ祀。此陛下所二親見一。今太子仁孝。天下皆聞レ之。呂后與二陛下一攻苦食レ啖。其可レ背哉。陛下必欲二廢レ適而立一レ少。臣願先伏レ誅。以二頸血一汙レ地。高帝曰。公罷矣。吾直戲耳。叔孫通曰。太子天下本。本一搖天下振動。奈何以二天下一爲レ戲。高帝曰。吾聽二公言一。上及二置酒一。見下留侯所レ招客。從二太子一入見上レ上。上乃遂無下易二太子一志上矣。高帝崩。孝惠即レ位。迺謂二叔孫生一曰。先帝園陵寢廟。羣臣莫二能習一。徙爲二太常一。定二宗廟儀法一。及稍定二漢諸儀法一。皆叔孫生爲二太常一所二論著一也。

めよ、吾直戲れしのみ。叔孫通曰く、太子は天下の本、本一たび搖かば、天下振動せん、奈何ぞ天下を以て戲を爲さん。高帝曰く、吾、公の言を聽かんと。上置酒するに及び、留侯の招く所の客、太子に從ひ入りて上に見ゆるを見る。上乃ち遂に太子を易ふる志無し。高帝崩ず。孝惠位に即く。迺ち叔孫生に謂ひて曰く、先帝の園陵(七)寢廟、羣臣能く習ふこと莫しと。徙して太常と爲し、宗廟の儀法を定めしむ。及び稍漢の諸儀法を定む。皆叔孫生太常と爲りて論著(八)する所なり。

(一) 東宮の輔導役　(二) 祖先以來の祀を斷絶せしむ　(三) あらゆる苦々嘗め粗末なる食物をなし、勤勞一方ならず　(四) 呂后の勤勞を忘却して、其の出生の太子を廢するは宜しからず　(五) 頸の血を以て御殿の地上に濺ぎて汚し奉らん　(六) 東園公等の四君子　(七) 御陵寢廟　(八) 詮議して著はす

尊卑次起上壽。觴九行。謁者言罷酒。御史執法。擧不如儀者。輒引去。竟朝置酒。無敢讙譁失禮者。於是高帝曰。吾迺今日知爲皇帝之貴也。迺拜叔孫通爲太常。賜金五百斤。叔孫通因進曰。諸弟子儒生隨臣久矣。與臣共爲儀。願陛下官之。高帝悉以爲郞。叔孫通出。皆以五百斤金賜諸生。諸生迺皆喜曰。叔孫生誠聖人也。知當世之要務。

(一一)法式の酒宴 (一二)首を下に俯して敬意を表し (一三)壽酒 (一四)禮式を掌る官 (一五)任官せよ (一六)郎官 (一七)當世の緊要なる務め

漢九年。高帝徙叔孫通爲太子太傅。漢十二年。高祖欲以趙王如意易太子。叔孫通諫上曰。昔者晉獻公以驪姬之故。廢太子立奚齊。晉國亂者

漢の九年、高帝、叔孫通を徙して太子の大傅と爲す。漢の十二年、高祖、趙王如意を以て太子に易へんと欲す。叔孫通、上(一)を諫めて曰く、昔者晉の獻公、驪姬の故を以て、太子を廢して奚齊を立つ。晉國亂るゝもの數十年なり、天下の笑と爲る。秦蚤く扶蘇を定めざるを以て、趙高をして詐を以て胡亥を立つるを得しめ、自ら祀(二)を滅せしむ。此れ陛下の親しく見る所なり。今太子仁孝、天下皆之を聞けり。呂后、陛下と攻苦啖(三)を食へり、其れ背く(四)可けん哉。陛下必ず適を廢して少を立てんと欲せば、臣願くは先づ誅に伏し頸血(五)を以て地を汙さん。高帝曰く、公罷

下郎中俠陛。陛數百人。功臣列侯諸將軍軍吏。以次陳西方東鄉。文官丞相以下陳東方西鄉。大行設九賓臚句傳。於是帝輦出房。百官執職。傳警。引諸侯王以下至吏六百石。以次奉賀。自諸侯王以下。莫不振恐肅敬。至禮畢。復置法酒。諸侍坐殿上。皆伏抑首。以

諸侯王より以下、振恐(一〇)して肅敬せざるは莫し。禮畢るに至り、復た法酒(一一)を置く。諸々の殿上に侍坐するもの、皆伏し首を抑し(一二)、尊卑の次を以て起ちて壽(一三)を上る。觴九行す。謁者酒を罷めよと言ふ。御史法を執りて儀の如くせざる者を擧げて、輒ち引き去る。朝を竟へ置酒し、敢へて諠譁し禮を失ふ者無し。是に於て、高帝曰く、吾迺ち今日皇帝爲るの貴きを知れりと。迺ち叔孫通を拜して太常(一四)と爲し、金五百斤を賜ふ。叔孫通因りて進みて曰く、諸弟子儒生、臣に隨ふこと久し、臣と共に儀を爲す、願くは陛下之を官(一五)せよ。高帝悉く以て郎と爲す(一六)。叔孫通出でて、皆五百斤の金を以て、諸生に賜ふ。諸生迺ち皆喜びて曰く、叔孫生は誠に聖人なり。當世の要務を知ると(一七)。

(一) 禮式を行ふ日にあたる　(二) 夜の明くる以前に　(三) 禮儀を掌る官、本邦に於ける式部官の如きもの　(四) 儀仗の車騎を配置し　(五) 一本旗幟に作る、はたのぼり　(六) 次ぎ次ぎに小走りに行く趨の敬禮を行ふやうに言ひ送らしむ　(七) 賓客接伴職の長官　(八) 賓は、擯。九人の賓客に附く介添役を設けて、臚句傳とて上下の語を取り次ぐことをなすこと　(九) 職は幟、傳令旗を執りて「しづし」と警戒を傳ふ　(一〇) 振ひ恐れて肅み敬はざるものなし

魯有二兩生一不レ肯レ行曰。公所レ事者且二十主。皆面諛以得二親貴一。今天下初定。死者未レ葬。傷者未レ起。又欲レ起二禮樂一。禮樂所二由起一。積レ德百年而後可レ興也。吾不レ忍レ爲二公所一レ爲。公所レ爲不レ合レ古。吾不レ行。公往矣。無レ汙レ我。叔孫通笑曰。若眞鄙儒也。不レ知二時變一。遂與二所レ徵三十人一西。及上左右爲レ學者與二其弟子百餘人一。爲二綿蕞野外一。習レ之月餘。叔孫通曰。上可二試觀一。上既觀。使レ行レ禮曰。吾能爲レ此。迺令二羣臣習肄一。

を得たり (一二) 貴殿の所爲に倣ひて禮を制することにあづかるに忍びず (一三) 公、魯國を立ち去れ (一四) 高潔なる我を汚すことなかれ (一五) 鄙しき儒者なり、時世を知らぬ者なり (一六) 綿は纏張、蕝は一に蕞に作る。茅を翦り、立てゝ尊卑の位を表す。即ち纏張をして、君臣の位置を定め、茅を以て目印となすこと (一七) 練習せしむ

會二十月一。漢七年。長樂宮成。諸侯羣臣皆朝二十月一。儀先二平明一。謁者治レ禮。引以レ次入二殿門一。廷中陳二車騎一。步卒衞レ宮。設レ兵張二旗志一。傳言レ趨。殿

十月に會す。(一)漢の七年長樂宮成る。諸侯羣臣皆十月に朝す。儀平明に先だち、(二)謁者(三)禮を治む。引きて次を以て殿門に入る。廷中に車騎を陳ね、(四)步卒宮を衞る。兵を設けて旗志を張る。(五)傳へて趨を言ふ。(六)殿下には郎中、陛を俠む。陛ごとに數百人、功臣列侯諸將軍軍吏次を以て西方に陳り、東に鄕ふ。文官丞相以下東方に陳り西に鄕ふ。大行九賓、(七)臚句傳を設く。(八)是に於て皇帝輦して房より出づ。百官、職を執りて警を傳ふ。(九)諸侯王以下吏の六百石に至るまでを引き、次を以て奉賀す。

臣弟子共起朝儀。高帝曰。得無難乎。叔孫通曰。五帝異樂。三王不同禮。禮者因時世人情。爲之節文者也。故夏殷周之禮。所因損益可知者。謂不相復也。臣願頗采古禮與秦儀雜就之。上曰。可試爲之。令易知。度吾所能行爲之。於是叔孫通使徵魯諸生三十餘人。

魯に兩生有り、行くことを肯ぜず。曰く、公(一〇)の事ふる所の者は、且に十主ならんとす。皆面諛(一一)以て親貴を得たり。今天下初めて定り、死者未だ葬らず、傷者未だ起たず、又禮樂を起さんと欲す。禮樂の由りて起る所は、德を積むこと百年にして後に興す可きなり。吾れ公の爲す所を爲すに忍びず。公の爲す所は古に合はず(一二)。吾れ行かず。公往け(一三)。我を汙すこと無かれ(一四)と。叔孫通笑ひて曰く、若は眞の鄙儒(一五)なり、時變を知らずと。遂に徵す所の三十人と西す。及び上の左右學を爲す者と、其弟子百餘人と、綿蕞(一六)を野外に爲し、之を習ふこと月餘なり。叔孫通曰く、上、試みに觀る可しと。上既に觀て禮を行はしむ。曰く、吾能く之を爲さんと。迺ち羣臣をして習肄(一七)せしむ。

（一）即位の儀式、臣下の名目作法を定む　（二）苛刻なる儀式　（三）法をてがるにす　（四）朝廷の儀式　（五）時世人情に應じて、過不及なきやうに程よくあやかざりを付くるやうにするものなり　（六）益したり減したりすることは言ふまでもなく推して知るべし　（七）曾てなし來りし處を重ねて復びせざるを謂ふなり　（八）取り雜ぜて制せん　（九）能く行ひ得る程度をくみはかりて制せよ　（一〇）叔孫通を斥す　（一一）主人の面前に媚び諛ひて近づき以て貴位

專言二諸故羣盜壯士一進レ之。弟子皆竊罵曰。事二先生一數歲。幸得レ從降レ漢。今不レ能レ進二臣等一。專言二大猾一何也。叔孫通聞レ之。迺謂曰。漢王方蒙二矢石一爭二天下一。諸生寧能鬬乎。故先言二斬レ將搴レ旗之士一。諸生且待レ我。我不レ忘矣。漢王拜二叔孫通一爲二博士一。號二稷嗣君一。

漢五年。已幷二天下一。諸侯共尊二漢王一爲二皇帝於定陶一。叔孫通就二其儀號一。高帝悉去二秦苛儀一。法爲二簡易一。羣臣飮レ酒爭レ功。醉或妄呼。拔レ劍擊レ柱。高帝患レ之。叔孫通知二上益厭一レ之也。說レ上曰。夫儒者難二與進取一。可二與守一レ成。臣願徵二魯諸生一。與二

漢の五年、已に天下を幷す。諸侯共に漢王を尊みて皇帝と定陶に爲す。叔孫通其(一)儀號を就す。高帝悉く秦の(二)苛儀を去りて、(三)法簡易を爲す。羣臣酒を飮み功を爭ひ醉ひて或ひは妄呼し、劍を拔き柱を擊つ。高帝之を患ふ。叔孫通、上の益々之を厭ふことを知るや、上に說きて曰く、夫れ儒者は與に進取し難く、與に守成す可し。臣願くは、魯の諸生を徵して、臣の弟子と共に(四)朝儀を起さん。高帝曰く、難きこと無きを得ん乎。叔孫通曰く、五帝は樂を異にし、三王は禮を同じうせず。(五)禮は時世人情に因りて之が節文を爲す者なり。故に夏、殷、周の禮、因りて(六)損益する所知る可しとは、(七)相復せざるを謂ふなり。臣願くは、頗る古禮と秦の儀とを采りて之を(八)雜就せん。上曰く、試みに之を爲す可し、知り易からしめよ。吾が(九)能く行ふ所を度りて之を爲せと。是に於て叔孫通使して魯の諸生三十餘人を徵す。

及二項梁之一レ薛。叔孫通從レ之。敗二於定陶一。從二懷王一。懷王爲二義帝一徙二長沙一。叔孫通留事二項王一。漢二年。漢王從二五諸侯一入二彭城一。叔孫通降二漢王一。漢王敗而西。因竟從レ漢。叔孫通儒服。漢王憎レ之。迺變二其服一。服二短衣楚製一。漢王喜。叔孫通之降レ漢。從二儒生弟子百餘人一。然通無レ所二言進一。

項梁の薛に之くに及び、叔孫通之に從ふ。定陶に敗る。懷王に從ふ。懷王、義(一)帝と爲り、長沙に徙る。叔孫通留りて項王に事ふ。漢の二年、漢王五諸侯を從へ彭城に入る。叔孫通、漢王に降る。漢王敗れて西す。因りて竟に漢に從ふ。叔孫通儒服(二)す。漢王之を惡(三)む。迺ち其服を變へ、(四)短衣の楚製を服す。漢王喜ぶ。叔孫通の漢に降るや、儒生弟子百餘人を從ふ。然るに通、言ひ進むる所無し。專ら諸〻の故の羣盜壯士を言ひ之を進(五)む。弟子皆竊に罵りて曰く、先生に事ふること數歲にして、幸ひに從ひて漢に降ることを得たり。今臣等を進むること能はず、專ら大猾(六)を言ふは何ぞやと。叔孫通之を聞き、迺ち謂ひて曰く、漢王方に矢石(七)を蒙り、天下を爭ふ。諸生寧ろ能く鬪はん乎、故に先づ將を斬り旗を搴る士を言ふ。諸生且く(八)我を待て我忘れずと。漢王、叔孫通を拜して博士と爲し、稷嗣君と號す。

(一) 項梁、懷王を作り尊みて義帝と爲す　(二) 儒者の服裝を爲す　(三) にくみきらふ　(四) たけ短き楚國制の服　(五) 申立てゝ推薦する　(六) 大狡猾なる者を推薦するは　(七) 矢や石の下る中の危險をおかしつゝ　(八) 我が時節到來し推薦するを待たれよ

通前曰。諸生言皆非也。夫天下合爲二一家一。毀二郡縣城一。鑠二其兵一。示三天下不二復用一。且明主在二其上一。法令具二於下一。使二人人奉一レ職。四方輻輳。安敢有二反者一。此特羣盜鼠竊狗盜耳。何足レ置二之齒牙間一。郡守尉今捕論。何足レ憂。二世喜曰。善。盡問二諸生一。諸生或言レ反或言レ盜。於レ是二世令三御史案二諸生言レ反者一下レ吏。非レ所レ宜。言。諸言レ盜者皆罷レ之。迺賜二叔孫通帛二十匹。衣一襲一。拜爲二博士一。叔孫通已出レ宮反レ舍。諸生曰。先生何言之諛也。通曰。公不レ知也。我幾不レ脱二於虎口一。迺亡去之レ薛。薛已降レ楚矣。

於て二世、御史をして諸生の反と言ふ者を案ぜしめ吏に下す。宜しく言ふべき所に非ずと。諸〻の盜と言ふ者皆之を罷む。迺ち叔孫通に帛二十匹、衣一襲を賜ひ、拜して博士と爲す。叔孫通已に宮を出でて舍に反る。諸生曰く、先生何ぞ言の諛なるやと。通曰く、公知らざるなり。我幾ど虎口を脱れずと。迺ち亡げ、去りて薛に之く。薛已に楚に降れり。

(一)奏聞に及ぶ (二)時に反せんとする心なし、若し此心存すれば卽ち反す (三)顏色を變ふ (四)一家同樣となり (五)刀劍矛戟等の兵器を官に引き上げ之を鎔消し (六)各人をして其職掌とする處を掌り (七)天下四方の民中央の帝都をさして歸服して集まる (八)小盜等 (九)何ぞ口齒にかくるに足らん (一〇)取調べさせて (一一)殺さる、危險を免れ得ずと

陛下徙三齊諸田。楚昭屈景。燕趙韓魏後。及豪傑名家一居二關中一。無レ事可二以備一レ胡。諸侯有レ變。亦足二率以東伐一。此彊レ本弱レ末之術也。上曰。善。迺使三劉敬徙二所レ言關中一十餘萬口。

叔孫通者。薛人也。秦時以二文學一。徵待二詔博士一。數歲。陳勝起二山東一。使者以聞。二世召二博士諸儒生一問曰。楚戍卒攻レ蘄入レ陳。於レ公何如。博士諸生三十餘人前曰。人臣無レ將。將卽反。罪死無レ赦。願陛下急發レ兵擊レ之。二世怒作レ色。叔孫

叔孫通は薛の人なり。秦の時文學を以て、徵されて博士に待詔す。數歲にして陳勝山東に起る。使者以聞す。(一)二世、博士諸儒生を召して問ひて曰く、楚の戍卒蘄を攻め陳に入る、公に於て如何と。博士諸生三十餘人前みて曰く、人臣、將(二)無し、將すれば卽ち反す、罪は死赦すこと無し。願くは陛下急に兵を發して之を擊てと。二世怒りて色を作す。(三)叔孫通前みて曰く、諸生の言は皆非なり。夫れ天下合して一家と爲り、(四)郡縣の城を毀ち、其兵を鑠し、(五)天下に復た用ひざることを示す。且つ明主其上に在り、法令下に具り(六)人人をして職を奉ぜしめ、四方輻輳(七)す、安に敢て反する者有らん。此れ特羣盜鼠竊狗盜(八)なるのみ、何ぞ之を齒牙の間(九)に置くに足らん。郡の守尉今捕へて論ぜん、何ぞ憂ふるに足らんと。二世喜びて曰く、善しと、盡く諸生に問ふ。諸生或ひは反と言ひ、或ひは盜と言ふ。是に

能ㇾ遣二長公主一。而取二家人子一。名爲二長公主一。妻二單于一。使三劉敬往結二和親約一。劉敬從二匈奴一來。因言匈奴河南白羊樓煩王。去二長安一近者七百里。輕騎一日一夜可三以至二秦中一。秦中新破少ㇾ民。地肥饒可ㇾ益ㇾ實。夫諸侯初起時。非二齊諸田。楚昭屈景一莫ㇾ能ㇾ興。今陛下雖ㇾ都二關中一實少ㇾ人。北近二胡寇一。東有二六國之族宗彊一。一日有ㇾ變。陛下亦未ㇾ得二高ㇾ枕而臥一也。臣願

安を去ること、近き者は七百里、輕騎(二)一日一夜にして以て秦中に至る可し。秦中新(三)に破れ民少し、地肥饒益し實つ可し。夫れ諸侯初めて起る時、齊の諸田(四)、楚の昭、屈、景に非ざるは、能く興ること莫し。今陛下關中に都すと雖ども、實に人少し。北のかた胡寇(五)に近く、東のかた六國の族宗の彊き有り。一日變有らば、(六)陛下も亦未だ枕を高うして臥することを得じ。臣願くは陛下、齊の諸田、楚の昭、屈、景、燕、趙、韓、魏の後、及び豪傑名家を徙して關中に居き、事無ければ以て胡に備ふ可く、諸侯變有らば、亦率ゐて以て東伐するに足らん。此れ本を彊くし末を弱むる(七)の術なりと。上曰く、善しと。迺ち劉敬をして言ふ所の關中に徙さしむること十餘萬口なりき。

(一) 白羊國、樓煩國 (二) 輕鋭なる騎兵 (三) 戰爭打ち續きて破れ損じ (四) 田氏の一門 (五) 匈奴の入寇 (六) 萬一諸侯の中に變事あらば (七) 樹の幹を强固に堅めて梢を薄弱ならしむる術

能。顧爲奈何。劉敬對曰。陛下誠能以二適長公主一妻レ之。厚奉レ遺之一。彼知二漢適女送厚一。蠻夷必慕以爲二閼氏一。生レ子必爲二太子一。代單于。何者貪二漢重幣一。陛下以二歲時漢所レ餘彼所レ鮮數問遺。因使三辯士風諭以二禮節一。冒頓在固爲二子壻一。死則外孫爲二單于一。豈嘗聞下外孫敢與二大父一抗禮者上哉。兵可三無レ戰以レ漸臣一也。若陛下不レ能レ遣二長公主一。而令下宗室及後宮詐稱二公主一。彼亦知不二肯貴近一。無レ益也。

戰ふ無く、漸(一二)を以て臣とす可きなり。若し陛下、長公主を遣る能はずして、宗室及び後宮をして詐りて公主と稱せしめば、彼も亦知りて、貴近(一四)を肯ぜざらん、益無きなりと。

（一）戰ひを止めて歸る　（二）匈奴の天子の名　（三）父の多くの妾　（四）誠に都合よければ　（五）嫡女の姫君　（六）幣物を贈遣せば　（七）單于の皇后　（八）歲季節　（九）御機嫌を伺ひ幣物を贈りて歡心を買ひ　（一〇）女子の嫁して生める孫　（一一）祖父　（一二）漸次に臣下となすべきなり　（一三）嫡女の姫君　（一四）貴び近づくること

高帝曰。善。欲レ遣二長公主一。呂后日夜泣曰。妾唯太子一女。奈何弃二之匈奴一。上竟不レ

高帝曰く、善しと。長公主を遣らんと欲す。呂后日夜泣きて曰く、妾唯太子と一女とのみ、奈何ぞ之を匈奴に弃てんと。上竟に長公主を遣ること能はずして、家人の子を取りて、名づけて長公主と爲し、單于に妻はし、劉敬をして往きて和親の約を結ばしむ。劉敬、匈奴より來る。因りて言ふ、匈奴河南の白羊(一)樓煩王、長

高帝罷二平城一歸。韓王信亡入レ胡。當二是時一。冒頓爲二單于一兵彊。控弦三十萬。數苦二北邊一。上患レ之問二劉敬一。劉敬曰。天下初定。士卒罷二於兵一。未レ可三以レ武服二也。冒頓殺レ父代立。妻二羣母一。以レ力爲レ威。未レ可下以二仁義一說上也。獨可三以計二久遠子孫爲二臣耳。然恐二陛下不レ能レ爲。上曰。誠可何爲不レ

高帝平城を罷めて歸る。韓王信亡げて胡に入る。是の時に當りて、冒頓單于と爲り兵彊く、控弦(一)三十萬あり、數〻北邊を苦しむ。上之を患へて、劉敬に問ふ。劉敬曰く、天下初めて定り、士卒、兵に罷る、未だ武を以て服す可からず。冒頓(二)、父を殺して代り立ち、羣母(三)を妻とし、力を以て威を爲す、未だ仁義を以て說く可からず。獨り以て久遠の子孫の臣爲るを計る可きのみ。然れども陛下の爲す能はざらんことを恐ると。上曰く、誠(四)に可ならば、何爲ぞ能はざらん。顧ふに爲すこと奈何ん。劉敬對へて曰く、陛下誠に能く適長公主(五)を以て之に妻し、厚く之に奉遣(六)せば、彼れ漢の適女の送厚きを知り、蠻夷必ず慕ひ以て閼氏(七)と爲さん。子を生まば必ず太子と爲し、代りて單于たらん。何となれば、漢の重幣を貪ればなり。陛下、歲時(八)に漢の餘す所、彼の鮮き所を以て、數〻問遺(九)し、因りて辯士をして風諭するに禮節を以てせしめば、冒頓在るも、固より子壻爲り、死せば則ち外孫(一〇)、單于と爲らん。豈に嘗て外孫の敢て大父(一一)と與に抗禮する者を聞かん哉。兵、

者十輩來。皆言匈奴可撃。上使劉敬復往使匈奴。還報曰。兩國相撃。此宜夸矜見所長。今臣往。徒見羸瘠老弱。此必欲見短伏奇兵以争利。愚以爲匈奴不可撃也。是時漢兵已踰句注二十餘萬兵已業行。上怒罵劉敬曰。齊虜以口舌得官。今迺妄言沮吾軍。械繫敬廣武。遂往至平城。匈奴果出奇兵圍高帝白登七日。然後得解。高帝至廣武。赦敬曰。吾不用公言。以困平城。吾皆以斬前使十輩言可撃者矣。迺封敬二千戸。爲關內侯。號爲建信侯。

奴撃つ可からざるなりと。是の時漢の兵已に句注(六)を踰え、二十餘萬の兵已に業に行く。上怒り、劉敬を罵りて曰く、齊虜口舌を以て官を得たり(七)、今迺ち妄言し吾が軍を沮むと。敬を廣武に械繫す(八)。遂に往きて平城に至る。匈奴果して奇兵を出し、高帝を白登に圍むこと七日にして、然る後に解くことを得たり(九)。高帝廣武に至りて、敬を赦して曰く、吾、公の言を用ひず以て平城に困しむ。吾皆以に前使十輩の撃つ可しと言ふ者を斬れりと。迺ち敬を二千戸に封じ關內侯と爲し、號して建信侯と爲す。

(一) 瘠せ疲れたる牧畜類　(二) 十人　(三) ほこる　(四) 長所を見すべき筈なるに　(五) 劣りたる所を示し　(六) 句注山　(七) 齊の捕虜口先の辯舌を以て官位を得たり　(八) 首枷手枷を入れて囚へ繫ぐ　(九) 圍みを解くことを得たり

全二其勝一也。今陛下入レ關而都。案二秦之故地一。此亦搤二天下之亢一。而拊二其背一也。高帝問二羣臣一。羣臣皆山東人。爭言周王數百年。秦二世即亡。不レ如レ都レ周。上疑未レ能レ決。及三留侯明言二入レ關便一。即日車駕西都二關中一。於レ是上曰。本言レ都二秦地一者婁敬。婁者乃劉也。賜二姓劉氏一。拜爲二郎中一。號爲二奉春君一。

本秦の地に都せよと言ふ者は婁敬なり、婁は乃ち劉なりと。姓を劉氏と賜ひ、拜して郎中と爲し、號して奉春君と爲す。

(一)四方何れも塞がりたる處 (二)にはかに (三)故都をそのまゝ利用して (四)資料とせば (五)天然に物の聚まれる處 (六)敵の喉笛の處を扼り締めて、其の背部を撃つことをせずんば (七)明白に (八)即日云々は咸陽に都する事に決するをいふ

漢七年。韓王信反。高帝自往擊レ之。至二晉陽一。聞下信與二匈奴一欲中共擊上レ漢。上大怒使二人使一匈奴一。匈奴匿二其壯士肥牛馬一。但見二老弱及羸畜一。使

漢の七年、韓王信反す。高帝自ら往きて之を撃たんとし、晉陽に至る。信の匈奴と共に漢を撃たんと欲すと聞く。上、大に怒り、人をして匈奴に使せしむ。匈奴其壯士肥牛馬を匿して、但老弱及び羸畜(一)を見す。使者十輩(二)來りて皆言ふ、匈奴撃つ可しと。上劉敬をして復た往き匈奴に使せしむ。還り報じて曰く、兩國相撃つ、此れ宜しく夸矜(三)して長(四)ずる所を見すべきに、今臣往く、徒に羸瘠老弱を見るのみ、此れ必ず短(五)を見し奇兵を伏し、以て利を爭はんと欲す。愚以爲へらく匈

下莫レ朝。周不レ能レ制也。非ニ其徳薄一也。而形勢弱也。今陛下起レ豊撃レ沛。收ニ卒三千人一。以レ之徑往而卷ニ蜀漢一定ニ三秦一。與ニ項羽一戰ニ滎陽一。爭ニ成皐之口一。大戰七十。小戰四十。使ニ天下之民肝腦塗一レ地。父子暴ニ骨中野一。不レ可レ勝數。哭泣之聲未レ絶。傷痍者未レ起。而欲レ比ニ隆於成康之時一。臣竊以爲レ不レ侔也。

且夫秦地被レ山帶レ河。四塞以爲レ固。卒然有レ急。百萬之衆可レ具也。因ニ秦之故一。資ニ甚美膏腴之地一。此所レ謂天府者也。陛下入レ關而都レ之。山東雖レ亂。秦之故地。可ニ全而有一也。夫與レ人鬭。不下搤ニ其肮一拊中其背上。未レ能

且つ夫れ秦の地山を被り河を帶び、(一)四塞以て固と爲す。(二)卒然として急有らば、百萬の衆具ふ可きなり。秦の故(三)に因りて、甚だ美なる膏腴の地に資(四)せば、此れ所謂天府(五)といふ者なり。陛下、關に入りて之に都せば、山東亂ると雖ども、秦の故地は全うして有つ可きなり。夫の人と鬭ひて、其肮(六)を搤し其背を拊たざれば、未だ其勝を全うすること能はざるなり。今陛下關に入りて都し、秦の故地を案ぜば、此も亦天下の肮を搤して其背を拊つなりと。高帝、羣臣に問ふ。羣臣は皆山東の人なり。爭ひて言ふ、周は王たること數百年なり、秦は二世にして卽ち亡ぶ、周に都するに如かずと。上疑ひて未だ決すること能はず。留侯(七)の明かに關に入ること便なりと言ふに及びて、(八)卽日車駕西して關中に都す。是に於て上曰く、

貢職一道里均矣。有レ德則易ニ以王。無レ德則易ニ以亡。凡居レ此者欲レ令ニ周務以レ德致ヒ人。不レ欲下依ニ阻險一令中後世驕奢以虐上レ民也。及ニ周之盛時一。天下和洽。四夷鄕レ風。慕レ義懷レ德。附離而並事ニ天子一。不レ屯ニ一卒一。不レ戰ニ一士一。八夷大國之民。莫レ不ニ賓服效ニ其貢職一。及ニ周之衰一也。分而爲レ兩。天

ざるなり。周の盛なりし時に及びて、天下和洽し、四夷風に鄕ひ、義を慕ひ德に懷きて、附離して竝びに天子に事る、一兵を屯せず(六)、一卒を戰はしめずして、八夷大國の民、賓服(七)して其貢職(八)を效さゞること莫し。周の衰ふるに及びてや、分れて兩(九)と爲り、天下朝すること莫し。周制すること能はざるなり、其德の薄きに非るなり、而して形勢(一〇)の弱ければなり。今陛下豐に起り沛を擊ち、卒三千人を收め、之を以て徑に往きて蜀漢を卷き(一一)、三秦を定め、項羽と滎陽に戰ひて、成皐の口を爭ひ、大戰七十、小戰四十、天下の民をして肝腦(一二)地に塗れ、父子骨を中野に暴さしむること、數ふるに勝ふ可からず、哭泣(一三)の聲未だ絕えず、傷痍の者未だ起たず。而して隆を成康(一四)の時に比せんと欲す。臣竊に以爲らく侔しからざるなりと。

(一) 如き者 (二) 天下の中央 (三) 道の里程平均せり (四) 引き寄せんと (五) 恃みにして (六) 四方の蠻夷皆王の風化に向ひなびき (七) 從ひ服す (八) 貢物供職 (九) 東周西周の兩國と爲り (一〇) 周の形勢 (一一) 席卷し (一二) 肝や腦は地に塗れ、卽ち戰爭にて慘死し (一三) 戰死者の遺族の泣き聲始終絕間なし (一四) 成王康王にて周代の天子

言レ上。上召入見。賜レ食。已而問二婁敬一。婁敬說曰。陛下都二洛陽一。豈欲下與二周室一比上レ隆哉。上曰。然。婁敬曰。陛下取二天下一與二周室一異。周之先自二后稷一。堯封二之邰一。積レ德累レ善十有餘世。公劉避レ桀居レ豳。太王以二狄伐一故。去レ豳杖二馬箠一居レ岐。國人爭隨レ之。及下文王爲二西伯一。斷中虞芮之訟上。始受レ命。呂望伯夷。自二海濱一來歸レ之。武王伐レ紂。不レ期而會二孟津之上一八百諸侯。皆曰。紂可レ伐矣。遂滅レ殷。

ふ。文王の西伯と爲りて、虞芮の訟を斷じ、始めて(一〇)命を受くるに及び、呂望・伯夷海濱より來りて之に歸す。武王、紂を伐つや、期せずして(一一)孟津の上に會するもの八百諸侯なりき。皆曰く、紂伐つ可しと。遂に殷を滅せり。

(一) 衞戍兵として遣はされ　(二) 輿車の前方に在る横木につなぎたるひもを棄て　(三) 主上、卽ち高祖　(四) 國家に便宜なる事　(五) 美衣　(六) つむぎ　(七) 特旨を以て食事を賜はる　(八) 周の王室　(九) 馬の鞭を杖につきて遙々と遠く行き　(一〇) 始めて天命を受くるに及び　(一一) 日限を約せざるに

成王卽レ位。周公之屬傅相焉。迺營二成周洛邑一。以此爲二天下之中一也。諸侯四方納二

成王位に卽き、周公の屬傅相(一)たり。迺ち成周を洛邑に營し、以へらく此れ天下の中(二)たりと。諸侯四方貢職を納れ、道里(三)均し。德有れば則ち以て王たり易く、德無ければ以て亡び易し。凡そ此に居る者は、周をして務めて德を以て人を致さしめ(四)んと欲す、阻險に依り(五)、後世をして驕奢にして以て民を虐せしむることを欲せ

劉敬者。齊人也。漢五年。戍ニ隴西一過ニ洛陽一。高帝在焉。婁敬脱ニ輓輅一。衣ニ其羊裘一。見ニ齊人虞將軍一曰。臣願見レ上言ニ便事一。虞將軍欲レ與ニ之鮮衣一。婁敬曰。臣衣レ帛衣レ帛見。衣レ褐衣レ褐見。終不ニ敢易一レ衣。於レ是虞將軍入

卷九十九

劉敬叔孫通列傳第三十九

劉敬は齊の人なり。漢の五年、隴西に戍し(一)洛陽を過ぐ、高帝在す。婁敬輓輅を(二)脱し其羊裘を衣て、齊人虞將軍に見えて曰く、臣願くは上(三)に見えて便事(四)を言はんと。虞將軍之に(五)鮮衣を與へんと欲す。婁敬曰く、臣、帛(六)を衣たらば帛を衣て見えん、褐を衣たらば褐を衣て見えんと、終に敢へて衣を易へず。是に於て虞將軍入りて上に言ふ。上召入れて見る、(七)食を賜ふ。已にして婁敬に問ふ。婁敬說きて曰く、陛下洛陽に都す、豈に(八)周室と隆を比せんと欲する哉。上曰く、然り。婁敬曰く、陛下の天下を取れるは周室と異なり。周の先は后稷よりす。堯、之を邰に封ず。徳を積み善を重ぬること十有餘世なり。公劉、桀を避けて豳に居る。太王、狄の伐を以ての故に、豳を去り(九)馬箠を杖き岐に居る。國人爭ひて之に隨

籍一誅二殺名將一。破レ軍降レ城以二十數。未二嘗困辱一。此亦天授也。蒯成侯周緤。操レ心堅正。身不レ見レ疑。上欲レ有レ所レ之。未二嘗不レ垂レ涕。此有レ傷レ心者。然可レ謂二篤厚君子一矣。

疑はれず。上之く(五)所有らんと欲すれば、未だ嘗て涕を垂れずんばあらず。(六)此れ心を傷ましむる有る者なり。然れども篤厚の君子なりと謂ふ可し。

(一) 高き爵位を有せる者　(二) 十を單位として數ふ　(三) 天然に備りたる名將なり　(四) 心懸堅固に正しくして
(五) 出征せんと欲すること有る時は　(六) これ高祖をして心配をさするわけなり

利乍不レ利。終無二離レ上心一。以レ緤爲二信武侯一。食邑三千三百戸。高祖十二年。以レ緤爲二蒯成侯一除二前所レ食邑一。上欲三自擊二陳豨一。蒯成侯泣曰。始秦攻二破天下一未二嘗自行一。今上常自行。是爲レ無二人可レ使者一乎。上以爲愛レ我。賜下入二殿門一不レ趨。殺レ人不上レ死。至二孝文五年一。緤以レ壽終。謚爲二貞侯一。子昌代侯。有レ罪國除。至二孝景中二年一。封二緤子居一代侯。至二元鼎三年一。居爲二太常一。有レ罪國除。

き者無しと爲る乎と。上以爲我を愛すと。殿門に入るも趨(七)らず、人を殺すも死(八)せざるを賜ふ。孝文の五年に至り、緤、壽を以て終る、諡して貞侯と爲す。子の昌代りて侯たり。罪有りて國除かる。孝景中二年に至り、緤の子居を封じて代り侯たらしむ。元鼎三年に至り、(九)居、太常と爲り、罪有りて國除かる。

(一) 御馬車の右方に陪乘する役、驂乘に同じ (二) 兵粮を運搬する爲に特に設けたる道路 (三) 通過す (四) 高祖に事ふること忠實にして離反する心無し (五) 自ら征伐に向はず (六) 他に遣はすべき適任者無しと思へる爲めか (七) 小股に走る敬禮を爲すに及ばざる特別待遇を賜ふ (八) 死刑に處せざる特別待遇 (九) 祭の官

太史公曰。陽陵侯傅寬。信武侯靳歙。皆高爵。從二高祖一起二山東一。攻二項

太史公曰く、陽陵侯傅寬、信武侯靳歙は、皆高爵(一)なり。高祖に從ひて山東より起り、項籍を攻め、名將を誅殺し、軍を破り城を降すこと十(二)を以て數ふ。未だ嘗て困辱せず、此れ亦天授(三)なり。蒯成侯周緤は心(四)を操ること堅正にして、身

武侯。以二騎都尉一從擊レ代。攻二韓信平城下一。還軍二東垣一有レ功。遷爲二車騎將軍一。幷將二梁齊燕楚車騎一。別擊二陳豨丞相敞一破レ之。因降二曲逆一。從擊二黥布一有レ功。益封定食二五千三百戶一。凡斬レ首九十級。虜百三十二人。別破レ軍十四。降レ城五十九。定二郡國一各一。縣二十三。得下王柱國各一人。二千石以下至二五百石一三十九人上。高后五年。歛卒。謚爲二肅侯一。子亭代侯。二十一年。坐下事二國人一過上レ律。孝文後三年。奪レ侯國除。

（一）兵粮の道　（二）柱國は官名、上柱國に同じ、大司馬は軍旅の事を掌る　（三）捕虜となし護送す　（四）將軍の名　（五）捕虜　（六）國人を使役すること律の定めに過ぎたること

蒯成侯緤者。沛人也。姓周氏。常爲二高祖參乘一。以二舍人一從起レ沛。至二霸上一西入二蜀漢一。還定二三秦一。食二邑池陽一。東絕二甬道一。從出度二平陰一。遇二淮陰侯兵襄國一。軍

蒯成侯緤は、沛の人なり。姓は周氏、常に高祖の參乘(一)たり。舍人を以て從ひて沛に起る。霸上に至り、西のかた蜀漢に入る。還りて三秦を定む。邑を池陽に食む。東のかた(二)甬道を絕ち、從ひて出で平陰を度る(三)。淮陰侯の兵に襄國に遇ふ、軍乍ち利あり乍ち利ならざれども、終に上(四)に離るゝ心無し。緤を以て信武侯と爲し、食邑三千三百戶あり。高祖の十二年、緤を以て蒯成侯と爲し、前に食む所の邑を除く。上、自ら陳豨を擊たんと欲す。蒯成侯泣きて曰く、始め秦天下を攻め破るに、未だ嘗て自(五)ら行かず。今上常に自ら行く、是れ人(六)の使ふ可

軍成皐南。擊絕楚餉道。起滎陽至襄邑。破項冠軍魯下。略地東至繒郯下邳。南至蘄竹邑。擊項悍濟陽下。還擊項籍陳下。破之。別定江陵。降江陵柱國大司馬以下八人。身得江陵王。生致之雒陽。因定南郡。從至陳取楚王信。剖符世世勿絕。定食四千六百戶。號信

り、南のかた蘄、竹邑に至り、項悍を濟陽の下に擊ち、還りて項籍を陳下に擊ちて之を破る。別に江陵を定め、江陵（一）の柱國（二）、大司馬以下八人を降し、身 江陵王を得、之を雒陽に生致（三）す。因りて南郡を定む。從ひて陳に至りて楚王信を取ふ。符を剖き世世絕ゆること勿からしめ、定めて四千六百戶を食ましめ、信武侯と號せしむ。騎都尉を以て從ひて代を擊ち、韓信を平城の下に攻む。還りて東垣に軍し功有り。還りて車騎將軍（四）と爲り、幷せて梁、趙、齊、燕、楚の車騎に將たり。別に陳豨の丞相敞を擊ちて之を破り、因りて曲逆を降す。從ひて黥布を擊ちて功有り、益し封ぜられ、定めて五千三百戶を食む。凡そ首を斬ること九十級、（五）虜百三十二人なりき。別に軍を破ること十四、城を降すこと五十九、郡國を定むること各〻一、縣二十三、王、柱國各〻一人、二千石以下五百石に至る三十九人を得たり。高后五年歙卒す、謚して肅侯と爲す、子の亭代り侯たり。二十一年（六）國人を事ふこと律に過ぎたるに坐し、孝文の後三年、侯を奪はれ國除かる。

定二三秦一。別西擊二章平軍於隴西一破レ之。定二隴西六縣一。所レ將卒斬二車司馬候各四人一。騎長十二人一。從東擊レ楚至二彭城一。漢軍敗。還保二雍丘一。去擊二反者王武等一。略二梁地一。別將擊二邢說軍菑南一破レ之。身得二說都尉二人。司馬候十二人一。降二吏卒四千六百八十人一。破二楚軍滎陽東一。三年。賜二食邑四千二百戶一。別之二河內一。擊二趙將賁郝軍朝歌一破レ之。所レ卒得二騎將二人。車馬二百五十匹一。從攻二安陽以東一至二棘蒲一。下二七縣一。別攻破二趙軍一。得二其將司馬二人。候四人一。降二吏卒二千四百人一。從攻下二邯鄲一。別下二平陽一。身斬二守相一。所レ將卒斬二兵守郡守各一人一。降レ鄴。

從攻二朝歌邯鄲一。及別擊破二趙軍一。降二邯鄲郡六縣一。還軍二敖倉一。破二項籍

り、七縣を下す。別に攻めて趙軍を破り、其將司馬二人、候四人を得、吏卒を降すこと二千四百人なりき。從ひて攻めて邯鄲を下す。別に平陽を下す。身守相を斬り、將ゐる所の卒、兵守郡守(一〇)各々一人を斬り、鄴を降す。

(一) 内侍の官、本邦の同朋衆、御坊主などの類　(二) 地名。南亳北亳は共に今の河南省の商邱、西亳は今の偃師に在り　(三) 官車を主る者　(四) 騎兵の長　(五) 武散官の名　(六) 護持す　(七) 菑水の南　(八) 縣名　(九) 殷の紂王の舊都。今の河內省淇縣に在り　(一〇) 故の趙の都

從ひて朝歌、邯鄲を攻む、及び別に擊ちて趙軍を破り邯鄲郡の六縣を降す。還りて敖倉に軍し、項籍の軍を成皐の南に破り、擊ちて楚の餉道(一一)を絕つ。滎陽より起り襄邑に至り、項冠の軍を魯下に破り、地を略して東のかた繒、郯、下邳に至

信武侯靳歙。以二中涓一從起二宛朐一。攻二濟陽一破二李由軍一。擊二秦軍亳南開封東北一。斬二騎十人。將一人。首五十七級一。捕虜七十三人。賜二爵封一號二臨平君一。又戰二藍田北一。斬二車司馬一人。騎長一人。首二十八級。捕虜五十七人。至二覇上一。沛公立爲二漢王一。賜二歙爵建武侯一。遷爲二騎都尉一。從

信武侯靳歙は中涓(一)を以て從ひて宛朐より起る。濟陽を攻めて李由の軍を破り、秦軍を亳(二)の南、開封の東北に擊ち、騎十人將一人首五十七級を斬り、捕虜七十三人ありき。爵封を賜ひ臨平君と號す。又藍田の北に戰ひ、車司馬(三)一人騎長(四)一人首二十八級を斬り、捕虜五十七人ありき。覇上に至り沛公立ちて漢王と爲る。歙に爵を建武侯を賜ふ。遷りて騎都尉(五)と爲る。從ひて三秦を定め、別に西のかた章平の軍を隴西に擊ちて之を破り、隴西の六縣を定む。將ゐる所の卒、車司馬候各〻四人、騎長十二人を斬る。從ひて東のかた楚を擊ち、彭城に至り漢軍敗る。還りて雍丘(六)を保す。去りて反者王武等を擊ちて、梁の地を略す。別に將として刑說の軍を菑南(七)に擊ちて之を破る。身說の都尉二人、司馬候十二人を得、吏卒を降すこと四千六百八十人なりき。楚の軍を滎陽(八)の東に破る。三年、食邑四千二百戸を賜る。別に河内に之き、趙の將賁郝の軍を朝歌(九)に擊ちて之を破り、將ゐる所の卒、騎將二人、車馬二百五十匹を得。從ひて安陽以東を攻め、棘蒲に至

將。從定三秦。賜食邑雕陰。從擊項籍。待懷。賜爵通德侯。從擊項冠周蘭龍且。所將卒斬騎將一人敖下。益食邑。屬淮陰。擊破齊歷下軍。擊田解。屬相國參。殘博。益食邑。因定齊地。剖符世世勿絕。封爲陽陵侯。二千六百戶。除前所食。爲齊右丞相。備齊。五歲爲齊相國。四月。擊陳豨。屬太尉勃。以相國代丞相噲擊豨。一月。徙爲代相國將屯。一歲爲代丞相將屯。孝惠五年卒。諡爲景侯。子須侯精立。二十四年卒。子共侯則立。十二年卒。子侯偃立。二十一年坐與淮南王謀反死。國除。

りて齊に備はる。五歲にして齊の相國と爲る。四月陳豨を擊つとき太尉勃に屬し、(九)相國を以て丞相噲に代り豨を擊つ。一月にして徙りて代の相國と爲り、屯に將たり。(一〇)一歲にして代の丞相と爲り、屯に將たり。孝惠五年卒す、諡して景侯と爲す。子、須侯精立つ、二十四年に卒す。子共侯則立つ、十二年卒す。子侯偃立つ、二十一年に淮南王と謀反するに座して死す、(一一)國除かる。

(一)秦の制、有功の者を賞する爵、第九級に當るもの、漢之に因る　(二)沛公に從ひて　(三)近侍の官　(四)關中即ち咸陽以西、咸陽以東河に至るまで、上郡をいふ　(五)高帝を懷の地に待つ　(六)敖倉の下　(七)虜殺す　(八)割符を賜りて世々其領地を有することを許さる　(九)齊に守備隊として住す　(一〇)屯兵の將となる　(一一)連座して誅せらる

陽陵侯傅寛。以魏五大夫騎將。從爲舍人。起横陽。從攻安陽杠里。擊趙賁軍於開封。及擊楊熊曲遇陽武。斬首十二級賜爵卿。從至覇上。沛公立爲漢王。漢王賜寛封。號共德君。從入漢中。遷爲右騎

卷九十八

傅靳蒯成列傳第三十八

陽陵侯傅寛は、魏の五大夫騎將を以て、從ひて舍人と爲る。横陽より起りて從ひて安陽杠里を攻め、趙賁(一)が軍を開封(二)に撃ち、楊熊(三)を曲遇・陽武に撃つに及びて、首を斬ること十二級、爵卿を賜る。從ひて霸上に至る。沛公立ちて漢王と爲る。漢王、寛に封を賜ひ、共德君と號す。從ひて漢中に入り、遷りて右騎將と爲る。從ひて三秦(四)を定め、食邑を雕陰に賜る。從ひて項籍を撃ち懷(五)に待つ、爵通德侯を賜る。從ひて項冠・周蘭・龍且を撃ち、將ゐる所の卒、騎將一人を敖下(六)に斬り、食邑を益す。淮陰に屬し齊の歴下の軍を撃破し、田解を撃つ。相國參に屬し、博を殘す、食邑を益す。因りて齊の地を定め、符(八)を剖き世世絶つこと勿からしむ。封(七)じて陽陵侯と爲す。二千六百戸、前に食む所を除く。齊の右丞相と爲

成大功。今獨爲亡秦。嬰城而堅守。臣竊爲足下危之。陳留令曰。秦法至重也。不可以妄言。妄言者無類。吾不可以應。先生所以教臣者。非臣之意也。願勿復道。酈生留宿臥。夜半時。斬陳留令首。踰城而下報沛公。沛公引兵攻城。縣令首於長竿。以示城上人曰。趣下。而令頭已斷矣。令後下者。必先斬之。於是陳留人見令已死。遂相率而下沛公。沛公舍陳留南城門上。因其庫兵食積粟。留出入三月。從兵以萬數。遂入破秦。

太史公曰。世之傳酈生書。多曰漢王已拔三秦。東擊項籍。而引軍於鞏洛之間。酈生被儒衣。往說漢王。迺非也。自沛公未入關。與項羽別而至高陽。得酈生兄弟。今讀陸生新語書十二篇。固當世之辯士。至平原君子。與余善。是以得具論之。

太史公曰く、世の酈生を傳する書、多くは曰く、漢王已に三秦を拔き、東項籍を撃ちて軍を鞏洛の間に引く。酈生儒衣を被、往きて漢王に說くと。迺ち非なり。沛公未だ關に入らず、項羽と別れて高陽に至りてより酈生兄弟を得たり。今陸生新語の書十二篇を讀むに、固より當世の辯士なり。平原君の子に至り、余と善し。是を以て具に之を論ずるを得たり。

❶ 函谷關

爲ニ足下一說レ之。不レ聽レ臣。臣請爲ニ足下一殺レ之。而下ニ陳留一。足下將ニ陳留之衆一。據ニ陳留之城一。而食ニ其積粟一。招ニ天下之從兵一。從兵已成。足下橫ニ行天下一。莫下能有中害ニ足下一者上矣。沛公曰。敬聞レ命矣。於レ是酈生迺夜見ニ陳留令一說レ之曰。夫秦爲ニ無道一。而天下畔レ之。今足下與ニ天下一從。則可ニ以

獨り亡秦の爲めに城に嬰りて堅く守る。臣竊かに足下の爲めに之を危ぶむと。陳留の令曰く、秦の法至重なり。(七)以て妄言す可からず。妄言する者は類無し。(八)吾以て應ずべからず。先生臣に敎ふる所以の者は臣の意に非ざるなり。願くは復た道ふこと勿れと。酈生留り宿臥す。夜半の時陳留の令を首を斬り、城を踰えて下り、沛公に報ず。沛公兵を引き、城を攻め、令の首を長竿に縣け、以て城上の人に示して曰く、趣(九)かに下れ。而(一〇)の令の頭已に斷てり。今後れて下る者は必ず先づ之を斬らんと。是に於いて陳留の人令已に死せるを見、遂に相率ゐて沛公に下る。沛公陳留の南城門の上に舍す。其の庫兵(一一)に因り、積粟を食む。留まり出入すること三月。從兵萬を以て數ふ。遂に入りて秦を破る。

(一) 嚮、先　(二) 容貌風采　(三) 天下の人の往來する衢路、四通八達の大路、據はより所、衢は大路　(四) 貯藏したる米　(五) 陳留の長と親交あり　(六) 從ひ來る兵　(七) 城によりて防ぎ守る、一說城をめぐる(繞)と解く、亦通ず　(八) 一族悉く誅せられて一人も無し、類は族　(九) すみやか、促に同じ　(一〇) 汝に同じ　(一一) 倉庫に藏めたる兵器による

公高陽酒徒也。沛公遽雪足杖矛曰。延客入。酈生入揖沛公曰。足下甚苦。暴衣露冠。將兵助楚討不義。足下何不自喜也。臣願以事見。而曰。吾方以天下爲事。未暇見儒人也。夫足下欲興天下之大事。而成天下之大功。而以目皮相。恐失天下之能士。且吾度足下之智。不如吾。勇又不如吾。若欲就天下而不相見。竊爲足下失之。

沛公謝曰。鄉者聞先生之容。今見先生之意矣。迺延而坐之。問所以取天下者。酈生曰。夫足下欲成大功。不如止陳留。陳留者。天下之據衝也。兵之會地也。積粟數千萬石。城守甚堅。臣素善其令。願

沛公謝して曰く、鄉（一）には先生の容（二）を聞き、今先生の意を見ると。迺ち延きて之を坐せしめ、天下を取る所以の者を問ふ。酈生曰く、夫れ足下大功を成さんと欲せば、陳留に止まるに如かず。陳留は天下の據衝（三）なり、兵の會地（四）なり。積粟數千萬石、城守甚だ堅し。臣素と其の令（五）と善し。願くは足下の爲めに之に說かん。臣に聽かずんば、臣請ふ、足下の爲めに之を殺して陳留を下さん。足下陳留の衆を將ゐ、陳留の城に據りて、其の積粟を食ひ、天下の從兵（六）を招け。從兵已に成らば、足下天下に橫行するも、能く足下を害する者ある莫しと。沛公曰く、敬みて命を聞かんと。是に於て酈生迺ち夜陳留の令を見て、之に說きて曰く、夫れ秦無道をなして天下之に畔く。今足下天下と從はば、則ち以て大功を成す可し。今

我謝之言。我方以天下爲事。未暇見儒人也。使者出謝曰。沛公敬謝先生。方以天下爲事。未暇見儒人也。酈生瞋目案劍。叱使者曰。走復入言沛公。吾高陽酒徒也。非儒人也。使者懼而失謁。跪拾謁還走。復入報曰。客天下壯士也。叱臣。臣恐至失謁。曰。走復入言。而

士なり。臣を叱す。臣恐れて謁を失ふに至る。曰く、走復び入りて言へ、而公(一〇)は高陽の酒徒なりと。沛公遽に足を雪ひ(一一)、矛を杖つきて曰く、客を延きて入れよと。酈生入りて沛公に揖して(一二)曰く、足下甚だ苦しみ、衣を暴し(一三)、冠を露はし、兵を將ゐ楚を助けて不義を討つ。足下何ぞ自ら喜ばざるや。臣事を以て見んことを願ふ。而るに曰く、吾方に天下を以て事となす、未だ儒人を見るに暇あらずと。夫れ足下天下の大事を興して天下の大功を成さんと欲す。而して目皮を以て(一四)相す。恐らくは天下の能士を失はん。且つ吾度るに、足下の智吾に如かず、勇又吾に如かず。若して天下を就さんと欲して相見ずんば、竊かに足下の爲に之を失はんと。

(一) 至る (二) 謁は名刺なり、謁を上るは貴人に面會するなり (三) 風雨にさらさる (四) 沛公暴露し不義を討つの勞を酒徒の人々まで慰勞す (五) 儒者の服 (六) 冠の名、一に高山冠といふ (七) 召使、小使、僕、取次の使者を賤しめ罵りていへるなり (八) 酒飲み仲間の一人 (九) 酈生の差出したる名札を取り落したるなり (一〇) 我、而(なんぢ)のきみの義、乃公といふに同じ (一一) 雪は拭ふなり (一二) 手をこまねきて敬禮するなり (一三) 前の暴露に同じ、風雨にさらさるゝ意 (一四) 容貌外觀を見て人をはかる

侯。以諸呂敗。文帝問其客平原君爲計策。使吏捕欲治。聞吏至門。平原君欲自殺。諸子及吏皆曰。事未可知。何早自殺爲。平原君曰。我死禍絕。不及而身矣。遂自剄。孝文帝聞而惜之曰。吾無意殺之。迺召其子。拜爲中大夫。使匈奴。單于無禮。迺罵單于。遂死匈奴中。

初沛公引兵過陳留。酈生踵軍門。上謁曰。高陽賤民酈食其。竊聞沛公暴露將兵。助楚討不義。敬勞從者。願得望見口畫天下便事。使者入通。沛公方洗。問使者曰。何如人也。使者對曰。狀貌類大儒。衣儒衣。冠側注。沛公曰。爲

初め沛公兵を引きて陳留を過ぐ、酈生軍門に踵り(一)、謁を上りて(二)曰く、高陽の賤民酈食其、竊かに聞く、沛公暴露し(三)、兵を將ゐ、楚を助けて不義を討つと。敬みて(四)從者を勞ふ。願はくは望見し、口づから天下の便事を畫することを得んと。使者入りて通ず。沛公方に洗す。使者に問ひて曰く、何如なる人かと。使者對へて曰く、狀貌大儒に類す。儒衣を衣(五)、側注を冠すと(六)。沛公曰く、我が爲めに之に謝して言へ、我方に天下を以て事となす。未だ儒人を見るに暇あらざるなりと。使者出でて謝して曰く、沛公敬みて先生に謝す。方に天下を以て事とす。未だ儒人を見るに暇あらざるなりと。酈生目を瞋らし、劍を案し、使者を叱して曰く、走(七)復び入りて沛公に言へ、吾は高陽の酒徒なり(八)、儒人に非ざるなりと。使者懼れて謁を失ひ(九)、跪きて謁を拾ひ、還り走り、復た入りて報じて曰く、客は天下の壯

於是閎籍孺大恐。從其計言帝。果出辟陽侯。辟陽侯之囚。欲見平原君。平原君不見辟陽侯。辟陽侯以爲倍己大怒。及其成功出之。迺大驚。呂太后崩。大臣誅諸呂。辟陽侯於諸呂至深。而卒不誅。計畫所以全者。皆陸生平原君之力也。孝文帝時。淮南厲王殺辟陽

是に於て閎籍孺大いに恐れ、其の計に從ひて帝に言ふ。果して辟陽侯を出す。辟陽侯の囚はるゝや、平原君を見んと欲す。平原君辟陽侯を見ず。辟陽侯以て己に倍くとなして大いに怒る。其の功を成し之を出すに及び、迺ち大いに驚く。呂太后崩ず。大臣諸呂を誅す。(一)辟陽侯諸呂に於て至りて深し。而るに卒に誅せられず。計畫の全き所以の者は皆陸生平原君の力なり。孝文帝の時淮南の厲王辟陽侯を殺す。諸呂の故を以てなり。文帝其の客平原君計策を爲すと聞き、吏をして捕へしめて治せん(二)と欲す。吏門に至ると聞き、平原君自殺せんと欲す。諸子及び吏皆曰く、事未だ知る可からず。何ぞ早く自殺することを爲さんと。平原君曰く、我死せば禍絶えて而が身に反ばざらんと。遂に自剄す。孝文帝聞きて之を惜しみて曰く、吾之を殺すに意なかりきと。迺ち其の子を召し、拜して中大夫となす。匈奴に使し、單于無禮なり。迺ち單于を罵り、遂に匈奴の中に死す。

(一) 辟陽侯諸々呂氏一族の人々と相知り情義至りて深く呂氏と共に誅を受くべきなり (二) 取調べ糺す

原君發喪。陸生往見辟陽侯。賀曰。平原君母死。辟陽侯曰。平原君母死。何乃賀我乎。陸賈曰。前日君侯欲知平原君。平原君義不知君。以其母故。今其母死。君誠厚送喪。則彼爲君死矣。辟陽侯乃奉百金往税。列侯貴人以辟陽侯故往税。凡五百金。辟陽侯幸呂太后。人或毀辟陽侯於孝惠帝。孝惠帝大怒。下吏欲誅之。呂太后慙。不可以言。大臣多害辟陽侯行。欲遂誅之。辟陽侯急。因使人欲見平原君。平原君辭曰。獄急。不敢見君。迺求見孝惠幸臣閎籍孺。説之曰。君所以得幸帝。天下莫不聞。今辟陽侯幸太后而下吏。道路皆言。君讒欲殺之。今日辟陽侯誅。且日太后含怒亦誅君。何不肉袒爲辟陽侯言於帝。帝聽君出辟陽侯。太后大驩。兩主共幸君。君貴富益倍矣。

んと欲すと。今日辟陽侯誅せられば、旦日(一三)太后怒を含みて亦君を誅せん。何ぞ肉(一四)袒して辟陽侯の爲めに帝に言はざる。帝君に聽き辟陽侯を出さば、太后大いに驩(一五)び、兩主共に君を幸せん。君の富貴益々倍せんと。

(一) 罪 (二) 峻嚴廉潔にして嚴格正直 (三) 行を苟もして人の心を迎へ合はすることをせず (四) 義を守るために は必しも他人に容れらるゝことをせず (五) 擯斥せらる (六) 葬らんとする時は殯宮を啓發すべし故に喪を發すと いふ (七) 葬式の服裝又は器具などを人に借る (八) 平原君其の母生存して自重して敢て人と知己たらず (九) 衣服を税といふ、漢書には襚に作る。税は襚に同じ 死人の衣なり (一〇) 僥幸 (一一) 太后嫉ぢて辟陽侯の罪を宥さんことを言ふ能はず (一二) 閎籍孺辟陽侯を讒して誅せんとすと皆言ふ (一三) 明日、翌日 (一四) 謝罪を表はす作法なり、はだぬぎて肉を露はし以て笞を受くるの意 (一五) 歡に同じ

原君謀不㆖與㆑謀。得㆑不㆑誅。語在㆓黥布語中㆒。平原君爲㆑人辯有㆑口。刻廉剛直。家㆓於長安㆒。行不㆓苟合㆒。義不㆑取㆑容。辟陽侯行不㆑正。得㆑幸㆓呂太后㆒。時辟陽侯欲㆑知㆓平原君㆒。平原君不㆑肯㆑見。及㆓平原君母死㆒。陸生素與㆓平原君㆒善。過㆑之。平原君家貧。未㆑有㆓以發㆖喪。方假㆓貸服具㆒。陸生令㆓平

平原君家貧しく未だ以て喪(六)を發するあらず。方に服具(七)を假貸す。陸生平原君をして喪を發せしむ。陸生往きて辟陽侯を見、賀して曰く、平原君の母死すと。辟陽侯曰く、平原君の母死す。何ぞ乃ち我を賀するかと。陸賈曰く、前日君侯平原君を知らんと欲す。平原君義(八)君を知らず。其の母の故を以てなり。今其母死す。君誠に厚く喪を送らば則ち彼君が爲めに死せんと。辟陽侯乃ち百金を奉じ往きて稅(九)す。列侯貴人辟陽侯の故を以て往きて稅すること凡そ五百金。辟陽侯呂太后に幸(一〇)せらる。人或は辟陽侯を孝惠帝に毀る。孝惠帝大に怒り、吏に下して之を誅せんと欲す。呂太后慙ぢて(一一)以て言ふ可からず。大臣多く辟陽侯の行を害し、遂に之を誅せんと欲す。辟陽侯急なり。因りて人をして平原君を見んことを欲す。平原君辭して曰く、獄急なり。敢て君を見ざらんと。迺ち孝惠の幸臣閎籍孺に見んことを求め、之に說きて曰く、君の帝に幸せらるゝ事を得る所以は天下聞かざる莫し。今辟陽侯太后に幸せられ、而して吏に下さる。道路皆言ふ、君讒(一二)して之を殺さ

下安。注ニ意相一。天下危。注ニ意將一。將相和調。則士務附。士務附。天下雖レ有レ變。卽權不レ分。爲ニ社稷一計。在ニ兩君掌握一耳。臣常欲レ謂ニ太尉絳侯一。絳侯與レ我戲。易ニ吾言一。君何不下交ニ驩太尉一深相結上。爲ニ陳平一畫ニ呂氏數事一。陳平用ニ其計一。迺以ニ五百金一爲ニ絳侯壽一。厚具樂飮。太尉亦報如レ之。此兩人深相結。則呂氏謀益衰。陳平迺以ニ奴婢百人。車馬五十乘。錢五百萬一。遺ニ陸生一爲ニ飮食費一。陸生以レ此。游ニ漢廷公卿間一。名聲籍甚。及下誅ニ諸呂一立中孝文帝上。陸生頗有レ力焉。孝文帝卽レ位。欲レ使三人之ニ南越一。陳丞相等。乃言ニ陸生一爲ニ太中大夫一。往使ニ尉他一。令三尉他去ニ黃屋稱一レ制。令下比ニ諸侯一。皆如中意旨上。語在ニ南越語中一。陸生竟以レ壽終。

平原君朱建者。楚人也。故嘗爲ニ淮南王黥布相一。有レ辠去。後復事ニ黥布一。布欲レ反時。問ニ平原君一。平原君止レ之。布不レ聽。而聽ニ梁父侯一遂反。漢已誅レ布。聞ニ平

平原君朱建は楚の人なり。故嘗て淮南王黥布の相となり、辠(一)ありて去る。後復た黥布に事ふ。布反せんと欲する時、平原君に問ふ。平原君之を止む。布聽かずして梁父侯に聽き、遂に反す。漢已に布を誅す。平原君諫めて謀に與らざりしを聞き、誅せられざるを得。語黥布の語中に在り。平原君人となり辯にして口あり。刻廉(二)剛直、長安に家す。(三)行ひ苟くも合はず。(四)義容れらるゝを取らず。辟陽侯行正しからず。呂太后に幸(五)せらるゝを得。時に辟陽侯平原君を知らんと欲す。平原君見ることを肯ぜず。平原君の母死するに及び、陸生も素と平原君と善し。之に過ぎる。

丞相陳平患レ之。力不レ能レ爭。恐ニ禍及ヒ己。常燕居深念。陸生往請。直入坐。而陳丞相方深念。不ニ時見ニ陸生。陸生曰。何念之深也。陳平曰。生揣ニ我何念。陸生曰。足下位爲ニ上相。食ニ三萬戸侯。可レ謂下極ニ富貴一無も欲矣。然有ニ憂念一。不レ過レ患ニ諸呂少主一耳。陳平曰。然。爲レ之奈何。陸生曰。天

ること之の如くし、此の兩人深く相結び、則ち呂氏の謀益〻衰ふ。陳平迺ち奴婢百人・車馬五十乘・錢五百萬を以て、陸生に遺りて飲食の費となす。陸生此を以て漢廷公卿の間に游び、名聲籍甚なり。(一五) 諸呂を誅し、孝文帝を立つるに及び、陸生頗る力あり。孝文帝位に卽き、人をして南越に之かしめんと欲す。陳丞相等乃ち陸生を言ひて太中大夫となし、往きて尉他に使し、尉他をして黄屋(一六)制(一七)を稱するを去らしめ、諸侯に比して皆意旨の如くならしむ。語南越の語中に在り、陸生竟に壽を以て終る。

(一) 諸の呂氏の一族の人々 (二) 大臣にして之を諫爭せんとする者あらんことを憚り畏る (三) 縣名、雍州にあり (四) 安樂に坐乘する樣にしたる小車、普通馬一頭牽なれども買特に馬四頭に牽かしめたるなり (五) 再三度の來訪に過ぎず (六) 屢々來りて見て頻繁にしては、却て面白からず (七) 公は陸賈自ら諸子に向つていふ、恩は恩なり、餘り長居して我を患へ厭はんが如き事なからしめんとなり (八) 息み居て閑暇無事なること (九) 起居を聞ふ (一〇) 推測す (一一) 務一に豫に作る、かねて (一二) 相陳平と太尉絳侯周勃と (一三) 侮る (一四) 歡と通ず (一五) 名聲甚しく弘まる、名聲高く盛なり (一六) 黄屋は天子の輿乘の上にある蓋 (一七) 制は制詔なり、天子の命令をいふ。制を稱するは天子となるをいふ。

生產㆒。陸生常
安車駟馬。從㆘
歌舞鼓㆓琴瑟㆒
侍者十人㆖。寶
劍直百金。謂㆓
其子㆒曰。與㆑汝
約。過㆑汝。汝給㆓
吾人馬酒食㆒。
極㆑欲十日而
更。所㆑死家得㆓
寶劍車騎侍
從者㆒。一歲中
往來過㆑他。客
率不㆑過㆓再三
過㆒。數見不㆑鮮。
無㆓久恩㆒㆑公。爲
也。呂太后時
王㆓諸呂㆒。諸呂
擅㆑權。欲㆘劫㆓少
主㆒危㆗劉氏㆖。右

と。呂太后の時諸呂を王とす。諸呂權を擅にし、少主を劫し劉氏を危くせんと欲す。右丞相陳平之を患ふれども、力爭ふ能はず。禍の己に及ばんことを恐れ、常に燕居(八)して深く念ふ。陸生往きて請ふ(九)。直ちに入りて坐す。而して陳丞相方に深く念ひ、時に陸生を見ず。陸生曰く、何ぞ念ふの深きやと。陳平曰く、生我何を念ふと揣る(一〇)かと。陸生曰く、足下位上相となり、三萬戸の侯に食む。富貴を極めて欲なしと謂ふ可し。然るに憂念あり。諸呂少主を患ふるに過ぎざるのみと。陳平曰く、然り。之をなすこと奈何。陸生曰く、天下安ければ、意を相に注ぎ、天下危ければ意を將に注ぐ。將相和調すれば、則ち士務めて(一一)附く。士務めて附かば、天下變ありと雖も、即ち權分れず。社稷の爲めに計るに兩君(一二)の掌握に在るのみ。臣常に太尉絳侯に謂はんと欲す。絳侯我と戲れ、吾が言を易る(一三)。君何ぞ驩(一四)を太尉に交へて深く相結ばざると。陳平の爲めに呂氏の數事を畫す。陳平其の計を用ひ、迺ち五百金を以て絳侯の壽をなし厚く具へて樂飲す。太尉も亦報ず

馬上一得レ之。寧可下以二馬上一治上之乎。且湯武逆取而以レ順守レ之。文武並用。長久之術也。昔者呉王夫差。智伯。極レ武而亡。秦任二刑法一不レ變。卒滅二趙氏一。鄉使下秦已幷二天下一。行二仁義一。法中先聖上。陛下安得而有レ之。高帝不レ懌而有二慙色一。迺謂二陸生一曰。試爲レ我著下秦所三以失二天下一。吾所二以得中之者何。及古成敗之國上。陸生迺麤二述存亡之徵一。凡著二十二篇一。毎レ奏二一篇一。高帝未二嘗不上稱レ善。左右呼二萬歲一。號二其書一曰二新語一。

孝惠時。呂太后用レ事。欲レ王二諸呂一。畏二大臣有レ口者一。陸生自度レ不レ能レ爭レ之。迺病免家居。以二好畤田地善一可二以家一焉。有二五男一。迺出下所二使レ越得一橐中裝上。賣二千金一分二其子一。子二百金。令レ爲二

孝惠帝の時呂太后事を用ひ、諸(一)呂を王とせんと欲し、大臣(二)の口ある者を畏る。陸生自ら之を爭ふ能はずと度り、迺ち病み免じて家居し、好畤(三)の田地の善きを以て以て家す可しと。五男あり、迺ち越に使して得し所の橐中の裝を出し、千金に賣りて其の子に分つ。子ごとに二百金。生産をなさしむ。陸生常に安車(四)駟馬、歌舞し、琴瑟を鼓する侍者十人を從ふ。寶劍直百金。其の子に謂ひて曰く、汝と約す。汝に過ぎらん、汝吾に人馬酒食を給せよ。欲を極むること十日にして更へん。死する所の家、寶劍車騎侍從者を得ん。一歳の中往來他に過ぎり、客たること率(五)ね再三過に過ぎず。數(六)〻見るに鮮ならず、久しく公(七)に慁するを爲すなきなり

郡㆒。王何乃比㆓於漢㆒。尉他大笑曰。吾不㆑起㆓中國㆒。故王㆑此。使㆔我居㆓中國㆒。何渠不㆑若㆑漢。迺大說㆓陸生㆒。留與飲數月。曰。越中無㆑足㆓與語㆒。至㆓生來㆒。令㆓我日聞㆑所㆑不㆑聞。賜㆓陸生橐中裝直千金㆒。他送亦千金。陸生卒拜㆓尉他㆒爲㆓越王㆒。令㆔稱㆑臣奉㆓漢約㆒。歸報。高祖大悅。拜㆑賈爲㆓太中大夫㆒。陸生時時前說稱㆓詩書㆒。高帝罵㆑之曰。迺公居㆓馬上㆒而得㆑之。安事㆓詩書㆒。陸生曰。居㆓

卒に趙氏を滅せり。鄕に秦をして已に天下を幷せ、仁義を行ひ、先聖に法らしめば、陛下安んぞ得て之を有たんと。高帝懌ばずして慙づる色あり。迺ち陸生に謂ひて曰く、試に我が爲めに、秦の天下を失ひし所以と、吾の之を得し所以の者は何、及び古へ成敗の國を著はせと。陸生迺ち存亡の徵を麤述し（一八）、凡そ十二篇を著す。一篇を奏する每に、高帝未だ嘗て善と稱せざるはあらず。左右萬歲と呼ぶ。其の書を稱して新語といふ。

（一）蹶きてはね上りて座を立つなり、坐は座に同じ　（二）高祖　（三）兇暴なる秦　（四）强雄なる楚、項羽をいふ　（五）既治　（六）天下の中最も地味肥沃物資富なる處　（七）畢は輿に同じ　（八）天地開闢、剖も判もわかるゝなり　（九）山路の險阻なるさまより轉じて、平かならず危きさまにいふ　（一〇）漢書に何遽とす、一說、何渠の二字なんぞと訓み下漢にしかざらんと訓む亦通ず　（一一）悅　（一二）橐はふくろ底あるを囊といふひ、底なきを橐といふ　（一三）裝は裝裹なり、寶物を裝ひ包みたるもの價千金の品　（一四）其他の贈り物、橐中の物にあらず、故に他送といふ　（一五）乃公、汝の公、おれ　（一六）正道によらず、君を弑するの逆によりて天下を取る　（一七）仁義道德の正道を以て天下を守る　（一八）大略を述ぶ、麤は粗に同じ

似賢。復曰。我孰與皇帝賢。陸生曰。皇帝起豐沛。討暴秦。誅彊楚。爲天下興利除害。繼五帝三皇之業。統理中國。中國之人以億計。地方萬里。居天下之膏腴。人衆車轝。萬物殷富。政由一家。自天地剖判。未始有也。今王衆不過數十萬。皆蠻夷崎嶇山海間。譬若漢一

里、天下の膏腴(六)に居り、人衆車轝(七)、萬物殷富。政一家に由る。天地剖判(八)より、未だ始より有らざるなり。今王の衆數十萬に過ぎず。皆蠻夷にして山海の間に崎嶇(九)す。譬へば漢の一郡の若し。王何ぞ乃ち漢に比するやと。尉他大に笑ひて曰く、吾中國に起らず。故に此に王たり。我をして中國に居らしめば、何ぞ遽(一〇)に漢の若くならざらんと。迺ち大いに陸生を說ぶ(一一)。留めて與に飮むこと數月。曰く、越中與に語るに足るもの無し。生來るに至り、我をして日〻聞かざる所を聞かしむと。陸生に橐中(一二)の裝直(一三)千金を賜ふ。他の送も亦千金。陸生卒に尉他を拜して越王となし、臣と稱して漢の約を奉ぜしむ(一四)。歸り報ず。高祖大いに悅び、賈を拜して太中大夫となす。陸生時時前み說きて詩書を稱す。高帝之を罵りて曰く、迺公(一五)馬上に居て之を得たり。安んぞ詩書を事とせんや。陸生曰く、馬上に之を得るも、寧ぞ馬上を以て之を治む可けんや。且つ湯武逆取(一六)して、順(一七)を以て之を守る。文武並び用ふるは長久の術なり。昔し吳王夫差智伯武を極めて亡ぶ。秦刑法に任じて變ぜず、

倍レ約。自立爲二西楚霸王一。諸侯皆屬。可レ謂二至彊一。然漢王起二巴蜀一。鞭二笞天下一。劫二略諸侯一。遂誅二項羽一滅レ之。五年之間。海内平定。此非二人力一。天之所レ建也。天子聞丁君王王二南越一。不丙助二天下一誅乙暴逆甲。將相欲二移レ兵而誅一レ王。天子憐二百姓新勞苦一。故且休レ之。遣レ臣授二君王印一。剖レ符通レ使。君王宜二郊迎北面稱一レ臣。廼欲下以二新造未レ集之越一屈中彊於此上。漢誠聞レ之。掘二燒王先人冢一。夷二滅宗族一。使下一偏將將二十萬衆一臨上レ越。則越殺レ王降レ漢。如レ反二覆手一耳。

夷狄の人被髪左衽せるに趙他其風俗に同じくせるをいふなり　(四) 兄弟　(五) 趙の地なり　(六) 小さきさまにいふ　(七) 相對抗す、抗は對なり、衡は車の轅上に横木にて兩衡相對して相避下せざるをいふ　(八) 至つて强きこと　(九) むちうつ　(一〇) おびやかし奪ふ　(一一) 罪あるものを討つ　(一二) 割り符を持たせて　(一三) 郊外に出でて迎ふること　(一四) 剛直なるさま　(一五) 地中より掘り出し燒き捨つ　(一六) 三族を殺滅す　(一七) 副將、裨將、偏は戰車二十五乘をいふ　(一八) かへす、ひるがへす、手を反覆するは事の容易なるに喩ふ

於レ是尉他廼蹶然起レ坐。謝二陸生一曰。居二蠻夷中一久。殊失二禮義一。因問二陸生一曰。我孰二與蕭何曹參韓信賢一。陸生曰。

是に於て尉他廼ち蹶然として坐を起ち、陸生に謝して曰く、蠻夷中に居ること久し。殊に禮義を失はんと。因りて陸生に問ひて曰く、我れ蕭何・曹參・韓信の賢と孰與ぞと。陸生曰く、王賢なるに似たり。復た曰く、我れ皇帝の賢と孰與ぞと。陸生曰く、皇帝豐沛より起り、暴秦を討ち、彊楚を誅し、天下の爲めに利を興し、害を除き、五帝三皇の業を繼ぎ、中國を統理す。中國の人億を以て計へ、地方萬

因王レ之。高祖使ニ陸賈賜ニ尉他印一。爲ニ南越王一。陸生至。尉他魋結箕倨見ニ陸生一。陸生因進說レ他曰。足下中國人。親戚昆弟墳墓在ニ眞定一。今足下反ニ天性一弃ニ冠帶一。欲下以ニ區區之越一。與ニ天子一抗衡爲中敵國上。禍且レ及レ身矣。且夫秦失ニ其政一。諸侯豪傑並起。唯漢王先入レ關據ニ咸陽一。項羽

區區(六)の越を以て天子と抗衡(七)し、敵國とならんと欲す。禍且に身に及ばんとす。且つ夫れ秦其の政を失ひ、諸侯豪傑並び起る。唯〻漢王先づ關に入り、咸陽に據る。項羽約に倍き、自立して西楚の霸王となり、諸侯皆屬す。至彊(八)と謂ふべし。然るに漢王巴蜀より起り、天下を鞭笞(九)し、諸侯を劫略(一〇)し、遂に項羽を誅(一一)して之を滅す。五年の間海內平定す。此れ人力に非ず、天の建つる所なり。天子君王の南越に王とし、天下を助けて暴逆を誅せざるを聞き、將相兵を移して王を誅せんと欲す。天子、百姓の新に勞苦するを憐む。故に且らく之を休め、臣を遣はして君王に印を授けしめ、符(一二)を剖きて使を通ず。君王宜しく郊迎(一三)し、北面して臣と稱すべし。迺ち新造未だ集らざるの越を以て此に屈彊(一四)せんと欲す。漢誠に之を聞かば王の先人の冢を掘燒(一五)し、宗族を夷滅(一六)し、一偏將(一七)をして十萬の衆を將ゐて越に臨ましめば、則ち越王を殺して漢に降らんこと手を反覆(一八)するが如きのみと。

(一) 能辯の士と稱せらる　(二) 尉他南越の尉たり故に尉他といふ　(三) 髻を一撮となして椎(つち)形に結へるもの、

縱㆑酒。淮陰侯聞㆔酈生伏㆑軾下㆓齊七十餘城㆒。迺夜度㆓兵平原㆒襲㆑齊。齊王田廣聞㆓漢兵至㆒。以爲㆓酈生賣㆒㆑己。迺曰。汝能止㆓漢軍㆒我活㆑汝。不㆑然我將㆑亨㆑汝。酈生曰。擧㆓大事㆒不㆑細㆓謹㆒。盛德不㆓辭讓㆒。而公不㆓爲㆑若更㆒㆑言。齊王遂亨㆓酈生㆒。引㆑兵東走。漢十二年。曲周侯酈商以㆓丞相㆒將㆑兵擊㆓黥布㆒有㆑功。高祖擧㆓列侯功臣㆒。思㆓酈食其㆒。酈食其子酈疥數將㆑兵。功未㆑當㆑侯。上以㆓其父故㆒。封㆑疥爲㆓高梁侯㆒。後更食㆓武遂㆒。嗣三世。元狩元年中。武遂侯平坐㆘詐㆓詔衡山王㆒取㆗百斤金㆖。當㆓棄市㆒。病死國除也。

㊀ ひきとる、手に取る　㊁ 古代の君主、兵亂を好み、黄帝と戰ひし人、こゝには漢王兵強くして古の蚩尤の軍の如し　㊂ 漢王に降服するに猶豫し後るゝ者は深く漢王に亡されん　㊃ 軾は車前の横木、車に乘る者の倚るもの、軾に伏するは車に乘るをいふ、こゝには酈生車に乘り安坐して遊說を以て齊の七十餘城を降すと聞きしなり　㊄ 大事業を成すには細事を謹まず、盛德ある者は細小なる謙遜禮儀をなさず　㊅ 乃公に同じ、而は汝なり、汝の公といふが如く、自ら倨傲の言をなせしなり　㊆ 市に引き出して首を斬る刑

陸賈者。楚人也。以㆑客從㆓高祖㆒定㆓天下㆒。名爲㆘有㆓口辯㆒士㆖。居㆓左右㆒。常使㆓諸侯㆒。及㆓高祖時㆒。中國初定。尉他平㆓南越㆒。

陸賈は楚人なり。客を以て高祖に從ひ、天下を定む。名けて口辯ある士となす。(一)左右に居て常に諸侯に使す。高祖の時に及びて中國初めて定まる。(二)尉他南越を平げ、因りて之に王たり。高祖陸賈をして尉他に印を賜はしめて南越王となす。陸生至る。尉他(三)魋結箕倨して陸生を見る。陸生因りて進みて他に說きて曰く、足下は中國の人なり。(四)親戚昆弟の墳墓(五)眞定にあり。今足下天性に反し、冠帶を弃て、

三十二城。此蚩尤之兵也。非二人之力一也。天之福也。今已據二敖倉之粟一。塞二成皐之險一。守二白馬之津一。杜二大行之阪一。距二蜚狐之口一。天下後服者先亡矣。王先疾下二漢王一。齊國社稷可二得而保一也。不レ下二漢王一。危亡可二立而待一也。田廣以爲レ然。迺聽二酈生一。罷二歷下兵守戰備一。與二酈生一日

疾かに先づ王に下らば齊國の社稷得て保つべきなり。漢王に下らずんば危亡立ちて待つ可きなりと。田廣以て然りとなし、迺ち酈生に聽き、歷下の兵守戰の備を罷め酈生と日〻酒を縱にす。淮陰侯酈生軾(四)に伏して齊の七十餘城を下すと聞き、迺ち夜兵を平原に度して齊を襲ふ。齊王田廣、漢兵至ると聞き、以て酈生己を賣るとなす。迺ち曰く、汝能く漢軍を止めば我汝を活かさん。然らずんば、我將に汝を亨んとすと。酈生曰く、(五)大事を擧ぐるに細謹せず、盛德には辭讓せず、(六)而公若の爲めに言を更めずと。齊王遂に酈生を亨る。兵を引きて東に走る。漢の十二年曲周侯酈商丞相を以て兵に將として黥布を撃ちて功あり。高祖列侯功臣を擧ぐ。酈食其を思ふ。酈食其の子酈疥數〻兵に將たり。功未だ侯に當らず。上其の父の故を以て、疥を封じて高梁侯となし、後更に武遂を食ましむ。嗣ぐこと三世、元狩元年中武遂侯平、衡山王に詐り詔して百斤の金を取りしに坐して(七)弃市に當す。病みて死し、國除かる。

中。項王遷ニ殺義帝。漢王聞レ之。起ニ蜀漢之兵一擊ニ三秦。出レ關而責ニ義帝之處。收ニ天下之兵。立ニ諸侯之後。降レ城卽以侯ニ其將。得レ賂卽以分ニ其士。與ニ天下一同ニ其利。豪英賢才。皆樂レ爲ニ之用。諸侯之兵。四面而至。蜀漢之粟。方レ船而下。項王有下倍レ約之名。殺ニ義帝一之負上。於ニ人之功一無レ所レ記。於ニ人之罪一無レ所レ忘。戰戰而不レ得ニ其賞。拔レ城而不レ得ニ其封。非ニ項氏一莫レ得レ用レ事。爲レ人刻レ印。刓而不レ能レ授。攻レ城得レ賂。積而不レ能レ賞。天下畔レ之。賢才怨レ之。而莫レ爲ニ之用。故天下之士。歸ニ於漢王。可ニ坐而策一也。

城を攻めて賂を得るも、積みて賞する能はず。天下之に畔き、賢才之を怨みて、之が用をなす莫し。故に天下の士漢王に歸する、坐して策る可きなり。

(一) 計畫、はかりごと　(二) 遷は罪して追放するなり　(三) 襃谷關より東に出づるなり　(四) 義帝に對する項王の處置を責む　(五) 船を竝ぶ、船を並べて粟を積み揚子江流に隨ひて下る　(六) 責め、責任　(七) 人を諸侯に封ぜんとして、其の印を刻して印刻成りて之を人に與へんとするに及んで惜しみて與ふる能はず、刓は玩弄して印の角がすりへりくづれ弊るゝなり。漢書には玩となせり、玩惜して授くる能はざるなり

夫漢王發ニ蜀漢。定ニ三秦。涉ニ西河之外。援ニ上黨之兵。下ニ井陘一誅ニ成安君。破ニ北魏一擧ニ

夫れ漢王蜀漢を發し三秦を定め、西河の外を涉り、上黨の兵を援き、井陘を下り、成安君を誅し、北魏を破り、三十二城を擧ぐ。此れ蚩尤の兵なり。人の力に非ざるなり。天の福なり。今已に敖倉の粟に據り、成皐の險を塞ぎ、白馬の津を守り、大行の阪を杜ぎ、蜚狐の口を距ぐ。天下後に服する者先づ亡からん。王

曰。王知二天下之所一レ歸乎。王曰。不レ知也。曰。王知二天下之所一レ歸。則齊國可二得而有一也。若不レ知二天下之所一レ歸則齊國未レ可レ得レ保也。齊王曰。天下何所歸。曰。歸レ漢。曰。先生何以言レ之。曰。漢王與二項王一戮レ力。西面撃レ秦。約先入二咸陽一者王レ之。漢王先入二咸陽一。項王負レ約不レ與。而王二之漢

歸する所を知らば、則ち齊國得て有る可きなり。若し天下の歸する所を知らずんば、則ち齊國未だ保つことを得可からざるなりと。齊王曰く、天下何の所にか歸せんと。曰く、漢に歸せんと。曰く、先生何を以て之を言ふかと。曰く、漢王項王と力を戮せて西面し秦を撃つ。約して先づ咸陽に入る者之に王たらんかと、漢王先に咸陽に入る。項王約に背きて與へず。而して之を漢中に王とす。項王義帝を遷し殺す。漢王之を聞きて、蜀漢の兵を起し、三秦を撃ち、關を出でて義帝の處を責め天下の兵を収め、諸侯の後を立つ。城を降せば卽ち以て其の將を侯とし、賂を得れば卽ち以て其の士に分ち、天下と其の利を同じくす。豪英賢才皆之が用をなすことを樂しむ。諸侯の兵四面よりして至り、蜀漢の粟船を方べて下る。項王約に倍くの名と義帝を殺すの負とあり。人の功に於て記する所なく、人の罪に於て忘るゝ所なし。戰勝てども其の賞を得ず。城を拔けども其封を得ず。項氏に非ずんば事を用ふるを得ること莫し。人の爲めに印を刻するも、刓して授くる能はず、

滎陽一。不三堅守二敖倉一。迺引而東。令三適卒分二守成皐一。此乃天所二以資レ漢也。方今楚易レ取。而漢反却自奪二其便一。臣竊以爲レ過矣。且兩雄不二俱立一。楚漢久相持不レ決。百姓騷動。海內搖蕩。農夫釋レ耒。工女下レ機。天下之心。未レ有レ所レ定也。願足下急復進レ兵。收二取滎陽一。據二敖倉之粟一。塞二成皐之險一。杜二大行之道一。距二蜚狐之口一。守二白馬之津一。以示二諸侯效實形制之勢一。則天下知レ所レ歸矣。方今燕趙已定。唯齊未レ下。今田廣據二千里之齊一。田間將二二十萬之衆一。軍二於歷城一。諸田宗彊。負レ海阻二河濟一。南近レ楚。人多二變詐一。足下雖レ遣二數十萬師一。未レ可下以二歲月一破上也。臣請得レ奉二明詔一說二齊王一。使三爲レ漢而稱二東藩一。上曰。善。

を負ひ、河濟を阻つ。南は楚に近く、人變詐多し。(九)足下數十萬の師を遣はすと雖も未だ歲月を以て破る可からざるなり。臣請ふ、明詔を奉ずるを得て齊王に說き漢の爲めにして東藩と稱せしめん(一〇)と。上曰く、善しと。

(一) この語管子に出づ　(二) 敖倉の倉庫は天下の粟を轉々運輸し來り收むること日久し　(三) 藏めたる粟　(四) 謫戍、罪によりて遠地に衞兵として遣はされたる兵　(五) 人民擾亂し天下動搖す　(六) 農夫は鋤鍬をすてゝ田を耕さず、工女は機より下りて布帛を織らず　(七) 實地に現はれて見ゆる土地の形勢以て敵を制すべきを天下に示す、効は驗なり　(八) 田氏の一族　(九) 權變の詐僞　(一〇) 東方の藩と稱して臣下の列に入る

迺從二其畫一。復守二敖倉一。而使三酈生說二齊王一

迺ち其の畫(一)に從ひて、復た敖倉を守る。而して酈生をして齊王に說かしむ。曰く、王天下の歸する所を知るかと。王曰く、知らざるなりと。曰く、王天下の

彭越數反二梁地一。則分レ兵救レ之。淮陰方東擊レ齊。漢王數困二滎陽成皐一。計欲下捐二成皐以東一。屯中鞏洛上以拒上楚。酈生因曰。臣聞知二天之天一者。王事可レ成。不レ知二天之天一者。王事不レ可レ成。王者以二民人一爲二天。而民人以レ食爲レ天。夫敖倉天下轉輸久矣。臣聞其下迺有二藏粟一甚多。楚人拔二

て楚を拒がんと欲す。酈生因りて曰く、臣聞く、(一)天の天を知る者は王事成す可く、天の天を知らざる者は王事成す可からず。王者は(二)民人を以て天となし、而して民人は食を以て天となす。夫れ敖倉、天下轉輸すること久し。臣聞く其の下迺ち(三)藏粟あること甚だ多しと。楚人滎陽を拔きて、堅く敖倉を守らず。迺ち引きて東す。(四)適卒をして成皐を分守せしめば、此れ乃ち天の漢を資くる所以なり。方今楚取り易し。而るに漢反つて卻けて自ら其の便を奪ふ。臣竊かに以て過てりとなす。且つ兩雄俱に立たず。楚漢久しく相持して決せず、百姓騷動し、海內搖蕩し、(五)(六)農夫は耒を釋て、工女は機を下る。天下の心未だ定まる所あらざるなり。願くは足下急に復た兵を進め、滎陽を收め取り、敖倉の粟に據り、成皐の險を塞ぎ、大行の道を杜ぎ、蜚狐の口を距ぐ、白馬の津を守り、以て諸侯に(七)效實形制の勢を示さば、則ち天下歸する所を知らん。方今燕趙已に定まれり。唯〻齊のみ未だ下らず。今田廣千里の齊に據り、田閒二十萬の衆に將として歷城に軍す。(八)諸田宗彊く、海

衣。延ニ酈生上坐一謝ㇾ之。酈生因言ニ六國從横時一。沛公喜賜ニ酈生食一。問曰。計將安出。酈生曰。足下起ニ糾合之衆一。收ニ散亂之兵一。不ㇾ滿ニ萬人一。欲三以徑入ニ强秦一。此所ㇾ謂探ニ虎口一者也。夫陳留天下之衝。四通五達之郊也。今其城又多ニ積粟一。臣善ニ其令一。請得ㇾ使ㇾ之。令ㇾ下ニ足下一。即不ㇾ聽足下舉ㇾ兵攻ㇾ之。臣爲ニ內應一。於ㇾ是遣ニ酈生行一。沛公引ㇾ兵隨ㇾ之。遂下ニ陳留一。號ニ酈食其一爲ニ廣野君一。酈生言ニ其弟酈商一。使下將ニ數千人一從ニ沛公一西南略上ㇾ地。酈生常爲ニ說客一。馳ニ使諸侯一。

商を言ひ、數千人を將ゐて沛公に從ひて、西南地を略せしむ。酈生常に說客(八)となり、諸侯に馳使す。

(一)旅館　(二)倨は脚を投げ出して坐る、箕坐す　(三)揖は兩手を胸にあてて挨拶するなり、長揖は同席に對する敬禮にして、立ちたるまゝの會釋　(四)儒者を罵りていふ語、豎は小童召使の義　(五)縱橫、合從連衡、春秋戰國の時韓魏趙齊楚燕の六國同盟して秦に對抗するを主張せし蘇秦の說を合從といひ、六國を悉く服從せしむるを主張せし張儀の說を連衡といふ　(六)集め合す、一書に烏合となし又瓦合となす　(七)陳留の縣令と親交あり　(八)遊說する人

漢三年。秋。項羽擊ㇾ漢拔ニ滎陽一。漢兵遁保ニ鞏洛一。楚人聞ニ淮陰侯破ㇾ趙。

漢の三年秋項羽漢を擊ち滎陽を拔く。漢兵遁げて鞏洛を保す。楚人淮陰侯趙を破り、彭越數〻梁の地に反すと聞き、則ち兵を分ちて之を救ふ。淮陰方に東齊を擊つ。漢王數〻滎陽成皐に困しむ。計りて、成皐以東を捐てて鞏洛に屯し、以

入謁。沛公方倨レ牀。使二兩女子洗一レ足。而見二酈生一。酈生入則長揖不レ拜曰。足下欲三助レ秦攻二諸侯一乎。且欲下率二諸侯一破上レ秦也。沛公罵曰。豎儒。夫天下同苦レ秦久矣。故諸侯相率而攻レ秦。何謂三助レ秦攻二諸侯一乎。酈生曰。必聚レ徒合二義兵一。誅二無道秦一。不レ宜三倨見二長者一。於レ是沛公輟レ洗。起攝レ

揖して拜せず。曰く、足下秦を助けて諸侯を攻めんと欲するや、且つ諸侯を率ゐて秦を破らんと欲するやと。沛公罵りて曰く、豎儒(四)、夫れ天下同じく秦に苦しむこと久し。故に諸侯相率ゐて秦を攻む。何ぞ秦を助けて諸侯を攻むと謂ふやと。酈生曰く、必ず徒を聚め、義兵を合せ、無道の秦を誅せんには、宜しく倨して長者に見ゆべからずと。是に於て沛公洗を輟め、起ちて衣を攝し、酈生を上坐に延きて之を謝す。酈生因りて六國從横(五)の時を言ふ。沛公喜び酈生に食を賜ふ。問ひて曰く、計將に安くに出でんとすと。酈生曰く、足下糾合(六)の衆を起し、散亂の兵を收めて萬人に滿たず。以て徑に強秦に入らんとす。此れ所謂る、虎口を探る者なり。夫れ陳留は天下の衝、四通五達の郊なり。今其の城又積粟多し。臣其の(七)令と善し。請ふ之に使するを得て、足下に下らしめん。卽し聽かずんば、足下兵を擧げて之を攻めよ。臣內應をなさんと。是に於て酈生をして行かしめ、沛公兵を引いて之に隨ひ、遂に陳留を下す。酈食其を號して廣野君となす。酈生其の弟酈

不レ能レ聽二大度之言一。酈生乃深自藏匿。後聞三沛公將レ兵略二地陳留郊一。沛公麾下騎士。適酈生里中子也。沛公時時。問二邑中賢士豪俊一。騎士歸。酈生見謂レ之曰。吾聞沛公慢而易レ人。多二大略一。此眞吾所レ願二從游一。莫三爲レ我先一。若見二沛公一謂曰。臣里中有二酈生一。年六十餘。長八尺。人皆謂二之狂生一。生自謂三我非二狂生一。騎士曰。沛公不レ好レ儒。諸客冠二儒冠一來者。沛公輒解二其冠一溲二溺其中一。與レ人言常大罵。未レ可下以二儒生一說上也。酈生曰。第言レ之。騎士從容言如二酈生所レ誡者一。

謂ふ。生自ら我れ狂生に非ずと謂ふと。騎士曰く、沛公儒を好まず、諸客儒冠を冠して來る者は、沛公輒ち其の冠を解き其の中に溲溺す（一一）。人と言ふに常に大に罵る。未だ儒生を以て說く可からざるなりと。酈生曰く、第（一二）之を言へと。騎士從容として言ふこと、酈生の誡めし所の者の如し。

（一）一音、ちくたく、落ちぶるゝこと、家貧しく家業なきなり　（二）閭里の門番、士の賤しきもの　（三）縣中の賢者豪傑も敢て酈生を使役せず　（四）高陽を過ぐる諸將の人物を問ふ　（五）齷齪、偓促に作る、齒の細小なる義、轉じて小節に拘はるをいふ　（六）細かき禮儀作法　（七）深く智謀ををさめ匿して潛伏す　（八）侮る　（九）先んずるは先容なり、豫め人を紹介する下地として人を譽め薦むること　（一〇）汝　（一一）小便す　（一二）但

沛公至二高陽傳舍一。使三人召二酈生一。酈生至。

沛公高陽の傳舍（一）に至り、人をして酈生を召さしむ。酈生至り、入りて謁す。沛公方に牀に倨し（二）、兩女子をして足を洗はしめて酈生を見る。酈生入りて則ち長（三）

卷九十七

酈生陸賈列傳第三十七

酈生食其者。陳留高陽人也。好讀書。家貧落魄無以爲衣食業。爲里監門吏。然縣中賢豪不敢役。縣中皆謂之狂生。及陳勝項梁等起。諸將徇地過高陽者數十人。酈生問其將。皆握齪好苛禮自用。

酈生食其は陳留高陽の人なり。書を讀むことを好む。家貧しく落魄(一)して、以て衣食の業をなすなし。里の監門(二)の吏となる。然れども縣中の賢豪(三)も敢へて役せず、縣中皆之を狂生と謂ふ。陳勝項梁等起るに及びて諸將地を徇へ高陽を過ぐる者數十人、酈生其將(四)を問ふに、皆握齪(五)として苛禮(六)を好みて自ら用ひ、大度の言を聽く能はず。酈生乃ち深く自ら藏匿(七)す。後沛公兵に將として地を陳留の郊に略すと聞く。沛公の麾下の騎士適〻酈生が里中の子なり、沛公時時邑中の賢士豪俊を問ふ。騎士歸る。酈生見て之に謂ひて曰く、吾聞く、沛公慢にして人を易(八)る。大略多しと。此れ眞に吾が從ひて游ばんことを願ふ所、我(九)が爲めに先んずる莫かれ。若沛公(一〇)に見えて謂て曰く、臣が里中に酈生あり。年六十餘、長八尺。人皆之を狂生と

韋丞相死。即代レ之矣。豈可下以二智巧一得上哉。多有二賢聖之才一。困戹不レ得者衆甚也。

好レ詩。而遷爲二光祿勳一。居二殿中一爲レ師。授二教左右一。而縣官坐二其旁一聽。甚善レ之。日以尊貴。御史大夫鄭弘坐レ事免。而匡君爲二御史大夫一。歲餘韋丞相死。匡君代爲二丞相一。封二樂安侯一。以二十年之間一。不レ出二長安城門一而至二丞相一。豈非二遇レ時而命一也哉。深惟士之游宦。所三以至二封侯一者微甚。然多下至二御史大夫一即去者上。諸爲二大夫一而丞相次也。其心冀二幸丞相物故一也。或乃陰私相毀害。欲レ代レ之。然守之日久不レ得。或爲レ之日少而得レ之。至二於封侯一眞命也夫。御史大夫鄭君。守レ之數年不レ得。匡君居レ之未レ滿レ歲。而

となりては丞相の次なり。其の心丞相の物故(八)を冀幸(九)するなり。或は乃ち陰かに私かに相毀害し、之に代らんと欲す。然るに守るの日久しくして得ず。或は之をなすの日少くして之を得。封侯に至るは眞に命(一〇)なるかな。御史大夫鄭君之を守ること數年にして得ず。匡君之に居ること未だ歳に滿たずして、韋丞相死し卽ち之に代れり。豈智巧を以て得可けんや。多く聖賢の才を有して、困厄(一一)して得ざる者衆きこと甚しきなり。

(一) 傭はれて人の爲めに耕作す (二) 經書又は政治上の問題を策卽ち竹簡に記し解答者をして其の得る所に隨ひて之を解答せしめ是によりて其の才能を試驗せしこと (三) 平原郡の學校にて卒史といふ官 (四) 祿百石を受くる屬官 (五) 郎官もと天子近侍の官 (六) 天子 (七) 少 (八) 人の死をいふ、物は歿(沒の古文) (九) こひねがふ (一〇) 天命 (一一) 戹は厄に同じ、困しむ、困窮

子俱爲二丞相一。世間美レ之。豈不レ命哉。相工其先知レ之。韋丞相卒。御史大夫匡衡代。

丞相匡衡者。東海人也。好レ讀レ書。從二博士一受レ詩。家貧。衡傭作以給二食飲一。才下。數射策不レ中。至レ九乃中二丙科一。其經以レ不レ中レ科。故明習。補二平原文學卒史一。數年郡不二尊敬一。御史徵レ之。以補二百石屬一。薦爲レ郎。而補二博士一。拜爲二太子少傅一。而事二孝元帝一。孝元

丞相匡衡は東海の人なり。書を讀むことを好み、博士に從ひて詩を受く。家貧し。衡傭作して以て食飲に給す。才下り數々射策して中らず。九たびに至りて乃ち丙科(一)に中る。其の經科に中らざるを以て故(二)に明習す。(三)平原の文學卒史に補せらる。數年にして郡尊敬せず。御史之を徵し以て百石(四)の屬に補す。薦めて郎(五)となし、而して博士に補す。拜せられて太子少傅となり。而して孝元帝に事ふ。孝元詩を好む。而して遷して光祿勳となす、殿中に居て師となり、左右に教授す。而して縣官(六)其の旁に坐して聽き、甚だ之を善みす。日々以て尊貴す。御史大夫鄭弘事に坐して免ず。而して匡君御史大夫となる。歲餘にして韋丞相死す。匡君代りて丞相となり、樂安侯に封ぜらる。十年の間を以て長安の城門を出でずして丞相に至る。豈時に遇ひて命なるに非ずや。深く惟ふに士の游宦し、封侯に至る所以の者微き(七)こと甚し。然るに御史大夫に至りて卽ち去る者多し。諸々大夫

韋丞相玄成者。卽前韋丞相子也。代レ父。後失二列侯一。其人少時。好レ讀レ書。明二於詩論語一。爲レ吏至二衞尉一。徙爲二太子太傅一。御史大夫薛君免。爲二御史大夫一。于丞相乞二骸骨一免。而爲二丞相一。因封二故邑一爲二扶陽侯一。數年病死。孝元帝親臨レ喪賜賞甚厚。子嗣。後其治容容。隨二世俗一浮沈。而見レ謂二諂巧一。而相工本謂レ之。當二爲レ侯代一レ父而後失上レ之。復自游宦而起。至二丞相一。父

韋丞相玄成は卽ち前の韋丞相の子なり。父に代る。後列侯を失ふ。其の人少時書を讀むを好み、詩論語に明かなり。吏となりて衞尉に至り、徙りて太子太傅となる。御史大夫薛君免ぜられ、御史大夫となる。于丞相骸骨（一）を乞ひて免ぜられ、丞相となる。因りて故邑に封ぜられ、扶陽侯となる。數年にして病みて死す。孝元帝親ら喪に臨む。賜賞甚だ厚し。子嗣ぐ。後其の治容容（二）として世俗に隨ひて浮沈して、諂巧（三）と謂はる。而して相工本之を謂ふ。當に侯となり父に代りて後に之を失ふべしと。復た自ら游宦（四）して起つて丞相に至る。父子倶に丞相となる。世間之を美とす。豈命ならずや。相工其れ先づ之を知れり。韋丞相卒す。御史大夫匡衡代る。

（一）官職を辭すること、仕官中の身體は君主の所有にして骸骨を乞ふはその仕へを致すの意なり　（二）受けいれて人と圓滿に交るさま　（三）へつらひ阿りて媚を飾ること　（四）遠地に仕官す

魏丞相邴丞相。微賤時會於客家。田文言曰。今此三君者。皆丞相也。其後三人竟更相代爲丞相。何見之明也。

黃丞相霸者。淮陽人也。以讀書爲吏。至潁川太守。治潁川以禮義。條敎喩告化之。犯法者。風曉令自殺。化大行。名聲聞。孝宣帝下制曰。潁川太守霸。以宣布詔令治民。道不拾遺。男女異路。獄中無重囚。賜爵關內侯。黃金百斤。徵爲京兆尹。而至丞相。復以禮義爲治。以丞相病死。子嗣。後爲列侯。黃丞相卒。以御史大夫于定國代。于丞相已有廷尉傳。在張廷尉語中。于丞相去。御史大夫韋玄成代。

黃丞相霸は淮陽の人なり。書を讀むを以て、吏となり、潁川の太守に至る。潁川を治むるに禮義を以てし、(一)條敎喩告して之を化す。法を犯す者あれば、(二)風曉して自殺せしむ。化大いに行はれ、名聲聞こゆ。孝宣帝(三)制を下して曰く、潁川の太守霸、詔令を宣布し、民を治めて、道遺ちたるを拾はず、男女路を異にし、獄中(四)重囚なきを以て、爵關內侯黃金百斤を賜ふと。徵して京兆の尹となして丞相に至らしむ。復た禮義を以て治を爲す。丞相を以て病みて死す。子嗣ぐ。後列侯となる。黃丞相卒す。御史大夫于定國を以て代ふ。于丞相已に廷尉の傳あり。張廷尉の語中に在り。于丞相去り、御史大夫韋玄成代る。

(一) 條規を擧げて敎へ諭し告げて民を化す　(二) 諷しさとす　(三) 勅命　(四) 重罪の囚人、死刑囚

一級一爲二關內侯一。失二列侯一。得レ食二其故國邑一。魏丞相卒。以二御史大夫邴吉一代。

邴丞相吉者。魯國人也。以三讀レ書好二法令一至二御史大夫一。孝宣帝時。以レ有二舊故一。封爲二列侯一。而因爲二丞相一。明二於事一。有二大智一。後世稱レ之。以二丞相一病死。子顯嗣。後坐二騎至レ廟不敬一。有レ詔奪二爵一級一。失二列侯一。得レ食二故國邑一。顯爲レ吏至二太僕一。坐三官耗亂身及子男有二姦贓一免爲二庶人一。邴丞相卒。黃丞相代。長安中有二善相工田文者一。與二韋丞相一。

邴丞相吉は魯國の人なり。書を讀み法令を好むを以て御史大夫に至る。孝宣帝の時、舊故ある(一)を以て封ぜられて列侯となり、而して因りて丞相となる。事に明かにして大智あり。後世之を稱す。丞相を以て病みて死す。子顯嗣ぐ。後騎して廟に至りて不敬なるに坐し、詔あり。爵一級を奪はれ列侯を失ふ。故の國邑に食むを得。顯、史となりて太僕(二)に至る。官(三)耗亂し、身及び子男姦贓(四)あるに坐し、免(五)ぜられて庶人となる。邴丞相卒す。黃丞相代る。長安中に善相工田文といふ者あり。韋丞相・魏丞相・邴丞相と微賤の時客家に會す。田文言ひて曰く、今此の三君は皆丞相たらんと。其後三人竟に更〻相代りて丞相となる。何ぞ見るとの明かなるや。

(一) 孝宣帝と舊き親交ありて　(二) 輿馬を司る官　(三) 官紀破れ亂るゝこと、耗は亂るゝなり　(四) 官物を私し、公品を著服す、又賄賂を取り入るゝにもいふ　(五) 官を免ず

魏丞相。欲求脫罪而不聽。復使人脅恐魏丞相。以夫人賊殺侍婢事。而私獨奏請驗之。發吏卒至丞相舍。捕奴婢。笞擊問之。實不以兵刃殺也。而丞相司直繁君奏。京兆尹趙君迫脅丞相。誣以夫人賊殺婢。發吏卒圍捕丞相舍。不道。又得擅屛騎士事。趙京兆坐要斬。又有使掾陳平等劾中尚書。疑以獨擅刦事而坐之大不敬。長史以下。皆坐死。或下蠶室。而魏丞相竟以丞相病死。子嗣。後坐騎至廟不敬。有詔奪爵

るに夫人婢を賊殺せしを以てし、吏卒を發して丞相を舍に圍捕す、不道なり。又擅に騎士を屛くる事を得と。趙京兆坐して要斬せらる(九)。又掾陳平等(一〇)をして中尚書を劾せしむるあり。疑ふらくは獨擅事を刦するを以てして之を大不敬に坐せんと。長史以下皆坐して死す。或は蠶室(一一)に下さる。而して魏丞相竟に丞相を以て病みて死す。子嗣ぐ。後騎して廟に至り不敬なるに坐し、詔ありて爵一級を奪はれ關内侯(一二)となり、列侯を失ふ。其の故の國邑に食むを得。魏丞相卒し、御史大夫邴吉を以て代ふ。

(一) 相は名なり (二) 文官 (三) 趙君名は廣 (四) 京兆の尹趙廣漢罪ありその職を免ぜんと丞相奏す (五) おびやかし恐れしむ (六) 賊は人を殺す意 (七) 裁判官 (八) 繁は姓なり、音ハ (九) 腰を斬る刑 (一〇) 屬官、下吏 (一一) 獄舍の名なり、宮刑に處せられし者の入る獄舍 (一二) 漢代の爵位、領地を與へず只祿のみを給するもの、關中の諸侯の義

韋丞相言曰。我即爲丞相。有長子。是安從得之。後竟爲丞相。病死。而長子有罪。論不得嗣。而立玄成。玄成時佯狂不肯立。竟立之。有讓國之名。後坐騎至廟不敬。有詔奪爵一級。爲關內侯。失列侯。得食其故國邑。韋丞相卒。有魏丞相代。

て相者の言の如く封ぜらるゝを得んやと（六）佯りて狂人のまねす（七）漢時代爵位の號、何地を與へず祿のみを給するもの關內の諸侯の義

魏丞相相者。濟陰人也。以文吏至丞相。其人好武。皆令諸吏帶劍。帶劍前奏事。或有不帶劍者。當入奏事。至乃借劍而敢入奏事。其時京兆尹趙君。丞相奏以免罪。使人執

魏丞相相（一）は濟陰の人なり。文吏（二）を以て丞相に至る。其の人、武を好み、皆諸吏をして劍を帶びしむ。劍を帶びて前みて事を奏す。或は劍を帶びざる者ありて、當に入りて事を奏すべきときは、乃ち劍を借りて敢て入りて事を奏するに至る。其の時京兆の尹（三）趙君、（四）丞相奏するに免罪を以てす。人をして魏丞相を執へ、罪を脱れんことを求めんと欲すれども聽かれず。復人をして魏丞相を脅恐せしむるに、夫人侍婢を賊殺（六）せし事を以てし、而して私かに獨り奏して之を驗せんと請ふ。吏卒を發して丞相の舍に至り、奴婢を捕へ、笞擊して之を問ふに、實は兵刄を以て殺さざる也。而して丞相の司（七）直繁君（八）奏す、京兆の尹趙君丞相を迫脅し、誣ふ

也。任敖以㆓舊德㆒用。申屠嘉可㆑謂㆓剛毅守㆒㆑節矣。然無㆓術學㆒。殆與㆓蕭曹陳平㆒異矣。

孝武時。丞相多甚。不㆑記。莫㆑錄㆓其行起居狀略㆒。且紀㆓征和以來㆒。有㆓車丞相㆒。長陵人也。卒而有㆓韋丞相㆒代。韋丞相賢者。魯人也。以㆓讀書術㆒爲㆑吏。至㆓大鴻臚㆒。有㆓相工㆒相㆑之。當㆑至㆓丞相㆒。有㆓男四人㆒。使㆓相工相㆒㆑之。至㆓第二子。其名玄成㆒。相工曰。此子貴。當㆑封。

孝武の時丞相多きこと甚し。記さず。其の行ひ起居(一)の狀略を錄する莫し。且く征和以來を紀す。車丞相(二)あり。長陵の人なり。卒して韋丞相あり、代る。韋丞賢は魯の人なり。讀書術を以て吏となり。大鴻臚(三)に至る。相工(四)あり之を相す。當に丞相に至るべしと、男四人あり。相工をして之を相せしむ。第二子其の名玄成といふものに至りて相工曰く、此の子貴し、當に封ぜらるべしと。韋丞相言ひて曰く、我卽ち丞相となるも長子あり、是れ(五)安くに從ひて之を得んと。後竟に丞相となる。病みて死す。長子罪あり、論じて嗣ぐことを得ず。而して玄成を立つ。玄成時に佯狂(六)して立つことを肯ぜず。竟に之を立つ。國を讓るの名あり。後騎して廟に至るの不敬に坐し、詔あり、爵一級を奪はれて關内侯(七)となる。列侯を失ひ、其の故國の邑に食むを得。韋丞相卒す。魏丞相あり、代る。

㊀ 行爲起居動作　㊁ 車丞相名は千秋　㊂ 官名、外賓の應接を掌る　㊃ 人相を見る者　㊄ 第二子何により

官居㆓其中㆒。且又我使㆑爲㆑之。錯無㆑罪。罷㆑朝。嘉謂㆓長史㆒曰。吾悔不㆓先斬㆑錯。乃先請㆑之爲㆘錯所㆑賣。至㆑舍因歐㆑血而死。謚爲㆓節侯㆒。子共侯蔑代。三年卒。子侯去病代。三十一年卒。子侯臾代。六歲坐㆘爲㆓九江太守㆒。受㆗故官送㆖。有㆑罪。國除。自㆓申屠嘉死之後㆒。景帝時。開封侯陶青。桃侯劉舍。爲㆓丞相㆒。及㆓今上時㆒。柏至侯許昌。平棘侯薛澤。武彊侯莊青翟。高陵侯趙周等爲㆓丞相㆒。皆以㆓列侯㆒繼嗣。娖娖廉謹。爲㆓丞相㆒備㆑員而已。無㆘所㆓能發明㆒。功名有㆑著㆓於當世㆒者㆖。

(五) 自首して身を寄す (六) 錯を斬らんことを帝に請ひて (七) 前任者より贈物を受けたる罪に坐して (八) 陶青は高祖の功臣陶舍の子、謚して夷といふ (九) 劉舍はもと項氏の親なり、姓を劉氏と賜はる、父襄高祖を佐けて功あり、舍は哀侯と謚す (一〇) 許昌は高祖の功臣許溫の孫、哀侯と謚す (一一) 薛澤は高祖の功臣廣平侯薛歐の孫、平棘節侯舜澤 (一二) 莊青は高祖の功臣莊不識の孫 (一三) 趙周の父夷吾は楚王戊太の傅たり、諫爭して死せり (一四) 謹む貌、持整の貌

太史公曰。張蒼文學律曆。爲㆓漢名相㆒。而紬㆓賈生公孫臣等。言㆓正朔服色事㆒。而不㆓遵明㆒。用㆓秦之顓頊曆㆒何哉。周昌木彊人

太史公曰く、張蒼は文學律曆あり、漢の名相たり。而して賈生公孫臣等を紬け、(一)正朔(二)服色の事を言ひて遵(三)明ならず。秦の顓頊曆を用ひしは何ぞや。周昌は木彊(四)の人なり。任敖は舊德(五)を以て用ひらる。申屠嘉は剛毅にして節を守ると謂ふ可し。然れども術學(六)なし。殆んど蕭曹陳平と異なり。

(一) 正月と朔日卽ち年の始と月と始との義より轉じて曆をいふ (二) 衣服の色、國の禮儀制度を論ず (三) 道理に遵ひて明瞭なること (四) 素樸にして飾なきこと (五) 呂后を辱めし吏を擊傷せしをいふ (六) 藝術と學問

諸侯。而丞相嘉自絀。所レ言不レ用。疾レ錯。錯爲二內史一。門東出不レ便。更穿二一門一南出。南出者太上皇廟南垣。嘉聞レ之。欲二因レ此以法上錯。擅穿二宗廟垣一爲レ門。奏請レ誅レ錯。錯客有レ語レ錯。錯恐夜入レ宮。上謁自二歸景帝一。至レ朝。丞相奏請レ誅二內史錯一。景帝曰。錯所レ穿非二眞廟垣一。乃外南垣。故他

て錯を誅せんと請ふ。錯の客錯に言るあり。錯恐れ、夜宮に入り、上謁して景帝に（五）自歸す。朝に至り丞相奏して內史錯を誅せんと請ふ。景帝曰く、錯穿つ所、眞の廟垣に非ず、乃ち外の南垣なり。故他官其の中に居りぬ。且つ又我之をなさしむ。錯罪無しと。朝を罷む。嘉長史に謂ひて曰く、吾悔ゆらくは先に錯を斬らずして、乃ち先づ之を請ひて、錯に賣られしをと。舍に至りて、因りて血を歐きて死す。諡して節侯（六）となす。子共侯蔑代る。三年にして卒す。子侯去病代る。三十一年にして卒す。子侯臾代る。六歲九江の太守となり、故官（七）の送を受くるに坐して罪あり。國除かる。申屠嘉死せし後より景帝の時まで、開封侯陶靑（八）、桃侯劉舍（九）丞相となる。今上の時に及びて柏至侯許昌（一〇）・平棘侯薛澤（一一）・武彊侯莊靑翟（一二）・高陵侯趙周（一三）等丞相となる。皆列侯を以て繼嗣す。娖娖（一四）として廉謹丞相となり員に備はるのみ、能く發明する所功名の當世に著はるゝある者なし。

㈠ 君寵を受けて尊敬せらる　㈡ 譴發、罪を責め惡をあばきて罰す　㈢ 領地を削りて沒收す　㈣ 宮廟の外垣

文帝嘗燕飲通家。其寵如是。是時丞相入朝。而通居上傍。有怠慢之禮。丞相奏事畢。因言曰。陛下愛幸臣。則富貴之。至於朝廷之禮。不可以不肅。上曰。君勿言。吾私之。罷朝坐府中。嘉為檄召鄧通詣丞相府。不來。且斬通。通恐。入言文帝。文帝曰。汝第往。吾今使人召若。通至丞相府。免冠徒跣。頓首謝。嘉坐自如。故不為禮。責曰。夫朝廷者高皇帝之朝廷也。通小臣。戲殿上。大不敬。當斬。吏今行斬之。通頓首。首盡出血不解。文帝度丞相已困通。使使者持節召通。而謝丞相曰。此吾弄臣。君釋之。鄧通既至。為文帝泣曰。丞相幾殺臣。

(四) 漢の爵位の號、領地を與へず唯だ祿のみ給するもの、關中の諸侯の義 (五) 其他の者 (六) 現、現在によき者なし (七) 宴飲、燕は宴燕又は嬿に通ず、さかもり (八) 寵臣 (九) 私かに言ふ (一〇) 政治を行ふ役所、おくむき(宮中)に對していふ (一一) 斬罪に處すべきなり (一二) 頓首して首を地にすりつけて爲めに首より出血するに至るも宥さず (一三) 君命を帶びたる使者のしるし (一四) 人君の玩弄たる臣

嘉為丞相五歲。孝文帝崩。孝景帝即位。二年。鼂錯為內史。貴幸用事。諸法令多所請變更。議以謫罰侵削

嘉丞相たるの五歲、孝文帝崩じ、孝景帝位に卽く。二年鼂錯內史となり、貴幸(一)せられて事を用ふ。諸法令請ひて變更する所多し、議して謫罰(二)を以て諸侯を侵削(三)す。而して丞相嘉自ら絀く。言ふ所用ひられず錯を疾む。錯內史たり。門の東出便ならず。更に一門を穿ちて南出す。南出は太上皇廟の南垣(四)なり。嘉之を聞きて、此に因りて以て錯を法せんと欲す。擅に宗廟の垣を穿ちて門となすと。奏し

蒼免ㇾ相。孝文帝欲下用二皇后弟竇廣國一爲中丞相上曰。恐天下以ㇾ吾私二廣國一。廣國賢有ㇾ行。故欲ㇾ相ㇾ之。念久ㇾ之不可。而高帝時大臣。又皆多死。餘見無二可者一。乃以二御史大夫嘉一爲二丞相一。因二故邑一封爲二故安侯一。嘉爲ㇾ人廉直。門不ㇾ受二私謁一。是時太中大夫鄧通方隆愛幸。賞賜累二巨萬一。

居りて怠慢の禮あり。丞相事を奏し畢り、因りて言ひて曰く、陛下(八)幸臣を愛せば則ち之を富貴にせよ。朝廷の禮に至りては以て肅まざる可からずと。上曰く、君言ふこと勿れ。吾之に私せんと(九)。朝を罷めて府中(一〇)に坐す。嘉檄を爲り、鄧通を召して丞相の府に詣らしむ。來らざれば且に通を斬らんとす。通恐れ、入りて文帝に言ふ。文帝曰く、汝第往け。吾今人をして若を召さしめんと。通丞相の府に至り、冠を免し、徒跣し、頓首して謝す。嘉坐すること自如として、故に禮をなさず。責めて曰く、夫れ朝廷は高皇帝の朝廷なり。通小臣にして殿上に戯る。大不敬(一一)斬に當す。吏今行いて之を斬れと。通頓首して首(一二)盡く血を出すも解けず。文帝丞相已に通を困しむるを度り、使者をして節(一三)を持して通を召さしめ、而して丞相に謝して曰く、此れ吾が弄臣(一四)なり。君之を釋せと。鄧通既に至り、文帝の爲めに泣いて曰く、丞相幾ど臣を殺さんとせりと。

(一) 勇健にして材力ある者　(二) 强弩を張ること、脚を以て蹋みて張る故に蹶張といふ　(三) 隊の長、率は音スヰ

乳母。妻妾以レ百數。嘗孕者不二復幸一。蒼年百有餘歲而卒。

申屠丞相嘉者。梁人。以二材官蹶張一從二高帝一擊二項籍一。遷爲二隊率一。從擊二黥布軍一。爲二都尉一。孝惠時。爲二淮陽守一。孝文帝元年。擧下故吏士二千石。從二高皇帝一者上。悉以爲二關內侯一。食レ邑二十四人。而申屠嘉食二邑五百戶一。張蒼已爲二丞相一。嘉遷爲二御史大夫一。張

申屠丞相嘉は梁の人なり。（一）材官蹶張（二）を以て高帝に從ひ、項籍を擊つ。遷りて隊の率（三）となり、從ひて黥布の軍を擊ち、都尉となる。孝惠の時、淮陽の守となる。孝文帝の元年故の吏士二千石の高皇帝に從ふ者を擧げて、悉く以て（四）關內侯となし、邑を食むもの二十四人あり。而して申屠嘉邑五百戶を食む。張蒼已に丞相となり、嘉遷つて御史大夫となる。張蒼相を免ず。孝文帝皇后の弟竇廣國を用ひて丞相となさんと欲して曰く、恐らくは天下吾を以て廣國に私すとせん。廣國賢にして行あり。故に之を相とせんと欲す。念ふこと之を久しうして不可なり。而るに高帝の時の大臣又皆多く死せり。餘（五）、見（六）に可なる者なしと。乃ち御史大夫嘉を以て丞相となす。故邑に因り封じて故安侯となす。嘉人となり廉直にして、門私謁を受けず。是の時太中大夫鄧通方に隆に愛幸せられ、賞賜巨萬を累ぬ。文帝嘗に通の家に（七）燕飲す。其の寵是の如し。是の時丞相入朝す。而して通上の傍に

人公孫臣上書言。漢土德時。其符有二黃龍一當レ見。詔下二其議張蒼一。張蒼以爲レ非レ是罷レ之。其後黃龍見二成紀一。於レ是文帝召二公孫臣一以爲二博士一。草二土德之曆一。制レ度更二元年一。張丞相由レ此自絀。謝レ病稱レ老。蒼任レ人爲二中候一。大爲二姦利一。上以讓レ蒼。蒼遂病免。蒼爲二丞相一十五歲而免。孝景前五年蒼卒。謚爲二文侯一。子康代侯。八年卒。子類代爲レ侯。八年。坐下臨二諸侯喪一後就レ位不敬上國除。初張蒼父。長不レ滿二五尺一。及レ生レ蒼。蒼長八尺餘。爲二侯丞相一。蒼子復長。及二孫類一長六尺餘。坐レ法失レ侯。蒼之免レ相後老。口中無レ齒食レ乳。女子爲二

自ら絀き、病を謝し、老を稱す。(三)蒼人を任じて中候(四)となす。大いに姦利をなす。上以て蒼を譲む。蒼遂に病もて免ず。蒼丞相となりて十五歲にして免ず。孝景の前の五年蒼卒す。謚して文侯となす。子康代りて侯たり。八年にして卒す。子類代りて侯たり。八年諸侯の喪に臨みて後位に就き不敬なるに坐して國除かる。初め張蒼の父長五尺に滿たず。蒼を生むに及びて、蒼長八尺餘、侯丞相となる。蒼の子復長し。孫類に及びて長六尺餘。法に坐して侯を失ふ。蒼の相を免じて後老するや、口中齒なし。乳を食す。女子乳母となるもの妻妾百を以て數ふ。嘗て孕みし者復び幸せず。蒼年百有餘歲にして卒す。

(一) 洗湯休娛の休暇を得る毎に先づ王陵の夫人に伺候して食を獻じて後我家に歸る、洗沐は官吏の毎月十日毎に一日得らる丶休暇をいふ (二) 符は符瑞、吉兆 (三) 隱居す (四) 官名

侯等。尊二立代王一爲二孝文皇帝一。四年。丞相灌嬰卒。張蒼爲二丞相一。自二漢興一至二孝文一二十餘年。會二天下初定一。將相公卿皆軍吏。張蒼爲二計相一。時緒二正律曆一。以三高祖十月始至二霸上一。因下故秦時本以二十月一爲中歲首上弗レ革。推二五德之運一。以爲三漢當二水德之時一。尚レ黑如レ故。吹レ律調レ樂。入二之音聲一。及以レ比定二律令一。若百工天下作二程品一。至三於爲二丞相一卒就レ之。故漢家言二律曆一者。本二之張蒼一。蒼本好レ書。無レ所レ不レ觀。無レ所レ不レ通。而尤善二律曆一。

に配し、水德に當る黑色を尚ぶ ㈦ 比次、比例、比方、類を取りて法律條令を定む ㈧ 若は順なり、百工器物を造るに皆尺寸斤兩ありて宜しきを得しむ之を順といふなり ㈨ 尺度量衡の程度を定む、程は準なり、法式なり、品は階格なり

張蒼德二王陵一。王陵者安國侯也。及二蒼貴一。常父二事王陵一。陵死後。蒼爲二丞相一。洗沐常先朝二陵夫人一上レ食。然後敢歸レ家。蒼爲二丞相一十餘年。魯

張蒼王陵を德とす。王陵は安國侯なり。蒼貴きに及びて常に王陵に父事す。陵死せし後、蒼丞相となり、洗沐すれば常に先づ陵の夫人に朝し、食を上りて然る後敢て家に歸る。蒼丞相となる十餘年、魯人公孫臣上書して言ふ、漢土德の時、其の符黃龍あり、當に見はるべしと。詔して其の議を張蒼に下す。張蒼以て是に非ずとなし、之を罷む。其の後黃龍成紀に見はる。是に於て文帝公孫臣を召して以て博士となし、土德の曆を草せしめ、度を制して元年を更む。張丞相此に由りて

呂后吏。及高祖初起。敖以客從。爲御史。守豐二歲。高祖立爲漢王。東擊項籍。敖遷爲上黨守。陳豨反時。敖堅守。爲廣阿侯。食千八百戶。高后時。爲御史大夫。三歲免。以平陽侯曹窋爲御史大夫。高后崩。不與大臣共誅呂祿等。免。以淮南相張蒼爲御史大夫。蒼與絳

られて廣阿侯となり千八百戶を食む。高后の時、御史大夫となる。三歲にして免ず。平陽侯曹窋を以て御史大夫となす。高后崩ず。大臣と共に呂祿等を誅せず、(二)免ず。淮南の相張蒼を以て御史大夫となす。蒼絳侯等と代王を尊立して孝文皇帝となす。四年丞相灌嬰卒す。張蒼丞相となる、漢興りしより孝文に至るまで二十餘年にして天下初めて定まるに會す。將相公卿皆軍吏なり。張蒼計相たる時、(三)律曆を(四)緒正す。高祖十月始めて霸上に至りしを以て、故秦の時本十月を以て歲首となししに因りて革めず。(五)五德の運を推し、以て漢は水德の時に當るとなし、(六)黑を尚ぶと故の如し。律を吹きて樂を調へ、之を音聲に入る。及び比を以て律令を(七)(八)定む。若くは百工天下程品を(九)作る。丞相たるに至りて卒に之を就す。故に漢家律曆を言ふ者、之を張蒼に本づく。蒼本書を好み、觀ざる所なく、通ぜざる所なし。而して尤も律曆に善し。

(一) 避く　(二) 曹窋の御史大夫を免ず　(三) 音律と曆　(四) 尋ね正す、討究補正す　(五) 五行の德の運行　(六) 五

遣ニ趙王ー。於レ是高后患レ之。乃使三使召ニ周昌一。周昌至謁ニ高后ー。高后怒而罵ニ周昌ー曰。爾不レ知ニ我之怨ニ戚氏ー乎。而不レ遣ニ趙王ー何。昌既徵。高后使三使召ニ趙王ー。趙王果來。至ニ長安ー。月餘飲レ藥而死。周昌因謝レ病不ニ朝見ー。三歲而死。後五歲。高后聞下御史大夫江邑侯趙堯高祖時定ニ趙王如意ー之畫上。乃抵ニ堯罪ー。以ニ廣阿侯任敖ー爲ニ御史大夫ー。

昌既に徵され、高后使をして趙王を召さしむ。趙王果して來る。長安に至り、月餘にして藥を飲みて死す。周昌因りて病を謝して朝見せず。三歲にして死す。後五歲高后御史大夫江邑侯、趙堯、高祖の時趙王如意を定むるの畫を聞き、乃ち堯を罪に抵て、廣阿侯任敖を以て御史大夫となす。

㊀ 計畫、謀

任敖者。故沛獄吏。高祖嘗辟レ吏。吏繫ニ呂后ー遇レ之不レ謹。任敖素善ニ高祖ー。怒撃ニ傷主ニ

任敖は故沛の獄吏なり。高祖嘗て吏を辟く。吏呂后を繫ぎ、之を遇すること不謹なり。任敖素高祖と善し。怒りて呂后を主る吏を撃傷す。高祖初めて起るに及び、敖客を以て從ひ、御史と爲り、豐を守ること二歲、高祖立ちて漢王となり、東項籍を撃つ。敖遷りて上黨の守となる。陳豨反せし時、敖堅く守る。封ぜ

呂后太子羣臣。素所敬憚乃可。高祖曰。然。吾念之欲如是。而羣臣誰可者。堯曰。御史大夫周昌。其人有堅忍質直。且自呂后太子及大臣。皆素敬憚之。獨昌可。高祖曰。善。於是乃召周昌謂曰。吾欲固煩公。公彊爲我相趙王。周昌泣曰。臣初起從陛下。陛下獨奈何中道而弃之於諸侯乎。高祖曰。吾極知其左遷。然吾私憂趙王。念非公無可者。公不得已彊行。於是徙御史大夫周昌爲趙相。既行。久之高祖持御史大夫印。弄之曰。誰可以爲御史大夫者。孰視趙堯曰。無以易堯。遂拜趙堯爲御史大夫。堯亦前有軍功食邑。及以御史大夫。從擊陳豨。有功。封爲江邑侯。

江邑侯となす。

㈠ 天子の死後をいふ ㈡ 古簡牘を用ひ、書き錯りあれば刀を以て之を削る、故に刀筆の吏といふ ㈢ 隙 ㈣ 其の計の出づる所を知らざるをいふ ㈤ 貴くして諸人の尊重する強力なる相 ㈥ 秩位を貶して遠地に謫するをいふ

高祖崩。呂太后使使召趙王。其相周昌令王稱疾不行。使者三反。周昌固爲不

高祖崩ず。呂太后使をして趙王を召さしむ。其の相周昌王をして疾と稱して行かざらしむ。使者三反す。周昌固く爲めに趙王を遣らず。是に於て高后之を患ふ。乃ち使をして周昌を召さしむ。周昌至りて高后に謁す。高后怒りて周昌を罵りて曰く、爾我の戚氏を怨むを知らざるか。而して趙王を遣らざるは何ぞやと。

刀筆吏耳。何能至レ是乎。居頃レ之趙堯侍二高祖一。高祖獨心不レ樂悲歌。羣臣不レ知三上之所二以然一。趙堯進請問曰。陛下所レ爲レ不樂。非レ爲下趙王年少而戚夫人與二呂后一有レ郤。備二萬歲之一後一。而趙王不レ能二自全一乎。高祖曰。然。吾私憂レ之。不レ知レ所レ出。堯曰。陛下獨宜下爲二趙王一置上貴彊相。及

子羣臣の素より敬憚する所のものを置きて乃ち可なるべしと。高祖曰く、然り、吾之を念ひて是の如くせんと欲す。而して羣臣の誰か可なる者ぞと。堯曰く、御史大夫周昌、其の人堅忍質直あり。且つ呂后太子及び大臣より、皆素より之を敬憚す。獨り昌のみ可なりと。高祖曰く、善しと。是に於て乃ち周昌を召し謂ひて曰く、吾固く公を煩さんと欲す。公彊ひて我が爲めに趙王に相たれと。周昌泣きて曰く、臣初めて起りしより陛下に從へり。陛下獨り奈何ぞ中道にして之を諸侯に弃つるかと。高祖曰く、吾極めて其の左遷(六)なるを知る。然れども吾私かに趙王を憂ふ。念ふに公に非ずんば可なる者なし。公已むを得ず彊ひて行けと。是に於て御史大夫周昌を徙して趙の相となす。既に行く。之を久うして高祖御史大夫の印を持し、之を弄して曰く、誰か以て御史大夫たる可き者ぞと。趙堯を熟視して曰く、以て堯に易ふるものなけんと。遂に趙堯を拜して御史大夫となす。堯も亦前に軍功ありて邑を食む。及び御史大夫を以て從ひて陳豨を擊ちて功あり、封じて

昌。及帝欲廢太子。而立戚姬子如意爲太子。大臣固爭之。莫能得。上以留侯策即止。而周昌廷爭之彊。上問其說。昌爲人吃。又盛怒曰。臣口不能言。然臣期期知其不可。陛下雖欲廢太子。臣期期不奉詔。上欣然而笑。既罷。呂后側耳於東廂聽。見周昌爲跪謝曰。微君太子幾廢。

是後戚姬子如意爲趙王。年十歲。高祖憂。即萬歲之後不全也。趙堯年少。爲符璽御史。趙人方與公謂御史大夫周昌曰。君之史趙堯年雖少。然奇才也。君必異之。是且代君之位。周昌笑曰。堯年少。

是の後戚姬の子如意趙王となる。年十歲。高祖憂ふ。即ち萬歲(一)の後全からざらんと。趙堯年少し、符璽御史たり。趙人方與公、御史大夫周昌に謂ひて曰く、君の史趙堯年少しと雖も、然れども奇才なり。君必ず之を異とせよ。是れ且に君の位に代らんとすと。周昌笑ひて曰く、堯年少く、刀筆(二)の吏のみ。何ぞ能く是に至らんやと。居ること之を頃して趙堯高祖に侍す。高祖獨り心に樂まず、悲歌す。羣臣上の然る所以を知らず。趙堯進みて、請ひ問うて曰く、陛下樂しまざるをなす所は、趙王年少くして戚夫人呂后と郤(三)あり、萬歲の後に備ふれども、自ら全うする能はざるが爲めに非ざるかと。高祖曰く、然り。吾私かに之を憂へて(四)出づる所を知らずと。堯曰く、陛下獨り宜しく趙王の爲めに貴彊(五)の相及び呂后太

漢王遁出去。而使三周苛守二滎陽城一。楚破二滎陽城一欲レ令二周苛將一。苛罵曰。若趣降二漢王一。不レ然今爲レ虜矣。項羽怒烹二周苛一。於レ是乃拜二周昌一爲二御史大夫一。常從擊二破項籍一。以二六年中一。與二蕭曹等一俱封。封二周昌一爲二汾陰侯一。周苛子周成。以二父死一レ事。封爲二高景侯一。昌爲レ人彊力。敢直言。自二蕭曹等一皆卑二下之一。昌嘗燕時入奏レ事。高帝。方擁二戚姬一。昌還走。高帝逐得。騎二周昌項一問曰。我何如主也。昌仰曰。陛下即桀紂之主也。於レ是上笑レ之。然尤憚二周

ひ得て、周昌の項に騎り、問ひて曰く、我は何如なる主なりやと。昌仰ぎて曰く、陛下は即ち桀紂(四)の主なりと。是に於て上之を笑ふ。然れども尤も周昌を憚る。帝太子を廢して戚姬の子如意を立てて太子となさんと欲するに及び、大臣固く之を爭へども能く得るもの莫し、上留侯の策を以て即ち止む。而して周昌之を廷爭(五)することと彊し。上其の說を問ふ。昌人となり吃。又盛怒して曰く、臣口言ふこと能はず。然れども臣期期(六)其の不可なるを知る。陛下太子を廢せんと欲すと雖も臣期期詔を奉ぜずと。上欣然として笑ふ。既に罷む。呂后耳を東廂(七)に側てて聽く。周昌を見て爲めに詭謝して曰く、君微かりせば太子幾ど廢せらしならんと。

(一) 旗幟を主どる官職 (二) 帳下の賓客となす、官を掌らず (三) すみやか、促なり (四) うなじ、頸もと (五) 朝廷にて爭ひ諫む (六) 口吃なるを以てせきこみて物を言ふ爲めに重なりいふなり (七) 殿の東堂なり、凡そ正寢の東西の室を箱といふ、箱廂に喩ふ、古へは箱廂相通ず (八) 跪謝の誤

布反亡。漢立二皇子長一爲二淮南王一。而張蒼相レ之。十四年。遷爲二御史大夫一。

周昌者。沛人也。其從兄曰二周苛一。秦時皆爲二泗水卒史一。及二高祖起一レ沛撃二破泗水守監一。於レ是周昌周苛。自二卒史一從二沛公一。沛公以二周昌一爲二職志一。周苛爲レ客。從入レ關破レ秦。沛公立爲二漢王一。以二周苛一爲二御史大夫一。周昌爲二中尉一。漢王四年。楚圍二漢王滎陽一急。

周昌は沛の人なり。其の從兄を周苛と曰ふ。秦の時皆泗水の卒史たり。高祖沛に起るに及び、泗水の守監を撃破す。是に於て周昌周苛卒史より沛公に從ふ。沛公周昌を以て職志(一)となし、周苛を客(二)となす。從ひて關に入りて秦を破る。沛公立ちて漢王となり、周苛を以て御史大夫となし、周昌を中尉となす。漢王の四年、楚漢王を滎陽に圍む、急なり。漢王遁れ出でて去る。而して周苛をして滎陽の城を守らしむ。楚滎陽の城を破り、周苛をして將たらしめんと欲す。苛罵りて曰く、若(三)趣に漢王に降れ、然らずんば、今虜とならんと。項羽怒て周苛を烹る。是に於て乃ち周昌を拜して御史大夫となす。常に從ひて項籍を撃破す。六年中を以て蕭曹等と倶に封ぜらる。周昌を封じて汾陰侯と爲し、周苛の子周成、父事に死せしを以て封じて高景侯となす。昌人となり彊力、敢て直言す。蕭曹等より皆之に卑下す。昌嘗て燕の時入りて事を奏す。高帝方に戚姫を擁す。昌還り走る。高帝逐

從西入二武關一至二咸陽一。沛公立爲二漢王一入二漢中一。還定二三秦一。陳餘擊走二常山王張耳一。耳歸レ漢。漢乃以二張蒼一爲二常山守一。從二淮陰侯一擊レ趙。蒼得二陳餘一。趙地已平。漢王以レ蒼爲二代相一。備二邊寇一。已而從爲二趙相一。相二趙王耳一。耳卒。相二趙王敖一。復徙相二代王一。燕王臧荼反。高祖往擊レ之。蒼以二代相一從攻二臧荼一有レ功。以二六年中一封爲二北平侯一。食二邑千二百戶一。遷爲二計相一。一月。更以二列侯一爲二主計一。四歲。是時蕭何爲二相國一。而張蒼乃自秦時爲二柱下史一。明二習天下圖書計籍一。蒼又善用二算律曆一。故令下蒼以二列侯一居二相府一。領中主郡國上計者上。黥

相たり。燕王臧荼反し、高祖往きて之を擊つ。蒼代の相を以て、從ひて臧荼を攻めて功あり。六年中を以て、封ぜられて北平侯となり、邑千二百戶を食む。遷りて計相(八)となる。一月、更に列侯を以て主計(九)となる。四歲、是の時蕭何相國たり。而して張蒼は乃ち秦に時より柱下史となり、天下の圖書計籍を明習す。蒼又た善く算律曆を用ふ。故に蒼をして列侯を以て相府に居りて、郡國の上計者を領主せしむ。黥布反して亡ぶ。漢皇子長を立てて淮南王となす。而して張蒼之に相たり。十四年遷りて御史大夫となる。

(一) 鄭州陽武縣、陳留に屬す (二) 書を讀み、陰陽季節に關する法則卽ち曆法を究むるを好む (三) 周秦の代柱下史の官あり、殿柱の下に侍立する御史なり (四) 方は方版なり、御史小事を版に書く (五) 礩、罪人を斬る臺 (六) ふくべ、ひさご (七) 國境より外敵の侵入するに備ふ (八) 會計を主どる長官 (九) 計相に同じ、計相の名を更めしなり

卷九十六

張丞相列傳第三十六

張丞相蒼者。陽武人也。好ニ書律曆一。秦時爲ニ御史一。主ニ柱下方書一。有レ罪亡歸。及三沛公略レ地過ニ陽武一。蒼以ニ客從攻ニ南陽一。蒼坐レ法當レ斬。解レ衣伏レ質。身長大肥白如レ瓠。時王陵見而怪ニ其美士一。乃言ニ沛公一赦勿レ斬。遂

張丞相蒼は陽武(一)の人なり。書律暦(二)を好み、秦の時御史となり、柱下(三)の方書(四)を主どる。罪ありて亡げ歸る。沛公地を略し、陽武に過ぎるに及び、蒼客を以て從ひて南陽を攻む。蒼法に坐して斬に當す。衣を解きて質(五)に伏す。身長大肥白にして瓠(六)の如し。時に王陵見て其の美士なるを怪しむ。乃ち沛公に言ひて、赦して斬ること勿からしむ。遂に從ひて西武關に入り、咸陽に至る。沛公立ちて漢王となり、漢中に入る。還りて三秦を定む。陳餘撃ちて常山王張耳を走らす。耳漢に歸す。漢乃ち張蒼を以て常山の守となす。淮陰侯に從ひて趙を撃つ。蒼陳餘を得て趙の地已に平ぐ。漢王蒼を以て代の相となし、邊寇(七)に備ふ。已にして徙りて趙の相となり、趙王耳に相たり。耳卒して趙王敖に相たり。復た徙りて代王に

太史公曰。吾適豐沛。問其遺老。觀故蕭曹樊噲滕公之家。及其素。異哉所聞。方其鼓刀屠狗。賣繒之時。豈自知附驥之尾。垂名漢庭。德流子孫哉。余與他廣通。爲言高祖功臣之興時。若此云。

太史公曰く、吾豊沛に適き、其の遺老に問ひて故の蕭・曹・樊噲・滕公の家を観て、その素(一)に及ぶ。異なるかな、聞く所。其の刀を鼓し、狗を屠り、繒を賣りしの時に方りて、豈自ら驥の尾(二)に附きて、名を漢庭に垂れ、徳子孫に流るゝを知らんや。余他廣(三)と通ず。爲めに高祖の功臣の興る時を言ふこと此の若しと云ふ。

(一) 平素　(二) 蒼蠅驥尾に附きて千里を致す、偉人の後に隨ひて常人の志を伸ぶるを喩ふ　(三) 樊噲の後裔なり

安一為レ亂。齊哀王聞レ之。舉レ兵西。且三入誅二不レ當レ為レ王者一。上將軍呂祿等聞レ之。乃遣レ嬰為二大將一。將レ軍往擊レ之。嬰行至二滎陽一。乃與二絳侯等一謀。因屯二兵滎陽一。風二齊王一以下誅二呂氏一事上。齊兵止不レ前。絳侯等既誅二諸呂一。齊王罷レ兵歸。嬰亦罷レ兵自二滎陽一歸。與二絳侯陳平一共立二代王一。為二孝文皇帝一。孝文皇帝於レ是益二封嬰三千戶一。賜二黃金千斤一。拜為二太尉一。三歲。絳侯勃免レ相就レ國。嬰為二丞相一。罷二太尉官一。是歲。匈奴大入二北地上郡一。令下丞相嬰將二騎八萬五千一往擊中匈奴上。匈奴去。濟北王反。詔乃罷二嬰之兵一。後歲餘。嬰以二丞相一卒。謚曰二懿侯一。子平侯阿代侯。二十八年卒。子彊代侯。十二年。彊有レ罪。絕二歲。元光三年。天子封二灌嬰孫賢一為二臨汝侯一。續二灌氏後一。八歲。坐二行レ賕有一レ罪。國除。

勃相を免じて國に就く。嬰丞相となり、太尉の官を罷む。是の歲匈奴大に北地上郡に入る。丞相嬰をして騎八萬五千を將ゐて往きて匈奴を擊たしむ。匈奴去る。濟北王反す。詔して乃ち嬰の兵を罷む。後歲餘、嬰丞相を以て卒す。謚して懿侯と曰ふ。子平侯阿代りて侯たり。二十八年卒す。子彊代りて侯たり。十二年彊罪あり。絕つこと二歲。元光三年、天子灌嬰の孫賢を封じて臨汝侯となし、灌氏の後を續がしむ。八歲賕を行ひて罪あるに坐し、國除かる。(三)

(一) 諷　(二) 諸の呂氏一族　(三) 財を以て法を枉げて相謝す、非望を達する爲めに贈賄す

布已破。高帝歸。定令三嬰食二潁陰五千戸一。除二前所レ食邑一。凡從得二二千石二二人。別破レ軍十六。降レ城四十六。定レ國一。郡二。縣五十二。得二將軍一二人。柱國相國各一人。二千石十人。嬰自レ破レ布歸。高帝崩。嬰以二列侯一事二孝惠帝。及呂太后一。太后崩。呂祿等以二趙王一。自置爲二將軍一。軍二長

布已に破れ、高帝歸る。定めて嬰をして潁陰の五千戸を食ましめ、前に食む所の邑を除く。凡べて從ひて、二千石を得ること二人、別に軍を破ること十六、城を下すこと四十六、國を定むること一、郡二、縣五十二、將軍を得ること二人、柱國相國各〻一人、二千石十人。嬰布を破るより歸る。高帝崩ず。嬰列侯を以て孝惠帝及び呂太后に事ふ。太后崩ず。呂祿等趙王を以て自ら置き、將軍となり、長安に軍し亂を爲さんとす。齊の哀王之を聞き、兵を擧げて西し、且に入りて、當に王たるべからざる者を誅せんとす。上將軍呂祿等之を聞き、乃ち嬰を遣はして大將となし、軍を將ゐて往きて之を擊たしむ。嬰行きて滎陽に至る。乃ち絳侯等と謀り、因りて兵を滎陽に屯し、齊王に風するに呂氏を誅する事を以てす。齊の兵止まりて前まず。絳侯等既に諸呂を誅す。齊王兵を罷めて歸り、嬰も亦兵を罷めて滎陽より歸る。絳侯陳平と共に代王を立てて孝文皇帝となす。孝文皇帝是に於て嬰に三千戸を益し封じ、黃金千斤を賜ひ、拜して太尉となす。三歲、絳侯

益嬰邑三千戸。其秋。以車騎將軍從擊破燕王臧荼。明年。從至陳取楚王信。還剖符世世勿絕。食潁陰二千五百戸。號曰潁陰侯。以車騎將軍從擊反韓王信於代。至馬邑。受詔。別降樓煩以北六縣。斬代左相。破胡騎於武泉北。復從擊韓信胡騎晉陽下。所將卒斬胡白題將一人。受詔幷將燕趙齊梁楚車騎。擊破胡騎於硰石。至平城。爲胡所圍。從還軍東垣。從擊陳豨。受詔別攻豨丞相侯敞軍曲逆下。破之。卒斬敞及特將五人。降曲逆盧奴上曲陽安國安平。攻下東垣。黥布反。以車騎將軍先出攻布別將於相。破之。斬亞將樓煩將三人。又進擊破布上柱國軍及大司馬軍。又進破布別將肥誅。嬰身生得左司馬一人。所將卒斬其小將十人。追北至淮上。益食二千五百戸。

撃つ。詔を受けて別に豨の丞相侯敞の軍を曲逆の下に攻めて之を破る。卒敞及び特將五人を斬る。曲逆・盧奴・上曲陽・安國・安平を降す。攻めて東垣を下す。黥布反するや、車騎將軍を以て、先づ出でて布の別將を相に攻めて之を破る。亞將樓煩の將三人を斬る。又進みて布の上柱國の軍及び大司馬の軍を擊破す。又進みて布の別將肥誅を破る。嬰身左司馬一人を生得す。將ゐる所の卒其の小將十人を斬る。北ぐるを追ひて淮上に至る。二千五百戸を益し食む。

㈠東城は濠州定遠縣の東南五十五里　㈡和州歷陽縣　㈢吳郡の守　㈣封じて諸侯となす、天子諸侯を封ずるに當り符をさき一半を諸侯に與へて後日の信となす　㈤縣名、朔州の北二百二十里　㈥白題は胡の名

項籍敗二垓下一去也。嬰以二御史大夫一受レ詔。將二車騎一別追二項籍一。至二東城一破レ之。所レ將卒五人共斬二項籍一。皆賜二爵列侯一。降二左右司馬各一人。卒萬二千人。盡得二其軍將吏一。下二東城歷陽一。渡レ江。破二吳郡長吳下一得二吳守一。遂定二吳豫章會稽郡一。還定二淮北一。凡五十二縣。漢王立爲二皇帝一。賜二

項籍垓下に敗れ去るや、嬰御史大夫を以て詔を受けて車騎を將ゐ、別に項籍を追ひて東城(一)に至りて之を破る。將ゐる所の卒五人、共に項籍を斬る。皆爵列侯を賜ふ。左右司馬各一人、卒萬二千人を降す。盡く其の軍の將吏を得、東城(二)歷陽を下す。江を渡りて吳郡の長(三)を吳下に破り、吳の守を得、遂に吳の豫章・會稽郡を定む。還りて淮北を定むること凡そ五十二縣なり。漢王立ち皇帝となり、嬰に邑三千戶を賜ひ益す。其の秋車騎將軍を以て、從ひて燕王臧荼を擊破す。明年從ひて陳に至り、楚王信を取ふ。還りて符(四)を剖きて世世絕つことなく、潁陰の二千五百戶を食む。號して潁陰侯と曰ふ。車騎將軍を以て從ひて、反する韓王信を代に擊ちて馬邑に至る。詔を受けて別に樓煩以北の六縣を降し、代の左相を斬り、胡騎を武泉(五)の北に破る。復た從ひて韓信が胡騎を晉陽の下に擊つ。將ゐる所の卒胡の白題(六)將一人を斬る。詔を受けて、燕趙齊梁楚の車騎を幷せ將ゐ、胡騎を硰石に擊破す。平城に至りて胡に圍まる。從ひ還りて東垣に軍す。從ひて陳豨を

大夫一受レ詔將二郎中騎兵一。東屬二相國韓信一。擊二破齊軍於歷下一。所レ將卒虜二車騎將軍華毋傷一。及將吏四十六人一。降二下臨菑一。得二齊守相田光一。追二齊相田橫一。至二嬴博一破二其騎一。所レ將卒斬二騎將一人一。生二得騎將四人一。攻二下嬴博一。破二齊將軍田吸千乘一。所レ將卒斬レ吸。東從二韓信一。攻二龍且。留公於高密一。卒斬二龍且一。生二得右司馬連尹各一人一。樓煩將十人一。身生二得亞將周蘭一。齊地已定。韓信自立爲二齊王一。使二嬰別將一。擊二楚將公杲於魯北一破レ之。轉南破二薛郡長一。身虜二騎將一人一。攻二博陽一前至二下相以東南僮取慮徐一。度レ淮。盡降二其城邑一。至二廣陵一。項羽使二項聲薛公郯公復定二淮北一。嬰度レ淮。北擊二破項聲郯公下邳一。斬二薛公一。下二下邳一。擊二破楚騎於平陽一。遂降二彭城一。虜二柱國項佗一。降二留薛沛酇蕭相一。攻二苦譙一。復得二亞將周蘭一。與二漢王一會二頤鄉一。從擊二項籍軍於陳下一破レ之。所レ將卒斬二樓煩將二人一。虜二騎將八人一。賜益二食邑二千五百戶一。

て復た淮北を定めしむ。嬰淮を度り、北項聲郯公を下邳に擊破し、薛公を斬り、下邳を下す。楚の騎を平陽に擊破し、遂に彭城を降し、柱國項佗を虜にす。留・薛・沛・酇・蕭・相を降し、苦譙を攻む。復た亞將周蘭を得。漢王と頤鄉に會す。從ひて項籍の軍を陳下に擊ちて之を破る。將ゐる所の卒樓煩の將二人を斬り、騎將八人を虜にす。賜ひて食邑二千五百戶を益す。

(一) 糧道、糧を輸送する途　(二) 柘縣の令　(三) もと縣の名なり、其の縣の人騎射を善くす、故に射士を名づけて樓煩といふ、必しも其の地の人と限らず　(四) 楚の官名、大夫なり　(五) 留縣の令、沛郡にあり　(六) 縣の名、北海にあり　(七) 縣名

將卒斬右司馬騎將各一人。擊破柘公王武軍於燕西。所將卒斬樓煩將五人。連尹一人。擊王武別將桓嬰白馬下破之。所將卒斬都尉一人。以騎渡河。南送漢王。到雒陽。使北迎相國韓信軍於邯鄲。還至敖倉。嬰遷爲御史大夫。三年。以列侯食邑杜平鄉。以御史

一人を斬る。騎を以て河を渡り、南漢王を送りて雒陽に到る。使して北相國韓信の軍を邯鄲に迎ふ。還りて敖倉に至る。嬰遷りて御史大夫となる。三年列侯を以て邑を杜の平鄕に食む。御史大夫を以て詔を受け、郎中騎兵を將ゐ、東相國韓信に屬し、齊の軍を歷下に擊破す。將ゐる所の卒車騎將軍華毋傷及び將吏四十六人を虜にす。臨菑を降下し齊の守相田光を得、齊の相田横を追ひて嬴博に至り、其の騎を破る。將ゐる所の卒騎將一人を斬り、騎將四人を生得し、攻めて嬴博を下す。齊の將軍田吸を千乘に破る。將ゐる所の卒吸を斬る。東韓信に從ひ、龍且(五)留公を高密に攻む。卒龍且を斬る。右司馬連尹各〻一人、樓煩の將十人を生得し、身亞將周蘭(六)を生得す。齊の地已に定まり、韓信自立して齊王となる。嬰をして別將たらしめ、楚の將公杲を魯の北に擊ちて之を破る。轉じて南し薛郡の長を破り、身騎將一人を虜にす。博陽を攻め、前みて下相より以て東南僮・取慮・徐(七)に至る。淮を度り、盡く其の城邑を降し、廣陵に至る。項羽、項聲・薛公・郯公をし

下櫟陽。降塞王。還圍章邯於廢丘。未拔。從東出臨晉關。擊降殷王。定其地。擊項羽將龍且。魏相項他軍定陶南。疾戰破之。賜嬰爵列侯。號昌文侯。食杜平鄉。復以中謁者從降下碭以至彭城。項羽擊大破漢王。漢王遁而西。嬰從還軍於雍丘。王武。魏公申徒反。從擊破之。攻下黃。西收兵軍於滎陽。楚騎來衆。漢王乃擇軍中可爲車騎將者。皆推故秦騎士重泉人李必。駱甲。習騎兵。今爲校尉。可爲騎將。漢王欲拜之。必甲曰。臣故秦民。恐軍不信臣。臣願得大王左右善騎者傅之。灌嬰雖少。然數力戰。乃拜灌嬰爲中大夫。令李必。駱甲爲左右校尉。將郎中騎兵擊楚騎於滎陽東。大破之。受詔。別擊楚軍後。絕其餉道。起陽武至襄邑。擊項羽之將項冠於魯下。破之。所

陽の東に撃ちて大に之を破る。

(一) 帛、きぬ、絹布の總稱　(二) 官名　(三) 劇戰す　(四) 爵土にあらず美號を加ふるのみ、下の昌文君といふ亦同じ　(五) 流を橫斷す　(六) 杜縣平鄉　(七) もと楚の將にて漢に降りし人　(八) 曹州考城縣の東二十四里　(九) 隨從者といふに同じ

詔を受けて別に楚の軍の後を撃ち、其の餉(一)道を絕つ。陽武より起りて襄邑に至る。項羽の將項冠を魯下に撃ちて之を破る。將ゐる所の卒右司馬騎將各々一人を斬る。柘公(二)王武の軍を燕西に撃破して、將ゐる所の卒樓煩(三)の將五人連尹(四)一人を斬る。王武の別將桓嬰を白馬の下に撃ちて之を破る。將ゐる所の卒、都尉

攻二秦軍亳南開封曲遇一戰疾力。賜二爵執帛一。號二宣陵君一。從攻二陽武以西至二雒陽一。破二秦軍尸北一。北絕二河津一。南破二南陽守齮陽城東一。遂定二南陽郡一。西入二武關一。戰二於藍田一疾力。至二霸上一。賜二爵執珪一。號二昌文君一。沛公立爲二漢王一。拜レ嬰爲二郎中一。從入二漢中一。十月。拜爲二中謁者一。從還定二三秦一。

して中謁者となす。從ひて還りて三秦を定む。櫟陽を下し、塞王を降す。還りて章邯を廢丘に圍む。未だ拔けず。從つて東臨晉關を出で、擊ちて殷王を降し、其の地を定む。項羽の將龍且、魏の相項他の軍を定陶の南に擊ち、疾く戰ひて之を破る。嬰に爵列侯を賜ひ、昌文侯と號す。(六)杜の平鄉に食む。復た中謁者を以て從ひて碭より以て彭城に至るまでを降下す。項羽擊ちて大に漢王を破る。漢王遁げて西す。嬰從ひ還りて雍丘に軍す。(七)王武魏公申徒反す。從ひ擊ちて之を破る。攻めて黃(八)を下す。西兵を收めて滎陽に軍す。楚の騎來るもの衆し。漢王乃ち軍中車騎將となすべき者を擇ぶ。皆故の秦の騎士重泉の人李必・駱甲を推して、騎兵に習ひ、今校尉たり、騎將となすべしとす。漢王之を拜せんと欲す。必甲曰く、臣故秦の民なり。恐らくは軍臣を信ぜざらん。臣願くは大王の左右の騎を善くする者を得て之に傅たらん。(九)灌嬰、少しと雖も、然れども數ゝ力戰すと。乃ち灌嬰を拜して中大夫となし、李必・駱甲をして左右校尉たらしむ。郎中騎兵を將ゐて、楚の騎を滎

戶。以太僕擊陳豨黥布軍。陷陳卻敵。益食千戶。定食汝陰六千九百戶。除前所食。嬰自上初起沛。常爲太僕。竟高祖崩。以太僕事孝惠。孝惠帝及高后。德嬰之脫孝惠魯元於下邑之間也。乃賜嬰縣北第第一。曰近我。以尊異之。孝惠帝崩。以太僕事高后。高后崩。代王之來。嬰以太僕與東牟侯入淸宮。廢少帝。以天子法駕迎代王代邸。與大臣共立爲孝文皇帝。復爲太僕。八歲卒。諡爲文侯。子夷侯竈立。七年卒。子共侯賜立。三十一年卒。子侯頗尙平陽公主。立十九歲。元鼎二年。坐與父御婢姦罪。自殺。國除。

潁陰侯灌嬰者。睢陽販繒者也。高帝之爲沛公。略地至雍丘下。章邯敗殺項梁。而沛公還軍於碭。嬰初以中涓從擊破東郡尉於成武及秦軍於杠里。疾鬬。賜爵七大夫。從

潁陰侯灌嬰は睢陽の繒を販る者なり。(一)高祖の沛公となり、地を略して雍丘の下に至るや、章邯敗りて項梁を殺す。而して沛公還りて碭に軍す。嬰初め中涓(二)を以て、從ひて東郡の尉を成武に擊ち破る。秦の軍に及び杠里に於いて疾鬬(三)す。爵七大夫を賜ふ。從ひて秦の軍を亳の南開封曲遇に攻め、戰ひ疾く力む。爵執帛を賜ひ、宣陵君と號す。(四)從ひて陽武以西雒陽に至るまでを攻む。秦の軍を尸北に破り、北河津を絕り、(五)南南陽の守齮を陽城の東に破り、遂に南陽郡を定む。西武關に入り藍田に戰ひ、疾く力む。霸上に至る。爵執珪を賜ひ、昌文君と號す。沛公立ちて漢王となり、嬰を拜して郎中となす。從ひて漢中に入る。十月拜

擊二韓信軍胡騎晉陽旁一。大破レ之。追レ北至二平城一。爲二胡所一レ圍。七日不レ得レ通。高帝使三使厚遺二閼氏一。冒頓開二圍一角一。高帝出欲レ馳。嬰固徐行。弩皆持レ滿外向。卒得レ脫。益二食嬰細陽千戶一。復以二太僕一從擊二胡騎句注北一。大破レ之。以二太僕一擊二胡騎平城南一。三陷レ陳。功爲レ多。賜二所レ奪邑五百

を陷る。功多しとなす。奪ふ所の邑五百戶を賜ふ。太僕を以て陳豨・布の軍を擊ち、陳を陷れ、敵を卻く。千戶を益し食む。定めて汝陰の六千九百戶を食み、前に食む所を除く。嬰上初めて沛に起りしより、常に太僕となりて高祖の崩を竟り、(三)太僕を以て孝惠に事ふ。孝惠帝及び高后嬰の孝惠魯元を下邑の間に脫せしを德とするや、乃嬰に縣北の第第一(四)を賜ふ。曰く、我に近づけよと。以て之を尊異す。孝惠帝崩ず。太僕を以て高后に事ふ。高后崩ず。代王の來るや、嬰太僕を以て東牟侯と入りて宮を淸む。少帝を廢し、天子の法駕を以て代王を代の邸に迎ふ。大臣と共に立てて孝文皇帝となす。復た太僕となす。八歲にして卒す。諡して文侯となす。子夷侯竈立つ。七年にして卒す。子共侯賜立つ。三十一年にして卒す。子の侯頗平陽公主に尙す。(五)立ちて十九歲、元鼎二年父の御婢と姦せし罪に坐して自殺し國除かる。

(一) 縣名、朔州善陽縣の界にあり (二) 地名、汝南に屬す (三) 終に高祖の崩ずるまで常に太僕となりてつゞけたるをいふ (四) 北闕に近き第宅の第一等のもの、漢書には縣の字なし從ふべし (五) 天子の女に配す、天子の女を娶る

十八人。降卒八百五十人。得印一匱。因復常奉車。從擊秦軍雒陽東。以兵車趣攻戰疾。賜爵封轉爲滕公。因復奉車。從攻南陽。戰於藍田芷陽。以兵車趣攻戰疾。至霸上。項羽至。滅秦。立沛公爲漢王。漢王賜嬰爵列侯。號昭平侯。復爲太僕。從入蜀漢。還定三秦。從擊項籍。至彭城。項羽大破漢軍。漢王敗不利馳去。見孝惠魯元。載之。漢王急。馬罷。虜在後。常蹶兩兒欲棄之。嬰常收竟載之徐行。面雍樹乃馳。漢王怒。行欲斬嬰者十餘。卒得脫而致孝惠魯元於豐。漢王既至滎陽。收散兵復振。賜嬰食祈陽。復常奉車。從擊項籍。追至陳。卒定楚至魯。益食茲氏。

漢王立爲帝。其秋。燕王臧荼反。嬰以太僕從擊荼。明年。從至陳取楚王信。更食汝陰。剖符世世勿絶。以太僕從擊代。至武泉雲中。益食千戸。因從

漢王立ちて帝となる。其の秋燕王臧荼反す。嬰太僕を以て、從ひて荼を擊つ。明年從つて陳に至り、楚王信を取ふ。更に汝陰に食む。符を剖き世世絶つこと勿からしむ。太僕を以て、從つて代を擊ちて(二)武泉雲中に至る。千戸を益し食む。因りて從ひて韓信の軍胡騎を晉陽の旁に擊ちて大に之を破り、北ぐるを追ひて平城に至る。胡に圍まれ、七日通ずることを得ず。高帝使をして厚く閼氏に遺らしめて、冒頓圍の一角を開く。高帝出でて馳せんと欲す。嬰固く徐行す。弩皆滿を持して外に向ふ。卒に脫することを得。嬰に細陽の千戸を益し食ましむ。復た太僕を以て、從ひて胡騎を句注の北に擊ちて大に之を破る。太僕を以て胡騎を平城の南に擊ちて三たび陳

嬰與㆓蕭何㆒降㆓泗水監平㆒。平以㆓胡陵㆒降。賜㆓嬰爵五大夫㆒。從擊㆓秦軍碭東㆒。攻㆓濟陽㆒下㆓戸牖㆒。破㆓李由軍雍丘下㆒。以㆓兵車㆒趣攻戰疾。賜㆓爵執帛㆒。常以㆓太僕㆒奉㆑車。從擊㆓章邯軍東阿濮陽下㆒。以㆓兵車㆒趣攻戰疾。破㆑之。賜㆓爵執珪㆒。復常奉㆑車。從擊㆓趙賁軍開封。楊熊軍曲遇㆒。嬰從捕虜六

漢王となす。漢王嬰に爵列侯を賜ひ、昭平侯と號す。復た太僕となる。從ひて蜀漢に入る。還りて三秦を定む。從ひて項籍を撃ちて彭城に至る。項羽大に漢軍を破る。漢王敗れて利あらず馳せ去る。(九)孝景魯元を見て之を載す。漢王急にして馬罷れ、(一〇)虜後ろにあり、常に兩兒を蹶し、之を弃てんと欲す。嬰常に收め、竟に之を載せて徐行す。(一一)面雍樹し、乃ち馳す。漢王怒り、行く〳〵嬰を斬らんと欲するもの十餘たび。卒に脱することを得て、孝惠魯元を豐に致す。漢王既に滎陽に至り、(一二)散兵を收めて復た振ふ。嬰に賜ひて祈陽を食ましむ。復た常に車に奉ず。從ひて項籍を撃ちて、追ひて陳に至り、卒に楚を定めに魯に至る。(一三)茲氏を益し食む。

(一) 廐の司御者 (二) 告は白なり、官に告ぐ (三) 吏となりて人を傷くるは其の罪重し (四) 再審に及び前判決翻さる (五) 嬰高祖の事を僞證せしにより高祖の罪に連坐す (六) むちうつ。笞刑なり (七) 平は人名。泗水の監守 (八) 箱、印一箱を鹵獲したるなり (九) 漢王の二子 (一〇) 疲 (一一) 小兒を抱く、南陽の人小兒を抱くを雍樹といふ、面とは大人兩首を以て小兒に對し臨むをいふ、小兒大人の頸に抱きて樹に懸るが如きさまなるをいふと (一二) 四散したる兵 (一三) 縣名

吏一。與二高祖一相愛。高祖戲而傷レ嬰。人有レ告二高祖一。高祖時爲二亭長一。重坐レ傷レ人。告故不レ傷レ嬰。嬰證レ之。後獄覆。嬰坐二高祖一繫歲餘。掠笞數百。終以レ是脫二高祖一。高祖之初。與二徒屬一欲レ攻レ沛也。嬰時以二縣令史一。爲二高祖一使。上降レ沛一日。高祖爲二沛公一。賜二嬰爵七大夫一。以爲二太僕一。從攻二胡陵一。

以て高祖を脫せしむ。高祖の初め徒屬と沛を攻めんと欲するや、嬰時に縣の令史を以て高祖の爲めに使す。上沛を降す一日、高祖沛公となり、嬰に爵七大夫を賜ひ以て太僕となす。從ひて胡陵を攻む。嬰蕭何と泗水の監平(七)を降す。平胡陵を以て降る。嬰に爵五大夫を賜ふ。從ひて秦の軍を碭の東に擊ち濟陽を攻め、戶牖を下す。李由の軍を雍丘の下に破り、兵車を以て趣かに攻め戰ふこと疾し。爵執帛を賜ふ。常に太僕を以て車に奉ず。從ひて章邯の軍を東阿濮陽の下に擊つ。兵車を以て趣かに攻め戰ふこと疾し。之を破る。爵執珪を賜ふ。復た常に車に奉じ、從ひて趙賁の軍を開封に、楊熊の軍を曲遇に擊つ。嬰從ひて捕虜六十八人、卒を降すこと八百五十人、印を得ること一匱(八)。因りて復た常に車に奉ず。從ひて秦の軍を雒陽の東に擊つ。兵車を以て趣かに攻め戰ふこと疾し、爵封を賜ひ、轉じて滕公となる。因りて復た車に奉ず。從ひて南陽を攻め藍田芷陽に戰ふ。兵車を以て趣かに攻めて戰ふこと疾し。霸上に至る。項羽至り、秦を滅し、沛公を立てて

歲商卒。諡爲二景侯一。子寄代侯。天下稱二酈況賣レ交也。孝景前三年。吳楚齊趙反。上以レ寄爲二將軍一。圍二趙城一。十月。不レ能レ下。得二兪侯欒布自レ平レ齊來一。乃下二趙城一。滅レ趙。王自殺。除レ國。孝景中二年。寄欲下取二平原君一爲中夫人上。景帝怒下二寄吏一。有レ罪奪レ侯。景帝乃以二商他子堅一。封爲二繆侯一。續二酈氏後一。繆靖侯卒。子康侯遂成立。遂成卒。子懷侯世宗立。世宗卒。子侯終根立。爲二大常一。坐レ法國除。

む。繆靖侯卒し、子康侯遂成立つ。遂成卒し、子懷侯世宗立つ。世宗卒し、子侯終根立つ。大常となる。法に坐して國除かる。

〔一〕孝惠帝及び高后　〔二〕官軍を治むる能はず　〔三〕諸の呂氏の一族　〔四〕周勃　〔五〕欺、詐　〔六〕已の爲めをのみ圖りて友誼を修めざるをいふ、私人として親交ある呂祿を紿きしは社稷を安んずる所以なるを稱揚す　〔七〕兪は縣名　〔八〕趙王　〔九〕漢書には平原君の姉とす　〔一〇〕取は娶るをいふ

汝陰侯夏侯嬰。沛人也。爲二沛廐司御一。每レ送二使客一。還過二沛泗上亭一。與二高祖一語。未三嘗不二レ移レ日也。嬰已而試補二縣

汝陰侯夏侯嬰は沛の人なり。沛の廐司御〔一〕となり、使客を送る每に還りて沛の泗上亭に過ぎり、高祖と語りて未だ嘗て日を移さずんはあらず。嬰已にして試みられて縣の吏に補し、高祖と相愛す。高祖戲れて嬰を傷つく。人高祖を告ぐる〔二〕ものあり。高祖時に亭長となり、重く〔三〕人を傷くるに坐す。告ぐ、故と嬰を傷けずと。嬰之を證す。後獄〔四〕覆す。嬰〔五〕高祖に坐し、繫がるゝこと歲餘、掠〔六〕笞數百。終に是を

別破ㇾ軍三。降ニ定郡一六。縣七十三。得下丞相守相大將各一人。小將二人。二千石以下至ニ六百石一十九人上。

商事ニ孝惠高后時一。商病不ㇾ治。其子寄字況。與ニ呂祿一善。及ニ高后崩一。大臣欲ㇾ誅ニ諸呂一。呂祿爲ニ將軍一。軍ニ於北軍一。太尉勃不ㇾ得ㇾ入ニ北軍一。於是乃使ニ人劫ニ酈商一。令三其子況紿ニ呂祿一。呂祿信ㇾ之。故與出游。而太尉勃乃得三入據ニ北軍一。遂誅ニ諸呂一。是

商(一)孝惠高后の時に事ふ。商病みて治(二)せず。其の子寄、字は況。呂祿と善し。高后崩ずるに及び、大臣諸呂(三)を誅せんと欲す。呂祿將軍となりて北軍に軍す。太尉勃(四)北軍に入ることを得ず。是に於て乃ち人をして酈商を劫かさしめ、其の子況をして呂祿を紿(五)かしむ。呂祿之を信ず。故に與に出でて游ぶ。而して太尉勃乃ち入りて北軍に據ることを得、遂に諸呂を誅す。是の歲商卒す。諡して景侯となす。子寄、代りて侯たり。天下酈況交(六)を賣ると稱す。孝景前三年吳楚齊趙反す。上寄を以て將軍となし、趙城を圍ましむ。十月、下す能はず。兪侯欒布(七)の齊を平ぐるより來りて、乃ち趙城を下すを得て、趙を滅す。王(八)自殺し、國を除かる。孝景中の二年寄、平原(九)君(一〇)を取りて夫人となさんと欲す。景帝怒り、寄を吏に下す。罪ありて侯を奪はる。景帝乃ち商の他の子堅を以て封じて繆侯となし酈氏の後を續がし

類軍栒邑。蘇駔軍於泥陽。賜食邑武成六千戶。以隴西都尉。從擊項籍軍。五月。出鉅野。與鍾離眛戰。疾鬭。受梁相國印。益食邑四千戶。以梁相國。將。從擊項羽。二歲。三月。攻胡陵。項羽既已死。漢王爲帝。其秋。燕王臧荼反。商以將軍從擊荼戰龍脫。先登陷陣。破荼軍易下。卻敵。遷爲右丞相。賜爵列侯。與諸侯剖符。世世勿絕。食邑涿五千戶。號曰涿侯。以右丞相別定上谷。因攻代。受趙相國印。以右丞相趙相國。別與絳侯等定代鴈門。得代丞相程縱。守相郭同。將軍已下至六百石十九人。還以將軍爲太上皇衞。一歲。七月。以右丞相擊陳豨殘東垣。又以右丞相從高帝擊黥布。攻其前拒。陷兩陣。得以破布軍。更食曲周五千一百戶。除前所食。凡

て太上皇の衞(一六)となる。一歲。七月、右丞相を以て陳豨を擊ち東垣(とうゑん)を殘(ざん)(一七)す。又右丞相を以て高帝に從ひて黥布を擊ち、其の前拒(ぜんきよ)(一八)を攻めて兩陣を陷れ、以て布の軍を破ることを得。更に曲周五千一百戶を食む。前(さき)に食(は)む所を除く。凡そ別に軍を破ること三、郡を降し定むること六、縣七十三。丞相守相大將各〻一人、小將二人、二千石以下六百石に至るまで十九人を得。

(一) 縣の名、陳留に屬す (二) 地名 (三) 漢中旬陽縣 (四) 北地は寧州、上郡は鄜州 (五) 縣名 安定に屬す (六) 幽州にあり (七) 寧州羅川縣の北三十一里にあり (八) 劇しき戰鬪 (九) 地名、燕趙の界にあり (一〇) 地名、易州易縣 (一一) 却 (一二) 他の諸侯と同樣に天子商を封じて諸侯となし、その信として符を割く (一三) 涿は幽州にあり (一四) 鴈州 (一五) 捕虜とす (一六) 近衞 (一七) 殘害す (一八) 前衞の軍、拒は方形の陣をいふ。一に前和に作る、和は軍門なり、漢書には前垣に作る

留。六月餘。商以二將卒四千人一。屬二沛公於岐一。從攻二長社一先登。賜レ爵封二信成君一。從二沛公一攻二緱氏一絕二河津一。破二秦軍洛陽東一。從攻二下宛穰一。定二十七縣一。別將攻二旬關一。定二漢中一。項羽滅レ秦。立二沛公一爲二漢王一。漢王賜二商爵信成君一。以二將軍一爲二隴西都尉一。別將定二北地上郡一。破二雍將軍烏氏。周

十七縣を定む。別に將として旬(三)關を攻め、漢中を定む。項羽秦を滅し、沛公を立てて漢王となす。漢王商に爵信成君を賜ふ。將軍を以て隴西の都尉となる。別に將として北地(四)・上郡を定め、雍將軍を烏氏(五)に、周類の軍を栒邑(六)に、蘇駔の軍を泥陽(七)に破る。食邑を武成六千戸に賜ふ。隴西の都尉を以て從ひて項籍の軍を擊つ。五月鉅野に出で、鐘離昧と戰ひて疾鬭(八)す。梁相國の印を受け、食邑四千戸を益す。梁の相國を以て將とし、從ひて項羽を擊つ、二歲。三月胡陵を攻む。項羽既に已に死す。漢王帝となる。其の秋燕王臧荼反す。商將軍を以て從ひて荼を擊ち(九)龍脫に戰ふ。先登して、陣を陷れ、荼の軍を易下(一〇)に破り、敵を卻く(一一)。還りて右丞相となり、爵列侯を賜ふ。諸侯と符を剖き(一二)、世世絕つ勿からしむ。邑を涿(一三)の五千戸に食み、號して涿侯と曰ひ、右丞相を以て別に上谷(一四)を定む。因りて代を攻めて趙相國の印を受け、右丞相趙の相國を以て別に絳侯等と代の鴈門を定め、代の丞相程縱、守相郭同、將軍已下六百石に至るまで十九人を得(一五)、還りて將軍を以

年。樊噲卒。謚爲二武侯一。子伉代侯。而伉母呂須亦爲二臨光侯一。高后時。用レ事專レ權。大臣盡畏レ之。伉代侯九歲。高后崩。大臣誅二諸呂呂須婘屬一。因誅レ伉。舞陽侯中絕數月。孝文帝既立。乃復封二噲他庶子市人一爲二舞陽侯一。復二故爵邑一。市人立二十九歲卒。謚爲二荒侯一。子他廣代侯。六歲侯家舍人得二罪他廣一。怨レ之。乃上書曰。荒侯市人病不レ能レ爲レ人。令下其夫人與二其弟一亂上而生二他廣一。他廣實非二荒侯子一。不レ當二代後一。詔下レ吏。孝景中六年。他廣奪レ侯爲二庶人一。國除。

て他廣を生む。他廣は實は荒侯の子に非ず、當に代り後たるべからずと。(六)詔して吏に下す。孝景中六年他廣侯を奪はれて庶人となる。國除かる。

(一) 誹謗す、譖す (二) 天子の崩御、晏は晩なり、天子は常に晏起して朝を視る、臣下の禮として天子の崩御を崩御とするに忍びず、なほ宮中晏く駕して出づべしとなすなり (三) 譖毀 (四) 人道を行ふ能はず (五) 淫す、密通す (六) 父に代りてその後嗣となるべからず

曲周侯酈商者。高陽人。陳勝起時。商聚二少年一。東西略レ人得二數千一。沛公略レ地至二陳

曲周侯酈商は高陽の人なり。(一)陳勝の起る時、商少年を聚め、東西人を略して數千を得たり。沛公地を略して陳留に至る。六月餘、商將卒四千人を以て沛公に岐に屬す。(二)從ひて長社を攻めて先登す。爵を賜ひて信成君に封ぜらる。沛公に從ひて緱氏を攻め河津を絕り、秦軍を洛陽の東に破り從ひて宛穰を攻め下し、

其後盧綰反。高帝使下噲以二相國一擊上レ燕。是時高帝病甚。人有レ惡レ噲。黨二於呂氏一。即上一日宮車晏駕。則噲欲下以レ兵盡誅中滅戚氏趙王如意之屬上。高帝聞レ之大怒。乃使下陳平載二絳侯一。代將而即二軍中一斬上レ噲。陳平畏二呂后一。執レ噲詣二長安一。至則高祖已崩。呂后釋レ噲。使レ復二爵邑一。孝惠六

其の後盧綰反す。高帝噲をして相國を以て燕を擊たしむ。是の時高帝病甚し。人の噲を惡するものあり(一)。呂氏に黨す、即し上一日宮車晏駕せば(二)、則ち噲兵を以て盡く戚氏趙王如意の屬を誅滅せんと欲すと。高帝之を聞きて大に怒り、乃ち陳平をして絳侯を載せ、代り將として軍中に即きて噲を斬らしむ。陳平呂后を畏れ噲を執へて長安に詣る。至れば則ち高祖已に崩ず。呂后噲を釋し、爵邑を復せしむ。孝惠の六年樊噲卒す。謚して武侯となす。子伉代りて侯たり。而して伉の母呂須も亦臨光侯となる。高后の時事を用ひ、權を專にし、大臣盡く之を畏る。伉代りて侯たること九歲、高后崩ず。大臣諸呂呂須の婘屬(三)を誅し、因りて伉を誅す。舞陽侯中絕すること數月。孝文帝既に立ちて、乃ち復た噲の他の庶子市人を封じて舞陽侯となし、故の爵邑に復す。市人立ちて二十九歲にして卒す。謚して荒侯となす。子他廣代りて侯なり。六歲侯家の舍人罪を他廣に得、之を怨む。乃ち上書して曰く、荒侯市人病みて人となる能はず(四)、其の夫人をし其の弟と亂(五)せしめ

僕解福等十人。與諸將共定代郷邑七十三。其後燕王盧綰反。噲以相國擊盧綰。破其丞相抵薊南。定燕地。凡縣十八。郷邑五十一。益食邑千三百戶。定食舞陽五千四百戶。從斬首百七十六級。虜二百八十八人。別破軍七。下城五。定郡六。縣五十二。得丞相一人。將軍十二人。二千石已下至三百石十一人。噲以呂后女弟呂須為婦。生子伉。故其比諸將最親。先黥布反時。高祖嘗病甚。惡見人。臥禁中。詔戶者無得入羣臣。羣臣絳灌等莫敢入。十餘日。噲乃排闥直入。大臣隨之。上獨枕一宦者臥。噲等見上流涕曰。始陛下與臣等起豐沛。定天下。何其壯也。今天下已定。又何憊也。且陛下病甚。大臣震恐。不見臣等計事。顧獨與一宦者絕乎。且陛下獨不見趙高之事乎。高帝笑而起。

十餘日。噲乃ち闥(九)を排きて直に入り、大臣之に隨ふ。上獨り一宦者に枕して臥す。噲等上を見て流涕して曰く、始め陛下臣等と豐沛に起り、天下を定む、何ぞ其れ壯なるや。今天下已に定まる。又何ぞ憊る(一〇)るや。且つ陛下病甚し。大臣震恐す。臣等を見て事を計らず、顧つて獨り一宦者と與に絕つか。且つ陛下獨り趙高の事を見ずやと。高帝笑ひて起つ。

(一) 地名、荊州の縣 (二) 殺傷する所多きをいふ (三) 朔州定襄縣の界にあり (四) 地名。代にあり (五) 妹 (六) 諸將に比して樊噲は最も高祖に親密なり (七) 人に逢ふことを嫌ふ (八) 門戸を守る者 (九) 宮中の小門 (一〇) 疲れ極まる

曼丘臣軍㆒。戰㆓襄國㆒。破㆓柏人㆒。先登。降㆓定淸河常山㆒。凡二十七縣。殘㆓東垣㆒。還爲㆓左丞相㆒。破㆓得綦毋卬尹潘軍於無終廣昌㆒。破㆓綦別將胡人王黃軍於代南㆒。因擊㆓韓信軍於參合㆒。軍所㆑將卒斬㆓韓信㆒。破㆓豨胡騎橫谷㆒。斬㆓將軍趙既㆒。虜㆓代丞相馮梁。守孫奮。大將王黃。將軍太卜。太

凡そ二十七縣を降し定む。東垣を殘ふ。(二)遷りて左丞相となる。綦毋卬尹潘の軍を無終廣昌に破り得、綦の別將胡人王黃の軍を代の南に破る。因りて韓信の軍を參合(三)に擊つ。軍將ゐる所の卒韓信を斬る。豨の胡騎を橫谷(四)に破り、將軍趙既を斬り、代の丞相馮梁、守孫奮、大將王黃、將軍太卜、太僕解福章等十人を虜にす。諸將と共に代の鄕邑七十三を定む。其の後燕王盧綰反す。噲相國を以て盧綰を擊ち、其の丞相を破り、薊の南に抵る。燕の地を定むること凡そ縣十八、鄕邑五十一。邑千三百戶を益し食む。定めて舞陽五千四百戶を食む。從ひて首を斬ること百七十六級、虜二百八十八人、別に軍を破ること七、城を下すこと五、郡を定むること六、縣五十二。丞相一人、將軍十二人、二千石已下三百石に至るもの十一人を得。噲呂后の女弟呂須(五)を以て婦となす。子伉を生む。故に其の諸將に比するに最(六)も親し。先に黥布反せし時、高祖嘗て病甚し。(七)人を見ることを惡み、禁中に臥し、(八)戶者に詔して羣臣を入るゝを得るなし。羣臣絳灌等敢へて入る莫きこと

御レ敵。還爲二將軍一。攻二趙賁一下二酈槐里柳中咸陽。灌二廢丘。最。至二櫟陽。賜二食邑杜之樊鄕。從攻二項籍。居二煮棗一。擊二破王武程處軍於外黄。攻二鄒魯瑕丘薛一。項羽敗二漢王於彭城一。盡復取二魯梁地。噲還至二滎陽。益二食平陰二千戸。以二將軍一守二廣武。一歳項羽引而東。從二高祖一擊二項籍。下二陽夏。虜二楚周將軍卒四千人。圍二項籍於陳一大破レ之。屠二胡陵。項籍既死。漢王爲レ帝。以二噲堅守戰有レ功。益二食八百戸。從二高帝一收二反燕王臧荼。虜レ荼定二燕地。楚王韓信反。噲從至レ陳。取レ信定レ楚。更賜二爵列侯。與二諸侯一剖レ符。世世勿レ絶。食二舞陽號爲二舞陽侯。除二前所レ食。以二將軍一從二高祖一攻二反韓王信於代。自二霍人一以往至二雲中。與二絳侯等一共定レ之。益二食千五百戸。

を以て八百戸を益し食む。高帝に従ひ、反する燕王臧荼を收め、荼を虜にして燕の地を定む。楚王韓信反す。噲従ひて陳に至り、信を取らへて楚を定む。更に爵列侯を賜ふ。諸侯と符(五)を剖き、世世絶つ勿らしむ。(六)舞陽を食む。號して舞陽侯となす。前に食む所を除く。將軍を以て高祖に従ひ、反する韓王信を代に攻む。(七)霍人より以往雲中に至るまで絳侯等と共に之を定む。千五百戸を益し食む。

(一) 西隴は西の縣名 (二) 痛は擁なり、抱きもつ (三) 水を以て廢丘城に灌ぐ、其の功第一なり (四) 杜陵、山名、秦嶺 (五) 天子諸侯を封ずるとき後日の信として割符をさきて天子諸侯各その一半を取る (六) 噲の邑 (七) 雲中郡朔州

因擊二陳豨。與二

因りて稀破を撃ち、曼丘臣の軍と襄國に戰ひ、(一)栢人を破りて先登す。淸河常山

明日項羽入居咸陽。立沛公為漢王。漢王賜噲爵為列侯。號臨武侯。遷為郎中。從入漢中。還定三秦。別擊西丞白水北。雍輕車騎於雍南。破之。從攻雍斄城。先登。擊章平軍好畤。攻城先登。陷陣。斬縣令丞各一人首十一級。虜二十人。遷郎中騎將。從擊秦車騎壤東。

明日項羽入りて咸陽を屠る。沛公を立てて漢王となす。漢王噲に爵を賜ひて列侯となし、臨武侯と號す。遷りて郎中となり、從ひて漢中に入る。還りて三秦を定む。別に(一)西の丞を白水の北に擊つ。輕車騎を雍の南に雍し(二)、之を破る。從ひて雍の斄城を攻めて先登す。章平の軍を好時に擊ち、城を攻めて先登し、陣を陷る。縣の令丞各〻一人首十一級を斬り、虜二十人。郎中騎將に遷る。從ひて秦の車騎を壤の東に擊ちて敵を卻く。遷りて將軍となる。趙賁を攻め、郿・槐・里・柳中・咸陽を下す。廢丘(三)に灌ぐ、最たり。櫟陽に至り、食邑を杜の樊鄉に賜ふ。從ひて項籍を攻め、煮棗を屠る。王武程處の軍を外黃に擊破し、鄒魯瑕丘薛を攻む。項羽漢王を彭城(四)に敗り、盡く復魯梁の地を取る。噲還りて滎陽に至る。平陰の二千戶を益し食む。將軍を以て廣武を守る。一歲項羽引きて東す。高祖に從ひて項籍を擊ち、陽夏を下す。楚の周將軍の卒四千人を虜にし、項籍を陳に圍みて大に之を破り、胡陵を屠る。項籍既に死し、漢王帝となる。噲堅く守り、戰ひ功ある

外聞事急。乃持鐵盾入到營。營衛止噲。噲直撞入立帳下。項羽目之。問爲誰。張良曰。沛公參乘樊噲。項羽曰。壯士。賜之巵酒彘肩。噲既飲酒。拔劍切肉食盡之。項羽曰。能復飲乎。噲曰。臣死且不辭。豈特巵酒乎。且沛公先入定咸陽。暴師覇上。以待大王。大王今日至。聽小人之言。與沛公有隙。臣恐天下解。心疑大王也。項羽默然。沛公如廁。麾樊噲去。既出。沛公留車騎。獨騎一馬。與樊噲等四人步從。從間道山下。歸走覇上軍。而使張良謝項羽。項羽亦因遂已。無誅沛公之心矣。是日微樊噲犇入營。誚讓項羽。沛公事幾殆。

陽を定め、師を覇上に暴し(七)、以て大王を待つ。大王今日至り、小人の言を聽きて沛公と隙あり。臣、天下解け心大王を疑ふを恐ると。項羽默然たり。沛公厠に之き、樊噲を麾きて去る。既に出づ。沛公車騎を留め、獨り一馬に騎り、樊噲等四人と歩從(八)す。間道の山下より歸りて覇上の軍に走る。而して張良をして項羽に謝せしむ。項羽も亦因りて遂に已む。沛公を誅するの心なし。是の日樊噲犇り(九)て營に入りて項羽を誚讓(一〇)すること微かりせば、沛公の事幾んど殆かりしならん。

(一) 函谷關 (二) 酒酣なる時 (三) 肩にて蔽ひかばふ (四) 鐵製の楯 (五) 陪乘、古へ乘車の法、尊者左に、御車中にあり、又右に居て傾側に備ふる者あり、之を參乘といふ (六) 杯の酒と豚の肩、巵は四升（わが三四合）入りの酒器 (七) 曝 (八) 徒歩して從ひゆく (九) 奔る (一〇) 誚は責なり

人上。賜二爵卿一。從攻二破楊熊軍於曲遇一。攻二宛陵一先登。斬レ首八級。捕虜四十四人。賜二爵封一號二賢成君一。從攻二長社轘轅一。絕二河津一。東攻二秦軍於尸南一。攻二秦軍於犨一。破二南陽守齮於陽城東一。攻二宛城一先登。西至レ酈。以二郤レ敵一。斬首二十四級。捕虜四十人。賜二重封一。攻二武關一。至二霸上一。斬二都尉一人一。首十級。捕虜百四十六人。降卒二千九百人。

項羽在二戲下一。欲レ攻二沛公一。沛公從二百餘騎一因二項伯一面見二項羽一。謝レ無レ有二閉レ關事一。項羽既饗二軍士一。中酒亞夫謀欲レ殺二沛公一。令三項莊拔レ劍舞二坐中一。欲レ擊二沛公一。項伯常肩二蔽之一。時獨沛公與二張良一得二入坐一。樊噲在二營

項羽戲下にあり、沛公を攻めんと欲す。沛公百餘騎を從へ、項伯に因りて面り項羽を見、關を閉づる事あるなきを謝す。(一)項羽既に軍士を饗す。中酒(二)亞夫謀りて沛公を殺さんと欲し、項莊をして劍を拔きて坐中に舞はしめ、沛公を擊たんと欲す。項伯常に之を肩蔽す。(三)時に獨り沛公張良と入りて坐することを得。樊噲營外に在り。事急なるを聞き、乃ち鐵盾(四)を持し、入りて營に到る。營衞噲を止む。噲直ちに撞き入りて帳下に立つ。項羽之を目して問ふ、誰となすかと。張良曰く、沛公の參乘(五)樊噲なりと。項羽曰く、壯士なりと。之に卮酒(六)彘肩を賜ふ。噲既に酒を飲み、劍を拔きて肉を切り、食ひて之を盡くす。項羽曰く、能く復飲まんかと。噲曰く、臣死すら且つ辭せず。豈特に卮酒をや。且つ沛公先づ入りて咸

首十五級。賜二爵國大夫一。常從二沛公一。擊二章邯軍濮陽一。攻レ城先登。斬レ首二十三級。賜二爵列大夫一。復常從。從攻二城陽一先登。下二戸牖一。破二李由軍一。斬レ首十六級。賜二上間爵一。從攻二圍東郡守尉於成武一。卻レ敵斬首十四級。捕虜十一人。賜二爵五大夫一。從擊二秦軍一。出二亳南一。河間守軍二於杠里一。破レ之。擊二破趙賁軍開封北一。以下卻レ敵先登。斬二候一人一。首六十八級。捕虜二十七

守杠里(九)に軍す。之を破る。趙賁の軍を開封の北に擊破し、敵を卻けて先登し、候(一〇)一人を斬り、首六十八級、捕虜二十七人なるを以て爵卿を賜ふ。從ひて楊熊の軍を曲遇(一一)に攻め破る。宛陵を攻めて先登し、首を斬ること八級、捕虜四十四人。爵封を賜ひて賢成君と號す。從ひて長社(一二)轘轅を攻めて河津を絕る(一三)。東秦の軍を戸南に攻む。秦の軍を犨に攻む。南陽の守齮を陽城の東に破る。宛城を攻めて先登し、西酈に至り、敵を卻け、首を斬ること二十四級、捕虜四十人なるを以て重封(一四)を賜ふ。武關を攻めて霸上に至り、都尉一人首十級を斬り、捕虜百四十六人、降卒二千九百人なり。

(一) 當時人狗肉を食ふ、故に噲專ら狗を屠りて之を賣る (二) 殿中に宿直して取締をなす官、秦代より始まる (三) 泗水の監督をなす官、秦代に郡を監するは御史なり (四) 豐縣の下 (五) 却 (六) 地名、汴州の東陳留縣の東北 (七) 地名、曹州の縣 (八) もと湯の都せし所 (九) 地名、城陽に近し (一〇) 斥候の兵 (一一) 邑の名 (一二) 地名 (一三) 横ぎる、横斷す (一四) 重ねて封ぜらる

舞陽侯樊噲者。沛人也。以㆓屠狗㆒爲㆑事。與㆓高祖㆒俱隱。初從㆓高祖㆒起㆑豐。攻下㆑沛。高祖爲㆓沛公㆒。以㆑噲爲㆓舍人㆒。從攻㆓胡陵方與㆒。還守㆑豐。擊㆓泗水監豐下㆒。破㆑之。復東定㆑沛。破㆓泗水守薛西㆒。與㆓司馬尼㆒戰㆓碭東㆒。卻㆑敵斬㆑

巻九十五

樊酈滕灌列傳第三十五

舞陽侯樊噲は沛の人なり。屠狗(一)を以て事となす。高祖と倶に隱る。初め高祖に從ひて豐に起り、攻めて沛を下す。高祖沛公となり、噲を以て舍人(二)となす。從ひて胡陵方與を攻め、還りて豐を守る。(三)泗水の監を豐(四)の下に撃ちて之を破る。復東沛を定む。泗水の守を薛の西に破り、司馬尼と碭の東に戰ひ、敵を卻(五)け、首を斬ること十五級。爵國大夫を賜ふ。常に沛公に從ふ。章邯の軍を濮陽に撃ち、城を攻めて先登し、首を斬ること二十三級。爵列大夫を賜ふ。復常に從ふ。從ひて城陽を攻めて先登し、戸牖(六)を下し、李由の軍を破り、首を斬ること十六級。上間爵を賜ふ。從ひ攻めて東郡の守尉を成武(七)に圍み、敵を卻け、首を斬ること十四級。捕虜十一人。爵五大夫を賜ふ。從ひて秦の軍を撃ち、亳(八)の南に出づ。河間の

矣。蒯通之謀。亂ㇾ齊驕二淮陰一。其卒亡二此兩人一。蒯通者善爲二長短說一。論二戰國之權變一。爲二八十一首一。通善二齊人安期生一。安期生嘗干二項羽一。項羽不ㇾ能ㇾ用二其筴一。已而項羽欲ㇾ封二此兩人一。兩人終不ㇾ肯ㇾ受亡去。田橫之高節。賓客慕ㇾ義。而從ㇾ橫死。豈非二至賢一。余因而列焉。無下不二善畫一者上。莫二能圖一何哉。

を亡ぼす。蒯通は善く長短の說をなし、戰國の權變を論じて八十一首を爲る。通齊人安期生と善し。安期生嘗て項羽を干す。(一) 項羽其の筴を用ふる能はず。(二) 已にして項羽此の兩人を封ぜんと欲す。兩人終に受くることを肯ぜずして亡げ去る。田橫の高節、賓客義を慕ひて、橫に從ひて死す。豈至賢に非ずや。余因りて列す。善く畫せざる者なし。(三) 能く圖する莫きは何ぞや。

(一) 用ひられんことを求む (二) 策 (三) 田橫の客五百人皆至賢にして謀畫に善からざる者なし、而るに能く謀りて其の國を存するなきは何ぞや、索隱に天下善く畫く人なきにあらざるに田橫及び其の高義を慕ひ節に死するの事を圖にする者なきは何ぞや

天子。而横迺爲二亡虜一而北面事レ之。其恥固已甚矣。且吾烹二人之兄一。與二其弟一併レ肩而事二其主一。縱彼畏二天子之詔一不三敢動二我。我獨不レ愧二於心一乎。且陛下所三以欲二見レ我者。不レ過レ欲レ一二見吾面貌一耳。今陛下在二洛陽一。今斬二吾頭一馳二三十里間一。形容尚未レ能レ敗。猶可レ觀也。遂自剄。令下客奉二其頭一從二使者一。馳奏中之高帝上。高帝曰。嗟乎有レ以也夫。起レ自二布衣一。兄弟三人更王。豈不レ賢乎哉。爲レ之流涕。而拜二其二客一爲二都尉一。發二卒二千人一。以二王者禮一葬二田横一。既葬。二客穿二其冢旁孔一。皆自剄下從レ之。高帝聞レ之。乃大驚。以田横之客皆賢。吾聞其餘尚五百人在二海中一。使レ使召レ之。至則聞二田横死一。亦皆自殺。於レ是迺知二田横兄弟能得レ士也。

ざらんやと。之が爲めに流涕して其の二客を拜して都尉となし、卒二千人を發し、王者の禮を以て田横を葬る。既に葬りて二客其の冢旁(七)に孔を穿ち、皆自剄して之に下從す。高帝之を聞きて、迺ち大に驚く。以ふに田横の客皆賢なり。吾聞く、其の餘尚ほ五百人海中に在りと。使をして之を召さしむ。至れば則ち田横の死を聞きて、亦皆自殺す。是に於て迺ち田横の兄弟能く士(八)を得しを知る。

(一) 三族を夷滅す　(二) 宿驛の車馬　(三) 宿驛の傳馬を置く所　(四) 髪を洗ひ湯あみをすること　(五) 顏かたち、容貌　(六) 猶は吾が面貌腐敗せずして陛下に御目にかけらるべし　(七) 墓の傍、墓側　(八) 人材を得たるを知る

太史公曰。甚

太史公曰く、甚し、蒯通の謀。齊を亂し、淮陰を驕らし、其の卒り此の兩人

至。人馬從者敢動搖者致ニ族夷。迺復使レ使持レ節。具告以ニ詔レ商狀一。曰。田橫來。大者王。小者迺侯耳。不レ來且擧レ兵加レ誅焉。田橫迺與ニ其客二人一乘レ傳詣ニ雒陽一。未レ至ニ三十里一。至ニ尸鄕廐置一。橫謝ニ使者一曰。人臣見ニ天子一當ニ洗沐一。止留。謂ニ其客一曰。橫始與ニ漢王一俱南面稱レ孤。今漢王爲ニ

する狀を以てせしむ。曰く、田橫來らば、大なる者は王とし、小なる者は迺ち侯とせんのみ。來らずんば、且に兵を擧げて誅を加へんとすと。田橫迺ち其の客二人と傳(二)に乘りて雒陽に詣る。未だ至らざること三十里にして尸鄕の廐置(三)に至る。橫使者に謝して曰く、人臣天子に見ゆるに當に洗沐(四)すべしと。止留す。其の客に謂ひて曰く、橫始め漢王と俱に南面して孤と稱す。今漢王天子となり、而して橫迺ち亡虜となりて北面して之に事ふ。其の恥固に已に甚し。且つ吾人の兄を烹、其の弟と肩を倂べて其の主に事へんや。縱ひ彼天子の詔を畏れ、敢へて我を動かさざるも、我獨り心に愧ぢざらんや。且つ陛下の我を見んと欲する所以の者は吾が面貌(五)を一見せんと欲するに過ぎざるのみ。今陛下洛陽に在り。吾が頭を斬り、三十里の間を馳するも形容尙は未だ敗るゝ能はず、(六)猶ほ觀るべきなりと。遂に自剄す。客をして其の頭を奉じ、使者に從ひ、馳せて之を高帝に奏せしむ。高帝曰く、嗟乎以あるかな。布衣より起りて兄弟三人更ゝ王たり。豈賢なら

密。漢將韓信與曹參破殺龍且。虜齊王廣。漢將灌嬰追得齊守相田光。至博陽。而横聞齊王死。自立爲齊王。還擊嬰。嬰敗横之軍於嬴下。田横亡走梁。歸彭越。彭越是時居梁地。中立。且爲漢且爲楚。韓信已殺龍且。因令曹參進兵破殺田既於膠東。使灌嬰破殺齊將田吸於千乘。韓信遂平齊。乞自立爲齊假王。漢因而立之。後歲餘。漢滅項籍。漢王立爲皇帝。以彭越爲梁王。田横懼誅。而與其徒屬五百餘人入海。居島中。高帝聞之。以爲田横兄弟本定齊。齊人賢者多附焉。今在海中。不收後恐爲亂。迺使使赦田横罪而召之。田横因謝曰。臣烹陛下之使酈生。今聞其弟酈商爲漢將而賢。臣恐懼不敢奉詔。請爲庶人守海島中。使還報。

て田横の罪を赦さしめて之を召す。田横因りて謝して曰く、臣陛下の使酈生を烹る。今聞く、其の弟酈商漢の將となりて賢なりと。臣恐懼し、敢へて詔を奉ぜず。請ふ庶人となりて海島中を守らんと。使還り報ず。

㈠ 地名　㈡ しまりなく酒を飲む、酒をほしいまゝにす、縦飲　㈢ 已れを欺きたりとなし　㈣ 地名、淄州高苑縣の北　㈤ 眞の王の出づるまで、假りの王と爲らんことを請ふ　㈥ 部下　㈦ 此のまゝにして招き寄せずんば

高皇帝迺詔衞尉酈商曰。齊王田横卽

高皇帝迺ち衞尉酈商に詔して曰く、齊王田横卽し至るも、人馬從者敢へて動搖せんものは族夷を致さんと。迺ち復使をして節を持し、具に告ぐるに商に詔

歴下一以距レ漢。漢使至。迺罷二守戰備一縦酒。且二遣レ使與レ漢平。漢將韓信已平二趙燕一。用二蒯通計一度二平原一。襲破二齊歷下軍一。因入二臨菑一。齊王廣相横怒以二酈生一賣レ己。而烹二酈生一。齊王廣東走二高密一。相横走二博陽一。守相田光走二城陽一。將軍田既軍二於膠東一。楚使二龍且救一レ齊。齊王與合軍二高

て酈生を烹る。齊王廣東高密に走り、相横博陽に走り、守相田光城陽に走る。將軍田既膠東に軍す、楚龍且をして齊を救はしむ。齊王與に合ひて高密に軍す。漢の將韓信曹參と破りて龍且を殺し、齊王廣を虜にす。漢の將灌嬰追ひて齊の守相田光を得、博陽に至る。而して横齊王死すと聞き、自立して齊王となる。還りて嬰を撃つ。嬰横の軍を嬴下に敗る。田横亡げて梁に走り、彭越に歸す。彭越是の時梁の地に居り、中立し、且つ漢の爲めにし、且つ楚の爲めにす。韓信已に龍且を殺す。因りて曹參をして兵を進めて田既を膠東に破り殺さしめ、灌嬰をして齊の將田吸(四)を千乘に破り殺さしむ。韓信遂に齊を平げ、自立して齊の(五)假王とならんと乞ふ。漢因りて之を立つ。後歲餘にして漢項籍を滅し、漢王立ち皇帝となる。彭越を以て梁王となす。田横誅を懼れて、其の屬徒(六)五百餘人と海に入りて島中に居る。高帝之を聞き以爲らく、田横兄弟本齊を定め、齊人の賢者多く附けり。今海中に在り、(七)收めずんば後恐らくは亂をなさんと。迺ち使をし

之左右曰。項王彊暴。而王當ㇾ之ニ膠東一。不ㇾ就ㇾ國必危。市懼迺亡就ㇾ國。田榮怒。追擊殺ニ齊王市於卽墨一。還攻ニ殺濟北王安一。於ㇾ是田榮迺自立爲ニ齊王一。盡幷ニ三齊之地一。項王聞ㇾ之大怒。迺北伐ㇾ齊。齊王田榮兵敗走ニ平原一。平原人殺ㇾ榮。項王遂燒ニ夷齊城郭一。所ㇾ過者盡屠ㇾ之。齊人相聚畔ㇾ之。榮弟橫收ニ齊散兵一。得ニ數萬人一。反擊ニ項羽於城陽一。而漢王率ニ諸侯一敗ㇾ楚入ニ彭城一。項羽聞ㇾ之。迺釋ㇾ齊而歸。擊ニ漢於彭城一。因連與ㇾ漢戰。相ニ距滎陽一。以ㇾ故田橫復得ㇾ收ニ齊城邑一。立ニ田榮子廣一爲ニ齊王一。而橫相ㇾ之專ニ國政一。政無ニ巨細一皆斷ニ於相一。

(五) 細大となく、大小の別なく

橫定ㇾ齊三年。漢王使ニ酈生往說下ニ齊王廣及其相國橫一。橫以爲ㇾ然。解ニ其歷下軍一。漢將韓信引ㇾ兵且ニ東擊一ㇾ齊。齊初使ニ關無傷田解軍ニ於

橫齊を定むるの三年、漢王酈生をして往きて說きて齊王廣及び其の相國橫を下さしむ。橫以て然りとなし、其の(一)歷下の軍を解く。漢の將韓信兵を引きて且に東齊を擊たんとす。齊初め關無傷田解をして歷下に軍し、以て漢を距がしむ。漢の使至る。迺ち守戰の備を罷めて縱酒す。且に使を遣して漢と平がしめとんす。漢の將韓信已に趙燕を平げ、(二)蒯通の計を用ひて、平原を度り、襲ひて齊の歷下の軍を破り因りて臨淄に入る。齊王廣、相橫怒り、酈生を以て(三)己を賣るとし

兵降項羽。項羽立田安爲濟北王、治博陽。田榮以負項梁、不肯出兵助楚趙攻秦。故不得王。趙將陳餘亦失職不得王。二人俱怨項王。項王既歸。諸侯各就國。田榮使人將兵助陳餘、令反趙地。而榮亦發兵以距擊田都。田都亡走楚。田榮留齊王市、無令之膠東。市

を留めて膠東に之かしむるなし。市の左右曰く、項王彊暴なり。而して王當に膠東に之くべし。(二)國に就かずんば必ず危からんと。市懼れ、迺ち亡げて國に就く。田榮怒り、追擊して齊王市を卽墨に殺し、還りて濟北王安を攻め殺す。是に於て田榮迺ち自立して齊王となり、盡く三齊の地を幷す。項王之を聞きて大に怒り、迺ち北齊を攻つ。齊王田榮、兵敗れて平原に走る。平原の人榮を殺す。項王遂に齊の城郭を燒夷し、(三)過ぐる所のものは盡く之を屠る。(四)齊人相聚りて之に畔く。榮の弟橫齊の散兵を收めて數萬人を得。反つて項羽を城陽に擊つ。而して漢王諸侯を率ゐて楚を敗り、彭城に入る。項羽之を聞き、迺ち齊を釋して歸り、漢を彭城に擊つ。因りて連りに漢と戰ひて滎陽に相距ぐ。故を以て田橫復齊の城邑を收むるを得、田榮の子廣を立てて齊王となす。而して橫之に相として國政を專らにし、政巨細となく、(五)皆相に斷ず。

(一) 函谷關　(二) 國に之を引上げて歸らざれば必ず危險ならん　(三) 燒拂ひ　(四) 通過する所は必ず殘虐をな

王。窮而歸ㇾ我。殺ㇾ之不義。趙亦不下殺二田角田間一以市中於齊上。齊曰。蝮螫ㇾ手則斬ㇾ手。螫ㇾ足則斬ㇾ足。何者爲ㇾ害二於身一也。今田假田角田間於二楚趙一。非二直手足戚一也。何故不ㇾ殺。且秦復得二志於天下一。則齮二齕用ㇾ事者墳墓一矣。楚趙不ㇾ聽。齊亦怒。終不ㇾ肯ㇾ出ㇾ兵。章邯果敗殺二項梁一。破二楚兵一。楚兵東走。而章邯渡ㇾ河圍二趙於鉅鹿一。項羽往救ㇾ趙。由ㇾ此怨二田榮一。

項羽既存ㇾ趙降二章邯等一。西屠二咸陽一滅ㇾ秦。而立二侯王一也。迺徙二齊王田市一更王二膠東一治二卽墨一。齊將田都從共救ㇾ趙。因入ㇾ關。故立ㇾ都爲二齊王一治二臨淄一。故齊王建孫田安。項羽方二渡ㇾ河救ㇾ趙。田安下二濟北數城一。引ㇾ

項羽既に趙を存し、章邯等を降し、西咸陽を屠り、秦を滅して侯王を立つるや、迺ち齊王田市を徙して更に膠東に王として卽墨に治す。齊の將田都從ひて共に趙を救ひ、因りて關に入る。故に都を立てて齊王となし、臨淄に治す。故の齊王建の孫田安、項羽河を渡りて趙を救ふに方りて、田安濟北の數城を下し、兵を引きて項羽に降る。項羽田安を立てて濟北王となし、博陽に治す。田榮項梁に負き、兵を出して楚趙を助け、秦を攻むるを肯ぜざるを以ての故に王たるを得ず。趙の將陳餘も亦職を失ひて王たるを得ず。二人倶に項王を怨む。項王既に歸り、諸侯各〻國に就く。田榮人をして兵を將ゐて陳餘を助けしめ、趙の地に反せしむ。而して榮も亦兵を發し、以て距ぎて田都を擊つ。田都亡げて楚に走る。田榮齊王市

兵走二東阿一。齊人聞二王田儋死一。迺立二故齊王建之弟田假一爲二齊王一。田角爲レ相。田間爲レ將。以距二諸侯一。田榮之走二東阿一。章邯追圍レ之。項梁聞二田榮之急一。迺引レ兵擊二破章邯軍東阿下一。章邯走而西。項梁因追レ之。而田榮怒二齊之立レ假。迺引レ兵歸擊逐二齊王假一。假亡走レ楚。齊相角亡走レ趙。角弟田間前求二救趙一因留不二敢歸一。田榮乃立二田儋子市一爲二齊王一。榮相レ之。田橫爲レ將。平二齊地一。項梁既追二章邯一。章邯兵益盛。項梁使下使告二趙齊一。發レ兵共擊中章邯上。田榮曰。使下楚殺二田假一。趙殺中田角田間上。迺肯出レ兵。楚懷王曰。田假與國之

ち手を斬り、足を螫せば則ち足を斬る。何となれば身に害あるが爲めなり。今田假田角田間の楚趙に於けるは直に(八)手足の戚のみに非ざるなり。何の故にか殺さざる。且つ秦復び志を天下に得ば、則ち事を用ふる者の墳墓を(九)齮齕せんと。楚趙聽かず。齊も亦怒りて終に兵を出すことを肯ぜず。章邯果して、敗りて項梁を殺し、楚の兵を破る。楚兵東に走る。而して章邯河を渡り、趙を鉅鹿に圍む。項羽往きて趙を救ふ。此に由り田榮を怨む。

(一)梁安臨濟縣なり (二)一族の勢强くしてよく人心を收攬す (三)古へ奴婢を殺すには官に告ぐべきなり、田儋狄の令を殺さんと欲して僞りて奴を縛して以て謁げしなり (四)攻め平ぐ (五)危急の場合となる (六)枚を銜み聲をたてぬ樣にし (七)蝮蛇人の手足を刺せば其の肉を切り去る、然らずんば遂に死を致す (八)將に身を亡さんとす手足の憂のみにあらず (九)但に身を辱めらるゝのみならず、其の墳墓も亦發掘せられん、一說に墳墓を齮齕すは殺さるゝをいふと、齮齕は側齒にて齧むなり

豪吏子弟曰。諸侯皆反秦自立。齊古之建國。儋田氏當王。遂自立爲齊王。發兵以擊周市。周市軍還去。田儋因率兵東略定齊地。秦將章邯圍魏王咎於臨濟。急。魏王請救於齊。齊王田儋將兵救魏。章邯夜銜枚擊大破齊魏軍。殺田儋於臨濟下。儋弟田榮收儋餘

す。儋の弟田榮、儋の餘兵を收め、東阿に走る。齊人王田儋死すと聞き、迺ち故の齊王建の弟田假を立てて齊王となし、田角を相となし、田間を將となし、以て諸侯を距ぐ。田榮の東阿に走るや、章邯追ひて之を圍む。項梁田榮の急を聞き、迺ち兵を引き、撃ちて章邯の軍を東阿の下に破る。章邯走りて西す。項梁因りて之を追ふ。而して田榮齊の假を立てしを怒り、迺ち兵を引きて歸り、撃ちて齊王假を逐ふ。假亡げて楚に走り、齊の相角亡げて趙に走る。角の弟田間前に救を趙に求む。因りて留りて敢て歸らず。田榮乃ち田儋の子市を立てて齊王となす。榮之に相たり。田横將となり、齊の地を平ぐ。項梁既に章邯を追ふ。章邯の兵益〻盛なり。項梁使をして趙齊に告げて、兵を發して共に章邯を撃たしむ。田榮曰く、楚をして田假を殺し、趙をして田角田間を殺さしめば、迺ち肯へて兵を出さんと。楚の懷王曰く、田假は與國の王、窮して我に歸す。之を殺すは不義なりと。趙も亦田角田間を殺して以て齊に市らず。齊曰く、(七)蝮手を螫せば則

田儋者。狄人也。故齊王田氏族也。儋從弟田榮。榮弟田橫皆豪。宗彊。能得レ人。陳涉之初起王レ楚也。使二周市略二定魏地一。北至レ狄。狄城守。田儋佯爲レ縛二其奴一。從二少年一之レ廷。欲レ謁レ殺レ奴。見二狄令一。因擊殺レ令。而召二

卷九十四

田儋列傳第三十四

田儋は狄(一)の人なり。故の齊王田氏の族なり。儋の從弟田榮、榮の弟田橫皆豪にして、宗彊(二)く、能く人を得。陳涉の初めて起り、楚に王たるや、周市をして魏の地を略定せしめ、北狄に至る。狄城守す。田儋佯りて其の奴を縛する爲し、少年を從へて廷に之き、謁(三)げて奴を殺さんと欲す。狄の令を見、因りて擊ちて令を殺す。而して豪吏の子弟を召して曰く、諸侯皆秦に反して自立す。齊は古の建國、儋は田氏、當に王たるべしと。遂に自立して齊王となる。兵を發し、以て周市を擊つ。周市の軍還り去る。田儋因りて兵を率ゐて東齊の地を略(四)定す。秦の將章邯魏王咎を臨濟に圍む。急(五)なり。魏王救を齊に請ふ。齊王田儋兵に將として魏を救ふ。章邯夜枚(六)を銜み、擊ちて大に齊魏の軍を破り、田儋を臨濟の下に殺

世。徼二一時權
變一。以二詐力一成レ
功。遭二漢初定一。
故得二列レ地南
面稱一レ孤。內見レ
疑二彊大一。外倚二
蠻貊一以爲レ援。
是以日疏自
危。事窮智困。
卒赴二匈奴一。豈
不レ哀哉。陳豨
梁人。其少時
數稱二慕魏公
子一。及レ將レ軍守レ
邊。招二致賓客一
而下レ士。名聲
過レ實。周昌疑レ之。疵瑕頗起。懼二禍及一レ身。邪人進レ說。遂陷二無道一。於戲悲夫。夫計之生孰成敗。於レ
人也深矣。

と稱するを得。(二)內彊大を疑はれ、外蠻貊に倚り、以て援となす。是を以て日々疎まれて(三)自ら危む。事窮まり、智困しみ、卒に匈奴に赴く。豈哀まざらんや。陳豨は梁の人、其の少き時數々魏の公子を稱慕す。軍を將ゐて(四)邊を守るに及びて賓客を招致して士に下り、(五)名聲實に過ぐ。周昌之を疑ふ。(六)疵瑕頗る起り、禍身に及ぶを懼る。邪人說を進め、遂に無道に陷る。於戲悲しいかな。夫れ(七)計の生孰成敗の人に於けるや深し。

(一) 要求す　(二) 內にては強大なる爲朝廷よりは疑の目にてにらまれ、外はえびすに身を倚せて其の後援を借る　(三) 自ら安心ならず　(四) 邊疆を守備するに及び　(五) 其名聲の高きことは、實際の力よりもまさりたり　(六) 種々の缺點發覺し、禍の身にかゝらんことを氣遣へり　(七) 計の成就するとせざるとが人物に關係することは、甚だ深きものなり

四千戸。封二四人一以慰二趙子弟一。皆曰。善。於レ是上曰。陳豨將誰。曰。王黃曼丘臣。皆故賈人。上曰。吾知レ之矣。迺各以二千金一購二黃臣等一。十一年。冬。漢兵擊斬二陳豨將侯敞王黃於曲逆下一。破二豨將張春于聊城一。斬レ首萬餘。太尉勃入定二太原代地一。十二月。上自擊二東垣一。東垣不レ下。卒罵レ上。東垣降。卒罵者斬レ之。不レ罵者黥レ之。更二命東垣一爲二眞定一。王黃曼丘臣。其麾下受レ購二賞之一。皆生得。以レ故陳豨軍遂敗。上還至二洛陽一。上曰。代居二常山北一。趙迺從二山南一有レ之。遠。迺立二子恒一爲二代王一都二中都一。代鴈門皆屬レ代。高祖十二年。冬。樊噲軍卒追斬二豨於靈丘一。

下之を購賞するを受け、皆生得す。故を以て陳豨の軍遂に敗る。上還りて洛陽に至る。上曰く、代は常山の北に居る。趙迺ち山南より之を有す。遠しと。迺ち子恒を立てて代王となし、中都に都せしむ。代の鴈門皆代に屬す。高祖の十二年冬、樊噲の軍卒追ひて豨を靈丘に斬る。

㊀ あなどり罵りて　㊁ 小倅共能く將となり得るか　㊂ 汝達の能く吾が意中を知り得らるゝ所にあらず　㊃ 鳥羽を以て檄書を挿むもの、其の急速飛鳥の如くなる意　㊄ 以前は商人なり　㊅ 地名、定州北平縣の東南　㊆ 顔の肉を切りて之に墨を入るゝ刑罰

太史公曰。韓信盧綰非二素積レ德累レ善之

太史公曰く、韓信盧綰素と德を積み、善を累ぬるの世に非ず。一時の權變を徼めて詐力を以て功をなす。漢初めて定まるに遭ひ、故に地を列ねて南面して孤

趙亦有下壯士可レ令レ將者上乎。對曰。有二四人一。四人謁。上慢罵曰。豎子能爲レ將乎。四人慙伏。上封二之各千戸一以爲レ將。左右諫曰。從入二蜀漢一伐レ楚。功未二徧行一。今此何功而封。上曰。非二若所一レ知。陳豨反。邯鄲以北皆豨有。吾以二羽檄一徵二天下兵一。未レ有二至者一。今唯獨邯鄲中兵耳。吾胡愛二

く、四人ありと。四人謁す。上慢罵（一）して曰く、豎子（二）能く將たるかと。四人慙ぢて伏す。上之を各〻千戸に封じ、以て將となす。左右諫めて曰く、從ひて蜀漢に入りて楚を伐ちしもの功未だ徧く行はれず。今此れ何の功にして封ずるかと。上曰く、若（三）の知る所に非ず。陳豨反し、邯鄲以北皆豨が有なり。吾羽檄（四）を以て天下の兵を徵す。未だ至る者あらず。今唯獨り邯鄲中の兵のみ。吾胡ぞ四千戸を愛まん。四人を封ずるは、以て趙の子弟を慰むるなりと。皆曰く、善しと。是に於て上曰く、陳豨の將は誰ぞと。曰く、王黃曼丘臣皆故の賈人（五）なりと。上曰く、吾之を知ると。迺ち各〻千金を以て黃臣等を購ふ。十一年冬、漢の兵撃ちて陳豨の將侯敞王黃を曲逆（六）の下に斬り、豨の將張春を聊城に破り、首を斬ること萬餘。太尉勃入りて太原・代の地を定む。十二月上自ら東垣を撃つ。東垣下らず。卒上を罵る。東垣降りて、卒の罵りし者は之を斬り、罵らざりし者は之を黥（七）す。東垣を更め命じて、眞定となす。王黃曼丘臣は、其の麾

出₂客下₁。稀還ㇾ代。周昌迺求₂入見₁。見ㇾ上具言。稀賓客盛甚。擅₂兵於外₁數歲。恐ㇾ有ㇾ變。上乃令₃人覆₂案稀客居ㇾ代者₁。財物諸不法事₁。多連₂引稀₁。稀恐。陰令₃客通₂使王黄曼丘臣所₁。

及₂高祖七年₁。七月。太上皇崩。使₂人召₁ㇾ稀。稀稱₂病甚₁。九月。遂與₂王黄等₁反。自立爲₂代王₁。劫₂略趙代₁。上聞乃赦下趙代吏人。爲₃所稀詿₂誤劫略₁者上。皆赦ㇾ之。上自往至₂邯鄲₁。喜曰。稀不下南據₂漳水₁北守中邯鄲上。知₃其無₂能爲₁也。趙相奏ㇾ斬₂常山守尉₁。曰。常山二十五城。稀反亡₂其二十城₁。上問曰。守尉反乎。對曰。不ㇾ反。上曰。是力不ㇾ足也。赦ㇾ之復以爲₂常山守尉₁。

誤劫略せらるゝ者を赦して、皆之を赦す。上自ら往きて邯鄲に至り、喜びて曰く、稀南漳水に據り、北邯鄲を守らず、其の能くなすことなきを知ると。趙の相常山の守尉を斬らんことを奏して曰く、常山二十五城、稀反して其の二十城を亡ふと。上問ひて曰く、守尉反するかと。對へて曰く、反せずと。上曰く、是れ力(七)足らざるなりと。之を赦し、復以て常山の守尉となす。

(一)列侯、通侯、諸侯、烈は列に同じ　(二)窗と音通　(三)己を屈して之に禮す　(四)くりかへしてよく取調ぶ、覆按　(五)おびやかしかすめ取る　(六)欺き迷はす、詿は人を欺きて惡に導く　(七)實力なくして禦ぐこと能はざりしなり

上問₂周昌₁曰。

上周昌に問ひて曰く、趙にも亦壯士の將たらしむべき者ありやと。對へて曰

竟崩不レ得見。盧綰妻亦病死。孝景中六年。盧綰孫他之以二東胡王一降。封爲二亞谷侯一。

陳豨者。宛朐人也。不レ知三始所二以得一レ從。及下高祖七年。冬。韓王信反入二匈奴一。上至二平城一還上。迺封レ豨爲二列侯一。以二趙相國一將監二趙代邊兵一。邊兵皆屬焉。豨常告歸過レ趙。趙相周昌見二豨賓客隨レ之者千餘乘。邯鄲官舍皆滿。豨所二以待二賓客一如二布衣交一。皆

陳豨は宛朐の人なり。始めて從ふことを得し所以を知らず。高祖の七年冬韓王信反して匈奴に入り、上平城に至りて還るに及び、迺ち豨を封じて烈侯となす。(一)趙の相國を以て將として趙代の邊兵を監せしむ。邊兵皆屬す。(二)豨常て告げ歸りて趙を過ぐ。趙相周昌豨の賓客之に隨ふ者千餘乘、邯鄲の官舍皆滿つるを見る。豨の賓客を待つ所以は布衣の交の如し。(三)皆客の下に出づ。豨還りて代に之く。周昌迺ち入りて見んことを求む。上に見えて具に言ふ、豨の賓客盛なること甚しく、兵を外に擅にすること數歳、恐らくは變あらんと。上乃ち人をして豨の客の代に居る者の財物諸〻の不法の事を(四)覆案せしむ。多く豨に連引す。豨恐れ、陰かに客をして使を王黄曼丘臣の所に通ぜしむ。高祖の七年七月太上皇崩ずるに及び、人をして豨を召さしむ。豨病甚しと稱す。九月遂に王黄等と反し、自立して大王となり、趙代を劫略す。(五)上聞きて乃ち趙代の吏人の豨に詿(六)

淮陰。夏。誅彭越。皆呂后計。今上病屬任呂后。呂后婦人。專欲以事誅異姓王者及大功臣。迺遂稱病不行。其左右皆亡匿。語頗泄。辟陽侯聞之。歸具報上。上益怒。又得匈奴降者。降者言。張勝亡在匈奴。爲燕使。於是上曰。盧綰果反矣。使樊噲擊燕。燕王綰悉將其宮人家屬騎數千。居長城下候伺。幸上病愈自入謝。四月。高祖崩。盧綰遂將其衆。亡入匈奴。匈奴以爲東胡盧王。綰爲蠻夷所侵奪。常思復歸。居歲餘死胡中。高后時。盧綰妻子亡降漢。會高后病。不能見。舍燕邸。爲欲置酒見之。高后

る。又匈奴の降者を得たり。降者言ふ、張勝亡げて匈奴にあり、燕の使をなすと。是に於て上曰く、盧綰果して反すと。樊噲をして燕を撃たしむ。燕王綰悉く其の宮人家屬騎數千を將る、長城の下に居りて候伺し、上の病愈えば、自ら入りて謝せんと幸ふ。四月高祖崩ず。盧綰遂に其の衆を將る、亡げて匈奴に入る。匈奴以て東胡の盧王となす。綰蠻夷に侵奪せられ、常に復歸せんことを思ふ。居ること歲餘にして胡中に死す。高后の時盧綰の妻子亡げて漢に降る。會〻高后病みて見ゆる能はず。燕の邸に舍し爲めに置酒して之に見えんと欲す。高后竟に崩じて見ゆることを得ず。盧綰の妻も亦病みて死す。孝景中六年、盧綰の孫他之東胡王を以て降る。封じて亞谷侯となす。

㊀ 屛居して匿る　㊁ 幸は冀なり

何不令燕且緩陳豨而與胡和。事寛得長王燕。即有漢急可以安國。張勝以爲然。迺私令匈奴助豨等擊燕。燕王綰疑張勝與胡反。上書請族張勝。勝還具道所以爲者。燕王寤。迺詐論他人。脫勝家屬。使得爲匈奴間。而陰使范齊之陳豨所。欲令久亡連兵勿決。漢十二年。東擊黥布。豨常將兵居代。漢使樊噲擊斬豨。其裨將降。言燕王綰使范齊通計謀於豨所。高祖使使召盧綰。綰稱病。

所に通ぜしむと言ふ。高祖使をして盧綰を召さしむ。綰病と稱す。

(一)胡の事情を熟知せるを以てなり　(二)戰長く續きて勝敗決せず　(三)三族を誅す、父母兄弟妻子一族の者を罪す　(四)悟に通ず　(五)罪を論ず　(六)副將軍

上又使辟陽侯審食其御史大夫趙堯往迎燕王。因驗問左右。綰愈恐閉匿。謂其幸臣曰。非劉氏而王。獨我與長沙耳。往年。春。漢族

上又辟陽侯審食其、御史大夫趙堯をして往きて燕王を迎へしむ。因りて左右に驗問す。綰愈〻恐れて閉匿す。其の幸臣に謂ひて曰く、劉氏に非ずして王たるものは獨り我と長沙とのみ。往年春漢淮陰を族し、夏彭越を誅す。皆呂后の計なり。今上病みて呂后に屬任す。呂后は婦人なり。專ら以て異姓の王たる者及び大功の臣を誅するを事とせんと欲すと。迺ち遂に病と稱して行かず、其の左右皆亡匿す。語頗る泄る。辟陽侯之を聞き、歸りて具に上に報ず。上益〻怒

北。當此時。陳豨使王黃求救匈奴。燕王綰亦使其臣張勝於匈奴。言豨等軍破。張勝至胡。故燕王臧荼子衍出亡在胡。見張勝曰。公所以重於燕者。以習胡事也。燕所以久存者。以諸侯數反兵連不決也。今公爲燕欲急滅豨等。已盡次亦至燕。公等亦且爲虜矣。公

故の燕王臧荼の子衍出亡して胡に在り。張勝を見て曰く、公の燕に重ぜらるゝ所以は胡事に習ふを以てなり。燕の久しく存する所以の者は、諸侯數ゝ反し、兵(二)連りて決せざるを以てなり。今公燕の爲めに急に豨等を滅さんと欲す。已に盡さば次いで亦燕に至らん。公等も亦具に虜とならんとす。公何ぞ燕をして且く陳豨を緩くして胡と和せしめざる。事寛ならば長く燕に王たることを得ん。卽し漢急あらば以て國を安んず可しと。張勝以て然りとなし、迺ち私に匈奴をして豨等を助けて燕を擊たしむ。燕王綰張勝胡と與に反するを疑ひ、上書して張勝を族(三)せんことを請ふ。勝還りて具に爲す所以の者を道ふ。燕王寤り(四)、迺ち詐りて他人を論じ(五)、勝の家屬を脫し、匈奴の閒をなすことを得しめ、而して陰かに范齊をして陳豨の所に之かしめ、久しく亡げて、兵を連ねて決すること勿らしめんと欲す。漢の十二年東黥布を擊つ。豨常に兵に將として代に居る。漢樊噲をして擊つて豨を斬らしむ。其の裨(六)將降る。燕王綰范齊をして計謀を豨の

入漢中。爲將軍。常侍中。從東擊項籍。以太尉常從。出入臥內。衣被飲食賞賜。羣臣莫敢望。雖蕭曹等。特以事見禮。至其親幸。莫及盧綰。綰封爲長安侯。長安故咸陽也。漢五年。冬。以破項籍。迺使盧綰別將。與劉賈擊臨江王共尉。破之。七月還。從擊燕王臧荼。臧荼降。高祖已定天下。諸侯非劉氏而王者七人。欲王盧綰。爲羣臣觖望。及虜臧荼。迺下詔諸將相列侯。擇羣臣有功者。以爲燕王。羣臣知上欲王盧綰。皆言曰。太尉長安侯盧綰常從平定天下。功最多。可王燕。詔許之。漢五年。八月。迺立盧綰爲燕王。諸侯王得幸莫如燕王。

相列侯に下す。羣臣功ある者を擇びて以て燕王となさんと。羣臣、上の盧綰を王とせんと欲するを知り、皆言ひて曰く、太尉長安侯盧綰常に從ひて天下を平定す。功最も多し、燕に王とすべしと。詔して之を許す。漢の五年八月迺ち盧綰を立てて燕王となす。諸侯王幸せらるを得ること燕王に如くものなし。

(一)父　(二)臥床の内に出入す　(三)怨望

漢十一年。秋。陳豨反代地。高祖如邯鄲。擊豨兵。燕王綰亦擊其東

漢の十一年秋陳豨代の地に反す。高祖邯鄲に如きて豨の兵を擊つ。燕王綰も亦其の東北を擊つ。是の時に當り陳豨王黃をして救を匈奴に求めしむ。燕王綰も亦其の臣張勝を匈奴に使せしめ、豨等が軍破ると言はしむ。張勝胡に至る。

也。與二高祖一同レ里。盧綰親與二高祖太上皇一相愛。及レ生レ男高祖盧綰同日生。里中持二羊酒一賀二兩家一。及二高祖盧綰壯一。俱學レ書。又相愛也。里中嘉二兩家親相愛一。生レ子同レ日。壯又相愛。復賀二兩家羊酒一。高祖爲二布衣一時。有二吏事一辟匿。盧綰常隨出入上下。及二高祖初起一レ沛。盧綰以レ客從。

男を生むるに及びて、高祖盧綰同日に生る。里中羊酒を持して兩家を賀す。高祖盧綰壯なるに及び、倶に書を學ぶ。又相愛するや、里中兩家の親相愛し、子を生むに日を同じくし、壯にして又相愛するを嘉し、復兩家に羊酒を賀す。高祖布衣たりし時、吏事ありて辟匿す。盧綰常に隨ひて出入上下す。高祖初めて沛に起るに及び、盧綰客を以て從ひ、漢中に入り、將軍となりて常に中に侍す。從ひて東、項籍を擊つ。太尉を以て常に從ひて臥内(二)に出入す。衣被飮食賞賜羣臣敢へて望む莫し。蕭曹等と雖も、特に事を以て禮せらるゝも、其の親幸せらるゝことに至りては盧綰に及ぶもの莫し。綰封ぜられて長安侯となる。長安は故の咸陽なり。漢の五年冬、以て項籍を破り、迺ち盧綰をして別に將たらしめ、劉賈と臨江王共尉を擊ちて之を破る。七月還る。從ひて燕王臧荼を擊つ。臧荼降る。高祖已に天下を定む。諸侯劉氏に非ずして王たる者七人あり。盧綰を王とせんと欲す。羣臣(三)觖望せんことを爲ひ、臧荼を虜にするに及び、迺ち詔を諸將

之。此二罪也。今反爲寇將兵。與將軍爭一旦之命。此三罪也。夫種蠡無一罪。身死亡。今僕有三罪於陛下。而欲求活於世。此伍子胥所以僨於吳。也。今僕亡匿山谷間。旦暮乞貸蠻夷。僕之思歸。如痿人不忘起。盲者不忘視也。勢不可耳。遂戰。柴將軍屠參合。斬韓王信。信之入匈奴。與太子俱。及至穨當城生子。因名曰穨當。韓太子亦生子。命曰嬰。至孝文十四年。穨當及嬰。率其衆降漢。漢封穨當爲弓高侯。嬰爲襄城侯。吳楚軍時。弓高侯功冠諸將。傳子至孫。孫無子。失侯。嬰孫以不敬失侯。穨當孼孫韓嫣貴幸。名富顯於當世。其弟說再封。數稱將軍。卒爲案道侯。子代。歲餘坐法死。後歲餘。說孫曾拜爲龍頟侯。續說後。

弓高侯功諸將に冠たり。子に傳へて孫に至る。孫子なくして侯を失ふ。嬰の孫不敬を以て侯を失ふ。穨當の孼孫(八)韓嫣貴幸せられ、名富當世に顯る。其の弟說再び封ぜられ數〻將軍と稱し、卒に案道侯となる。子代る。歲餘法に坐して死す。後歲餘、說が孫曾拜せられて龍頟侯となり、說の後を續ぐ。

(一) 地名、朔州定襄縣の北　(二) 畔きて亡ぐ　(三) 村里の中より拔擢して王とならしむ　(四) 大夫種と范蠡　(五) 僨仆、信漢に歸らば必ず誅せられんことを知りていふなり　(六) 人の施しを願ひ求め借る、貸は音トク假るなり　(七) なえしびれたる人、なえて手足のきかずなりたる人　(八) 庶孫

盧綰者。豐人

盧綰は豐の人なり。高祖と里を同じくす。盧綰の親(一)高祖の太上皇と相愛す。

漢使㆓柴將軍㆒擊㆑之。遺㆓信書㆒曰。陛下寬仁。諸侯雖㆑有㆓畔亡㆒。而復歸輒復㆓故位號㆒。不㆑誅也。大王所㆑知。今王以㆓敗亡㆒走㆑胡。非㆑有㆓大罪㆒。急自歸。韓王信報曰。陛下擢㆑僕起㆓閭巷㆒。南面稱㆑孤。此僕之幸也。滎陽之事。僕不㆑能㆑死。囚㆓於項籍㆒。此一罪也。及㆓寇攻㆓馬邑㆒。僕不㆑能㆓堅守㆒。以㆑城降㆑

に非ず。急に自ら歸れよと。韓王信報じて曰く、陛下僕を擢(三)じて閭巷より起し、南面して孤と稱せしむ。此れ僕の幸なり。滎陽の事僕死する能はずして項籍に囚はる。此れ一の罪なり。寇馬邑を攻むるに及び、僕堅く守る能はずして城を以て之に降る。此れ二の罪なり。今反つて寇の爲めに兵に將として、將軍と一旦の命を爭ふ。此れ三の罪なり。夫の種蠡(四)一罪なくして身死亡せり。今僕陛下に三罪ありて、世に活きんことを求めんと欲す。此れ伍子胥呉に僨(五)れたる所以なり。今僕山谷の間に亡匿し、旦暮蠻夷に乞貸(六)す。僕の歸らんことを思ふこと、痿(七)人の起つこと忘れず、盲者の視ることを忘れざるが如きなり。勢不可なるのみと。遂に戰ふ。柴將軍參合を屠り、韓王信を斬る。信の匈奴に入るや、太子と倶にす。穨當城に至るに及び、子を生む。因りて名づけて穨當と曰ふ。韓の太子も亦子を生む。命じて嬰と曰ふ。孝文の十四年に至り穨當及び嬰、其の衆を率ゐて漢に降る。漢穨當を封じて弓高侯となし、嬰を襄城侯となす。呉楚の軍の時

苗裔趙利爲王。復收信收散兵。而與信及冒頓謀攻漢。匈奴使左右賢王將萬餘騎與王黃等屯廣武以南至晉陽。與漢兵戰。漢大破之。追至于離石。復破之。匈奴復聚兵樓煩西北。漢令車騎擊破匈奴。匈奴常敗走。漢乘勝追北。聞冒頓居代上谷。高皇帝居晉陽。使人視冒頓。還報曰。可擊。上遂至平城。上出白登。匈奴騎圍上。上乃使人厚遺閼氏。閼氏乃說冒頓曰。今得漢地。猶不能居。且兩主不相厄。居七日。胡騎稍引去。時天大霧。漢使人往來。胡不覺。護軍中尉陳平言上曰。胡者全兵。請令彊弩傅兩矢外嚮。徐行出圍。入平城。漢救兵亦到。胡騎遂解去。漢亦罷兵歸。韓信爲匈奴將兵往來擊邊。

て平城に入る。漢の救兵も亦到り、胡騎遂に解き去る。漢も亦兵を罷めて歸る。韓信匈奴の爲めに兵を將ゐて往來して邊を擊つ。

(一) 一國邊境にありて敵の侵入を被る　(二) 密かに使を通ず　(三) 責む　(四) 白土縣　(五) 石州離石　(六) 臺の名、平城の旁の高地丘陵の如し　(七) 弓と矛とのみにして他の雜仗なきをいふ　(八) 附

漢十年。信令王黃等說誤陳豨。十一年。春。故韓王信復與胡騎入居參合。距漢。

漢の十年信王黃等をして說きて陳豨を誤らしむ。十一年春故の韓王信復胡騎と入りて(一)參合に居り、漢を距ぐ。漢柴將軍をして之を擊たしむ。信に書を遺りて曰く、陛下寬仁、諸侯畔亡(二)するもの有りと雖も、而も復歸すれば輒ち故の位號に復して誅せざるなり。大王の知る所なり。今王敗亡を以て胡に走る。大罪ある

邑。上許之。信乃徙治馬邑。秋。匈奴冒頓大圍信。信數使使胡求和解。漢發兵救之。疑信數間使有二心。使人責讓信。信恐誅。因約匈奴約共攻漢。反以馬邑降胡擊太原。七年。冬。上自往擊破信軍銅鞮。斬其將王喜。信亡走匈奴。與其將白土人曼丘臣王黄等。立趙

し、其の將王喜を斬る。信亡げて匈奴に走り、其の將白土(四)の人曼丘臣王黄等と趙の苗裔趙利を立てて王となし、復信の敗散の兵を收めて信及び冒頓と謀りて漢を攻む。匈奴左右の賢王をして萬餘騎に將として王黄等と廣武に屯し、以て南して晉陽に至らしむ。漢の兵と戰ふ。漢大に之を破る。追ひて(五)離石に至る、後復之を破る。匈奴復兵を樓煩の西北に聚む。漢車騎をして匈奴を擊破せしむ。匈奴常に敗走す。漢勝に乘じ、北ぐるを追ふ。冒頓代上谷に居ると聞き、高皇帝晉陽に居て、人をして冒頓を視しむ。還り報じて曰く、擊つべしと。上遂に平城に至る。上白登(六)に出づ。匈奴の騎上を圍む。上乃ち人をして厚く閼氏に遺らしむ。閼氏乃ち冒頓に說きて曰く、今漢の地を得るも猶ほ居ること能はず。且つ兩主相厄せずと。居ること七日胡の騎稍く引き去る。時に天大に霧ふる。漢人をして往來せしむれども胡覺らず。護軍中尉陳平上に言して曰く、胡は(七)全兵なり。請ふ彊弩をして兩矢(八)を傅けて外に嚮はしめんと。徐行して圍を出で

尉將兵略韓地。項籍之封諸王。皆就國。韓王成以不從無功。不遣就國。更以爲列侯。及聞漢遣韓信略韓地。迺令故項籍游吳時。吳令鄭昌。爲韓王以距漢。漢二年。韓信略定韓十餘城。漢王至河南。韓信急擊漢王昌陽城。昌降。漢王迺立韓信爲韓王。常將韓兵從。三年。漢王出滎陽。韓王信周苛等守滎陽。及楚敗滎陽。信降楚。已而得亡復歸漢。漢復立以爲韓王。竟從擊破項籍。天下定。五年。春。遂與剖符爲韓王王潁川。

明年。春。上以韓信材武。所王北近鞏洛。南迫宛葉。東有淮陽。皆天下勁兵處。迺詔徙韓王信王太原。以北備禦胡。都晉陽。信上書曰。國被邊。匈奴數入。晉陽去塞遠。請治馬

明年春上韓信の材武にして、王たる所は北は鞏洛に近く、南は宛葉に迫り、東に淮陽あり、皆天下勁兵の處なるを以て、迺ち詔して、韓王信を徙して太原に王とし、以て北胡に備へ禦がしめ、晉陽に都す。信上書して曰く、國邊を被り、匈奴數ゝ入る。晉陽は塞を去ること遠し。請ふ馬邑に治せんと。上之を許す。信乃ち徙りて馬邑に治す。秋、匈奴の冒頓大に信を圍む。信數ゝ胡に使して和解を求めしむ。漢兵を發して之を救ふ。信數ゝ間使して二心を有すと疑ひ、人をして信を責讓せしむ。信誅を恐れ、因りて匈奴と約し、共に漢を攻む。反つて馬邑を以て胡に降りて太原を擊つ。七年冬、上自ら往きて信の軍を銅鞮に擊破

城。使下張良以二韓司徒一降中下韓故地上。得レ信以爲二韓將一。將二其兵一從二沛公一入二武關一。沛公立爲二漢王一。韓信從入二漢中一。迺說二漢王一曰。項王王二諸將近地一。而王獨遠二居此一。此左遷也。士卒皆山東人。跂而望レ歸。及二其鋒東鄕一。可三以爭二天下一。漢王還定二三秦一。迺許レ信爲二韓王一。先拜レ信爲二韓太

となす。先づ信を拜して韓の太尉となし、兵に將として韓の地を略せしむ。項籍の諸王を封ずるや、皆國に就く。韓王成從はずして功なきを以て、遣はして國に就かしめず。更に以て列侯となす。漢韓信を遣はして韓の地を略せしむと聞くに及び迺ち故項籍呉に游びし時の呉の令鄭昌をして韓王となし以て漢を距がしむ。漢の二年韓信韓の十餘城を略定す。漢王河南に至る。韓信急に韓王昌を陽城に擊つ。昌降る。漢王迺ち韓信を立てて韓王となす。常に韓の兵を將ゐて從ふ。三年漢王滎陽を出づ。韓王信周苛等滎陽を守る。楚滎陽を敗るに及び、信楚に降る。已にして亡ぐるを得て復漢に歸す、漢復立てて以て韓王となす。竟に從ひて擊ちて項籍を破り天下定まる。五年春遂に與に符(五)を剖きて韓王として潁川に王たり。

(一) 庶子の子、庶孫、櫱の蘖生にたとふ。蘖はひこばえ、木のきりかぶより生ずる芽 (二) 人民を慰撫平定す (三) 體を起す (四) 氣向ふの鋭きをいふ (五) 古昔天子が諸侯を封ずるとき割符をさき其の一半を諸侯に與へ他の一半を京師に留めて他日の證とす、よりて符を剖くは諸侯に封ずるの意

韓王信者。故韓襄王孽孫也。長八尺五寸。及三項梁之立二楚後懷王一也。燕齊趙魏皆已前王。唯韓無レ有レ後。故立二韓諸公子橫陽君成一爲二韓王一。欲三以撫二定韓故地一。項梁敗死二定陶一。成犇二懷王一。沛公引レ兵擊二陽

巻九十三

韓王信盧綰列傳第三十三

韓王信は故の韓の襄王の孽孫なり。(一)長八尺五寸。項梁の楚の後懷王を立つるに及び、燕齊趙魏皆已に前に王たり。唯韓のみ後あることなし。故に韓の諸公子橫陽君成を立てて韓王となし、以て韓の故地を撫(二)定せんと欲す。項梁敗れて定陶に死す。成、懷王に犇る。沛公兵を引きて陽城を擊ち、張良をして韓の司徒を以て韓の故地を降下せしむ。信を得、以て韓の將となし、其の兵を將ゐ沛公に從ひて武關に入る。沛公立ちて漢王となる。韓信從ひて漢中に入る。迺ち漢王に說きて曰く、項王諸將を近地に王とす。而るに王のみ獨り此に遠居す。此れ左遷なり。士卒は皆山東の人にして(三)跂てて歸らんことを望む。其の鋒東嚮するに及ばば以て天下を爭ふ可しと。漢王還りて三秦を定め、迺ち信を許して韓王

令二其旁可一レ置二萬家一。余視二其母冢一良然。假令韓信學レ道謙讓不レ伐二己功一。不レ矜二其能一。則庶幾哉。於二漢家勳一可下以比二周召太公之徒一。後世血食上矣。不レ務レ出レ此而。天下已集。乃謀二畔逆一夷二滅宗族一。不二亦宜一乎。

すべし。此に出づるを務めずして、而して天下已に集れるに(五)、乃ち畔逆を謀りて宗族を夷滅す、亦宜ならずや。

(一) 萬家塚を守るは王侯のなす所、布衣たる時已に其志業と異り (二) 功名を全うすべきに近からん (三) 周公旦召公奭、太公望呂尚 (四) 祭の時の犧牲を神が食ふの義、轉じて子孫永遠に繼ぎて、子孫に祭らるゝ意にいふ (五) 集は成なり、就なり、漢の天下已に成りて群雄鎭靜して畔逆の時にあらず

通曰。嗟乎。寃哉烹也。上曰。若教韓信反。何寃。對曰。秦之綱絶而維弛。山東大擾。異姓並起。英俊烏集。秦失其鹿。天下共逐之。於是高材疾足者先得焉。跖之狗吠堯。堯非不仁。狗固吠非其主。當是時。臣唯獨知韓信。非知陛下也。且天下鋭精持鋒。欲爲陛下所爲者甚衆。顧力不能耳。又可盡烹之邪。高帝曰。置之。乃釋通之罪。

能はざるのみ。又盡く之を烹る可けんやと。高帝曰く、之を置けと。乃ち通の罪を釋す。

(一) 韓信を侮りていふ　(二) 國家を始め社會の秩序を整ふる法制道德弛み廢れて行はれずなる　(三) 帝位に喩ふ　(四) 大賊盜跖に畜はる、狗大聖堯に吠えつく　(五) 精鐵を磨淬して之を鋭くす、武力を練る

太史公曰。吾如淮陰。淮陰人爲余言。韓信雖爲布衣時。其志與衆異。其母死。貧無以葬。然乃行營高敞地。

太史公曰く、吾淮陰に如く。淮陰の人余の爲めに言ふ。韓信布衣たる時と雖も其の志衆と異なり。其の母死す。貧にして以て葬るなし。然れども、乃ち行きて高敞の地を營みて、其の旁に萬家を置く可からしむと。(一)余其の母の冢を見るに良に然り。假令韓信道を學び、謙讓して己の功に伐らず、其の能に矜らずんば、則ち庶幾からん。(二)漢家の勳に於いては、以て周召太公の徒に比し、(三)後世血食(四)

高祖已從二豨軍一來。至見二信死一、且喜且憐レ之。問。信死亦何言。呂后曰。信言恨レ不レ用二蒯通計一。高祖曰。是齊辯士也。乃詔レ齊捕二蒯通一。蒯通至。上曰。若教二淮陰侯反一乎。對曰。然。臣固教レ之。豎子不レ用二臣之策一。故令三自夷二於此一。如彼豎子用二臣之計一。陛下安得而夷レ之乎。上怒曰。烹レ之。

高祖已に豨の軍より來る。至りて信の死せるを見、且つ喜び、且つ之を憐み、問ふ、信死するとき亦何をか言ふと。呂后曰く、信言ふ、蒯通の計を用ひざりしを恨むと。高祖曰く、是れ齊の辯士なりと。乃ち齊に詔して蒯通を捕へしむ。蒯通至る。上曰く、若淮陰侯に反を教へしかと。對へて曰く、然り。臣固より之を教へたり。豎子臣の策を用ひず。故に自ら此に夷せられしむ。如し彼の豎子臣の計を用ひば、陛下安んぞ得て之を夷せんやと。上怒りて曰く、之を烹よと。通曰く、嗟乎、寃なるか、烹るやと。上曰く、若韓信に反を敎ふ。何ぞ寃ならんと。對へて曰く、秦の綱絶え、維弛み、山東大に擾れ、異姓並ひ起り、英俊烏集す。秦其の鹿(三)を失ひ天下共に之を逐ふ。是に於て高材疾足なる者先づ得たり。(四)蹠の犬堯に吠ゆ。堯不仁なるに非ず、狗固より其の主に非ざるものに吠ゆ。是の時に當り臣唯獨り韓信をのみ知る。陛下を知るに非ざるなり。且つ天下(五)精を鋭くし鋒を持し、陛下の爲す所をなさんと欲する者甚だ衆し。顧ふに、力

精兵處也。而公陛下之信幸臣也。人言二公之畔一。陛下必不レ信。再至陛下乃疑矣。三至必怒而自將。吾爲レ公從レ中起。天下可レ圖也。陳豨素知二其能一也。信レ之曰。謹奉レ教。漢十一年。陳豨果反。上自將而往。信病不レ從。陰使三人至二豨所一曰。第擧レ兵。吾從レ此助レ公。信乃謀レ與二家臣一。夜詐レ詔。赦二諸官徒奴一。欲三發以襲二呂后大子一。部署已定。待二豨報一。其舍人得二罪於信一。信囚欲レ殺レ之。舍人弟上レ變。告二信欲レ反狀於呂后一。呂后欲レ召。恐二其黨不一レ就。乃與二蕭相國一謀。詐令下人從レ上所一來上言。豨已得レ死。列侯羣臣皆賀。相國紿レ信曰。雖レ疾彊入賀。信入。呂后使二武士縛一レ信。斬二之長樂鐘室一。信方レ斬曰。吾悔不レ用二蒯通之計一。乃爲二兒女子所一レ詐。豈非レ天哉。遂夷二信三族一。

國と謀り、詐りて人をして上の所より來らしめて言ふ、豨已に死するを得たりと。列侯羣臣皆賀す。相國信を紿きて曰く、疾むと雖も彊めて入りて賀せよ。信入る。呂后武士をして信を縛せしめ、之を長樂の(九)鐘室に斬る。信斬らるゝに方りて曰く、吾蒯通の計を用ひず、乃ち兒女子に詐らるゝを悔ゆ。豈天に非ずや。と。遂に信の三族(一〇)を夷ぐ。

(一) 多ければ多きほど益々巧妙に引廻さんのみ　(二) 善く將軍を統率し得る器量を有せらる　(三) 天下を天より授かりたる方にて人力の及ぶ所にあらず　(四) 天下最も強き兵の集る處なり　(五) 韓信の才能絶倫なることを承知せり　(六) 官廳にて使役する懲役人　(七) 黨は儻と通ず、或は然るの意　(八) 召に就かざらんことを恐る　(九) 長樂宮中懸鍾の室　(一〇) 父母兄弟妻子、一説父及び父の兄弟、己及び己の兄弟、子。又、父族母族妻族

多多益善。何爲爲我禽。信曰。陛下不能將兵而善將將。此乃信之所以爲陛下禽也。且陛下所謂天授非人力也。陳豨拜爲鉅鹿守。辭於淮陰侯。淮陰侯挈其手。辟左右與之步於庭。仰天歎曰。子可與言乎。欲與子有言也。豨曰。唯將軍令之。淮陰侯曰。公所居。天下

となり、淮陰侯に辭す。淮陰侯其の手を挈り、左右を辟けて之と庭に歩し、天を仰ぎて歎じて曰く、子與に言ふ可きか。子と言ふあらんと欲するなりと。豨曰く、唯將軍之を令せよと。淮陰侯曰く、公の居る所は(四)天下精兵の處なり。而して公は陛下の信幸の臣なり。人公の畔を言ふとも、陛下必ず信ぜざらん。再び至らば陛下乃ち疑はん。三たび至らば必ず怒りて自ら將たらん。吾公の爲めに中より起らば天下圖る可きなりと。陳豨素より其の(五)能を知るなり。之を信じて曰く、謹みて教を奉ずと。漢の十一年陳豨果して反す。上自ら將として往く。信病みて從はず。陰かに人をして豨の所に至らしめて曰く、第〻兵を擧げよ。吾此より公を助けんと。信乃ち家臣と謀り、夜詔と詐り、(六)諸官の徒奴を赦し、發して以て呂后太子を襲はんと欲す。部署已に定まりて豨の報を待つ。其の舍人罪を信に得。信囚へて之を殺さんと欲す。舍人の弟變を上り、信反せんと欲する狀を呂后に告ぐ。呂后召さんと欲す。其の黨(七)しくは(八)就かざらんことを恐れ、乃ち蕭相

矣。乃罵信曰。公非長者。卒自剄。信持其首謁高祖於陳。上令武士縛信載後車。信曰。果若人言。狡兎死良狗烹。高鳥盡良弓藏。敵國破謀臣亡。天下已定。我固當烹。上曰。人告公反。遂械繫信。至雒陽。赦信罪。以爲淮陰侯。信知漢王畏惡其能。常稱病不朝從。信由此日怨望。居常鞅鞅。羞與絳灌等列。信常過樊將軍噲。噲跪拜送迎。言稱臣。曰。大王乃肯臨臣。信出門。笑曰。生乃與噲等爲伍。

をいふ ㈢ すばやき兎が狩られて死すれば今まで狩に用ひたる良き狗も烹殺され、空中を飛ぶ鳥もなくなりては狩りに用ひし良き弓も用なしと顧みられずなる ㈣ 手かせ足かせをはめ、牢獄につなぐ。械は罪人の手足首などにはめる刑具 ㈤ おそれにくむ ㈥ 朝見從行 ㈦ 志滿たず不平なり ㈧ 嘗 ㈨ 死を免れて生くるを得たれども王たる能はず列侯となりて噲等同列にあるは恥づべしとなり、伍はまじはる、なかまになるの意

上常從容。與信言諸將能不各有差。上問曰。如我能將幾何。信曰。陛下不過能將十萬。上曰。於君何如。曰。臣多多而益善耳。上笑曰。

上常て從容として信と諸將の能不を言ふ各〻差あり。上問ひて曰く、我の如きは能く幾何に將たるかと。信曰く、陛下能く十萬に將たるに過ぎずと。上曰く、君に於ては何如と。曰く、臣は(一)多多にして益〻善きのみと。上笑ひて曰く、多多益〻善くして何爲れぞ我が禽となると。信曰く、陛下は兵に將たる能はざれども而も(二)善く將に將たり。此れ乃ち信の陛下に禽にせらるゝ所以なり。且つ陛下は謂所る(三)天授にして人力に非ざるなりと。　陳稀拜せられて鉅鹿の守

巡狩會二諸侯一。南方有二雲夢一。發レ使告二諸侯一。會レ陳。吾將レ游二雲夢一。實欲レ襲レ信。信弗レ知。高祖且レ至レ楚。信欲二發レ兵反一。自度無レ罪。欲レ謁レ上恐レ見レ禽。人或說レ信曰。斬二昧謁レ上。上必喜。無レ患。信見レ昧計レ事。昧曰。漢所三以不二擊取一レ楚。以三昧在二公所一。若欲三捕レ我以自媚二於漢一。吾今日死。公亦隨レ手亡

見て事を計る。昧曰く、(二)漢の擊ちて楚を取らざる所以は、昧が公の所に在るを以てなり。若し我を捕へ、以て自ら漢に媚びんと欲せば、吾今日死せん。公も亦手に隨ひて亡びんと。乃ち信を罵りて曰く、公は長者に非ずと。卒に自剄す。信其の首を持して高祖に陳に謁す。上武士をして信を縛せしめ後車に載す。信曰く、果して人の言の若し。(三)狡兎死して良狗烹られ、高鳥盡きて良弓藏る。敵國破れて謀臣亡ぶ。天下已に定まる。我固より當に烹らるべしと。上曰く、人公反すと告ぐと。遂に信を(四)械繫して雒陽に至る。信の罪を赦し、以て淮陰侯となす。信漢王其の能を(五)畏惡するを知り、常に病と稱して(六)朝從せず。信此より日〻怨望す。居常(七)鞅鞅として絳灌等と列するを羞づ。信常て樊將軍噲に過ぎる。噲跪拜送迎し、言臣と稱して曰く、大王乃ち肯へて臣に(八)臨むと。信門を出で笑ひて曰く、(九)生きては乃ち噲等と伍をなすと。

(一) 巡る (二) 天子が各國をめぐり歩き其の狀況を見ること、狩は守なり、諸侯が守る所の任地を天子が視察する

察之。韓信猶豫不忍倍漢。又自以爲功多。漢終不奪我齊。遂謝蒯通。蒯通說不聽。已佯狂爲巫。漢王之困固陵。用張良計。召齊王信。遂將兵會垓下。項羽已破。高祖襲奪齊王軍。趙五年。正月。徙齊王信爲楚王。都下邳。信至國。召所從食漂母。賜千金。及下鄉南昌亭長。賜百錢。曰。公小人也。爲德不卒。召辱己之少年。令出袴下者。以爲楚中尉。告諸將相曰。此壯士也。方辱我時。我寧不能殺之邪。殺之無名。故忍而就於此。

項王亡將鍾離昧家在伊廬。素與信善。項王死後亡歸信。漢王怨昧。聞其在楚。詔楚捕昧。信初之國。行縣邑。陳兵出入。漢六年。人有上書告楚王信反。高帝以陳平計。天子

項王の亡將鍾離昧の家伊廬に在り、素と信と善し。項王死して後亡げて信に歸す。漢王昧を怨み、其の楚に在るを聞き、楚に詔して昧を捕へしむ。信初めて國に之き、縣邑を行り、兵を陳ねて出入す。漢の六年、人上書して楚王信反すと告ぐるものあり。高帝(一)陳平の計を以て、天子巡狩(二)し諸侯を會す。南方に雲夢あり、使を發して諸侯に告ぐ、陳に會せよ。吾將に雲夢に游ばんとすと。實は信を襲はんと欲す。信知らず。高祖且に楚に至らんとす。信兵を發して反せんと欲す。自ら度るに罪なしと。上に謁せんと欲すれども禽にせられんことを恐る。人或は信に說きて曰く、昧を斬りて上に謁せば、上必ず喜びて、患なからんと。信昧を

之。決弗二敢行一者。百事之禍也。故曰。猛虎之猶豫。不ㇾ若二蜂蠆之致一ㇾ螫。騏驥之蹢躅。不ㇾ如二駑馬之安步一。孟賁之狐疑。不ㇾ如二庸夫之必至一也。雖ㇾ有二舜禹之智一。吟而不ㇾ言。不ㇾ如二瘖聾之指麾一也。此言ㇾ貴二能行一ㇾ之。夫功者難ㇾ成而易ㇾ敗。時者難ㇾ得而易ㇾ失也。時乎時不二再來一。願足下詳

の計を用ひ、齊王信を召し、遂に兵に將として垓下に會す。項羽已に破れ、高祖襲ひて齊王の軍を奪ふ。趙の五年正月齊王信を徙して楚王となし、下邳に都す。信國に至り、從ひて食ひし所の漂母を召して千金を賜ふ。及び下鄕の南昌亭の長に百錢を賜ひて曰く、公は小人なり。(一三)德を爲して卒へずと。己を辱めし少年の胯下を出でしめし者を召して、以て楚の中尉となし、諸將相に告げて曰く、此れ壯士なり。我を辱めし時に方り、我寧んぞ之を殺すこと能はざらんや。之を殺すに名なし。故に忍びて此を就せりと。(一四)

(一) 人の說を聽くは事の成敗を候ひて行ふにあり　(二) 計は事の機會を見るにあり　(三) 一二は始終と言ふが如し　(四) 烹炊供養の雜役をなす賤しき者　(五) 儋は擔なり、一とになひなり、二石なり、石は一石なり、二石又は一石のたか、分量の少なきをいふ　(六) はちとさそり、蠆は蠍の一種　(七) 進まざるをいふ、行きなやむ　(八) 古昔の勇士の名　(九) 口ずさむ、呻めきいふ、微吟の意なり　(一〇) 瘂と聾　(一一) いつはりて狂人となる　(一二) みこ、神に事へ舞樂をなしかみおろしをなすもの　(一三) 人に德を行ひて最後まで完全に德をなしをへず　(一四) 今日の功を就せり

復說曰。夫聽者事之候也。計者事之機也。聽過計失而能久安者鮮矣。聽不失一二者。不可亂以言。計不失本末者。不可紛以辭。夫隨廝養之役者。失萬乘之權。守儋石之祿者。闕卿相之位。故知者決之斷也。疑者事之害也。審毫氂之小計。遺天下之大數。智誠知

ち、計失ひて、能く久安なる者は鮮し。聽(三)一二を失はざる者は、亂すに言を以てす可からず。計本末を失はざる者は紛らすに辭を以てす可からず。夫れ廝養(四)の役に隨ふ者は、萬乘の權を失ひ、儋石(五)の祿を守る者は、卿相の位を闕く。故に知は決の斷なり。疑は事の害なり。毫氂の小計を審にし、天下の大數を遺る。智誠に之を知り、決して敢へて行はざる者は百事の禍なり。故に曰く、猛虎の猶豫するは蜂蠆(六)の螫を致すに若かず。騏驥の跼躅(七)するは駑馬の安步するに如かず。孟賁(八)の狐疑するは庸夫の必至に若かざるなり。舜禹の智有りと雖も、吟(九)して言はずんば瘖聾(一〇)の指麾するに如かざるなり。此れ能く之を行ふことを貴ぶをいふ。夫れ功は成り難くして敗れ易し。時は得難くして失ひ易し。時なるか、時再び來らず。願くは足下詳に之を察せよと。韓信猶豫して漢に倍くに忍びず。又自ら以爲へらく、功多くして漢終に我が齊を奪はざらんと。遂に蒯通に謝す。蒯通說聽かれず、已にして佯狂(一一)して巫(一二)となる。漢王の固陵に困しむや、張良

之與二成安君一者也。以二忠信一言レ之。則不レ過三大夫種范蠡之於二句踐一也。此二人者足二以觀一矣。願足下深慮レ之。且臣聞勇略震レ主者身危。而功蓋二天下一者不レ賞。臣請言二大王功略一。足下涉二西河一。虜二魏王一。禽二夏說一。引レ兵下二井陘一。誅二成安君一。徇レ趙脅レ燕定レ齊。南摧二楚人之兵二十萬一。東殺二龍且一。西鄉以報。此所レ謂功無二二於天下一。而略不世出者也。今足下戴二震レ主之威一。挾二不レ賞之功一。歸レ楚楚人不レ信。歸レ漢漢人震恐。足下欲レ持レ是安歸一乎。夫勢在二人臣之位一。而有二震レ主之威一。名高二天下一。竊爲二足下一危レ之。韓信謝曰。先生且休矣。吾將レ念レ之。

て報ず。此れ所謂る功天下に二なくして略不世出(四)なる者なり。今足下主を震れしむるの威を戴き、賞せられざるの功を挾み、楚に歸せば楚人信ぜざらん。漢に歸せば、漢人震恐せん。足下是を持して(五)安くに歸せんと欲するか。夫れ勢人臣の位にありて、主を震れしむるの威あり。名天下に高し。竊かに足下の爲めに之を危むと。韓信謝して曰く、先生且く休せよ。吾將に之を念はん(六)とすと。

(一) 山野の獸盡くれば、狩獵に使はるゝ狗は不用に歸して烹て食はる (二) ふるへおそる (三) 鄕は嚮なり (四) 稀に世にある、稀に見る、稀有 (五) 臣下にして、天下無類の功と不世出の略とを有する身にして、何れの君を主と仰がんとするか (六) 先生の敎諭に就き篤と考へん

後數日。蒯通

後數日、蒯通復た說きて曰く、夫れ聽(一)は事の候なり。計(二)は事の機なり。聽過

刎頸之交。後爭二張黶陳澤之事一。二人相怨。常山王背二項王一。奉レ項嬰レ頭竄逃歸二於漢王一。漢王借レ兵而東下殺二成安君泜水之南一。頭足異レ處。卒爲二天下笑一。此二人相與天下至驩也。然而卒相禽者何也。患生二於多欲一。而人心難レ測也。

今足下欲下行二忠信一以交中於漢王上。必不レ能レ固二於二君之相與一也。而事多大二於張黶陳澤一。故臣以足下必二漢王之不一レ危レ已亦誤矣。大夫種范蠡存二亡越一霸二句踐一。立レ功成レ名而身死亡。野獸已盡而獵狗亨。夫以二交友一言レ之。則不レ如三張耳

今足下忠信を行ひ以て漢王に交らんと欲す。必ず二君の相與せるより固きこと能はず。而して事多く張黶陳澤より大ならん。故に臣以て足下漢王の己を危くせざるを必するも亦誤れりとなす。大夫種范蠡は亡越を存し、句踐を霸とし功を立て、名を成し、而して身死亡す。野獸已に盡きて獵狗亨らる。夫れ交友を以て之を言へば、張耳と成安君とに如かざる者なり。忠信を以て之を言へば、則ち大夫種・范蠡の句踐に於けるに過ぎざるなり。此の二人は以て觀るに足れり、願くは足下之を深慮せよ。且つ臣聞く、勇略主を震れしむる者は身危し。而して功天下を蓋ふ者は賞せられず。臣請ふ、大王の功略を言はん。足下西河を渉り、魏王を虜にし、夏說を禽にし、兵を引きて井陘を下り、成安君を誅し、趙を徇へ燕を脅かし、齊を定め、南楚人の兵を摧くこと二十萬。東龍且を殺し、西に鄉ひて以

韓信曰。漢王遇ㇾ我甚厚。載ㇾ我以二其車一。衣ㇾ我以二其衣一。食ㇾ我以二其食一。吾聞ㇾ之。乘二人之身一者。載二人之患一。衣二人之衣一者。懷二人之憂一。食二人之食一者。死二人之事一。吾豈可二以鄉ㇾ利倍ㇾ義乎。蒯生曰。足下自以爲ㇾ善二漢王一。欲ㇾ建二萬世之業一。臣竊以爲ㇾ誤矣。始常山王成安君。爲二布衣一時。相與爲二

韓信曰く、漢王我を遇すること甚だ厚し。我を載するに其の車を以てし、我に衣するに其の衣を以てし、我に食はすに其の食を以てす。吾之を聞く、人の身に乘る者は人の患に載り、人の衣を衣る者は人の憂を懷き、人の食を食ふ者は人の事に死すと。吾豈以て利に鄕ひ、義に倍く可けんやと。蒯生曰く、足下自ら以て漢王に善しとなし、萬世の業を建てんと欲す。臣竊かに以て誤れりとなり。始め常山王(一)成安君布衣たりし時、相與に刎頸の交(二)をなす。後張黶陳澤の事を爭ひ、二人相怨む。常山王項王に背き、項を奉じ、頭を嬰きて(三)竄逃して漢王に歸す。漢王兵を借して東下せしめ、安成君を泜水の南に殺し、頭足處を異にす。卒に天下の笑となる。此の二人は相與に天下の至驩(四)なり。然り而して卒に相禽するものは何ぞや。患多欲に生じて、(五)人心測り難ければなり。

㊀ 張耳 ㊁ 首を刎ねらるゝも悔ゆるなき親しき交り ㊂ 頭を抱きて逃竄す ㊃ 此の上なき親しき交り、驩は歡なり ㊄ 人心は利によりて變じ易くして測りがたし

相率ゐて齊に朝せん。蓋し聞く、天の與ふる取らずんば反つて其の咎を受く。時至りて行はずんば、反つて其の殃を受くを。願くは足下之を孰慮せよと。

(一) 骨骼の高低大小の法則 (二) 照し合せて考ふ (三) 人を遠ざけ屛てよ (四) 王と稱す (五) 相雜りて行く、雜沓、遝は集りこみ合ふ (六) 熛は火の飛ぶをいふ (七) むしろを卷くが如く片はしより取り收む (八) 撓折敗北して自ら救ふ能はず (九) 貢賦の物を藏むるくら (一〇) 飛揚の貌、安着することなきをいふ (一一) 致す、十分に示して盡くす (一二) 鼎の如く三方に割據して獨立す (一三) 鄕は嚮なり、向なり、齊は東にあり故にいふ (一四) 楚漢の戰鬪士卒命を亡ふ (一五) 故地 (一六) 深宮に手をこまねき、手を胸にあてゝ敬禮してへりくだる

困二於京索之間一。迫二西山一而不レ能レ進者。三二年於此一矣。漢王將二數十萬之衆一。距二鞏雒一。阻二山河之險一。一日數戰。無二尺寸之功一。折北不レ救。敗二滎陽一。傷二城皋一。遂走二宛葉之間一。此所レ謂智勇俱困者也。夫銳氣挫二於險塞一。而糧食竭二於內府一。百姓罷極怨望。容容無レ所レ倚。以レ臣料レ之。其勢非二天下之賢聖一。固不レ能レ息二天下之禍一。當今兩主之命。縣二於足下一。足下爲レ漢則漢勝。與レ楚則楚勝。臣願披二腹心一輸二肝膽一效二愚計一。恐二足下不一レ能用也。誠能聽二臣之計一。莫レ若下兩利而俱存レ之。三二分天下一。鼎足而居上。其勢莫二敢先動一。夫以二足下之賢聖一。有二甲兵之衆一。據二彊齊一從二燕趙一。出二空虛之地一。而制二其後一。因二民之欲一西鄕。爲二百姓一請レ命。則天下風走而響應矣。孰敢不レ聽。割レ大弱レ彊。以立二諸侯一。諸侯已立。天下服聽而歸二德於齊一。案二齊之故一。有二膠泗之地一。懷二諸侯之德一。深拱揖讓。則天下之君王。相率而朝二於齊一矣。蓋聞天與弗レ取。反受二其咎一。時至不レ行。反受二其殃一。願足下孰二慮之一。

韓信曰。何謂也。蒯通曰。天下初發難也。俊雄豪傑建號壹呼。天下之士。雲合霧集。魚鱗襍遝。熛至風起。當此之時。憂在亡秦而已。今楚漢分爭。使天下無罪之人。肝膽塗地。父子暴骸骨於中野。不可勝數。楚人起彭城。轉鬭逐北。至於滎陽。乘利席卷。威震天下。然兵

つき、遂に宛葉の間に走る。此れ所謂る智勇倶に困しむ者なり。夫れ鋭氣險塞に挫かれ、而して糧食内府(九)に竭き、百姓罷極怨望し、容容(一〇)として倚る所なし。臣を以て之を料るに、其の勢天下の賢聖に非ずんば固より天下の禍を息むること能はず。當今兩主の命足下に縣れり。足下漢の爲めにすれば則ち漢勝たん。楚に與すれば則ち楚勝たん。臣願くは腹心を披き、肝膽(一一)を輸し、愚計を效さん。足下用ふる能はざらんことを恐る。誠に能く臣の計を聽かば兩ながら利して倶に之を存し、天下を三分して鼎(一二)足して居るに若く莫し。其の勢敢へて先づ動く莫し。夫れ足下の賢聖を以て甲兵の衆を有ち、彊齊に據り、燕趙を從へ、空虚の地に出でて其の後を制し、民の欲に因りて西鄕(一三)し、百姓の爲めに命(一四)を請はば、則ち天下風走して響應せん。孰れか敢へて聽かざらんや。大を割き、彊を弱め以て諸侯を立てよ。諸侯已に立たば、天下服聽して德に齊に歸せん。齊の故(一五)を案じ、膠泗の地を有ち、諸侯の德を懷きて、深(一六)拱揖讓すれば、則ち天下の君王

而感動之。以相人説韓信曰。僕嘗受相人之術。韓信曰。先生相人何如。對曰。貴賤在於骨法。憂喜在於容色。成敗在於決斷。以此參之。萬不失一。韓信曰。善。先生相寡人何如。對曰。願少間。信曰。左右去矣。通曰。相君之面。不過封侯。又危不安。相君之背。貴乃不可言。

人を相すること何如と。對へて曰く、貴賤は骨法(一)にあり。憂喜は容色にあり。成敗は決斷にあり。此を以て之を參(二)するに萬に一を失はずと。韓信曰く、善し。先生寡人を相すること何如と。對へて曰く、願くは少しく間(三)せよと。信曰く、左右去れと。通曰く、君の面を相するに封侯に過ぎず。又危くして安からず。君の背を相するに貴きこと乃ち言ふ可からずと。韓信曰く、何の謂ひぞやと。蒯通曰く、天下初め難を發するや、俊雄豪傑、號(四)を建てて壹呼すれば、天下の士雲合霧集、魚鱗襍遝(六)、熛至風起す。此の時に當り、憂は秦を亡すにあるのみ。今楚漢分爭(五)し、天下罪なきの人をして、肝膽地に塗れ、父子骸骨を中野に暴さしむること數ふるに勝ふべからず。楚人彭城より起り、轉鬭して北ぐるを逐ひて滎陽に至る。利に乘じて席卷(七)し、威天下に震ふ。然れども兵京索の間に困しみ、西山に迫りて進むこと能はざる者、此に三年なり。漢王數十萬の衆を將ゐ、鞏雒に距ぎ、山河の險を阻て、一日數戰し、尺寸の功なく折北(八)して救はず、滎陽に敗れ、城皐に傷

項王。其不レ可ニ親信一如レ此。今足下雖下自以與ニ漢王一爲中厚交上、爲レ之盡レ力用レ兵。終爲ニ之所レ禽矣。足下所三以得ニ須臾至レ今者。以ニ項王尚存一也。當今二王之事。權在ニ足下一。足下右投則漢王勝。左投則項王勝。項王今日亡。則次取ニ足下一。足下與ニ項王一有レ故。何不下反レ漢與レ楚連和。參ニ分天下一王中之上。今釋ニ此時一而自必ニ於漢一以擊レ楚。且爲ニ智者一。固若レ此乎。韓信謝曰。臣事ニ項王一。官不レ過ニ郎中一。位不レ過ニ執戟一。言不レ聽。畫不レ用。故倍レ楚而歸レ漢。漢王授ニ我上將軍印一。予ニ我數萬衆一。解レ衣衣レ我。推レ食食レ我。言聽計用。故吾得ニ以至ニ於此一。夫人深親ニ信我一。我倍レ之不祥。雖レ死不レ易。幸爲レ信謝ニ項王一。武涉已去。

に數萬の衆を予へ、衣を解きて我に衣せ、食を推して我に食はしむ。言聽かれ、計用ひらる、故に吾以て此に至るを得。夫れ人深く我を親信するに、我之に倍くは不祥なり。死すと雖も易へず。幸に信の爲めに項王に謝せよと。武涉已に去る。

㈠力を一にす、勠　㈡曲谷媚　㈢飽き足る、滿足　㈣故き交り　㈤此の如き迂闊の事をなす法なし　㈥守衞の士、戟を取るもの　㈦我が獻言皆採用せらる

齊人蒯通知ニ天下權在ニ韓信一、欲下爲ニ奇策一

齊人蒯通天下の權韓信に在るを知り、奇策を爲して之を感動せんと欲し、人を相するを以て韓信に說きて曰く、僕嘗て人を相するの術を受くと。韓信曰く、先生

力撃秦。秦已破。計功割地。分土而王之。以休士卒。今漢王復興兵而東。侵人之分。奪人之地。已破三秦。引兵出關。收諸侯之兵。以東撃楚。其意非盡呑天下者不休。其不知厭足如是甚也。且漢王不可必。身居項王掌握中數矣。項王憐而活之。然得脫。輒倍約復撃

で、諸侯の兵を收め、以て東楚を撃つ。其の意盡く天下を呑むに非ずんば休まず。其の厭足を知らざること是の如く甚しきなり。且つ漢王必す可からず、身項王の掌握(三)中に居ること數〻なり。項王憐みて之を活かす。然れども脫することを得れば、輒ち約に倍き、復項王を撃つ。其の親信すべからざること此の如し。今足下自ら以て漢王と厚交をなし、之が爲めに力を盡し、兵を用ふと雖も、終に之に禽とせられん。足下須臾も今に至るを得る所以の者は項王尙ほ存するを以てなり。當今二王の事權足下にあり。足下右に投ずれば則ち漢王勝たん。左に投ずれば則ち項王勝たん。項王今日亡びば則ち次で足下を取らん。足下項王と故(四)あり。何ぞ漢に反し、楚と連和し、天下を參分して之に王たらざる。今此の時を釋てて自ら漢に必とし、以て楚を撃つ。且つ智者たる固より(五)此の若くならんやと。韓信謝して曰く、臣、項王に事ふるに官郎中に過ぎず。位執戟(六)に過ぎず。言聽かれず。畫用ひられず。故に楚に倍きて漢に歸す。漢王我に上將軍の印を授け、我

知二信怯一也。遂追渡レ水。信使三人決二壅嚢一。水大至。龍且軍大半不レ得レ渡。即急撃殺二龍且一。龍且水東軍散走。齊王廣亡去。信遂追レ北至二城陽一。皆虜二楚卒一。漢四年。遂皆降平レ齊。使三人言二漢王一曰。齊僞詐多レ變。反覆之國也。南邊レ楚。不下爲二假王一以鎭上レ之。其勢不レ定。願爲二假王一便。當二是時一。楚方急圍二漢王於滎陽一。韓信使者至。發レ書。漢王大怒。罵曰。吾困二於此一。旦暮望二若來佐一レ我。乃欲二自立爲一レ王。張良陳平躡二漢王足一。因附レ耳語曰。漢方不レ利。寧能禁二信之王一乎。不レ如三因而立善遇レ之。使二自爲守一。不レ然變生。漢王亦悟。因復罵曰。大丈夫定二諸侯一。即爲二眞王一耳。何以レ假爲。乃遣二張良往一。立レ信爲二齊王一。徴二其兵一撃レ楚。

てて齊王となし、其の兵を徴して楚を撃たしむ。

（一）其の家に近きを以て顧望を懐けばなり（二）他鄕に懸軍す（三）一杯入れ（四）水を堰きたる沙嚢を取り除かしむ（五）濰水の東岸に在りし兵（六）言行をひるがへし約束を破る（七）信の使者の齎らしし所の書を發く（八）耳に口をつけ囁きて（九）騒動を惹き起さん（一〇）眞の王となるが至當なり、何ぞ假王などいふことをせん

楚已亡二龍且一。項王恐使三盱眙人武渉。往説二齊王信一曰。天下共苦レ秦久矣。相與戮

楚已に龍且を亡ふ。項王恐れ盱眙の人武渉をして往きて齊王信に說かしめて曰く、天下共に秦に苦しむこと久し。相與に力を戮せて（一）秦を撃つ。秦已に破れ、功を計り、地を割き、土を分ちて之に王とし、以て士卒を休せしむ。今漢王復た兵を興して東し、人の分を侵し、人の地を奪ひ、已に三秦を破り、兵を引いて關（二）を出

居。齊城皆反之。其勢無所得食。可無戰而降也。龍且曰。吾平生知韓信爲人。易與耳。且夫救齊不戰而降之。吾何功。今戰而勝之。齊之半可得。何爲止。遂戰與信夾濰水陳。韓信乃夜令人爲萬餘囊。滿盛砂壅水上流。引軍半渡。擊龍且。佯不勝還走。龍且果喜曰。固

渡る。信人をして壅囊(四)を決せしむ。水大に至り、龍且の軍大半渡ることを得ず。即ち急に擊ちて龍且を殺す。龍且の水東(五)の軍散走す。齊王廣亡げ去る。信遂に北ぐるを追ひて城陽に至り、皆楚の卒を虜にす。漢の四年遂に皆降して齊を平ぐ。人をして漢王に言はしめて曰く、齊は僞詐にして變多し。反覆(六)の國なり。南楚に邊す。假王となりて以て之を鎭めずんば其の勢定まらず。願くは假王ならんこと便なりと。是の時に當り楚方に急に漢王を滎陽に圍む。韓信の使者至る。書を發す。漢王大いに怒り罵りて曰く、吾此れに困しみ、旦暮若の來りて我を佐(七)くるを望む。乃ち自立して王とならんと欲すと。張良陳平漢王の足を躡み、因りて耳(八)に附き、語げて曰く、漢方に利あらず。寧ぞ能く信の王たるを禁ぜんや。因りて立てて善く之を遇し、自ら爲めに守らしむるに如かず。然らずんば變(九)生ぜんと。漢王も亦悟り、因りて復罵りて曰く、大丈夫諸侯を定む、即ち眞王(一〇)となさんのみ。何ぞ假を以てなさんと。乃ち張良を遣はして往かしめ、信を立

韓信已定二臨菑一。遂東追レ廣至二高密西一。楚亦使二龍且將一。號稱二二十萬一救レ齊。齊王廣龍且。幷レ軍與レ信戰。未レ合。人或說二龍且一曰。漢兵遠鬭窮戰。其鋒不レ可レ當。齊楚自居二其地一戰。兵易二敗散一。不レ如下深壁令二齊王一使中其信臣上招二所亡城一。亡城聞二其王在レ楚來救一。必反レ漢。漢兵二千里客

韓信已に臨菑を定め、遂に東し、廣を追ひて高密の西に至る。楚も亦龍且をして將たらしめ、號して二十萬と稱し、齊を救ふ。齊王廣・龍且軍を幷せて信と戰ふ。未だ合はず。人或は龍且に說きて曰く、漢の兵遠く鬭ひて窮戰す。其の鋒當るべからず。齊楚自ら其の地に居りて戰ふ。兵敗散(一)し易し。壁を深くし、齊王をして其の信臣をして亡ふ所の城を招かしむるに如かず。亡城其の王楚に在り來り救ふと聞かば必ず漢に反せん。漢の兵二千里に客居(二)す。齊の城皆之に反せば、其の勢食を得る所なし。戰ふこと無くして降すべきなりと。龍且曰く、吾平生韓信の人となりを知る。與し易きのみ。且つ夫れ齊を救ひ、戰はずして之を降さば吾何の功あらん。今戰ひて之に勝たば、齊の半は得べし。何爲れぞ止らんと。遂に戰ひ信と濰水を夾みて陣す。韓信乃ち夜人をして萬餘の囊を爲り、沙を滿盛し、水の上流を壅がしめ、軍を引きて半ば渡り、龍且を擊ち佯りて勝たず(三)還り走る。龍且果して喜びて曰く、固より信の怯なるを知ると。遂に追ひて水を

軍修武。至宿二傳舍。晨自稱二漢使。馳入二趙壁。張耳漢信未レ起。卽二其臥內。上奪二其印符。以麾召二諸將一易二置之。信耳起。乃知二漢王來一大驚。漢王奪二兩人軍。卽令二張耳備二守趙地。拜二漢信一爲二相國。收二趙兵未レ發者一擊レ齊。信引レ兵東。未レ渡二平原。聞下漢王使中酈食其已說上レ齊。漢信欲レ止。范陽辯士蒯通說レ信曰。將軍受レ詔擊レ齊。而漢獨發二間使一下レ齊。寧有レ詔止二將軍一乎。何以得レ毋レ行也。且酈生一士。伏レ軾掉二三寸之舌。下二齊七十餘城。將戰將二數萬衆。歲餘。乃下二趙五十餘城。爲レ將數歲。反不レ如二一豎儒之功一乎。於レ是信然レ之從二其計。遂渡レ河。齊已聽二酈生。卽留縱レ酒。罷レ備レ漢守禦。信因襲二齊歷下軍。遂至二臨菑。齊王田廣以二酈生一賣レ己。乃烹レ之而走二高密。使三使之レ楚請レ救。

す。寧んぞ詔ありて將軍を止むるか。何を以てか行くことなきを得んや。且つ酈生は一士、軾(四)に伏し、三寸の舌を掉ひ、齊の七十餘城を下す。將軍數萬の衆に將たること歲餘。乃ち趙の五十餘城を下す。將たること數歲、反りて一豎儒(五)の功に如かざるかと。是に於て信之を然りとし、其の計に從ひ、遂に河を渡る。齊已に酈生に聽き、卽ち留りて酒を縱にし、漢に備ふる守禦を罷む。信因りて齊の歷下(六)の軍を襲ひて遂に臨菑に至る。齊王田廣酈生を以て己を賣るとし、乃ち之を烹て高密に走る。使をして楚に之きて救を請はしむ。

(一) 宿驛の旅館　(二) 將軍たるの印綬と割符　(三) 懷州平原津　(四) 車の前の橫木、車中立乘して敬禮するとき倚るもの　(五) 儒者を罵りていふ、豎は小童　(六) 齊の南歷城縣

因請下立二張耳一爲二趙王一。以鎮中撫其國上。漢王許レ之。乃立二張耳一爲二趙王一。楚數使二奇兵渡一河擊レ趙。趙王耳韓信往來救レ趙。因行定二趙城邑一。發レ兵詣レ漢。楚方急圍二趙王於滎陽一。漢王南出之二宛葉間一。得二黥布一走入二成皐一。楚又復急圍レ之。六月。漢王出二成皐一。東渡レ河。獨與二滕公一俱從二張耳

を鎮撫せんことを請ふ。漢王之を許す。乃ち張耳を立てて趙王となす。楚數々奇兵をして河を渡りて趙を撃たしむ。趙王耳韓信往來して趙を救ふ。因りて行くゆく趙の城邑を定め、兵を發して漢に詣る。楚方に急に漢王を滎陽に圍む。漢王南に出でて宛葉の間に之き、黥布を得て走りて成皐に入る。楚又復急に之を圍む。六月漢王成皐を出でて東河を渡り、獨り滕公と倶に張耳の軍に修武に從ひ、至りて傳舍に宿す。晨に自ら漢の使と稱し、馳せて趙の壁に入る。張耳韓信未だ起きず、其の臥内に卽きて、上其の印符を奪ひ、以て諸將を麾召し之を易置す。信耳起きて乃ち漢王の來れるを知りて大に驚く。漢王兩人の軍を奪ひ、卽ち張耳をして趙の地を備守せしめ、韓信を拜して相國となし趙の兵の未だ發せざる者を收めて齊を撃たしむ。信兵を引きて東し、未だ平原を渡らず。漢王酈食其をして已に說きて齊を下さしむと聞きて、韓信止らんと欲す。范陽の辯士蒯通信に說きて曰く、將軍詔を受け齊を撃つ。而して漢獨り間使を發して齊を下

倦弊之兵。頓之燕堅城之下。欲戰恐久力不能拔。情見勢屈。曠日糧竭。而弱燕不服。齊必距境以自彊也。燕齊相持而不下。則劉項之權。未有所分也。若此者將軍所短也。臣愚竊以爲過矣。故善用兵者。不以短擊長。而以長擊短。韓信曰。然則何由。廣武君對曰。方今爲將軍計。莫如案甲休兵。鎭趙撫其孤。百里之內牛酒日至。以饗士大夫。醳兵北首燕路。而後遣辯士。奉咫尺之書。暴其所長於燕。燕必不敢不聽從。燕已從。使諠言者東告齊。齊必從風而服。雖有智者。亦不知爲齊計矣。如是則天下事皆可圖也。兵固有先聲而後實者。此之謂也。韓信曰。善。從其策。發使使燕。燕從風而靡。

者ありと雖も、亦齊の爲めに計ることを知らざらん。是の如くんば則ち天下の事皆圖る可きなり。兵固より聲を先にして實を後にする者ありとは、此の謂なりと。韓信曰く、善しと。其の策に從ひ、使を發して燕に使せしむ。燕風に從ひて靡く。

㈠ 擇びて之を用ふ ㈡ 信の爲めに久しからずして滅亡せんことを恐れ、民其生業に安ずる能はず、作業を廢止して美衣美食を事とす、褕は美なり、一說褕は偸なり苟且なり、久遠の計をなさず ㈢ 止む、一說頓は鈍に通ず、挫折するの義なり ㈣ 酒を飲ましむ ㈤ 向ふ ㈥ 其の書牘長さ咫若くは尺なるもの。咫は八寸 ㈦ 暴は顯なり ㈧ 辯士、諠は喧に通ず

乃遣使報漢。

乃ち使を遣して漢に報ぜしむ。因りて張耳を立てて趙王となし、以て其の國

戰百勝之計。一旦而失之。軍敗鄗下。身死泜上。今將軍涉西河。虜魏王。禽夏說閼與。一舉而下井陘。不終朝破趙二十萬衆。誅成安君。名聞海內。威震天下。農夫莫不輟耕釋耒。褕衣甘食。傾耳以待命者。若此將軍之所長也。然而衆勞卒罷。其實難用。今將軍欲舉

衣甘食し、耳を傾けて命を待たざる者なし。此の若きは將軍の長ずる所なり。然り而して衆勞し、卒罷れ、其の實用ひ難し。今將軍倦弊の兵を擧げて之を燕の堅城の下に頓(三)めんと欲す。戰はんと欲すとも恐らくは久しくして力拔くこと能はず、情見はれ、勢屈し、日を曠くして糧竭き、而して弱燕服せず、齊必ず境に距ぎ、以て自ら彊くせん。燕齊相持して下らずんば、則ち劉項の權未だ分るる所あらざるなり。此の若き者は將軍の短なる所なり。臣愚竊かに以て過てりとなす。故に善く兵を用ふる者は短を以て長を擊たず、長を以て短を擊つと。韓信曰く、然らば則ち何にか由らんと。廣武君對へて曰く、方今將軍の爲めに計るに甲を案じ、兵を休め趙を鎭めて其の孤を撫し、百里の內牛酒日に至り、以て士大夫を饗し、兵に醳(四)し、北燕の路に首(五)ふに如くはなし。而して後辯士を遣はし、(六)咫尺の書を奉じ、其の長ずる所を燕に暴(七)さば、燕必ず敢へて聽從せずんばあらず。燕已に從はば、諠言(八)の者をして東齊に告げしめば、齊必ず風に從ひて服せん。智

服曰。善。非二臣所一レ及也。於レ是信問二廣武君一曰。僕欲二北攻レ燕東伐一レ齊。何若而有レ功。廣武君辭謝曰。臣聞敗軍之將不レ可二以言一レ勇。亡國之大夫不レ可二以圖一レ存。今臣敗亡之虜。何足三以權二大事一乎。信曰。僕聞レ之。百里奚居レ虞而虞亡。在レ秦而秦霸。非下愚二於虞一。而智中於秦上也。用與レ不レ用。聽與レ不レ聽也。誠令三成安君聽二足下計一。若レ信者亦已爲レ禽矣。以レ不レ用二足下一故。信得レ侍耳。因固問曰。僕委レ心歸レ計。願足下勿レ辭。

陣（四）滅亡の外なき地位に陥れて而してその死地より活路を求めて活く、必死を期して後活路を開く（五）かてやすんず、慰撫す、拊は撫なり（六）急に市塵に入りて其の人を驅りて以て戰に赴かしむる如く素より習練せる者にあらざるをいふ（七）謙辭なり左右に侍して敎へを乞ふを得

廣武君曰。臣聞智者千慮。必有二一失一。愚者千慮。必有二一得一。故曰。狂夫之言聖人擇焉。顧恐臣計未二必足一レ用。願效二愚忠一。夫成安君有二百

廣武君曰く、臣聞く、智者は千慮に必ず一失あり。愚者も千慮に必ず一得ありと。故に曰く、狂夫の言も聖人擇ぶと。（二）顧ふに恐らくは臣の計未だ必ずしも用ふるに足らざらん。願くは愚忠を效さん。夫の成安君百戰百勝の計ありて一旦にして之を失ひ、軍鄗下に敗れ、身泜上に死す。今將軍西河を渉りて魏王を虜にし、夏說を閼與に禽にし、一擧にして井陘を下り、朝を終へずして趙の二十萬の衆を破り、成安君を誅し、名海内に聞え、威天下に震ふ。農夫耕を輟め、耒を釋てて褕

水陳曰。破趙會食。臣等不服。然竟以勝。此何術也。信曰。此在兵法。顧諸君不察耳。兵法不曰。陷之死地而後生。置之亡地而後存。且信非得素拊循士大夫也。此所謂驅市人而戰之。其勢非置之死地。使人人自爲戰。今予之生地。皆走。寧尚可得而用之乎。諸將皆

に置きて人人をして自ら戰をなさしむるに非ずして、今之に生地を予へば皆走らん。寧んぞ尚ほ得て之を用ふべけんやと。諸將皆服して曰く、善し。臣が及ぶ所に非ざるなりと。是に於て信廣武君に問ひて曰く、僕北のかた燕を攻め東齊を攻めんと欲す。何若にしてか功あると。廣武君辭謝して曰く、臣聞く、敗軍の將は以て勇を言ふ可からず。亡國の大夫は以て存を圖る可からず。今臣は敗亡の虜、何ぞ以て大事を權るに足らんやと。信曰く、僕之を聞く、百里奚虞に居て虞亡び、秦に在りて秦霸たり。虞に愚にして秦に智なるに非ず。用ふると用ひざると、聽くと聽かざるとなり。誠に成安君をして足下の計を聽かしめば、信の若き者亦已に禽となられん。足下を用ひざりしを以て故に、信侍するを得たるのみと。因りて固く問ひて曰く、僕心を委して計を歸す。願くは足下辭すること勿れと。

㊀ 東向、鄕は嚮なり、むかふなり　㊁ 馘を殺して得たる首並に己が捕へたる俘虜を大將軍の前に引き出す　㊂

壁。爭二漢鼓旗一。逐二韓信張耳一。漢信張耳已入二水上軍一。軍皆殊死戰。不レ可レ敗。信所レ出奇兵二千騎。共候二趙空レ壁逐一レ利。則馳入二趙壁一。皆拔二趙旗一。立二漢赤幟二千一。趙軍已不レ勝。不レ能レ得二信等一。欲レ還二歸壁一。壁皆漢赤幟。而大驚以爲漢皆已得二趙王將一矣。兵遂亂遁走。趙將雖レ斬レ之。不レ能レ禁也。於レ是漢兵夾撃大破二虜趙軍一。斬二成安君泜水上一。禽二趙王歇一。

信乃令二軍中一毋レ殺二廣武君一。有二能生得一者購二千金一。於レ是有下縛二廣武君一而致二戲下一者上。信乃解二其縛一。東鄕坐。西鄕對。師二事之一。諸將効二首虜一。休畢賀。因問レ信曰。兵法右二倍山陵一前二左水澤一。今者將軍令二臣等反背レ

信乃ち軍中に令して、廣武君を殺すこと毋かれ、能く生得する者あらば千金に購はんと。是に於て廣武君を縛して戲下に致す者あり。信乃ち其の縛を解き、東鄕(一)して坐せしめ、西鄕して對し之に師事す。諸將首虜を效し、休して畢く賀す。因りて信に問ひて曰く、兵法に山陵を右にし倍き(二)、水澤を前にし左にすと。今は將軍臣等をして反りて水を背にして陳(三)せしめて曰く、趙を破りて會食せんと。臣等服せざりき。然れども竟に以て勝てり。此れ何の術ぞやと。信曰く、此れ兵法にあり。顧ふに諸君察せざるのみ。兵法に曰はずや、之を死地(四)に陷れて後生き、之を亡地に置きて後存すと。且つ信素より、士大夫を拊循(五)するを得るに非ざるなり。此れ所謂る市人(六)を驅りて之を戰はしむるなり。其の勢、之を死地

謂軍吏曰。趙已先據便地爲壁。且彼未見吾大將旗鼓、未肯擊前行。恐吾至阻險而還。信乃使萬人先行。出背水陣。趙軍望見而大笑。平旦。信建大將之旗鼓。鼓行出井陘口。趙開壁擊之。大戰良久。於是信張耳佯弃旗鼓。走水上軍。水上軍開入之。復疾戰。趙果空

空しくして漢の鼓旗を争ひ、韓信張耳を逐ふ。韓信張耳已に水上の軍に入る。軍皆殊死(一〇)して戰ふ。敗るべからず。信の出す所の奇兵二千騎、共に趙の壁を空しうし利(一一)を逐ふを候ひて則ち馳せて趙の壁に入り、皆趙の旗を抜きて漢の赤幟二千を立つ。趙の軍已に勝たず。信等を得ること能はず。壁に歸還せんと欲すれば、壁皆漢の赤幟なり。而して大に驚き、以爲らく漢皆已に趙王の將を得たりと。兵遂に亂れて遁走す。趙の將之を斬ると雖も禁ずる能はざるなり。是に於て漢の兵夾み擊ちて大に破りて趙の軍を虜にし、成安君を泜水の上に斬り、趙王歇を禽にす。

(一) 内情をさぐり視る (二) 井陘の狹道に入りて趙に出づ (三) 軍を止めて息ふ (四) 令を軍中に傳へて發せしむ (五) 山によつて自ら潛蔽して敵をして見えざらしむ、萆は音へい、蔽に通ず (六) 小飯、晩食 (七) 趙を破りて後相會して飽食せんとす (八) 兵法に山を背にし水を前にして陣するは常法なるに今水を背にして陣するが故に諸軍笑ひしなり (九) 夜の明けはなれたる時 (一〇) 殊は絶なり、必死の決心を以てするなり (一一) 旗鼓を爭ひて信耳を得んと逐ふをいふ

韓信使二人間視一。知二其不一レ用。還報。則大喜。乃敢引レ兵遂下。未レ至二井陘口一。三十里止舍。夜半傳發。選二輕騎二千人一。人持二一赤幟一。從二間道一萆レ山而望二趙軍一。誡曰。趙見二我走一。必空レ壁逐レ我。若疾入二趙壁一。拔二趙幟一立二漢赤幟一。令二其裨將傳一レ飱曰。今日破レ趙會食。諸將皆莫レ信。佯應曰。諾。

韓信人をして間視(一)せしむ。其の用ひられざるを知りて還り報ず。則ち大に喜び、乃ち敢へて兵を引きて(二)遂に下る。未だ井陘口に至らざること三十里にして止舍(三)す。夜半傳發(四)す。輕騎二千人を選び人ごとに一赤幟を持ち、間道より山に萆はれ(五)て趙軍を望ましめ、誡めて曰く、趙我が走るを見ば、必ず壁を空しくして我を逐はん。若疾く趙の壁に入り、趙の幟を拔き、漢の赤幟を立てよと。其の裨將をして飱(六)を傳へしめて曰く、今日趙を破りて會食(七)せんと。諸將皆信ずる莫し。佯り應へて曰く、諾と。軍吏に謂ひて曰く、趙已に先づ便地に據りて壁を爲る。且つ彼未だ吾が大將の旗鼓を見ず。未だ肯へて前行を撃たず。吾が阻險に至りて還らんことを恐るればなりと。信乃ち萬人をして先行し、出でて水を背にして陣せしむ。趙軍望(八)み見て大に笑ふ。平旦(九)信大將の旗鼓を建て、鼓行して井陘口を出づ。趙壁を開きて之を撃つ。大に戰ふこと良〻久し。是に於て信張耳佯りて鼓旗を弃てて水上の軍に走る。水上の軍開きて之を入る。復た疾く戰ふ。趙果して壁を

王一禽二夏說一。新喋二血閼與一。今乃輔以二張耳一。議欲レ下レ趙。此乘レ勝而去レ國遠鬪。其鋒不レ可レ當。臣聞千里餽レ糧士有二飢色一。樵蘇後爨。師不二宿飽一。今井陘之道。車不レ得レ方レ軌。騎不レ得レ成レ列。行數百里。其勢糧食必在二其後一。願足下假二臣奇兵三萬人一。從二間路一絕二其輜重一。足下深レ溝高レ壘。堅レ營勿二與戰一。彼前不レ得レ鬪。退不レ得レ還。吾奇兵絕二其後一。使二野無レ所レ掠。不レ至二十日一。而兩將之頭。可レ致二於戲下一。願君留二意臣之計一。否必爲二二子所一レ禽矣。成安君儒者也。常稱二義兵一。不レ用二詐謀奇計一。曰。吾聞。兵法十則圍レ之。倍則戰レ之。今韓信兵號二數萬一。其實不レ過二數千一。能千里而襲レ我。亦已罷極。今如レ此避而不レ擊。後有二大者一。何以加レ之。則諸侯謂二吾怯一。而輕來伐レ我。不レ聽二廣武君策一。廣武君策不レ用。

十日に至らずして兩將(五)の頭戲下(六)に致すべし。願くは君意を臣の計に留めよ。否らずんば必ず二子に禽にせられんと。成安君は儒者なり。常に義兵と稱して、詐謀奇計を用ひず。曰く、吾聞く、兵法(七)に十なれば則ち之を圍み、倍すれば則ち之と戰ふと。今韓信の兵數萬と號すれども、其の實數千に過ぎず。能く千里にして我を襲はんも亦已に罷極(八)す。今此の如き避けて擊たずんば、後大なる者あらば、何を以て之に加へん。則ち諸侯吾を怯なりと謂ひて輕くして來りて我を伐たんと。廣武君の策を聞かず。廣武君の策用ひられず。

(一) 血を喋むは人を殺して血流れて滂沱たるをいふ、喋は蹀に同じ (二) 薪を取り草を取る (三) 胃越しに滿腹すること (四) 敵の不意を襲ひ討つ軍 (五) 張耳、韓信 (六) 麾下 (七) 兵彼より多きこと十倍なれば以て城を圍むべし (八) 疲弊し極れり

與レ信倶引レ兵。東北擊二趙代一。後九月。破二代兵一。禽二夏說閼與一。信之下レ魏破レ代。漢輒使下人收二其精兵一詣二滎陽一以距上楚。信與二張耳一以二兵數萬一。欲下東下二井陘一擊上趙。趙王成安君陳餘。聞二漢且上レ襲レ之也。聚二兵井陘口一。號稱二二十萬一。廣武君李左車說二成安君一曰。聞漢將韓信涉二西河一。虜二魏

を破りて夏說を閼與に禽にす。信の魏を下し、代を破るや、漢輒ち人をして其の精兵を收め、滎陽に詣り以て楚を距がしむ。信張耳と、兵數萬を以て東井陘を下りて趙を擊たんと欲す。趙王成安君陳餘、漢且に之を襲はんとすと聞くや、兵を井陘口に聚む。號して二十萬と稱す。廣武君李左車成安君に說きて曰く、聞く、漢の將韓信西河を涉り、魏王を虜にし、夏說を禽にし、新に血を閼與に喋む。今乃ち輔くるに張耳を以てし、議して趙を下さんと欲す。此に勝に乘じて國を去りて遠く鬭ふ。其の鋒當るべからず。臣聞く、千里に糧を餽れば、士に飢色あり。樵蘇して後爨すれば師宿飽せずと。(三)今井陘の道車軌を方ぶることを得ず。騎列をなすことを得ず。行くこと數百里、其の勢糧食必ず其の後にあらん。願くは足下臣に(四)奇兵三萬人を假せ。間路より其の輜重を絕たん。足下溝を深くし、壘を高くし、營を堅くして與に戰ふこと勿れ。彼前みて鬭ふことを得ず。退きて還ることを得ず。吾が奇兵其の後を絕ち、野をして掠むる所なからしめば

關中。秦民無不恨者。今大王擧而東。三秦可傳檄而定也。於是漢王大喜。自以爲得信晩。遂聽信計。部署諸將所擊。八月。漢王擧兵。東出陳倉。定三秦。漢二年。出關收魏河南。韓殷王皆降。合齊趙共擊楚。四月。至彭城。漢兵敗散而還。信復收兵。與漢王會滎陽。復擊破楚京索之間。以故楚兵卒不能西。漢之敗卻彭城。塞王欣。翟王翳。亡漢降楚。齊趙欲反漢與楚和。六月。魏王豹謁歸視親疾。至國卽絕河關反漢。與楚約和。漢王使酈生說豹。不下。其八月。以信爲左丞相擊魏。魏王盛兵蒲坂。塞臨晉。信乃益爲疑兵。陳船欲渡臨晉。而伏兵。從夏陽以木罌缻渡軍。襲安邑。魏王豹驚。引兵迎信。信遂虜豹。定魏爲河東郡。

月信を以て左丞相となして魏を撃つ。魏王兵を蒲坂に盛にして臨晉を塞ぐ。信乃ち益〻疑兵(七)を爲り、船を陳ね、臨晉を渡らんと欲す。而して兵を伏し、夏陽より木罌缻(八)を以て軍を渡して安邑を襲ふ。魏王豹驚きて、兵を引きて信を迎ふ。信遂に豹を虜にし、魏を定めて河東郡となす。

㊀章邯、司馬欣、董翳　㊁高紀に殺人者死、傷人及盜抵罪、餘悉除去秦法とあり　㊂秦亡びて秦の降將三人を秦の故地に封ぜしより故の秦の地を三秦といふ　㊃組分けを作りて手くばりをなす　㊄函谷關　㊅却　㊆旌旗を張りて敵を疑はしむ　㊇瓶の大腹小口なるもの、罌百千を取りて以て木にて之を縛し、水に浮べて以て缻に代ふるなり

漢王遣張耳。

漢王張耳を遣はし、信と倶に兵を引きて、東北趙代を撃たしむ。後九月代の兵

安。項王詐坑ニ秦降卒二十餘萬。唯獨邯欣翳得レ脱。秦父兄怨ニ此三人。痛入ニ骨髓。今楚彊以レ威王ニ此三人。秦民莫レ愛也。大王之入ニ武關。秋毫無レ所レ害。除ニ秦苛法。與ニ秦民ニ約ニ法三章ニ耳。秦民無下不レ欲レ得ニ大王王ニ秦者上。於ニ諸侯之約。大王當レ王ニ關中。關中民咸知レ之。大王失レ職入ニ

莫し。大王の武關に入るや、秋毫も害する所なく、秦の苛法を除き、秦の民と法三(一)章を約するのみ。秦の民大王の秦に王たるを得るを欲せざる者なし。諸侯の約に於て大王當に關中に王たるべし。關中の民咸く之を知る。大王職を失ひて漢中に入るや、秦の民恨みざる者なし。今大王擧りて東せば(三)三秦檄を傳へて定む可きなりと。是に於て漢王大に喜びて、自ら以て信を得ること晩しとなし、遂に信の計を聽きて諸將の撃つ所を部署す。(四)八月漢王兵を擧げて東陳倉に出でて三秦を定む。漢の二年關(五)を出でて魏の河南を收む。韓殷の王皆降る。齊趙を合せて共に楚を撃つ。四月彭城に至り、漢兵敗散して還る。信復た兵を收めて漢王と滎陽に會し、復た撃ちて楚を京索の間に破る。故を以て楚の兵卒に西すること能はず。漢の敗れて彭城に郤(六)くや、塞王欣・翟王翳漢を亡げて楚に降る。齊趙漢に反し楚と和せんと欲す。六月魏王豹謁し歸りて親の疾を視る。國に至り、卽ち河關を絶ちて漢に反して楚と和を約す。漢王酈生をして豹に說かしむ。下らず。其の八

嘔嘔。人有二疾病一。涕泣分二食飲一。至下使レ人有レ功當二封爵一者上。印刓弊忍不レ能レ予。此所レ謂婦人之仁也。

あらん。義兵を以て東歸を思ふの士を従へば何ぞ散ぜざる所あらん。(九)

(一) 東向す (二) 飛錘なり、物の輕重を度るものは權なり、故に輕重を爭ふを權を爭ふといふ (三) 怒氣を懷く (四) 怒聲を發す (五) 伏す、偃す、一說に意沮喪するをいふ (六) 和好の貌、慈愛の聲 (七) すれつぶれてまるくなる、印を授けんとして之を手に取りながら與ふるに忍びず、遲疑して手遊に弄して印のすれてまろまるに至る (八) 有は又に通ず (九) 東歸の兵を用ひて東方の敵を擊つ、此の敵散敗せざるなし

項王雖下霸二天下一而臣中諸侯上。不レ居二關中一而都二彭城一。有レ背二義帝之約一。而以二親愛一王二諸侯一不レ平。諸侯之見下項王遷二逐義帝一置中江南上。亦皆歸逐二其主一。而自王二善地一。項王所レ過無下不二殘滅一者上。天下多怨。百姓不二親附一。特劫二於威彊一耳。名雖レ爲レ霸。實失二天下心一。故曰。其彊易レ弱。今大王誠能反二其道一。任二天下武勇一。何所レ不レ誅。以二天下城邑一封二功臣一。何所レ不レ服。以二義兵一從下思二東歸一之士上。何所レ不レ散。

且三秦王爲二秦將一。將二秦子弟一數歲矣。所二殺亡一不レ可レ勝レ計。又欺二其衆一降二諸侯一。至二新

且つ三秦王秦の將となりて秦の子弟に將たること數歲なり。殺亡する所計ふるに勝ふべからず。又其の衆を欺きて諸侯に降り、新安に至る。項王詐りて秦の降卒二十餘萬を坑にす。唯獨り邯・欣・翳のみ脫するを得。秦の父兄此の三人を怨みて痛み骨髓に入る。今楚彊ひて威を以て此の三人を王とす。秦の民愛すること

東鄕爭二權天下一豈非二項王一邪。漢王曰。然。曰。大王自料。勇悍仁彊。孰二與項王一漢王默然良久曰。不レ如也。信再拜賀曰。惟信亦以爲二大王不一レ如也。然臣嘗事レ之。請言二項王之爲一レ人也。項王喑噁叱咤。千人皆廢。然不レ能レ任二屬賢將一。此特匹夫之勇耳。項王見レ人。恭敬慈愛。言語

して賀して曰く、惟ふに信も亦以て大王如かずとなすなり。然るに臣嘗て之を事ふ。請ふ、項王の人となりを言はん。項王喑噁（三）叱咤（四）すれば千人皆廢（五）す。然れども賢將に任屬する能はず。此れ特に匹夫の勇のみ。項王人を見て、恭敬慈愛、言語嘔嘔（六）たり。人疾病あれば涕泣して食飲を分てども、人を使ひて功ありて當に封爵すべき者に至りては印刓（七）弊するも忍びて予ふる能はず。此れ謂所る婦人の仁なり。項王天下に覇として諸侯を臣とすと雖も、關中に居らずして彭城に都す。（八）有義帝の約に背き、而して親愛を以て諸侯を王とするは平かならず。諸侯の項王の義帝を遷逐して江南に置くを見て、亦皆歸りて其の主を逐ひ、而して自ら善地に王たり。項王過ぐる所殘滅せざる者なく、天下多く怨み、百姓親附せず。特に威彊に劫さるるのみ。名は覇たりと雖も、實は天下の心を失ふ。故に曰く、其の彊は弱め易しと。今大王誠に能く其の道に反し、天下の武勇に任ぜば何ぞ誅せざる所あらん。天下の城邑を以て功臣を封ぜば何ぞ服ぜざる所

信。必欲レ爭ニ天下一。非レ信無下所ニ與計上レ事者上。顧王策安所レ決耳。上曰。吾亦欲レ東耳。安能鬱鬱久居レ此乎。何曰。王計必欲レ東。能用レ信。信卽留。不レ能レ用レ信。信終亡耳。王曰。吾爲レ公以爲レ將。何曰。雖レ爲レ將信必不レ留。王曰。以爲ニ大將一。何曰。幸甚。於レ是王欲ニ召レ信拜一レ之。何曰。王素慢無レ禮。今拜ニ大將一。如レ呼ニ小兒一耳。此乃信所ニ以去一也。王必欲レ拜レ之。擇ニ良日一齋戒。設ニ壇場一具レ禮。乃可耳。王許レ之。諸將皆喜。人人各自以爲レ得ニ大將一。至レ拜ニ大將一。乃韓信也。一軍皆驚。

皆喜び、人人各ゝ自ら以て大將を得となす。大將を拜するに至れば乃ち韓信なり。(七)一軍皆驚く。

(一)上聞す、天子の御耳に達す　(二)一國中比類なき士、國士中比類なき者、國士は才德一國に冠たる者　(三)信を用ふることなかれ　(四)意伸びざるなり　(五)小供扱ひにせんのみ　(六)壇を築き禮を備して　(七)全軍の者其の意外なるに皆驚く

信拜禮畢上レ坐。王曰。丞相數言ニ將軍一。將軍何以敎ニ寡人計策一。信謝因問レ王曰。今

信拜禮し畢りて坐に上る。王曰く、丞相數ゝ將軍を言ふ。將軍何を以てか寡人に計策を敎へんと。信謝して因りて王に問ひて曰く、今(一)東鄕して權を天下に爭ふは豈項王に非ずやと。漢王曰く、然りと。曰く、大王自ら料るに(二)勇悍仁彊項王と孰與ぞやと。漢王默然たること良ゝ久しくして曰く、如かざるなりと。信再拜

曰。丞相何亡。上大怒。如ㇾ失ニ左右手一。居一二日。何來謁ㇾ上。上且怒且喜。罵ㇾ何曰。若亡何也。何曰。臣不ニ敢亡一也。臣追ニ亡者一。上曰、若所ㇾ追者誰。何曰。韓信也。上復罵曰。諸將亡者以ㇾ十數。公無ㇾ所ㇾ追。追ㇾ信詐也。何曰、諸將易ㇾ得耳。至ㇾ如ㇾ信者國士無雙。王必欲ㇾ長ニ王ニ漢中一。無ㇾ所ㇾ事ㇾ

何曰く、韓信なりと。上復た罵りて曰く、諸將の亡ぐる者十を以て數ふ。公追ふ所なし。信を追ふとは詐なりと。何曰く、諸將は得易きのみ。信の如き者に至りては國士無雙(二)なり。王必ず長く漢中に王たらんと欲せば、信を事とする(三)ことなかれ。必ず天下を爭はんと欲せば、信に非ずんば與に事を計る所の者なし。顧ふに王の策安くに決する所あらんのみと。上曰く、吾も亦東せんと欲するのみ。安んぞ能く鬱鬱(四)として久しく此に居らんやと。何曰く、王の計必ず東せんと欲せば能く信を用ひよ。信卽ち留らん。能く用ひずんば、信終に亡げんのみと。王曰く、吾公の爲めに以て將となさんと。何曰く、將と爲すと雖も、信必ず留らざらんと。王曰く、以て大將となさんと。何曰く、幸甚なりと。是に於て王、信を召して之を拜せんと欲す。何曰く、王素と慢にして禮なし。今大將を拜するに小兒(五)を呼ぶ如き耳。此れ乃ち信の去る所以なり。王必ず之を拜せんと欲せば、良日を擇びて齋戒し、壇場(六)を設け、禮を具へて、乃ち可なるのみと。王之を許す。諸將

袴下。於是信孰視之。俛出袴下蒲伏。一市人皆笑信以爲怯。及項梁渡淮。信杖劍從之。居戲下。無所知名。項梁敗。又屬項羽。羽以爲郎中。數以策干項羽。羽不用。漢王之入蜀。信亡楚歸漢。未得知名。爲連敖。坐法當斬。其輩十三人皆已斬。次至信。信乃仰視。適見滕公曰。上不欲就天下乎。何爲斬壯士。滕公奇其言。壯其貌。釋而不斬。與語大說之。言於上。上拜以爲治粟都尉。上未之奇也。

食すること（四）未だ起きずして牀蓐の中に胡食を喫す（五）水を以て絮を撃ちて漂白す（六）公子といふが如し、尊稱なり（七）屠者のうち（八）衆人中にて辱しむ、或は多人數にて辱むとも解す（九）俯（一〇）匍匐（一一）身一劍を帶ぶるいみにして他の資なきなり（一二）麾下、旗本（一三）用ひられんことを求む（一四）楚の官名（一五）夏公嬰（一六）上は天子をいふ、高祖をさす（一七）說えつ、悦（一八）米穀の出納糧食の事を掌る官

信數與蕭何語。何奇之。至南鄭。諸將行道亡者數十人。信度何等已數言上。上不我用。即亡。何聞信亡。不及以聞。自追之。人有言上

信數〻蕭何と語る。何之を奇とす。南鄭に至る。諸將行く〳〵道に亡ぐる者數十人、信度るに何等已に數〻上に言へども上我を用ひずと。即ち亡ぐ。何信亡ぐと聞き、（一九）以聞するに及ばず、自ら之を追ふ。人上に言ふものあり、曰く、丞相何亡ぐと。上大に怒りて左右の手を失ふが如し。居ること一二日、何來りて上に謁す。上且つ怒り、且つ喜びて、何を罵りて曰く、若亡ぐるは何ぞやと。何曰く、臣敢へて亡げざるなり。臣亡ぐる者を追ふと。上曰く、若追ふ所の者は誰ぞと。

亦知二其意一。怒竟絶去。信釣二於城下一。諸母漂。有二一母一。見二信飢一飯レ信。竟レ漂數十日。信喜謂二漂母一曰。吾必有二以重報一レ母。母怒曰。大丈夫不レ能二自食一。吾哀二王孫一而進レ食。豈望レ報乎。淮陰屠中少年。有二侮レ信者一。曰。若雖三長大好帶二刀劍一。中情怯耳。衆二辱之一曰。信能死刺レ我。不レ能レ死出二我

て刀劍を帶ぶと雖も、中情怯なるのみと。之を衆辱(八)して曰く、信能く死せば我を刺せ、死すること能はずんば、我が袴下を出でよと。是に於て信之を孰視し、(九)俛して袴下より出で蒲伏(一〇)す。一市の人皆信を笑ひて以て怯となす。項梁淮を渡るに及びて、信、劍を杖(一一)つきて之に從ひて戲下(一二)に居る。名を知らるゝ所なし。項梁敗れて又項羽に屬す。羽以て郎中となす。數〻策を以て項羽に干(一三)む。羽用ひず、漢王の蜀に入るや、信楚を亡げて漢に歸す。未だ名を知らるゝを得ず。連敖(一四)となり、法に坐して斬に當す。其の輩十三人皆已に斬らる。次に信に至る。信乃ち仰ぎ見る。適〻滕公(一五)を見て曰く、上天下(一六)を就すを欲せざるか。何ぞ壯士を斬ることをなすと。滕公其の言を奇とし、其の貌を壯とし、釋して斬らず。與に語り大に之を說(一七)びて上に言ふ。上拜して以て治粟都尉(一八)となす。上未だ之を奇とせず。

(一) 善行の推擧選擇すべきものなし　(二) 賣り歩くを商といひ、坐して販ぐを賈といふ　(三) 人の家に寄寓して飲

淮陰侯韓信者。淮陰人也。始爲二布衣一時。貧無レ行。不レ得下推擇爲上レ吏。又不レ能二治レ生商賈一。常從レ人寄二食飲一。人多二厭レ之者一。常數從二其下鄕南昌亭長一寄食。數月。亭長妻患レ之。乃晨炊蓐食。食時信往。不下爲具上レ食。信

卷九十二

淮陰侯列傳第三十二

淮陰侯韓信は淮陰の人なり。始め布衣たりし時貧しくして(一)行なし。推擇せられて吏となることを得ず。又生を治めて(二)商賈することを能はず。常に人に從ひて食飲を寄す。人之を厭ふ者多し。常に數〻其の下鄕南昌の亭長に從ひて寄(三)食すること數月。亭長の妻之を患ふ。乃ち晨に炊ぎて蓐(四)食す。食時に信往けども爲めに食を具へず。信も亦其の意を知り、怒りて竟に絕ち去る。信城下に釣す。諸母漂(五)す。一母あり、信の飢うるを見て、信に飯せしむ。漂を竟ふるまで數十日。信喜びて漂母に謂ひて曰く、吾必ず以て重く母に報ゆることあらんと。母怒りて曰く、大丈夫自ら食ふこと能はず。吾王孫(六)を哀みて食を進む。豈報ゆることを望まんやと。淮陰の屠中(七)の少年に信を侮る者あり。曰く、若長大好み

興之暴也。項氏之所坑殺人。以千萬數。而布常爲首虐。功冠諸侯。用此得王。亦不免於身爲世大僇。禍之興。自愛姫殖。妬媢生患。竟以滅國。

に以て國を滅す。

㈠ 拔は疾なり、疾く身を興して出世す ㈡ 暴は猝なり、にはか ㈢ 暴虐の首動者 ㈣ 大辱、僇は恥辱なり、又戮に同じ ㈤ 媢は妒の別名、嫉妬

別爲レ三。彼敗ニ吾一軍一、餘皆走。安能相救。不レ聽。布果破ニ其一軍一。其二軍散走。遂西與ニ上兵一遇ニ蘄西會甀一。布兵精甚。上迺壁ニ庸城一望ニ布軍一。置レ陣如ニ項籍軍一。上惡レ之。與レ布相望見。遙謂レ布曰。何苦而反。布曰。欲レ爲レ帝耳。上怒罵レ之。遂大戰。布軍敗走渡レ淮。數止戰。不レ利。與ニ百餘人一走ニ江南一。布故與ニ番君一婚。以レ故長沙哀王。使ニ人紿レ布僞與亡誘走レ越。故信而隨之ニ番陽一。番陽人殺ニ布茲鄕民田舍一。遂滅ニ黥布一。立ニ皇子長一爲ニ淮南王一。封ニ賁赫一爲ニ期思侯一。諸將率多ニ以レ功封者一。

じて之に隨ひて番陽に之く。番陽の人布を茲鄕の民の田舍(四)に殺す。遂に黥布を滅す。皇子長を立てて淮南王となし、賁赫を封じて期思侯となす。諸將率ね功を以て封ぜらるゝ者多し。

(一) 計謀す　(二) 徐僮共に縣の名　(三) 散漫の地、士卒其の土地を懷ひ、道近くして敗散し易きを以てなり　(四) 田地の中の屋舍

太史公曰。英布者。其先豈春秋所レ見。楚滅ニ英六一。皐陶之後哉。身被ニ刑法一。何其拔

太史公曰く、英布は其の先豈春秋に見ゆる所の楚英六を滅す皐陶の後なるか。身刑法を被る、何ぞ其れ拔興(一)の暴(二)なるや。項氏の坑殺する所の人千萬を以て數ふ。而して布常に首虐(三)となりて功諸侯に冠たり。此れを用つて王たることを得。亦身世の大僇(四)となるを免れず。禍の興るは愛姬より殖す。妒媢(五)患を生じ、竟

曰。上老矣。厭レ兵。必不レ能レ來。使二諸將一。諸將獨患二淮陰彭越一。今皆已死。餘不レ足レ畏也。故遂反。果如二薛公籌一レ之。東擊レ荊。荊王劉賈走死二富陵一。盡劫二其兵一。渡レ淮擊レ楚。楚發レ兵與戰二徐僮間一。爲二三軍一。欲二以相救爲一レ奇。或說二楚將一曰。布善用レ兵。民素畏レ之。且兵法。諸侯戰二其地一爲二散地一。今

るゝに足らざるなりと。故に遂に反す。果して薛公の之を籌るが如し。東荊を擊つ。荊王劉賈走りて富陵に死す。盡く其の兵を劫し淮を渡りて楚を擊つ。楚兵を發して與に徐僮の間に戰ふ。三軍となし以て相救ひて奇をなさんと欲す。或ひと楚の將に說きて曰く、布善く兵を用ひ、民素より之を畏る。且つ兵法に諸侯其の地に戰ふことを散地となす。今別ちて三となす。彼吾が一軍を敗らば餘は皆走らん。安んぞ能く相救はんやと。聽かず。布果して其の一軍を破る。其の二軍散じ走り、遂に西上の兵と蘄西の會甀に遇ふ。布の兵精甚だし。上迺ち庸城に壁して布の軍を望むに、陳を置くこと項籍の軍の如し。上之を惡み、布と相望見し、遙に布に謂ひて曰く、何を苦しみてか反すると。布曰く、帝たらんと欲するのみと。上怒りて之を罵る。遂に大に戰ふ。布の軍敗走し、淮を渡りて數〻止まり戰ふ。利あらず。百餘人と江南に走る。布故と番君と婿す。故を以て長沙の哀王人をして布を紿き、僞りて與に亡げ誘ひて越に走らしむ。故に信

山東非漢之有也。出於中計。勝敗之數未可知也。出於下計。陛下安枕而臥矣。上曰。何謂上計。令尹對曰。東取呉。西取楚。幷齊取魯。傳檄燕趙。固守其所。山東非漢之有也。何謂中計。東取呉。西取楚。幷韓取魏。據敖倉之粟。塞成皐之口。勝敗之數未可知也。何謂下計。東取呉。西取下蔡。歸重於越。身歸長沙。陛下安枕而臥。漢無事矣。上曰。是計將安出。令尹對曰。出下計。上曰。何謂廢上中計而出下計。令尹曰。布故麗山之徒也。自致萬乘之主。此皆爲身不顧後爲百姓萬世慮者也。故曰。出下計。上曰。善。封薛公千戸。

令尹對へて曰く、下計に出でんと。上曰く、何ぞ上中計を廢てて、下計に出でんと謂ふかと。令尹曰く、布は故麗山の徒なり。自ら萬乘の主を致す。此れ皆身の爲めにして後を顧みて百姓萬世の爲に慮からざる者なり。故に曰く、下計に出でんと。上曰く、善しと。薛公を千戸に封ず。

(一) 分也　(二) 功勞相同じく恰かも一人の如きなり　(三) 籌策、計謀　(四) 輜重の車

迺立皇子長。爲淮南王。上遂發兵自將東擊布。布之初反。謂其將

迺ち皇子長を立てて淮南王となす。上遂に兵を發して自ら將として東布を擊つ。布の初め反するや、其の將に謂ひて曰く、上老せり。兵を厭ひて必ず來る能はず、諸將を使はん。諸將獨り淮陰彭越のみ患ふ。今皆已に死せり。餘は畏

而王レ之。疏レ爵而貫レ之。南面而立。萬乘之主。其反何也。令尹曰。往年殺二彭越一。前年殺二韓信一。言此三人者。同功一體之人也。自疑二禍及一レ身。故反耳。滕公言二之上一曰。臣客故楚令尹薛公者。其人有二籌筴之計一。可レ問。下迺召見問二薛公一。薛公對曰。布反。不レ足レ怪也。使三布出二於上計一。

年韓信を殺す。言はば此の三人は同功一體の人なり。自ら禍の身に及ばんことを疑ふ。故に反せしのみと。滕公(二)之を上に言ひて曰く、臣の客故の楚の令尹薛公といふ者、其の人籌筴(三)の計あり、問ふ可しと。上迺ち召し見て薛公に問ふ。薛公對へて曰く、布の反するは怪しむに足らざるなり。布をして上計に出でしめば、山東は漢の有に非ざるなり。中計に出でしめば、勝敗の數未だ知るべからざるなり。下計に出でしめば、陛下枕を安くして臥さんと。上曰く、何をか上計と謂ふと。令尹對へて曰く、東吳を取り、西楚を取り、齊を幷せ、魯を取り、檄を燕趙に傳へて、固く其の所を守らば、山東は漢の有に非ざるなりと。何をか中計と謂ふと。東吳を取り、西楚を取り、韓を幷せ、魏を取り、敖倉の粟に據り、成皐の口を塞がば、勝敗の數未だ知る可からざるなりと。何をか下計と謂ふと。東吳を取り、西下蔡を取り、(四)重を越に歸し、身長沙に歸らば陛下枕を安くして臥し、漢事なからんと。上曰く、是の計將に安くに出でんとするかと。

赫長者也。王怒曰。汝安從知之。具說狀。王疑其與亂。赫恐稱病。王愈怒欲捕赫。赫言變事。乘傳詣長安。布使人追不及。赫至上變言。

する所あり。遂に赫の家を族し、兵を發して反す、反書聞す。上迺ち賁赫を赦し、以て將軍となす。上諸將を召し、問ひて曰く、布反す。之をなすこと奈何と。皆曰く、兵を發して之を撃ち、豎子を坑にせんのみ。何ぞ能くなさんやと。

（一）ししびしほ、刑罰として人體を鹽漬にすること、（二）食物又は物品を贈與す（三）宿繼ぎの車馬（四）罪によりて其の父母妻子一族の者を刑す（五）人を生き埋めにして殺す

布謀反有端。可先未發誅也。上讀其書。語蕭相國。相國曰。布不宜有此。恐仇怨妄誣之。請繫赫。使人微驗淮南王。淮南王布見赫以罪亡上變。固已疑其言國陰事。漢使又來。頗有所驗。遂族赫家。發兵反。反書聞。上迺赦賁赫。以爲將軍。上召諸將問曰。布反。爲之奈何。皆曰。發兵擊之。坑豎子耳。何能爲乎。

汝陰侯滕公召故楚令尹問之。令尹曰。是固當反。滕公曰。上裂地

汝陰侯滕公故の楚の令尹を召して之を問ふ。令尹曰く、是れ固より當に反すべしと。滕公曰く、上、地を裂きて之を王とし、爵を疏ちて之を貴くす。南面して立ち、萬乘の主たり。其の反するは何ぞやと。令尹曰く、往年彭越を殺し、前

一年。高后誅ニ淮陰侯ヲ一。布因心恐。夏。漢誅ニ梁王彭越一醢レ之。盛ニ其醢一徧賜ニ諸侯一。至ニ淮南一。淮南王方獵。見レ醢因大恐。陰令下人部ニ聚兵一。候ニ伺旁郡一警ヤ急。布所レ幸姬疾。請レ就レ醫。醫家與ニ中大夫賁赫一對レ門。姬數如ニ醫家一。賁赫自以レ爲ニ侍中一。迺厚餽遺。從レ姬飮ニ醫家一。姬侍レ王從容語次譽ニ

侯に賜ひ、淮南に至る。淮南王方に獵す。醢を見て因りて大に恐れ、陰かに人をして兵を部聚し、旁郡に候伺して急を警めしむ。布幸する所の姬疾む。請ひて醫に就く。醫の家は中大夫賁赫と門を對す。姬數〻醫の家に如く。賁赫自ら侍中たるを以て迺ち厚く餽遺(一)し、姬に從ひて醫の家に飮む。姬王に侍し從容として語次に赫の長者なることを譽む。王怒りて曰く、汝安くに從ひて之を知るかと。具に狀を說く。王其の與に亂するを疑ふ。赫恐れて病と稱す。王愈〻怒りて赫を捕へんと欲す。赫變事を言はんと欲し、傳(二)に乘りて長安に詣る。布人をして追はしむれども及ばず。赫至り、變を上りて言ふ。布の謀反端あり。未だ發せざるに先だちて誅す可きなりと。上其の書を讀み、蕭相國に語ぐ。相國曰く、布宜しく此ある可からず。恐らくは仇怨の妄に之を誣ひしならん。請ふ赫を繫ぎ、人をして微かに淮南王を驗せしめんと。淮南王布赫が罪を以て亡げて變を上るを見、固より已に其の國の陰事を言ひしを疑ふ。漢の使又來る。頗る驗

楚已使項伯收九江兵。盡殺布妻子。布使者頗得故人幸臣。將衆數千人歸漢。漢益分布兵。而與倶北收兵至成皋。四年。七月。立布爲淮南王。與擊項籍。漢五年。布使人入九江。得數縣。六年。布與劉賈入九江。誘大司馬周殷。周殷反楚。遂擧九江兵。與漢擊楚。破之垓下。項籍死。天下定。上置酒。上折隨何之功。謂何爲腐儒。爲天下安用腐儒。隨何跪曰。夫陛下引兵攻彭城。楚王未去齊也。陛下發步卒五萬人騎五千。能以取淮南乎。上曰。不能。隨何曰。陛下使何與二十人使淮南。至如陛下之意。是何之功。賢於步卒五萬人騎五千也。然而陛下謂何腐儒。爲天下安用腐儒何也。上曰。吾方圖子之功。迺以隨何爲護軍中尉。布遂剖符爲淮南王。都六。九江。廬江。衡山。豫章郡皆屬布。

を圖ると。迺ち隨何を以て護軍中尉となす。布遂に符を剖きて淮南王となり、六に都す。九江廬江衡山豫章郡皆布に屬す。

(一)旅館、逆旅 (二)楫は成なり (三)忍びゆく、微行 (四)旅舍 (五)室中の帳帷及び身邊の器什 (六)故舊、朋友親戚など、布の朋友親戚及びその留卒せる臣下を誘ひ集む (七)人の短を擧げて功を毀るをいふ (八)割符を割りて領地を賜ひて王に封ずるの證とす

七年。朝陳。八年。朝雒陽。九年。朝長安。十

七年陳に朝す、八年雒陽に朝し、九年長安に朝す。十一年高后淮陰侯を誅す。布因りて心に恐る。夏漢梁王彭越を誅して之を醢(一)にす。其の醢を盛りて偏く諸

因起レ兵而攻レ楚。楚使三項聲龍且攻二淮南一。項王留而攻二下邑一。數月。龍且擊二淮南一破二布軍一。布欲二引レ兵走一レ漢。恐二楚王殺一レ之。故間行與レ何俱歸レ漢。淮南王至。上方踞レ牀洗。召レ布入見。布甚大怒悔レ來欲二自殺一。出就レ舍。帳御飲食從官。如二漢王居一。布又大喜レ過レ望。於レ是迺使三人入二九江一。

ち人をして九江に入らしむ。楚已に項伯をして九江の兵を收め、盡く布の妻子を殺さしむ。布の使者頗る(六)故人幸臣を得て、衆數千人を將ゐて漢に歸す。漢益〻布に兵を分ちて與に俱に北兵を收めて成皐に至る。四年七月布を立てて淮南王となし、與に項籍を擊つ。漢の五年布人をして九江に入らしめ、數縣を得たり。六年布劉賈と九江に入り、大司馬周殷を誘ふ。周殷楚に反し、遂に九江の兵を擧げ、漢と楚を擊ちて之を垓下に破る。項籍死して天下定まる。上置酒す。上隨何の功を折きて、謂ふ何は腐儒たり。天下を爲むるに安んぞ腐儒を用ひんと。隨何跪き(七)て曰く、夫れ陛下兵を引きて彭城を攻むるや、楚王未だ齊を去らざるなり、陛下步卒五萬人騎五千を發して能く以て淮南を取らんかと。上曰く、能はずと。隨何曰く、陛下何をして二十人と淮南に使せしむ。至りて陛下の意の如くす。是れ何の功は步卒五萬人騎五千より賢るなり。然り而して陛下謂ふ、何は腐儒なり、天下を爲むるに安んぞ腐儒を用ひんとは何ぞやと。上曰く、吾方に子の功

漢王敬使三使臣進二愚計一。願大王之留レ意也。淮南王曰。請奉レ命。陰許二畔レ楚與一レ漢。未二敢泄一也。

楚使者在。方急責二英布一發レ兵。舍二傳舍一。隨何直入坐二楚使者上坐一曰。九江王已歸レ漢。楚何以得レ發レ兵。布愕然。楚使者起。何因說レ布曰。事以構可下遂殺二楚使者一無上レ使レ歸。而疾走レ漢幷レ力。布曰。如二使者敎一。因起レ兵而擊レ之耳。於レ是殺二使者一。

楚の使者在り、方に急に英布を責めて兵を發せしめ、傳舍に舍す。隨何直に入り、楚の使者の上坐に坐して曰く、九江王已に漢に歸す。楚何を以てか兵を發することを得んと。布愕然たり。楚の使者起つ。何因りて布に說きて曰く、事以て構らば遂に楚の使者を殺して歸らしむるなくして、疾く漢に走きて力を幷すべしと。布曰く、使者の敎の如くせん。因りて兵を起して之を擊たんのみと。是に於て使者を殺し、因つて兵を起して楚を攻む。楚、項聲龍且をして淮南を攻めしめ、項王留りて下邑を攻む。數月、龍且淮南を擊ちて布の軍を破る。布兵を引きて漢に走かんと欲す。楚王の之を殺さんことを恐る。故に間行し何と與に漢に歸す。淮南王至る。上方に牀に踞して洗ふ。布を召して入りて見えしむ。布甚だ大に怒りて來りしを悔い自殺せんと欲す。出でて舍に就けば帳御飲食從官、漢王の居の如し。布又大に望に過ぎたるを喜ぶ。是に於て迺

梁地。深入敵國八九百里。欲戰則不得。攻城則力不能。老弱轉糧千里之外。楚兵至滎陽成皐。漢堅守而不動。進則不得攻。退則不得解。故曰。楚兵不足恃也。使楚勝漢。則諸侯自危懼而相救。夫楚之彊。適足以致天下之兵耳。故楚不如漢。其勢易見也。今大王不與萬全之漢。而自託於危亡之楚。臣竊爲大王惑之。臣非以淮南之兵足以亡楚也。夫大王發兵而倍楚。項王必留。留數月。漢之取天下可以萬全。臣請與大王。提劍而歸漢。漢王必裂地而封大王。又況淮南。淮南必大王有也。故

救はん。夫れ楚の彊きは、適〻以て天下の兵を致すに足るのみ。故に楚は漢に如かず。其の勢見易きなり。今大王萬全の漢に與せずして、自ら危亡の楚に託す。臣竊かに大王の爲めに之に惑ふ。臣淮南の兵を以て以て楚を亡ぼすに足るとするに非ざるなり。夫れ大王兵を發して楚に倍かば項王必ず留らん。留まること數月ならば、漢の天下を取らんこと以て萬全なるべし。臣請ふ大王と劍を提げて漢に歸せん。漢王必ず地を裂きて大王を封ぜん。又況や淮南をや。淮南は必ず大王の有ならん。故に漢王敬みて使臣をして愚計を進めしむ。願くは大王の意を留めんことをと。淮南王曰く、請ふ命を奉ぜんと。陰かに楚に畔きて漢に與するを許す。未だ敢へて泄らさざるなり。

㈠ 邊境の亭鄣をいふ、邊塞　㈡ 塞垣に登りて之を守る

軍前鋒。今迺發四千人以助楚。夫北面而臣事人者。固若是乎。夫漢王戰於彭城。項王未出齊也。大王宜騷淮南之兵渡淮。日夜會戰彭城下。大王撫萬人之衆。無一人渡淮者。垂拱而觀其孰勝。夫託國於人者。固若是乎。大王提空名以鄉楚。而欲厚自託。臣竊爲大王不取也。然而大王不背楚者。以漢爲弱也。

㈠執事 ㈡築板と築杵 ㈢揺 ㈣衣を垂れ手をこまねく、轉じて何事をもなさず骨を折らぬにいふ

夫楚兵雖彊。天下負之。以不義之名。以其背盟約而殺義帝也。然而楚王恃戰勝自彊。漢王收諸侯。還守成皐滎陽。下蜀漢之粟。深溝壁壘。分卒守徼乘塞。楚人還兵。間以

夫れ楚は兵彊しと雖も天下之に負はすに不義の名を以てするは、其の盟約に背きて義帝を殺ししを以てなり。然り而して楚王戰勝を恃みて自ら彊しとす。漢王諸侯を收め、還りて成皐滎陽を守り、蜀漢の粟を下し溝を深くして壁壘し、卒を分ち、徼を守り、塞に乘る。楚人兵を還せば、間するに梁の地を以てす。深く敵國に入ること八九百里、戰はんと欲すれば則ち得ず、城を攻むれば則ち力能はず。老弱にして糧を千里の外に轉ず。楚の兵滎陽成皐に至らば漢堅守して動かず、進みては則ち攻むるを得ず、退きては則ち解くことを得ず。故に曰く、楚の兵恃むに足らざるなりと。楚をして漢に勝たしめば、則ち諸侯自ら危懼して相

太宰迺言二之
王一。王見レ之。隨
何曰。漢王使三
臣敬進二書大
王御者一。竊怪
大王與レ楚何
親也。淮南王
曰。寡人北鄕
而臣二事之一。隨
何曰。大王與二
項王一俱列爲二
諸侯一。北鄕而
臣二事之一。必以レ
楚爲三彊可二以
託一レ國也。項王
伐レ齊。身負二板
築一。以爲二士卒
先一。大王宜下悉二
淮南之衆一。身
自將レ之。爲中楚

太宰迺ち之を王に言ふ。王之を見る。隨何曰く、漢王臣をして敬みて書を大王の御者に進めしむ。竊かに怪しむ、大王楚と何の親かあると。淮南王曰く、寡人北鄕(一)して之に臣事すと。隨何曰く、大王と項王と俱に列して諸侯たり。北鄕して之に臣事するは、必ず楚を以て彊くして以て國を託すべしとなせばなり。項王齊を伐ち、身板築(二)を負ひ、以て士卒の先となる。大王宜しく淮南の衆を悉し身自ら之に將として楚軍の前鋒となるべし。今廼ち四千人を發し以て楚を助く。夫れ人に北面して臣事する者固に是の若くなりや。夫れ漢王彭城に戰ひ項王未だ齊を出でざるなり。大王宜しく淮南の兵を騷(三)ひ、淮を渡りて、日夜彭城の下に會戰すべし。大王萬人の衆を撫して、一人の淮を渡る者なく、垂拱(四)して其の孰れか勝つを觀る。夫れ國を人に託する者固に是の若くなりや。大王空名を提げて以て楚に鄕ひ、厚く自ら託せんと欲す。臣竊かに大王の爲めに取らざるなり。然り而して大王楚に背かざる者は漢を以て弱しとなせばなり。

者無レ足三與計二天下事一。謁者隨何進曰。不レ審二陛下所レ謂。漢王曰。孰能爲レ我使二淮南一。令二之發レ兵倍レ楚。留二項王於齊一數月。我之取二天下一可二以百全。隨何曰。臣請使レ之。迺與二二十人一俱使二淮南一至因二太宰一主レ之。三日不レ得レ見。隨何因說二太宰一曰。王之不レ見レ何。必以レ楚爲レ彊。以レ漢爲レ弱。此臣之所二以爲使一。使二何得レ見。言レ之而是邪。是大王所レ欲レ聞也。言レ之而非邪。使三何等二十人伏二斧質淮南市一。以明二王倍レ漢而與レ楚也。

めに淮南に使して、之をして兵を發して楚に倍かしむる。項王を齊に留むること數月ならば、我の天下を取ること以て百全なるべしと。隨何曰く、臣請ふ、之に使せんと。迺ち二十人と俱に淮南に使す。至りて太宰(二)に因りて之を主とす。三日見ゆることを得ず。隨何因りて太宰に說きて曰く、王の何を見ざるは必ず楚を以て彊しとなし、漢を以て弱しとなせばならん。此れ臣の爲めに使する所以なり。何をして見ゆるを得しめよ。之を言ひて是ならんか、是れ大王聞かんことを欲する所なり。之を言ひて非ならんか、何等二十人をして斧質(三)に淮南の市に伏せしめ、以て王漢に倍きて楚に與するを明かにせよと。

(一) 命令奏聞を掌る取次ぎの役 (二) 食膳を掌るの官 (三) 斧はをの、質は物を載せて斬る臺、轉じて刑罰、誅戮の義とす

入。又使下布等先從二間道一破中關下軍上。遂得三入至二咸陽一。布常爲二軍鋒一。項王封二諸將一。立レ布爲二九江王一都レ六。漢元年。四月。諸侯皆罷二戲下一各就レ國。項氏立二懷王一爲二義帝一。徙都二長沙一。迺陰令二九江王布等行擊上レ之。其八月。布使三將擊二義帝一。追二殺之郴縣一。漢二年。齊王田榮畔レ楚。項王往擊レ齊。徵二兵九江一。九江王布稱レ病不レ往。遣レ將將二數千人一行。漢之敗二楚彭城一。布又稱レ病不レ佐レ楚。項王由レ此怨レ布。數使二使者誚讓召一レ布。布愈恐不二敢往一。項王方北憂二齊趙一西患レ漢。所レ與者獨九江王。又多二布材一欲レ親二用之一。以レ故未レ擊。

て齊を撃ち、兵を九江に徵す。九江王布病と稱して往かず。將を遣はし數千人を將ゐて行かしむ。漢の楚を彭城に敗るや、布又病と稱して楚を佐けず。項王此より布を怨み、數ゝ使者をして誚讓(三)して布を召さしむ。布愈ゝ恐れて敢へて往かず。項王方に北齊趙を憂へ、西漢を患ふ。與する所の者は獨り九江王のみ。又布の材を多として之を親しみ用ひんと欲す。故を以て未だ撃たず。

(一) 軍の先鋒　(二) 麾下に同じ、旗本　(三) 責む

漢三年。漢王擊レ楚大戰二彭城一不レ利。出二梁地一至レ虞。謂二左右一曰。如二彼等一

漢の三年、漢王楚を撃ちて大に彭城に戰ひ、利あらず。梁の地を出でて虞に至り、左右に謂ひて曰く、彼等の如き者は與に天下の事を計るに足るなしと。謁(一)者隨何進みて曰く、陛下の謂ふ所を審にせずと。漢王曰く、孰れか能く我が爲

定陶一。懐王徙都二彭城一。諸將英布亦皆保二聚彭城一。當二是時一秦急圍レ趙。趙數使二人請レ救。懐王使三宋義爲二上將一。范增爲二末將一。項籍爲二次將一。英布蒲將軍皆爲二將軍一。悉屬二宋義一。北救レ趙。及三項籍殺二宋義於河上一。懐王因立レ籍爲二上將軍一。諸將皆屬二項籍一。

項籍使下布先涉二渡河一擊上秦。布數有レ利。籍迺悉引レ兵涉レ河從レ之。遂破二秦軍一降二章邯等一。楚兵常勝。功冠二諸侯一。諸侯兵皆以服二屬楚一者。以二布數以レ少敗一レ衆也。項籍之引レ兵。西至二新安一。又使三布等夜擊二坑章邯秦卒二十餘萬人一。至レ關不レ得

項籍布をして先づ河を涉渡して秦を擊たしむ。布數〻利あり。籍迺ち悉く兵を引き、河を涉りて之に從ふ。遂に秦の軍を破り、章邯等を降す。楚の兵常に勝ち、功諸侯に冠たり。諸侯の兵皆以て楚に服屬する者は、布數〻少を以て衆を敗りしを以てなり。項籍の兵を引きて西のかた新安に至るや、又布等をして夜擊ちて章邯の秦卒二十餘萬人を坑にせしむ。關に至り入ることを得ず。又布等をして先づ間道より關下の軍を破らしめ、遂に入りて咸陽に至ることを得。布常に軍鋒たり。項王諸將を封じ、布を立てて九江王となし、六に都せしむ。漢の元年四月諸侯皆戲下を罷めて各〻國に就く。項氏懐王を立てて義帝となし、徙りて長沙に都す。迺ち陰かに九江王布等をして行きて之を擊たしむ。其の八月布、將をして義帝を擊たしめ、之を郴縣に追殺す。漢の二年齊王田榮楚に畔く。項王往き

交通。迺率二其曹偶一。之二亡江中一爲二羣盜一。陳勝之起也。布迺見二番君一。與二其衆一叛レ秦。聚二衆兵數千人一。番君以二其女一妻レ之。章邯之滅二陳勝一破二呂臣軍一。布乃引レ兵。北擊二秦左右校一破二之淸波一。引レ兵而東。聞下項梁定二江東會稽一。渉レ江而西上。陳嬰以三項氏世爲二楚將一。迺以レ兵屬二項梁一。渡二淮南一。英布蒲將軍亦以レ兵屬二項梁一。項梁渉レ淮而西。擊二景駒秦嘉等一。布常冠レ軍。項梁至レ薛。聞二陳王定死一。迺立二楚懷王一。項梁號爲二武信君一。英布爲二當陽君一。項梁敗死二

て迺ち兵を以て項梁に屬す。英布蒲將軍も亦兵を以て項梁に屬す。項梁淮を渉りて西し、景駒秦嘉等を擊つや、布常に軍に冠たり。(七) 項梁薛に至り、陳王定めて死すと聞き、迺ち楚の懷王を立つ。項梁號して武信君となり、英布を當陽君となす。項梁敗れて定陶に死し、懷王徙りて彭城に都す。諸將英布も亦皆彭城を保聚す。(八) 是の時に當り秦急に趙を圍む。趙數〻人をして救を請はしむ。懷王宋義をして上將たらしめ、范增は末將たり。項籍は次將たり。英布蒲將軍皆將軍たり。悉く宋義に屬し北の方趙を救ふ。項籍宋義を河上に殺すに及び、懷王因りて籍を立てて上將軍となす。諸將皆項籍に屬す。

(一) 縣の名 (二) 面を斬りてその中に墨を入れこむ刑罰 (三) 俳優の滑稽可笑なる様を見る如く偶り笑ふ (四) 論決して黥を受け、驪山に送られ、山陵造營の役夫となる (五) 曹は儕なり、偶は類なり、徒の儕類をいふ (六) 番陽の令 (七) 軍功常に一軍に冠たり (八) 集まりて城を固め守る

黥布者。六人也。姓英氏。秦時爲布衣。少年有客相之曰。當刑而王。及壯坐法黥。布欣然笑曰。人相我。當刑而王。幾是乎。人有聞者。共俳笑之。布已論輸麗山。麗山之徒數十萬人。布皆與其徒長豪桀

卷九十一

黥布列傳第三十一

黥布は六(一)の人なり。姓は英氏。秦の時布衣たり。少年のとき客あり之を相して曰く、當に刑せられて王たるべしと。壯に及びて法に坐して黥(二)せらる。布欣然として笑ひて曰く、人我を相して當に刑せられて王たるべしと。幾んど是かと。人聞く者あり共に之を俳笑す。布已に論(四)ぜられて麗山に輸らる。麗山の徒數十萬人あり。布皆其の徒の長豪桀(三)と交通す。迺ち其の(五)曹偶を率ゐ、亡げて江中に之き羣盜をなす。陳勝の起るや、布迺ち番君(六)を見、其の衆と秦に叛きて兵數千人を聚む。番君其の女を以て之に妻す。章邯の陳勝を滅し、呂臣の軍を破るや、布乃ち兵を引き、北のかた秦の左右校を撃ち、之を清波に破り、兵を引きて東す。項梁江東會稽を定め、江を涉りて西すと聞き、陳嬰項氏の世〻楚の將たるを以

を羞つ。況や王者をや。彼異なる故なし。智略人に絶し、獨り身無からんことを患ふるのみ。尺寸の柄を攝することを得るも、其れ雲蒸龍變して其の度に會する所あらんと欲す。故を以て幽囚せられて辭せずと云ふ。

㈠席を卷くが如く一方より收め取る　㈡喋は踐なり、敵を殺して血を踐みて行くなり

日有レ聞矣。懷二畔逆之意一。及レ敗不レ死而虜囚。身被二刑戮一。何哉。中材已上。且羞二其行一。況王者乎。彼無二異故一。智略絕レ人。獨患レ無レ身耳。得レ攝二尺寸之柄一。其雲蒸龍變。欲レ有レ所レ會二其度一。以レ故幽囚而不レ辭云。

大僕亡走漢。告梁王與扈輒謀反。於是上使使掩梁王。梁王不覺。捕梁王囚之雒陽。有司治。反形已具。請論如法。上赦以爲庶人。傳處蜀青衣。西至鄭。逢呂后從長安來欲之雒陽。道見彭王。彭王爲呂后泣涕。自言無罪。願處故昌邑。呂后許諾。與倶東至雒陽。呂后白上曰。彭王壯士。今徙之蜀。此自遺患。不如遂誅之。妾謹與倶來。於是呂后乃令其舍人告彭越復謀反。廷尉王恬開奏請族之。上乃可。遂夷越宗族。國除。

ことを願ふ。呂后許諾し、與に倶に東して雒陽に至る。呂后上に白して曰く、彭王は壯士なり。今之を蜀に徙さば、此れ自ら患を遺すなり。遂に之を誅するに如かず。妾謹みて與に倶に來ると。是に於て呂后乃ち其舍人をして彭越復謀反すと告げしむ。廷尉王恬開奏して之を族せんことを請ふ。上乃ち可す。遂に越の宗族を夷げて國除かる。

（一）不意打にす　（二）謀反の形跡　（三）宿つぎの車馬に乘せて　（四）縣名

太史公曰。魏豹彭越雖故賤。然已席卷千里。南面稱孤。喋血乘勝。

太史公曰く、魏豹彭越故賤しと雖も、然れども已に千里を席卷し、南面して孤と稱す。血を喋み、勝に乘じ日に聞ゆるあり。畔逆の意を懷きて敗るゝに及びて死せずして虜囚せられて身刑戮を被るは何ぞや。中材已上すら且つ其の行

與₂齊王信₁。齊王信家在㆑楚。此其意欲₃復得₂故邑₁。君王能出₂捐此地₁許₂二人₁。二人今可㆑致。即不㆑能事未㆑可㆑知也。於㆑是漢王乃發㆑使。使₂彭越₁如₂留侯策₁。使者至。彭越乃悉引㆑兵會₂垓下₁。遂破㆑楚。五年。項籍已死。春。立₂彭越₁爲₂梁王₁。都₂定陶₁。六年。朝㆑陳。九年。十年。皆來₂朝長安₁。

十年。秋。陳豨反₂代地₁。高帝自往擊至₂邯鄲₁。徵₂兵梁王₁。梁王稱㆑病。使₃將將㆑兵詣₂邯鄲₁。高帝怒。使₃人讓₂梁王₁。梁王恐。欲₂自往謝₁。其將扈輒曰。王始不㆑往。見㆑讓而往。往則爲㆑禽矣。不㆑如₂遂發㆑兵反₁。梁王不㆑聽。稱㆑病。梁王怒₂其太僕₁欲㆑斬㆑之。

十年秋陳豨代の地に反す。高帝自ら往き撃ちて邯鄲に至り、兵を梁王に徵す。梁王病と稱して將をして兵を將ゐて邯鄲に詣らしむ。高帝怒り、人をして梁王を讓めしむ。梁王恐れ、自ら往きて謝せんと欲す。其の將扈輒曰く、王始め往かず、讓められて往く。往かば則ち禽とならん。遂に兵を發して反するに如かずと。梁王聽かず。病と稱す。梁王其の太僕を怒りて之を斬らんと欲す。太僕亡げて漢に走り、梁王扈輒と謀反すと告ぐ。是に於て上使をして梁王を掩は(一)しむ。梁王覺らず。梁王を捕へて之を雒陽に囚ふ。有司治す。(二)反形已に具はる、請ふ論じて法の如くせんと。上赦して以て庶人となす。(三)傳して蜀(四)の青衣に處らしむ。西鄭に至り、呂后の長安より來り雒陽に之かんと欲するに逢ふ。道にして彭王を見る。彭王呂后の爲めに泣涕して自ら罪無きを言ひ、故の昌邑に處らん

南走二陽夏一。彭越復下二昌邑旁二十餘城一。得二穀十餘萬斛一。以給二漢王食一。漢王敗。使レ使召二彭越一幷レ力擊レ楚。越曰。魏地初定。尙畏レ楚。未レ可レ去。漢王追レ楚。爲二項籍一所レ敗二固陵一。乃謂二留侯一曰。諸侯兵不レ從。爲レ之奈何。留侯曰。齊王信之立。非二君王之意一。信亦不二自堅一。彭越本定二梁地一功多。始君王以二魏豹故一拜二彭越一爲二魏相國一。今豹死毋レ後。且越亦欲王。而君王不二蚤定一。與二此兩國一約。卽勝レ楚。睢陽以北至二穀城一。皆以王二彭相國一。從レ陳以東傅海

の故を以て彭越を拜して魏相國となせり。今豹死して後毋し。且つ越も亦王たらんと欲す。而るに君王蚤く定めず。此の兩國を與へて約せば卽ち楚に勝たん。睢陽以北穀城に至るまで皆以て彭相國を王とし、陳より以東海に傅くまで(三)齊王信に與へよ。齊王信が家は楚に在り。此れ其の意復故邑を得んと欲す。君王能く此の地を出し捐てて二人に許さば、二人今致すべし。卽し能はずんば事未だ知るべからざるなりと。是に於て漢王乃ち使を發して彭越に使し、留侯の策の如くならしむ。使者至る。彭越乃ち悉く兵を引きて垓下に會し、遂に楚を破る。五年項籍已に死す。春彭越を立てて梁王となし、定陶に都す。六年陳に朝す。九年十年皆長安に來朝す。

㊀ 遊軍、所屬の隊を一定せず、時によりて適宜救援に赴くために備ふる軍隊　㊁ 自ら堅固なる地位とせず　㊂ 傅は附なり、海に至るまでの意

兵三萬餘人。歸二漢於外黃一。漢王曰。彭將軍收二魏地一得二十餘城一。欲三急立二魏後一。今西魏王豹。亦魏王咎從弟也。眞魏後。乃拜二彭越一爲二魏相國一。擅二將其兵一。略二定梁地一。漢王之敗二彭城一解而西也。彭越皆復亡二其所レ下城一。獨將二其兵一北居二河上一。

漢王三年。彭越常往來。爲二漢游兵一擊レ楚。絕二其後糧於梁地一。漢四年。冬。項王與二漢王一相二距滎陽一。彭越攻二下睢陽外黃十七城一。項王聞レ之。乃使三曹咎守二城皐一。自東收二彭越所レ下城邑一。皆復爲レ楚。越將二其兵一北走二穀城一。漢五年。秋。項王之

漢王の三年彭越常に往來して漢の遊兵となり、楚を擊ちて其の後糧を梁の地に絕つ。漢の四年冬、項王漢王と滎陽に相距ぐ。彭越攻めて睢陽外黃十七城を下す。項王之を聞き、乃ち曹咎をして城皐を守らしめ、自ら東して彭越の下しし所の城邑を收む。皆復楚の爲めにす。越其の兵を將ゐて北の方穀城に走る。漢の五年秋、項王の南のかた陽夏に走るや、彭越復た昌邑の旁二十餘城を下し、穀十餘萬斛を得、以て漢王に食を給す。漢王敗れ、使をして彭越を召し、力を併せて楚を擊たしむ。越曰く、魏の地初めて定まり、尙ほ楚を畏る。未だ去るべからずと。漢王楚を追ひて項籍に固陵に敗らる。乃ち留侯に謂ひて曰く、諸侯の兵從はず、之をなすこと奈何と。留侯曰く、齊王信の立つは、君王の意に非ず。信も亦自ら堅しとせず。彭越本梁の地を定めて功多し。始め君王魏豹

爲レ長。今期而多後。不レ可二盡誅一。誅二最後者一人一。令二校長斬一レ之。皆笑曰。何至レ是。請。後不レ敢。於レ是。越乃引二一人一斬レ之。設レ壇祭。乃令二徒屬一。徒屬皆大驚。畏レ越莫二敢仰視一。乃行略レ地。收二諸侯散卒一得二千餘人一。沛公之徒レ碭北撃二昌邑一。彭越助レ之。昌邑未レ下。沛公引レ兵西。彭越亦將二其衆一居二鉅野中一。收二魏散卒一。項籍入レ關。王二諸侯一還歸。彭越衆萬餘人毋レ所レ屬。漢元年。秋。齊王田榮畔二項王一。漢乃使三人賜二彭越將軍印一。使下下二濟陰一以撃上レ楚地。楚命二蕭公角一將レ兵撃レ越。越大破二楚軍一。漢王二年。春。與三魏王豹及諸侯一東撃レ楚。彭越將二其

ち人をして彭越に將軍の印を賜はしめ、濟陰を下り、以て楚を撃たしむ。楚蕭公角に命じて兵に將として越を撃たしむ。越大に楚の軍を破る。漢王の二年春魏王豹及び諸侯と東楚を撃つ。彭越其の兵三萬餘人に將として漢に外黄に歸す。漢王曰く、彭將軍魏の地を收めて十餘城を得たり。急に魏の後を立てんと欲す。今西魏王豹も亦魏王咎の從弟なり。眞に魏の後なりと。乃ち彭越を拜して魏の相國となし、擅に其の兵を將ゐて梁の地を略定せしむ。漢王の彭城に敗れ、解きて西するや、彭越皆復た其の下す所の城を亡ふ。獨り其の兵を將ゐて北のかた河上に居る。

㊀ 明日の朝日出づる時 ㊁ 校は軍中に設けたるしきりにて將たる者の居りて號令する所をいひ轉じて軍隊を指揮することをいふ、校長は一部隊の長をいふ

年或謂越曰。諸豪桀相立畔秦。仲可以來亦效之。彭越曰。兩龍方鬭。且待之。居歲餘。澤間少年相聚百餘人。往從彭越曰。請仲爲長。越謝曰。臣不願與諸君。少年彊請。乃許。與期。旦日日出會。後期者斬。旦日日出十餘人後。後者至日中。於是越謝曰。臣老。諸君彊以

と歲餘、澤間の少年相聚るもの百餘人。往きて彭越に從ひて曰く、請ふ仲を長となさんと。越謝して曰く、臣諸君と與にするを願はずと。少年彊ひて請ふ。乃ち許す。與に期す、旦日日出でて會せよ。期に後るゝ者は斬らんと。旦日日出でて十餘人後る。後るゝ者日中に至る。是に於て越謝して曰く、臣老いたるに諸君彊ひて以て長となす。今期して多く後る。盡く誅すべからず。最も後るゝ者一人を誅せんと。校長をして之を斬らしむ。皆笑ひて曰く、何ぞ是に至らん、請ふ後敢へてせざらんと。是に於て越乃ち一人を引きて之を斬り、壇を設けて祭り、乃ち徒屬に令す。徒屬皆大いに驚き、越を畏れて敢へて仰視するもの莫し。乃ち行く〳〵地を略し、諸侯の散卒を收めて千餘人を得たり。沛公の碭より北昌邑を撃つや、彭越之を助く。昌邑未だ下らず。沛公兵を引きて西し、彭越も亦其の衆を將ゐて鉅野中に居り、魏の散卒を收む。項籍關に入り、諸侯を王として還歸す。彭越の衆萬餘人屬する所毋し。漢の元年秋齊王田榮項王に畔く。漢乃

爲二其民一約レ降。約定咎自燒殺。魏豹亡走レ楚。楚懷王予二魏豹數千人一。復徇二魏地一。項羽已破レ秦降二章邯一。豹下二魏二十餘城一。立レ豹爲二魏王一。豹引二精兵一從二項羽一入レ關。漢元年。項羽封二諸侯一。欲レ有二梁地一。乃徙二魏王豹於河東一。都二平陽一爲二西魏王一。漢王還定二三秦一渡二臨晉一。魏王豹以レ國屬焉。遂從擊二楚於彭城一。漢敗還至二滎陽一。豹請三歸視二親病一至レ國。卽絕二河津一畔レ漢。漢王聞二魏豹反一。方東憂レ楚。未レ及レ擊。謂二酈生一曰。緩頰往說二魏豹一能下レ之。吾以二萬戶一封レ若。酈生說レ豹。豹謝曰。人生一世間如二白駒過一レ隙耳。今漢王慢而侮レ人。罵二詈諸侯羣臣一如レ罵レ奴耳。非レ有二上下禮節一也。吾不レ忍二復見一也。於レ是漢王遣二韓信一。擊虜二豹於河東一。傳詣二滎陽一。以二豹國一爲レ郡。漢王令三豹守二滎陽一。楚圍レ之急。周苛遂殺二魏豹一。

びざるなりと。是に於て漢王韓信を遣はして豹を河東に虜にし、傳へて滎陽に詣る。豹の國を以て郡となす。漢王豹をして滎陽を守らしむ。楚之を圍むこと急なり。周苛遂に魏豹を殺す。

㈠ その地をめぐり歩きて令を發して服從せしむ ㈡ 音は叛の意 ㈢ 河の渡し場の交通を絕つ ㈣ 靜かに穩かに物いふこと ㈤ 人の生れて世にある間の短きを喩ふ

彭越者。昌邑人也。字仲。常漁二鉅野澤中一。爲二羣盜一。陳勝項梁之起。少

彭越は昌邑の人なり。字は仲。常に鉅野の澤中に漁し、羣盜をなす。陳勝項梁の起るや。少年或は越に謂ひて曰く、諸豪桀相立ちて秦に畔く。仲以て來りて亦之に效ふべしと。彭越曰く、兩龍方に鬪ふ。且く之を待たんと。居るこ

下畔秦其義必立魏王後乃可齊趙使車各五十乘。立周市爲魏王。市辭不受。迎魏咎于陳。五反。陳王乃遣立咎爲魏王。章邯已破陳王。乃進兵擊魏王於臨濟。魏王乃使周市出請救於齊楚。齊楚遣項它田巴將兵隨市救魏。章邯遂擊破殺周市等軍圍臨濟。咎

遂に撃破して周市等の軍を殺し、臨濟を圍む。咎其の民の爲めに降を約す。約定まりて咎自ら燒殺す。魏豹亡げて楚に走る。楚の懷王魏豹に數千人を予へ、復た魏の地を徇へしむ。項羽已に秦を破りて章邯を降す。豹魏の二十餘城を下す。豹を立てて魏王となす。豹精兵を引き、項羽に從ひて關に入る。漢の元年、項羽諸侯を封じて梁の地を有たんと欲す。乃ち魏王豹を河東に徙して平陽に都し、西魏王となす。漢王還りて三秦を定め、臨晉を渡る。魏王豹國を以て屬す。遂に從ひ楚を彭城に撃つ。漢敗れ、還りて滎陽に至る。豹歸りて親の病を視んと請ひ、國に至り、卽ち河津(三)を絶ちて漢に畔く。漢王魏豹反すと聞き、方に東楚を憂へ、未だ撃つに及ばず。酈生に謂ひて曰く、緩頰(四)して往きて魏豹に說きて能く之を下さば吾萬戶を以て若を報ぜんと。酈生豹に說く。豹謝して曰く、人生れて一世の間、白駒(五)の隙を過ぐる如きのみ。今漢王慢にして人を侮り、諸侯羣臣を罵詈すること奴を罵る如きのみ。上下の禮節あるに非ざるなり。吾復見るに忍

魏豹者。故魏諸公子也。其兄魏咎。故魏時封爲寧陵君。秦滅魏遷咎爲家人。陳勝之起王也。咎往從之。陳王使魏人周市徇魏地。魏地已下。欲相與立周市爲魏王。周市曰。天下昏亂。忠臣乃見。今天

卷九十

魏豹彭越列傳第三十

魏豹は故の魏の諸公子なり。其の兄魏咎は故の魏の時、封ぜられて寧陵君となる。秦魏を滅し咎を遷して家人となす。陳勝の起りて王たるや、咎往きて之に從ふ。陳王魏人周市をして魏の地を徇へしむ。魏の地、已に下る。相與に周市を立てて魏王となさんと欲す。周市曰く、天下昏亂して忠臣乃ち見はる。今天下共に秦に畔く。其れ義必ず魏王の後を立てば乃ち可ならんと。齊趙車各々五十乘をして周市を立てて魏王とならしむ。市辭して受けず。魏咎を陳より迎ふること五反す。陳王乃ち遣はして咎を立てて魏王となす。章邯已に陳王を破り、乃ち兵を進めて魏王を臨濟に擊つ。魏王乃ち周市をして出でて救を齊楚に請はしむ。齊楚項它田巴を遣はして兵に將として市に隨ひて魏を救はしむ。章邯

居約時。相然信以死。豈顧問哉。及據國爭權。卒相滅亡。何鄉者相慕用之誠。後相倍之戾也。豈非以利哉。名譽雖高。賓客雖盛。所由殆與太伯延陵季子異矣。

陵の季子と異なり。

(一) 貧賤なりし時

於心乎。乃仰絕肮遂死。當此之時。名聞天下。張敖已出。以尚魯元故。封爲宣平侯。於是上賢張王諸客。以鉗奴從張王入關。無不爲諸侯相郡守者。及孝惠高后文帝孝景時。張王客子孫皆得爲二千石。張敖高后六年薨。子偃爲魯元王。以母呂后女故。呂后封爲魯元王。元王弱兄弟少。乃封張敖他姬子二人。壽爲樂昌侯。侈爲信都侯。高后崩。諸呂無道。大臣誅之。而廢魯元王。及樂昌侯信都侯。孝文帝即位。復封故魯元王偃爲南宮侯。續張氏。

樂昌侯信都侯を廢す。孝文帝位に卽きて、復故の魯の元王偃を封じて南宮侯となして張氏を續がしむ。

㊀ たしかに　㊁ 一人の身のみを餘分のものとせざる所以　㊂ 天子の女を娶るを尙といふ、尙は奉なり、天子の女なるを以て奉事する義なり

太史公曰。張耳陳餘世傳所稱賢者。其賓客厮役莫非天下俊桀。所居國無不取卿相者。然張耳陳餘始

太史公曰く、張耳陳餘は世傳へて賢者と稱する所、其の賓客厮役天下の俊桀に非ざる莫く、居る所の國卿相を取らざる者なし。然れども張耳陳餘始め約に居りし時、相然信するに死を以てす。豈顧問せんや。國に據り權を爭ふに及びて卒に相滅亡す。何ぞ鄉には相慕用するの誠にして後には相倍くの戾れるや。豈利を以てに非ずや。名譽高しと雖も、賓客盛なりと雖も、由る所殆んど太伯・延

貫高爲レ人能立二然諾一。使二泄公具告レ之曰。張王已出。因赦二貫高一。貫高喜曰。吾王審出乎。泄公曰。然。泄公曰。上多二足下一。故赦二足下一。貫高曰。所三以不レ死。一身無レ餘者。白二張王不レ反也。今王已出。吾責已塞。死不レ恨矣。且人臣有二簒殺之名一。何面目復事レ上哉。縱上不レ殺レ我。我不レ愧二

づ。因りて貫高を赦すと。貫高喜びて曰く、吾が王審(一)かに出でしかと。泄公曰く、然りと。泄公曰く、上足下を多とす。故に足下を赦すと。貫高曰く、死せずして一身餘なき所以の者は張王の反せざるを白すなり。今王已に出づ。吾が責已に塞(二)がれり。死すとも恨みず。且つ人臣簒殺の名ありて、何の面目ありてか復た上に事へんや。縱ひ上我を殺さざるも我心に愧ぢざらんやと。乃ち仰ぎて肮を絶ちて遂に死す。此の時に當り名天下に聞ゆ。張敖已に出づ。魯元に尙(三)するの故を以て封ぜられて宣平侯となる。是に於て上張王の諸客鉗奴を以て張王に從ひて關に入りしを賢とし、諸侯の相、郡の守となさざる者なし。孝惠高后文帝孝景の時に及びて張王の客の子孫皆二千石となるを得。張敖高后の六年薨ず。子偃を魯の元王となし、母呂后の女なるを以ての故に呂后封じて魯の元王となす。元王弱く兄弟少し。及び張敖の他の姫の子二人を封ず。壽を樂昌侯となし、侈を信都侯となす。高后崩じ、諸呂無道なり。大臣之を誅して魯の元王及び

皆自髡鉗。爲二王家奴一從來。貫高至。對レ獄曰。獨吾屬爲レ之。王實不レ知。吏治榜笞數千刺剟。身無二可レ擊者一。終不二復言一。呂后數言。張王以二魯元公主一故。不レ宜レ有レ此。上怒曰。使三張敖據二天下一。豈少二而女一乎。不レ聽。廷尉以二貫高事辭一聞。上曰。壯士。誰知者。以レ私問レ之。中大夫泄公曰。臣之邑子。素知レ之。此固趙國立二名義一不レ侵。爲二然諾一者也。上使二泄公持レ節問一レ之。箯輿前。仰視曰。泄公邪。泄公勞苦如二生平驩一與語。問下張王果有二計謀一不上。高曰。人情寧不三各愛二其父母妻子一乎。今吾三族皆以論死。豈以レ王易二吾親一哉。顧爲二王實不レ反。獨吾等爲レ之。具道下本指所二以爲一者王不レ知狀上。

於レ是泄公入。具以報。上乃赦二趙王一。上賢三

族皆以て論死せらる。豈王を以て吾が親に易へんや。顧ふに王實に反せず、獨り吾等之をなすが爲めなりと。具に本指(一〇)の爲しし所以の者、王知らざる狀を道ふ。

(一) 柏人縣の館舍に壁を穿ちて中を空にし復壁の中に人を置きて密かに高祖を伺はしめ變をなさんとするなり (二) 車上板を著け四周檻の形にし隙密して開くを得ざらしめて京師に送致す、檻は罪人を載する車 (三) 刑罰にて頭髮を剃り落し首械をかく (四) むちうつ、拷問 (五) 武器にてさす (六) 廷尉は官名、罪人を取調ぶる長官 (七) 私情を以て相問ふ (八) 竹にて編みて作れる輿 (九) 歡に同じ (一〇) 本の旨、本來の旨意、本よりの精神

是に於て泄公入りて具さに以て報ず。上乃ち趙王を赦す。上貫高の人となり、能く然諾を立つるを賢とし、泄公をして具さに之に告げしめて曰く、張王已に出

貫高怨家知二其謀一。乃上レ變告レ之。於レ是上皆并逮二捕趙王貫高等一。十餘人皆爭自剄。貫高獨怒罵曰。誰令二公爲一レ之。今王實無レ謀而并捕レ王。公等皆死。誰白二王不一レ反者。乃轞車膠致。與レ王詣二長安一。治二張敖之罪一。上乃詔。趙羣臣賓客有二敢從レ王皆族。貫高與二客孟舒等十餘人一

せざるを白す者ぞと。乃ち轞車膠致して王と與に長安に詣る。張敖の罪を治す。上乃ち詔す。趙の羣臣賓客(二)敢へて王に從ふものあらば皆族せんと。貫高客孟舒等十餘人と皆自ら髠鉗(三)し、王家の奴となりて從ひ來る。貫高至り、獄に對して曰く、獨り吾が屬のみ之をなす。王實に知らずと。吏治して榜笞(四)すること數千刺剟(五)し、身擊つべきものなくして終に復言はず。呂后數〻言ふ、張王魯元公主を以ての故に宜しく此あるべからずと。上怒りて曰く、張敖をして天下に據らしめば豈而の女を少しとせんやと。聽かず。廷尉(六)貫高の事辭を以て聞す。上曰く、壯士なり。誰れか知る者ぞ。私(七)を以て之を問へと。中大夫泄公曰く、臣の邑子素とより之を知る。此れ固より趙國の名義を立てて侵されず、然諾をなす者なりと。上泄公をして節を持して之を問はしむ。箯輿(八)して前みて仰ぎ視て曰く、泄公かと。泄公勞苦すること生平の驩(九)の如くして與に語つて、張王果して計謀ありや不やを問ふ。高曰く、人情寧ぞ各〻其の父母妻子を愛せざらんや。今吾が三

箕倨詈甚慢ニ易之。趙相貫高趙午等年六十餘。故張耳客也。生平爲ㇾ氣。乃怒曰。吾王孱王也。說ㇾ王曰。夫天下豪桀並起。能者先立。今王事ニ高祖ー甚恭。而高祖無ㇾ禮。請爲ㇾ王殺ㇾ之。張敖齧ニ其指ー出ㇾ血曰。君何言之誤。且先人亡ㇾ國。賴ニ高祖ー得ㇾ復ㇾ國。德流ニ子孫。秋豪皆高祖力也。願君無ニ復出ㇾ口。貫高趙午等十餘人皆相謂曰。乃吾等非也。吾王長者不ㇾ倍ㇾ德。且吾等義不ㇾ辱。今怨ニ高祖辱ニ我王ー故欲ㇾ殺ㇾ之。何乃汚ㇾ王爲乎。令ニ事成ー歸ㇾ王。事敗獨身坐耳。

して坐る　(三)　懦弱なる王、弱小なる王　(四)　至誠を表はして爲めに約誓するなり　(五)　汚は古く汙に通ず　(六)　汗すなり、汗穢なり

漢八年。上從ニ東垣ー還過ㇾ趙。貫高等乃壁ニ人柏人ー要ㇾ之置。上過欲ㇾ宿。心動。問曰。縣名爲ㇾ何。曰柏人。柏人者迫ニ於人ー也。不ㇾ宿而去。漢九年。

漢の八年上東垣より還りて趙を過ぐ。貫高等乃ち人を柏人に壁して之を要して置く。上過ぎて宿せんと欲し、心動く。問ひて曰く、縣名何となすかと。曰く、柏人と。柏人は人に迫るなりと。宿せずして去る。漢の九年貫高の怨家其の謀を知り、乃ち變を上りて之を告ぐ。是に於て上皆幷せて趙王貫高等を逮捕す。十餘人皆爭ひて自剄す。貫高獨り怒り罵りて曰く、誰れか公をして之を爲さしむる。今王實に謀なくして幷せて王を捕ふ。公等皆死せば、誰か王の反

漢。漢三年。韓信已定二魏地一。遣三張耳與二韓信一。擊二破趙井陘一。斬二陳餘泜水上一。追殺二趙王歇襄國一。漢立二張耳一爲二趙王一。漢五年。張耳薨。謚爲二景王一。子敖嗣。立爲二趙王一。高祖女魯元公主爲二趙王敖后一。漢七年。高祖從二平城一過レ趙。趙王朝夕袒(一)韝蔽自上レ食。禮甚卑。有二子壻禮一。高祖

蔽して自ら食を上り、禮甚だ卑しく、子壻の禮あり。高祖箕(二)踞して罵り、甚しく之を慢易す。趙の相貫高趙午等年六十餘、故の張耳の客なり。生平氣をなす。乃ち怒りて曰く、吾が王は孱(三)王なりと。王に說きて曰く、夫れ天下の豪桀竝び起り、能者先づ立つ。今王高祖に事ふること甚だ恭しくして高祖禮なし。請ふ王の爲めに之を殺さんと。張敖(四)其の指を齧み、血を出して曰く、君何ぞ言の誤れるや、且つ先人國を亡ひ、高祖に賴りて國を復することを得、德子孫に流る。秋豪(五)も皆高祖の力なり。願くは君復た口を出すなかれと。貫高趙午等十餘人、皆相謂ひて曰く、乃ち吾等非なり。吾が王は長者にして德に倍かず。且つ吾等義辱められず。今高祖我が王を辱しむるを怨む。故に之を殺さんと欲す。何ぞ乃ち王を汚(六)すことをなさんや。事成らしめば王に歸せん。事敗るれば獨り身坐せんのみと。

(一) はだぬぎ、ひぢあてにて蔽ひて。一說に韝はひぢあて、蔽は膝あてにて共に飾りの服なり　(二) 兩足を投げ出

於趙以反楚。乃遣兵從陳餘。陳餘因悉三縣兵、襲常山王張耳。張耳敗走。念諸侯無可歸者。曰漢王與我有舊故。而項羽又彊立我。我欲之楚。甘公曰。漢王之入關。五星聚東井。東井者秦分也。先至必霸。楚雖彊後必屬漢。故耳走漢。漢王亦還定三秦。方圍章邯廢丘。張耳謁漢王。漢王厚遇之。陳餘已敗張耳。皆復收趙地。迎趙王於代。復爲趙王。趙王德陳餘。立以爲代王。陳餘爲趙王弱國初定不之國。留傅趙王。而使夏說以相國守代。

漢二年。東擊楚。使使告趙欲與俱。陳餘曰。漢殺張耳乃從。於是漢王求人類張耳者。斬之。持其頭遺陳餘。陳餘乃遣兵助漢。漢之敗于彭城西。陳餘亦復覺張耳不死。卽背

漢の二年東楚を撃つ。使をして趙に告げしめて與に倶にせんと欲す。陳餘曰く、漢張耳を殺さば乃ち從はんと。是に於て漢王人の張耳に類する者を求め、之を斬り、其の頭を持して陳餘に遺る。陳餘乃ち兵を遣はして漢を助けしむ。漢の彭城の西に敗るゝや、陳餘も亦復張耳の死せざるを覺り、卽ち漢に背く。漢の三年韓信已に魏の地を定む。張耳と韓信とを遣はし、趙の井陘を撃破し、陳餘を泜水の上に斬り、趙王歇を襄國に追殺す。漢張耳を立てて趙王となす。漢の五年張耳薨ず。謚して景王となす。子敖嗣ぎて立ちて趙王となる。高祖の長女魯元公主、趙王敖の后となる。漢の七年高祖平城より趙を過ぎる。趙王朝夕袒し、鞲

縣一以封レ之。而從二趙王歇一王レ代。張耳之レ國。陳餘愈益怒曰。張耳與レ餘功等也。今張耳王。餘獨侯。此項羽不レ平。及二齊王田榮畔一レ楚。陳餘乃使三夏說說二田榮一曰。項羽爲二天下宰一不レ平。盡王二諸將善地。從二故王一王二惡地。今趙王乃居レ代。願王假二臣兵。請以二南皮一爲二扞蔽一。田榮欲下樹二黨

に樹て以て楚に反せんと欲す。乃ち兵を遣はして陳餘に從はしむ。陳餘因りて三縣の兵を悉くして常山王張耳を襲ふ。張耳敗走す。念ふに諸侯歸すべき者なし。曰く、漢王我と舊故あり(三)。而して項羽又彊くして我を立つ、我楚に之かんと欲すと。甘公曰く、漢王の關に入るや、(四)五星東井に聚る。東井は秦の分なり。先づ至れば必ず霸たらん。楚彊しと雖も後必ず漢に屬せんと。故に耳漢に走る。漢王も亦還りて三秦を定め、方に章邯を廢丘に圍む。張耳漢王に謁す。漢王厚く之を遇す。陳餘已に張耳を敗り、皆復び趙の地を收め、趙王を代に迎へて、復び趙王となす。趙王陳餘を德とし、立てて以て代王となす。陳餘趙王弱くして國初めて定まるが爲めに、國に之かず、留まりて趙王に傅たり。而して夏說をして相國を以て代を守らしむ。

(一) 渤海に屬する地名　(二) 防ぎおほふ、藩屏　(三) 漢王布衣たりし時嘗て張耳に從ひて游べり　(四) 歲星、熒惑、太白、辰星、鎭星の五星

其印收二其麾下一。而陳餘還。亦望二張耳不一レ讓。遂趨出。張耳遂收二其兵一。陳餘獨與二麾下所レ善數百人一。之二河上澤中一漁獵。由レ此陳餘張耳遂有レ郤。趙王歇復居二信都一。張耳從二項羽諸侯一。入レ關。

漢元年二月。項羽立二諸侯王一。張耳雅游。人多爲レ之言。項羽亦素數聞二張耳賢一。乃分レ趙立二張耳一爲二常山王一。治二信都一。信都更名二襄國一。陳餘客多說二項羽一曰。陳餘耳一體有レ功二於趙一。項羽以二陳餘不一レ從入レ關。聞二其在二南皮一。即以二南皮旁三

漢の元年二月、項羽諸侯王を立つ、張耳雅より游び、人多く之れが爲めに言ふ。項羽も亦素より數〻張耳の賢なるを聞く。乃ち趙を分ちて張耳を立て常山王となし、信都に治せしむ。信都更めて襄國と名づく。陳餘の客多く項羽に說きて曰く、陳餘張耳一體に趙に功ありと。項羽陳餘の關に入るに從はざるを以て其の南皮にあるを聞き、卽ち南皮の旁の三縣を以て以て之を封じ、趙王歇を徙して代（一）に王たらしむ。張耳國に之く。陳餘愈〻益〻怒りて曰く、張耳餘と功等しきなり。今張耳王たり。餘獨り侯たり。此れ項羽平かならずと。齊王田榮楚に畔くに及び、陳餘乃ち夏說をして田榮に說かしめて曰く、項羽天下の宰となりて平かならず、盡く諸將を善地に王とし、故王を徙して惡地に王とす。今趙王乃ち代に居る。願くは王臣に兵を假せ。請ふ南皮を以て（二）扞蔽をなさんと。田榮黨を趙

餘以不肯救趙。及問張黶陳澤所在。陳餘怒曰。張黶陳澤以必死責臣。臣使將五千人先嘗秦軍。皆沒不出。張耳不信。以殺之。數問陳餘。陳餘怒曰。不意君之望臣深也。豈以臣爲重去將哉。乃脫解印綬推與張耳。張耳亦愕不受。陳餘起如廁。客有說張耳曰。臣聞天與不取。反受其咎。今陳將軍與君印。君不受。反天不祥。急取之。張耳乃佩

して先づ秦の軍を嘗しむ。皆沒して出でずと。張耳信ぜず、以て之を殺ししとなし、數〻陳餘に問ふ。陳餘怒りて曰く、意はざりき、君の臣を望みる(一)の深きや。豈臣を以て將を去るを重かるとなすやと。乃ち印綬を解脫して張耳に推し予ふ。張耳も亦愕きて受けず。陳餘起ちて廁に如く。客に張耳に說くものあり、曰く、臣聞く、天(二)の與ふるに取らずんば反りて其の咎を受くと。今陳將軍君に印を與ふ。君受けずして天に反くは不祥なり。急に之を取れと。張耳乃ち其の印を佩びて其の麾下を收む。而して陳餘還りて亦張耳の讓らざるを望み、遂に趨り出づ。張耳遂に其の兵を收む。陳餘獨り麾下善とする所の數百人と河上の澤中に之きて漁獵す。此れより陳餘張耳遂に郤(三)あり。趙王歇復た信都に居る。張耳項羽諸侯に從ひて關に入る。

(一) 怨責するなり　(二) 此の辭國語に出づ　(三) 隙

て河を渡り、遂に章邯を破る。章邯兵を引きて解く。諸侯の軍乃ち敢へて鉅鹿を圍みて秦の軍を撃ち、遂に王離を虜にす。涉間自殺す。卒に鉅鹿を存せしは楚の力なり。

㊀兩側を塀にて蔽ひたる道　㊁兵粮を送り給す　㊂生死を齊しくせんとし、頸を刎ねらるゝも悔ゆるなき親友　㊃嘗は試

而公擁兵數萬、不肯相救。安在其相爲死。苟必信、胡不赴秦軍俱死。且有十一二相全。陳餘曰。吾度前終不能救趙。徒盡亡軍。且餘所以不俱死。欲爲趙王張君報秦。今必俱死。如以肉委餓虎。何益。張黶陳澤曰。事已急。要以俱死立信。安知後慮。陳餘曰。吾死顧以爲無益。必如公言。乃使五千人。令張黶陳澤先嘗秦軍。至皆沒。當是時。燕齊楚聞趙急。皆來救。張敖亦北收代兵。得萬餘人。來。皆壁餘旁。未敢擊秦。項羽兵數絶章邯甬道。王離軍乏食。項羽悉引兵渡河。遂破章邯。章邯引兵解。諸侯軍乃敢擊圍鉅鹿秦軍。遂虜王離。涉間自殺。卒存鉅鹿者楚力也。

於是趙王歇張耳乃得出鉅鹿。謝諸侯。張耳與陳餘相見。責讓陳

是に於て趙王歇張耳乃ち鉅鹿を出でて諸侯に謝することを得たり。張耳陳餘と相見て陳餘を責讓するに趙を救ふことを肯ぜざりしを以てし、及び張黶陳澤の在る所を問ふ。陳餘怒りて曰く、張黶陳澤必死を以て臣を責む。臣五千人に將と

山兵。得數萬人。軍鉅鹿北。章邯軍鉅鹿南棘原。築甬道屬河。餉王離。王離兵食多。急攻鉅鹿。鉅鹿城中食盡兵少。張耳數使人召前陳餘。陳餘自度。兵少不敵秦。不敢前。數月。張耳大怒怨陳餘。使張黶陳澤往讓陳餘曰。始吾與公爲刎頸交。今王與耳旦暮且死。而

陳餘を譲めしめて曰く、始め吾公と刎頸の交をなす。今王耳と旦暮且に死せんとす。而るに公兵數萬を擁し相救ふことを肯ぜず。安んぞ其の相爲めに死するにあらんや。苟も必ず信あらば、胡ぞ秦の軍に赴きて倶に死せざる。且つ十に一二相全きあらんと。陳餘曰く、吾度るに前むも終に趙を救ふ能はずして徒に盡く軍を亡はん。且つ餘の倶に死せざる所以は、趙王張君の爲めに秦に報いんと欲するなり。今必ず倶に死せば肉を以て餓虎に委するが如し。何の益かあらんと。張黶陳澤曰く、事已に急なり。要は以て倶に死して信を立てん。安んぞ後慮を知らんと。陳餘曰く、吾れ死すとも顧ふに以て益なしとなす。必ず公の言の如くんば乃ち五千人を使はしめんと。張黶陳澤をして先づ秦の軍を嘗みしむ。至れば皆沒す。是の時に當り、燕齊楚、趙の急なるを聞き皆來り救ふ。張敖も亦北のかた、代の兵を收めて萬餘人を得て來り、皆餘の旁に壁し、未だ敢へて秦を撃たず。項羽の兵數〻章邯の甬道を絶つ。王離の軍食に乏し。項羽悉く兵を引き

曰。天下畔レ秦。能者先立。且趙王素出二將軍下一。今女兒乃不下爲二將軍一下上車。請追二殺之一。李良已得二秦書一。固欲レ反レ趙。未レ決。因二此怒一。遣レ人追二殺王姊道中一。乃遂將二其兵一襲二邯鄲一。邯鄲不レ知。竟殺二武臣邵騷一。趙人多下爲二張耳陳餘耳目一者上。以レ故得レ脫出。收二其兵一得二數萬人一。客有レ說二張耳一曰。兩君羇旅而欲レ附レ趙。難二獨立一。立二趙後一扶以レ義可レ就レ功。乃求得二趙歇一立爲二趙王一。居二信都一。

立てて趙王となし、信都に居る。

(一) その書漏泄して君臣相疑はんことを欲するなり (二) 平伏して謁見の禮を行ふ (三) 從へたる官

李良進レ兵擊二陳餘一。陳餘敗二李良一。李良走歸二章邯一。章邯引レ兵至二邯鄲一。皆徙二其民河內一。夷二其城郭一。張耳與二趙王歇一走入二鉅鹿城一。王離圍レ之。陳餘北收二常

李良兵を進めて陳餘を擊つ。陳餘李良を敗る。李良走りて章邯に歸す。章邯兵を引きて邯鄲に至り、皆其の民を河內に徙し、其城廓を夷ぐ。張耳趙王歇と走りて鉅鹿城に入る。王離之を圍む。陳餘北のかた常山の兵を收めて數萬人を得、鉅鹿の北に軍す。章邯鉅鹿の南棘原に軍す。(一)甬道を築きて河に屬し、王離に餉す。(二)王離の兵食多し。急に鉅鹿を攻む。鉅鹿の城中食盡き、兵少し。張耳數〻人をして陳餘を前めしむ。陳餘自ら度るに兵少く、秦を敵とせずと。敢へて前まざること數月。張耳大に怒りて陳餘を怨み、張黶陳澤をして往きて

能前。秦將詐稱二世使人。遺李良書。不封曰。良嘗事我得顯幸。良誠能反趙爲秦。赦良罪貴良。良得書欵不信。乃還之邯鄲益請兵。未至。道逢趙王姊出飮。從百餘騎。李良望見以爲王。伏謁道旁。王姊醉不知其將。使騎謝李良。李良素貴。起慙其從官。從官有一人

く趙に反きて秦の爲めにせば、良の罪を赦して、良を貴くせんと。良書を得て疑ひて信ぜず。乃ち還りて邯鄲に之き、益〻兵を請ふ。未だ至らず、道にして趙王の姊出でて飮み、百餘騎を從ふるに逢ふ。李良望見して以て王となし、道旁に伏謁す。(一)王の姊醉ひて其の將たるを知らず、騎をして李良に謝せしむ。李良素より貴し、起ちて其の從官に慙づ。從官一人ありて曰く、天下秦に畔く。能者は先づ立つ。且つ趙王素と將軍の下に出づ。(二)今女兒乃ち將軍の爲めに車を下らず。請ふ之を追殺せんと。李良已に秦の書を得て、固より趙に反せんと欲して未だ決せず。此の怒に因り、人を遣して王の姊を道中に追殺す。乃ち遂に其の兵を將ゐて邯鄲を襲ふ。邯鄲知らず。竟に武臣邵騷を殺す。趙人張耳陳餘の耳目となる者多し。故を以て脫出するを得、其の兵を收めて數萬人を得たり。客の張耳に說くものあり、曰く、兩君羈旅にして趙を附けんと欲すれども獨立し難し。趙の後を立てて扶くるに義を以てせば、功を就すべしと。乃ち求めて趙歇を得、

耳陳餘何如人也。燕將曰。賢人也。曰。知其志何欲。曰。欲得其王耳。趙養卒乃笑曰。君未知此兩人所欲也。夫武臣張耳陳餘杖馬箠下趙數十城。此亦各欲南面而王。豈欲爲卿相終已邪。夫臣與主。豈可同日而道哉。顧其勢初定。未敢參分而王。且以少長先立武臣爲王。以持趙心。今趙地已服。此兩人亦欲分趙而王。時未可耳。今君乃囚趙王。此兩人名爲求趙王。實欲燕殺之。此兩人分趙自立。夫以一趙尚易燕。況以兩賢王。左提右挈。而責殺王之罪。滅燕易矣。燕將以爲然。乃歸趙王。養卒爲御而歸。

此の兩人趙を分ちて自立せん。夫れ一趙を以てすら尚ほ燕を易る。(四)況や兩賢王を以て(五)左提右挈して王を殺すの罪を責めば、燕を滅すこと易しと。燕の將以て然りとなし、乃ち趙王を歸へす。養卒御となりて歸る。

㈠ ひそかに出づ ㈡ 烹炊供養の雜役をなす賤者、薪をとり馬を養ふ奴僕 ㈢ 兵革を用ひず策を驅るのみなるをいふ、馬箠は馬策なり、むち ㈣ 侮る、輕視す ㈤ 左右に提携す、互に助けあふをいふ

李良已定常山。報還。趙王復使良略太原。至后邑。秦兵塞井陘。未

李良已に常山を定めて還り報ず。趙王復た良をして太原を略せしめ、后邑に至る。秦の兵井陘に塞して未だ前む能はず。秦の將詐りて二世の使人と稱し、李良に書を遺り、(一)封ぜずして曰く、良嘗て我に事へて顯幸を得たり。良誠に能

燕軍所レ得。燕將囚レ之。欲下與分二趙地半一乃歸上レ王。使者往。燕輒殺レ之以求レ地。張耳陳餘患レ之。有二廝養卒一。謝二其舍中一曰。吾爲レ公說レ燕。與二趙王一載歸。舍中皆笑曰。使者往十餘輩輒死。若何以能得レ王。乃走二燕壁一。燕將見レ之。問二燕將一曰。知二臣何欲一。燕將曰。若欲レ得二趙王一耳。曰。君知二張

きて趙王と與に載せて歸らんと。舍中皆笑ひて曰く、使者往くこと十餘輩、輒ち死す。若何を以てか能く王を得んと。乃ち燕壁に走く。燕の將之を見る。燕の將に問ひて曰く、臣何を欲するかを知れるかと。燕の將曰く、若趙王を得んと欲するのみと。曰く、君張耳陳餘の何如なる人なるかを知れりやと。燕の將曰く、賢人なりと。曰く、其の志何を欲するかを知れるかと。曰く、其の王を得んと欲するのみと。趙の養卒乃ち笑ひて曰く、君未だ此の兩人の欲する所を知らざるなり。夫れ武臣張耳陳餘馬箠を杖き、趙の數十城を下す。此亦各〻南面して王たらんと欲す。豈卿相となりて終に已むを欲せんや。夫れ臣と主と豈日を同じくして道ふべけんや。顧ふに其の勢初めて定まり、未だ敢へて參分して王たらず、且つ少長を以て先づ武臣を立てて王となし、以て趙の心を持す。今趙の地已に服す。此の兩人亦趙を分ちて王たらんと欲す。時未だ可ならざるのみ。今君乃ち趙王を囚ふ。此の兩人名は趙王を求むと爲せども、實は燕の之を殺さんことを欲す、

使三人報二陳王一。陳王大怒。欲下盡族二武臣等家一而發レ兵撃上レ趙。陳王相國房君諫曰。秦未レ亡而誅二武臣等家一。此又生二一秦一也。不レ如三因而賀レ之。使二急引レ兵西撃上レ秦。陳王然レ之從二其計一。徙二繫武臣等家宮中一。封二張耳子敖一爲二成都君一。陳王使二使者一賀レ趙。令下趣發レ兵西入上レ關。張耳陳餘說二武臣一曰。王王レ趙非二楚意一。特以レ計賀レ王。楚已滅レ秦。必加二兵於趙一。願王毋レ西レ兵。北徇二燕代一。南收二河內一。以自廣。趙南據二大河一。北有二燕代一。楚雖レ勝レ秦。必不二敢制レ趙。趙王以爲レ然。因不レ西レ兵。而使下韓廣略レ燕。李良略二常山一。張黶略中上黨上。

王以て然りとなす。因りて兵を西せずして韓廣をして燕を略し、李良をして常山を略し、張黶をして上黨を略せしむ。

㊀兵退くなり　㊁策、はかりごと　㊂特居　㊃、鎮に同じ、しづむ　㊄事を擧げて時を失ふべからず、時機の敏速なること其の間一喘息の頃も容れず　㊅一人の罪によりてその父母妻子一族を罰す　㊆一族の者　㊇武臣の立ちて趙王となりしを賀す　㊈移して繫ぎ止めおく　㊉促に同じ、すみやか

韓廣至レ燕。燕人因立レ廣爲二燕王一。趙王乃與二張耳陳餘一北略二地燕界一。趙王間出爲二

韓廣燕に至る。燕人因りて廣を立てて燕王となす。趙王乃ち張耳陳餘と北のかた地を燕の界に略す。趙王間出し(二)、燕軍に得らる。燕の將之を囚へ、與に趙の地の半を分ちて乃ち王を歸さんと欲す。使者往く。燕輒ち之を殺し、以て地を求む。張耳陳餘之を患ふ。(一)廝養の卒あり。其の舍中に謝して曰く、吾公の爲めに燕に說

陳王起レ蘄。至レ陳而王。非三必立二六國後一。將軍今以二三千人一。下二趙數十城一。獨介二居河北一。不レ王無二以塡一レ之。且陳王聽レ讒。還報恐不レ脫二於禍一。又不レ如レ立二其兄弟一。不レ卽立二趙後一。將軍毋レ失レ時。時間不レ容レ息。武臣乃聽レ之。遂立爲二趙王一。以二陳餘一爲二大將軍。張耳爲二右丞相一。邵騷爲二左丞相一。

如かずとせん。不らずんば卽ち趙の後を立てん。將軍時(五)を失ふことなかれ。時の間息を容れずと。武臣乃ち之を聽き、遂に立ちて趙王となる。陳餘を以て大將軍となし、張耳を右丞相となし、邵騷を左丞相となし、人をして陳王に報ぜしむ。陳王大に怒り、盡く武臣等の家を族(六)して、兵を發して趙を撃たんと欲す。陳王の相國房君諫めて曰く、秦未だ亡びずして武臣等の家(七)を誅す。此れ又一秦を生ずるなり。因りて之を賀し、急に兵を引きて西秦を撃たしむるに如かずと。陳王之を然りとし其の(八)計に從ふ。武臣等の家を宮中に徙繫(九)し、張耳の子敖を封じて成都君となす。陳王使者をして趙を賀せしめ、趣(一〇)に兵を發して西の方關に入らしむ。張耳陳餘武臣に說きて曰く、王の趙に王たるは楚の意に非ず。特に計を以て王を賀するなり。楚已に秦を滅さば必ず兵を趙に加へん。願くは王兵を西すること毋かれ。北燕代を徇へ、南河內を收め、以て自ら廣めよ。趙南大河に據り、北燕代を有つ。楚、秦に勝つと雖も、必ず敢へて趙を制せざらんと。趙

聽二臣之計一。可二不レ攻而降レ城。不レ戰而略レ地。傳レ檄而千里定。可乎。步信君曰。何謂也。蒯通曰。今范陽令。宜下整二頓其士卒一以守上レ戰者也。怯而畏レ死。貪而重二富貴一。故欲下先二天下一降上。畏下君以爲二秦所レ置吏一。誅殺如中前十城上也。然今范陽少年。亦方殺二其令一。自以レ城距レ君。君何不下齎二臣侯印一。拜中范陽令上。范陽令則以レ城下レ君。少年亦不三敢殺二其令一。令三范陽令乘二朱輪華轂一、使レ驅二馳燕趙郊一。燕趙郊見レ之皆曰。此范陽令先下者也。即喜矣。燕趙城可二毋レ戰而降一也。此臣之所レ謂傳レ檄而千里定者也。武信君從二其計一。因使三蒯通賜二范陽令侯印一。趙地聞レ之。不レ戰以レ城下者三十餘城。至二邯鄲一。

(一) 剄に同じ、殺すなり (二) 朱塗りの車輪華美なる車。

張耳陳餘聞二周章軍入レ關至レ戲却一。又聞下諸將爲二陳王一徇レ地。多以讒毀一得レ罪誅上。怨下陳王不レ用二其筴一不二以爲一レ將。而以爲中校尉上。乃說二武臣一曰。

張耳陳餘、周章の軍關に入り戲に至り(一)却くを聞き、又諸將陳王の爲めに地を徇へ、多く讒毀を以て罪を得て誅せらるゝを聞き、陳王の其の筴(二)を用ひず、以て將となさずして、以て校尉となしゝを怨む。乃ち武臣に說きて曰く、陳王蘄に起り陳に至りて王たり。必ずしも六國の後を立つるに非ず。將軍今三千人を以て趙の數十城を下し、獨り河北に(三)介居して王たらずんば、以て之を(四)塡するなけん。且つ陳王讒を聽く。還り報ずるも恐らくは禍を脫せざらん。又其の兄弟を立つるに

孝子。且下傅二刃公之腹中一以成上其名一此臣之所二以弔一レ公也。今諸侯畔レ秦矣。武信君兵且レ至。而君堅二守范陽一。少年皆爭殺レ君。下二武信君一。君急遣レ臣見二武信君一。可三轉レ禍爲レ福在二レ今矣。范陽令乃使三蒯通見二武信君一曰。足下必將二戰。勝然後略レ地。攻得然後下レ城。臣竊以爲レ過矣。誠

して地を略し、檄を傳へて千里定まる可し。可ならんかと。武信君曰く、何の謂ぞやと。蒯通曰く、今范陽の令宜しく其の士卒を整頓し、以て守戰すべき者なり。怯にして死を畏れ、貪にして富貴を重んず。故に天下に先だちて降らんと欲するも、君以て秦が置く所の吏となして誅殺すること前の十城の如くならんことを畏る。然るに今范陽の少年も亦方に其の令を殺し、自ら城を以て君を距がんとす。君何ぞ臣に侯印を齎らして范陽の令を拜せざる。范陽の令則ち城を以て君に下らん。少年も亦敢へて其の令を殺さざらん。范陽の令をして朱輪華轂に乘らしめ、燕趙の郊に馳驅せしめば、燕趙の郊、之を見て皆曰く、此れ范陽の令先づ下る者なりと。卽ち喜ばん。燕趙の城戰ふ毋くして降す可きなり。此れ臣の謂所る檄を傳へて千里定まる者なりと。武信君其の計に從ひ、因りて蒯通をして范陽の令に侯印を賜はしむ。趙の地之を聞きて戰はずして城を以て下る者三十餘城、邯鄲に至る。

范陽人蒯通說范陽令曰。竊聞公之將死。故弔。雖然。賀公得通而生。范陽令曰。何以弔之。對曰。秦法重。足下令范陽令十年矣。殺人之父。孤人之子。斷人之足。黥人之首。不可勝數。然而慈父孝子。莫敢倳刃公之腹中者。畏秦法耳。今天下大亂。秦法不施。然則慈父

范陽の人蒯通范陽の令に說きて曰く、竊かに公の將に死せんとするを聞く。故に弔す。然りと雖も公の通を得て生くるを賀すと。范陽の令曰く、何を以て之を弔するかと。對へて曰く、秦の法重し。足下范陽の令となりて十年なり。人の父を殺し、人の子を孤にし、人の足を斷ち、人の首を黥すること數ふるに勝ふべからず。然り而して慈父孝子敢へて刃を公の腹中に倳むこと莫きは、秦の法を畏るゝのみ。今天下大に亂れ、秦の法施かず。然れば則ち慈父孝子且に刃を公の腹中に倳み、以て其の名を成さんとす。此れ臣の公を弔する所以なり。今諸侯秦に畔く。武信君の兵且に至らんとす。而して君范陽を堅守す。少年皆爭ひて君を殺し、武信君に下らん、君急に臣を遣して武信君に見えしめば、禍を轉じて福となす可きこと今に在りと。范陽の令乃ち蒯通をして武信君に見えしめて曰く、足下必ず將に戰ひ、勝ちて然る後地を略し、攻め得て然る後城を下さんとす。臣竊かに以て過てりとなす。誠に臣の計を聽かば攻めずして城を降し、戰はず

爲二亂政虐刑一。以二殘賊天下一數十年矣。北有二長城之戍一南有二五嶺之戍一。外內騷動。百姓罷敝。頭會箕斂。以供二軍費一。財匱力盡。民不レ聊レ生。重レ之以二苛法峻刑一。使三天下父子不二相安一。陳王奮レ臂爲二天下一倡レ始。王二楚之地一。方二千里莫レ不二響應一。家自爲レ怒。人自爲レ鬪。各報二其怨一。而攻二其讎一。縣殺二其令丞一。郡殺二其守尉一。今已張二大楚一。王レ陳。使下吳廣周文將二卒百萬一西擊上レ秦。於二此時一。而不レ成二封侯之業一者。非二人豪一也。諸君試相與計レ之。夫天下同レ心。而苦レ秦久。因二天下之力一。而攻二無道之君一。報二父兄之怨一。而成二割レ地有レ土之業一。此士之一時也。豪桀皆然二其言一。乃行收レ兵得二數萬人一。號二武臣一爲二武信君一。下二趙十城一。餘皆城守莫レ肯レ下。乃引レ兵東北擊二范陽一。

百萬を將ゐて西秦を擊たしむ。此の時に於て封侯の業を成さざる者は人豪に非ざるなり。諸君試に相與に之を計れ。夫れ天下心を同じくして秦に苦しむこと久し。天下の力に因りて無道の君を攻め、父兄の怨を報いて、地を割き土を有つの業を成す。此れ士の一時なりと。豪桀皆其の言を然りとす。乃ち行く行く兵を收めて數萬人を得たり。武臣を號して武信君となす。趙の十城を下す。餘皆城守して下ることを肯ずる莫し。乃ち兵を引きて東北范陽を擊つ。

㊀ そこなひころす、殘害 ㊁ 家々の人頭數を以て穀を納め箕を以て之を斂む ㊂ 苛酷なる法令、嚴重なる刑罰

陳餘乃復說二陳王一曰。大王擧二梁楚一而西。務在レ入レ關。未レ及レ收二河北一也。臣嘗游レ趙。知二其豪桀及地形一。願請二奇兵一。北略二趙地一。於レ是陳王以二故所レ善陳人武臣一爲二將軍一。邵騷爲二護軍一。以二張耳陳餘一爲二左右校尉一。予二卒三千人一。北略二趙地一。武臣等從二白馬一渡レ河。至二諸縣一。說二其豪桀一曰。秦

陳餘乃ち復た陳王に說きて曰く、大王梁楚を擧げて西するは、務めて關に入るに在り。未だ河北を收むるに及ばざるなり。臣嘗て趙に游び、其の豪桀及び地形を知る。願くは奇兵を請ひ、北のかた趙の地を略せんと。是に於て陳王故の善する所の陳人武臣を以て將軍となし、邵騷を護軍となし、張耳陳餘を以て左右の校尉となし、卒三千人を予へて北趙の地を略せしむ。武臣等白馬より河を渡り、諸縣に至り、其の豪桀に說きて曰く、秦亂政虐刑をなし、以て天下を殘賊する(二)こと數十年なり。北に長城の域あり。南に五嶺の戍あり。外内騷動し、百姓罷敝す。頭會箕斂し、以て軍費に供す。財匱しく力盡きて民生を聊んぜず。之に重ぬるに(三)苛法峻刑を以てし、天下の父子をして相安からざらしむ。陳王臂を奮ひ、天下の爲めに始を倡へ、楚の地に王たり。方二千里響應せざる莫し。家〻自ら怒りをなし、人〻自ら闘をなし、各〻其の怨を報いて其の讎を攻む。縣其の令丞を殺し、郡其の守尉を殺す。今已に大楚を張りて陳に王たり。吳廣周文をして卒

楚社稷。存亡繼絶。功德宜爲王。且夫監臨天下諸將。不爲王不可。願將軍立爲楚王也。陳涉問此兩人。兩人對曰。夫秦爲無道。破人國家。滅人社稷。絶人後世。罷百姓之力。盡百姓之財。將軍瞋目張膽。出萬死不顧一生之計。爲天下除殘也。今始至陳而王之。示天下私。願將軍毋王。急引兵而西。遣人立六國後。自爲樹黨。爲秦益敵也。敵多則力分。與衆則兵強。如此野無交兵。縣無守城。誅暴秦。據咸陽。以令諸侯。諸侯亡而得立。以德服之。如此則帝業成矣。今獨王陳。恐天下解也。陳涉不聽。遂立爲王。

に殘を除くなり。今始めて陳に至りて之に王ならば天下に私を示すなり。願くは將軍王たること毋く、急に兵を引きて西し、人を遣して六國の後を立てよ。自ら爲めに黨を樹つるは秦の爲めに敵を益すなり。敵多ければ則ち力分れ、與衆ければ則ち兵強し。此の如くにして野に交兵(三)なく、縣に守城なくして暴秦を誅し、咸陽に據り以て諸侯に令せば、諸侯亡びて立つことを得、德を以て之を服せん。此の如くなれば則ち帝業成らん。今獨に陳に王たらば天下の解(四)かんことを恐ると。陳涉聽かずして遂に立ちて王となる。

(一) 堅甲を被る　(二) 疲　(三) 兵を交ふること、戰　(四) 天下の諸侯陳涉が王と稱して陳に王たるを見ば皆解隋して相從はざるべしとの意

購求。有レ得二張耳一千金。陳餘五百金。張耳陳餘乃變二名姓一俱之レ陳。爲二里監門一以自食。兩人相對。里吏嘗有レ過笞二陳餘一。陳餘欲レ起。張耳躡レ之使レ受レ笞。吏去。張耳乃引二陳餘一之二桑下一而數レ之曰。始吾與レ公言何如。今見二小辱一而欲レ死二一吏一乎。陳餘然レ之。秦詔書購二求兩人一。兩人亦反用二門者一以令二里中一。

(一)凡庸なる人　(二)頸を刎ねらるゝも悔ゆるなき交　(三)閭門の番人　(四)里の監門者たるを以て陳餘張耳を購求するを里中に令して他人の如くに詐る

陳涉起レ蘄。至レ入レ陳。兵數萬。張耳陳餘上二謁陳涉一。涉及左右生平數聞二張耳陳餘賢一。未二嘗見一。見即大喜。陳中豪傑父老乃說二陳涉一曰。將軍身被レ堅執レ銳。率二士卒一以誅二暴秦一。復二立

陳涉蘄に起り、陳に入るに至り、兵數萬。張耳陳餘陳涉に上謁す。涉及び左右生平數〻張耳陳餘の賢なるを聞けども、未だ嘗て見ず。見て即ち大に喜ぶ。陳中の豪傑父老乃ち陳涉に說きて曰く、將軍身堅を被り、銳を執り、士卒を率ゐ、以て暴秦を誅し、楚の社稷を復立す。亡を存し、絕を繼ぐ。功德宜しく王となるべし。且つ夫れ天下の諸將に監臨するは王とならずんば不可なり。願くは將軍立ちて楚王となれと。陳涉此の兩人に問ふ。兩人對へて曰く、夫れ秦無道をなし、人の國家を破り、人の社稷を滅し、人の後世を絕ち、百姓の力を罷らし、百姓の材を盡くす。將軍目を瞋らし、膽を張り、萬死一生を顧みざるの計を出し、天下の爲め

時脫レ身游。女家厚奉ニ給張耳一。張耳以レ故致ニ千里客一。乃宦レ魏爲ニ外黄令一。名由レ此益賢。

陳餘者。亦大梁人也。好ニ儒術一。數游ニ趙苦陘一。富人公乘氏。以ニ其女一妻レ之。亦知ニ陳餘非ニ庸人一也。餘年少父ニ事張耳一。兩人相與爲ニ刎頸交一。秦之滅ニ大梁一也。張耳家ニ外黄一。高祖爲ニ布衣一時。嘗數從ニ張耳一游。客數月。秦滅レ魏數歲。已聞ニ此兩人魏之名士一也。

陳餘は亦大梁の人なり。儒術を好み、數〻趙の苦陘に游ぶ。富人公乘氏其の女を以て之に妻はす。亦陳餘の庸人に非ざるを知ればなり。餘年少く張耳に父事す。兩人相與に刎頸(一)の交をなす。秦の大梁を滅すや、張耳外黄に家す。高祖布衣たりし時(二)嘗て數〻張耳に從ひて游ぶ。客たる數月。秦、魏を滅す數歲、已に此の兩人の魏の名士なるを聞く。購求す、張耳を得るあれば千金、陳餘を五百金と。張耳陳餘乃ち名姓を變じ倶に陳に之き、里の監門(三)となりて以て自ら食ふ。兩人相對す。里吏嘗て過ありて陳餘を笞つ。陳餘起たんと欲す。張耳之を躡して笞を受けしむ。吏去る。張耳乃ち陳餘を引きて桑下に之きて之を數めて曰く、始め吾公と言ふ何如。今小辱せられて一吏に死せんと欲するかと。陳餘之を然りとす。秦の詔書兩人を購求す。兩人亦反りて(四)門者を用て以て里中に令す。

張耳者。大梁人也。其少時及㆓魏公子毋忌㆒爲㆑客。張耳嘗亡命游㆓外黃㆒。外黃富人女甚美。嫁㆓庸奴㆒亡㆓其夫㆒。去抵㆓父客㆒。父客素知㆓張耳㆒。乃謂㆑女曰。必欲㆑求㆓賢夫㆒從㆓張耳㆒。女聽。乃卒爲請㆑決。嫁㆓之張耳㆒。張耳是

卷八十九

張耳陳餘列傳第二十九

張耳は大梁の人なり。其の少き時、魏の公子毋忌に及びて客たり。張耳嘗て(一)亡命して(二)外黃に游ぶ。外黃の富人の女甚だ美し。庸奴に嫁し、其の夫を亡げて、去りて父の客に抵る。父の客素張耳を知る。乃ち女に謂ひて曰く、必ず賢夫を求めんと欲せば、張耳に從へと。女聽す。乃ち卒に爲めに(三)決を請ひ、之を張耳に嫁す。張耳是の時身を脱して游ぶ。女の家厚く張耳に奉給す。張耳故を以て千里の客を致す。乃ち魏に宦し、外黃の令となる。名此に由り益〻賢なり。

(一) 命は名なり、亡命は名籍を脱して逃るゝなり、逃匿すれば名籍を削除す、故に逃るゝを亡命といふ　(二) 外黃は地名　(三) 女父の客に請ひて爲めに其の夫に決絕して張耳に嫁するなり

痍傷者未レ瘳。

而恬爲二名將一。

不下以二此時一彊諫。振二百姓之急一。養レ老存レ孤。務修中衆庶之和上。而阿レ意興レ功。此其兄弟遇レ誅。不二亦宜一乎。何乃罪二地脈一哉。

㊀要所に築きたる城塞

書。乃流涕曰。孰謂二周公旦欲一レ爲レ亂乎。殺二言レ之者一而反二周公旦一。故周書曰。必參而伍レ之。今恬之宗。世無二二心一而事卒如レ此。是必孽臣逆亂。內陵之道也。夫成王失而復振則卒昌。桀殺二關龍逢一。紂殺二王子比干一而不レ悔。身死則國亡。臣故曰。過可レ振而諫可レ覺也。察二於參伍一。上聖之法也。凡臣之言。非下以求レ免二於咎一也。將以レ諫而死上。願陛下爲二萬民一思レ從レ道也。使者曰。臣受レ詔。行二法於將軍一。不下敢以二將軍言一聞中於上上也。蒙恬喟然太息曰。我何罪二於天一。無レ過而死乎。良久徐曰。恬罪固當レ死矣。起二臨洮一屬二之遼東一。城塹萬餘里。此其中不レ能レ無レ絕二地脈一哉。此乃恬之罪也。乃呑レ藥自殺。

官に囚はれたる隠宮の生れなる故にいふ　(五)牧　(六)參卿五大夫に謀り議して事情を察するは上世の聖王の法なり

太史公曰。吾適二北邊一。自二直道一歸。行觀下蒙恬所二爲レ秦築一長城亭障上。塹レ山堙レ谷通二直道一。固輕二百姓力一矣。夫秦之初滅二諸侯一。天下之心未レ定。

太史公曰く、吾北邊に適きて直道より歸る。行く〳〵蒙恬の秦の爲めに築きし所の長城亭障を觀る。山を塹り谷を堙め、直道に通ず。固より百姓の力を輕んず。夫れ秦の初めて諸侯を滅すや、天下の心未だ定まらず、痍傷する者未だ瘳えず。而るに恬名將たり。此の時を以て彊諫して百姓の急を振ひ、老を養ひ、孤を存し、務めて衆庶の和を修めず。而して意に阿りて功を興す。此れ其の兄弟誅に遇ふも亦宜ならずや。何ぞ乃ち地脈を罪とせんや。

王以朝。卒定天下。及成王有病甚殆。公旦自揃其爪以沈于河曰。王未有識。是旦執事。有罪殃旦受其不祥。乃書而藏之記府。可謂信矣。及王能治國。有賊臣言。周公旦欲爲亂久矣。王若不備。必有大事。王乃大怒。周公旦走而奔於楚。成王觀於記府。得周公旦沈

周公旦を反へせり。故に周書に曰く、必ず參にして之を伍にすと(三)。今恬の宗世〻二心なくして事卒に此の如し。是れ必ず孽臣(四)逆亂し、內に陵ぐの道なり。夫れ成王失ひて復振へば則ち卒に昌へ、桀、關龍逢を殺し、紂、王子比干を殺して悔いず、身死して則ち國亡ぶ。臣故に曰く、過(五)は振ふべくして諫覺る可きなり。參伍(六)に察するは上聖の法なり。凡そ臣の言以て咎を免れんことを求むるに非ざるなり。將に諫を以て死せんとす。願くは陛下萬民の爲めに道に從はんことを思へと。使者曰く、臣詔を受けて法を將軍に行ふ。敢へて將軍の言を以て上に聞せざるなりと。蒙恬喟然として太息して曰く、我何の天に罪ありて過なくして死するかと。良久しくして徐に曰く、恬の罪固より死に當す。臨洮に起り之を遼東に屬して城塹萬餘里。此れ其の中地脈を絶つなき能はざらんや。此れ乃ち恬の罪なりと。乃ち藥を呑みて自殺す。

(一)朝　(二)書札に藏めおく倉庫　(三)參は三卿、伍は五大夫　(四)孽は賤しき生れの者を賤しめていふ、趙高は

二世又遣使者之陽周。令蒙恬曰。君之過多矣。而卿弟毅有大罪。法及內史。恬曰。自吾先人。及至子孫。積功信於秦三世矣。今臣將兵三十餘萬。身雖囚繫。其勢足以倍畔。自知必死而守義者。不敢辱先人之教。以不忘先主也。昔周成王初立。未離襁褓。周公旦負

二世又使者を遣して陽周に之かしめ、蒙恬に令して曰く、君の過多し。而して卿の弟毅大罪あり。法內史に及ぶと。恬曰く、吾が先人より子孫に至るに及び功信を秦に積むこと三世なり。今臣兵三十餘萬に將たり。身囚繫せらると雖も、其の勢以て倍畔するに足る。自ら必ず死せんことを知りて義を守るものは敢へて先人の教を辱しめず、以て先主を忘れざればなり。昔周の成王初めて立ちて未だ襁褓を離れず。周公旦王を負ひ、以て朝し、卒に天下を定む。成王病ありて甚だ殆きに及びて、公旦自ら其の爪を揃り、以て河に沈めて曰く、王未だ識るあらず。是れ旦事を執る。罪殃あらば、旦其の不祥を受けんと。乃ち書して之を記府に藏む。信と謂ふべし。王能く國を治むるに及び、賊臣ありて言ふ、周公旦亂をなさんと欲すること久し。王若し備へずんば必ず大事あらんと。王乃ち大に怒る。周公旦走りて楚に奔る。成王記府に觀て周公旦の沈書を得、乃ち涕を流して曰く、孰か周公旦亂をなさんと欲すと謂ふかと。之を言ひし者を殺して

竊以爲ニ不可一。胡亥不レ聽。而遣ニ御史曲宮一乘レ傳之レ代。令ニ蒙毅一曰。先主欲レ立ニ太子一而卿難レ之。今丞相以レ卿爲ニ不忠一。罪及ニ其宗一。朕不レ忍。乃賜ニ卿死一亦甚幸矣。卿其圖レ之。毅對曰。以レ臣不レ能レ得ニ先主之意一。則臣少宦。順幸沒レ世。可レ謂レ知レ意矣。以レ臣不レ知ニ太子之能一。則太子獨從周ニ旋天下一。去ニ諸公子一絶遠。臣無レ所レ疑矣。夫先主之擧ニ用太子一。數年之積也。臣乃何言之敢諫。何慮之敢謀。非ニ敢飾レ辭以避レ死也。爲レ羞レ累ニ先主之名一。願大夫爲レ慮焉。使ニ臣得レ死ニ情實一。且夫順ニ成全一者。道之所レ貴也。刑殺者。道之所レ卒也。昔者秦穆公。殺ニ三良一而死。罪ニ百里奚一而非ニ其罪一也。故立レ號曰レ繆。昭襄王殺ニ武安君白起一。楚平王殺ニ伍奢一。吳王夫差殺ニ伍子胥一。此四君者。皆爲ニ大失一。而天下非レ之。以ニ其君一爲ニ不明一。以レ是藉ニ於諸侯一。故曰。用レ道治者。不レ殺ニ無罪一。而罰不レ加ニ於無辜一。唯大夫留レ心。使者知ニ胡亥之意一。不レ聽ニ蒙毅之言一。遂殺レ之。

王武安君白起を殺し、楚の平王伍奢を殺し、吳王夫差伍子胥を殺す。此の四君は皆大失をなして天下之を非り、其の君を以て不明となし、是を以て諸侯に藉く。(七)故に曰く、道を用ひて治むる者は無罪を殺さず、罰無辜に加へずと。唯々大夫心を留めよと。使者胡亥の意を知り、蒙毅の言を聽かず。遂に之を殺す。

(一) 過失を擧げて罪狀を按檢す、糾彈す　(二) 驛繼ぎの傳馬　(三) 一つ祖先より出でたるわかれ、同姓一族　(四) 先帝終身順幸せらる　(五) 君に仕へて全きを成す　(六) 號を立つるは謚號を立つるなり　(七) 惡評狼籍諸國に布く

其故世忠臣一。而用二后勝之議一。此三君者。皆各以レ變二古者一失二其國一。而殃及二其身一。今蒙氏。秦之大臣謀士也。而主欲三一旦棄二去之一。臣竊以爲二不可一。臣聞輕慮者不レ可二以治一レ國。獨智者不レ可二以存一レ君。誅二殺忠臣一而立下無二節行一之人上。是內使三羣臣不二相信一而外使二鬪士之意離一也。臣

臣竊かに以て不可となすと。胡亥聽かずして、御史曲宮を遣はして傳(二)に乘りて、代に之き、蒙毅に令せしめて曰く、先主太子を立てんと欲して卿之を難ぜり。今丞相卿を以て不忠となし。罪其の宗(三)に及ぶ。朕忍びず、乃ち卿に死を賜ふも亦甚だ幸なり。卿其れ之を圖れと。毅對へて曰く、臣を以て先主の意を得る能はずとせば、則ち臣少きより宦し順幸せられて世(四)を沒す。意を知ると謂ふ可し。臣を以て太子の能を知らずとせば、則ち太子に獨り從ひて天下に周旋し、諸公子を去ること絕遠なり。臣疑ふ所なし。夫れ先主の太子を擧用する數年の積なり。臣乃ち何の言か之れ敢へて諫めん。何の慮か之れ敢へて謀らん。敢へて辭を飾り、以て死を避くるに非ざるなり。先主の名を累すを羞づるが爲めなり。願くは大夫慮をなせ。臣をして情實に死するを得しめよ。且つ夫れ成(五)全に順ふは道の貴ぶ所なり。刑殺は道の卒る所なり。昔し秦の穆公三良を殺して死し、百里奚を罪す、而して其の罪に非ざるなり。故に號(六)を立てて繆と曰ふ。昭襄

之。又怨下蒙毅法治レ之而不上レ爲レ已也。因有二賊心一。乃與二丞相李斯。少子胡亥一。陰謀立二胡亥一爲二太子一。太子已立。遣二使者一以レ罪賜二公子扶蘇蒙恬死一。扶蘇已死。蒙恬疑而復請レ之。使者以二蒙恬一屬レ吏更置。胡亥以二李斯舍人一爲二護軍使者一。還報。胡亥已聞二扶蘇死一。卽欲レ釋二蒙恬一。趙高恐二蒙氏復貴而用レ事怨一レ之。毅還至。趙高因爲二胡亥忠計一。欲二以滅一蒙氏一。乃言曰。臣聞先帝欲下擧レ賢立中太子上久矣。而毅諫曰不可。若知レ賢而愈不レ立。則是不忠而惑レ主也。以二臣愚意一。不レ若レ誅レ之。胡亥聽而繫二蒙毅於代一。前已囚二蒙恬于陽周一。喪至二咸陽一已葬。

太子立爲二二世皇帝一。而趙高親近。日夜毀二惡蒙氏一。求二其罪過一擧二劾之一。子嬰進諫曰。臣聞故趙王遷殺二其良臣李牧一。而用二顏聚一。燕王喜陰用二荊軻之謀一。而倍二秦之約一。齊王建殺二

太子立ちて二世皇帝となる。而して趙高親近せられ、日夜蒙氏を毀惡し、其の罪過を求めて之を擧劾す。子嬰進み諫めて曰く、臣聞く、故の趙王遷其の良臣李牧を殺して顏聚を用ふ。燕王喜陰かに荊軻の謀を用ひて秦の約に倍く。齊王建其の故世の忠臣を殺して后勝の議を用ふ。此の三君は皆各ゝ古者を變ずるを以て其の國を失ひて殃其身に及ぶ。今蒙氏は秦の大臣謀士なり。而して主一旦に之を棄去せんと欲す。臣竊かに以て不可となす。臣聞く、輕慮する者は以て國を治む可からず。獨智の者は以て君を存す可からずと。忠臣を誅殺して節行なきの人を立つ。是れ內羣臣をして相信ぜざらしめ、外鬪士の意をして離れしむるなり。

天下。道二九原一直抵二甘泉一。乃使下蒙恬通レ道。自二九原一抵中甘泉上。塹レ山堙レ谷千八百里。道未レ就。始皇三十七年。冬行出二游會稽一。竝二海上一北走二琅邪一。道病。使三蒙毅禱二山川一。未レ反。始皇至二沙丘一崩。祕レ之。羣臣莫レ知。是時丞相李斯。少子胡亥。中車府令趙高常從。高雅得レ幸二於胡亥一。欲レ立レ

りて胡亥を立てて太子となす。太子已に立つ。使者を遣して罪を以て公子扶蘇蒙恬に死を賜ふ。扶蘇已に死す。蒙恬疑ひて復之を請ふ。使者蒙恬を以て吏に屬し更置す。胡亥李斯の舍人を以て護軍使者となす。還り報ず。胡亥已に扶蘇死すと聞きて卽ち蒙恬を釋さんと欲す。趙高蒙氏復貴ばれ、事を用ひて之を怨みんことを恐る。毅還り至る。趙高因りて胡亥に忠計する僞して以て蒙氏を滅さんと欲し、乃ち言ひて曰く、臣聞く、先帝賢を舉げて太子を立てんと欲すること久し。而して毅諫めて曰く、不可なりと。若し賢を知りて、愈(五)えて立てざるは則ち是れ不忠にして主は惑はすなり。臣の愚意を以てするに之を誅するに若かずと。胡亥聽きて蒙毅を代に繫ぐ。前に已に蒙恬を陽周に囚ふ。喪咸陽に至り已に葬る。

(一) 宮刑を受けし者の居る所、趙高の父宮刑により妻子没して奴婢とす、妻後に野合して生む所皆趙姓を承く (二) 濠を掘る (三) 走は向ふに同じ (四) そこなはんとする心、害心 (五) 愈は愈なり、踰なり、太子の賢なるを知りて久しきを踰えて立てず、是れ不忠なり

趙高者。諸趙疏遠屬也。趙高昆弟數人。皆生二隱宮一。其母被二刑僇一。世世卑賤。秦王聞三高彊力通二於獄法一。擧以爲二中車府令一。高卽私事二公子胡亥一。喩二之決獄一。高有二大罪一。秦王令二蒙毅法治一レ之。毅不二敢阿一レ法。當二高罪死一、除二其官籍一。帝以三高之敦二於事一也。赦レ之復二其官爵一。始皇欲レ游二

趙高は諸趙の疏遠屬なり。趙高の昆弟數人皆隱宮(一)に生る。其の母刑僇せられ、世世卑賤なり。秦王高が彊力あり、獄法に通ずるを聞き、擧げて以て中車府の令となす。高卽ち私かに公子胡亥に事へ、之に決獄を喩す。高大罪あり、秦王蒙毅をして法もて之を治せしむ。毅敢へて法に阿らず、高の罪を死に當し、其の官籍を除く。帝高の事に敦きを以て、之を赦し其の官爵を復す。始皇天下に游ばんと欲し、九原に道し、直に甘泉に抵る。乃ち蒙恬をして道を通じて、九原より甘泉に抵らしむ。山を塹り、谷を堙むること千八百里。道未だ就らず。始皇三十七年冬行きて會稽に出游す。海上に並びて北のかた琅邪に走ふ。道にして病み、蒙毅をして還りて山川に禱らしむ。未だ反らずして始皇沙丘(二)に至りて崩ず。之を祕す。羣臣知るもの莫し。是の時丞相李斯少子胡亥中車府の令趙高常に從へり。高雅より胡亥に幸せらるゝを得、之を立てんと欲す。又蒙毅の法もて之を治めて己の爲めにせざるを怨む。因りて賊(四)心あり。乃ち丞相李斯少子胡亥と陰かに謀

取二二十城一。作二置東郡一。始皇七年、蒙驁卒。驁子曰レ武。武子曰レ恬。恬嘗書レ獄典二文學一。始皇二十三年、蒙武爲二秦裨將軍一、與二王翦一攻レ楚大破レ之。殺二項燕一。二十四年、蒙武攻レ楚虜二楚王一。蒙恬弟毅。始皇二十六年。蒙恬因二家世一得レ爲二秦將一。攻レ齊大破レ之。拜爲二內史一。秦已幷二天下一。乃使三蒙恬將二三十萬衆一。北逐二戎狄一。收二河南一。築二長城一。因二地形一用レ險制レ塞。起二臨洮一至二遼東一。延袤萬餘里。是於レ渡レ河據二陽山一。逶蛇而北。暴二師於外一十餘年。居二上郡一。是時蒙恬威振二匈奴一。始皇甚尊二寵蒙氏一。信任賢レ之。而親二近蒙毅一。位至二上卿一。出則參乘。入則御レ前。恬任二外事一。而毅常爲二內謀一。名爲二忠信一。故雖二諸將相一。莫二敢與レ之爭一焉。

を逐ひ、河南を收めしむ。長城を築き、地形に因りて、險を用ひて塞を制す。臨洮より起り、遼東に至るまで延袤萬餘里。是に於て河を渡りて陽山に據り、逶蛇(五)として北す。師を外に暴すこと(六)十餘年。上郡に居る。是の時蒙恬威匈奴に振ふ。始皇甚だ蒙氏を尊寵し、信任して之を賢とす。而して蒙毅を親近して位上卿に至らしむ。出れば則ち參乘(七)し、入れば則ち前に御す。恬外事に任じ、而して毅常に內謀をなし、名づけて忠信となす。故に諸〻將相と雖も敢へて之と爭ふもの莫し。

(一) 祖父　(二) 獄法を學び遂に獄官の文學を主どる　(三) 副將軍　(四) 國の典法を司どる官　(五) 委蛇に作る、うねり歩くさま　(六) 軍を風露にさらす　(七) 陪乘、與乘に同車す

蒙恬者。其先齊人也。恬大父蒙驁。自齊事秦昭王。官至上卿。秦莊襄王元年。蒙驁爲秦將。伐韓取城皐滎陽。作置三川郡。二年。蒙驁攻趙取三十七城。始皇三年。蒙驁攻韓取十三城。五年蒙驁攻魏

卷八十八

蒙恬列傳　第二十八

蒙恬は其の先は齊人なり。恬の大父(一)蒙驁齊より秦の昭王に事へ、官上卿に至る。秦の莊襄王の元年蒙驁秦の將となり、韓を伐ちて城皐滎陽を取り、三川郡を作置す。二年蒙驁趙を攻めて三十七城を取る。始皇の三年蒙驁韓を攻めて十三城を取る。五年蒙驁魏を攻めて二十城を取り、東郡を作置す。始皇の七年蒙驁卒す。驁の子を武と曰ふ。武の子を恬と曰ふ。恬嘗て獄(二)を書し、文學を典る。始皇の二十三年蒙武秦の裨(三)將軍となり、王翦と楚を攻めて大に之を破り、項燕を殺す。二十四年蒙武楚を攻めて楚王を虜にす。蒙恬の弟は毅なり。始皇の二十六年蒙恬家世に因りて秦の將となることを得、齊を攻めて大に之を破り、拜せられて内史(四)となる。秦已に天下を幷せ、乃ち蒙恬をして三十萬の衆に將として北戎狄

因以二瑕釁一以輔二始皇一。卒成二帝業一。斯爲二三公一。可レ謂二尊用一矣。斯知二六藝之歸一。不レ務三明レ政以補二主上之缺一。持二爵祿之重一。阿順苟合。嚴威酷刑。聽二高邪說一。廢レ適立レ庶。諸侯已畔。斯乃欲二諫爭一。不二亦末一乎。人皆以斯極レ忠而被二五刑一死。察二其本一。乃與二俗議一之異。不レ然斯之功。且與二周召一列矣。

斯六藝の歸を知りて、政を明かにし以て主上の缺を補ふことを務めず、爵祿の重を持して阿順苟合し、嚴威酷刑す。高の邪說を聽き、適を廢して庶を立つ。諸侯已に畔きて、斯乃ち諫爭せんと欲するも亦末ならずや。人皆以ふ、斯忠を極めて而して五刑を被りて死すと。其の本を察すれば、乃ち俗議と之れ異なり。然らずんば、斯の功且に周召(三)と列せんとす。

(一) 村里の微賤の身 (二) 列國の破綻につけ込みて (三) 周公召公

世上レ觀而見レ之恐懼。高即因劫令二自殺一。引レ璽而佩レ之。左右百官莫レ從。上レ殿殿欲レ壞者三。高自知二天弗レ與羣臣弗一レ許。乃召二始皇弟一授二之璽一。子嬰即レ位患レ之。乃稱レ疾不レ聽レ事。與二宦者韓談及其子一謀レ殺レ高。高上謁請レ病。因召入令三韓談刺二殺之一。夷二其三族一。子嬰立三月。沛公兵從二武關一。入至二咸陽一。羣臣百官皆畔不レ適。子嬰與二妻子一。自係二其頸一以レ組。降二軹道旁一。沛公因以屬レ吏。項王至而斬レ之。遂以亡二天下一。

弟を召して之に璽を授く。子嬰位に即きて之を患ふ。乃ち疾と稱して事を聽かず。宦者韓談及び其の子と高を殺さんことを謀る。高上謁して病を請ふ。因りて召し入れ、韓談をして之を刺殺せしめ其の三族を夷ぐ。子嬰立ちて三月、沛公の兵武關より入りて咸陽に至る。羣臣百官皆畔きて適せず。(二)子嬰妻子と自ら其の頸に係くるに組を以てし、(三)軹道の(四)旁に降る。沛公因りて以て吏に屬す。項王至りて之を斬り、遂に以て天下を亡ふ。

(一) 城門やぐら　(二) 敵、沛公の兵に敵せず、一說、ゆかずと讀み、畔きて君の爲めに赴かず　(三) 組み紐、自ら綬を首に卷きて罪人となる　(四) 軹道亭、咸陽に近き驛亭の名

太史公曰。李斯以二閭閻一。歷二諸侯一入事レ秦。

太史公曰く、李斯は閭閻(一)を以て、諸侯を歷、入りて秦に事ふ。因りて瑕釁(二)を以て、以て始皇を輔け、卒に帝業を成す。斯三公となる。尊用せらると謂ふ可し。

死。二世拜趙高爲中丞相。事無大小。輒決於高。高自知權重。乃獻鹿謂之馬。二世問左右。此乃鹿也。左右皆曰。馬也。二世驚。自以爲惑。乃召太卜令卦之。太卜曰。陛下春秋郊祀。奉宗廟鬼神。齋戒不明。故至於此。可依盛德而明齋戒。於是乃入上林齋戒。日遊弋獵。有行人入上林中。二世自射殺之。趙高教其女壻咸陽令閻樂劾不知何人賊殺人移上林。高乃諫二世曰。天子無故賊殺不辜人。此上帝之禁也。鬼神不享。天且降殃。當遠避宮以禳之。

侍中も禁中にありて君側に侍する官 (四) くり返して調ぶ (五) 恐れ入りて罪に服す (六) 罪を鞫して當る所を斷決して奏上すること (七) 周代の刑罰、黥、劓、刖、宮、大辟の五、又、野刑、軍刑、鄉刑、官刑、國刑の五、秦の法、三族に當る者は先づ黥劓し、刖し、之を笞殺し、其の首を梟し、其の骨肉を市に菹す、其の誹謗詈詛する者は又先づ舌を斷ふ、之を五刑を具ふといふ (八) 父母、兄弟妻子をいふ、一說父及びその兄弟と己及び己が兄弟と子、一說父族、母族、妻族 (九) 天子の爲めに卜筮を司どる官 (一〇) 罪劾 (一一) 祖先の靈魂

二世乃出居望夷之宮。留三日。趙高詐詔衛士。令士皆素服持兵內鄉。入告二世曰。山東羣盜兵大至。二

二世乃ち出でて夷望の宮に居る。留まること三日、趙高詐りて衛士に詔し、士をして皆素服し、兵を持して内に鄉はしめ、入りて二世に告げて曰く、山東の羣盜の兵大に至ると。二世觀に上りて之を見て恐懼す。高卽ち因りて劫かして自殺せしめ璽を引きて之を佩ぶ。左右百官從ふもの莫し。殿に上れば殿壞れんと欲するもの三たびなり。高自ら天與へず、羣臣許さざるを知り、乃ち始皇の

相所賓。及二世所使案三川之守至則項梁已擊殺之。使者來。會丞相下吏。趙高皆妄爲反辭。二世二年七月。具斯五刑。論腰斬咸陽市。斯出獄與其中子俱執。顧謂其中子曰。吾欲與若復牽黃犬。俱出上蔡東門逐狡兎。豈可得乎。遂父子相哭而夷三族。李斯已

はんと欲するも豈得べけんやと。遂に父子相哭して三族(八)を夷げらる。李斯已に死す。二世趙高を拜して中丞相となし、事大小となく輒ち高に決す。高自ら權の重きを知り、乃ち鹿を獻じて之を馬と謂ふ。二世左右に問ふ。此れ乃ち鹿なるかと。左右皆曰く、馬なりと。二世驚き自ら以て惑へりとなし、乃ち太卜(九)を召して之を卦せしむ。太卜曰く、陛下春秋の郊祀、宗廟鬼神に奉ずるに、齋戒すること明かならず。故に此に至る。盛德に依りて齋戒を明かにす可しと。是に於て乃ち上林に入りて齋戒し、日ゝ游びて弋獵す。行人ありて上林中に入る。二世自ら射て之を殺す。趙高其の女壻咸陽の令閻樂をして、何人なるを知らず、人を賊殺して上林に移すと劾せしむ(一〇)。高乃ち二世を諫めて曰く、天子故なくして不辜の人を賊殺す。此れ上帝の禁なり。鬼神享けず(一一)。天且に殃を降さんとす。當に遠く宮を避け、以て之を禳ふべしと。

(一) 御史は天子の傍にありて事を記す官、役人を糺彈する事を掌る　(二) 謁者は君側にありて取次をなす役　(三)

胡貉一。南定二百越一。以見二秦之彊一。罪二矣。尊二大臣一。盛二其爵位一。以固二其親一。罪三矣。立二社稷一。修二宗廟一。以明二主之賢一。罪四矣。更二剋畫一。平二斗斛度量一。文章布二之天下一。以樹二秦之名一。罪五矣。治二馳道一。興二游觀一。以見二主之得意一。罪六矣。緩二刑罰一。薄二賦斂一。以遂三主得二衆之心一。萬民戴レ主。死而不レ忘。罪七矣。若二斯之爲レ臣者。罪足二以死一固久矣。上幸盡二其能力一乃得レ至レ今。願陛下察レ之。書上。趙高使二吏棄去不レ奏。曰。囚安得二上書一。

趙高使下其客十餘輩。詐爲二御史謁者侍中一。更往覆二訊斯一。斯更以二其實一對。輒使二人復榜上レ之。後二世使二人驗上レ斯。斯以爲レ如レ前。終不三敢更言一。辭服。奏當上。二世喜曰。微二趙君一幾爲二丞

趙高其の客十餘輩をして詐つて御史謁者侍中(三)となり、更〻往きて斯を覆訊(四)せしめ、斯更に其の實を以て對ふれば、輒ち人をして復た之を榜たしむ。後二世人をして斯を驗せしむ。斯以て前の如しとなして終に敢へて更に言はず。辭服(五)す。奏當(六)上つる。二世喜びて曰く、趙君微かりせば、幾んど丞相に賣られんとすと。二世の案ぜしむる所の三川の守至るに及べば、則ち項梁已に之を擊殺す。使者來る。會〻丞相吏に下る。趙高皆妄に反辭を爲る。二世の二年七月斯に五刑(七)を具へ、論じて咸陽の市に腰斬す。斯、獄を出づるとき其の中子と倶に執はる。顧みて其の中子に謂ひて曰く、吾若と復黃犬を牽き、倶に上蔡の東門を出でて狡兎を逐

治民三十餘年矣。逮秦地之狹隘。先王之時。秦地不過千里。兵數十萬。臣盡薄材。謹奉法令。陰行謀臣。資之金玉。使游說諸侯。陰修甲兵。飾政教。官鬭士。尊功臣。盛其爵祿。故終以脅韓弱魏。破燕趙。夷齊楚。卒兼六國。虜其王。立秦爲天子。罪一矣。地非不廣。又北逐

となせるは罪の一なり。地廣からざるに非ず、又北のかた胡貉㈤を逐ひ、南のかた百越を定め、以て秦の彊を見せるは罪の二なり。大臣を尊び、其の爵位を盛にし、以て其の親を固うせしは罪の三なり。社稷を立て宗廟を修め、以て主の賢を明かにせしは罪の四なり。刻畫㈥を更め、斗斛度量を平にし、文章之を天下に布き、以て秦の名を樹てしは罪の五なり。馳道㈦を治め游觀を興し、以て主の得意を見はせしは罪の六なり。刑罰を緩くし、賦斂を薄くし、以て主衆の心を得ることを遂げ、萬民主を戴き死して忘れざらしめしは罪の七なり。斯の臣たる若きは罪以て死するに足ること固より久し。上幸に其の能力を盡くして乃ち今に至るを得。願くは陛下之を察せよと。書上る。趙高吏をして棄去して奏せざらしむ。曰く、囚安んぞ上書するを得んと。

㈠ 笞ちて拷問す ㈡ 無實の事を以て罪に服す ㈢ 脅喝 ㈣ 併合 ㈤ 北方の夷狄、貉は貊に同じ ㈥ 刻畫は刻なり、きざみつくるをいふ、畫は區劃なり、くぎりなり、刻畫は尺度、權衡などに標し刻みつけたるくぎり ㈦ 天子又は貴人の通行の道筋、おなり道

臣。不レ思二其殃一。大爲二宮室一。厚賦二天下一。不レ愛二其費一。三者已行。天下不レ聽。今反者已有二天下之半一矣。而心尚未レ寤也。而以二趙高一爲レ佐。吾必見下寇至二咸陽一。麋鹿游中於朝上也。

於レ是二世乃使下高案二丞相獄一治レ罪。責中斯與二子由一謀反狀上。皆收二捕宗族賓客一。趙高治レ斯。榜掠千餘。不レ勝レ痛。自誣服。斯所三以不レ死者。自負三其辯有レ功。實無二反心一。幸得二上書自陳一。幸二二世之寤而赦レ之。李斯乃從二獄中一上書曰。臣爲二丞相一。

是に於て二世乃ち高をして丞相の獄を案じ、罪を治め、斯と子由と謀反する狀を責めしむ。皆宗族賓客を收捕す。趙高斯を治し、榜掠(一)すること千餘。痛に勝へず、自ら(二)誣服せり。斯の死せざる所以の者は自ら其の辯功ありて實に反心なきを負み、幸に上書して自ら陳ずるを得ば、二世の寤めて之を赦さんことを幸とすればなり。李斯乃ち獄中より上書して曰く、臣丞相となりて民を治むること三十餘年なり。秦地の狹隘なるに逮びて、先王の時、秦の地千里に過ぎず、兵數十萬なり。臣薄材を盡くし、謹みて法令を奉じ、陰かに謀臣を行り之に金玉を資し、諸侯に游說せしむ。陰かに甲兵を修め、政教を飾へ、鬬士を官し、功臣を尊び、其の爵祿を盛にす。故に終に以て韓を脅(三)し魏を弱め、燕趙を破り、齊楚を夷げ、卒に六國を兼(四)ねて其の王を虜にし、秦を立てて天子

前信ニ趙高一。恐ニ李斯殺ヒ之。乃私告ニ趙高一。高曰。丞相所レ患者獨高。高已死。丞相乃欲レ爲ニ田常所ヒ爲。於レ是二世曰。其以ニ李斯一屬ニ郎中令一。趙高案ニ治李斯一。李斯拘執束縛。居ニ囹圄中一。仰レ天而歎曰。嗟乎悲夫。不道之君。何可レ爲レ計哉。昔者桀殺ニ關龍逢一。紂殺ニ王子比干一。呉王夫差殺ニ伍子胥一。此三臣者豈不忠哉。然而不レ免ニ於死一。身死而所レ忠者非也。今吾智不レ及ニ三子一。而二世之無道。過ニ於桀紂夫差一。吾以レ忠死宜矣。且二世之治。豈不レ亂哉。日者夷ニ其兄弟一而自立也。殺ニ忠臣一而貴ニ賤人一。作ニ爲阿房之宮一。賦ニ斂天下一。吾非レ不レ諫也。而不ニ吾聽一也。凡古聖王飲食有レ節。車器有レ數。宮室有レ度。出レ令造レ事。加レ費而無レ益ニ於民利一者禁。故能長久治安。今行ニ逆於昆弟一。不レ顧ニ其咎一。侵ニ殺忠

の兄弟を夷げて自立するや、忠臣を殺して賤人を貴び、阿房の宮を作爲して天下に賦斂す。吾諫めざるに非ず、吾に聽かざるなり。凡そ古の聖王飲食節あり、車器數あり、宮室度あり。令を出し、事を造する、費を加へて民利に益なき者は禁ず。故に能く長久治安なり。今逆を昆弟(二)に行ひて其の咎を顧みず、忠臣を侵殺して其の殃を思はず、大に宮室を爲り、厚く天下に賦して其の費を愛まず。三者已に行はれて天下聽かず。今反者已に天下の半を有つ。而も心尚ほ未だ寤めざるなり。而して高趙を以て佐となす。吾必ず寇咸陽に至り、(三)麋鹿朝に游ぶを見んと。

(一) ひとや、牢獄　(二) 兄弟、昆は兄　(三) 咸陽の秦の朝廷荒廢して、麋鹿出でて遊ぶに至らん

賢之。而君疑之何也。且朕少失二先人一。無所レ識知一。不レ習治レ民。而君又老。恐下與二天下一絶上矣。朕非レ屬二趙君一。當二誰任一哉。且趙君爲人。精廉彊力。下知二人情一。上能適レ朕。君其勿レ疑。李斯曰。不レ然。夫高故賤人也。無レ識二於理一。貪欲無厭。求レ利不レ止。列レ勢次レ主。求レ欲無レ窮。臣故曰レ殆。二世已

當に誰にか任ずべけんや。且つ趙君人となり精廉彊力、下人情を知り、上能く朕に適ふ。君其れ疑ふこと勿れと。李斯曰く、然らず。夫の高は故と賤人なり。理を識るなく、貪欲厭くなく、利を求めて止まず、勢を列ねて主に次ぎ、欲を求めて窮りなし。臣故に殆しと曰ふと。二世已に前に趙高を信じ、李斯の之を殺さんことを恐れ、乃ち私かに趙高に告ぐ。高曰く、丞相の患ふる所の者は獨り高のみ。高已に死せば丞相乃ち田常の爲しし所をなさんと欲すと。是に於て二世曰く、其れ李斯を以て郎中令に屬せよと。趙高李斯を案治す。李斯拘執束縛せられて囹圄の中に居り、天を仰ぎて歎じて曰く、嗟乎、悲しいかな。不道の君何ぞ計をなす可けんや。昔し桀、關龍逢を殺し、紂、王子比干を殺し、吳王夫差、吳子胥を殺せり。此の三臣は豈不忠ならんや。然り而して死を免れず。身死して忠する所の者は非なり。今吾れ智三子に及ばずして、二世の無道桀紂夫差に過ぐ。吾れ忠を以て死する、宜なり。且つ二世の治豈亂れざらんや。日者其

三川守與盜通狀。李斯聞之。是時二世在甘泉。方作觳抵優俳之觀。李斯不得見。因上書言趙高之短曰。臣聞之。臣疑其君無不危國。妾疑其夫無不危家。今有大臣於陛下。擅利擅害。與陛下無異。此甚不便。昔者司城子罕相宋。身行刑罰。以威行之。朞年遂劫其君。田常爲簡公臣。爵列無敵於國。私家之富。與公家均。布惠施德。下得百姓。上得羣臣。陰取齊國。殺宰予於庭。即弑簡公於朝。遂有齊國。此天下所明知也。今高有邪佚之志。危反之行。如子罕相宋也。私家之富。若田氏之於齊也。兼行田常子罕之逆道。而劫陛下之威信。其志若韓玘爲韓安相也。陛下不圖。臣恐其爲變也。

一 宴飲して樂む、燕は讌又は醼に通じて用ふ　二 謁は名刺なり、名刺を出して天子に見えんことを求む　三 我が幼なるを以て我を輕んずるか、我を頑固なりと侮りてするか　四 沂縣　五 考へしらぶ　六 角抵、角は材を角するなり、抵は相抵觸するなり、兩兩相當りて力を角するなり　七 優俳は俳優

二世曰。何哉。夫高故宦人也。然不爲安肆志。不以危易心。潔行修善。自使至此。以忠得進。以信守位。朕實

二世曰く、何ぞや、夫の高は故と宦人なり。然れども安きが爲めに志を肆にせず、危きを以て心を易へず行を潔くし、善を修めて、自ら此に至らしめ、忠を以て進むを得、信を以て位を守る。朕實に之を賢とす。而るに君之を疑ふは何ぞや。且つ朕少くして先人を失ひ、識知する所なく、民を治むるに習はず。而して君又老す。天下と絶たんことを恐る。朕趙君に屬するに非ずんば

其意亦望二裂レ地而王一矣。且陛下不レ問レ臣。臣不二敢言一。丞相長男李由爲二三川守一。楚盜陳勝等、皆丞相傍縣之子。以レ故楚盜公行。過二三川一。城守不レ肯レ擊。高聞二其文書相往來一。未レ得二其審一。故未二敢以聞一。且丞相居レ外。權重二於陛下一。二世以爲レ然。欲レ案二丞相一。恐二其不一レ審。乃使三人案二驗

の時二世甘泉に在り、方に觳抵優俳の觀を作す。李斯見ゆることを得ず。因りて上書して趙高の短を言ふ。曰く、臣之を聞く、臣其の君を疑はば國を危くせざるなし。妾其の夫を疑はば、家を危くせざるはなしと。今大臣の陛下に於ける利を擅にし害を擅にするあり、陛下と異なるな。此れ甚しく便ならず。昔者司城子罕宋に相として身刑罰を行ひ、威を以て之を行ふ。朞年遂に其の君を劫かす。田常簡公の臣となり、爵列國に敵なく、私家の富、公家と均しく、惠を布き、德を施し、下は百姓を得、上は羣臣を得、陰かに齊國を取り、宰予を庭に殺し、卽ち簡公を朝に弑して遂に齊國を有つ。此れ天下の明かに知る所なり。今高邪佚の志、危反の行あり、子罕の宋に相たるが如きなり。私家の富田氏の齊に於ける若きなり。田常子罕の逆道を兼ね行ひて陛下の威信を劫かす。其の志韓玘の韓安の相たるが若きなり。陛下圖らずんば臣其の變をなさんことを恐ると。

於レ是趙高待二二世方燕樂。婦女居レ前。使三人告二丞相上方閒可レ奏レ事。丞相至二宮門一上謁。如レ此者三。二世怒曰。吾常多二閒日一。丞相不レ來。吾方燕私丞相輒來請レ事。丞相豈少レ我哉。且固レ我哉。趙高因曰。如レ此殆矣。夫沙丘之謀丞相與焉。今陛下已立爲レ帝。而丞相貴不レ益。此

是に於て趙高二世方に燕樂し(一)、婦女前に居るを待ち、人をして丞相に、上方に間なり事を奏すべしと告げしむ。丞相宮門に至り(二)上謁す。此の如くする者三たび。二世怒りて曰く、吾常に間日多し。丞相來らず。吾方に燕私すれば、丞相輒ち來りて事を請ふ。丞相豈我を(三)少しとするか、且つ我を固とするかと。趙高因りて曰く、此の如きは殆し。夫れ沙丘の謀は丞相與れり。今陛下已に立ちて帝となる。而して丞相貴きこと益さず。此れ其の意亦地を裂きて王たるを望むならん。且つ陛下臣に問はず、臣敢へて言はず。丞相の長男李由三川の守たり。楚の盜陳勝等皆丞相(四)の傍縣の子なり。故を以て楚の盜公行し、三川を過ぐるも城守して撃つことを肯ぜず。高其の文書相往來するを聞けども、未だ其の審を得ず。故に未だ敢へて以聞せず。且つ丞相外に居りて權陛下より重しと。二世以て然りとなし、丞相(五)を案ぜんと欲し、其の審ならざるを恐る。乃ち人をして三川の守、盜と通ずる狀を案驗せしむ。李斯之を聞く。是

但以聞聲。羣臣莫得見其面。故號曰朕。且陛下富於春秋。未必盡通諸事。今坐朝廷譴擧有不當者。則見短於大臣。非所以示神明於天下也。且陛下深拱禁中。與臣及侍中習法者待事。事來有以揆之。如此則大臣不敢奏疑事。天下稱聖主矣。二世用其計。乃不坐朝廷見大臣。居禁中。趙高常侍中用事。事皆決於趙高。高聞李斯以爲言。乃見丞相曰。關東羣盜多。今上急發繇治阿房宮。聚狗馬無用之物。臣欲諫爲位賤。此眞君侯之事。君何不諫。李斯曰。固也。吾欲言之久矣。今時上不坐朝廷。上居深宮。吾有所言者。不可傳也。欲見無間。趙高謂曰。君誠能諫。請爲君候上間語君。

す。高、李斯以て言をなすと聞き、乃ち丞相に見えて曰く、關東羣盜多し。今上急に繇(五)を發して阿房宮を治め、狗馬無用の物を聚む。臣諫めんと欲すれども位賤しと爲す。此れ眞に君侯の事なり。君何ぞ諫めざると。李斯曰く、固よりなり。吾之を言はんと欲すること久し。今時上朝廷に坐せず。上深宮に居りて、吾言ふ所の者あるも傳ふべからざるなり。見えんと欲するも間なしと。趙高謂ひて曰く、君誠に能く諫めば、請ふ君の爲めに上の間を候ひて君に語げんと。

㊀ 刑罰を受くる者 ㊁ そしる、惡言す ㊂ 譴責して人を退け、選びて人を擧げ用ふ ㊃ 宮中、大奥 ㊄ 徭に通ず、義務として政府に使はるゝこと、えだち、ぶやく

書奏。二世悅。於是行督責益嚴。稅民深者爲明吏。二世曰。若此則可謂能督責矣。刑者相半於道。而死人日成積於市。殺人衆者爲忠臣。二世曰。若此則可謂能督責矣。初趙高爲郎中令。所殺及報私怨衆多。恐大臣入朝奏事毀惡之。乃說二世曰。天子所以貴者

書奏す。二世悅ぶ。是に於て督責を行ひて、益〻嚴に民に稅すること深き者を明吏となす。二世曰く、此の若きは則ち能く督責すと謂ふべし。(一)刑者道に相半して死人日〻市に積むを成し、人を殺すこと衆き者忠臣となる。二世曰く、此の若きは則ち能く督責すと謂ふべしと。初め趙高郎中令となりて殺す所及び私怨を報いしもの衆多なり。大臣の入朝して事を奏し、之を(二)毀惡するを恐る。乃ち二世に說きて曰く、天子の貴き所以の者は但聲を聞きて羣臣其の面を見るを得ること莫きを以て故に號して朕と曰ふ。且つ陛下春秋に富み未だ必ずしも盡く諸事に通ぜず。今朝廷に坐して(三)譴擧當らざる者あれば、則ち短を大臣に見さん。神明を天下に示す所以に非ざるなり。且つ陛下深く禁中に拱し、臣及び侍中の法に習ふ者と事を待たん。事來りて以て之を揆るあらん。此の如くなれば、則ち大臣敢へて疑事を奏せず、天下聖主と稱せんと。二世其の計を用ひ、乃ち朝廷に坐して大臣を見ず、(四)禁中に居る。趙高常に中に侍して事を用ひ、事皆趙高に決

不在臣也。然後能滅仁義之塗。掩馳說之口。困烈士之行。塞聰揜明。內獨視聽。故外不可傾以仁義烈士之行。而內不可奪以諫說忿爭之辯。故能犖然獨行恣睢之心。而莫之敢逆。若此然後可謂能明申韓之術。而修商君之法。法修術明。而天下亂者未之聞也。故曰。王道約而易操也。唯明主爲能行之。若此則謂督責之誠。則臣無邪。臣無邪則天下安。天下安則主嚴尊。主嚴尊則督責必。督責必則所求得。所求得則國家富。國家富則君樂豐。故督責之術設。則所欲無不得矣。羣臣百姓。救過不給。何變之敢圖。若此則帝道備。而可謂能明君臣之術矣。雖申韓復生。不能加也。

る所得らるれば則ち國家富む。國家富めば則ち君樂豐なり。故に督責の術設けらるれば則ち欲する所得られざるなし。羣臣百姓過を救ひて給せず。（一〇）何の變かこれ敢へて圖らん。此の若くなれば則ち帝道備はる。而して能く君臣の術を明かにすと謂ふべし。申韓復生ずと雖も加ふる能はざるなりと。

（一）みだらなること　（二）色に耽るみだりなる樂しみ、康は樂み　（三）君主の執り行ひなす術　（四）諫說する事なくして偏へに意に阿りて命令に從ふ　（五）世情に乖戾し俗習を摩礪して己に從はしむるをいふ　（六）仁義を唱道する人の說の行はるゝ道をふさぐ　（七）馳せめぐりて意見を說く人の口を掩ひて言はざらしむ　（八）すぐれて高きさま　卓犖　（九）簡約、簡單、　（一〇）給せずは足らざるなり、群臣百姓過あらんことを恐れて過を救はんとしてそれも間に合はぬ程なり、されば變を圖る暇などある筈なし

於側。則流漫之志詘矣。烈士死節之行顯於世。則淫康之虞廢矣。故明主能外此三者。而獨操主術以制聽從之臣。而修其明法。故身尊而勢重也。凡賢主者。必將能拂世摩俗。而廢其所惡。立其所欲。故生則有尊重之勢。死則有賢明之謚也。是以明君獨斷。故權

の臣を制して其の明法を修む。故に身尊くして勢重きなり。凡そ賢主は必ず將に能く(五)世に拂り俗を摩きて、其の惡む所を廢して其の欲する所を立てんとす。故に生きては則ち尊重の勢あり、死しては則ち賢明の謚あるなり。是を以て明君は獨斷す。故に權、臣に在らざるなり。然して後能く仁義(六)の塗を滅し、馳說(七)の口を掩ひ、烈士の行を困しめ、聰を塞ぎ明を揜ひ、內獨り視聽す。故に外傾くるに仁義烈士の行を以てす可からずして、內奪ふに諫說忿爭の辯を以てす可からず。故に能く犖然(八)として獨り恣睢の心を行ひて之に敢へて逆ふ莫し。此の若くにして然る後能く申韓の術を明かにして商君の法を修むと謂ふ可し。法修まり、術明かにして天下亂るゝは未だ之を聞かざるなり。故に曰く、王道は約にして操り易きなり。唯明主のみ能く之を行ふことをなす。此の若きは則ち督責(九)の誠と謂ふ。則ち臣邪なし、臣邪なければ則ち天下安し。天下安ければ則ち主嚴尊なり。主嚴尊なれば則ち督責必す。督責必すれば則ち求むる所得らる。求む

輕二百鎰之重一也。搏必隨レ手刑。則盜跖不レ搏百鎰。而罰不二必行一也。則庸人不レ釋二尋常。是故城高五丈。而樓季不二輕犯一也。泰山之高百仭。而跛牂牧二其上一。夫樓季也。而難二五丈之限一。豈跛牂也。而易二百仭之高一哉。陗塹之勢異也。明主聖王之所下以能久處二尊位一。長執二重勢一。而獨擅中天下之利上者。非レ有二異道一也。能獨斷而審二督責一必深罰。故天下不二敢犯一也。今不レ務レ所二以不一レ犯。而事二慈母之所一以敗レ子也。則亦不レ察二於聖人之論一矣。夫不レ能レ行二聖人之術一。則舍爲二天下役一。何事哉。可レ不レ哀邪。

術を行ふ能はざれば則ち舍めて(九)天下の役となる、何事ぞや(一〇)、哀まざるべけんや。

(一) 不良なる子　(二) 格は拒、主命を拒み逆ふなり、虜は奴隷、嚴整の家には格悍の奴僕なし　(三) 尋常はその少きをいふ　(四) 庸人之を見れば取りて捨てず。是れその罪輕ければなり　(五) 美金、百鎰美金遺ちて地にありと雖も盜跖の行ある者も取らざるは其の財多くして罪重ければなり　(六) 魏の文侯の弟、有名なる健脚家　(七) 足なへたる牝羊。一說、羊を牧飼する跛者　(八) 陗は峻なり、高なり。峭峻なれば登り難く、故に樓季も五丈の限りを難しとす。平坦なれば涉り易し故に跛牂も泰山に牧すといふなり　(九) 舍は廢止なり　(一〇) 身を苦しめて天下の爲めに役せらる是れ何事ぞや

且夫儉節仁義之人立二於朝一。則荒肆之樂輟矣。諫說論理之臣閒二

且つ夫れ儉節仁義の人、朝に立てば、則ち荒肆の樂輟む。諫說論理の臣、側に開けば、則ち流漫の志詘く(一)。烈士節に死するの行、世に顯るれば則ち淫康の虞廢す(二)。故に明主は能く此の三者を外にして獨り主術を操り以て聽從

也。故商君之法。刑棄灰於道者。夫棄灰薄罪也。而被刑重罰也。彼唯明主爲能深督輕罪。夫罪輕。且督深。而況有重罪乎。故民不敢犯也。是故韓子曰。布帛尋常庸人不釋。鑠金百溢。盜跖不搏者。非庸人之心。重尋常之利深。而盜跖之欲淺也。又不以盜跖之行。爲

督することをなす。夫れ罪輕きも且つ督すること深し。而るを況や重罪あるをや。故に民敢へて犯さゞるなり。是の故に韓子曰く、布帛(三)尋常なるも、庸人(四)釋てず。(五)鑠金百鎰なるも盜跖搏らざる者は庸人の心尋常の利を重んずること深くして、盜跖の欲淺きに非ざるなり。又盜跖の行を以て百鎰の重きを輕しとなさざるなり。搏れば必ず手に隨ひて刑せらるれば、則ち盜跖も百鎰をだに搏らず。而して罰必ずしも行はれざれば、則ち庸人も尋常をすら釋てず。是の故に城高きこと五丈にして樓季(六)も輕々しく犯さず。泰山の高きこと百仭にして跛牂(七)も其の上に牧す。夫れ樓季や、五丈の限を難しとす、豈跛牂や百仭の高きを易しとせんや。(八)陗塹の勢異なればなり。明主聖王の能く久しく尊位に處り、長く重勢を執りて獨り天下の利を擅にする所以の者は異道あるに非ざるなり。能く獨斷して督責を審かにし、深罰を必す。故に天下敢へて犯さゞるなり。今犯さゞる所以を務めずして慈母の子を敗ふ所以を事とす。則ち亦聖人の論を察せず。夫れ聖人の

顧以其身勞於天下之民。若堯禹然。故謂之桎梏也。夫不能修申韓之明術。行督責之道。專以天下自適也。而徒務苦形勞神。以身徇百姓。則是黔首之役。非畜天下者也。何足貴哉。夫以人徇己。則己貴而人賤。以己徇人。則己賤而人貴。故徇人者賤。而人所徇者貴。自古及今。未有不然者也。凡古之所爲尊賢者。爲其貴也。而所爲惡不肖者。爲其賤也。而堯禹以身徇天下者也。因隨而尊之。則亦失所爲尊賢之心矣。夫可謂大繆矣。謂之爲桎梏。不亦宜乎。不能督責之過也。

て隨ひて之を尊べば則ち亦賢を尊ぶことをなす所の心を失ふ。夫れ大に繆れりと謂ふべし。之を桎梏をなすと謂ふも亦宜ならずや。督責する能はざるの過なり。

（一）其の罪を察して之を責むるに刑罰を以てす（二）放縦、情を恣にし縦恣なるをいふ（三）天下を有つ者自ら縦恣督責する能はず乃ち身を天下の爲めに勞す、堯禹の如き天下を身の桎梏とおもふ。桎梏は罪人の手足にはめる刑具、束縛の意にいふ（四）督は察なり、その罪を察して之を責むるに刑罰を以てするなり（五）養ふ

故韓子曰。慈母有敗子。而嚴家無格虜者何也。則能罰之加焉必

故に韓子曰く、慈母に（一）敗子ありて嚴家に格虜なしとは何ぞや。則ち能く罰を之れ加ふること必すればなり。故に商君の法、（二）灰を道に棄つる者を刑す。夫れ灰を棄つるは薄罪なり。而して刑せらるゝは重罰なり。彼唯明主のみ能く深く輕罪を

責之。則臣不㆕敢不㆔竭㆑能以徇㆓其主㆒矣。此臣主之分定。上下之義明。則天下賢不肖莫敢㆕不㆔盡㆑力竭㆑任。以徇㆓其君㆒矣。是故主獨制㆓於天下㆒而無㆑所㆑制也。能窮㆓樂之極㆒矣。賢明之主也。可㆑不㆑察焉。故申子曰。有㆓天下㆒而不㆓恣睢㆒命㆑之曰以㆓天下㆒爲㆓桎梏㆒者。無㆑他焉。不㆑能㆓督責㆒而

し以て其の君に徇はざる莫し。是の故に主のみ獨り天下を制して制せらるゝ所なきなり。能く樂しみの極を窮む。賢明の主や、察せざるべけんや。故に申子曰く、天下を有ちて(二)恣睢せざる、之を命けて、(三)天下を以て桎梏となすと曰ふ者は他なし。督責する能はずして顧つて其の身を以て天下の民に勞す。堯禹の若く然り。故に之を桎梏と謂ふなり。夫れ申韓の明術を修め、(四)督責の道を行ひ、專ら天下を以て自ら適せしむる能はずして、徒に務めて形を苦しめ神を勞らし、身を以て百姓に徇ふは、則ち是れ黔首の役にして天下を畜(五)ふ者に非ざるなり。何ぞ貴ぶに足らんや。夫れ人を以て己に徇へば則ち己貴くして人賤し。己を以て人に徇へば則ち己賤しくして人貴し。故に人に徇ふ者は賤しくして人徇ふ所の者は貴し。古より今に及びて未だ然らざるものあらざるなり。凡そ古の賢を尊ぶことをなす所の者は、其の貴きが爲めなり。不肖を惡むことをなす所の者は其の賤しきが爲めなり。而して堯禹は身を以て天下に徇ふ者なり。因り

烈二於此一矣。然則夫所レ貴三於有二天下一者。豈欲下苦レ形勞レ神。身處二逆旅之宿一。口食二監門之養一。手持中臣虜之作上哉。此不肖人之所レ勉也。非二賢者之所一レ務也。彼賢人之有二天下一也、專用二天下一適レ己而已矣。此所四以貴三於有二天下一也。夫所レ謂賢人者。必能安二天下一而治二萬民一。今身且不レ能レ利。將惡能治二天下一哉。故吾願肆レ志廣レ欲。長享二天下一而無レ害。爲レ之奈何。李斯子由爲二三川守一。羣盜吳廣等。西略レ地過去。弗レ能レ禁。章邯以破二逐廣等兵一。使者覆二案三川一。相屬誚二讓斯一。居二三公位一。如何令二盜如一レ此。李斯恐懼。重二爵祿一。不レ知レ所レ出。

(一) 山より木を採りてそのまゝ之を椽として削刻を加へず (二) 茅茸の屋根端を揃りそろへず (三) 旅宿 (四) 粢は稷、糲は麁粟飯、藿は豆の葉なり、共に粗食をいふ (五) 藜はあかざ、其の葉を蒸して食ふ (六) 甖に同じ、飯器なり (七) 鍤は鋤の一種、土鍤はその土にて造れるもの、籠を盛るに用ふ (八) 河の九曲別に堤防を作る (九) 股上の小毛 (一〇) あかぎれ、たこを生ず、勞苦の甚しきをいふ也 (一一) 肉體を苦しめ、精神を勞す (一二) 旅宿 (一三) 天下を有つの利を受く (一四) 反復して取調べ考ふ (一五) 責讓、しかりとがむ (一六) 爵祿を失はんことを恐れて爲す所を知らず

乃阿二二世意一。欲レ求レ容。以レ書對曰。夫賢主者。必且三能全レ道而行二督責之術一者也。督二

乃ち二世の意に阿り、容れらるゝことを求めんと欲し、書を以て對へて曰く、

夫れ賢主は必ず且に能く道を全くして督責(一)の術を行はんとする者なり。之を督責すれば、則ち臣敢へて能を竭して以て其の主に徇はずんばあらず。此れ臣主の分定まり、上下の義明かなれば、則ち天下の賢不肖敢へて力を盡して任を竭

三尺。采椽不レ斲、茅茨不レ翦。雖二逆旅之宿一。不レ勤二於此一矣。冬日鹿裘。夏日葛衣。粢糲之食。藜藿之羹。飯二土簋一。啜二土鉶一。雖二監門之養一。不レ觳二於此一矣。禹鑿二龍門一。通二大夏一。疏二九河一。曲二九防一。決二渟水一。致二之海一。而股無レ胈。脛無レ毛。手足胼胝。面目黎黑。遂以死二于外一。葬二于會稽一。臣虜之勞。不レ

を海に致す。而して股に胈(九)なく、脛に毛なく、手足胼胝(一〇)、面目黎黑、遂に以て外に死し、會稽に葬る。臣虜の勞も此より烈しからず。然らば則ち夫の天下を有つに貴ぶ所の者は、豈形(一一)を苦しめ、神を勞し、身逆旅(一二)の宿に處り、口監門の養を食ひ、手臣虜の作を持せんと欲せんや。此れ不肖の人の勉むる所なり。賢者の務むる所に非ざるなり。彼の賢人の天下を有つや、專ら天下を用て己に適せしむるのみ。此れ天下を有つに貴ぶ所以なり。夫れ所謂賢人なる者は、必ず能く天下を安んじて萬民を治む。今身すら且つ利する能はずして將た惡んぞ能く天下を治めんや。故に吾願くは、志を肆にし、欲を廣め、長く天下を享けて害なからんことを。之をなすこと奈何と。李斯の子由三川の守(一三)となり、羣盜呉廣等西地を略して過ぎ去れども、禁ずる能はず。章邯以て破りて廣等の兵を逐ふ。使者三川(一四)を覆案し、相屬して斯を誚讓(一五)す。三公の位に居りて、如何ぞ盜をして此の如くならしむと。李斯恐懼し、爵祿(一六)を重んじて出づる所を知らず。

之。臣當ニ從死一而不レ能。爲ニ人子一不孝。爲ニ人臣一不忠。不忠者無ニ名以立ニ於世一。臣請從死。願葬ニ酈山之足一。唯上幸哀ニ憐之一。書上。胡亥大說。召ニ趙高一而示レ之曰。此可レ謂レ急乎。趙高曰。人臣當ニ憂レ死而不レ暇。何變之得レ謀。胡亥可ニ其書一。賜ニ錢十萬一以葬。法令誅罰日益刻深。羣臣人人自危。欲レ畔者衆。又作ニ阿房之宮一。治ニ直馳道一。賦斂愈重。戍徭無レ已。於レ是楚戍卒陳勝吳廣等乃作レ亂起ニ於山東一。傑俊相立自置爲ニ侯王一。叛レ秦。兵至ニ鴻門一而卻。

愈々重く、戍徭已むなし。是に於て楚の戍卒陳勝吳廣等乃ち亂を作して山東に起り、(七)傑俊相立ちて自置して侯王となり、秦に叛く。兵鴻門に至りて卻く。

(一)罪をしらべたゞす (二)致死 (三)磔に同じ、其の支體を裂きて之を殺す刑 (四)宮廷の文書又は財物を入れおく倉庫 (五)麓 (六)直接に通じたる御成り道 (七)國境邊塞などの守備の兵役

李斯數欲ニ請レ間諫一。二世不レ許。而二世責ニ問李斯一曰。吾有ニ私議一。而有レ所レ聞ニ於韓子一也。曰。堯之有ニ天下一也。堂高

李斯數々間を請ひて諫めんと欲す。二世許さず。而して二世李斯を責問して曰く、吾れ私議あり。而して韓子に聞く所あるなり。曰く、堯の天下を有つや、堂高さ三尺、(一)采椽斲らず、(二)茅茨翦らず、(三)逆旅の宿と雖も此より勤ならず。冬日鹿裘し、夏日葛衣し、(四)粢糲の食、(五)藜藿の羹、(六)土簋に飯し、(七)土鉶に啜る。監門の養と雖も此に穀きず。禹龍門を鑿ち、大夏を通じ、九河を疏し、九防を曲し、(八)渟水を決して之

乃更爲二法律一。於レ是羣臣諸公子有レ罪。輒下レ高令レ鞫二治之一。殺二大臣蒙毅等一。公子十二人。僇二死咸陽市一。十公主矺二死於杜一。財物入二於縣官一。相連坐者不レ可レ勝數。公子高欲レ奔恐レ收族。乃上書曰。先帝無レ恙時。臣入則賜レ食。出則乘レ輿。御府之衣臣得賜レ之。中廏之寶馬臣得レ賜レ

乃ち更めて法律を爲る。是に於て羣臣諸公子罪あれば輒ち高に下して之を鞫治(一)せしむ。大臣蒙毅等を殺し、公子十二人咸陽の市に僇死し(二)、十公主杜に矺死し(三)、財物縣官に入る。相連坐する者數ふるに勝ふ可からず。公子高奔らんと欲し、收族せられんことを恐れ、乃ち上書して曰く、先帝恙なき時、臣入れば則ち食を賜はり、出れば則ち輿に乘る。御府(四)の衣、臣之を賜はることを得、中廏の寶馬臣之を賜はることを得たり。臣當に從ひ死すべくして能はざりき。人の子となりては不孝に、人の臣となりては不忠なり。不忠は名以て世に立つなし。臣請ふ、從ひ死せん。願くは酈山の足(五)に葬れ。唯〻上幸に之を哀憐せよと。書上る。胡亥大に説び、趙高を召して之を示して曰く、此れ急と謂ふ可きかと。趙高曰く人臣當に死を憂へて暇あらざるべし。何の變か之れ謀ることを得んと。胡亥其の書を可とし、錢十萬を賜ひ、以て葬る。法令誅罰日に益〻刻深にして、羣臣人人自ら危ぶみ、畔かんと欲する者衆し。又阿房の宮を作り、直(六)馳道を治む。賦斂

亂主之所レ禁也。臣請言レ之。不三敢避二斧鉞之誅一。願陛下少留レ意焉。夫沙丘之謀。諸公子及大臣皆疑焉。而諸公子盡帝兄。大臣又先帝之所レ置也。今陛下快立。此其屬。意快快皆不レ服。恐レ爲レ變。且蒙恬已死。蒙毅將レ兵居レ外。臣戰戰栗栗。唯恐レ不レ終。且陛下安得レ爲二此樂一乎。二世曰。爲レ之奈何。趙高曰。嚴レ法而刻レ刑。令三有罪者相坐誅至二收族一。滅二大臣一而遠二骨肉一。貧者富レ之。賤者貴レ之。盡除二去先帝之故臣一。更置下陛下之所二親信一者上近レ之。此則陰德歸二陛下一。害除而姦謀塞。羣臣莫レ不下被二潤澤一蒙中厚德上。陛下則高レ枕肆レ志寵樂矣。計莫レ出二於此一。二世然二高之言一。

して收族（九）に至らしめ、大臣を滅して骨肉を遠ざけ、貧者は之を富まし、賤者は之を貴くし、盡く先帝の故臣を除去し、更めて陛下の親信する所の者を置きて之を近づけよ。此れ則ち陰德陛下に歸し、害除かれて姦謀塞がり、羣臣潤澤を被り厚德を蒙らざる莫し。陛下則ち枕を高くし志を肆にして寵樂せん。計此より出づるもの莫しと。二世高の言を然りとす。

（一）間暇無事の時　（二）すきま、決は古く缺に通ず　（三）道理にくらく愚かなるをいふ　（四）刑具をのとまさかり、轉じて刑戮　（五）不滿にして樂しまざるさま　（六）恐懼するさま、栗栗は慄慄に通ず、恐れふるへるなり　（七）きびしくむごくす　（八）連坐して罪し罰す　（九）一族の者を悉く罪し捕ふ

太子立爲二世皇帝。以趙高爲郎中令。常侍中用事。二世燕居。乃召高與謀事。謂曰。夫人生居世間也。譬猶騁六驥過決隙也。吾既已臨天下矣。欲悉耳目之所好。窮心志之所樂。以安宗廟而樂萬姓。長有天下。終吾年壽。其道可乎。高曰。此賢主之所能行也。而昏

太子立ちて二世皇帝となる。趙高を以て郎中令となす、常に中に侍して事を用ふ。二世燕居し、乃ち高を召して與に事を謀る。謂ひて曰く、夫れ人生れて世間に居るや、譬ふれば猶ほ六驥を騁せて決隙を過ぐるがごときなり。吾既に已に天下に臨む耳目の好む所を悉し、心志の樂しむ所を窮め、以て宗廟を安んじ、萬姓を樂しましめ、長く天下を有ち、吾が年壽を終へんと欲す。其の道可ならんかと。高曰く、此れ賢主の能く行ふ所にして昏亂の主の禁ずる所なり。臣請ふ、之を言はん。敢へて斧鉞の誅を避けず。願くは陛下少しく意を留めよ。夫れ沙丘の謀は諸公子及び大臣皆疑へり。而して諸公子は盡く帝の兄にして、大臣又先帝の置きし所なり。今陛下初めて立つ。此れ其の屬意怏怏として皆服せず。變をなさんことを恐る。且つ蒙恬已に死し、蒙毅兵を將ゐて外に居る。臣戰戰栗栗として唯ゞ終へざらんことを恐る。且つ陛下安んぞ此の樂をなすことを得んやと。二世曰く、之をなすこと奈何と。趙高曰く、法を嚴にして刑を刻にし、有罪の者をして相坐誅

不能進而前。士卒多耗。無尺寸之功。乃反數上書直言。誹謗我所爲。以不得罷歸爲太子。日夜怨望。扶蘇爲人子不孝。其賜劍。以自裁。將軍恬與扶蘇居外不匡正。宜知其謀。爲人臣不忠。其賜死以兵屬裨將王離。封其書以皇帝璽。遣胡亥客奉書。賜扶蘇於上郡。使者至發書。扶蘇泣入內舍。欲自殺。蒙恬止扶蘇曰。陛下居外未立太子。使臣將三十萬衆守邊。公子爲監。此天下重任也。今一使者來。即自殺安知其非詐。請復請。復請而後死未暮也。使者數趣之。扶蘇爲人仁。謂蒙恬曰。父而賜子死。尚安復請。即自殺。蒙恬不肯死。使者即以屬吏繫於陽周。使者還報。胡亥斯高大喜。至咸陽發喪。

自殺せんと欲す。蒙恬扶蘇を止めて曰く、陛下外に居て未だ太子を立てず。臣をして三十萬の衆を將ゐて邊を守らしむ。公子監たり。此れ天下の重任なり。今一使者來りて卽ち自殺せば、安んぞ其の詐にあらざるを知らん。請ふ復請せん。復請して而る後に死するも未だ暮からざるなりと。使者數〻之を趣す(三)。扶蘇人となり仁。蒙恬に謂ひて曰く、父にして子に死を賜ふ。尙ほ安んぞ復請せんと。卽ち自殺す。蒙恬肯へて死せず。使者卽ち以て吏に屬し、陽周に繫ぐ。使者還り報ず。胡亥斯高大に喜び、咸陽に至り喪を發す。

(一) 減ず (二) 副將 (三) 促

而歎、垂涙太息曰、嗟乎。獨遭亂世。既以不能死。安託命哉。於是斯乃聽高。

高乃報胡亥曰。臣請奉太子之明命以報丞相。丞相斯敢不奉令。於是乃相與謀。詐爲受始皇詔。丞相立子胡亥爲太子。更爲書賜長子扶蘇曰。朕巡天下。禱祠名山諸神。以延壽命。今扶蘇與將軍蒙恬。將師數十萬。以屯邊十有餘年矣。

高乃ち胡亥に報じて曰く、臣請ふ、太子の明命を奉じて以て丞相に報ぜん。丞相斯敢へて令を奉ぜざらんやと。是に於て乃ち相與に謀り、詐りて始皇の詔を受くとなし、丞相子胡亥を立てて太子となし、更めて書を僞りて長子扶蘇に賜ひて曰く、朕天下を巡り、名山諸神を禱祠し、以て壽命を延ぶ。今扶蘇將軍蒙恬と師數十萬を將ゐ、以て邊に屯すること十有餘年なり。進みて前む能はず、士卒多く耗し、尺寸の功なし。乃ち反つて數〻上書して直言し、我が爲す所を誹謗す。罷め歸りて太子となるを得ざるを以て日夜怨望す。扶蘇人の子となり、不孝なり。夫れ劍を賜ひて以て自裁せしめよ。將軍恬扶蘇と外に居りて匡正せず。宜しく其の謀を知るべし。人臣となりて不忠なり。其れ死を賜ひ、兵を以て裨將王離に屬せしめよと。其の書を封ずるに皇帝の璽を以てし、胡亥の客を遣はして書を奉じて扶蘇に上郡に賜はしむ。使者至り書を發す。扶蘇泣きて內舍に入り、

聞聖人遷徙無レ常。就レ變而從レ時。見レ末而知レ本。觀レ指而覩レ歸。物固有レ之。安得二常法一哉。方今天下之權命。懸二於胡亥一。高能得レ志焉。且夫從レ外制レ中謂二之惑一。從レ下制レ上謂二之賊一。故秋霜降者草花落。水搖動者萬物作。此必然之效也。君何見之晚。斯曰。吾聞晉易二太子一。三世不レ安。齊桓兄弟爭レ位。身死爲レ戮。紂殺二親戚一。不レ聽二諫者一。國爲二丘墟一。遂危二社稷一。三者逆レ天。宗廟不二血食一。斯其猶人哉。安足レ爲レ謀。高曰。上下合同。可二以長久一。中外若レ一。事無二表裏一。君聽二臣之計一。卽長有二封侯一。世世稱レ孤。必有二喬松之壽一。孔墨之智一。今釋レ此而不レ從。禍及二子孫一。足三以爲二寒心一。善者因レ禍爲レ福。君何處焉。斯乃仰レ天

を危くす。三者は天に逆らひて宗廟血食せず。斯其れ猶ほ人なるかな。安んぞ謀をなすに足らんやと。高曰く、上下合同し、以て長久なる可し。中外一の若くにして事に表裏なし。君臣の計を聽かば卽ち長く封侯を有ち、世世孤と稱して、必ず喬松の壽、孔墨の智あらん。今此を釋てて從はずんば禍子孫に及はん。以て寒心をなすに足る。善者は禍に因りて福となす。君何れにか處ると。斯乃ち天を仰ぎて歎じ、涙を垂れて太息して曰く、嗟乎獨り亂世に遭ふ。既に以て死する能はず。安んか命を託せんやと。是に於て斯乃ち高に聽く。

(一) 旨意を觀て歸著する所を豫め見拔く (二) 權力命令 (三) 冰泮けて搖動するをいふ、是れ春時にして萬物皆生ずるなり (四) 申生を廢して奚齊を立てしをいふ (五) 小白と公子糾とをいふ (六) 比干を殺し箕子を囚へしをいふ (七) 或今日猶これ人なり、人道順を守りて豈能く逆謀をなさんや

高曰。安可レ危也。危可レ安也。安危不レ定。何以貴レ聖。斯曰。斯上蔡閭巷布衣也。上幸擢爲二丞相一。封爲二通侯一。子孫皆至二尊位重祿一者。故將下以二存亡安危一屬上臣也。豈可レ負哉。夫忠臣不下避レ死而庶幾上。孝子不二勤勞而見一レ危。人臣各守二其職一而已矣。君其勿二復言一。將レ令二斯得一レ罪。高曰。蓋

高曰く、安きも危かる可きなり。危きも安かる可きなり。安危定まらずんば何を以てか聖を貴ばんと。斯曰く、斯は上蔡の閭巷の布衣なり。上幸に擢でて丞相となし、封じて通侯となし、子孫皆尊位重祿に至る者は、故將に存亡安危を以て臣に屬せんとすればなり。豈負く可けんや。夫れ忠臣は死を避けて庶幾せず、孝子は勤勞して危きを見ず。人臣各〻其の職を守るのみ。君夫れ復言ふこと勿れ。將に斯をして罪を得しめんと。高曰く、蓋し聞く、聖人は遷徙して常なく、變に就きて時に從ひ、末を見て本を知り、指を觀て歸を觀る。物固より之あり。安んぞ常法を得んや。方今天下の(一)權命(二)胡亥に懸る。高能く志を得たり。且つ夫れ外より中を制する之を惑と謂ひ、下より上を制する之を賊と謂ふ。故に秋霜降れば草花落ち、(三)水搖動すれば萬物作る。此れ必然の效なり。君何ぞ見ることの晩きやと。斯曰く、吾聞く、(四)晉太子を易へて三世安からず。(五)齊桓兄弟位を爭ひて身死して戮せらる。(六)紂親戚を殺し、諫者に聽かずして國丘墟となり、遂に社稷

孰與蒙恬。功高孰與蒙恬。謀遠不失孰與蒙恬。無怨於天下孰與蒙恬。長子舊而信之孰與蒙恬。斯曰。此五者皆不及蒙恬。而君責之何深也。高曰。高固內官之廝役也。幸得以刀筆之文進入秦宮。管事二十餘年。未嘗見秦免罷丞相功臣有封及二世者也。卒皆以誅亡。皇帝二十餘子。皆君之所知。長子剛毅而武勇。信人而奮士。即位必用蒙恬爲丞相。君侯終不懷通侯之印歸於鄉里明矣。高受詔教習胡亥。使學以法事數年矣。未嘗見過失。慈仁篤厚。輕財重士。辯於心而詘於口。盡禮敬士。秦之諸子。未有及此者。可以爲嗣。君計而定之。斯曰。君其反位。斯奉主之詔。聽天之命。何慮之可定也。

相となさん。君侯終に通侯の印を懷きて鄉里に歸らざらんこと明かなり。高詔を受けて胡亥を教習し、(三)學ばしむるに法事を以てすること數年なり。未だ嘗て過失を見ず。慈仁篤厚、財を輕んじ、士を重んじ、心に辯じて口に詘し、(六)禮を盡し士を敬す。秦の諸子、未だ此に及ぶ者あらず。以て嗣となす可し。君計りて之を定めよと。斯曰く、君其れ位に反れ、斯、主の詔を奉じて天の命を聽かん。何の慮かこれ定むべけんやと。

(一) 舊知 (二) 後宮の小吏 (三) 古昔竹の簡を削りて事を記したる頃は文字を書くに刀と筆とを用ひたり、刀筆は筆寫をする小吏の事務 (四) 人民に信じられ士氣を奮はす人 (五) 列侯 (六) 屈、辭讓して人に屈す

相謀。恐事不能成。臣請爲子與丞相斯謀之。高乃謂丞相斯曰。上崩賜長子書。與喪會咸陽而立爲嗣。書未行。今上崩未有知者也。所賜長子書及符璽皆在胡亥所。定太子在君侯與高之口耳。事將何如。斯曰。安得亡國之言。此非人臣所當議也。高曰。君侯自料能

と之を謀らんと。高乃ち丞相斯に謂ひて曰く、上崩じ、長子に書を賜ひて喪と咸陽に會して立ちて嗣となれと。書未だ行かず。今上崩じて未だ知る者あらざるなり。長子に賜ふ所の書及び符璽皆胡亥の所にあり。太子を定むるは君侯と高との口にあるのみ。事將に何如せんとすと。斯曰く、安んぞ亡國の言を得ん。此れ人臣の當に議すべき所に非ざるなりと。高曰く、君侯自ら料るに能蒙恬と孰與ぞや。功高きこと蒙恬と孰與ぞや。遠きを謀りて失せざること蒙恬と孰與ぞや。天下に怨なきこと蒙恬と孰與ぞや。長子の舊(一)として之を信ずること蒙恬と孰與ぞやと。斯曰く、此の五者は皆蒙恬に及ばず。而るに君之を責むること何ぞ深きやと。高曰く、高は固と内官(二)の廁役なり。幸に刀筆(三)の文を以て秦宮に入ることを得、事を管すること二十餘年、未だ嘗て秦の免罷せし丞相功臣の封二世に及ぶある者を見ず。卒に皆以て誅亡せらる。皇帝の二十餘子は皆君の知る所、長子剛毅にして武勇(四)、信人にして奮士なり。位に卽かば必ず蒙恬を用ひて丞

見レ臣二於人一。制レ人與レ見レ制二於人一。豈可二同レ日道一哉。胡亥曰。廢レ兄而立レ弟。是不義也。不レ奉二父詔一而畏レ死。是不孝也。能薄而材譾。彊因二人之功一。是不能也。三者逆レ德。天下不レ服。身殆傾危。社稷不二血食一。高曰。臣聞。湯武殺二其主一。天下稱レ義焉。不レ爲二不忠一。衞君殺二其父一。而衞國載二其德一。孔子著レ之。不レ爲二不孝一。夫大行不二小謹一。盛德不レ辭レ讓。鄉曲各有レ宜。而百官不レ同レ功。故顧レ小而忘レ大。後必有レ害。狐疑猶豫。後必有レ悔。斷而敢行。鬼神避レ之。後有レ成レ功。願子遂レ之。胡亥喟然歎曰。今大行未レ發。喪禮未レ終。豈宜下以二此事一干中丞相上哉。趙高曰。時乎時乎。間不レ及レ謀。贏レ粮躍レ馬。唯恐レ後レ時。胡亥既然二高之言一。高曰。不下與二丞

豈宜しく此の事を以て丞相を干すべけんやと。趙高曰く、時なるかな、時なるかな。(六)間謀るに及ばず。粮を贏み(七)馬を躍らして、唯ゞ時に後れんことを恐ると。

胡亥既に高の言を然りとす。

(一) 衣車の如く窓牖あり、之を閉づれば溫、之を開けば涼なり、臥しながら乘る車にして、後世は以て屍を乘する喪車として用ふ (二) 淺 (三) 祭の時血のつきたる牛羊の類を神に供へ、神之を食ふの義、社稷血食せずは社稷の神に犧牲を供ふるものなく、祭祀絶ゆる義にて子孫の滅亡するをいふ (四) 觀に通ず (五) 天子の崩御、登遐、大行は行いて歸らざる義と、或は大なる行は諡を得るをいふと (六) 今方に時機にあたれり、上崩じて未だ喪を發せざる時今は方に事を謀るべき時なり (七) 贏は包むなり

高曰く、丞相と謀らずんば事成る能はざるを恐る。臣請ふ、子の爲めに丞相

蘇璽書。而謂公子胡亥曰。上崩無詔封王諸子。而獨賜長子書。長子至即立爲皇帝。而子無尺寸之地。爲之奈何。胡亥曰。固也。吾聞之。明君知臣。明父知子。父捐命不封諸子。何可言者。趙高曰。不然。方今天下之權。存亡在子與高及丞相耳。願子圖之。且夫臣人與

を知ると。父命を捐てて諸子を封せず、何ぞ言ふべき者ならんと。趙高曰く、然らず。方今天下の權、存亡子と高及び丞相とに在るのみ。願くは子之を圖れ。且つ夫れ人を臣とすると人に臣とせらるゝと、人を制すると人に制せらるゝと、豈日を同じくして道ふべけんやと。胡亥曰く、兄を廢して弟を立つる、是れ不義なり。父の詔を奉ぜずして死を畏る、是れ不孝なり。能薄くして材譾く、(二)彊ひて人の功に因る、是れ不能なり。三者德に逆らひ、天下服せず、身殆んど傾危し、(三)社稷血食せずと。高曰く、臣聞く、湯武其の主を殺して、天下義と稱す。不忠となさず、衞君其の父を殺して、衞國其の德を載く。(四)孔子之を著して不孝となさず。夫れ大行は小謹ならず、盛德は辭讓せず。鄕曲各ゝ宜しきありて、百官功を同じくせず。故に小を顧みて大を忘れば後必ず害あり、狐疑猶豫せば後必ず悔あり、斷じて敢行せば鬼神も之を避けて後必ず功を成すあらん。願くは子之を遂げよと。胡亥喟然として歎じて曰く、今大行(五)未だ發せず。喪禮未だ終らず。

遂擢至ㇾ此。當今人臣之位。無下居二臣上一者上。可ㇾ謂二富貴極一矣。物極則衰。吾未ㇾ知ㇾ所ㇾ稅ㇾ駕也。始皇三十七年十月。行出二游會稽一。並二海上一北抵二琅邪一。丞相斯。中車府令趙高。兼二行符璽令事一皆從。始皇有二二十餘子一。長子扶蘇以二數直一諫ㇾ上一。上使ㇾ監二兵上郡一。蒙恬爲ㇾ將。少子胡亥愛。請ㇾ從。上許ㇾ之。餘子莫ㇾ從。其年七月。始皇帝至二沙丘一病甚。令三趙高爲ㇾ書。賜二公子扶蘇一曰。以ㇾ兵屬二蒙恬一。與ㇾ喪會二咸陽一而葬。書已封未ㇾ授二使者一。始皇崩。書及璽皆在二趙高所一。獨子胡亥。丞相李斯。趙高。及幸宦者五六人。知二始皇崩一。餘羣臣皆莫ㇾ知也。

吏賜暇を得て我が家に歸ること（六）黎民（七）獨を脱するは獨を解くといふに同じく休息するの意、今日富貴已に極れり、然れども未だ向後の吉凶の如何を知らずとなり

李斯以ㇾ爲三上在ㇾ外崩無二眞太子一。故祕ㇾ之。置二始皇居二轀輬車中一。百官奏ㇾ事。上ㇾ食如ㇾ故。宦者輙從二轀輬車中一可二諸奏事一。趙高因留下所ㇾ賜二扶

李斯以て上外に在りて崩じ眞の太子なしと爲す。故に之を祕し、始皇を置きて轀輬車の中に居き、百官事を奏し、食を上つること故の如くす。宦者輒ち轀輬車の中より諸々の奏事を可す。趙高因りて扶蘇に賜ふ所の璽書を留めて、公子胡亥に謂ひて曰く、上崩じて詔の諸子を封王するなし。而して獨り長子にのみ書を賜ふ。長子至らば卽ち立ちて皇帝となり、而して子尺寸の地無からん。之を爲すこと奈何と。胡亥曰く、固よりなり。吾之を聞く、明君は臣を知り、明父は子

又巡狩。外攘二四夷一。斯皆有レ力焉。斯長男由爲二三川守一。諸男皆尙二秦公主一。女悉嫁二秦諸公子一。三川守李由告レ歸咸陽一。李斯置二酒於家一。百官長皆前爲レ壽。門廷車騎以レ千數。李斯喟然而歎曰。嗟乎。吾聞二之荀卿一曰。物禁二太盛一。夫斯乃上蔡布衣。閭巷之黔首。上不レ知二其駑下一

嗟乎吾之を荀卿に聞く、曰く、物太だ盛なるを禁ずと。夫れ斯は乃ち上蔡の布衣、閭巷の黔首(六)なり。上其の駑下を知らず。遂に擢でて此に至る。當今人臣の位、臣が上に居る者無し。富貴の極と謂ふべし。物極まれば衰ふ。吾未だ駕(七)を稅する所を知らざるなりと。始皇の三十七年十月行き出でて會稽に游ぶ。海上に並びて北琅邪に抵る。丞相斯、中車府の令趙高符璽令の事を兼行す。皆從ふ。始皇二十餘子あり。長子扶蘇數〻上を直諫するを以て、上、兵を上郡に監せしめ、蒙恬將となる。少子胡亥愛せられ、從はんとを請ふ。上之を許す。餘子從ふ莫し。其の年七月始皇帝沙丘に至り、病甚し。趙高をして書を爲りて公子扶蘇に賜はしめて曰く、兵を以て蒙恬に屬し、喪と咸陽に會して葬れと。書已に封じて未だ使者に授けざるに、始皇崩ず。書及び璽皆趙高の所にあり。獨り子胡亥丞相李斯趙高及び幸宦者五六人のみ始皇の崩ぜしを知り、餘の羣臣皆知る莫し。

(一) 沒收す　(二) 六國制令同じからず、今始皇之を同じからしむ　(三) 天子の女　(四) 天子の女に配偶す　(五) 官

其辭。乃上書曰。古者天下散亂。莫二能相一一。是以諸侯並作。語皆道レ古以害レ今。飾二虛言一以亂レ實。人善三其所二私學一。以非三上所二建立一。今陛下并二有天下一。辨二白黑一而定二一尊一。而私學乃相與非二法教之制一。聞二令下一。即各以二其私學一議レ之。入則心非。出則巷議。非レ主以爲レ名。異レ趣以爲レ高。率二群下一以造レ謗。如レ此不レ禁。則主勢降二乎上一。黨與成二乎下一。禁レ之便。臣請諸有二文學詩書百家語一者。蠲除去レ之。令到滿二三十日一弗レ去。黥爲二城旦一。所レ不レ去者。醫藥卜筮種樹之書。若有レ欲レ學者。以レ吏爲レ師。

自帝の威勢落ち下る (二) 下にありては黨徒の勢ひ成立せん (三) 蠲は除なり (三) 面に傷つけてその中に墨を入るる刑罰 (四) 罪の名、城を築く役に服す、四年の刑

始皇可二其議一。收二去詩書百家之語一。以愚二百姓一。使三天下無二以レ古非一レ今。明二法度一。定二律令一。皆以二始皇一起。同二文書一。治二離宮別館一。周二徧天下一。明年。

始皇其の議を可とし、詩書百家の語を收去し、以て百姓を愚にし、天下をして古を以て今を非ることなからしむ。法度を明かにし、律令を定むる、皆始皇を以て起る。文書を同じくし、離宮別館を治めて天下に周徧す。明年又巡狩し、外四夷を攘ふ。(二)斯皆力あり。斯の長男由三川の守となり、諸男皆秦の公主(三)に尙し(四)、女は悉く秦の諸公子に嫁す。三川の守李由咸陽に告歸(五)す。李斯家に置酒す。百官の長皆前みて壽をなし、門廷の車騎千を以て數ふ。李斯喟然として歎じて曰く、

威德。齊人淳于越進諫曰。臣聞之。殷周之王千餘歲。封子弟功臣。自爲支輔。今陛下有海內。而子弟爲匹夫。卒有田常六卿之患。臣無輔弼。何以相救哉。事不師古。而能長久者非所聞也。今青臣等又面諛以重陛下過。非忠臣也。始皇下其議丞相。丞相謬其說絀

す。虛言を飾り以て實を亂す。人其の私學する所を善しとし、以て上の建立する所を非る。今陛下天下を幷有し、白黑を辨じて(八)一尊を定む。(九)而して私學乃ち相與に法敎の制を非る。令下るを聞けば卽ち各ゝ其の私學を以て之を議す。入りては則ち心に非り、出でては則ち巷に議す。主を非りて以て名となし、趣を異にして以て高しとなし、羣下を率ゐて以て謗を造す。此の如くにして禁ぜざれば則ち主勢上に降り、(一〇)黨與下に成らん。(一一)之を禁ずるは便なり。臣請ふ諸ゝの文學詩書百家の語ある者は蠲除して(一二)之を去らん。令到りて三十日に滿ちて去らずんば黥し(一三)て城旦となさん。(一四)去らざる所の者は醫藥卜筮種樹の書なり。若し學ばんと欲する者あれば、吏を以て師となさんと。

(一) 秦代の官名、刑事を司どる　(二) 宰相をいふ、丞は承なり、相は輔くるなり、君主の意を承け之を輔くるの義
(三) 銷は金屬を鎔かす　(四) 支持し輔佐するもの　(五) 晉の智氏、范氏、仲行氏、韓氏、魏氏、趙氏　(六) 面前にて媚び諛ふ　(七) 黜　(八) 前時國毎に政を異にし家毎に俗を殊にし人人私語を造りて其の眞を辨ずるなし、今乃ち白黑を分別す　(九) 秦始皇六國を併せて天下を定む、海內共に一帝を尊立す故に一尊を定むといふ　(一〇) 上に於ては

秦王乃除逐客之令。復李斯官。卒用其計謀。官至廷尉。二十餘年。竟并天下。尊主爲皇帝。以斯爲丞相。夷郡縣城。銷其兵刃。示不復用。使秦無尺土之封。不立子弟爲王。功臣爲諸侯者。使後無戰攻之患。始皇三十四年。置酒咸陽宮。博士僕射周靑臣等。頌稱始皇

秦王乃ち逐客の令を除き、李斯の官を復し、卒に其の計謀を用ふ。官廷尉(一)に至る。二十餘年にして竟に天下を幷す。主を尊びて皇帝となし、斯を以て丞相(二)となす。郡縣の城を夷げ、其の兵刃(三)を銷して復用ひざることを示す。秦をして尺土の封なく、子弟を立てて王となし、功臣を諸侯と爲さざらしめしは、後に戰攻の患なからしむるなり。始皇の三十四年、咸陽宮に置酒す。博士僕射周靑臣等始皇の威德を頌稱す。齊人淳于越進み諫めて曰く、臣之を聞く、殷周の王たること千餘歲、子弟功臣を封じて自ら支輔(四)となせり。今陛下海內を有ちて子弟匹夫たり。卒かに田常六卿(五)の患ある、臣輔弼なくんば何を以てか相救はんや。事古を師とせずして能く長久なるものは聞く所に非ざるなり。今靑臣等又面諛し以て陛下の過を重ぬ。忠臣に非ざるなりと。始皇其の議を丞相(六)に下す。丞相其の說を謬れりとし、其の辭を絀く(七)。乃ち上書して曰く、古は天下散亂し、能く相一なる莫し。是を以て諸侯竝び作る。語皆古を道ひ、以て今を害

今棄擊甕叩缶而就鄭衛。退彈箏而取昭虞。若是者何也。快意當前。適觀而已矣。今取人則不然。不問可否。不論曲直。非秦者去。爲客者逐。然則是所重者。在乎色樂珠玉。而所輕者。在乎人民也。此非所以跨海內。制諸侯之術也。臣聞地廣者粟多。國大者人衆。兵彊則士勇。是以太山不讓土壤。故能成其大。河海不擇細流。故能就其深。王者不却衆庶。故能明其德。是以地無四方。民無異國。四時充美。鬼神降福。此五帝三王之所以無敵也。今乃棄黔首以資敵國。却賓客以業諸侯。使天下之士。退而不敢西向。裹足不入秦。此所謂藉寇兵而齎盜糧者也。夫物不產於秦。可寶者多。士不產於秦。而願忠者衆。今逐客以資敵國。損民。以益讎。內自虛而外樹怨於諸侯。求國無危。不可得也。

秦に産せずして寶とす可き者多し。士は秦に産せずして忠を願ふ者衆し。今客を逐ひ、以て敵國を資け、民を損して以て讎を益し、內自ら虛しくして外怨を諸侯に樹つ。國危きことなきを求むるも得可からざるなりと。

（一）駃馬なり　（二）丹青は染料なり、宮室を塗つて彩色をなす　（三）後列、衆妾の居る所　（四）隨珠、隨も宛も漢水に近く其地より產する珠をいふ、隨珠を以て裝ひたる簪　（五）璣は珠の圓からざるもの、珥は瑱なり、耳たまなり、傅は附なり、璣を附けたる耳玉　（六）齊の東阿縣より出す絹帛　（七）其の土の俗に隨ひて閑雅に變ずるをいふ　（八）みめよく艶めかしく裝ひ飾る　（九）女子の幽閒貞靜の德を具ふるをいふ　（一〇）甕は瓶の類なり、缶は瓦器なり、秦人之を鼓して樂の調節をなす　（一一）歌ふ聲　（一二）昭は韶に作るべし、韶虞武象は聖人の作りし正樂　（一三）王者は衆庶の言を卻けず　（一四）人民、黎民

不爲采。所以飾後宮、充下陳、娛心意、說耳目者、必出於秦、然後可。則是宛珠之簪、傳璣之珥、阿縞之衣、錦繡之飾、不進於前、而隨俗雅化、佳冶窈窕趙女、不立於側也。夫擊甕叩缻、彈箏搏髀、而歌呼嗚嗚快耳目者、眞秦之聲也。鄭衞桑間、昭虞武象者、異國之樂也。

は異國の樂なり。今甕を擊ち、缻を叩くことを棄てて鄭衞に就き、箏を彈ずることを退けて昭虞を取る。是の若きものは何ぞや。快意前に當り、觀るに適するのみ。今人を取るは則ち然らず、可否を問はず、曲直を論ぜず、秦に非ざるものは去り、客たる者は逐ふ。然らば則ち是れ重んずる所の者は色樂珠玉に在りて、輕んずる所の者は人民に在るなり。此れ海內に跨りて諸侯を制する所以の術に非ざるなり。臣聞く、地廣きものは粟多く、國大なるものは人衆く、兵彊ければ則ち士勇むと。是を以て太山は土壤を讓らず、故に能く其の大を成す。河海は細流を擇ばず、故に能く其の深きを就す。王者は衆庶を却けず、故に能く其の德を明かにす。是を以て地四方なく、民異國なし。(一三)四時美を充て、鬼神福を降す。此れ五帝三王の敵無き所以なり。今乃ち黔首を棄てて(一四)以て敵國を資し、賓客を却けて以て諸侯を業け、天下の士をして退きて敢へて西に向はしめず、足を裹みて秦に入らざらしむ。此れ所謂る寇に兵を藉し、盜に糧を齎す者なり。夫れ物は

計。拔二三川之
地。西幷二巴蜀一。
北收二上郡一。南取二漢中一。包二九夷一。制二鄢郢一。東據二成皐之險一。割二膏腴之壤一。遂散二六國之從一。使二之西
面事一レ秦。功施到レ今。昭王得二范睢一。廢二穰侯一。逐二華陽一。彊二公室一。杜二私門一。蠶二食諸侯一。使三秦成二帝業一。此
四君者。皆以二客之功一。由レ此觀レ之。客何負二於秦一哉。向使二四君卻レ客而不レ內。疏レ士而不レ用。是使下
國無二富利之實一。而秦無中彊大之名上也。今陛下致二昆山之玉一。有二隨和之寶一。垂二明月之珠一。服二太
阿之劍一。乘二纖離之馬一。建二翠鳳之旗一。樹二靈鼉之鼓一。此數寶者。秦不レ生二一焉。而陛下說レ之何也。

㊆翡翠の羽を以て鳳凰の形に作りて飾れる旗　㊇鼉の皮を以て張りし太鼓

必二秦國之所一レ生。然後可。則
是夜光之璧
不レ飾二朝廷一。犀
象之器不レ爲二
玩好一。鄭衞之
女不レ充二後宮一。
而駿良駃騠。
不レ實二外廐一。江
南金錫不レ爲レ
用。西蜀丹青

秦國の生ずる所を必として然る後可ならば、則ち是れ夜光の璧朝廷に飾らず、犀象の器玩好と爲さず、鄭衞の女後宮に充てずして、駿良駃騠(一)外廐に實てず、江南の金錫用を爲さず、西蜀の丹靑(二)采をなさず。後宮を飾り、下陳(三)に充て、心意を娛しめ、耳目を說ばす所以の者、必ず秦より出でて然る後可ならば、則ち是れ宛珠(四)の簪、傅璣(五)の珥、阿縞の衣(六)、錦繡の飾、前に進めず、俗に隨ひて雅化し(七)、佳冶(八)窈(九)窕たる趙女、側に立たざるなり。夫の甕を擊ち(一〇)、缶を叩き、箏を彈じ、髀を搏ちて歌呼(一一)嗚嗚して耳目を快くするものは眞に秦の聲なり。鄭衞・桑間・昭虞・武象(一二)

爲レ過矣。昔繆公求レ士。西取二由余於戎一。東得二百里奚於宛一。迎二蹇叔於宋一。求二丕豹公孫支於晉一。此五者。不レ產二於秦一。而繆公用レ之幷レ國二十。遂霸二西戎一。孝公用二商鞅之法一。移レ風易レ俗。民以殷盛。國以富彊。百姓樂レ用。諸侯親服。獲二楚魏之師一。擧レ地千里。至レ今治彊。惠王用二張儀之

なり。惠王張儀の計を用ひ、三川の地を拔き、西巴蜀を幷せ、北上郡を攻め、南漢中を取り、九夷を包ね、鄢郢を制し、東成皐の險に據り、膏腴の壤を割き、遂に六國の從を散じ、之をして西面して秦に事へしむ。功施して今に到れり。昭王范雎を得て穰侯を廢し、華陽を逐ひて、公室を彊くし、私門を杜ぎ、諸侯を蠶食し、秦をして帝業を成さしむ。此の四君は皆客の功を以てす。此に由りて之を觀れば、客何ぞ秦に負かんや。向に四君をして客を却けて內れず、士を疏んじて用ひざらしめば、是れ國に富利の實なくして秦に彊大の名無からしむるなり。今陛下(三)昆山の玉を致し、(四)隨和の寶を有ち、明月の珠を垂れ、(五)太阿の劍を服し、(六)纖離の馬に乘り、(七)翠鳳の旗を建て、(八)靈鼉の鼓を樹つ。此の數寶は秦一も生ぜず。而るに陛下之を說ぶは何ぞや。

㊀ 渠を作りて北山に傍ひて東洛に注ぐ二百里の間田に漑ぐ、注漑渠を作りて人工を費さしめて東伐せざらしむるなり ㊁ 丕はる人々の中にあり ㊂ 昆岡は于闐國の東北四百里にあり玉を產出す ㊃ 昔時隨侯の大蛇より得たる徑寸の明珠隨珠といふものと、卞和の璧と、始皇以て國に傳ふの寶とす ㊄ 蘇秦列傳に出づ ㊅ 駿馬の名

賢。由二竈上騒除一。足下以滅二諸侯一。成二帝業一。爲中天下一統上。此萬世之一時也。今怠而不二急就一。諸侯復彊。相聚約レ從。雖レ有二黄帝之賢一。不レ能レ幷也。秦王乃拜レ斯爲二長史一。聽二其計一。陰遣二謀士一。齎二持金玉一。以游二說諸侯一。諸侯名士。可二下以レ財者。厚遺結レ之。不レ肯者利劍刺レ之。離二其君臣之計一。秦王乃使三其良將隨二其後一。

秦王拜レ斯爲二客卿一。會韓人鄭國來間レ秦。以作二注漑渠一。已而覺。秦宗室大臣。皆言二秦王一曰。諸侯人來事レ秦者。大抵爲二其主一游二間於秦一耳。請一切逐レ客。李斯議亦在二逐中一。斯乃上書曰。臣聞吏議レ逐レ客。竊以

秦王斯を拜して客卿と爲す。會〻韓人鄭國來りて秦を間し、以て注漑渠を作る。已にして覺はる。秦の宗室大臣皆秦王に言ひて曰く、諸侯の人の來りて秦に事ふる者は、大抵其の主の爲めに秦に游間するのみ。請ふ一切に客を逐はんと。李斯議せられて亦逐中にあり。斯乃ち上書して曰く、臣聞く、吏、客を逐ふことを議すと。竊に以て過てりとなす。昔繆公士を求めて、西、由余を戎に取り、東、百里奚を宛に得、蹇叔を宋に迎へ、丕豹公孫支を晉に求む。此の五者は秦に產せず。而して繆公之を用ひて國を幷すること二十、遂に西戎に覇たり。孝公商鞅の法を用ひ、風を移し、俗を易へ、民以て殷盛に、國以て富彊に、百姓用を樂しみ、諸侯親服し、楚魏の師を獲、地を擧ぐること千里。今に至るまで治彊

故詬莫大於卑賤。而悲莫甚於窮困。久處卑賤之位。困苦之地。非世而惡利。自託於無爲。此非士之情也。故斯將西說秦王矣。至秦。會莊襄王卒。李斯乃求爲秦相文信侯呂不韋舍人。不韋賢之。任以爲郎。李斯因以得說。說秦王曰。胥人者。去其幾也。成大功者。在因瑕釁而遂忍之。昔者秦穆公之霸。終不東并六國者何也。諸侯尚衆。周德未衰。故五伯迭興。更尊周室。自秦孝公以來。周室卑微。諸侯相兼。關東爲六國。秦之乘勝。役諸侯。蓋六世矣。今諸侯服秦。譬若郡縣。夫以秦之彊。大王之

く、相聚りて從を約せば、黃帝の賢ありと雖も、并する能はざるなりと。秦王乃ち斯を拜して長史となし其の計を聽き、陰かに謀士を遣し、金玉を齎持して、以て諸侯に游說せしむ。諸侯の名士、下す可き者は厚く遺りて之に結び、肯ぜざる者は、利劍もて之を刺して、其の君臣の計を離す。秦王乃ち其の良將をして其の後に隨はしむ。

(一) 貲 (二) 廡は軒、堂下の周屋、廊なり (三) 諸侯皆天下の王者たらんとして爭ふ時游說をなすの士諸侯の國事を主どれり (四) 秋季に萬物成熟す、諸侯彊を爭ふ時游說者亦成熟して收穫するの時たり (五) 禽獸といふが如し、禽鹿肉を視るは、卑賤の者游說して己が計をなさずんば人にして人にあらず、禽獸肉を視て之を食はんとするが如きのみ、人面にして彊忍して行ふのみ、禽獸と何ぞ擇はん (六) 非は誹なり、譏るなり (七) 士の實情にあらず、力之を致す能はざるなり (八) 胥吏小人といふが如し (九) 幾は機なり、動の微なり、君子は機を見て事をなして日を終ふるを俟たず、小人は動微の會を知らず、故に每に時を失ふ、去るは失ふの意 (一〇) 函谷關より東 (一一) 秦孝公、惠王、文王、武王、昭王、孝文王、莊襄王 (一二) 掃除

荀卿。學帝王之術。學已成。度楚王不足事。而六國皆弱。無可爲建功者。欲西入秦。辭於荀卿曰。斯聞得時無怠。今萬乘方爭時。游者主事。今秦王欲吞天下稱帝而治。此布衣馳騖之時。而游說者之秋也。處卑賤之位。而計不爲者。此禽鹿視肉。人面而能彊行者耳。

行する者のみ。故に詬は卑賤より大なるは莫し。悲しみは窮困より甚しきは莫し。久しく卑賤の位、困苦の地に處り、世を非り(六)、利を惡み、自ら無爲に託す。此れ士(七)の情に非ざるなり。故に斯將に西秦王に說かんとすと。秦に至れば會〻莊襄王卒す。李斯乃ち求めて秦の相文信侯呂不韋の舍人(八)となる。不韋之を賢とし、任じて以て郎となす。李斯因りて以て說くことを得たり。秦王に說きて曰く、胥人は其の幾(九)を去る。大功を成す者は瑕釁に因りて遂に之を忍ぶに在り。昔し秦の穆公の霸たりしも、終に東六國を并せざりしものは何ぞや。諸侯尚ほ衆く、周の德未だ衰へず。故に五伯迭に興り、更〻周室を尊ぶ。秦の孝公より以來周室卑微にして諸侯相兼ね、關(一〇)東六國となる。秦の勝に乘じ、諸侯を役すること蓋し六世(一一)なり。今諸侯秦に服すること譬ふれば郡縣の若し。夫れ秦の彊と大王の賢とを以てして由ほ竈上の騷除(一二)のごとし。以て諸侯を滅し、帝業を成し、天下一統をなすに足る、此れ萬世の一時なり。今怠りて急に就さず、諸侯復た彊

李斯者。楚上蔡人也。年少時爲郡小吏。見吏舍厠中鼠食不潔。近人犬數驚恐之。斯入倉。觀倉中鼠食積粟。居大廡之下。不見人犬之憂。於是李斯乃歎曰。人之賢不肖。譬如鼠矣。在所自處耳。乃從

卷八十七

李斯列傳第二十七

李斯は楚の上蔡の人なり。年少き時郡の小吏となる。吏舍の厠中(一)の鼠、不潔を食ひ、人犬に近づき數〻之に驚恐するを見る。斯倉に入り、倉中の鼠積粟を食ひ、(二)大廡の下に居りて人犬の憂を見ざるを觀る。是に於て李斯乃ち歎じて曰く、人の賢不肖は譬ふれば鼠の如し。自ら處る所に在るのみと。乃ち荀卿に從ひて帝王の術を學ぶ。學已に成る。度るに楚王事ふるに足らずして、六國皆弱く、爲めに功を建つべき者なし。西秦に入らんと欲し、荀卿に辭して曰く、斯聞く、時を得ば怠ること無かれと。今萬乘(三)方に爭ふ時、游者事を主どる。今秦王天下を呑みて帝と稱して治めんと欲す。此れ布衣馳騖の時にして游説者(四)の秋なり。卑賤の位に處りて計爲さざる者は此れ禽鹿肉(五)を視、人面にして能く彊

太史公曰。世言荊軻其稱二太子丹之命一。天雨レ粟。馬生レ角也。太過。又言荊軻傷二秦王一。皆非也。始公孫季功董生。與二夏無且一游。具知二其事一。爲レ余道レ之如レ是。自二曹沫一至二荊軻一五人。此其義或成。或不レ成。然其立レ意較然。不レ欺二其志一。名垂二後世一。豈妄也哉。

太史公曰く、世に言ふ荊軻其の太子丹の命を稱するや、天粟を雨らし、馬角を生ずと。太だ過てり。又言ふ荊軻秦王を傷つくと。皆非なり。始め公孫季功董生、夏無且と游び、具に其の事を知る。余が爲めに之を道ふこと是の如し。曹沫より荊軻に至る五人、此れ其の義或は成り、或は成らす。然れども其の意を立つること較然(二)として其の志を欺かず、名後世に垂る。豈妄ならんや。

(一) 燕太子丹秦に質たりしとき歸らんことを求む、秦王曰く、烏頭白く、馬角を生ぜば許さんと、丹天を仰ぎ歎ず、即ち烏頭白く、馬角を生ずと、風俗通論衡等にいへり、蓋しその說をこゝに附會する也　(二) 明白なるさま

筑。一坐稱ㇾ善。賜ㇾ酒。而高漸離念。久隱畏約無ㇾ窮時。乃退出ニ其裝匣中筑與ニ其善衣ー。更ニ容貌ー而前。擧ㇾ坐客皆驚下與抗禮。以爲ニ上客ー。使ニ擊ㇾ筑而歌ー。客無下不ニ流涕而去ー者ㇾ上。宋子傳客ㇾ之。聞ニ於秦始皇ー。秦始皇召見。人有ニ識者ー。乃曰。高漸離也。秦皇帝惜ニ其善擊ㇾ筑。重赦ㇾ之。乃矐ニ其目ー。使ㇾ擊ㇾ筑。未ニ嘗不ㇾ稱ㇾ善。稍益近ㇾ之。高漸離乃以ㇾ鉛置ニ筑中ー。復進得ㇾ近。擧ㇾ筑朴ニ秦皇帝ー。不ㇾ中。於ㇾ是遂誅ニ高漸離ー。終身不ㇾ復近ニ諸侯之人ー。魯句踐已聞ニ荊軻之刺ニ秦王ー。私曰。嗟乎惜哉其不ㇾ講ニ於刺劍之術ー也。甚矣。吾不ㇾ知ㇾ人也。曩者吾叱ㇾ之。彼乃以ㇾ我爲ㇾ非ㇾ人也。

未だ嘗て善と稱せずんばあらず。稍く益〻之を近づく。高漸離乃ち鉛を以て筑中に置き、復た進みて近づくを得て、筑を擧げて秦皇帝を朴つ(一〇)。中らず。是に於て遂に高漸離を誅す。終身復た諸侯の人を近づけず。魯句踐已に荊軻の秦王を刺ししを聞き、私に曰く、嗟乎、惜しいかな。其の刺劍の術を講ぜざるや。甚しいかな、吾れ人を知らざるや。曩には吾之を叱せり。彼乃ち我を以て人に非ずとなししならんと。

(一) 庸は傭なり、保も傭はれ人なり、文雅人の周旋者をいふ (二) 宋子は縣名 (三) 徘徊 (四) 主人の家の左右の者 (五) 傭人 (六) 主人翁、父嫗を尊びていふ語 (七) 庸役して人に畏れ屈し貧賤窮約す (八) 同等の禮を以て對す (九) 馬屎を以て目を燻じて明を失はしむ (一〇) 擊つ

卒滅レ燕、虜二燕王喜一。其明年。秦幷二天下一。立レ號爲二皇帝一。於レ是秦逐二太子丹荊軻之客一。皆亡。高漸離變二名姓一。爲レ人庸保。匿作二於宋子一。久レ之作苦。聞二其家堂上客擊一レ筑。傍偟不レ能レ去。每出レ言曰。彼有レ善有二不善一。從者以告二其主一。曰。彼庸乃知レ音。竊言二是非一。家丈人召使二前擊一レ

其の明年秦天下を併せ、號を立てて皇帝となる。是に於て秦太子丹荊軻の客を逐ふ。皆亡ぐ。高漸離名姓を變じ、人の爲めに庸保し、(一)匿れて宋子(二)に作す。之を久しうして作して苦しむ。其の家の堂上に客の筑を擊つを聞き、傍偟(三)として去る能はず。每に言を出して曰く、彼善あり、不善ありと。(四)從者以て其の主に告げて曰く、彼の庸(五)は乃ち音を知り、竊かに是非を言ふと。家の丈(六)人召して前んで筑を擊たしむ。一坐善と稱して酒を賜ふ。而して高漸離念ふ、久しく隱れ畏(七)約して窮まる時なしと。乃ち退きて、其の裝匣中の筑と其の善衣とを出し、容貌を更めて前む。坐客を擧げて皆驚き下り與に抗禮(八)し、以て上客となし、筑を擊ちて歌はしむ。客流涕して去らざる者なし。宋子傳へて之を客とす。秦の始皇に聞す。秦の始皇召して見る。人識る者あり。乃ち曰く、高漸離なりと。秦皇帝其の善く筑を擊つを惜しみ、重ねて之を赦す。乃ち其の目を矐(九)し、筑を擊たしむ。

斷其左股。荊軻廢。乃引其七首。以擿秦王。不中。中銅柱。秦王復擊軻。軻被八創。軻自知事不就。倚柱而笑。箕倨以罵曰。事所以不成者。以欲生劫之必得約契。以報太子也。於是左右既前殺軻。秦王不怡者良久。已而論功。賞群臣及當坐者。各有差。而賜夏無且黃金二百鎰。曰。無且愛我。乃以藥囊提荊軻也。於是秦王大怒。益發兵詣趙。詔王翦軍以伐燕。十月而拔薊城。燕王喜太子丹等。盡率其精兵。東保於遼東。秦將李信追擊燕王急。代王嘉乃遺燕王喜書曰。秦所以尤追燕急者。以太子丹故也。今王誠殺丹獻之秦王。秦王必解。而社稷幸得血食。其後李信追丹。丹匿衍水中。燕王乃使使斬太子丹。欲獻之秦。秦復進兵攻之。後五年。秦

秦の將李信燕王を追擊すること急なり。代王嘉乃ち燕王喜に書を遺りて曰く、秦の尤も燕を追ふに急なる所以のものは、太子丹の故を以てなり。今王誠に丹を殺して、之を秦王に獻ぜば、秦王必ず解けて社稷幸に血食(一〇)するを得んと。其の後李信丹を追ふ。丹衍水の中に匿る。燕王乃ち使をして太子丹を斬らしめ、之を秦に獻ぜんと欲す。秦復兵を進めて之を攻む。後五年にして秦卒に燕を滅し、燕王喜を虜にす。

(一)鋒　(二)秦王の警衞の武官　(三)事急にして心あわてたるさま　(四)徒手にてうつ　(五)古へ帝劍は上長くして之を拔くに易からず、卽ち劍を背に推して前に短くして拔き易からしむるなり　(六)廢は墮なり。尻をつくなり　(七)擿つ　(八)兩足を投げ出して踞る、箕の形に似る故にいふ　(九)守る　(一〇)血祀、犧牲を供へて神に祀る、子孫又は國家が續くをいふ

上者。不得持尺寸之兵。諸郎中執兵皆陳殿下。非有詔召不得上。方急時。不及召下兵。以故荊軻乃逐秦王。而卒惶急無以擊軻。而以手共搏之。是時侍醫夏無且以其所奉藥囊。提荊軻也。秦王方環柱走。卒惶急不知所爲。左右乃曰。王負劍。負劍遂拔。以擊荊軻

して以て軻を撃つなくして手を以て共に之を搏つ。(四)是の時侍醫夏無且、其の奉ずる所の藥嚢を以て荊軻に提つ。秦王方に柱を環りて走り、卒に惶急にして爲す所を知らず。左右乃ち曰く、(五)王劍を負へと。劍を負ひて遂に拔き、以て荊軻を撃ち、其の左股を斷つ。荊軻廢し、(六)乃ち其の匕首を引き以て秦王に擿つ。(七)中らずして銅柱に中る。秦王復軻を撃つ。軻八創を被る。軻自ら事の就らざるを知り、柱に倚りて笑ひ、箕踞し、(八)以て罵りて曰く、事の成らざる所以のものは、以て生ながら之を劫かし必ず約契を得、以て太子に報ぜんと欲すればなりと。是に於て左右既に前みて軻を殺す。秦王怡ばざるもの良〻久し。已にして功を論じ、羣臣を賞し、及び坐に當する者各〻差あり。而して夏無且に黄金二百鎰を賜ひて曰く、無且我を愛し、乃ち藥嚢を以て荊軻に提てりと。是に於て秦王大に怒り益〻兵を發して趙に詣らしめ、王翦の軍に詔し、以て燕を伐ち。十月にして薊城を拔く。燕王喜太子丹等盡く其の精兵を率ゐ、東遼東に保す。(九)

縣。而得レ奉二守先王之宗廟一。恐懼不二敢自陳一。謹斬二樊於期之頭一。及獻二燕督亢之地圖一。函封。燕王拜二送於庭一。使三使以二聞大王一。唯大王命レ之。秦王聞レ之大喜。乃朝服。設二九賓一。見二燕使者咸陽宮一。荊軻奉二樊於期頭函一。而秦舞陽奉二地圖匣一。以レ次進。至レ陛。秦舞陽色變振恐。羣臣怪レ之。荊軻顧笑二舞陽一。前謝曰。北蕃蠻夷之鄙人。未三嘗見二天子一。故振慴。願大王少假二借之一。使レ得レ畢二使於前一。秦王謂レ軻曰。取二舞陽所レ持地圖一。軻既取レ圖奏レ之。秦王發レ圖。圖窮而七首見。因左手把二秦王之袖一。而右手持二七首一揕レ之。未レ至レ身。秦王驚自引而起。袖絕。拔レ劍。劍長操二其室一。時惶急。劍堅。故不レ可二立拔一。

ろに拔くべからず。

(一) 道祖神を祭りて送別の宴を設く　(二) 樂器の名　(三) 徵は五音の一、心より出で齒を合せ吻を開きて發する音　變徵は其稍々變じたるものにて悲壯の音なり　(四) 五音の一、怒激の音なり　(五) 中庶子は秦の官名　(六) 蕃の先王　(七) 地名。　(八) 賓は擯なり、擯者九人を設け、文物大に備はる大禮なり　(九) ゆるす、見のがす　(一〇) 刺す　(一一) 刀の鞘

荊軻逐二秦王一。秦王環レ柱而走。羣臣皆愕。卒起二不意一。盡失二其度一。而秦法羣臣侍二殿

荊軻秦王を逐ふ。秦王柱を環りて走る。羣臣皆愕き、卒かに不意に起りて盡く其の度を失ふ。而して秦の法羣臣殿上に侍する者は、尺寸の兵を持つことを得ず。(一)諸郎中兵を執りて皆殿下に陳す。(二)詔ありて召すに非ずんば上るを得ず。急時に方り、下兵を召すに及ばず。故を以て荊軻乃ち秦王を逐ふ。而して卒かに惶急に(三)

易水寒。壯士一去兮不復還。復爲羽聲忼慨。士皆瞋目髮盡上指冠。於是荊軻就車而去。終已不顧。遂至秦。持千金之資幣物。厚遺秦王寵臣中庶子蒙嘉。嘉爲先言於秦王曰。燕王誠振怖大王之威。不敢擧兵以逆軍吏。願擧國爲內臣。比諸侯之列。給貢職如郡

けて內臣となり、諸侯の列に比し、職貢を給すること郡縣の如くにして先王(六)の宗廟を奉守するを得んことを願ふ。恐懼敢へて自ら陳せず、謹みて樊於期の首を斬り、及び燕の督亢(七)の地圖を獻ず。函封じ、燕王庭に拜送し、使をして大王に以聞せしむ。唯大王之に命ぜよと。秦王之を聞きて大に喜び、乃ち朝服し、九賓を設け、燕の使者を咸陽宮に見る。荊軻樊於期の頭函を奉じ、秦舞陽地圖の(八)匣を奉じ、次を以て進む。陛に至り、秦舞陽色變じて振恐す。羣臣之を怪しむ。荊軻顧みて舞陽を笑ひ、前み謝して曰く、北蕃蠻夷の鄙人未だ嘗て天子を見ず。故に振慴す。願くは大王少しく之を假借(九)し、使を前に畢ふることを得しめよと。秦王軻に謂ひて曰く、舞陽持つ所の地圖を取れと。軻既に圖を取りて之を奏す。秦王圖を發く。圖窮まりて匕首見はる。因りて左手秦王の袖を把りて、右手に匕首を持して之を揕(一〇)す。未だ身に至らずして、秦王驚き、自ら引きて起つ。袖絕ゆ。劍を拔く。劍長くして其の室(一一)を操る。時に惶急にして劍堅し。故に立どこ

以レ藥焠レ之。以試レ人。血濡レ縷。人無下不二立死一者上。乃裝爲遣二荊卿一。燕國有二勇士秦舞陽一。年十三殺レ人。人不二敢忤視一。乃令二秦舞陽爲一レ副。荊軻有レ所三待欲二與倶一。其人居レ遠未レ來。而爲二治行一。頃レ之未レ發。太子遲レ之。疑下其改悔上。乃復請曰。日已盡矣。荊卿豈有レ意哉。丹請得三先遣二秦舞陽一。荊軻怒叱二太子一曰。何太子之遣。往而不レ反者豎子也。且提二一匕首一。入二不測之彊秦一。僕所二以留一者。待二吾客一與倶。今太子遲レ之。請辭決矣。遂發。

秦舞陽をさす (九) 暇乞ひす

太子及賓客知二其事一者。皆白衣冠以送レ之。至二易水之上一。既祖取レ道。高漸離撃レ筑。荊軻和而歌。爲二變徵之聲一。士皆垂レ涙涕泣。又前而歌曰。風蕭蕭兮

太子及び賓客其の事を知る者皆白衣冠し、以て之を送り、易水の上に至る。既に祖(一)して道を取る。高漸離筑(二)を撃ち、荊軻和して歌ひ、變徵(三)の聲をなす。士皆涙を垂れて涕泣す。又前みて歌ひて曰く、風蕭蕭として易水寒し。壯士一たび去りて復還らじと。復た羽聲をなし忼慨す。士皆目を瞋らし、髮盡く上りて冠を指す。是に於て荊軻車(四)に就きて去る。終に已に顧みず、遂に秦に至る。千金の資幣物を持し、厚く秦王の寵臣中庶子蒙嘉(五)に遺る。嘉爲めに先づ秦王に言ひて曰く、燕王誠に大王の威に振怖し、敢て兵を擧げて以て軍吏に逆はず。國を擧

軍之仇報而燕見レ陵之愧除矣。將軍豈有レ意乎。樊於期偏袒搤捥而進曰。此臣之日夜切齒腐心也。乃今得レ聞レ教。遂自剄。太子聞レ之。馳往伏レ屍而哭極哀。既已不レ可二奈何一。乃遂盛二樊於期首一函封レ之。於レ是太子豫求二天下之利匕首一。得二趙人徐夫人匕首一。取二之百金一。使二工

之を百金に取り、工をして藥を以て之を焠せしめ、以て人に試みるに血縷を濡して人立どころに死せざるものなし。乃ち裝ひて（五）爲めに荊卿を遣る。燕國に勇士秦舞陽あり。年十三にして人を殺す。人敢へて忤視（六）せず。乃ち秦舞陽をして副たらしむ。荊軻待ちて與に俱にせんと欲する所あり。其人遠きに居りて未だ來らずして治行（七）をなす。之を頃くして未だ發せず。太子之を遲しとし、其の改め悔ゆるを疑ひ、乃ち復た請ひて曰く、日已に盡きたり。荊卿豈意あらんか。丹請ふ、先に秦舞陽を遣るを得んと。荊軻怒りて太子を叱して曰く、何ぞ太子の遣るや。往いて反らざる者は豎子（八）なり。且つ一匕首を提げて不測の彊秦に入る。僕留まる所以の者は、吾が客を待ちて與に俱にせんとす。今太子之を遲しとす。請ふ辭決（九）せんと。遂に發す。

（一）劍を以て其の胸を刺す　（二）片方の肌をはだぬぐ　（三）搤は扼に同じ、握なり、捉なり、勇者奮厲するに先づ左手を以て右腕を扼するなり　（四）心を苦しめ痛む　（五）焠は染なり毒藥を以て劍鍔に燒きこむなり、にらぐと訓ず　（六）逆視なり、敢て逆視せざるは人之を畏るゝの甚しきなり　（七）旅仕度をなす　（八）小兒、人を輕蔑していふ語、

親也。夫樊將軍秦王購之金千斤邑萬家。誠得樊將軍首。燕督亢之地圖。奉獻秦王。秦王必說見臣。臣乃得有以報。太子曰。樊將軍窮困來歸丹。丹不忍以己之私而傷長者之意。願足下更慮之。荊軻知太子不忍。乃遂私見樊於期曰。秦之遇將軍可謂深矣。父母宗族皆爲戮沒。今聞購將軍首金千斤邑萬家。將奈何。於期仰天太息流涕曰。於期每念之。常痛於骨髓。顧計不知所出耳。

荊軻曰。今有一言可以解燕國之患。報將軍之仇者。何如。於期乃前曰。爲之奈何。荊軻曰。願得將軍之首。以獻秦王。秦王必喜而見臣。臣左手把其袖。右手揕其匈。然則將

荊軻曰く、今一言以て燕國の患を解き、將軍の仇を報ずべき者あり、何如と。於期乃ち前みて曰く、之を爲すこと奈何と。荊軻曰く、願くは將軍の首を得以て秦王に獻ぜん。秦王必ず喜びて臣を見ん。臣左手其の袖を把り、右手其の匈(一)を揕さん。然れば則ち將軍の仇報ぜられて、燕陵がるゝの愧除かれん。將軍豈意あらんかと。樊於期偏袒(二)搤捥(三)して進みて曰く、此れ臣の日夜齒を切し(四)心を腐するなり。今乃ち教を聞くことを得と。遂に自刎す。太子之を聞き、馳せ往き、屍に伏して哭すること極めて哀し。既に已に奈何ともすべからず。乃ち遂に樊於期の首を函に盛り之を封ず。是に於て太子豫め天下の利匕首を求む。趙人徐夫人の匕首を得、

太牢一具二異物一。間進二車騎美女一。恣二荊軻所一レ欲。以順二適其意一。久レ之荊軻未レ有二行意一。秦將王翦破レ趙。虜二趙王一盡收二入其地一。進レ兵北略レ地至二燕南界一。太子丹恐懼。乃請二荊軻一曰。秦兵且暮渡二易水一。雖レ欲二長侍二足下一。豈可レ得哉。荊軻曰。微二太子言一。臣願レ謁レ之。今行而毋レ信。則秦未レ可レ

太子丹恐懼し、乃ち荊軻に請ひて曰く、秦の兵旦暮に(二)易水を渡らば、則ち長く足下に侍せんと欲すと雖も、豈得べけんやと。荊軻曰く、太子の言微くとも臣之を謁げんことを願ふ。今行きて信毋くば、則ち秦未だ親しむべからざるなり。夫の樊將軍は秦王之を金千斤邑萬家に購ふ。誠に樊將軍の首と燕の督亢の地圖とを得て、秦王に奉獻せば、秦王必ず說びて臣を見ん。臣乃ち以て報ずるあるを得んと。太子曰く、樊將軍窮困し來りて丹に歸す。丹己の私を以て長者の意を傷ふに忍びず。願くは足下更に之を慮かれと。荊軻太子の忍びざるを知り、乃ち遂に私に樊於期を見て曰く、秦の將軍を遇すること深しと謂ふべし。父母宗族皆(三)戮沒せらる。今聞く、將軍の首を金千斤邑萬家に購ふと。將に奈何せんとすると。於期天を仰ぎ、太息流涕して曰く、於期之を念ふ每に常に骨髓に痛む。顧ふに計出づる所を知らざるのみと。

㈠ 牛羊家の牲の具備するもの轉じて盛なる膳部　㈡ 易水を渡るは燕に入るをいふ　㈢ 罪し殺さる

今秦有二貪利之心一。而欲不ㇾ可ㇾ足也。非下盡二天下之地一。臣中海內之王上者。其意不ㇾ厭。今秦已虜二韓王一。盡納二其地一。又擧ㇾ兵南伐ㇾ楚。北臨ㇾ趙。王翦將二數十萬之衆一距二漳鄴一。而李信出二太原雲中一。趙不ㇾ能ㇾ支ㇾ秦。必入臣。入臣則禍至ㇾ燕。燕小弱數困二於兵一。今計擧ㇾ國不ㇾ足二以當一ㇾ秦。諸侯服ㇾ秦。莫二敢合從一。丹之私計。愚以爲誠得二天下之勇士一。使二於秦一。闚以二重利一。秦王貪。其勢必得ㇾ所ㇾ願矣。誠得ㇾ劫二秦王一。使下悉反二諸侯侵地一。若中曹沫之與二齊桓公一。則大善矣。則不可因而刺二殺之一。彼秦大將擅二兵於外一。而內有ㇾ亂。則君臣相疑。以二其間一諸侯得二合從一。其破ㇾ秦必矣。此丹之上願。而不ㇾ知ㇾ所ㇾ委ㇾ命。唯荊卿留ㇾ意焉。

上願にして命を委ぬる所を知らず。唯荊卿意を留めよと。

(一) 節操ある任俠 (二) 體を曲げ膝を地につけて步む (三) 親なり利を以て之を誘ふといふ

久ㇾ之荊軻曰。此國之大事也。臣駑下恐ㇾ不ㇾ足二任使一。太子前頓首固請ㇾ毋ㇾ讓。然後許諾。於ㇾ是尊二荊卿一爲二上卿一。舍二上舍一。太子日造二門下一。供二

之を久しうして荊軻曰く、此れ國の大事なり。臣駑下、任使するに足らざるを恐ると。太子前み頓首して、固く讓る毋かれと請ふ。然して後許諾す。是に於て荊卿を尊みて上卿となし、上舍に舍す。太子日〻門下に造り、(一)太牢を供へ、異物を具へ、間には車騎美女を進めて、荊軻の欲する所を恣にし、以て其の意に順適す。之を久しうして荊軻未だ行く意あらず。秦の將王翦趙を破りて趙王を虜にし、盡く收めて其の地を入れ、兵を進めて北のかた地を略し、燕の南界に至る。

太子言二田光已死一。致二光之言一。太子再拜而跪。膝行流レ涕。有レ頃而後言曰。丹所三以誠二田先生毋レ言者。欲三以成二大事之謀一也。今田先生以レ死明レ不レ言。豈丹之心哉。荊軻坐定。太子避レ席、頓首曰。田先生不レ知二丹之不肖一。使二得レ至レ前。敢有レ所レ道。此天之所二以哀レ燕而不レ棄二其孤一也。

所有らしむ。此れ天の燕を哀みて其の孤を棄てざる所以なり。今秦貪利の心ありて欲足る可からざるなり。天下の地を盡くし、海內の王を臣とするに非ざれば其の意厭かず。今秦已に韓王を虜にし、盡く其の地を納る。又兵を擧げて南楚を伐ち、北趙に臨み、王翦數十萬の衆に將として漳鄴に距ぐ。而して李信太原雲中に出づ。趙秦を支ふる能はずんば、必ず入りて臣たらん。入りて臣たらば則ち禍燕に至らん。燕小弱にして數〻兵に困しむ。今計るに國を擧げて以て秦に當るに足らず。諸侯秦に服し、敢へて合從するものなし。丹の私計、愚以爲らく、誠に天下の勇士を得て秦に使せしめ、闚するに重利を以てせば、秦王の貪、其の勢必ず願ふ所を得ん。誠に秦王を劫[三]すか得、悉く諸侯の侵地を反すこと曹沫の齊の桓公における若くならしめば則ち大に善し。則ち不可ならば、因りて之を刺殺せん。彼の秦の大將兵を外に擅にして內亂あらば、則ち君臣相疑はん。其の間を以て諸侯合從するを得ば、其の秦を破らんこと必せり。此れ丹の

戒曰。丹所レ報。先生所レ言者。國之大事也。願先生勿レ泄也。田光俛而笑曰。諾。僂行見二荊卿一曰。光與レ子相善。燕國莫レ不レ知。今太子聞二光壯盛之時一。不レ知二吾形已不一レ逮也。幸而教レ之曰。燕秦不二兩立一。願先生留レ意也。光竊不二自外一。言二足下於太子一也。願足下過二太子於宮一。荊軻曰。謹奉レ教。

田光曰。吾聞レ之。長者爲レ行不レ使二人疑一レ之。今太子告レ光曰。所レ言者。國之大事也。願先生勿レ泄。是太子疑レ光也。夫爲レ行而使二人疑一レ之。非二節俠一也。欲三自殺以激二荊卿一曰。願足下急過二太子一言二光已死一。明レ不レ言也。因遂自刎而死。荊軻遂見二

田光曰く、吾之を聞く、長者は行をなすに、人をして之を疑はしめずと。今太子光に告げて曰く、言ふ所のものは國の大事なり。願くは先生泄す勿れと。是れ太子光を疑ふなり。夫れ行をなして人をして之を疑はしむるは節俠に非ざるなりと。自殺して以て荊卿を激せんと欲して曰く、願くは足下急に太子に過り、光已に死すと言ひて、言はざるを明にせよと。因りて遂に自ら刎ねて死す。荊軻遂に太子に見え、田光已に死せりと言ひて光の言を致す。太子再拜して跪き、膝行して涕を流す。頃くありて後言ひて曰く、丹の田先生に言ふ毋れと誡めし所以のものは、以て大事の謀をなさんと欲すればなり。今田先生死を以て言はざるを明かにす。豈丹の心ならんやと。荊軻坐定まる。太子席を避け、頓首して曰く、田先生丹の不肖なるを知らず、前に至るを得て敢へて道ふ

生。可乎。鞠武曰。敬諾。出見二田先生一道二太子願レ圖二國事一於先生一也。田光曰。敬奉レ教。乃造焉。太子逢迎却行爲レ導。跪而蔽レ席。田光坐定。左右無レ人。太子避レ席而請曰。燕秦不二兩立一。願先生留レ意也。田光曰。臣聞騏驥盛壯之時。一日而馳二千里一。至二其衰老一。駑馬先レ之。今太子聞二光盛壯之時一。不レ知二臣精已消亡一矣。雖レ然光不三敢以圖二國事一。所レ善荊卿可レ使也。太子曰。願因二先生一得レ結二交於荊卿一可乎。田光曰。敬諾。即起趨出。太子送至レ門。

可きなりと。太子曰く、願くは先生に因りて交りを荊卿に結ぶことを得ん、可ならんかと。田光曰く、敬みて諾すと。即ち起ちて趨り出づ。太子送りて門に至り戒めて曰く、丹の報ぜし所、先生の言ひし所の者は國の大事なり。願くは先生泄すこと勿れと。田光俛(八)して笑ひて曰く、諾すと。僂行(九)して荊卿を見て曰く、光と子と相善きは燕國知らざるものなし。今太子光の壯盛の時を聞きて、吾が形已に逮ばざるを知らざるなり。幸にして之に教へて曰く、燕秦兩立せず、願くは先生意を留めよと。光竊かに自ら外にせず(一〇)、足下を太子に言へり。願くは足下太子に宮に過ぎれと。荊軻曰く、謹みて教を奉ずと。

(一) 私の交り (二) 鵰は鷲なり、鷙は肉食鳥の總名なり、鵰鷙は鷲の如き猛鳥にして秦の暴虐に喩へいふ (三) 勇氣ありて沈着なり (四) 逢は逆なり、出迎ふなり (五) 後ろ向に歩く、あとしざりして先導す (六) 席を拂ふなり (七) 精力 (八) 俯し (九) 脊を曲げて歩む、老人の歩きぶりなり (一〇) 自ら荊軻を疎外せず

鞫武曰。夫行レ危欲レ求レ安。造レ禍而求レ福。計淺而怨深。連ニ結一人之後交一。不レ顧ニ國家之大害一。此謂ニ資レ怨而助ヒ禍矣。夫以ニ鴻毛一燎ニ於爐炭之上一。必無レ事矣。且以ニ鵰鷙之秦一。行ニ怨暴之怒一。豈足レ道哉。燕有ニ田光先生一。其爲レ人智深而勇沈。可ニ與謀一。太子曰。願因ニ太傅一。而得ニ交於田先

鞫武曰く、夫れ危きを行ひて安きを求めんと欲し、禍を造して福を求む。計淺くして怨深し。一人の後交(一)を連結して國家の大害を顧みず。此れを怨を資けて禍を助くと謂ふ。夫れ鴻毛を以て爐炭の上に燎る、必ず事なけん。且つ鵰(二)鷙の秦を以て怨暴の怒を行ふ、豈道ふに足らんや。燕に田光先生あり、其の人となり智深くして勇沈なり(三)。與に謀るべしと。太子曰く、願くは太傅に因りて交りを田先生に得ん。可ならんかと。鞫武曰く、敬みて諾すと。出でて田先生を見て、太子國事を先生に圖らんと願ふを道ふ。田光曰く、敬みて敎を奉ずと。乃ち造る。太子逢迎し(四)、却行して導きをなし(五)、跪きて席を蔽ふ(六)。田光坐定まる。左右人なし。太子席を避けて請ひて曰く、燕秦兩立せず。願くは先生意を留めよと。田光曰く、臣聞く、騏驥は盛壯の時一日にして千里を馳するも、其の衰老に至れば駑馬も之に先だつと。今太子光の盛壯の時を聞きて臣の精已に消亡せ(七)るを知らず。然りと雖も光敢へて以て國事を圖らざらんや。善き所の荊卿使ふ

有涇渭之沃。擅巴漢之饒。右隴蜀之山。左關殽之險。民衆而士厲。兵革有餘。意有所出。則長城之南。易水以北。未有所定也。奈何以見陵之怨。欲批其逆鱗哉。丹曰。然則何由。對曰。請入圖之。居有間。秦將樊於期得罪於秦王。亡之燕。太子受而舍之。鞠武諫曰。不可。夫以秦王之暴。而積怒於燕。足爲寒心。又況聞樊將軍之所在乎。是謂委肉當餓虎之蹊也。禍必不振矣。雖有管晏。不能爲之謀也。願太子疾遣樊將軍入匈奴以滅口。請西約三晉。南連齊楚。北購於單于。其後迺可圖也。太子曰。太傅之計。曠日彌久。心惛然。恐不能須臾。且非獨於此也。夫樊將軍窮困於天下。歸身於丹。丹終不以迫於彊秦。而棄所哀憐之交。置之匈奴。是固丹命卒之時也。願太傅更慮之。

の後迺ち圖るべきなりと。太子曰く、太傅の計は日を曠しくし、久しきに彌りて心惛然たり。(一〇)恐らくは須臾する能はざらん。(一一)且つ獨り此に於てするのみに非ざるなり。夫の樊將軍天下に窮困して身を丹に歸す。丹終に彊秦に迫らるゝを以て哀憐する所の交りを棄てて之を匈奴に置くことをせじ。是れ固に丹の命卒るの時なり。願くは太傅更に之を慮れと。

(一) 人質　(二) 蠶の桑の葉を食ふが如く漸々に他國を併合するをいふ　(三) 燕國をさす　(四) 侮り侵す　(五) 觸れて之を擊つ　(六) 人寒甚しければ心戰く、恐惕するも亦戰く。恐るゝを寒に喩へていふ　(七) 小徑、こみち　(八) 振は救なり、禍大にして救ふべからざるをいふなり　(九) 諧に同じ、和なり　(一〇) 惛に通ず、心の暗きさまにいふ　(一一) 暫時も猶豫する能はず

秦王。而丹質二於秦。秦王之遇二燕太子丹一不レ善。故丹怨而亡歸。歸而求下爲報二秦王一者上。國小力不レ能。其後秦日出二兵山東一。以伐二齊楚三晉一。稍蠶二食諸侯一。且レ至二於燕一。燕君臣皆恐二禍之至一。太子丹患レ之。問二其傅鞠武一。武對曰。秦地徧二天下一。威二脅韓魏趙氏一。北有二甘泉谷口之固一。南

且に燕に至らんとす。燕の君臣皆禍の至らんことを恐る。太子丹之を患へ、其の傅鞠武に問ふ。武對へて曰く、秦の地天下に徧く、韓魏趙氏を威脅す。北に甘泉谷口の固めあり。南に涇渭の沃あり、巴漢の饒を擅にし、隴蜀の山を右にし、關殽の險を左にす。民衆くして士厲しく、兵革餘りあり。意出づる所あれば、則ち長城の南、(三)易水以北は未だ定まる所あらざるなり。奈何ぞ陵がる(四)ゝの怨を以て其の逆鱗を批(五)せんと欲せんやと。丹曰く、然らば則ち何にか由らんと。對へて曰く、請ふ、入つて之を圖らんと。居ること間くありて、秦の將樊於期罪を秦王に得、亡げて燕に之く。太子受けて之を舍す。鞠武諫めて曰く、不可なり。夫れ秦王の暴を以て怒を燕に積むは寒心(六)をなすに足る。又況や樊將軍の在る所を聞くをや。是れを肉を委して餓虎の蹊(七)に當つと謂ふなり。禍(八)必ず振はれじ。管晏ありと雖も、之が謀をなす能はざるなり。願くは太子疾く樊將軍を遣りて匈奴に入れ以て口を滅し、請ふ西三晉を約し、南齊楚を連ね、北單于(九)に購じ、其

楡次矣。使者還報。蓋聶曰。固去也。吾曩者目攝之。荊軻游於邯鄲。魯句踐與荊軻博。爭道。魯句踐怒而叱之。荊軻嘿而逃去。遂不復會。荊軻既至燕。愛燕之狗屠。及善擊筑者高漸離。荊軻嗜酒。日與狗屠及高漸離飲於燕市。酒酣以往。高漸離擊筑。荊軻和而歌於市中。相樂也。已而相泣。旁若無人者。荊軻雖游於酒人乎。然其爲人沈深好書。其所游諸侯。盡與其賢豪長者相結。其之燕。燕之處士田光先生亦善待之。知其非庸人也。

（一）先祖　（二）地名　（三）睨みつく　（四）攝は懾といふが如し、己が意に稱はざるに因りて怒視し以て之を攝懾せしをいふと、一説攝は覗といふが如しと　（五）博奕す　（六）狗を屠る人　（七）琴に似て絃あり。木を以て之を擊つ　（八）飲酒の人　（九）士の仕へざるもの　（一〇）凡庸の人

居頃之。會燕太子丹質秦亡歸燕。燕太子丹者。故嘗質於趙。而秦王政生於趙。其少時與丹驩。及政立爲

居ること之を頃くして會〻燕の太子丹秦に質とし、亡げて燕に歸る。燕の太子丹は故と嘗て趙に質たり。而して秦王政趙に生れ、其の少き時丹と驩す。政立ちて秦王となるに及びて、丹秦に質たり。秦王の燕の太子丹を遇すること善からず。故に丹怨みて亡げ歸る。歸りて爲めに秦王に報ずべき者を求む。國小にして力能はず。其後秦日〻兵を山東に出し、以て齊楚三晉を伐つ。稍く諸侯を蠶食して、

卿好讀書擊劒。以術說衞元君。衞元君不用。其後秦伐魏、置東郡。徙衞元君之支屬於野王。荊軻嘗游過楡次。與蓋聶論劒。蓋聶怒而目之。荊軻出。人或言復召荊卿。蓋聶曰。曩者吾與論劒。有不稱者。吾目之。試往。是宜去。不敢留。使使往之主人。荊卿則已駕而去

之を目す(三)。荊軻出づ。人或は言ふ、復た荊卿を召べと。蓋聶曰く、曩には吾與に劒を論ず。稱はざるものあれば、吾之を目せり。試に往け。是れ宜しく去るべし。敢へて留まらざらんと。使をして之が主人に往かしむ。荊卿則ち已に駕して楡次を去る。使者還り報ず。蓋聶曰く、固より去らん。吾曩に目して之を攝せり(四)と。荊軻邯鄲に游ぶ、魯句踐荊軻と博し、道を爭ふ。魯句踐怒りて之を叱す。荊軻嘿して逃げ去る。遂に復た會せず(五)。荊軻既に燕に至る。燕の(六)狗屠及び善く筑(七)を擊つ者高漸離を愛す。荊軻酒を嗜み、日々狗屠及び高漸離と燕の市に飮す。酒酣にして以て往き、高漸離筑を擊ち、荊軻和して市中に歌ひて相樂しむ。已にして相泣きて旁人なき者の若し。荊軻酒人(八)に游ぶと雖も、然れども其の人となり沈深にして書を好む。其の游ぶ所の諸侯盡く其の賢豪長者と相結ぶ。其の燕に之くや、燕の處士(九)田光先生も亦善く之を待つ。其の庸人(一〇)に非ざるを知ればなり。

應レ之曰。聞レ之。然政所下以蒙二汚辱一。自中棄於市販之間上者。爲二老母幸無一レ恙。妾未レ嫁也。親既以二天年一下世。妾已嫁レ夫。嚴仲子乃察。擧二吾弟困汚之中一。而交レ之。澤厚矣。可二奈何一。士固爲二知レ己者一死。今乃以二妾尙在之故一。重自刑以絕レ從。妾其奈何畏二歿レ身之誅一。終滅二賢弟之名一。大驚二韓市人一。乃大呼レ天者三。卒於邑悲哀。而死二政之旁一。晉楚齊衞聞レ之。皆曰。非二獨政能一也。及其姊亦烈女也。鄕使丁政誠知丙其姊無二濡忍之志一。不レ重二暴レ骸之難一。必絕レ險千里以列二其名一。姊弟俱僇乙於韓市甲者。亦未三必敢以レ身許二嚴仲子一也。嚴仲子亦可レ謂二知レ人能得一レ士矣。其後二百二十餘年。秦有二荊軻之事一。

を扶り出すなり（四）睞（五）賞を懸けて尋ね問ふこと（六）賞をかけてあがなふこと（七）煩冤愁苦なり（八）殘酷に人を虐げそこなふ（九）自ら身を棄てて屠者の賤業をなす所以（一〇）世を下る、死亡す（一一）志行あるを觀察して之を舉ぐるをいふ、一說に察は選といふがごとしと亦通ず（一二）恩澤（一三）復といふが如し（一四）其の姊從坐して死せんことを恐るゝなり（一五）濡は濡潤なり、人性濡潤なればよく忍を含む、故にいふ、若し勇躁なれば必ず死を輕んず（一六）毀に同じ

荊軻者。衞人也。其先乃齊人。徙二於衞一。衞人謂二之慶卿一。而之レ燕。燕人謂二之荊卿一。荊

荊軻は衞の人なり。其の先(一)は乃ち齊の人にして衞に徙れり。衞の人之を慶卿と謂ふ。而して燕に之く。燕の人之を荊卿と謂へり。荊卿讀書擊劍を好み、術を以て衞の元君に說く。衞の元君用ひず。其の後秦、魏を伐ちて東郡を置き、衞の元君の支屬を野王に徙す。荊軻嘗て遊びて(二)楡次を過ぎ、蓋聶と劍を論ず。蓋聶怒りて

相者。賊不得。國不知其名姓。暴其尸而縣之千金。乃於邑曰。其是吾弟與。嗟乎。嚴仲子知吾弟。立起如韓之市。而死者果政也。伏尸哭極哀。曰。是軹深井里所謂聶政者也。市行者諸衆人皆曰。此人暴虐吾國相。王縣購其名姓千金。夫人不聞與。何敢來識之也。榮

蒙りて市販の間に自棄(九)する所以のものは、老母幸に恙なく、妾未だ嫁せざりしが爲めなり。親既に天年を以て下世(一〇)し、妾已に夫に嫁せり。嚴仲子乃ち察(一一)し、吾が弟を困汚の中より擧げて之に交はる。澤厚(一二)し。奈何すべけん。士固に己を知る者の爲に死す。今乃ち妾尙は在るの故を以て重ね(一三)て自刑し、以て從(一四)を絶つ。妾其れ奈何ぞ、身を歿するの誅を畏れて終に賢弟の名を滅さんやと。大に韓の市人を驚かす。乃ち大に天に呼ぶもの三たび、卒に於邑悲哀して政の旁に死す。晉楚齊衞之を聞き、皆曰く、獨り政のみの能に非ざるなり。及び其(ノ)姉も亦烈女なり。鄕に政をして誠に其の姉濡忍(一五)の志なく、骸を暴すの難を重ぜず、必ず險を絶ゆる千里以て其の名を列ね、姉弟倶に韓の市に僇(一六)せらるゝを知らしめば、亦未だ必ずしも敢へて身を以て嚴仲子に許さざらん。嚴仲子も亦人を知りて能く士を得たりと謂ふべしと。其後二百二十餘年にして秦に荊軻の事あり。

(一) 相國政事の宮廟に坐す　(二) 刀を以て其の面皮を刺し人をして識らざらしむるなり　(三) 眼睛を出すなり、眼

韓相俠累方坐府上。持兵戟而衞侍者甚衆。聶政直入上階刺殺俠累。左右大亂。聶政大呼所擊殺者數十人。因自皮面決眼。自屠出腸遂以死。韓取聶政屍暴於市購問。莫知誰子。於是韓購縣之。有能言殺相俠累者予千金。久之莫知也。政姊榮聞人有刺殺韓

韓の相俠累方に府上(一)に坐す。兵戟を持して衞侍する者甚だ衆し。聶政直に入りて階に上りて俠累を刺し殺す。左右大に亂る。聶政大呼して擊殺する所の者數十人。因りて自ら面を皮し(二)、眼を決し(三)、自ら屠りて腸を出し、遂に以て死す。韓聶政の屍を取り、市に暴らし(四)購問(五)すれども誰の子と知るもの莫し。是に於て韓之を購縣(六)す。能く相俠累を殺す者を言ふものあらば、千金を予へんと。之を久しうすれども知るもの莫し。政の姊榮人の韓の相を刺殺せし者あり。賊得られず、國其の名姓を知らず、其の尸を暴して之に千金を縣くと聞き、乃ち於邑(七)して曰く、其れ是れ吾が弟か。嗟乎、嚴仲子吾弟を知ると。立どころに起ちて韓の市に如く。而して死せし者は果して政なり。尸に伏し、哭すること極めて哀し。曰く、是れ軹の深井里の謂はゆる聶政といふ者なりと。市の行く者諸〻衆人皆曰く、此の人吾が國相を暴虐(八)す。王縣けて其の名姓を千金に購ふ。夫人聞かずや。何ぞ敢へて來りて之を識るやと。榮之に應へて曰く、之を聞けり。然れども政の汚辱を

意。而親二信窮辟之人一。而政獨安得二嘿然一而已乎。且前日要レ政。政徒以二老母一。老母今以二天年一終。政將下爲二知レ己者一用上。乃遂西至二濮陽一。見二嚴仲子一曰。前日所三以不レ許二仲子一者。徒以二親在一。今不幸而母以二天年一終。仲子所レ欲レ報レ仇者爲レ誰。請得レ從レ事焉。嚴仲子具告曰。臣之仇韓相俠累。俠累又韓君之季父也。宗族盛多。居處兵衞甚設。臣欲レ使二人刺一レ之。衆終莫二能就一。今足下幸而不レ棄。請益下其車騎壯士。可レ爲二足下輔翼一者上。聶政曰。韓之與レ衞相去。中間不二甚遠一。今殺二人之相一。相又國君之親。此其勢不レ可二以多人一。多人不レ能レ無レ生二得失一。生二得失一則語泄。語泄是韓擧レ國而與二仲子一爲レ讎。豈不レ殆哉。遂謝二車騎人徒一。聶政乃辭獨行。杖レ劍至レ韓。

累なり。俠累は又韓君の季父なり。宗族盛多居處兵衞甚だ設く。臣人をして之を刺さしめんと欲す。衆終に能く就すなし。今足下幸にして棄てず。請ふ其の車騎壯士足下の輔翼となる可き者を益さんと。聶政曰く、韓の衞と相去る、中間甚だしくは遠からず。今人の相を殺すに、相は又國君の親なり。此れ其の勢、多人を以てすべからず。多人は得失を生ずるなき能はず。得失を生ずれば則ち語泄る。語泄るれば是れ韓國を擧げて仲子と讎とならん。豈殆からずやと。遂に車騎人徒を謝す。聶政乃ち辭し獨り行きて劍を杖きて韓に至る。

㊀ 目を擧げて睨み相忤ふ　㊁ 默然

高。故進百金者。將用爲夫人麤糲之費得以交足下之驩。豈敢以有求望邪。聶政曰。臣所以降志辱身。居市井屠者徒幸以養老母。老母在。政身未敢以許人也。嚴仲子固讓。聶政竟不肯受也。然嚴仲子卒備賓主之禮而去。久之聶政母死。既已葬除服。

聶政曰。嗟乎。政乃市井之人。鼓刀以屠。而嚴仲子乃諸侯之卿相也。不遠千里。枉車騎而交臣。臣之所以待之至淺鮮矣。未有大功可以稱者。而嚴仲子奉百金爲親壽。我雖不受。然是者徒深知政也。夫賢者以感忿睚眦之

聶政曰く、嗟乎政は乃ち市井の人、刀を鼓し以て屠る。而るに嚴仲子は乃ち諸侯の卿相なり。千里を遠しとせず、車騎を枉げて臣に交はる。臣の之を待つ所以は至りて淺鮮なり。未だ大功の以て稱すべきものあらず。而るに嚴仲子百金を奉じて親の壽をなす。我受けずと雖も、然れども是れ徒に深く政を知ればなり。夫れ賢者は感忿睚眦の意を以て、窮僻の人を親信す。而して政獨り安んぞ嘿然として已むことを得んや。且つ前日政を要せしとき、政徒に老母を以てす。老母今天年を以て終れり。政將に己を知る者の爲めに用ひられんとすと。乃ち遂に西濮陽に至り、嚴仲子を見て曰く、前日仲子に許さざりし所以の者は、徒に親の在るを以てす。今不幸にして母天年を以て終る。仲子の仇を報いんと欲する所の者は誰となす。請ふ事に從ふことを得んと。嚴仲子具さに告げて曰く、臣の仇は韓の相俠

敢士也。避レ仇隱二居者之間一。嚴仲子至レ門請。數反。然後具レ酒自暢二聶政母前一。酒酣。嚴仲子奉二黃金百鎰一。前爲二聶政母壽一。聶政驚怪二其厚一。固謝二嚴仲子一。嚴仲子固進。而聶政謝曰。臣幸有二老母一。家貧客游。以爲下狗屠可中以旦夕得二甘毳一以養上親。親供養備。不三敢當二仲子之賜一。嚴仲子辟レ人。因爲二聶政一言曰。臣有レ仇。而行二游諸侯一衆矣。然至レ齊。竊聞二足下義甚

養ふべしとなす。親の供養備はる。敢へて仲子の賜に當らずと。嚴仲子人を辟け、因りて聶政の爲めに言ひて曰く、臣仇ありて諸侯に行游すること衆し。然るに齊に至り、竊かに足下の義甚だ高きを聞く。故に百金を進むるものは將に用て夫人(六)麤糲(七)の費となし以て足下の驩を交ふるを得んとす。豈敢へて以て求望するあらんやと。聶政曰く、臣志を降し、身を辱しめ、市井に居て屠する所以のものは、徒に以て老母を養ふを幸とす。老母在り、政の身未だ敢へて以て人に許さざるなりと。嚴仲子固く讓る。聶政竟に受くることを肯ぜず。然れども嚴仲子卒に賓主の禮を備へて去る。之を久しうして聶政の母死す。既に已に葬りて(八)服を除く。

(一) 獸畜を屠殺するを業とす　(二) 隙に同じ　(三) 重ねて到る　(四) 觴の衍文なるべし。觴を進むること　(五) 甘脆　(六) 古大嫗を尊びて夫人といふ　(七) 舂きて精げざる米、玄米　(八) 喪に居るの期終りてその忌服を除く

自爲計。寡人不復釋子。使兵圍之。豫讓曰。臣聞明主不掩人之美。而忠臣有死名之義。前君已寬赦臣。天下莫不稱君之賢。今日之事。臣固伏誅。然願請君之衣。而擊之焉。以致報讎之意。則雖死不恨。非所敢望也。敢布腹心。於是襄子大義之。乃使使持衣與豫讓。豫讓拔劍三躍而擊之曰。吾可以下報智伯矣。遂伏劍自殺。死之日。趙國志士聞之。皆爲涕泣。其後四十餘年。而軹有聶政之事。

聶政者。軹深井里人也。殺人避仇。與母姉如齊。以屠爲事。久之濮陽嚴仲子事韓哀侯。與韓相俠累有郤。嚴仲子恐誅亡去。游求人可以報俠累者。至齊。齊人或言。聶政勇

聶政は軹の深井里の人なり。人を殺し、仇を避けて、母姉と與に齊に如き、屠を以て事となす。之を久しうして濮陽の嚴仲子韓の哀侯に事へ、韓の相俠累と郤(二)あり。嚴仲子誅を恐れて亡げ去りて游び、人の以て俠累に報ず可き者を求む。齊に至る。齊人或るもの言ふ、聶政は勇敢の士なり。仇を避けて屠者の間に隱ると。嚴仲子門に至りて請ひ數〻反す(三)。然る後酒を具へて自ら聶政の母の前に暢(四)す。酒酣にして嚴仲子黃金百鎰を奉じて前みて聶政の母の壽をなす。聶政驚きて其の厚きを怪しみ、固く嚴仲子に謝す。嚴仲子固く進む。而して聶政謝して曰く、臣幸に老母あり。家貧しくして客游す。以て狗屠以て旦夕甘毳(五)を得、以て親を

爲報讎。而反委質臣於智伯。智伯亦已死矣。而子獨何以爲之報讎之深也。豫讓曰。臣事范中行氏。范中行氏皆衆人遇我。我故衆人報之。至於智伯。國士遇我。我故國士報之。襄子喟然歎息而泣曰。嗟乎豫子。子之爲智伯。名既成矣。而寡人赦子。亦已足矣。子其

子、子の智伯の爲めにする、名既に成れり。而して寡人の子を赦すことも亦已に足れり。子其れ自ら計をなせ。寡人復た子を釋さざらんと。兵をして之を圍ましむ。豫讓曰く、臣聞く明主は人の美を掩はず、而して忠臣は名に死するの義ありと。前に君已に臣を寬赦す。天下君の賢を稱せざるなし。今日の事、臣固より誅に伏せん。然れども願はくは君の衣を請ひて之を擊ち、以て讎に報ゆるの意を致さば則ち死すと雖も恨みじ、敢へて望む所に非ざるなり。敢へて腹心を布くのみと。是に於て襄子大に之を義とす。乃ち使をして衣を持して豫讓に與へしむ。豫讓劍を拔き、三たび躍りて之を擊ちて曰く、吾以て下智伯に報ゆべしと。遂に劍に伏して自殺す。死するの日趙國の志士之を聞きて皆爲めに涕泣す。其後四十餘年にして軹に聶政の事あり。

㊀ 責む ㊁ 贊 ㊂ 才德一國を蓋ふの士 ㊃ 喟は嘆聲なり ㊄ 必しも強ひて衣を請ひ擊むといふわけにあらず ㊅ 思ふ所を布き陳ねて隱さず

釋レ去之。居頃之豫讓又漆レ身爲レ厲。呑レ炭爲レ啞。使二形狀不一レ可レ知。行乞二於市一。其妻不レ識也。行見二其友一。其友識レ之。曰。汝非二豫讓一邪。曰。我是也。其友爲泣曰。以二子之才一。委レ質而臣二事襄子一。襄子必近二幸子一。近二幸子一。乃爲レ所レ欲。顧不二易一邪。何乃殘レ身苦レ形。欲三以求二報二襄子一。不二亦難一乎。豫讓曰。既已委レ質臣二事人一而求レ殺レ之。是懷二二心一以事二其君一也。且吾所レ爲者極難耳。然所三以爲二之者。將下以愧中天下後世之爲二人臣一懷二二心一以事二其君一者上也。既去。

頃レ之襄子當レ出。豫讓伏二於所レ當レ過之橋下一。襄子至レ橋。馬驚。襄子曰。此必是豫讓也。使二人問一レ之。果豫讓也。於レ是襄子乃數二豫讓一曰。子不三嘗事二范中行氏一乎。智伯盡滅レ之。而子不二

之を頃くして、襄子出づるに當り、豫讓、當に過ぐべき所の橋下に伏す。襄子橋に至れば、馬驚く。襄子曰く、此れ必ず是れ豫讓ならんと。人をして之を問はしむるに果して豫讓なり。是に於て襄子乃ち豫讓を(一)數めて曰く、子嘗て范中行氏に事へざりしや。智伯盡く之を滅して而かも子爲めに讎を報ぜずして、反つて(二)質を委して智伯に臣たり。智伯も亦已に死せり。而るに子獨り何を以て之が爲めに讎を報ゆるの深きやと。豫讓曰く、臣范中行氏に事へたり。范中行氏皆衆人もて我を遇せり。我故に衆人もて之に報いたり。智伯に至りては、國士もて我を遇せり。我故に(三)國士もて之に報ゆと。襄子(四)喟然として歎息して泣きて曰く、嗟乎豫

報レ讐而死。以報二智伯一。則吾魂魄不レ愧矣。乃變二名姓一爲二刑人一入レ宮塗二厠中一。挾二七首一欲三以刺二襄子一。襄子如レ厠心動、執二問塗レ厠之刑人一則豫讓。內持二刀兵一。曰。欲下爲二智伯一報上レ仇。左右欲レ誅レ之。襄子曰。彼義人也。吾謹避レ之耳。且智伯亡無レ後。而其臣欲二爲報一レ仇。此天下之賢人也。卒

みて啞となり、形狀をして知る可からざらしめ、行きて市に乞ふ。其妻識らざるなり。(六)行きて其友を見る。其友之を識りて曰く、汝は豫讓に非ずやと。曰く、我れ是れなり。其の友爲めに泣きて曰く、子の才を以てし、(七)質を委して襄子に臣事せば、襄子必ず子を近幸せん。子を近幸せば、乃ち欲する所をなせ。顧て易からずや。何ぞ乃ち身を殘ひ、形を苦しめ、以て襄子に報いんことを求めんと欲する。亦難からずやと。豫讓曰く、既に已に質を委して人に臣事して、而して之を殺さんことを求む。是れ二心を懷き、以て其の君に事ふるなり。且つ吾が爲す所の者は極めて難き(八)のみ。然れども之はなす所以のものは、將に以て天下後世の人臣となり二心を懷き、以て其君に事ふる者を愧しめんとするなりと。既に去る。

㊀ 酒器なり、賓客會する毎に之を設けて恨の深きを示すなり、一說溲器なりと ㊁ 刑徒、刑罰に服せる人 ㊂ 厠の壁を塗る ㊃ 癩、漆に觸るもの多く瘡腫を患へて癩に似る ㊄ 炭は藥の名なり ㊅ 瘖病 ㊆ 贄を置きて臣となる ㊇ 特に困難なる事を選んで爲さんと欲するのみ

豫讓者。晉人也。故嘗事二范中行氏一。而無レ所レ知レ名。去而事二智伯一。智伯甚尊二寵之一。及三知伯伐二趙襄子一。趙襄子與二韓魏一合レ謀滅二智伯一。滅二智伯之後一。而三二分其地一。趙襄子最怨二智伯一。漆二其頭一以爲二飲器一。豫讓遁二逃山中一曰。嗟乎。士爲二知レ己者一死。女爲二說レ己者一容。今智伯知レ我。我必爲

豫讓は晉の人なり。故と嘗て范中行氏に事へて名を知らるゝ所なし。去りて智伯に事ふ。智伯甚しく之を尊寵す。智伯趙襄子を伐つに及び、趙襄子韓魏と謀を合せ、智伯を滅す。智伯の後を滅して其の地を三分す。趙襄子最も智伯を怨み、其の頭に漆して以て飲器(一)となす。豫讓山中に遁逃して曰く、嗟乎士は己を知る者の爲めに死し、女は己を說ぶ者の爲めに容づくる。今智伯我を知る。我必ず爲めに讎を報いて死し、以て智伯に報ぜば、則ち吾が魂魄愧ぢずと。乃ち名姓を變じて刑人(二)となり、宮に入りて廁中に塗り、匕首を挾み、以て襄子を刺さんと欲す。襄子廁に如きて心動く。(三)廁を塗るの刑人を執へて問へば、則ち豫讓なり。內に刀兵を持つ。曰く、智伯の爲めに仇を報ぜんと欲すと。左右之を誅せんと欲す。襄子曰く、彼れ義人なり。吾謹みて之を避けんのみ。且つ智伯亡び後無くして、其臣爲めに仇を報いんと欲す。此れ天下の賢人なりと。卒に釋して之を去らしむ。居ること頃くして豫讓又身に漆して厲(四)となり、炭(五)を呑

四月丙子。光伏二甲士於窟室中一。而具レ酒請二王僚一。王僚使二兵陳一。自レ宮至二光之家一。門戸階陛左右。皆王僚之親戚也。夾立侍。皆持二長鈹一。酒既酣。公子光詳爲二足疾一。入二窟室中一。使下專諸置二匕首魚炙之腹中一而進上レ之。既至二王前一。專諸擘レ魚。因以二匕首一刺二王僚一。王僚立死。左右亦殺二專諸一。王人擾亂。公子光出二其伏甲一。以攻二王僚之徒一。盡滅レ之。遂自立爲レ王。是爲二闔閭一。闔閭乃封二專諸之子一。以爲二上卿一。其後七十餘年。而晉有二豫讓之事一。

四月丙子、光甲士を窟室(一)の中に伏せて、酒を具へて王僚を請ふ。王僚兵をして陳せしめ、宮より光の家に至る。門戸階陛左右、皆王僚の親戚なり。夾立して侍し、皆長鈹(二)を持つ。酒既に酣にして公子光、詳(三)りて足疾となし、窟室中に入る。專諸をして匕首を魚炙の腹中に置きて之を進めしむ。既に王の前に至る。專諸魚を擘き、因りて匕首を以て王僚を刺す。王僚立どころに死す。左右も亦專諸を殺す。王の人擾亂す。公子光其の伏甲を出し、以て王僚の徒を攻め、盡く之を滅す。遂に自立して王となる。是を闔閭となす。闔閭乃ち專諸の子を封じ、以て上卿となす。其後七十餘年にして晉に豫讓の事あり。

(一) 地を掘りて室となすもの (二) 兵器なり、長劍 (三) 佯

子札一。諸樊知ニ季子札賢一。而不ㇾ立ニ太子一。以ㇾ次傳ニ三弟一。欲三卒致ニ國於季子札一。諸樊既死。傳ニ餘祭一。餘祭死。傳ニ夷眛一。夷眛死。當ㇾ傳ニ季子札一。季子札逃不ㇾ肯ㇾ立。吳人乃立ニ夷眛之子僚ㇾ爲ㇾ王。公子光曰。使ㇾ以ニ兄弟次一邪。季子當ㇾ立。必以ㇾ子乎。則光眞適嗣。當ㇾ立。故嘗陰養ニ謀臣一。以求ㇾ立。光既得ニ專諸一。善客ニ待之一。九年而楚平王死。春。吳王僚欲ㇾ因ニ楚喪一。使下其二弟公子蓋餘屬庸將ㇾ兵圍中楚之潛上。使ニ延陵季子於晉一。以觀ニ諸侯之變一。楚發ㇾ兵絕ニ吳將蓋餘屬庸路一。吳兵不ㇾ得ㇾ還。於ㇾ是。公子光謂ニ專諸一曰。此時不ㇾ可ㇾ失。不ㇾ求何獲。且光眞王嗣。當ㇾ立。季子雖ㇾ來不ニ吾廢一也。專諸曰。王僚可ㇾ殺也。母老子弱。而兩弟將ㇾ兵伐ㇾ楚。楚絕ニ其後一。方今吳外困ニ於楚一。而內空。無ニ骨鯁之臣一。是無ニ如ㇾ我何一。公子光頓首曰。光之身子之身也。

是に於て公子光專諸に謂ひて曰く、此の時失ふべからず。求めずんば何をか獲ん。且つ光は眞の王嗣なり。當に立つべし。季子來ると雖も吾を廢せざるなりと。專諸曰く、王僚殺すべきなり。母老いて子弱し(五)。而して兩弟兵に將として楚を伐つ。楚其の後を絕つ。方今吳外楚に困んで內空しく、骨鯁(六)の臣なし。是れ我を如何ともするなしと。公子光頓首して曰く、光(七)の身は子の身なり。

(一) 內吳王を弑せんとするの志 (二) 楚を伐つ事をいふ (三) 嫡嗣 (四) 延陵の季子は札をいふ (五) 幼弱なり (六) 君主の非行を直諫する臣、鯁は咽につかふる魚の骨 (七) 光の身吳王となると否とは一に子の身のなす所による

僚一。說以二伐レ楚之利一。吳公子光曰。彼伍員父兄皆死二於楚一。而員言レ伐レ楚。欲三自爲レ報二私讎一也。非二能爲上レ吳。吳王乃止。伍子胥知二公子光之欲上レ殺二吳王僚一。乃曰。彼光將レ有二內志一。未レ可レ說以二外事一。乃進二專諸於公子光一。光之父曰二吳王諸樊一。諸樊弟三人。次曰二餘祭一。次曰二夷昧一。次曰二季

を殺さんと欲するを知り、乃ち曰く、彼の光將に內志(一)あらんとす、未だ說くに外(二)事を以てす可からずと。乃ち專諸を公子光に進む。光の父を吳王諸樊と曰ふ。諸樊の弟三人。次を餘祭と曰ひ、次を夷昧と曰ひ、次を季子札といふ。諸樊季子札の賢を知りて、太子を立てず、次を以て三弟に傳へ、卒に國を季子札に致さんと欲す。諸樊既に死す。餘祭に傳ふ。餘祭死す。夷昧に傳ふ。夷昧死す。當に季子札に傳ふべし。季子札逃れて立つことを肯ぜず。吳人乃ち夷昧の子僚を立てて王となす。公子光曰く、兄弟の次を以てせしめんか、季子當に立つべし。必ず子を以てせんか。則ち光は眞の適嗣(三)なり。當に立つべしと。故に嘗て陰かに謀臣を養ひ以て立たんことを求む。光既に專諸を得、善く之を客として待つ。九年にして楚の平王死す。春、吳王僚楚の喪に因らんと欲し、其の二弟公子蓋餘屬庸をして兵に將として楚の灊を圍ましめ、延陵(四)の季子を晉に使せしめ、以て諸侯の變を見る。楚兵を發し、吳の將蓋餘屬庸の路を絕つ。吳の兵還るを得ず。

桓公左右莫二敢動一。而問曰。子將何欲。曹沫曰。齊强魯弱。而大國侵魯。亦以甚矣。今魯城壞即壓二齊境一。君其圖レ之。桓公乃許盡歸二魯之侵地一。既已言。曹沫投二其七首一。下レ壇北面。就二羣臣之位一。顏色不レ變。辭令如レ故。桓公怒。欲レ倍二其約一。管仲曰。不可。夫貪二小利一以自快。棄二信於諸侯一。失二天下之援一。不レ如レ與レ之。於レ是。桓公乃遂割二魯侵地一。曹沫三戰所レ亡地。盡復予レ魯。其後百六十七年。而吳有二專諸之事一。

貪り以て自ら快くし、信を諸侯に棄てて天下の援を失はんよりは、之を與ふるに如かずと。是に於て桓公乃ち遂に魯の侵地を割く。曹沫三戰して亡ひし所の地、盡く復た魯に予ふ。其後百六十有七年にして吳に專諸の事あり。

㊀ 短劍、長、尺八、其頭七に類す故に七首といふ　㊁ 齊魯隣接す、今齊數々魯を侵し魯の城壞れて齊の境を壓するなり　㊂ 君臣の位は君は南面にして臣は北面す、故に轉じて人に臣事するにいふ　㊃ 辭づかひ應對ぶり

專諸者。吳堂邑人也。伍子胥之亡レ楚而如レ吳也。知二專諸之能一。伍子胥既見二吳王

專諸は吳の堂邑の人なり。伍子胥の楚を亡げて吳に如くや、專諸の能を知る。伍子胥既に吳王僚に見え、說くに楚を伐つの利を以てす。吳公子光曰く、彼の伍員の父兄皆楚に死し、而して員楚を伐てと言ふ。自ら爲めに私讎を報ぜんと欲するなり。能く吳の爲めにするに非ずと。吳王乃ち止む。伍子胥公子光の吳王僚

曹沫者。魯人也。以勇力事魯莊公。莊公好力。曹沫爲魯將。與齊戰三敗北。魯莊公懼。乃獻遂邑之地以和。猶復以爲將。齊桓公許與魯會于柯而盟。桓公與莊公既盟於壇上。曹沫執七首劫齊桓公。

史記　卷八十六

刺客列傳　第二十六

曹沫は魯の人なり。勇力を以て魯の莊公に事ふ。莊公力を好む。曹沫魯の將となり、齊と戰ひて三たび敗北す。魯の莊公懼る。乃ち遂邑の地を獻じ、以て和す。猶ほ復以て將となす。齊の桓公魯と柯に會して盟はんことを許し、桓公と莊公と既に壇上に盟ふ。曹沫七首(一)を執りて齊の桓公を劫かす。桓公の左右敢へて動くものなし。而して問ひて曰く、子將に何を欲せんとするかと、曹沫曰く、齊強く、魯弱くして、大國魯を侵す。亦以て甚し。今魯の城壞れ卽ち齊の境を壓す。君其れ之を圖れと。桓公乃ち許して盡く魯の侵地を歸す。既に已に(二)言ふ。曹沫其の七首を投じ、壇を下りて(三)北面し、羣臣の位に就く。顏色變ぜず、(四)辭令故の如し。桓公怒りて其の約に倍かんと欲す。管仲曰く、不可なり。夫れ小利を

劉敬叔孫通列傳第三十九……三〇七
卷　百
季布欒布列傳第四十……三二八
卷　百　一
袁盎鼂錯列傳第四十一……三四〇
卷　百　二
張釋之馮唐列傳第四十二……三六一
卷　百　三
萬石張叔列傳第四十三……三七五
卷　百　四
田叔列傳第四十四……三九二
卷　百　五
扁鵲倉公列傳第四十五……三九九
卷　百　六
吳王濞列傳第四十六……四五一
卷　百　七
魏其武安列傳第四十七……四八二
卷　百　八
韓長孺列傳第四十八……五〇九
卷　百　九
李將軍列傳第四十九……五二五

—(目次終)—

目次

史記第五

卷八十六
刺客列傳第二十六……一
卷八十七
李斯列傳第二十七……三七
卷八十八
蒙恬列傳第二十八……八四
卷八十九
張耳陳餘列傳第二十九……九五
卷九十
魏豹彭越列傳第三十……一一三
卷九十一
黥布列傳第三十一……一三五
卷九十二
淮陰侯列傳第三十二……一五一
卷九十三
韓王信盧綰列傳第三十三……一九二
卷九十四
田儋列傳第三十四……二〇九
卷九十五
樊酈滕灌列傳第三十五……二三〇
卷九十六
張丞相列傳第三十六……二四八
卷九十七
酈生陸賈列傳第三十七……二七三
卷九十八
傅靳蒯成列傳第三十八……二九九
卷九十九

DS
748
S747
1923
v.5

LIBRARY
OCT 7 1969
UNIVERSITY OF TORONTO

史

記

五

4657